

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 732 集

なり た い わ た どう た て
成田岩田堂館跡発掘調査報告書

北上工業団地整備事業関連遺跡発掘調査

2021

北上市

(公財)岩手県文化振興事業団

成田岩田堂館跡発掘調査報告書

北上工業団地整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、北上市工業団地整備事業に関連して、令和元年度に発掘調査を実施した成田岩田堂館跡の成果をまとめたものです。調査の結果、本遺跡は中世城館二子城の一部であるとともに、縄文時代、弥生時代、平安時代、江戸時代の遺構、遺物が多数出土し、貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました北上市商工部、北上市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和3年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 高橋 嘉行

例 言

- 1 本報告書は、岩手県北上市成田1地割内（ほか）に所在する成田岩田堂館跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は北上工業団地整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会の調整を経て、北上市商工部の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡登録台帳における遺跡コード・遺跡略号は次のとおりである。
遺跡コード：ME46-1221 遺跡略号：NTIT-19
- 4 発掘調査期間・調査面積・担当者は次のとおりである。
調査期間：平成31年4月4日～令和元年11月28日 面積：62,386 m²
担当者：杉沢昭太郎・星 雅之・羽柴直人・溜 浩二郎・村上 拓・丸山直美・村木 敬・川又 晋・北田 勲・中島康佑・佐藤敬太・小野寺永人
- 5 室内整理期間・担当者は次のとおりである。
整理期間：令和元年11月1日～令和2年3月31日 担当者：杉沢昭太郎・川又 晋・中島康佑・小野寺永人
令和2年10月1日～12月31日 担当者：杉沢昭太郎・星 雅之
- 6 本報告書の執筆分担は次のとおりである。
Ⅰ～Ⅲ：杉沢昭太郎・川又 晋 Ⅳ：杉沢昭太郎・星 雅之・川又 晋・中島康佑
- 7 各種委託業務は次の機関等に依頼した（順不同）。
基準点測量：株式会社三洋設計
航空写真撮影測量図：株式会社リッケイ
石器石材鑑定：花崗岩研究会
石器実測：(株) ラング
鉄製品保存処理：パリノサーヴェイ株式会社
炭化材同定：木炭協会
骨同定：パリノサーヴェイ株式会社
花粉分析：古代の森研究舎
火山灰分析：株式会社火山灰考古学研究所
年代測定：株式会社加速器分析研究所
- 8 野外調査及び室内整理にあたり、以下の機関から御協力いただいた（敬称略）。
北上市教育委員会
- 9 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 10 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

目 次

I 調査に至る経緯	1	3 検出遺構	19
II 遺跡の立地と環境	1	(1) 堀跡・土塁・出入口施設	19
1 地理的環境	1	(2) 掘立柱建物跡	23
(1) 遺跡の位置と立地	1	(3) 竪穴住居跡	30
(2) 遺跡周辺の地形	1	(4) 土坑・陥し穴	36
2 周辺の遺跡	4	(5) 焼土・炉跡・焼成遺構	63
3 歴史的環境	8	(6) 溝跡	69
III 調査と整理の方法	10	(7) その他の遺構	76
1 野外調査	10	4 出土遺物	79
(1) 経過と概要	10	(1) 縄文・弥生土器	79
(2) グリッドの設定	10	(2) 土師器・須恵器	81
(3) 粗掘り・遺構検出	10	(3) 陶磁器	81
(4) 遺構名の登録	11	(4) 石器・石製品	81
(5) 遺構精査・遺物のとりあげ	11	(5) 銭貨	82
(6) 実測	11	(6) 金属製品	82
(7) 写真撮影	11	(7) 土製品	82
2 室内整理	11	(8) その他 (鉄滓、炉壁、粘土塊、獣骨)	82
(1) 遺物整理	11	V 分 析	206
(2) 遺構整理	12	1 火山灰分析	206
(3) 図版作成	12	2 花粉分析	214
(4) 写真図版	12	3 獣骨分析	218
(5) 本文記載	12	4 放射性炭素年代(AMS測定)	228
IV 検出された遺構と遺物	19	VI 総 括	238
1 概 要	19	報告書抄録	343
2 基本層序	19		

表 目 次

第 1 表	周辺遺跡一覧表	6	第 10 表	陶磁器観察表	202
第 2 表	15 世紀以降の和賀氏関連略年表	8	第 11 表	石器・石製品観察表	202
第 3 表	検出遺構一覧表 (遺構名変更表)	172	第 12 表	石器分類基準	203
第 4 表	土坑観察表	173	第 13 表	金属製品観察表	204
第 5 表	陥し穴観察表	180	第 14 表	銭貨観察表	204
第 6 表	溝跡観察表	184	第 15 表	土製品観察表	205
第 7 表	柱穴状土坑一覧表	187	第 16 表	焼成粘土塊観察表	205
第 8 表	縄文・弥生土器観察表	194	第 17 表	鉄滓他観察表	205
第 9 表	土師器・須恵器観察表	197	第 18 表	炭化材樹種同定結果一覧表	205

図 版 目 次

第 1 図	遺跡の位置	2	第 30 図	SI04 竪穴住居跡	101
第 2 図	周辺の地形	3	第 31 図	SI05 竪穴住居跡	102
第 3 図	周辺の遺跡	5	第 32 図	SI06 竪穴住居跡 (1)	103
第 4 図	地籍図	9	第 33 図	SI06 竪穴住居跡 (2)	104
第 5 図	調査区位置図	13	第 34 図	SI07 竪穴住居跡	105
第 6 図	調査区全図	14	第 35 図	SI11 竪穴住居跡	106
第 7 図	遺構配置図 1	15	第 36 図	SI12 竪穴住居跡 (1)	107
第 8 図	遺構配置図 2 (北部)	16	第 37 図	SI12 竪穴住居跡 (2)	108
第 9 図	遺構配置図 3 (中央部)	17	第 38 図	SK01~05・07・11・12 土坑	109
第 10 図	遺構配置図 4 (南部)	18	第 39 図	SK13~18 土坑	110
第 11 図	基本層序	19	第 40 図	SK19・21・27・31・32・38・41 土坑	111
第 12 図	1 号堀跡・1 号土塁~3 号土塁	83	第 41 図	SK42~45・47・49~53 土坑	112
第 13 図	1 号堀跡・1 号土塁・3 号土塁断面	84	第 42 図	SK54~60・64・65・67 土坑	113
第 14 図	2 号堀跡・4 号土塁断面	85	第 43 図	SK70・71・74~82 土坑	114
第 15 図	SB01~03 掘立柱建物跡	86	第 44 図	SK83~86・88~93・95 土坑	115
第 16 図	SB04~06 掘立柱建物跡	87	第 45 図	SK96・98~107 土坑	116
第 17 図	SB07・08 掘立柱建物跡	88	第 46 図	SK110~117・119 土坑	117
第 18 図	SB09・12・13 掘立柱建物跡	89	第 47 図	SK120・126~132 土坑	118
第 19 図	SB10 掘立柱建物跡	90	第 48 図	SKT01~05 陥し穴	119
第 20 図	SB11 掘立柱建物跡	91	第 49 図	SKT11~15 陥し穴	120
第 21 図	SB14~16 掘立柱建物跡	92	第 50 図	SKT16~19・22・24 陥し穴	121
第 22 図	SB17~19 掘立柱建物跡	93	第 51 図	SKT20・21・23・25・26 陥し穴	122
第 23 図	SB20~22 掘立柱建物跡	94	第 52 図	SKT27~31 陥し穴	123
第 24 図	SB23 掘立柱建物跡	95	第 53 図	SKT32~35・37 陥し穴	124
第 25 図	SB24 門跡	96	第 54 図	SKT36・38~42 陥し穴	125
第 26 図	SB25 門跡・SF01 道跡	97	第 55 図	SKT43~49 陥し穴	126
第 27 図	SI01 竪穴住居跡	98	第 56 図	SKT50 陥し穴・SL02~08	127
第 28 図	SI02 竪穴住居跡	99	第 57 図	SL09~15	128
第 29 図	SI03 竪穴住居跡	100	第 58 図	SL16~20・22・23	129

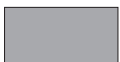

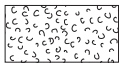




第59図	SL21・24・25・1号土器埋設	130	第81図	縄文・弥生土器(5)	152
第60図	SD01溝跡	131	第82図	縄文・弥生土器(6)	153
第61図	SD02・03・04・07・08溝跡	132	第83図	古代土器(1)	154
第62図	SD04・05・07溝跡	133	第84図	古代土器(2)	155
第63図	SD06溝跡	134	第85図	古代土器(3)	156
第64図	SD09・10・12溝跡	135	第86図	古代土器(4)	157
第65図	SD11・13・14溝跡	136	第87図	古代土器(5)	158
第66図	SD15・17・37溝跡	137	第88図	古代土器(6)	159
第67図	SD16溝跡	138	第89図	古代土器(7)	160
第68図	SD18～22溝跡	139	第90図	古代土器(8)	161
第69図	SD23・24溝跡	140	第91図	陶磁器・羽口・炉壁ほか	162
第70図	SD25・26溝跡	141	第92図	石器・石製品(1)	163
第71図	SD27・28・31溝跡	142	第93図	石器・石製品(2)	164
第72図	SD32・34・35溝跡・SB26門跡	143	第94図	石器・石製品(3)	165
第73図	SD33・36溝跡	144	第95図	石器・石製品(4)	166
第74図	SX01～04	145	第96図	石器・石製品(5)	167
第75図	SX05～08	146	第97図	石器・石製品(6)	168
第76図	SX10 竪穴状遺構	147	第98図	銭貨(1)	169
第77図	縄文・弥生土器(1)	148	第99図	銭貨(2)	170
第78図	縄文・弥生土器(2)	149	第100図	金属製品	171
第79図	縄文・弥生土器(3)	150	第101図	縄文時代の本遺跡(推定)	238
第80図	縄文・弥生土器(4)・土製品	151	第102図	城館縄張略図	242

写真図版目次

写真図版 1	航空写真 1 遺跡とその周辺 (NE →)	245	写真図版 17	SB23 掘立柱建物跡他	261
写真図版 2	航空写真 2 遺跡とその周辺	246	写真図版 18	SI01 竪穴住居跡	262
写真図版 3	調査区北側の掘立柱建物跡	247	写真図版 19	SI02 竪穴住居跡	263
写真図版 4	調査区南側の掘立柱建物跡	248	写真図版 20	SI03 竪穴住居跡	264
写真図版 5	1号堀跡、1号土塁	249	写真図版 21	SI04 竪穴住居跡	265
写真図版 6	1号堀跡、1・2号土塁	250	写真図版 22	SI05 竪穴住居跡	266
写真図版 7	2号堀跡、4号土塁	251	写真図版 23	SI06 竪穴住居跡	267
写真図版 8	SB24・25 門跡、SF01 道跡、 3号土塁	252	写真図版 24	SI07 竪穴住居跡	268
写真図版 9	SB01・04 掘立柱建物跡	253	写真図版 25	SI11 竪穴住居跡	269
写真図版 10	SB05・06 掘立柱建物跡	254	写真図版 26	SI12 竪穴住居跡	270
写真図版 11	SB07・08 掘立柱建物跡	255	写真図版 27	竪穴住居跡のカマド・炉など	271
写真図版 12	SB09・10 掘立柱建物跡	256	写真図版 28	SK01～04 土坑	272
写真図版 13	SB11・16 掘立柱建物跡	257	写真図版 29	SK05・07・11・12 土坑	273
写真図版 14	SB17・18 掘立柱建物跡	258	写真図版 30	SK13～16 土坑	274
写真図版 15	SB19・20 掘立柱建物跡	259	写真図版 31	SK17～19・21・27 土坑	275
写真図版 16	SB02・03・12～15・21・22 掘立柱建物跡	260	写真図版 32	SK31・32・38・41 土坑	276
			写真図版 33	SK42～45 土坑	277
			写真図版 34	SK47・49～52 土坑	278
			写真図版 35	SK53～56 土坑	279

写真図版 36	SK57~60 土坑	280	写真図版 68	SD01~05 溝跡	312
写真図版 37	SK64・65・70・71 土坑	281	写真図版 69	SD06~08 溝跡	313
写真図版 38	SK74~77 土坑	282	写真図版 70	SD09~12 溝跡	314
写真図版 39	SK78~81 土坑	283	写真図版 71	SD13~16 溝跡	315
写真図版 40	SK82~85 土坑	284	写真図版 72	SD18・19・21~23 溝跡	316
写真図版 41	SK86・88~90 土坑	285	写真図版 73	SD24~28 溝跡	317
写真図版 42	SK91~93・95・96 土坑	286	写真図版 74	SD31~33 溝跡	318
写真図版 43	SK98~101 土坑	287	写真図版 75	SD34~37 溝跡、SB26 門跡	319
写真図版 44	SK103~106 土坑	288	写真図版 76	調査区南端と二子城	320
写真図版 45	SK107・110~112 土坑	289	写真図版 77	土器 (1)	321
写真図版 46	SK113~116 土坑	290	写真図版 78	土器 (2)	322
写真図版 47	SK117・119・120・126~128 土坑	291	写真図版 79	土器 (3)	323
写真図版 48	SK129~132 土坑	292	写真図版 80	土器 (4)	324
写真図版 49	SKT01~04 陥し穴	293	写真図版 81	土器 (5)	325
写真図版 50	SKT05・11~13 陥し穴	294	写真図版 82	土器 (6)	326
写真図版 51	SKT14~17 陥し穴	295	写真図版 83	土器 (7)	327
写真図版 52	SKT18~21 陥し穴	296	写真図版 84	土器 (8)	328
写真図版 53	SKT22~25 陥し穴	297	写真図版 85	土器 (9)	329
写真図版 54	SKT26~29 陥し穴	298	写真図版 86	土器 (10)	330
写真図版 55	SKT30~33 陥し穴	299	写真図版 87	土器 (11)	331
写真図版 56	SKT34~37 陥し穴	300	写真図版 88	土器 (12)・陶磁器	332
写真図版 57	SKT38~42 陥し穴	301	写真図版 89	石器 (1)	333
写真図版 58	SKT43~46 陥し穴	302	写真図版 90	石器 (2)	334
写真図版 59	SKT47~50 陥し穴	303	写真図版 91	石器 (3)	335
写真図版 60	SL02~05	304	写真図版 92	石器 (4)	336
写真図版 61	SL06・07・09・10	305	写真図版 93	石器 (5)・石製品・土製品	337
写真図版 62	SL11~14	306	写真図版 94	錢貨 (1)	338
写真図版 63	SL16~19	307	写真図版 95	錢貨 (2)	339
写真図版 64	SL20~24	308	写真図版 96	鉄滓・羽口・粘土塊・金属製品	340
写真図版 65	SL25、SX01~03	309	写真図版 97	金属製品・動物遺存体 (1)	341
写真図版 66	SX04~06	310	写真図版 98	動物遺存体 (2)	342
写真図版 67	SX07・08・10、1号土器埋設遺構	311			

凡 例

遺構図版	遺物図版	石器・石製品
 焼土	古代土器  黒色処理	 敲打痕
 石器・礫	 須恵器断面	 特殊磨面
 土器片		

I 調査に至る経緯

成田岩田堂遺跡は、北上工業団地整備事業（4工区）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

北上工業団地整備事業は、半導体大手キオクシア(株)（旧東芝メモリ(株)）の北上進出に伴い、半導体関連企業の集積地として21.3 haを整備するものである。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成30年10月29日付30北教文第436号により、北上市教育委員会教育長から岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課総括課長あてに試掘調査を依頼し、平成30年11月8日（木）に試掘調査を行い、平成30年11月30日付け教生第1228号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成31年4月5日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（北上市役所商工部企業立地課）

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の位置と立地

成田岩田堂館跡は、北上市の北部、成田地区に所在する。

北上市は、盛岡市の南方約47 kmの距離にあり、北上盆地のほぼ中央に位置する。北は花巻市、東は奥州市江刺区・花巻市東和町、南は胆沢郡金ヶ崎町、西は和賀郡西和賀町が隣接する。面積は43,755 m²、人口は、平成31（2019）年4月現在で92,323人である。古くから交通の要衝として栄え、県南部の商工業および流通の拠点として発展してきた。平成3（1991）年に旧北上市と和賀町、江釣子村が合併し、現在の市域となっている。

遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北北東約2 km、同北上駅の北6.5 kmに位置する。国土地理院発行5万分の1地形図「花巻」、2万5千分の1地形図「土沢」の図幅に含まれ、北緯39度20分25秒、東経141度7分54秒付近に位置する。

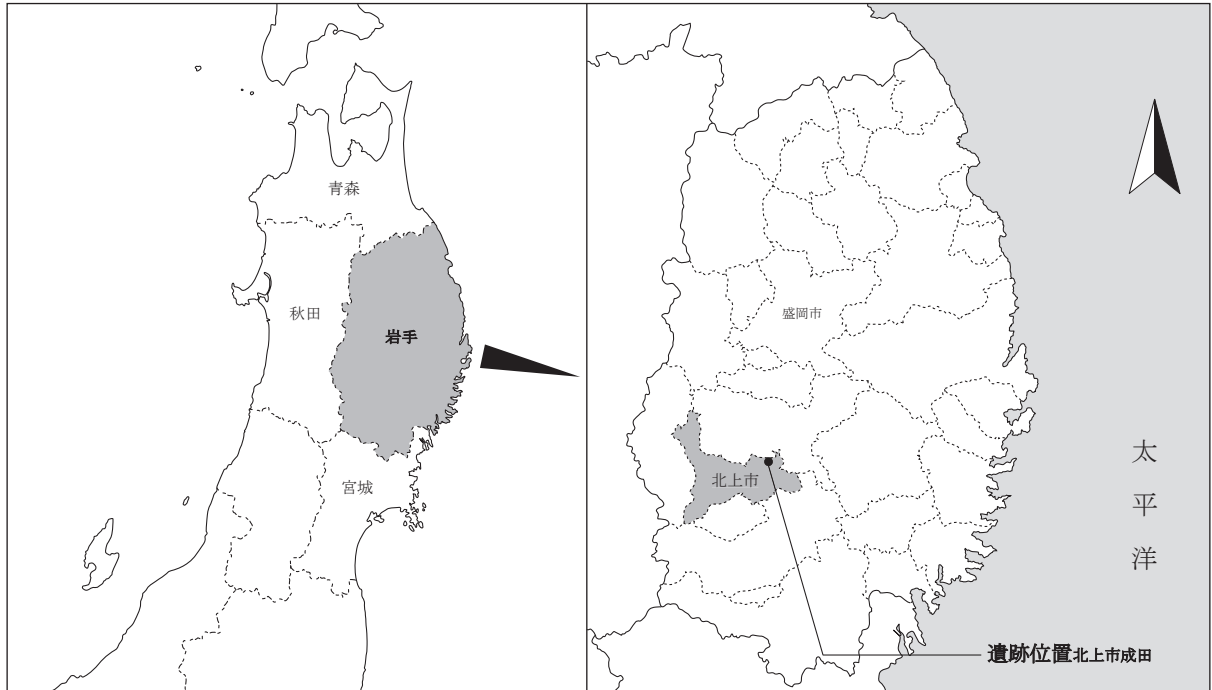
遺跡の範囲は、南北約500 m×東西約300 mほどである。このうち調査対象となったのは、調査原因である終末処理場建設予定地の南北約430 m×東西約250 mの範囲で、調査面積は62,386 m²、標高は約79～83 mである。調査前の現況は主に、リング畑、雑木林等であった。

なお、調査区を分断し東西方向に走る県道39号北上東和線の範囲については、平成19年に4,800 m²を対象とした発掘調査が行われており、その調査内容は『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書540集 成田岩田堂館遺跡』に収録されている。

(2) 遺跡周辺の地形

北上市周辺にあたる北上盆地は、北上川とその支流によって形成された扇状地や段丘によって構成され、東は北上山地、西は奥羽山脈に挟まれた南北約90 kmにおよぶ帯状の盆地である。北上市は、北上盆地のほぼ中央、北上川とその最大の支流である和賀川の合流点に位置している。北上市周辺の

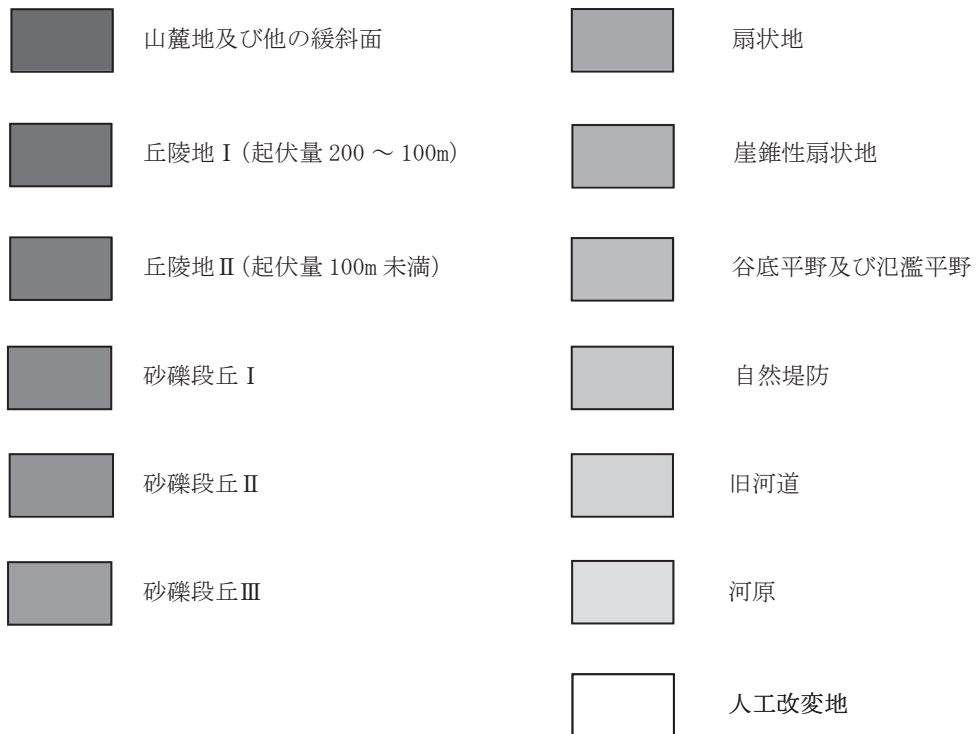
1 地理的環境



第1図 遺跡の位置



1 : 50,000



第 2 図 周辺の地形

地形は、盆地のほぼ中央を北上川と北上川沖積平野が南北に縦断し、それによって東部の小起伏山地を含む丘陵地域と西部の扇状地性の台地群の二つに大きく区分されている。東部は北から連続する物見山丘陵を始めとする各丘陵が北上川付近まで大きく広がるが、西部では台地が卓越し、最低でも3段階以上の時期を異にする台地に分類されている。この西部の台地では下位段丘が最も大きく広がるが、これは西部山間地近くの扇状地と北上川沿いの旧谷底平野が段丘化したものの二つの性格から成り立っている。

遺跡は、北上川中流域の右岸に形成された砂礫段丘上に立地し、地形的には村崎野段丘を始めとする中位段丘にあたる。遺跡東側は切り立った段丘崖で、植林した杉林となっており、さらに東側には北上川氾濫原および自然堤防が広がっている。遺跡北側は、西から東へと流れる飯豊川に向かって下がる地形であり、飯豊川は北上川へ合流する。その対岸も成田地区であり、中位段丘が飯豊川に沿って細長く張り出すように見られるほかは谷底平野となる。その付近になると北上市の成田地区は終わり、花巻市の成田地区となる。西側は村崎野地区で村崎野段丘、西根段丘（高位段丘）が続くが、いくつかの小規模な河川により開削されている。中位段丘は二子町を取り囲むようにして小鳥崎へと延びている。本遺跡南側にある二子町には、中位段丘の中に物見ヶ崎、秋葉山、飛勢森といった小高い独立丘がある。その南側も二子地区であるが、三方を段丘に囲まれた氾濫原・自然堤防が広がっている。自然堤防は宅地として、旧流路は主に水田として利用されている。北上川対岸には更木地区があり、谷底平野・氾濫原の中に自然堤防が形成されている。その中には過去の北上川流路とみられる地形も見受けられる。

2 周辺の遺跡

本遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡・陥し穴・土坑、平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡・土塁跡・掘立柱建物跡・墓坑、近世の掘立柱建物跡などが検出され、縄文時代から近世にかけて人々の生活に利用されていたことがうかがえる。ここでは本遺跡の時代を中心に、特に平安時代から中世の遺跡を見ていきたい。

平安時代の集落跡は9世紀から10世紀にかけてのものが多く、秋子沢遺跡(3)、下川端遺跡(84)、西川目遺跡(86)、堰向Ⅱ遺跡(87)などの集落が存在する。秋子沢遺跡では、竪穴住居跡が16棟検出されており、土師器・須恵器の他に緑釉陶器の破片や刀子、鉄製紡錘車などが出土している。須恵器には「永」「十」などと墨書されているものもあり、当時の有力者が住む集落跡であったことがうかがえる。西川目遺跡では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡など多くの遺構が検出されている。遺物は土師器や須恵器があり、1棟の竪穴住居跡からは土錘が300点近く出土している。堰向Ⅱ遺跡でも、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されており、土師器や須恵器の他に施釉陶器や硯など特徴的な遺物が出土しているため、隣接する西川目遺跡とあわせて当時の拠点的な集落であったとされる。平安時代には国見山廃寺を中核として古代寺院が建てられた。本遺跡周辺では、大竹廃寺(25)と白山廃寺(60)がある。大竹廃寺は更木地区の標高180mの山頂付近に所在し、桁行5間、梁間4間の巨大な堂宇の跡が検出された。金堂跡と推定されているその堂宇からは、土師器や須恵器、須恵系土器などの遺物の他に鉄鐘も出土している。

中世になると、更木館(31)、湯沢館(54)、三坊木館(58)など中世の城館が多く築かれるようになる。和賀郡を治めていた中世領主である和賀氏は、黒岩城(59)から更木館に移り、最後に二子の地に城を構えたといわれている。それが、和賀氏の最後にして最大の城館であった二子城跡(2・飛



第3図 周辺の遺跡

勢城跡)である。本遺跡のある地域も、二子城の搦手としての機能を果たしていたとされ、古くから「馬場野」という地名も残っている。また、和賀氏の家臣であった成田藤内の居館があったとされ、建物跡も検出されている。二子城は、天正18(1590)年の奥州仕置によって和賀氏が追放されるまで本城としての役割を果たしていた。周辺には家臣屋敷や寺社、城下町も存在し、当時重要な役割を担っていたと考えられている。県内最大の中世墓である五輪壇遺跡(117)は、和賀領主の墓である可能性が高いとされている。土壇の上には五輪塔が建てられ、その土壇の中に何体もの火葬骨が納められている。そしてその土壇を囲むように二重の堀が巡るといふ大規模な墓である。中世の墳墓には、他にも上川端塚群(123)、四十九里Ⅲ遺跡(64)などがある。上川端塚群は、方形や円形の塚が8基以上現存しており、土葬墓で中世末～近世前半のものと推定されている。

最後に県指定史跡である二子一里塚(92)と成田一里塚(6)についてである。この二つの一里塚は、慶長9(1604)年に江戸幕府によって全国の主要道路を整備した際に築かれたもので、塚が対になった状態で当時の原形を保ったまま残っている。全国的にも珍しく、当時の交通史を考えるうえでも重要な遺跡である。特に成田一里塚は、塚を築いたときに植えられたとされるエノキが残っており貴重である。

2 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	成田岩田堂館	散布地、城館跡	縄文・弥生・古代・中世	縄文土器、石器、弥生土器、方形周溝、陶磁器、土塁
2	二子城	集落跡、城館跡	縄文・中世	縄文土器、堀、帯郭、陶磁器、掘立柱建物跡
3	秋子沢	集落跡	平安	竪穴住居跡、土師器、須恵器、緑釉陶器
4	成田	集落、窯跡	古代・縄文	縄文土器、土師器、須恵器、土坑、竪穴住居跡、窯跡
5	成田館	城館跡	中世	
6	成田一里塚	一里塚	近世	一里塚2基
7	成田I	散布地	古代	土師器、須恵器
8	成田II	散布地	古代	土師器、須恵器
9	宿内	散布地	縄文・旧石器	縄文土器、陥し穴、尖頭器、台石、ハンマーストーン
10	成田長根	集落跡	平安	土師器、須恵器、方頭太刀残欠
11	沖II	集落跡	古代	竪穴住居跡、土師器、鍋
12	小中野	散布地	縄文	石匙
13	宿内	散布地	縄文・旧石器	縄文土器、陥し穴、尖頭器、台石、ハンマーストーン
14	穂貫田	集落跡	古代	竪穴住居跡、土師器
15	駒板	集落跡	縄文・平安・	竪穴住居跡、焼土、ピット、縄文土器、内黒土師器、須恵器、石鉄
16	大木	散布地	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器
17	長志田	散布地	縄文	縄文土器
18	山口	集落跡	平安	土師器、竪穴住居跡、方形周溝
19	小川屋敷	集落跡	縄文・平安	陥し穴、土師器、須恵器、竪穴住居跡
20	市の川I	散布地	平安	土師器・須恵器
21	市の川II	散布地	平安・近世	土師器・陶磁器
22	六日市	集落跡	弥生・平安・近世	弥生土器、土師器、陶磁器、竪穴住居跡
23	中の屋敷I	散布地	平安	土師器
24	中の屋敷II	散布地	平安	土師器
25	大竹廃寺	寺院跡	平安	土師器、須恵器、鉄鐘
26	大森	散布地	平安	土師器、須恵器
27	大竹III	散布地	旧石器・縄文	旧石器、縄文土器(晩期)
28	童子洞	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石器
29	高畑	集落跡	縄文	縄文土器(前期)、石器、竪穴住居跡、土坑
30	坊主峠	散布地	縄文	縄文土器、竪穴住居跡、石器、クッキー状炭化物
31	更木館	城館跡	中世	腰郭、堀切
32	中曾根	集落跡	平安	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
33	石名畑	散布地	平安	須恵器
34	戸桜	散布地	縄文・弥生・平安・近世	縄文土器、弥生土器、土師器、陶磁器
35	舟渡I	散布地・集落跡	縄文・弥生・平安	縄文土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器
36	舟渡II	集落跡	平安・近世	縄文土器、弥生土器、竪穴住居跡、土師器、須恵器、陶磁器(美濃産)、近世墓、銭、煙管、柱穴群(屋敷跡があったとされる)
37	野沢I	集落跡	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器、須恵器、竪穴住居跡
38	野沢II	集落跡	縄文・弥生・平安・近世	縄文土器、石囲炉、弥生土器、石鎌、竪穴住居跡、土師器、須恵器、土鈴、近世掘立柱建物、井戸、陶磁器
39	中宿	散布地	縄文	縄文土器、石皿、石斧
40	梅ヶ沢館	城館跡	中世	
41	八天北	集落跡	平安	土師器、須恵器、竪穴住居跡
42	羽久保館	城館跡	中世	
43	天王館	城館跡	中世	空堀、主郭、腰郭
44	八天	集落跡	縄文	縄文土器、竪穴住居跡、石器、土製品
45	牛繰	散布地	縄文	縄文土器
46	烏森	集落跡	縄文・平安	縄文土器、須恵器
47	三坊木	集落跡	縄文・平安	陥し穴、縄文土器、竪穴住居跡、土師器、須恵器
48	沢目	散布地	縄文	
49	長洞	散布地	縄文	
50	小田島館	城館跡	中世	
51	祭田	散布地	縄文	フレーク
52	湯沢I	集落跡	縄文・平安・近世	縄文土器、石器、土師器、須恵器、竪穴住居跡、陶磁器
53	湯沢II	散布地	縄文	縄文土器
54	湯沢館	散布地・城館跡	縄文・中世	縄文土器(中期)
55	神行田	散布地	縄文	縄文土器(中期、晩期)、石器、土偶
56	鴻巣I	散布地	縄文・平安	縄文土器、かわらけ
57	鴻巣II	散布地	縄文・弥生・古代	土師器、須恵器、石器
58	三坊木館	城館跡・散布地	中世・縄文	縄文土器、堀跡
59	黒岩城	散布地・城館跡	縄文・平安・中世	縄文土器(中期)、かわらけ、陶磁器、堀、主郭、外郭
60	白山廃寺	寺院跡	平安	布目瓦、かわらけ、礎石建物跡
61	菅田	集落跡	縄文・平安	縄文土器(中期)、石器、石棒、土師器、須恵器、かわらけ、竪穴住居跡
62	四十九里I	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器
63	四十九里II	散布地	縄文	縄文土器
64	四十九里III	散布地・墳墓	縄文・中世	石鎌、塚、焼骨
65	万内	散布地	縄文	石匙、フレーク
66	大畑	散布地	縄文・古代	石核、土師器、須恵器
67	樋渡	散布地	縄文	縄文土器、石器、土偶
68	片月	散布地	縄文	縄文土器、石器

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
69	根岸	散布地	縄文	縄文土器、磨製石斧、石斧、石鏃
70	蒲谷地Ⅰ	散布地		
71	蒲谷地Ⅱ	散布地	縄文・奈良～平安	縄文土器・石器・土師器・須恵器
72	藤沢窯跡群	窯跡	平安	須恵器
73	中居俵Ⅰ	散布地		
74	中居俵Ⅱ	集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
75	中居俵Ⅲ	集落跡	平安	土師器、竪穴住居跡
76	野田Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・平安	縄文土器（後・晩期）、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
77	野田Ⅱ	散布地	縄文	フレーク
78	上野	散布地		
79	千刈	集落跡	平安	弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
80	中村	集落跡	平安	縄文土器、土師器、須恵器、鋤先
81	岡島	集落跡	縄文・弥生・古代	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
82	相野野	散布地	古代	土師器
83	尻引	集落跡	縄文・弥生・平安	土師器、須恵器、竪穴住居跡
84	下川端	集落跡	平安	土師器、須恵器
85	中島	集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、竪穴住居跡
86	西川目	集落跡	平安	土師器、須恵器、土錘、竪穴住居跡、水田跡、近世墓
87	堰向Ⅱ	集落跡	平安・近世	土師器、須恵器、目皿、硯、竪穴住居跡
88	明神Ⅱ	集落	縄文・平安	縄文土器、土坑、土師器、竪穴住居跡、土師器焼成遺構
89	高屋Ⅰ	散布地	古代	須恵器
90	高屋Ⅱ	散布地	古代	須恵器
91	明神Ⅰ	散布地	古代	土師器
92	二子一里塚	一里塚	近世	
93	下春木場	集落跡	縄文	縄文土器、竪穴住居跡
94	藤沢	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
95	曾山Ⅱ	集落跡	平安	土師器、須恵器
96	野崎Ⅰ	集落跡	平安	土師器
97	野崎Ⅱ	散布地	縄文・平安	土師器、土坑
98	鳩岡崎三館	散布地・城館跡	平安・中世	縄文土器、土師器、須恵器、堀、郭、陶磁器、掘立柱建物跡
99	鳩岡崎上の台	集落跡	縄文・平安・近世	縄文土器、大型住居跡、土師器、須恵器、竪穴住居跡、近世墓
100	大下	散布地	縄文	縄文土器、石器
101	蒲沢	散布地	縄文	縄文土器、土坑
102	中大塚川	狩り場・散布地	縄文・平安	溝状土坑・土師器
103	岡田		縄文	土坑、石器
104	月館	城館跡	中世	土塁、堀、単郭
105	向	集落跡	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
106	飯豊館	散布地	中世・縄文	縄文土器
107	森下	集落跡	平安・縄文	土師器、須恵器、赤焼き土器、土坑、竪穴住居跡
108	唐戸崎	集落跡	縄文・平安	縄文土器（中期）、土師器、須恵器、漆紙、竪穴住居跡
109	唐戸崎Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、土師器
110	唐戸崎Ⅲ	散布地	平安	土師器
111	飯豊	散布地	縄文・平安	縄文土器、土師器
112	伊勢	散布地	近世	
113	築館	散布地	平安	土師器、竪穴住居跡
114	堰向Ⅰ	散布地	縄文・古代	石匙、土師器、須恵器
115	南田Ⅰ	集落跡	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
116	南田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
117	五輪壇	墳墓	中世	土壇、周溝
118	鳥喰Ⅰ	集落跡	古代	土師器、須恵器、竪穴住居跡
119	鳥喰Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
120	鳥喰Ⅲ	散布地	古代	土師器
121	上川端Ⅱ	散布地	古代	土師器
122	上川端Ⅰ	散布地	平安	土師器、須恵器
123	上川端塚群	墳墓	中世	墳丘

3 歴史的環境

成田岩田堂館跡は、中世和賀郡一帯を領していた和賀氏の居城とされる二子城の北方にあたり、外敵からの攻撃を防御する上での要地であった。また、天正18年（1590）の奥州仕置、和賀・稗貫一揆や慶長5年（1600）の岩崎一揆の際の舞台となった地でもある。

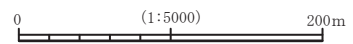
その中世和賀郡及び和賀氏の動向について、15世紀から16世紀の主だったものを下の略年表にまとめた。

第2表 15世紀以降の和賀氏関連略年表

西暦	和暦	主な動向
1400	応永7	鬼柳伊賀守、宇都宮氏広の乱に参陣を催促され、一色詮範が戦功と忠節を称える。和賀下総入道に足利満貞から宇都宮氏広の乱参陣に感状。
1401	応永8	鬼柳常陸入道、石橋棟義ト文通。須々孫氏態度決まらず。和賀下総入道、足利満貞から和賀郡惣領職に補任され、惣領分の知行も安堵される。
1405	応永12	小原時義（安俵城）が和賀丹内村権現堂修理。（岩手県史）
1429	永享元	安倍左京進、里分、二子、岩崎諸郷97貫を和賀美作守から安堵される。（北上市史）
1435	永享7	春頃、和賀・稗貫両郡に大動乱起こる。（北上市史）
1436	永享8	和賀・稗貫の大乱、和解なる。（北上市史）
1438	永享10	和賀時国、葛西持信と交戦。（岩手県史）
1461	寛正2	正覚寺再考される。（北上市史）
1470	文明2	金ヶ崎にて和賀氏と江刺氏が争う。（岩手県史）
1475	文明7	昆弾正が鬼柳郷の一部を知行する。（北上市史）
1476	文明8	和賀氏と柏山氏が和議を結ぶ。（岩手県史）
1485	文明17	葛西正信と和賀定義が衝突。和賀定義が相去にて死す。（岩手県史）
1492	明応元	鬼柳義継が伊賀守補任の官途を受ける。（北上市史）
1499	明応8	和賀氏、大崎探題の争いに出陣。（岩手県史）
1504	永正元	禅国寺再興される。（北上市史）
1508	永正5	和賀郡丹内権現堂が修復なる。棟札あり。（岩手県史）
1521	大永元	和賀氏と南部氏が志波郡で合戦。（岩手県史）
1534	天文3	南部氏が南進して柏山氏と衝突。（岩手県史）
1535	天文4	二子城の永明寺再興。（北上市史）
1537	天文6	和賀義方と南部晴政が志和郡で衝突。畠山泰朝討死。（岩手県史）
1558	永禄元	立花郷菊池重吉が和賀氏から17貫文宛行われる。（北上市史）和賀領内の検地が行われる。（北上市史）
1565	永禄8	新渡戸対馬守が相去城で自害。妻は仙人別当娘。（北上市史）
1572	元亀3	九戸政実が和賀郡に進出し、河崎城で戦う。（岩手県史） 確認
1573	天正元	和賀・柏山・江刺の三者会談が国見峠で行われる。（北上市史）和賀氏と南部氏の交戦あり。（岩手県史）
1581	天正9	黒岩月斎の重臣昆土佐が南部方の一味という。（岩手県史）
1582	天正10	九戸政実が河崎城を攻めたという。（岩手県史） 確認
1588	天正16	南部氏が斯波氏の高水寺城を攻略する。（岩手県史）この頃に和賀義忠が仙北郡の小野寺氏を攻撃。（北上市史）
1590	天正18	豊臣秀吉が小田原北条氏を攻略する。奥州仕置により和賀氏は追放される。天正の和賀・稗貫一揆が起きる。
1591	天正19	九戸政実の乱。奥州再仕置、一揆勢の立て籠もる二子城（和賀義忠）は落城。
1598	慶長3	和賀忠親は仙北から胆沢の大森に移り、伊達政宗より西根平沢に500余町賜るという。
1600	慶長5	和賀忠親、旧臣らを集め旧稗貫勢と共に花巻城を夜襲するが失敗し、岩崎城に籠城。
1601	慶長6	岩崎城は南部氏に攻められ落城。忠親は逃れるも5月には仙台で自害。



和賀郡飯豊村成田字右渡草第壹地割圖



第4図 地籍図

Ⅲ 調査と整理の方法

1 野 外 調 査

(1) 経 過 と 概 要

野外での調査は平成31年4月4日より調査を開始した。調査面積は62,386 m²である。成田岩田堂館跡は飯豊川の南岸、北上川西岸の河岸段丘縁辺に位置し、東西約300 m南北約500 mの範囲を有する。二子城跡、成田遺跡、成田館跡、馬場野遺跡といった遺跡に囲まれている。

調査区は遺跡の中央から東端部、南端部、南東端部と、中央から北東部、北部までに及んでおり遺跡の主体部の多くは今回の調査区に含まれている。

発掘調査は概ね南から北に向かって進めることとしたが、開始段階では調査区内の樹木伐採が未完了の状態であった。南側の未伐採地は6月に、北側の未伐採地は7月～8月にかけて伐採と運び出しが行われたため、発掘調査と作業動線が重複しないように調整しなければならなかった。

途中3回の部分終了確認（8月27日、9月25日、10月18日）を実施し、委託者へ引き渡した。これに伴い調査事務所の移転を二度行った（7月5日、9月13日）。とくに9月から移転した場所は調査区から離れているだけでなく、遺跡への往来に工事中の市道を通行しなければならず、作業員の安全確保にも苦慮するところであった。

8月3日（土）に現地説明会を開催し、一般市民に遺跡の内容を解説した（126名の参加）。11月28日に野外調査を全て終了している（最終の終了確認は11月20日）。

本調査は表土雑物除去から始めている。重機（バックホウ、キャリアダンプ等）を用い、その後、人力による遺構検出作業を行った。検出した遺構は規模や性格により、適宜に4分法と2分法を選択し精査を進めた。

試掘調査を先行させる中で、遺構の極端に希薄な部分については調査期間短縮のためトレンチによる調査を行った。幅2～3 m、長20～30 mのトレンチ数十箇所掘削を行い、遺構遺物の有無を確認した。遺構・遺物が見つかった場合は適宜拡張してその広がりを確認しながら作業した。

(2) グリッドの設定

グリッドの設定に際しては、平面直角座標（第X系）を採用し、大グリッドは50 m、小グリッドは5 mとした（第7図）。グリッドは全て北西隅を原点とし、西から東へA～E、北から南へI～Xで大区画を表し、更に小区画は西から東へa～j、北から南へ1～10を用いて小グリッドを表した。図版中の座標値、標高値は全て世界測地系で示している。

(3) 粗掘り・遺構検出

遺跡の調査前現況は主に果樹、杉林、雑木林、畑地等で、調査区内には伐採された樹木の枝葉が至る所に残置される状態であった。このため着手可能な地点から人力と重機による試掘トレンチを入れ、遺構・遺物が一定量確認されたところでは、その後重機による表土掘削を行った。本遺跡では、表土直下で旧表土に相当するⅡ層とその下のⅢ層が遺物を包含する。出土量は場所によって疎密があるため、重機による掘削の際に調査員が常に傍で監督しⅡ・Ⅲ層で止めるか、Ⅳ層上面まで掘り下げるかを指示しながら作業を進めた。重機による掘削の終わった地点は人力により遺構検出を行った。遺構

の検出面は、殆どの地点でIV層上面である。

(4) 遺構名の登録

① 野外調査

遺構種別ごとに略号を用いたもの、略号を用いなかったものがある。各遺構の表記は以下の通りである。

堀・土塁…○号堀・○号土塁 竪穴住居跡…SI 掘立柱建物…SB 溝…SD 土坑…SK
 陥し穴…SKT 焼土・炉・焼成遺構…SL 道…SF その他遺構…SX 柱穴状小土坑…P

② 報告書掲載

野外調査時に使用していた遺構名を基本的にはそのまま使用したが、検討の結果、遺構種類を変更したものに関しては室内整理段階で新規に掲載名称を登録した(第3表)。名称を変更した遺構の旧遺構名(仮名称)、及び検出段階で遺構登録を行ったもの、精査の結果、遺構と判断されなかったものについては欠番扱いとしている。

(5) 遺構精査・遺物のとりあげ

精査は、遺構の規模に応じて2分法・4分法を用いて断面を残し埋土の堆積状況を記録した。遺構内遺物の大半は埋土の層別取り上げが行えず、上層・中層・下層・埋土と区分したものが大半である。遺構外の遺物については出土グリッドと層位を記録した。この他、遺構内の堆積土(焼土、炭を含む)を採取し、微細遺物有無の確認(フローテーション)、自然科学的分析の試料とした。

(6) 実 測

遺構の平面実測は、光波トランシットを用いた電子平板による実測と、写真測量を併用している。断面図の作成は殆どを手取り実測で行った。

(7) 写 真 撮 影

写真撮影は、中判カメラ(モノクロフィルム使用)と35mm判デジタルカメラを併用した。これらのカメラでは、各遺構の全景・断面・遺物出土状況を中心に撮影を行い、遺跡全景は空撮による俯瞰写真を撮影した。なお銀塩写真は記録保存用、デジタル写真は報告書の写真図版原版に使用している。

2 室内整理

(1) 遺物整理

土器類は破片の接合後にその器形を復元できる個体を中心に、各遺構の器種構成が把握できるように努め、掲載する遺物を選んだ。陶磁器類・石器・土製品・金属製品他は遺構に伴うものを中心に掲載するものを選択した。なお、石器については外部委託による実測図を掲載している。獣骨は図化せず写真のみを掲載している。

遺物は登録時に土器・石器等、遺物の種類ごとに仮番号を付し、室内整理の期間中は仮番号のまま作業を行い、その後編集段階で全ての遺物に改めて掲載番号を与えた。掲載番号は本報告書の掲載順番とは関係ない。

(2) 遺 構 整 理

遺構の平面図と断面図の一部はドローイングソフト上で編集作業を行った。また外部委託で写真測量も実施し測量図を得た。断面図の一部は原図をスキャナーで読み込み、パソコン上で平面図との整合性を点検しこれをデジタルトレースした。遺構図編集基礎作業は調査時の担当調査員が行っている。

(3) 図 版 作 成

遺構ごとに平面・断面図を作成し掲載している。縮尺は、竪穴住居跡：1/60、掘立柱建物跡：1/100、堀跡・土塁土坑：1/60、陥し穴：1/60、焼成遺構 1/60、炉・焼土：1/40 を基本とし、溝跡やその他の遺構は適宜規模に応じた縮尺を使い分けている。図版には縮尺率を表すスケールと方位を付している。

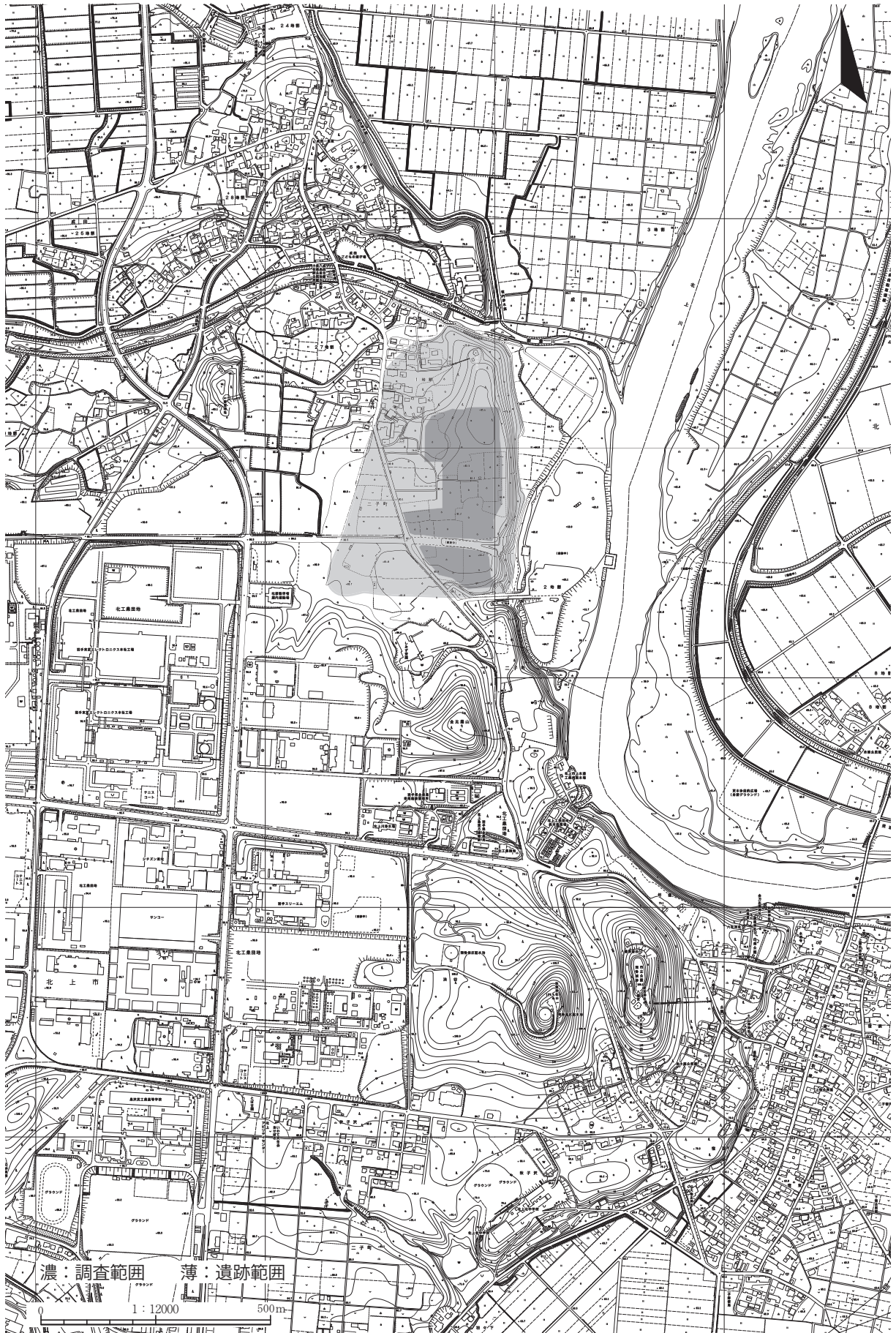
遺物の縮尺は、縄文・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器：1/3、金属製品・土製品：1/2・1/3、石器 2/3・1/2・1/3、銭貨：原寸を原則としているが、適宜縮尺を変更している個体もある。図版には縮尺率を表すスケールを付している。

(4) 写 真 図 版

野外調査時に撮影した各遺構の写真から代表的なものを選び遺構写真図版を、全ての掲載遺物と獣骨の一部を撮影し、遺物写真図版を作成した。遺物写真図版の掲載番号は遺物図版と同一である。各遺物写真の縮尺は図と一致するものではない。

(5) 本 文 記 載

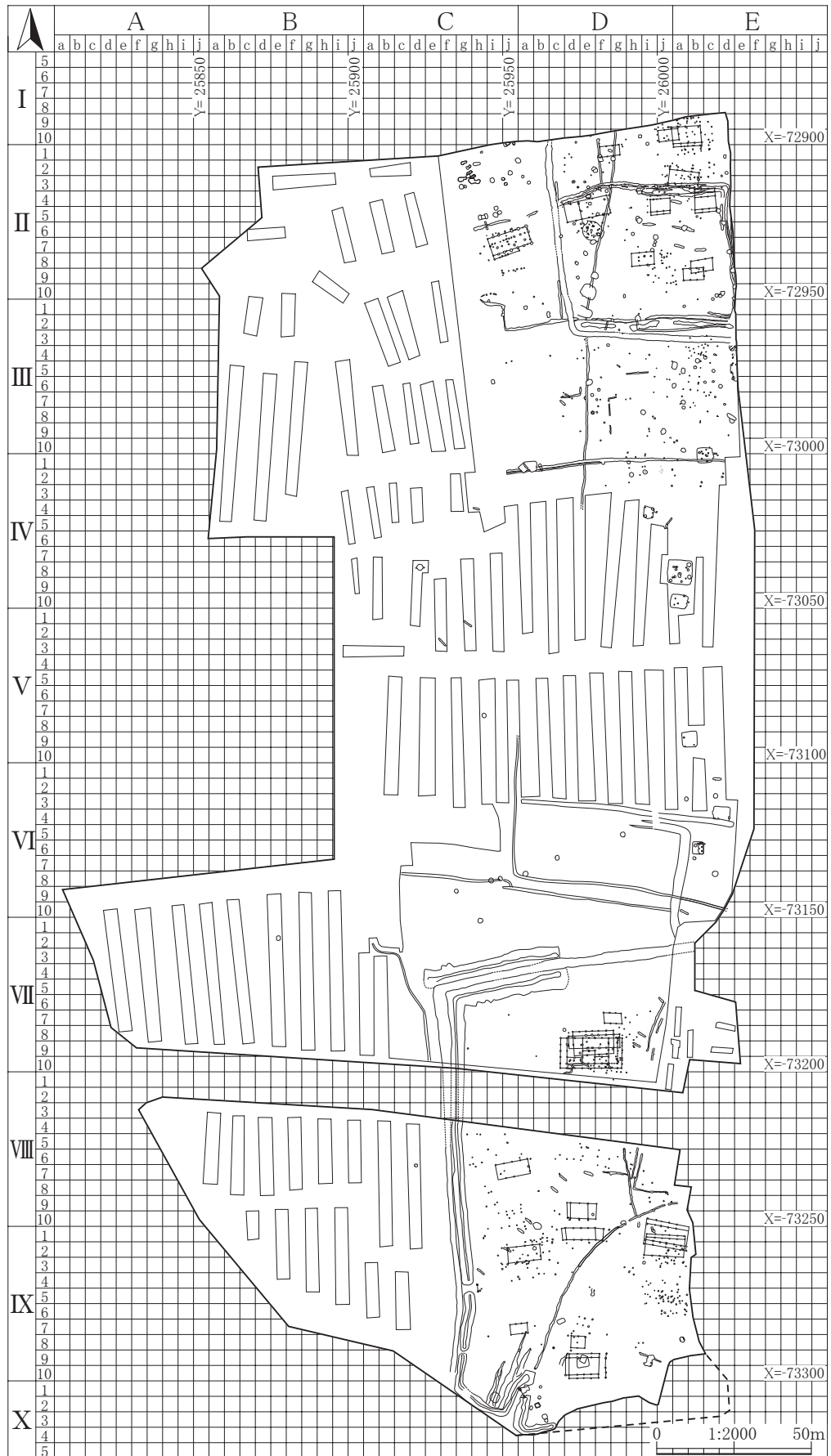
本報告書のⅡ～Ⅳ章は杉沢、星、川又、中島が分担した。各項目の文末に執筆者名を記している。記載のないものは全て杉沢が担当したものである。各報告者の考えを、可能な限り各人のことばで盛り込んでもらうよう文体は必要最小限の体裁統一に留めている。



第5図 調査区位置図



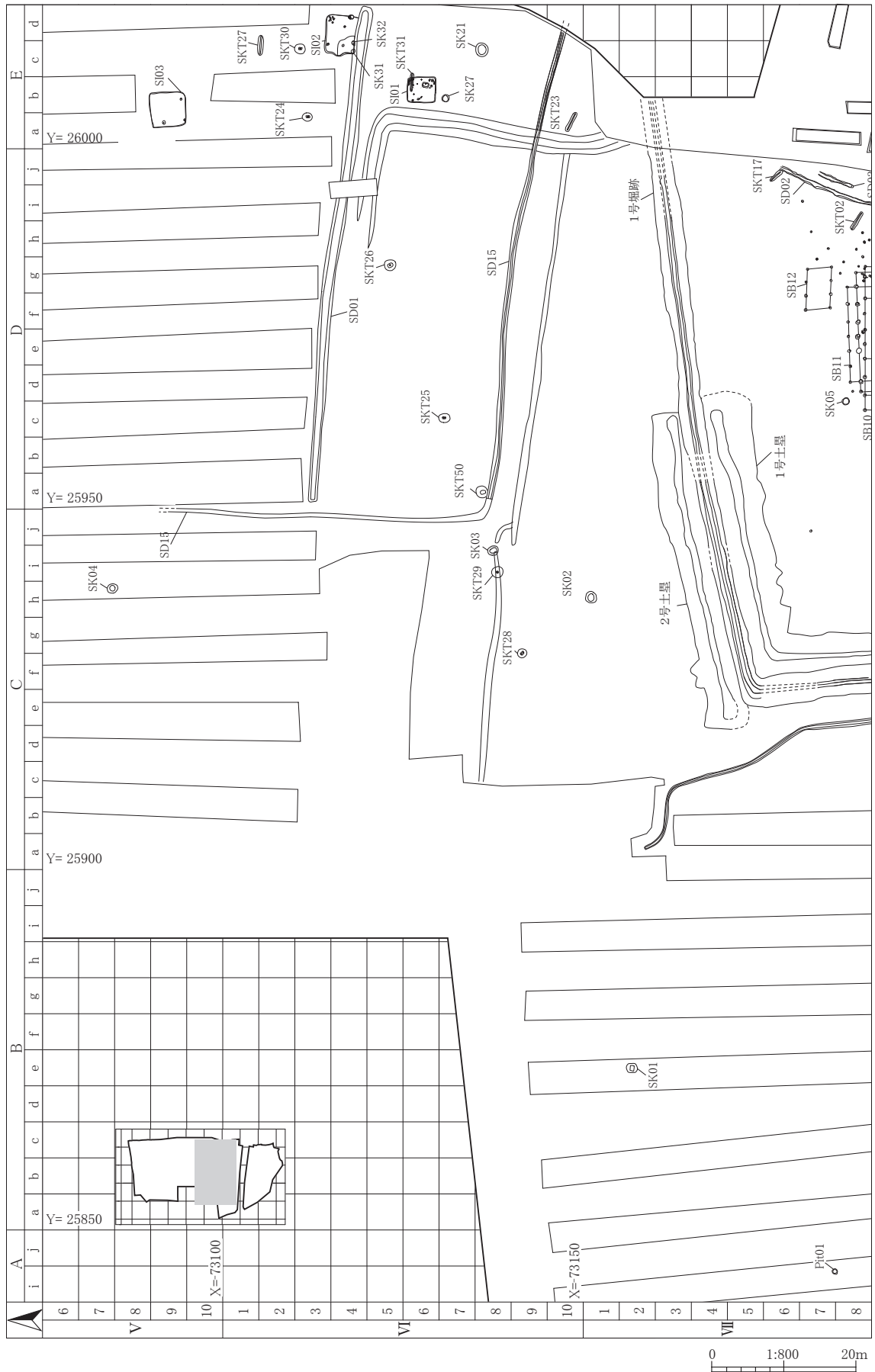
第6図 調査区全図



第7図 遺構配置図1



第8図 遺構配置図2 (北部)



第9図 遺構配置図3 (中央部)



第10図 遺構配置図4(南部)

IV 検出された遺構と遺物

1 概 要

遺跡は、JR 村崎野駅から北東 2.3 km のところに位置し、北上川西岸に形成された河岸段丘縁辺部に立地する。標高は 82~84 m で概ね平坦な地形である。調査前は果樹園及び雑木林であった。

検出遺構は、縄文時代の竪穴住居跡 1 棟、陥し穴状遺構 46 基、土坑 10 基、弥生時代の土坑 1 基、焼土 11 基、土器埋設遺構 1 基、平安時代の竪穴住居跡 8 棟、土坑 1 基、性格不明遺構 2 基、炭窯 8 基、溝跡 6 条、中世後半の堀跡 2 条、土塁 4 条、出入口施設 2 箇所、掘立柱建物跡 22 棟、墓壇 37 基、土坑 3 基、炉・焼土 2 基、柱穴状土坑 1100 基、近世の掘立柱建物跡 1 棟、屋外炉 10 基、溝跡 10 条、出入口施設 1 箇所、時期不明の土坑 27 基、溝跡 16 条、焼土 2 基、性格不明遺構 2 基である。

出土遺物は、縄文土器・弥生土器が大コンテナ 2.5 箱、縄文・弥生時代の石器が大コンテナ 1 箱、平安時代の土師器・須恵器が大コンテナ 2 箱、平安時代から中世後半の金属製品が大コンテナ 0.1 箱、中近世の陶磁器と銭貨が大コンテナ 0.1 箱、近世の獣骨が大コンテナ 4 箱である。

本遺跡は、中世和賀氏の居城である二子城の北端部に立地する。調査の結果、遺跡内には二つの中世城館があることが判明した。遺跡南側の城館は東西 70 m、南北 140 m の範囲を堀と土塁で取り囲み、内部には大小の掘立柱建物跡が確認され、16 世紀の陶磁器が出土した。北側の城館は嘗て八森館と呼ばれ、東西 60 m、南北 60 m 以上となる堀跡が巡り、その内部から土塁と複数の掘立柱建物跡が検出され、16 世紀の陶磁器が出土した。この他、11 世紀の遺構と遺物も一定量見つかっている。

2 基本層序

本遺跡の基本層序は以下の通りである（第 11 図、写真図版 17）

I 層：暗褐色シルト（表土、耕作土）10~30 cm。

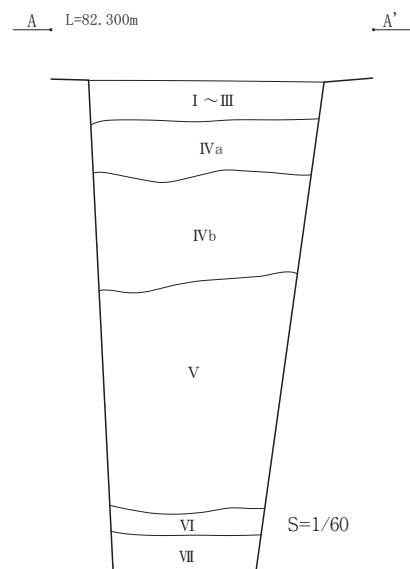
II 層：黒~黒褐色シルト（旧表土、遺物を包含）耕作地等では失われている。0~30 cm。

III 層：暗褐色シルト（遺構検出面、遺物を包含）II 層と IV 層の漸移層。10~30 cm

IV 層：褐色シルト（遺構検出面、ローム）調査区北部では砂礫層もあり。30~60 cm。

VI 層：黄褐色浮石（村崎野浮石）20~60 cm。

VII 層：灰黄褐色粘土 0~30 cm。



第 11 図 基本層序

3 検 出 遺 構

(1) 堀跡・土塁・出入口施設

2 条の堀跡と 4 条の土塁を検出している。調査区の南東端と北東端とに分かれ見つかっているが、何れも中世後半の遺構であることが分かった。

3 検出遺構

調査区南東端で検出された1号堀跡には1～3号土塁が伴い、出入口施設(門跡)が2箇所で見ついている(SB24・SB25)。橋の痕跡は無かった。1つの大きな平場を取り囲むだけで、これ以上周辺に展開はしない。

調査区北東端で検出された2号堀跡には4号土塁が伴う。出入口施設及び橋は見つからなかった。2号堀跡は調査区外(北側)へ延びており、その調査区外には土塁や人工的に造成された複数の平場が複数連なっているのが観察された。

1号堀跡

遺構(第12・13図、写真図版5・6) [位置・検出状況] 調査区南東端から南東部に位置する。河岸段丘縁部付近に立地している。遺構検出面は基本的にIV層上面であるが、東側では攪乱があり、IV層中～下面となっているところもある。本遺構には1・2・3号土塁及び出入口施設(SB24・SB25)が伴う。[重複関係] なし。[形状・方向・規模] 東側が段丘崖、南側は深い沢地形となっており、残る北辺と西辺に1号堀跡が掘られている。概ね東西方向に83m、南北方向は126mあり、何れも直線的に造られている。堀跡西辺部は、上幅2.5～3.1m、下幅0.5m、深さ1.6～1.7mを測る。堀跡北辺部は、上幅3.5～4.2m、下幅0.5m、深さ1.8mを測る。堀跡の底面は狭いが平坦であった。[埋土] 暗褐色・黒褐色シルトなどの流れ込みによる自然堆積である。地山起源のシルトブロック、浮石粒等は堀壁面や土塁積み土の崩落と解釈した。[その他] 堀跡の底面や壁面、上場周辺にて橋脚(土橋も含め)の痕跡を探したが無かった。同様に柵列や櫓等の痕跡も意識して探したが検出されなかった。**遺物**(第80・91・92・94・96図、写真図版77・88・89・91・92) 遺構に関連するものとして瀬戸美濃産陶器皿(177)が出土している。他に縄文・弥生時代の土器や石器が出土した(24)(196)(197)(208)(214)(222)。

時期 出土遺物の年代観から中世後半、16世紀頃に位置付けられる。

2号堀跡

遺構(第14図、写真図版7) [位置・検出状況] 調査区北東端に位置し、河岸段丘縁部付近に立地する。遺構検出面はIV層上面である。本遺構には4号土塁が伴っている。[重複関係] SD21・32と重複し、本遺構の方が古い。SD16との重複関係では本遺構が新しい。[形状・方向・規模] 東側が段丘崖、北側は調査区外となっており、残る南辺と西辺に2号堀跡が掘られている。概ね東西方向に54m、南北方向は63mあり(共に調査区内での計測値)、何れも直線基調である。堀跡西辺部は、上幅2.0～2.5m、下幅0.3m、深さ0.8mを測る。堀跡南辺部は、上幅1.7～2.1m、下幅0.3～0.4m、深さ0.6～0.7mを測る。堀跡の底面は狭いが平坦な造りでをしていた。[埋土] 暗褐色・黒褐色シルトなどの流れ込みによる自然堆積である。地山起源のシルトブロック、浮石粒等は堀壁面や土塁積み土の崩落と解釈した。こうした地山ブロックを含む埋土が堀西辺にも観察されたことから、西側にも土塁が存在していた可能性がある。[その他] 堀跡の底面や壁面、上場周辺にて橋脚(土橋も含めて)の痕跡を探したが見つからなかった。同様に柵列や櫓等の痕跡も意識して探したが検出されていない。**遺物**(第90・91図、写真図版88) 遺構に伴うものとして中国産磁器皿(179)が出土している。(162・164)は中世後半のかわらけかもしれない。他に縄文・弥生時代の土器や石器が出土した。

時期 出土遺物の年代観から中世後半、16世紀頃に位置付けられる。

1号土塁

遺構 (第12・13図、写真図版5・6) [位置・検出状況] 調査区の南東端から南東部に位置する。遺構検出面はI層上面である。本遺構には1号堀跡、2・3号土塁及び出入口施設(SB24・SB25)が伴う。[重複関係] なし。[形状・方向・規模] 本遺構は1号堀跡の内側に沿って築かれた土塁である。堀跡北辺の一部、西辺全てと、調査区南端の深い沢地形に沿って築かれている。概ね東西方向に38m、南北方向は126mあり、何れも直線的に造られている。南端部は37mあり、出入口施設にあたる部分は北側へ向きを変えて延びている。土塁北辺部は、下幅4.4~4.5m、高さ0.8~0.9mを測る。堀跡西辺部は、下幅3.9~4.3m、高さ1.0~1.1mを測る。南端部は下幅1.7m前後、高さは0.2~0.5mであった。[埋土] 旧表土の上に地山起源の黄褐色シルトブロック、その上に暗褐色・黒褐色シルトなどを積み上げて構築されている。風化流出で普請時より数十cmは低くなっている。[その他] 土塁の上半面を削って柵列や櫓等の痕跡を探したが見つからなかった。同様に下場周辺で橋脚(土橋も含めて)の痕跡を意識して探したが検出されていない。

遺物 遺構に関連するものは出土しなかった。他に縄文・弥生時代の土器や石器が出土している。

時期 1号堀跡と同時期と考えられることから中世後半、16世紀頃に位置付けられる。

2号土塁

遺構 (第12・13図、写真図版6) [位置・検出状況] 調査区の南東部に位置する。遺構検出面はI層上面である。本遺構には1号堀跡、1・3号土塁及び出入口施設(SB24・SB25)が伴う。[重複関係] なし。[形状・方向・規模] 本遺構は1号堀跡の外側に沿って築かれた土塁である。堀跡北辺の一部に沿って見つかった。概ね東西方向に44m、直線基調で造られている。下幅3.8~4.5m、高さ0.7~1.0mを測る。[埋土] 旧表土の上に地山起源の黄褐色シルトブロックや浮石粒、その上に暗褐色・黒褐色シルトなどを積み上げて構築されている。風化流出で普請時より相当低くなっている。[その他] 下場周辺で橋脚(土橋も含めて)や柵列の痕跡を意識して探したが検出されていない。

遺物 遺構に関連するものは出土しなかった。他に縄文・弥生時代の土器や石器が出土した。

時期 1号堀跡と同時期と考えられることから中世後半、16世紀頃に位置付けられる。

3号土塁

遺構 (第12図、写真図版8) [位置・検出状況] 調査区の南東端に位置する。遺構検出面はI層上面である。本遺構には1号堀跡、2号土塁及び出入口施設(SB24・SB25)が伴う。[重複関係] なし。[形状・方向・規模] 本遺構は遺跡南端部にある旧沢に沿って築かれた土塁である。概ね東西方向に14m、南北方向は13mあり、本遺構の北端部にSB25が造られている。土塁北辺部は、下幅4.4~4.5m、高さ0.8~0.9mを測る。堀跡西辺部は、下幅3.9~4.3m、高さ1.0~1.1mを測る。土塁下幅1.7~3.1m、高さは0.4~0.8mであった。[埋土] 旧表土の上に地山起源の黄褐色シルトブロック、その上に暗褐色・黒褐色シルトなどを積み上げて構築されている。風化流出で普請当時より相当低くなったと思われる。[その他] 土塁の一部を削って柵列や櫓等の痕跡を探したが見つからなかった。

遺物 (第90図、写真図版88) 遺構に関連するものないが、須恵器坏(173)が出土している。

時期 1号堀跡と同時期と考えられることから中世後半、16世紀頃に位置付けられる。

4号土塁

遺構 (第14図、写真図版7) [位置・検出状況] 調査区の北東端に位置する。遺構検出面はI層上面である。本遺構には2号堀跡が伴う。[重複関係]SD32と重複し、本遺構ほうが古い。[形状・方向・規模] 本遺構は2号堀跡の内側に沿って築かれた土塁である。堀跡南辺に沿って築かれていた。概ね東西方向に55m、直線的に造られている。下幅3.0~4.5m、高さ0.3~0.7mを測る。[埋土] 旧表土の上に地山起源の黄褐色シルトブロック、その上に暗褐色・黒褐色シルトなどを積み上げて構築されているが、風化流出で普請時よりかなり低くなっている。[その他] 土塁の上半面を削って柵列や櫓等の痕跡を探したが見つからなかった。同様に土塁を全て削平し、下場周辺で橋脚(土橋も含めて)の痕跡を意識して探したが検出されていない。

遺物 遺構に関連するものは出土しなかった。他に縄文・弥生時代の土器や石器が微量出土した。

時期 2号堀跡と同時期と考えられることから中世後半、16世紀頃に位置付けられる。

SB24門跡

遺構 (第25図、写真図版8) [位置] IXC4iグリッド。調査区南東部、平坦面に立地する。1号堀跡及び1号土塁の西辺に付随して構築されている。[遺構検出面] IV層上面。[平面形式・柱間寸法] 柱穴2個で構成される掘立柱の門跡である。P174は上幅50×60cm、下幅43×45cm、深さ75cm、柱痕径約30cmを測る。P175は上幅50×60cm、下幅30×48cm、深さ70cm、柱痕計約20cmある。付近には掘立柱建物跡が複数検出されているが、それらの柱穴よりも深く掘られている。P174-P175間は2.27m(約7.5尺)である。概ね1号堀跡・1号土塁と同じ方向である。柱穴の底面に扁平石や板を敷いたりはしていない。[付属施設] 控柱、塀や柵列などの痕跡は見られなかった。

遺物 出土していない。

時期 1号堀跡・1号土塁に伴う施設であることから、中世後半、16世紀頃に位置付けたい。

SB25門跡

遺構 (第26図、写真図版8) [位置] XD1aグリッド。調査区南東端部、緩斜面部に立地する。1・2号土塁の南辺、SF01に付随して構築されている。[遺構検出面] 1・2号土塁を除去したIV層上面。[平面形式・柱間寸法] 柱穴2個で構成される掘立柱の門跡である。PAは上幅63×100cm、下幅40×60cm、深さ52cm、柱痕径約20cmを測る。PBは上幅56×74cm、下幅45×65cm、深さ22cmある。PA-PB間は2.42m(約8.0尺)である。1・2号土塁とSF01道跡が南北方向から北東方向へと折れ曲がる場所に設置されている。柱穴の底面に扁平石や板を敷いたりはしていない。各柱穴が浅いのは、土塁と共に造られたためだと解釈している。[付属施設] 控柱、塀や柵列などの痕跡は見られなかった。

遺物 出土していない。

時期 1号堀跡、1~3号土塁に伴う施設であることから中世後半、16世紀頃に位置付けたい。

SB26門跡

遺構 (第72図、写真図版75) [位置] IIC10iグリッド。調査区北部、平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[平面形式・柱間寸法] 柱穴2個で構成される門の痕跡である。P960は上幅34×32cm、深さは6cm程である。比較的大きな円礫が底面に2個据えられていた。P961は上幅49×39cm、深さ10cmである。柱間寸法は1.52mである。近くに控柱の痕跡は見られなかった。このた

め基本的には柱2本で自立するような簡素な門であったと推測される。[付属施設] この2つの柱穴の傍には短い溝状の掘り込み (SD34・35) があり、門関連施設の痕跡ではないかと考えている。付近にはSB23 掘立柱建物跡 (近世民家) があり、このSB23 を取り囲むようにSD20・21・32 他が検出されている。本遺構もSB23の南南西に位置すること、主軸方向が概ね一致すること等から、SB23に伴う屋敷の門である可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 SB23 やSD20・21の年代観から近世に位置付けるのが最も妥当と考えている。

道 跡

SF01 道跡

遺構 (第26図、写真図版8) [位置] XD2a グリッド。調査区南東端部、斜面部に立地する。1・2号土塁の間に造られている。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 高低差のある1・2号土塁に挟まれた、幅の狭い道跡で、南側は調査区外へと続く。上幅1.3~2.5m、下幅0.3~0.6mを測り、溝のような形状をしている。大凡南から北方向へ10m、それからSB25門跡を通過して北東方向へ折れ曲がり、2.5m程まで確認され、その続きは徐々に掘り込みが浅くなって不明瞭になっていく。一方、南側の調査区外では南東方向向きを変えて沢跡に沿って降りていくと推察される。この沢跡が天然の堀としての機能を有していたと考えられ、本遺構は10数メートル低い北上川沖積地まで達していた可能性がある。[付属施設] 路面に石を敷いたり、階段状の段差を設けたりはしていない。

遺物 出土していない。

時期 1号堀跡・1・2号土塁に伴う施設であることから、中世後半、16世紀頃と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は中世が22棟、近世が1棟検出された。本遺跡は柱穴が濃密に分布するようところがなかったため、各掘立柱建物跡を認識するのは比較的容易ではあったが、切株が多数あったために、柱同士が対になる場所に切株があつて失われてしまったものが複数ある。それでも大凡の平面形は把握できたと考える。基本的には、ほぼ東西棟となる建物であり、若干東-西よりも振れている建物もある。各建物の小屋組構造まで推察することができなかった。そのため記載にあたり、身舎に直接取り付くものを庇とし、更に庇に取り付くものを下屋とした。なお、今回の調査では礎石建物の痕跡は認められない。1尺は30.3cmとして計算をした。

SB01 掘立柱建物跡

遺構 (第15図、写真図版9) [位置] IXD10e グリッド。1号堀跡・1号土塁に囲まれた平場南端部の緩斜面部分に立地する。[遺構検出面] III~IV層上面。[平面形式] 梁間1間、桁行4間の身舎に南北及び西側に庇が付く建物跡である。規模は梁間7.79m(25.7尺)~7.88m(26.0尺)、桁行10.51m(34.7尺)~10.97m(36.2尺)、面積は82.172m²(24.9坪)である。使用される柱穴は20個である。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は5.45m(18尺)を基準としていたと推測され、桁行の柱間寸法は2.15m(7.1尺)~2.73m(9.0尺)とまとまりがないが、桁行全長が約32尺であることから、2.42m(8.0尺)を基準にしていたと推測される。[付属施設] 西側約2m離れたところに5個の柱穴から成る柱列が検出されている。梁間と概ね方向が揃っているが、柱間寸法は統一感がない。

遺物 出土していない。

SB02 掘立柱建物跡

遺構（第15図、写真図版16）〔位置〕IXD8eグリッド。1号堀跡・1号土塁に囲まれた平場の南端部にある緩斜面に立地する。〔遺構検出面〕Ⅲ～Ⅳ層上面。〔平面形式〕梁間1間、桁行2間の小規模な建物跡である。規模は梁間3.82m（12.6尺）、桁行4.58m（15.1尺）、面積は17.496m²（5.3坪）である。使用される柱穴は5個である。屋内を分けるような柱穴はなかった。〔柱間寸法〕梁間の柱間寸法は1.82m（6尺）の2間と考えた方がよいのかもしれない。桁行の柱間寸法は2.06m（6.8尺）～2.51m（8.3尺）とまとまりがないが、桁行全長が約15尺であることから、2.21m（7.0尺）～2.42m（8.0尺）を基準にしていたと思われる。〔付属施設〕本遺構が、SB01の付属施設であった可能性がある。

遺物 出土していない。

SB03 掘立柱建物跡

遺構（第15図、写真図版16）〔位置〕IXD7aグリッド。1号堀跡・1号土塁に囲まれた平場南側の緩斜面部分に立地する。〔遺構検出面〕Ⅲ～Ⅳ層上面。〔平面形式〕梁間1間、桁行3間の小規模な建物跡である。規模は梁間3.21m（10.6尺）～3.27m（10.8尺）、桁行5.73m（18.9尺）、面積は18.390m²（5.6坪）である。使用される柱穴は7個である。P101～P102間には切り株があって検出できなかった。屋内を分割する柱穴はなかった。〔柱間寸法〕梁間の柱間寸法は3.03m（10尺）～3.33m（11尺）を基準としていたと推測され、桁行の柱間寸法は1.73m（5.7尺）～2.00m（6.6尺）とまとまりがないが、桁行全長が約19尺であることから、大凡1.97m（6.5尺）を基準にしていたと考えられる。〔付属施設〕なし。

遺物 出土していない。

SB04 掘立柱建物跡

遺構（第16図、写真図版9）〔位置〕IXD2aグリッド。1号堀跡・1号土塁に囲まれた平場中央部の平坦面に立地。〔遺構検出面〕Ⅳ層上面。〔平面形式〕梁間1間、桁行4間の建物跡である。規模は梁間4.97m（10.4尺）～5.00m（16.5尺）、桁行10.64m（35.1尺）～10.72m（35.4尺）、面積は53.259m²（16.1坪）である。使用柱穴は10個である。屋内を分割するような柱穴はなかった。〔柱間寸法〕梁間の柱間寸法は4.97m（16.4尺）を基準としていたと推測され、桁行の柱間寸法は2.36m（7.8尺）～2.97m（9.8尺）と多くの寸法が用いられているのは、桁行全長約35尺を4間で分けたのでそうなったと推察される。〔付属施設〕なし。

遺物 出土していない。

SB05 掘立柱建物跡

遺構（第16図、写真図版10）〔位置〕IXD1eグリッド。1号堀跡・1号土塁に囲まれた平場中央の平坦地に立地する。〔遺構検出面〕Ⅳ層上面。〔平面形式〕梁間1間、桁行4間の建物跡である。規模は梁間9.39m（31.0尺）～9.73m（32.1尺）、桁行3.76m（12.4尺）～3.88m（12.8尺）、面積は51.255m²（15.3坪）である。使用される柱穴は10個である。屋内を区画するような柱穴はなかった。〔柱間寸法〕梁間の柱間寸法は3.76m（12.4尺）を基準としていたと推測され、桁行の柱間寸法は2.15m（7.1尺）～2.73m（9.0尺）とまとまりがないが、桁行全長が約32尺であることから、2.42m（8.0尺）

を基準にしていたのではないかと解釈したい。[付属施設] 西側約 1.3 m 離れたところに P191、P194 が、東側約 2.5 m 離れたところに P170、P189 がある。本遺構に一体となるのか否かは、桁行の方向が揃わないため判然としない。

遺物 出土していない。

SB06 掘立柱建物跡

遺構（第 16 図、写真図版 10） [位置] VIII D10e グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場中央付近の平坦な場所に立地する。[遺構検出面] III～IV 層上面。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 3 間の建物に、西側に庇が付く建物跡である。規模は梁間 4.91 m (16.2 尺)、桁行 9.06 m (29.9 尺)～9.48 m (31.3 尺)、面積は 45.796 m² (13.9 坪) である。使用される柱穴は 11 個である。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 4.85 m (16 尺) を基準にしていたと推測され、桁行の柱間寸法は、約 8.18 m (27.0 尺) を 3 等分した、2.72 m (9.0 尺) と考えている。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB07 掘立柱建物跡

遺構（第 17 図、写真図版 11） [位置] VIII D7a グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場ほぼ中央端部の平坦面に立地する。[遺構検出面] III～IV 層上面。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 4 間の建物跡である。規模は梁間 4.85 m (16.0 尺)、桁行 10.61 m (35.0 尺)、面積は 51.459 m² (15.6 坪) である。検出された柱穴は 7 個であるが、本来は 10 個の柱穴で建てられていたと推測している。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 4.85 m (16.0 尺) を基準とし、桁行の柱間寸法は 2.42 m (8.0 尺) と 2.73 m (9.0 尺) の二種類の間尺を用いていたと推測される。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB08 掘立柱建物跡

遺構（第 17 図、写真図版 11） [位置] IX E1a グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場のやや東部の平坦な面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB09 と重複するが、新旧関係は不明である。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 5 間の身舎に南北及び東側に庇が付く建物跡である。規模は梁間 8.15 m (26.9 尺)、桁行 13.76 m (45.4 尺)、面積は 112.806 m² (34.2 坪) である。検出された柱穴は 23 個であるが、本来は柱穴を 28 個用いて建てられていたと推測している。屋内を分けるような柱穴はなかった。なお、本遺構の東側は調査区外へと続く可能性がある。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 5.30 m (17.5 尺) を、桁行の柱間寸法は 1.67 m (5.5 尺)～2.73 m (9.0 尺) と複数の間尺が見られるが、7 尺、8 尺、9 尺といった端数のない間尺がやや多い。身舎の桁行全長が約 39.5 尺であることから、東側の庇は 1.97 m (6.5 尺) を基準とし、合わせて桁行を 13.94 m (46.0 尺) にしていたと推測される。南北の庇は 1.52 m (5.0 尺) を基準とし、梁間全長では 8.18 m (27.0 尺) で建てられていたと解釈したい。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB09 掘立柱建物跡

遺構（第 18 図、写真図版 12） [位置] IX E2a グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場東側の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB08 と重複するが、新旧関係は不明である。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 5 間の身舎に北庇が付く建物跡である。規模は梁間 5.76 m (19.0 尺)、桁行 12.57 m (41.5

3 検出遺構

尺)～12.73 m (42.0 尺)、面積は 85.331 m² (25.9 坪) である。検出された柱穴は 17 個であるが、本来は 18 個の柱穴を使用して建てられていたと推測される。身舎内空間を分割するような柱穴はなかった。また、本遺構は東側の調査区外に続く可能もある。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 5.76 m (19.0 尺) を基準としていたと推測され、桁行の柱間寸法は 2.21 m (7.3 尺)～2.82 m (9.3 尺) とまとまりがないが、これは桁行全長が約 42 尺であることから、42 尺を 5 間に分けたことに起因していると考えている。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB10 掘立柱建物跡

遺構 (第 19 図、写真図版 12) [位置] VII D9e グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場北部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB11 と重複するが柱穴間の切り合い関係はない。[平面形式] 梁間 4 間、桁行 7 間の身舎に東西及び南側に庇(下屋)が付く建物跡である。規模は梁間 9.70 m (32.0 尺)～9.73 m (32.1 尺)、桁行 19.70 m (65.0 尺)～19.97 m (65.9 尺)、面積は 193.400 m² (58.6 坪) である。使用される柱穴は 53 個である。図中では梁間 P113-P206 と、梁間 P018-604 が屋内を分ける柱穴列として描いたが、その他にも本建物の屋内空間を分けると考えられる柱穴が複数確認された。ほぼ東西棟となる建物である。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 1.81 m (6.0 尺)、1.97 m (6.5 尺)、2.12 m (7.0 尺)、2.27 m (7.5 尺) が見られる。身舎の梁間全長 8.18 (27.0 尺) を 4 間で分けなければならなかったために複数の間尺が使われたと推測される。庇は 1.36 m (4.5 尺)・1.52 m (5.0 尺) であった。桁行の柱間寸法にも多くの間尺が用いられている。広い所では 3.03 m (10.0 尺)、狭い所では 1.06 m (3.5 尺) で、2.12 m (7.0 尺) と 2.27 m (7.5 尺) が多い。東庇は 1.21 m (4.0 尺)、1.45 m (4.8 尺) で、西庇は 2.00 m (6.6 尺)、2.27 m (7.5 尺) である。[付属施設] 本遺構の 5 m 北側に SB12 があり、付属屋の可能性はある。

遺物 出土していない。

SB11 掘立柱建物跡

遺構 (第 20 図、写真図版 13) [位置] VII D8e グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場北部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB10 と平面的には重なっているが、柱穴間の重複はない。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 6 間の身舎に南北及び東西側に庇が付く建物跡である。規模は梁間 7.73 m (25.5 尺)、桁行 16.82 m (55.5 尺)、面積は 115.300 m² (34.9 坪)。検出された柱穴は 25 個であるが、攪乱や切株で失われたものもあり、本来は使用される柱穴は 32 個であったと推測される。身舎内を分けるような柱穴はなかった。ほぼ東西棟となる建物である。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 4.24 m (14.0 尺) を基準としていたと推測され、桁行の柱間寸法は、身舎桁行全長が 13.33 m (44.0 尺) を 6 間で分けなければならないことから、2.12 m (7.0 尺) と 2.42 m (8.0 尺) が多く用いられている。庇は四方で異なる柱間寸法を用いていた。東庇 1.97 m (6.5 尺)、西庇 1.52 m (5.0 尺)、南庇 2.12 m (7.0 尺)、北庇 1.36 m (4.5 尺) である。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB12 掘立柱建物跡

遺構 (第 18 図、写真図版 16) [位置] VII D7g グリッド。1 号堀跡・1 号土塁に囲まれた平場北端部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 3 間の建物跡である。規

模は梁間 3.27 m (10.8 尺)、桁行 5.70 m (18.8 尺)～5.85 m (19.3 尺)、面積は 18.634 m² (5.6 坪) である。使用される柱穴は 8 個である。屋内を区切るような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 3.27 m (10.8 尺)、桁行の柱間寸法は 1.85 m (6.1 尺)～2.00 m (6.6 尺) とまとまりがないが、これは桁行全長の約 19 尺を 3 間で分割したことに起因していると推察される。[付属施設] 本遺構が、SB12 の付属屋となる可能性がある。

遺物 出土していない。

SB13 掘立柱建物跡

遺構 (第 18 図、写真図版 16) [位置] II E9a グリッド。2 号堀跡・4 号土塁に囲まれた平場南東側の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB14 と重複しているが、新旧関係は不明である。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 3 間の建物跡である。規模は梁間 3.70 m (12.2 尺)、桁行 6.64 m (21.9 尺)、面積は 24.568 m² (7.4 坪) である。使用される柱穴は 8 個と考えられるが、検出された柱穴は 7 個である。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 3.70 m (12.2 尺)、桁行の柱間寸法は 2.21 m (7.3 尺) を基準としていた。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB14 掘立柱建物跡

遺構 (第 21 図、写真図版 16) [位置] II E9b グリッド。2 号堀跡・4 号土塁に囲まれた平場南東側の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB13 と重複しているが、新旧関係は不明である。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 3 間の建物跡である。規模は梁間 3.94 m (13.0 尺)、桁行 7.27 m (24.0 尺)、面積は 28.262 m² (8.6 坪) である。使用される柱穴は 8 個である。屋内を間仕切りするような柱穴はなかった。平面形は長方形ではなく、平行四辺形となっているが、周囲には他に柱穴もないため誤認ではない。SB15 と同規模の建物である。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 3.94 m (13.0 尺)、桁行の柱間寸法は 2.42 m (8.0 尺) を基準にしていた。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB15 掘立柱建物跡

遺構 (第 21 図、写真図版 16) [位置] II D8i グリッド。2 号堀跡・4 号土塁に囲まれた平場南側の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 3 間の建物跡である。規模は梁間 4.09 m (13.5 尺)、桁行 7.27 m (24.0 尺)、面積は 30.101 m² (9.1 坪) である。使用される柱穴は 8 個である。屋内を間仕切りするような柱穴はなかった。SB14 と同規模の建物である。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は 4.09 m (13.5 尺) を、桁行の柱間寸法は 2.42 m (8.0 尺) を基準にしていた。[付属施設] 西側約 2 m 離れたところに 5 個の柱穴から成る柱列が検出されている。梁間と概ね方向が揃っているが、柱間寸法は統一感がない。

遺物 出土していない。

SB16 掘立柱建物跡

遺構 (第 21 図、写真図版 13) [位置] II D5e グリッド。2 号堀跡・4 号土塁に囲まれた平場西部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[平面形式] 梁間 1 間、桁行 6 間の建物跡である。規模は梁間 2.76 m (19.0 尺)、桁行 14.39 m (47.5 尺)、面積は 82.886 m² (25.1 坪) である。12 個の柱穴が

3 検出遺構

検出されたが、本来柱穴は15個で構成されていたと考えている。屋内を間仕切りするP759があり、二間と四間に分けられていた可能性がある。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は5.76 m (19.0 尺) を、桁行の柱間寸法は1.97 m (6.5 尺)～2.88 m (9.5 尺)とまとまりがないが、桁行全長が約47.5 尺(≒48 尺)であることから、2.42 m (8.0 尺) を基準にしていたと推測される。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB17 掘立柱建物跡

遺構 (22 図、写真図版 14) [位置] IID4j グリッド。2号堀跡・4号土塁に囲まれた平場中央部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[平面形式] 梁間1間、桁行3間の身舎に庇が南面に付く建物跡である。規模は梁間5.15 m (17.0 尺)、桁行6.36 m (21.0 尺)、面積は31.777 m² (9.6 坪) である。検出された柱穴は13個であるが、北側の桁行が3間を7本の柱を使っていた可能性があり、その場合は柱穴15個で建てられていたと解釈したい。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は4.09 m (17.5 尺) で庇は1.06 m (3.5 尺) を、桁行の柱間寸法は2.12 m (7.0 尺) を基準にしていた。北側桁行は1.06 m (3.5 尺) ごとに柱が配置されている。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB18 掘立柱建物跡

遺構 (第22図、写真図版14) [位置] IIE4c グリッド。2号堀跡・4号土塁に囲まれた平場東側の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SD21 他と重複し、本遺構のほうが古い。[平面形式] 梁間1間、桁行3間の身舎に南北二面に庇が付き、加えて北側に下屋柱を持つ建物跡である。規模は梁間7.58 m (25.0 尺)、桁行6.82 m (22.5 尺)、面積は51.383 m² (15.6 坪) で、桁行よりも梁間のほうが長くなる建物であった。使用される柱穴は20個である。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は3.94 m (13.0 尺) を、桁行の柱間寸法は2.27 m (7.5 尺) を基準にしていた。身舎-庇の柱間寸法は、南庇が1.06 m (3.5 尺)、北庇が1.36 m (4.5 尺) と1.52 m (5.0 尺)、下屋柱が1.06 m (3.5 尺) である。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB19 掘立柱建物跡

遺構 (第22図、写真図版15) [位置] IIE2a グリッド。2号堀跡・4号土塁に囲まれた平場やや北側の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SD21 と重複し、本遺構の方が古い。[平面形式] 梁間1間、桁行4間の建物跡である。規模は梁間5.45 m (18.0 尺)、桁行9.70 m (32.0 尺)、面積は51.128 m² (15.5 坪) である。検出された柱穴は8個であるが、南側の桁行がSD21 との重複により柱穴が失われた可能性が高い。本来は柱穴10個で建てられていたと解釈したい。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は5.45 m (18.0 尺)、桁行の柱間寸法は2.42 m (8.0 尺) を基準にしていた。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB20 掘立柱建物跡

遺構 (第23図、写真図版15) [位置] IE10a グリッド。2号堀跡・4号土塁に囲まれた平場北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SB21 と重なっているが新旧関係は不明である。[平

面形式] 梁間1間、桁行4間の身舎に庇が南面に付く建物跡である。規模は梁間6.51m(21.5尺)、桁行9.09m(30.0尺)、面積は59.495m²(18.0坪)である。検出された柱穴は13個であるが、本来は柱穴15個で建てられていたと解釈したい。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は5.45m(18.0尺)で庇は1.06m(3.5尺)を、桁行の柱間寸法は2.27m(7.5尺)を基準にしていた。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB21 掘立柱建物跡

遺構(第23図、写真図版16) [位置] ID10jグリッド。2号堀跡・4号土塁に囲まれた平場北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SB20と重なっているが、新旧関係は不明である。[平面形式] 梁間1間、桁行3間の建物跡である。規模は梁間3.64m(12.0尺)、桁行6.36m(21.0尺)、面積は23.150m²(7.0坪)である。使用される柱穴は9個と考えられるが、西側梁間も2間となれば、柱穴は8個となるかもしれない。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は3.64m(12.0尺)と1.82m(6.0尺)、桁行の柱間寸法は2.12m(7.0尺)を基準としていた。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB22 掘立柱建物跡

遺構(第23図、写真図版16) [位置] IID1fグリッド。2号堀跡・4号土塁に囲まれた平場北端部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SK48と重複し、本遺構の方が古い。[平面形式] 梁間1間、桁行3間の建物跡である。規模は梁間3.33m(11.0尺)、桁行6.36m(21.0尺)、面積は21.179m²(6.4坪)である。使用される柱穴は8個と考えられるが、SKT36(縄文時代の陥し穴)との重複で1個失われている。屋内を分けるような柱穴はなかった。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は3.33m(11.0尺)、桁行の柱間寸法は2.12m(7.0尺)を基準としていた。[付属施設] なし。

遺物 出土していない。

SB23 掘立柱建物跡

遺構(第24図、写真図版17) [位置] IIC7jグリッド。調査区北端部のやや西側、緩斜面部に立地する。[遺構検出面] III～IV層上面。[平面形式] 梁間5間、桁行7間の身舎があり、その南側に庇(下屋)が付く建物跡である。規模は梁間6.97m(23.0尺)、桁行13.18m(43.5尺)、面積は86.178m²(26.1坪)。使用される柱穴は40個だが、他に9個が使用されていたか否かが不確実なため、平面図にはすべてを掲載している。梁間P876-P893の間が屋内を分ける柱穴列と見られるが、他にも柱穴が複数配されており屋内空間は少なくとも三間以上はあると推測される。建物の方向は東南東-西南西である。[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は、5.76m(19.0尺)を先ずは2.58m(8.5尺)と3.18m(10.5尺)に分け、それを更に0.91m(3.0尺)、1.06m(3.5尺)、1.21m(4.0尺)、1.52m(5.0尺)と細かく分けて柱を配している。桁行の柱間寸法は、13.18m(43.5尺)を初めに6間で分け、西から1.67m(5.5尺)、2.12m(7.0尺)、2.27m(7.5尺)、2.27m(7.5尺)、2.12m(7.0尺)、2.72m(9.0尺)とした。これを更に東側では1.21m(4.0尺)、0.91m(3.0尺)、1.36m(4.5尺)、1.36m(4.5尺)に細分している。南側の庇(下屋)は桁行から1.21m(4.0尺)である。[付属施設] SD21が本遺構を含む屋敷地内を囲む区画溝であった可能性が高い。P960-P961は本遺構を含む屋敷の門と考えている。この他、

家畜墓と見られる SK115・120・126～129 も本遺構に関係が深いと思われる。

遺物 出土していない。

(3) 竪穴住居跡

SI01 竪穴住居跡

遺構 (第 27 図、写真図版 18) [位置・重複関係] VIE6a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。北東隅で SK34 と重複し、本遺構が新しい。[規模・平面形] 規模は長辺 4 m、短辺 3.6 m。平面形は南北方向に長い隅丸方形である。北壁を基準とした軸方向は N-92°-E。床面積は 12.6 m²、深さは検出面から最大 30 cm である。[埋土] 7 層に分層した。黒色～褐色粘土を主体としており、4～6 層には黄褐色粘土が塊状、又は靄状に含まれる。堆積土は塊状土を含まず、遺構縁辺から中心へと堆積していることから自然堆積と考えられる。最下層に位置する直径約 10～25 cm の円礫は、基本土層中に見られず、廃絶後、人為的に投げ込まれたと考えられる。[壁・床面] 壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は、南北壁直下が遺構中央よりわずかに低く、貼床が貼られている。貼床は厚さ 2～3 cm、平面形は不定形である。床面東半分と北西隅の面積約 6 m² に分布し、塊状黄褐色粘土を含む黒褐色粘土を主体とする。[付属遺構] 焼土 3 基 (SL1、SL2、SL3)、土坑 1 基 (SK1)、柱穴 2 基 (Pit1、2) を検出した。一焼土—SL1～3 は床面中央から東西に連なって位置する。規模は SL1 が 20 cm、SL2 が 25 cm で、SL3 は約 40 cm。平面形は略円形である。焼成の厚さは 1～3 cm、断面がそれぞれ浅皿形、又は半円形である。それぞれ独立した焼土と考えられる。一土坑—SK1 は床面南東隅に位置する。規模は長辺 80 cm 短辺 70 cm。平面形は方形基調である。床面からの深さは最大 30 cm。堆積土は 2 層に分層した。1 層は竪穴堆積土の 6 層と同質土である。2 層は下位北側に集中して塊状焼土を含み、全体に土坑壁面崩落土とみられる塊状黄褐色粘土を含む。竪穴堆積土と同質で崩落土を含むことから、自然堆積と考えられる。壁は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。一柱穴—Pit1 は床面北西隅、Pit2 は南東隅に位置する。全基、設置位置から支柱穴と考えられる。規模は Pit1、2 共に直径約 20 cm。平面形は略円形である。深さは、Pit1 が床面から 30 cm、Pit2 が 42 cm。堆積土は径 5 mm の塊状黄褐色粘土を含む黒褐色粘土の単層である。竪穴堆積土 6 層と同質土であることから、自然堆積と考えられる。[機能] カマドが無く、床面中央付近に焼土が設置されていることから工房の可能性がある。[遺物出土状況] 南東隅の最下層礫集中範囲内に、土師器の小皿が正位で見つかった (67)。[その他] 主に埋土下位から床面近くで採取した炭化材にはコナラ、クリ、クルミがあった。[時期] 遺物の出土状況から、11 世紀以前には機能していたと考えられる。(中島)

遺物 (第 83 図、写真図版 81) 出土土器総重量は、512.8 g である。破片を全て実見し推定された個体数は、ロクロ土師器坏 (内黒) 2・(非内黒) 2、ロクロ土師器小皿 (非内黒) 1、ロクロ土師器高台付 (内黒) 1・(非内黒) 1、甕 1 であった。他に焼成粘土塊 2 片が出土していた。高台付坏 (66、70)、小皿 (67) など 5 点を掲載した。

SI02 竪穴住居跡

遺構 (第 28 図、写真図版 19) [位置・重複関係] VIE3b グリッドの緩傾斜面に位置する。IV層上面で検出した。南側で SD01、SK31・32 と重複し、本遺構はそれらより新しい。[規模・平面形] 推定規模は 1 辺 5.5 m。平面形は残存する北西、北東隅から、隅丸方形と考えられる。北壁を基準とした軸方向は N-92°-E。床面積は約 24 m²、深さは検出面から最大 20 cm である。[堆積土] 堆積土は 3

層に分層した。1層はSI01の1層と、2層はSI01の6層と同質土である。1、2層がSI01の堆積土と対応することから自然堆積と考えられる。最下層に位置する直径約10~35cmの礫は、基本土層中に見られず、廃絶後、人為的に投げ込まれたものと考えられる。[壁・床面] 壁は床面から外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で、貼床が貼られている。貼床は厚さ2~3cm、平面形は不定である。南西隅約4m²に分布し、黒褐~黄褐色の塊状粘土を主体とする。[付属遺構] 焼土2基(SL1、2)、土坑1基(SK1)、柱穴4基(Pit1、2、3、4)を検出した。一焼土—SL1は床面中央、SL2は南端に位置する。SL1は中央に攪乱を受けているため、焼土は輪状に残存する。SL1、2共に規模は約30cm。平面形は略円形である。焼成の厚さは最大4cmである。一土坑—SK1は遺構南東、東壁上に位置する。規模は長径75cm短径55cm。平面形は略円形である。深さは検出面から22cm。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層した。堆積土は、北側の1、2層界に直径約10~30cmの礫が集中し、2層中には土器が含まれる。礫は基本土層中に見られないことから、堆積土は人為堆積と考えられる。一柱穴—Pit1は床面北西隅、Pit2が南西隅、Pit3が北東隅、Pit4が南東隅に位置する。全基、設置位置から支柱穴と考えられる。規模はPit1が径40cm、Pit2が径30cm、Pit3、4が径20cm。平面形は、Pit1、2は、楕円形、Pit3、4は略円形である。深さはPit1、2が床面から最大32cm、Pit3が最大42cm、Pit4が最大62cmである。堆積土は全て黒褐色粘土の単層で、竪穴堆積土2層と同質土であることから自然堆積と考えられる。[機能] カマドが無く、床面中央付近に焼土が設置されていることから工房の可能性はある。[時期] SI01と堆積土、堆積状況が同様であることから、11世紀以前には機能していた遺構と考えられる。(中島) 遺物(第83・92図、写真図版81・89)出土遺物総重量は、617.1gである。全ての遺物を実見して推定された個体数は、ロクロ土師器坏(内黒)1、(非内黒)1、高台付(内黒)3、石鏃(193)である。高台付坏(71・72)ほか4点を掲載した。

SI03 竪穴住居跡

遺構(第29図、写真図版20) [位置・重複関係] VE9bグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は1辺5m。平面形は隅丸方形である。南壁を基準とした軸方向はN-88°-E。床面積は22m²、深さは検出面から最大25cmである。[堆積土] 堆積土は3層に分層した。土質及び、堆積状況がSI02と同様である。このことから自然堆積と考えられる。[壁・床面] 西壁と北壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁と南壁は緩やかに立ち上がり、床面との境は不明瞭。床面はほぼ平坦である。[付属遺構] 焼土1基(SL1)、柱穴3基(Pit1、2、3)を検出した。一焼土—SL1は床面中央に位置する。規模は直径約50cm。平面形は略円形である。焼成の厚さは最大20cmである。一柱穴—Pit1は床面北西隅、Pit2は南西隅、Pit3は南東隅に位置する。全基、設置位置から支柱穴と考えられる。規模はPit1が直径50cm、深さは床面から50cm。Pit2が直径20cm、深さは45cm。Pit3が直径30cm、深さ25cmである。平面形は全て略円形である。堆積土は塊状黄褐色粘土を含む黒褐色粘土の単層で、竪穴堆積土2層と同質土であることから、自然堆積と考えられる。[機能] カマドが無く、床面中央付近に焼土が設置されていることから工房の可能性はある。[時期] SI01、02と堆積土、堆積状況が同様であることから、11世紀以前には機能していたと考えられる。(中島)

遺物(第83図、写真図版81)出土遺物総重量は、628.4gである。全ての遺物を実見して推定された個体数は、ロクロ土師器坏(内黒)1・(非内黒)1、甕(ロクロ)2~3、甕(非ロクロ)1、須恵器甕2である。その中からロクロ整形の甕(75)など3点を掲載した。

SI04 竪穴住居跡

遺構 (第 30 図、写真図版 21・27) [位置・重複関係] IVD4i グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形]規模は長辺最大 4 m、短辺最大 3 m。平面形は不正な隅丸方形である。カマドを基準とした主軸方向はN-104°-E。床面積は約 9 m²、深さは検出面から最大 30 cm である。[堆積土] 堆積土は 6 層に分層した。黒色～褐色粘土を主体とし、1 層は基本土層のⅢ層に相当する。2 層は下位に十和田 a 火山灰を薄層状に含む。このことから、1、2 層は自然堆積と考えられる。3～5 層は含まれる直径約 10～20 cm の礫や、塊状黄褐色粘土、焼土、土器片から人為堆積と考えられる。6 層は、堆積状況から住居跡より古い攪乱か、崩落跡と思われる。[壁・床面] 壁は床面から外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[カマド] 東壁やや北寄りに設置される。両袖、煙道、煙出、燃焼部を検出した。燃焼部の規模は直径約 70 cm、平面形は略円形である。焼成は厚さ最大 6 cm、断面形は浅皿形。袖の内側と燃焼部から煙道にかけても焼成が認められる。袖は暗褐色と黄褐色粘土が混ざった状態で検出した。構築土は黄褐色粘土で、IV層を利用したと考えられる。暗褐色部分は生物攪乱等の攪乱部位である。袖部直上と燃焼部堆積土中には、崩落した赤褐色の長径 30～40 cm の楕円形の角礫があり、芯材礫と考えられる。煙道は外傾して検出面まで立ち上がる。煙道と煙出は繋がっていないが、煙道方向の延長上、住居跡東側にある Pit と考えられる。Pit の規模は長径 50 cm、短径 40 cm。平面形は略円形である。深さは検出面から 8 cm。堆積土は暗褐色粘土の単層で、塊状焼土とカマド芯材礫と同種の礫を含む。人為、自然堆積の別は不明である。[付属遺構] 柱穴 4 基 (Pit 1、2、3、4) を検出した。一柱穴—Pit1 は床面北西隅、Pit2 は南西隅、Pit3 は北東隅、Pit4 は南東隅に位置する。全基、設置位置から支柱穴と考えられる。規模は、Pit1 が直径 20 cm、深さは床面から 25 cm。Pit2 は直径 80 cm、Pit2 は深さ 40 cm、柱当たり直径 10 cm。Pit3 は直径 80 cm、深さ 30 cm、柱当たり直径 30 cm。Pit4 が直径 10 cm 深さ 6 cm。平面形は全基、略円形である。堆積土は Pit2 以外、塊状黄褐色粘土を含む黒褐色粘土の単層で、竪穴堆積土 3 層と同質土であることから人為堆積と考えられる。[その他] 埋土から採取した炭化材にはクリが見られた。[時期] 十和田 a 火山灰の堆積から、10 世紀以前に廃絶された住居と考えられる。(中島)

遺物 (第 80・83・84 図、写真図版 81・82・93) 出土遺物総重量は、4023.9 g である。全ての遺物を実見して推定された個体数は、ロクロ土師器坏 (内黒) 5～6・(非内黒) 2～3、甕 (ロクロ) 2・(非ロクロ) 2～3、須恵器甕 3～4、須恵器壺 1 である。この中から、土師器坏 (78・79) 甕 (80～84)、須恵器壺 (86) 他を掲載した。他に土錘 (269)、石製品 (227) などが出土している。

SI05 竪穴住居跡

遺構 (第 31 図、写真図版 22・27) [位置] IVE10a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形]規模は長辺最大 5.5 m、短辺最大 4.5 m。平面形は東西が長辺の隅丸方形である。カマドを基準とした主軸方向はN-101°-E。床面積は約 20 m²、深さは検出面から最大 35 cm である。[埋土] 4 層に分層した。黒色～褐色粘土を主体としている。1、2 層は SI04 と同質土で 2 層下位には十和田 a 火山灰が薄層状に堆積する。3 層は霽状黄褐色粘土を含む。4 層は塊状粘土を含む。薄層状の火山灰と霽状粘土から 1～3 層は自然堆積と考えられる。[壁・床面] 壁は床面から外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[カマド] 東壁中央に設置されている。左袖、支脚、燃焼部、煙道を検出した。燃焼部の規模は直径 45 cm で、平面形は略円形。焼成は厚さ最大 8 cm である。断面形は浅皿形。袖の内側にも焼成が認められる。袖は褐～明褐色粘土で構築され、IV層土を利用したと考えられる。煙道は壁面付近で上昇し、遺構外東に 60 cm 程続く。遺構外の煙道の深さは最大 15 cm 程

で底面はほぼ平面である。煙出は残存していない。堆積土は1、2、4層が住居堆積土の1～3層と同質土で、3層が崩落土である。住居と同じであることから自然堆積と考えられる。[付属遺構] 焼土1基 (SL1)、柱穴5基 (Pit1、2、3、4、5) を床面で、カマド左袖下から1基 (Pit6) を検出した。壁では棚状遺構を確認した。—焼土—SL1は床面中央に位置し、Pit3と隣接する。規模は長径55 cm、短径45 cm。平面形は略円形である。焼成は厚さ最大8 cmである。—柱穴—Pit1は床面北西隅、Pit2は南東隅、Pit3は中央、Pit4～6は北東隅に位置する。Pit1、2、5が設置位置から支柱穴と考えられる。規模はPit1が直径30 cm、Pit2、6が直径20 cm、Pit3が直径35 cm、Pit4が直径50 cm、Pit5が1.1 m。平面形は全基略円形である。深さは床面からPit1～3が最大40 cm、Pit4が最大10 cm、Pit5が最大30 cm、Pit6が最大50 cm。堆積土は塊状黄褐粘土を含む黒褐色粘土の単層で、Pit3は底面に土器を含む。住居堆積土の3層と同質土であることから自然堆積と考えられる。Pit6はカマド構築土の下から検出されたため、住居より古い単独Pitの可能性も考えられる。—棚状遺構—カマド南側に位置する。規模は長軸1.2 m、短軸95 cm。平面形は半円形である。底面の高さは床面から10 cm。底面は中央が凹む。堆積土は住居と同じである。[その他] 埋土最下層及び床面で採取した炭化材からはコナラ、クリなどが見つかった。[時期] SI04と同様の堆積土、火山灰堆積からSI04と同時期に機能した住居で、10世紀以前に廃絶した住居と考えられる。(中島)

遺物 (第77・85図、写真図版77・82・83) 出土遺物総重量は、6173.2 gである。全ての遺物を実見して推定された個体数は、ロクロ土師器坏 (内黒) 2～3・(非内黒) 5～6、耳皿1、甕 (ロクロ) 3～4・(非ロクロ) 1、須恵器甕2、須恵器壺2、焼成粘土塊3片である。この中から土師器坏 (90～93)、耳皿 (94)、土師器甕 (96～98)、縄文土器 (1) など14点を掲載した。

SI06 竪穴住居跡

遺構 (第32・33図、写真図版23・27) [位置] IVE8bグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・形状] 規模は1辺8 m。平面形は隅丸方形である。カマドを基準とした主軸方向はN-94°-E。床面積は54 m²、深さは検出面から最大40 cmである。[断面・埋土] 6層に分層した。1、2層は生物擾乱による塊状粘土を含み、3層は靄状の塊状黄褐色粘土を含む。4層下位には、塊状の十和田a火山灰がわずかに含まれ、断続的だが直線状に並ぶ。SI04、05の2層と同質土である。5層は崩落土の塊状粘土を含む。SI04、05と同様の火山灰層と崩落土から自然堆積と考えられる。6層は明黄褐色、黒褐色～褐色粘土主体の貼床である。

[壁・床面] 壁は床面から外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。貼床は、住居内壁際に沿った口の字形の掘方内に貼られている。[カマド] 東壁南側に設置されている。両袖、芯材礫、燃焼部を検出した。燃焼部の規模は直径約50 cm、平面形は略円形。焼成は厚さ最大10 cm、断面形は浅皿形。袖の内側に焼成が認められる。袖は褐色粘土で構築され、IV層土を利用したと考えられる。煙道は、両袖間の遺構外に突出している箇所と思われ、煙道は外傾して検出面まで立ち上がる。煙出は残存していない。[付属遺構] 焼土2基 (SL1、SL2、Pit2)、土坑2基 (SK1、SK2)、溝状遺構1条 (SD1)、柱穴13基 (Pit1～13) を床面で、溝状遺構下から1基 (Pit14)、貼床下から1基 (Pit15) を検出した。—焼土—SL1は床面中央に位置し、Pit6と隣接する。SL2は北西隅に位置し、Pit7と隣接する。規模は、SL1が長径60 cm 短径50 cm、SL2が直径20 cm。平面形は、共に略円形である。焼成はSL1が厚さ最大5 cm、SL2が最大10 cmである。Pit2側面の焼土は貼床上に位置する。規模は推定直径50 cm。焼成は厚さ最大12 cmである。貼床上であることからSI06に関係すると考えられるが、柱穴と焼土の同時使用はあり得ないこと、Pit掘方と範囲がほぼ一致することから、Pit状の焼成遺構と

3 検出遺構

考えられる。一土坑—SK1は床面南東隅、カマド北側に位置する。規模は直径約1.3m。平面形は略円形。深さは床面から最大40cmである。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦だが、断面図中の中央付近は根攪乱部分を掘り過ぎている。底面南側には副穴が付属する。規模は直径25cm。平面形は略円形、深さは底面から約50cmである。堆積土は4層に分層した。1層は下位に十和田a火山灰を塊状に含み、住居堆積土4層と同質土である。2~4層は塊状焼土と炭化材を多く含む。2~4層の包含物から人為堆積と考えられる。SK2は北東隅に位置する。規模は直径約1.3m。平面形は略円形である。深さは最大30cm。壁は底面から外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は塊状黄褐色粘土、土器片を含む黒色粘土の単層である。包含物から人為堆積と考えられる。一溝状遺構—SD1は床面北東に位置する。長軸は東西方向で規模は長軸1.3m短軸30cm、平面形は楕円形である。深さは床面から最大15cm、堆積土は黒~黄褐色の塊状粘土を含む黒褐色粘土の単層である。住居堆積土3層と同質土であることから自然堆積と考えられる。機能は根太跡と考えられる。一柱穴—Pitは床面中央にPit6、11、北東隅にPit2、9、南東隅にPit10、12、北西隅にPit5、7、8、14、15が位置する。Pit5、9、12、13が設置位置から主柱穴と考えられる。規模は直径10~40cmが4基(Pit3、9、12、13)。50~60cmが7基(Pit4、5、8、10、11、14、15)。90~160cmが4基(Pit1、2、6、7)。平面形は全基略円形である。深さは床面から最大20~30cmが9基(Pit2、3、5、6、8、10、11、13、14)、最大40~70cmが6基(Pit1、4、7、9、12、15)である。堆積土はPit6とPit15以外が黒褐色粘土の単層。Pit1~5、7~14は住居堆積土3層と同質土であることから自然堆積と考えられる。また、Pit6は黒色~暗褐色粘土が主体で自然堆積と思われる。Pit15は上位に貼床の明黄褐色粘土薄層、下位に黒褐色粘土が堆積する。Pit15については貼床が上位にあることから、SI06より古いPitと考えられる。[炭化材] SK1:ホオノキ、SK2:コナラ・ヤマザクラ?、Pit1:クリ、Pit6:ケヤキ、Pit8:コナラ [時期] SI04、05と十和田a火山灰の堆積状況が同じことから、同時期の住居で10世紀以前に廃絶した住居と考えられる。(中島)

遺物(第86・87・100図、写真図版83~85・96)出土遺物総重量は10660.7gである。全ての遺物を実見して推定された個体数は、ロクロ土師器坏(内黒)11~12・(非内黒)5~6・(内外黒)1~2、高台付坏(内黒)2・(非内黒)1、鉢(内黒)1、土師器甕(ロクロ)5~6・(非ロクロ)1~2、須恵器坏1~2、甕2~3、壺2・(壺大)2、焼成粘土塊約20片、不定形石器1、砥石1である。この中から土師器坏・高台付坏(103~115)、土師器甕(116・117・119~122)、須恵器坏(123・124)、刀子(259)など31点を掲載した。

SI07 竪穴住居跡

遺構(第34図、写真図版24・27) [位置・重複関係] 調査区の南端付近の緩斜面、IXD9eグリッドに位置する。Ⅲ~Ⅳ層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は南辺3.9m、東辺が3.0m、西辺で2.7m。平面形は隅丸長方形である。東壁を基にした軸方向はN-9°-W。床面積は22m²、遺構検出面から床面までの深さは27cmである。[堆積土] 4層に分層した。底面及び壁際には暗褐色~褐色シルトの自然堆積がみられ、その上位は地山ブロックを含む人為堆積となる。本遺構が使用されなくなってから暫くしてから埋められたと考えられる。[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がっている。地山面を床面とし、貼床ではなかった。[付属遺構] 焼土2基を床面で検出した。SL1は床面中央やや西にある。規模は直径約80cm。平面形は不整形である。焼成の厚さは3cmで、その場で火を焚いた痕跡である。SL2は床面南西にある。規模は75×55cm。平面形は長円形。その場で火を焚いていたもので焼成の厚さは4cm程であった。柱穴は精査したが見つからなかった。[機能] カマドは無いが、床面中央

付近に炉が設置されていることから住居或いは工房の可能性はある。[時期]近くにあるSX06からは、11世紀頃の土器が出土していることから、同じ頃に機能していた可能性がある。

遺物（第77図、写真図版77）本遺構に伴うものとは考えていないが縄文土器（2）が出土した。

SI11 竪穴住居跡

遺構（第35図、写真図版25・27）[位置・重複関係] IID6e グリッド付近に位置する。東側をSD16、SK77に切られる。[規模・形状] 長軸方向N-57°-Wの楕円形基調である。北西-南東方向が7.0m、北東-南西方向が6.0mである。深さは最大30cmである。[堆積土] 3層に分層された。堆積土上位は黒色シルト、堆積土中位は暗褐色シルト、堆積土下位は褐色シルトを主体とする。中位～下位には炭化物粒が微量含まれる。下位の堆積土は、地山との判別が困難であった。[床・壁面] 壁は緩やかに立ち上がる。床面はおおむね平坦である。[炉] 遺構の中央部やや南東よりに位置する。石囲炉で、円形に礫が配列する。焼成面の規模は30×30cm、深度は8cmである。[柱穴・土坑] 床面に柱穴29個を検出した。南東寄りにSK77を検出した。[その他] 床面で採取した炭化材にはコナラがあった。（川又）

遺物（第77・92・94・97図、写真図版77・89・91・93）1767.7gの土器片が出土した。全ての遺物を実見して推定された個体数は、深鉢6～7である。石器では石鏃(191)、搔削器(201)、磨石(215)、石製品(224～226)などが出土した。この中から土器は(3～8)を掲載した。

SI12 竪穴住居跡

遺構（第36・37図、写真図版26・27）[位置] III E10d グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。SD25と重複し本遺構が古い。[規模・形状] 規模は長辺5m、短辺4.8m。平面形は隅丸方形である。カマドを基準とした主軸方向はN-90°-E。床面積は15m²、深さは検出面から最大50cmである。[断面・堆積土] 15層に分層した。1層は基本土層III層と同質土で自然堆積である。2～6層は塊状粘土、塊状火山灰や土器片を含むことから、人為堆積と考えられる。7層の靄状黄褐色粘土、9層に薄層状に含まれる火山灰、10層に含まれる崩落土由来の塊状黄褐色粘土、11～13層の主体土である崩落土から、7～13層は自然堆積と考えられる。14、15層は堆積状況から、住居より古い攪乱か、生物擾乱跡の可能性はある。9層はSI04～06と同一の火山灰層である。[壁・床面] 壁は床面から外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[カマド] 東壁中央に設置されている。両袖、燃烧部、煙道、煙出を検出した。焼土の規模は直径70cm、平面形は略円形。焼土上位は硬化し、焼成は厚さ最大45cm、断面形は皿型。袖の内側、煙道から煙出にかけて焼成が認められる。袖は灰黄褐色粘土を構築土として利用しており、IV層より下層に堆積する粘土と考えられる。構築土内に芯材礫及び、その掘方が認められないため、灰黄褐色粘土のみでカマドを構築したと考えられる。煙道部分の長さは1m、深さは最大28cmである。煙出し穴は床面から約20cmの高さに位置する。煙道は西に向かって緩やかに下り、煙出に接続する。煙出は直径50cm、平面形は略円形である。深さは40cmで、煙道底面との接続部分より20cm深い。堆積土は13層に分層した。1～3層は住居堆積土の4、5層と同質土である。4層は崩落土で、5層は木根による攪乱層と考えられる。6、7層は塊状焼土を含むことから廃絶後の堆積土と考えられるが、8層上面は煙道底面と同じ高さで炭化材を多く含み、9層より下に焼成、炭、煤等が認められないことから8、9層は住居機能時から堆積していた可能性がある。10～13層はカマド燃烧部焼土、袖構築土である。10、11層は燃烧部焼土で10層は硬化部、11層は赤色変化部位である。12層は袖構築土で赤色変化している箇所は破線で図示した。13層は芯材礫の

3 検出遺構

抜取痕と考えたが、一箇所のみで、礫や、他に掘方が認められないため攪乱層と考えられる。[付属遺構] 焼土 2 基 (SL1、SL2)、土坑 1 基 (SK1)、溝状遺構 2 基 (SD1、SD2)、柱穴 4 基 (Pit3、4、5、7) を検出した。壁では棚状遺構を確認した。東壁南寄りにはテラス状の遺構が付属している。—焼土—SL1 は床面中央から北西に位置する。焼土規模は直径約 45 cm。平面形は略円形である。焼成は厚さ最大 10 cm。中央を掘り窪めており、規模は直径約 30 cm。平面形は略円形である。深さは最大 5 cm、断面は逆三角形である。SL2 は、遺構中央、カマド燃焼部正面に位置する。規模は最大で直径約 1.1 m、平面形は不整形である。上層の一部が硬化している。焼成は厚さ最大 10 cm、断面形は浅皿形である。—土坑—SK1 は、床面北東に位置する。規模は 1 辺 90 cm、平面形は略方形である。深さは最大 30 cm で、底面に柱当たりがある。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は 7 層に分層し、包含物から人為堆積と考えられる。—溝状遺構—SD1、2 は遺構北西、西壁際に位置する。ともに規模は、長軸約 1.5 m、短軸 35 cm である。長軸方向は東西。深さは最大 8 cm で、堆積土はにぶい黄褐色粘土の単層である。根太跡と考えられる。SD1 と SD2 の間には直径 60 cm の硬化面がある。被熱した痕跡が見られない事と壁際でカマドの対面にあたるため、踏み固まった出入り口跡と考えられる。出入り口跡の位置から、SD1 の北側と SD2 の南側に板を張っていた可能性がある。—柱穴—Pit は床面北東隅に Pit7、南東隅に Pit4、南西隅に Pit3、北西隅に Pit5 が位置する。規模は直径 35 cm が 3 基 (Pit3~5)、Pit7 が直径 25 cm である。深さは 80 cm が 2 基 (Pit3、5)、20 cm が 2 基 (Pit4、7) である。堆積土は黒褐色粘土の単層である。住居堆積土下層の 7~12 層が自然堆積と考えられることから、柱穴も自然堆積と考えられる。—棚状遺構—カマド南側に位置する。規模は長軸 90 cm、短軸 60 cm。平面形は半円形である。底面の高さは床面から 10 cm。底面はほぼ平坦である。堆積土は住居と同じである。[出土遺物] 床面で金床石の下の土師甕 (141) と、スコリア製の石製品を、SK1 の堆積土から刀子 1 点を出土した。[炭化材] 上層：ヤマザクラ、SK1：コナラ、クリ [時期] 9 層の十和田 a 火山灰から、SI04~06 と同時期の住居で、10 世紀以前に廃絶した住居と考えられる。(中島)

遺物 (第 80・88・89・100 図、写真図版 85~87・93・96) 出土遺物総重量は、5393.4 g である。全ての遺物を実見して推定された個体数は、ロクロ土師器坏 (内黒) 4~5・(非内黒) 3~4・(内外黒) 1、甕 (ロクロ) 3~4・(非ロクロ) 2、須恵器甕 1、壺 2、焼成粘土塊 6 片である。この中から、坏 (133~139)、甕 (140~146)、須恵器 (147・148)、刀子 (257)、土玉 (271) を掲載。

(4) 土坑・陥し穴

土 坑

SK02 土坑

遺構(第 38 図、写真図版 28) [位置] VII C1h グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 1.64 m、短軸 1.49 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 0.62 m。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[埋土] 6 層に分層した。1 層は基本土層の一部の黒褐色粘土。2 層は上位に十和田 a 火山灰が薄層状に堆積する、塊状黄褐色粘土を含む暗褐色粘土。3、4 層は同密度の炭化材、塊状焼土を含むにぶい黄褐色~黒褐色粘土。5 層は塊状黄褐色粘土を含む黒褐色質シルト質粘土。6 層は炭化物を多く含む黒色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。十和田 a 火山灰を含む層は SI04~06・12 と炭窯中層に共通して認められる。[機能] 炭窯である。

遺物 出土していない。(中島)

SK03 土坑

遺構 (第 38 図、写真図版 28) [位置] VIC8i グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 1.47 m、短軸 1.37 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 0.53 m。[壁・底面] 壁は底面から内湾して立ち上がり、断面形は半円形である。底面は中央がわずかに凹む。[埋土] 6層に分層した。1層は攪乱。2、3層は基本土層の一部の黒～黒褐色粘土。4層は上位に十和田 a 火山灰が薄層状に堆積する黒褐色粘土。5層は黄褐色粘土主体の崩落土。6層は炭化材（コナラあり）を多く含む黒色粘土。堆積状況から自然堆積と考えられる。十和田 a 火山灰を含む層は SI04～06・12 と炭窯中層に共通して認められる。[機能] 炭窯である。

遺物 出土していない。(中島)

SK04 土坑

遺構 (第 38 図、写真図版 28) [位置] VC7h グリッド平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 1.48 m、短軸 1.26 m。平面形は略円形。深さは検出面から最大 0.35 m。[壁・底面] 壁は底面から内湾しながら立ち上がり、断面形は半円形である。底面はわずかに凹む。[埋土] 5層に分層した。1～3層は基本土層の一部の黒褐色～黒色粘土。4層は上位に十和田 a 火山灰が薄層状に堆積し、中位から下位にかけて塊状焼土を含む黒褐色粘土。5層は炭化材（コナラ）主体の黒色粘土。堆積状況から自然堆積と考えられる。十和田 a 火山灰を含む層は SI04～06・12 と炭窯中層に共通して認められる。[機能] 炭窯である。(中島)

遺物 (第 89 図・写真図版 87) 須恵器坏 (149) が出土している。

SK05 土坑

遺構 (第 38 図、写真図版 29) [位置] VIIID8c グリッド。調査区中央の東側、平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.98×0.93 m、深さ 0.28 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 地山ブロックを含む人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 周辺には中世の遺構が複数分布していることから、本遺構も中世に属する可能性がある。

SK07 土坑

遺構 (第 38 図、写真図版 29) [位置] VIIIID7a グリッド。調査区南東側、平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.73×0.54 m、深さ 0.14 m を測る。平面形は長方形である。[埋土] 黒褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 周辺には中世の遺構が複数分布していることから、本遺構も中世に属する可能性がある。

SK11 土坑

遺構 (第 38 図、写真図版 29) [位置] IXD2b グリッド。調査区南東側、平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.10×1.07 m、深さ 0.43 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 地山ブロックや炭粒を少量含むため人為堆積の可能性がある。採取した炭化材にはサワグルミがみられた。遺物 (第 81・92・93 図、写真図版 79・89) 縄文土器や弥生土器 (37) の破片が 1750.2 g 出土している。他に石鏃 1 点 (190) と不定形石器 (202) IC1 類が 2 点出土した。

3 検出遺構

時期 弥生時代の可能性がある。

SK12 土坑

遺構（第 38 図、写真図版 29）〔位置〕XD2b グリッド。調査区南東端、緩斜面に立地する。〔遺構検出面〕IV 層上面。〔規模・形状〕平面規模は 0.98×0.96 m、深さ 0.31 m を測る。平面形は円形である。〔埋土〕人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK13 土坑

遺構（第 39 図、写真図版 30）〔位置〕XD2b グリッド。調査区南東端の緩斜面に立地する。〔遺構検出面〕IV 層上面。〔規模・形状〕平面規模は 1.32×0.83 m、深さ 0.16 m を測る。平面形は楕円形である。〔埋土〕人為堆積と解釈した。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK14 土坑

遺構（第 39 図、写真図版 30）〔位置〕XD1b グリッド。調査区南東端の緩斜面に立地する。〔遺構検出面〕IV 層上面。〔規模・形状〕平面規模は 0.84×0.76 m、深さ 0.13 m を測る。平面形は円形である。〔埋土〕人為堆積と解釈した。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK15 土坑

遺構（第 39 図、写真図版 30）〔位置〕XC2i グリッド。調査区南東端の緩斜面に立地する。〔遺構検出面〕SD04・05 より新しい。IV～V 層。〔規模・形状〕平面規模は 3.03×2.94 m、深さ 0.99 m を測る。平面形は正方形である。〔埋土〕自然堆積による埋没。

遺物 ロクロ整形の土師器坏（内面黒色処理）の底部が 1 片出土、不定形石器（IC2）が 1 点出土している。

時期 中世より新しいと考えている。

SK16 土坑

遺構（第 39 図、写真図版 30）〔位置〕IXE8a グリッド。調査区南東端の平坦面に立地する。〔遺構検出面〕IV 層上面。〔規模・形状〕平面規模は 1.85×1.15 m、深さ 0.89 m を測る。平面形は楕円形である。〔埋土〕自然堆積。

遺物（第 78 図、写真図版 77）縄文土器片（地文のみ）が 2 片（39.1 g）出土した（11）。

時期 中世より古いと思われるが、詳細は不明である。

SK17 土坑

遺構（第 39 図、写真図版 31）〔位置〕IXD3i グリッド。調査区南東部の平坦面に立地する。〔遺構検

出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は0.92×0.85 m、深さ0.41 mを測る。平面形は円形である。
[埋土] 人為堆積である。採取した炭化材にはコナラがみられた。

遺物 縄文土器片が55.2 g出土した。

時期 不明である。

SK18 土坑

遺構 (第39図、写真図版31) [位置] IXD1i グリッド。調査区南東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は2.04×0.72 m、深さ0.28 mを測る。平面形は不整形である。
[埋土] 人為堆積と解釈した。

遺物 縄文土器片が13.0 g出土した。

時期 不明である。

SK19 土坑

遺構 (第40図、写真図版31) [位置] IID1f グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.38×0.75 m、深さ0.32 mを測る。平面形は楕円形である。
[埋土] 人為堆積である。

遺物 縄文土器片が16.3 g出土した。

時期 中世後半の墓墳。

SK21 土坑

遺構 (第40図、写真図版31) [位置] VIE8c グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は長軸1.89 m 短軸1.74 m。平面形は略円形。深さは検出面から最大0.36 m。[埋土] 3層に分層した。1、3層は塊状黄褐色粘土を含む褐色～黒褐色土。堆積状況から自然堆積と考えられる。2層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 不明。[時期] 堆積土が陥し穴の上層と類似することから、陥し穴より新しい遺構と思われる。

遺物 出土していない。(中島)

SK27 土坑

遺構 (第40図、写真図版31) [位置] VIE7b グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は直径1.06 m×0.99 m、平面形は略円形である。深さは検出面から最大0.14 m。
[埋土] 塊状黄褐色土を含む黒色土の単層。主体土がSI01の5層と同質である。堆積状況から自然堆積と考えられる。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 不明。[時期] 堆積土からSI01と同時期の遺構と考えられる。

遺物 出土していない。(中島)

SK31・32 土坑

遺構 (第40図、写真図版32) [位置] VIE4c グリッドの平坦面に位置する。SI02床面で検出した。
[規模・平面形] 規模は共に直径約0.60 m。推定される平面形は略円形である。深さは床面からSK31が最大0.30 m、SK32が最大0.15 m。[埋土] SK31は塊状灰褐色粘土を含む、にぶい黄褐色粘

3 検出遺構

土の単層。SK32はSK31と同質土の単層で、塊状焼土と塊状黄褐色粘土を含む。包含物から人為堆積と考えられる。[壁・底面]どちらも壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能]不明。(中島)

遺物 (第89図、写真図版87) SK31埋土上層から土師器坏(150)が出土している。

SK38 土坑

遺構 (第40図、写真図版32) [位置] IV D5j グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。SK37と重複し本遺構が新しい。[規模・平面形] 規模は長辺1.2m、短辺0.60m。平面形は長方形である。深さは検出面から最大0.10m。[埋土] 3層に分層した。1層は塊状焼土、土器片を含む褐色粘土。2層はⅢ層と同質土である。3層は塊状焼土、黄褐色粘土を含む黒褐色粘土。包含物から人為堆積と思われる。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能]不明。(中島)

遺物 (第89図、写真図版87) 土師器甕(151)、須恵器壺片(152)、焼成粘土塊などが23.4g出土している。

SK41 土坑

遺構 (第40図、写真図版32) [位置] II D3e グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は0.92×0.89m、深さ0.26mを測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK42 土坑

遺構 (第41図、写真図版33) [位置] II D3d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は0.57×0.51m、深さ0.20mを測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積で大きめの礫を複数入れていた。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK43 土坑

遺構 (第41図、写真図版33) [位置] II D3e グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は0.67×0.67m、深さ0.36mを測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK44 土坑

遺構 (第41図、写真図版33) [位置] II D3d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.00×0.81m、深さ0.44mを測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積で底面には大きめの円礫が複数入れられている。

遺物 土器片が 23.3 g 出土した。

時期 中世後半の墓壙である。

SK45 土坑

遺構 (第 41 図、写真図版 33) [位置] II D2e グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.41×(0.89) m、深さ 0.30 m を測る。平面形は円形だったかもしれない。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙。

SK47 土坑

遺構 (第 41 図、写真図版 34) [位置] I D10h グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.98×0.94 m、深さ 0.21 m を測る。平面形は正方形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 (第 98 図、写真図版 94) 永楽通宝 (228~231) の他に縄文・弥生土器片が 119.2 g 出土した。

時期 中世後半の墓壙である。

SK49 土坑

遺構 (第 41 図、写真図版 34) [位置] II D7i グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面 (風倒木痕と重複)。[規模・形状] 平面規模は 1.17×1.13 m、深さ 1.62 m を測る。平面形は上端部で円形、下端部は長方形となる。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK50 土坑

遺構 (第 41 図、写真図版 34) [位置] II D6i グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面 (風倒木痕と重複)。[規模・形状] 平面規模は 1.52×1.51 m、深さ 1.59 m を測る。平面形は上端部で円形、下端部は長方形となる。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK51 土坑

遺構 (第 41 図、写真図版 34) [位置] II E7i グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面 (風倒木痕と重複)。[規模・形状] 平面規模は 1.19×0.97 m、深さ 1.79 m を測る。平面形は上端部で円形、下端部は長方形となる。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK52 土坑

遺構 (第 41 図、写真図版 34) [位置] II E7i グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検

3 検出遺構

出面] IV層上面(風倒木痕と重複)。**[規模・形状]** 平面規模は0.92×0.91 m、深さ1.74 mを測る。平面形は上端部で円形、下端部は長方形となる。**[埋土]** 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK53 土坑

遺構 (第41図、写真図版35) **[位置]** IIE2dグリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。**[遺構検出面]** IV層上面。**[規模・形状]** 平面規模は1.02×0.91 m、深さ0.98 mを測る。平面形は円形である。**[埋土]** 人為堆積で底面には大きめの礫が複数入れられていた。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK54 土坑

遺構 (第42図、写真図版35) **[位置]** IIE1dグリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。**[遺構検出面]** IV層上面(風倒木痕と重複)。**[規模・形状]** 平面規模は1.17×0.82 m、深さ0.23 mを測る。平面形は楕円形である。**[埋土]** 人為堆積である。

遺物 (第98図、写真図版94) 永楽通宝が1点(232)出土した。

時期 中世後半の墓壙である。

SK55 土坑

遺構 (第42図、写真図版35) **[位置]** IIE3bグリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。**[遺構検出面]** IV層上面。**[規模・形状]** 平面規模は0.81×0.69 m、深さ0.25 mを測る。平面形は楕円形である。**[埋土]** 黒褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙の可能性はある。

SK56 土坑

遺構 (第42図、写真図版35) **[位置]** IID5hグリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。**[遺構検出面]** IV層上面(カクランと重複)。**[規模・形状]** 平面規模は1.47×1.09 m、深さ0.21 mを測る。平面形は楕円形である。**[埋土]** 人為堆積である。

遺物 (第98図、写真図版94) 永楽通宝が5点(233～237)出土している。

時期 中世後半の墓壙である。

SK57 土坑

遺構 (第42図、写真図版36) **[位置]** IID6hグリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。**[遺構検出面]** IV層上面。**[規模・形状]** 平面規模は1.04×0.97 m、深さ0.20 mを測る。平面形は円形である。**[埋土]** 人為堆積である。

遺物 (第98図、写真図版94) 永楽通宝と洪武通宝が(238～241)合計で4点出土している。

時期 中世後半の墓壙である。

SK58 土坑

遺構 (第 42 図、写真図版 36) [位置] II D4e グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.97×0.96 m、深さ 0.25 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓墳である。

SK59 土坑

遺構 (第 42 図、写真図版 36) [位置] II D5f グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SB16 より古い。[規模・形状] 平面規模は 1.04×0.92 m、深さ 0.38 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 (第 78 図、写真図版 77) 縄文時代の土器 591.0 g が出土した (12・13)。

時期 縄文時代中期である。

SK60 土坑

遺構 (第 42 図、写真図版 36) [位置] IVC8d グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 2.80 m、短軸 1.90 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 0.90 m。[埋土] 9 層に分層した。1 層は下位に明黄褐色粘土が薄層状に堆積するにぶい黄褐色粘土。2 層は 1 層境に塊状黄褐色粘土を含む暗褐色粘土。3、4 層は炭化材を多く含む黒褐色～褐色粘土。5、7 層はにぶい黄褐色粘土主体の崩落土。6 層は黒色の炭化材主体層。8、9 層は黒褐～暗褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 開口部東西軸線上に小穴が 2 基付属する。堆積土は 8、9 層。[機能] 炭窯と考えられる。

遺物 出土していない。(中島)

SK64 土坑

遺構 (第 42 図、写真図版 37) [位置] III E6d グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は直径 1.20 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 0.40 m。[埋土] 5 層に分層した。1、3～5 層は黄褐色粘土主体の崩落土。4 層と 5 層の層界に土器を含む。2 層は炭化物と塊状黄褐色粘土を含む暗褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 不明。(中島)

遺物 土師器 670.7 g が出土した。

SK65 土坑

遺構 (第 42 図、写真図版 37) [位置] III E5b グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出。[規模・平面形] 規模は長辺 1 m、短辺 0.80 m。平面形は方形である。深さは検出面から最大 0.40 m。[埋土] 5 層に分層。1～4 層は 1、2、4 層に塊状粘土を含む暗褐色～黒褐色粘土。5 層はにぶい黄褐色粘土主体の崩落土である。塊状粘土を含む暗褐色、黒褐色粘土層が多いことから、人為堆積と思われる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 不明。

遺物 なし。(中島)

SK67 土坑

遺構（第 42 図） [位置] III E5c グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出した。

[規模・平面形] 規模は長辺 0.80 m、短辺 0.78 m。平面形は円形である。深さは検出面から最大 0.32 m。

[埋土] 4 層に分層した。人為堆積と思われる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 不明。(中島)

遺物 風化した縄文土器片が 119.2 g 出土した。

SK70 土坑

遺構（第 43 図、写真図版 37） [位置] II D3f グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SD20 より古い。[規模・形状] 平面規模は 0.96×0.84 m、深さ 0.30 m を測る。

平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙。

SK71 土坑

遺構（第 43 図、写真図版 37） [位置] II D3f グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.99×0.91 m、深さ 0.42 m を測る。平面形は円形である。

[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK74 土坑

遺構（第 43 図、写真図版 38） [位置] II D6d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.88×0.78 m、深さ 0.59 m を測る。平面形は円形である。

[埋土] 黒褐色シルトや暗褐色シルトからなる。

遺物 石篋が 1 点出土。

時期 中世後半の墓壙と思われる。

SK75 土坑

遺構（第 43 図、写真図版 38） [位置] II D4d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.75×0.73 m、深さ 0.14 m を測る。平面形は円形である。

[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK76 土坑

遺構（第 43 図、写真図版 38） [位置] II D4e グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.67×1.09 m、深さ 0.20 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物（第 78 図、写真図版 77） 縄文時代中期の土器片（かなり摩滅している）(14) が 226.8 g 出土

した。

時期 中世後半の墓壙である。

SK77 土坑

遺構 (第 43 図、写真図版 38) [位置] II D6f グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] SI11 の底面。[規模・形状] 平面規模は 0.97×0.90 m、深さ 0.71 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 縄文土器片が 30.6 g 出土した。

時期 中世後半の墓壙と考えている。

SK78 土坑

遺構 (第 43 図、写真図版 39) [位置] II D10d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.19×1.01 m、深さ 0.18 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。大きめの扁平円礫が入れられていた。

遺物 (第 99・100 図、写真図版 94・95・97) 銭貨 3 点 (242~244) の他に鉄釘など (261、263~268) が出土した。

時期 中世後半の墓壙である。

SK79 土坑

遺構 (第 43 図、写真図版 39) [位置] II E10c グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.10×1.09 m、深さ 0.23 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK80 土坑

遺構 (第 43 図、写真図版 39) [位置] II E10c グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.91×0.88 m、深さ 0.53 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK81 土坑

遺構 (第 43 図、写真図版 39) [位置] II D8e グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.58×1.19 m、深さ 1.20 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代の可能性がある。

3 検出遺構

SK82 土坑

遺構 (第 43 図、写真図版 40) [位置] II D3a グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.84×0.77 m、深さ 0.60 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK83 土坑

遺構 (第 44 図、写真図版 40) [位置] II D3a グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.04×0.91 m、深さ 0.40 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 暗褐色シルトと褐色シルトから成る。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙と思われる。

SK84 土坑

遺構 (第 44 図、写真図版 40) [位置] II D10 g グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.14×0.64 m、深さ 0.40 m を測る。平面形は長方形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 (第 99・100 図、写真図版 95・96) 永楽通宝と開元通宝が合計 5 点 (245～249) と刀子 (260) が出土した。

時期 中世後半の墓壙である。

SK85 土坑

遺構 (第 44 図、写真図版 40) [位置] II D8i グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。P837 より古い。[規模・形状] 平面規模は 1.01×0.54 m、深さ 0.24 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK86 土坑

遺構 (第 44 図、写真図版 41) [位置] II D5f グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.74×0.65 m、深さ 0.20 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 (第 79 図、写真図版 78) 縄文土器浅鉢 (17) が底面に置かれた状態で出土している。1878.7 g。

時期 縄文時代中期。

SK88 土坑

遺構 (第 44 図、写真図版 41) [位置] II D6c グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。2 号堀跡より古い。[規模・形状] 平面規模は 0.88×0.38 m、深さ 0.38 m を測る。平面形は円形とみられる。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙。

SK89 土坑

遺構（第 44 図、写真図版 41） [位置] II D9d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.92×0.82 m、深さ 0.21 m を測る。平面形は長方形である。[埋土] 人為堆積であった。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK90 土坑

遺構（第 44 図、写真図版 41） [位置] III E1a グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.93×0.73 m、深さ 0.25 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 暗褐色シルトに焼土粒をごく微量含む。人為堆積と思われる。

遺物 なし。

時期 中世後半の墓壙である。

SK91 土坑

遺構（第 44 図、写真図版 42） [位置] II D8d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.16×0.88 m、深さ 0.97 m を測る。平面形は長方形である。[埋土] 黒色・暗褐色シルト等からなる自然堆積と見られる。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代の可能性がある。

SK92 土坑

遺構（第 44 図、写真図版 42） [位置] II C1j グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SK93 より新しい。[規模・形状] 平面規模は 2.39×1.32 m、深さ 0.33 m を測る。平面形は楕円形であろう。[埋土] 焼土を含む暗褐色シルトで人為堆積と思われる。

遺物 出土していない。

時期 中世後半の墓壙である。

SK93 土坑

遺構（第 44 図、写真図版 42） [位置] I C10j グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。SK92 より古い。[規模・形状] 平面規模は 1.33×1.30 m、深さ 0.52 m を測る。平面形は円形であろう。[埋土] 自然堆積である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代。

SK95 土坑

遺構（第 44 図、写真図版 42） [位置] I C10j グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構

3 検出遺構

検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は0.92×0.77 m、深さ0.66 mを測る。平面形は円形であろう。[埋土] 自然堆積と見られる。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代。

SK96 土坑

遺構 (第45図、写真図版42) [位置] III E8a グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.13×0.87 m、深さ0.10 mを測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積と見られる。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK98 土坑

遺構 (第45図、写真図版43) [位置] I D10d グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は0.59×0.53 m、深さ0.21 mを測る。平面形は円形であろう。[埋土] 炭粒を含む人為堆積である。

遺物 (第81図、写真図版79) 縄文時代晩期と見られる土器片128.5 gが出土した(39)。

時期 中世後半の墓壙である。

SK99 土坑

遺構 (第45図、写真図版43) [位置] III E7a グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.48×1.26 m、深さ0.45 mを測る。平面形は円形である。[埋土] 焼土粒・炭粒を多量に含む人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 不明。

SK100 土坑

遺構 (第45図、写真図版43) [位置] III E4c グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.05×1.05 m、深さ0.10 mを測る。平面形は円形である。[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK101 土坑

遺構 (第45図、写真図版43) [位置] III E4b グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.44×1.37 m、深さ0.19 mを測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積の可能性はある。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK102 土坑

遺構 (第 45 図) [位置] III D8i グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。
[規模・形状] 平面規模は 1.51×1.45 m、深さ 0.15 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 焼土や炭粒が混じる人為堆積。

遺物 縄文土器片、須恵器片が 138.3 g 出土した。

時期 不明である。

SK103 土坑

遺構 (第 45 図、写真図版 44) [位置] III D6f グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.86×0.80 m、深さ 0.44 m を測る。平面形は円形である。
[埋土] 焼土や炭粒を含む人為堆積と見られる。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK104 土坑

遺構 (第 45 図、写真図版 44) [位置] III D7e グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.01×0.97 m、深さ 0.54 m を測る。平面形は円形である。
[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 (第 78 図、写真図版 78) 底面近くで縄文時代中期の土器 1956.4 g (15a、15b) がその場で潰れたような状態で出土した。

時期 縄文時代中期。

SK105 土坑

遺構 (第 45 図、写真図版 44) [位置] III D8e グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.69×0.66 m、深さ 0.40 m を測る。平面形は円形である。
[埋土] 自然堆積である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代と思われる。

SK106 土坑

遺構 (第 45 図、写真図版 44) [位置] III D7f グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.64×0.51 m、深さ 0.23 m を測る。平面形は楕円形である。
[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK107 土坑

遺構 (第 45 図、写真図版 45) [位置] III E6a グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV 層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.64×1.23 m、深さ 0.53 m を測る。平面形は円形である。
[埋土] 人為堆積である。

3 検出遺構

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK110 土坑

遺構（第 46 図、写真図版 45） [位置] IVD1b グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SD25・26 より古い。[規模・形状] 平面規模は 2.28×0.96 m、深さ 0.98 m を測る。平面形は溝状である。[埋土] 黒褐色シルトの単層である。

遺物（第 92 図、写真図版 89） 縄文土器片（16） 69.8 g と石匙（199）が 1 点出土した。

時期 不明である。

SK111 土坑

遺構（第 46 図、写真図版 45） [位置] III D9j グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.65×0.55 m、深さ 0.06 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積の可能性がある。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK112 土坑

遺構（第 46 図、写真図版 45） [位置] IVD1h グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SD25・26 より古い。[規模・形状] 平面規模は 1.07×0.98 m、深さ 0.17 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK113 土坑

遺構（第 46 図、写真図版 46） [位置] III D3f グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 0.95×0.76 m、深さ 0.19 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK114 土坑

遺構（第 46 図、写真図版 46） [位置] III D9j グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.71×1.67 m、深さ 0.67 m を測る。平面形は不整形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK115 土坑

遺構（第 46 図、写真図版 46） [位置] II C5i グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出

面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.54×1.13 m、深さ0.50 mを測る。平面形は楕円形である。
[埋土] 人為堆積である。

遺物 馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓。

SK116 土坑

遺構 (第46図、写真図版46) [位置] II C3j グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.01×0.82 m、深さ0.46 mを測る。平面形は楕円形である。
[埋土] 自然堆積である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代の可能性が高い。

SK117 土坑

遺構 (第46図、写真図版47) [位置] II C3j グリッド。調査区北東端の平坦面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.06×0.79 m、深さ0.43 mを測る。平面形は楕円形である。
[埋土] 自然堆積である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代の可能性が高い。

SK119 土坑

遺構 (第46図、写真図版47) [位置] II C3g グリッド。調査区北端の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SL17より古い。[規模・形状] 平面規模は1.30×1.12 m、深さ0.26 mを測る。平面形は長方形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SK120 土坑

遺構 (第47図、写真図版47) [位置] II C5i グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は1.40×1.12 m、深さ0.66 mを測る。平面形は長方形である。
[埋土] 人為堆積である。

遺物 (第91図、写真図版88) 18世紀頃の肥前産染付碗の破片(180)と馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓である。

SK126 土坑

遺構 (第47図、写真図版47) [位置] II C5h グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SK127より新しい。[規模・形状] 平面規模は1.48×1.06 m、深さ0.69 mを測る。平面形は長方形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 (写真図版98) 馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓である。

3 検出遺構

SK127 土坑

遺構（第 47 図、写真図版 47） [位置] II C5h グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SK126 より古い。SK128 より新しい。[規模・形状] 平面規模は 1.15×1.15 m、深さ 0.69 m を測る。平面形は長方形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物（写真図版 98） 馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓である。

SK128 土坑

遺構（第 47 図、写真図版 47） [位置] II C5h グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。SK127 より古い。[規模・形状] 平面規模は 1.66×0.80 m、深さ 0.52 m を測る。平面形は長方形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物（写真図版 98） 馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓である。

SK129 土坑

遺構（第 47 図、写真図版 48） [位置] II C5i グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 2.06×1.55 m、深さ 0.57 m を測る。平面形は不整形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物（第 91 図、写真図版 88・98） 18 世紀頃の肥前産染付碗（181）と馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓である。

SK130 土坑

遺構（第 47 図、写真図版 48） [位置] III D1a グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.21×1.11 m、深さ 0.49 m を測る。平面形は円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世の墓壙の可能性はある。

SK131 土坑

遺構（第 47 図、写真図版 48） [位置] III D1b グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.87×0.95 m、深さ 0.47 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 中世の墓壙の可能性はある。

SK132 土坑

遺構（第 47 図、写真図版 48） [位置] III C6i グリッド。調査区北部の緩斜面に立地する。[遺構検出面] IV層上面。[規模・形状] 平面規模は 1.41×1.01 m、深さ 0.22 m を測る。平面形は楕円形である。[埋土] 人為堆積である。

遺物（写真図版 98） 馬骨が出土した。

時期 近世の家畜墓。

陥し穴（縄文時代）

SK01 陥し穴

遺構（第 38 図、写真図版 28） [位置] VII B2e グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は直径約 1.3 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 1.1 m。底面の規模は長辺 0.70 m、短辺 0.50 m。平面形は略方形である。底面の長辺を基準にした軸方向はW-85°-N。[埋土] 7層に分層した。1、3、5、7層は暗褐色～にぶい黄褐色粘土。4、6層は黄褐色粘土主体の崩落土。堆積状況から自然堆積と考えられる。2層の黒色粘土は、陥し穴上層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴と共通の層が認められたことから、土坑ではなく陥し穴と考えられる。

遺物 出土していない。（中島）

SKT01 陥し穴

遺構（第 48 図、写真図版 49） [位置] VII D9h グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 2.74 m、短軸 0.50 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.06 m。長軸を基準とした軸方向はN-61°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と考えられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がり、途中から外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT02 陥し穴

遺構（第 48 図、写真図版 49） [位置] VII D8h グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 2.84 m、短軸 0.56 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.11 m。長軸を基準とした軸方向はN-58°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT03 陥し穴

遺構（第 48 図、写真図版 49） [位置] VIII D7e グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 3.13 m、短軸 0.81 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.03 m。長軸を基準とした軸方向はN-70°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と判断した。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がり、中端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT04 陥し穴

遺構（第 48 図、写真図版 49） [位置] VIII D7c グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 2.86 m、短軸 0.53 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.13 m。

3 検出遺構

長軸を基準とした軸方向はN-51°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と考えられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT05 陥し穴

遺構(第48図、写真図版50) [位置] VIII D8c グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.78 m、短軸0.68 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.13 m。長軸を基準とした軸方向はN-51°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は概ね平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT11 陥し穴

遺構(第49図、写真図版50) [位置] VIII D10a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.70 m、短軸0.60 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.18 m。長軸を基準とした軸方向はN-42°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と判断した。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT12 陥し穴

遺構(第49図、写真図版50) [位置] IX D1a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.52 m、短軸0.74 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.20 m。長軸を基準とした軸方向はN-51°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT13 陥し穴

遺構(第49図、写真図版50) [位置] IX C2j グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.67 m、短軸0.53 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.13 m。長軸を基準とした軸方向はN-62°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と判断した。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT14 陥し穴

遺構(第49図、写真図版51) [位置] IX C3h グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.93 m、短軸0.49 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.07 m。

長軸を基準とした軸方向はN-50°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。
[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT15 陥し穴

遺構（第 49 図、写真図版 51） [位置] VII D10f グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は長軸 2.13 m、短軸 0.36 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 0.97 m。
長軸を基準とした軸方向はN-32°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。
[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT16 陥し穴

遺構（第 50 図、写真図版 51） [位置] VII D10g グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は長軸 1.50 m、短軸 0.34 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 0.89 m。
長軸を基準とした軸方向はN-35°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と判断している。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。
[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT17 陥し穴

遺構（第 50 図、写真図版 51） [位置] VII D6j グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は長軸 2.12 m、短軸 0.60 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.13 m。
長軸を基準とした軸方向はN-42°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。
[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT18 陥し穴

遺構（第 50 図、写真図版 52） [位置] II E4a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は長軸 3.50 m、短軸 0.85 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.37 m。
長軸を基準とした軸方向はN-77°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と判断している。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。
[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT19 陥し穴

遺構（第 50 図、写真図版 52） [位置] II E7a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。
[規模・平面形] 規模は長軸 3.28 m、短軸 0.70 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.09 m。

3 検出遺構

長軸を基準とした軸方向はN-78°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT20 陥し穴

遺構(第51図、写真図版52) [位置] II E7b グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸3.62 m、短軸0.76 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.48 m。長軸を基準とした軸方向はN-93°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積と判断された。[壁・底面] 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上端近くになると外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。

SKT21 陥し穴

遺構(第51図、写真図版52) [位置] III E2d グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸3.16 m、短軸0.54 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.18 m。長軸を基準とした軸方向はN-89°-W。[埋土] 堆積状況から自然堆積とみられる。[壁・底面] 壁は底面から外傾気味に立ち上がっている。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 なし。

SKT22 陥し穴

遺構(第50図、写真図版53) [位置] II D1 g グリッド。調査区北東端部の平坦面に立地する。IV層上面で検出した。[規模・形状] 平面規模は1.61×1.39 m、深さ0.96 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積であった。

遺物 なし。

SKT23 陥し穴

遺構(第51図、写真図版53) [位置] VI E10a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.87 m、短軸51 cm。平面形は溝状。深さは検出面から最大1.07 m。長軸を基準とした軸方向はW-63°-N。[埋土] 8層に分層した。1、2、4、6、8層は黒～黒褐色粘土。5、7層は黄褐色粘土主体の崩落土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がる。底面は平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT24 陥し穴

遺構(第50図、写真図版53) [位置] VI E3a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長径1.40 m、短径1.19 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大1.55 m。底面の規模は長辺0.60 m、短辺0.30 m。平面形は長方形である。長辺を基準にした軸方向はW-0°-N。

[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦である。[埋土] 8層に分層した。1層は靄状黄褐色粘土を含むにぶい黄褐色シルト。4、6、7層は黄褐色粘土主体の崩落土。2、5、8層は暗褐～褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。[付属遺構] 底面中央に副穴1基を検出した。規模は直径0.20 m。平面形は略円形である。深さは床面から最大0.30 m。堆積土は8層である。[機能] 陥し穴である。

遺物 なし。(中島)

SKT25 陥し穴

遺構 (第51図、写真図版53) [位置] VID7cグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長径1.78 m、短径1.50 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大1.41 m。底面の規模は長辺0.45 m、短辺0.35 m。平面形は略方形である。長辺を基準とした軸方向は真北。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦である。[埋土] 7層に分層した。1層は、靄状黄褐色粘土を含むにぶい黄褐色粘土。3、4、7層は暗褐～褐色粘土。5、6層は黄褐色粘土主体の崩落土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。2層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。[付属遺構] 底面長軸線上に副穴2基を検出した。規模は直径0.10～0.15 m。平面形は略円形である。底面からの深さは最大約0.20 m。堆積土は7層である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT26 陥し穴

遺構 (第51図、写真図版54) [位置] VID5gグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は直径約1.6 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大1.37 m。底面の規模は長辺0.70 m、短辺0.50 m。平面形は略方形である。長辺を基準とした軸方向はW-30°-N。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[埋土] 12層に分層した。1層は靄状黄褐色粘土を含むにぶい黄褐色シルト。4層は焼土主体の赤褐色粘土。現地性は認められない。9、10、12層は黄褐色土主体の崩落土。5、6、7、8、11層は暗褐～褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。採取した炭化材は樹種不明であった。[付属遺構] 底面中央に副穴1基を検出した。規模は直径0.20 m。平面形は略円形である。底面からの深さは最大0.30 m。堆積土は11層である。[機能] 陥し穴である。

遺物 していない。(中島)

SKT27 陥し穴

遺構 (第52図、写真図版54) [位置] VIE2cグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.81 m、短軸0.80 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.29 m。[埋土] 9層に分層した。1層の黒色粘土は基本土層の一部。6層は崩落土主体の黄褐色粘土。2、5、7～8層は褐～暗褐色粘土。9層は腐食物を多く含む黒色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3、4層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面から垂直に立ち上がる。底面中央は凹む。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT28 陥し穴

遺構 (第 52 図、写真図版 54) [位置] VIC9 g グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は直径 1.3 m、平面形は略円形である。深さは検出面から最大 1.27 m。底面の規模は長辺 0.50 m、短辺 0.35 m。平面形は略方形である。長辺を基準とした軸方向はW-45°-N。[埋土] 9層に分層した。1層は攪乱。2層が基本土層の一部。7層は明黄褐色粘土主体の崩落土。4~6、8、9層は暗褐~褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面長軸線上に副穴 2 基を検出した。規模は直径約 0.20 m。平面形は略円形である。底面からの深さは最大 0.28 m。堆積土は 9層である。[機能] 陥し穴である。

遺物 なし。(中島)

SKT29 陥し穴

遺構 (第 52 図、写真図版 54) [位置] VIC8i グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は直径 1.5 m。平面形は略円形。深さは検出面から最大 1.56 m。[埋土] 8層に分層した。1層は軽石を含むにぶい黄褐色シルト。3~5層は暗褐~褐色粘土。6層は明黄褐色粘土主体の崩落土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。2層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面中央に副穴 1 基を検出した。規模は直径 0.15 m。平面形は略円形である。底面からの深さは 0.25 m。堆積土は 8層である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT30 陥し穴

遺構 (第 52 図、写真図版 55) [位置] VIE3c グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。攪乱に遺構南側の上端を切られる。[規模・平面形] 規模は直径 1.5 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 1.5 m。底面の規模は長辺 0.50 m、短辺 0.30 m。平面形は略方形である。長辺を基準とした軸方向は真北。[埋土] 10層に分層した。1~3、5層は褐~黒褐色粘土で外部からの堆積土。層は上面に薄層状焼土が堆積する黒色粘土。6、8、10層はにぶい黄褐色~黄褐色粘土主体の崩落土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。4層はSK26の4、5層と同一層と考えられる。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面中央に副穴を 1 基検出した。規模は直径 0.20 m。平面形は略円形である。底面からの深さは最大 0.28 m。堆積土は 10層である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT31 陥し穴

遺構 (第 52 図、写真図版 55) [位置] VIE6c グリッドの平坦面に位置する。SI01の床下から検出した。SI01と重複し、本遺構が古い。[規模・平面形] 規模は長軸 2.56 m、短軸 0.39 m。平面形は溝状である。長軸を基準とした軸方向はW-85°-N。深さは検出面から 1.13 m。[断面・埋土]。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。埋土は 6層に分層した。1、2層は黒~暗褐色粘土。4層は黄褐色粘土主体の崩落土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT32 陥し穴

遺構(第53図、写真図版55) [位置] VC1g グリッドの平坦面に位置する。他の遺構と同じくIV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸3.07 m、短軸0.47 m。平面形は溝状である。長軸を基準とした軸方向はW-55°-N。深さは検出面から最大1.14 m。[埋土] 7層に分層した。1、2、4~6層が暗褐~褐色粘土。3層は溝状陥し穴中層の共通層である褐色粘土。7層が黒褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と思われる。[壁・底面] 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は、開口部からはみ出した底面から内傾して立ち上がり、抉りを持つ。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT33 陥し穴

遺構(第53図、写真図版55) [位置] VC3f グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸3.41 m、短軸0.50 m。平面形は溝状である。長軸を基準とした軸方向はW-33°-N。深さは検出面から最大1.23 m。[壁・底面] 壁は短軸方向ではほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は、開口部からはみ出した底面から内傾して立ち上がり、抉りを持つ。底面はほぼ平坦である。[埋土] 堆積土は8層に分層した。堆積状況がSK35と同一であることから、自然堆積と考えられる。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT34 陥し穴

遺構(第53図、写真図版56) [位置] IVD5j グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。SK38と重複し、本遺構が古い。[規模・平面形] 規模は長軸2.72 m、短軸0.38 m。平面形は溝状。長軸を基準とした軸方向はN-40°-E。深さは検出面から最大0.89 m。[埋土] 5層に分層した。2、4層にはぶい黄褐~黄褐色粘土主体の崩落土。1、5層は暗褐~褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴。

遺物 出土していない。(中島)

SKT35 陥し穴

遺構(第53図、写真図版56) [位置] ID10i グリッド。調査区北東端部の平坦面に立地する。他の遺構と同じくIV層上面で検出した。[規模・形状] 平面規模は1.04×0.94 m、深さ0.42 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積である。

遺物 出土していない。

SKT36 陥し穴

遺構(第54図、写真図版56) [位置] ID1f グリッド。調査区北東端部の平坦面に立地する。他の

3 検出遺構

遺構と同じくIV層上面で検出された。SD17より古い。[規模・形状] 平面規模は1.11×0.88 m、深さ1.26 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積。

遺物 出土していない。

SKT37 陥し穴

遺構(第53図、写真図版56) [位置] IVC4hグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.21 m、短軸0.49 m。平面形は溝状。長軸を基準とした軸方向はW-75°-N。深さは検出面から最大1.04 m。[埋土] 9層に細分した。1層は基本土層の一部。2、4、6、8層は灰黄褐～黄褐色粘土主体の崩落土。5、7、9層はにぶい黄褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は短軸方向ではほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は、開口部からはみ出した底面から内傾して立ち上がり、抉りを持つ。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT38 陥し穴

遺構(第54図、写真図版57) [位置] III E8dグリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出した。SKT39と重複し、本遺構が新しい。[規模・平面形] 規模は長軸3.35 m 短軸、1.12 m。平面形は溝状である。長軸を基準とした軸方向は、W-60°-N。深さは検出面から最大1.46 m。[埋土] 10層に分層した。1層は基本土層の一部。2、4、9、10層は黒～褐色粘土。3、8層は黄褐～明黄褐主体の崩落土。5、6層はSKT39の堆積土と地山の一部である。堆積状況から自然堆積と考えられる。7層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面に副穴2基を検出した。底面の西側寄りに位置する。規模は直径約0.10 m。平面形は略円形である。深さは両方底面から最大0.23 m。堆積土は9層と同質土である。9層が堆積する事から、10層は副穴が機能している時点で堆積していたと考えられる。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT39 陥し穴

遺構(第54図、写真図版57) [位置] III E8dグリッド平坦面に位置する。IV層上面で検出した。SKT38と重複し本遺構が古い。[規模・平面形] 推定される規模は長辺1.71 m、短辺1.51 m。平面形は略方形である。深さは検出面から最大1.00 m。底面の規模は長辺1.30 m、短辺1.00 m。平面形は略方形である。長辺を基準とした軸方向は、W-15°-N。[埋土] 16層に分層した。12、15層はにぶい黄褐色粘土主体の崩落土。11、14層は黒褐～褐色粘土。16層は灰黄褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。13層の黒褐色粘土はSKT41の4層と同一層である。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面中央に副穴を1基検出した。規模は直径約40 cm。平面形は略円形である。深さは底面から最大約70 cm。堆積土は、16層を含む軽石主体土である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT40 陥し穴

遺構 (第54図、写真図版57) [位置] III E6d グリッドの緩斜面に位置する。SX10の床面で検出した。SX10と重複し、本遺構が古い。[規模・平面形] 残存する規模は最大1辺1mで、推定される平面形は略方形である。残存部の深さは検出面から最大0.71m。底面の規模は1辺0.75m。平面形は略方形である。南北辺を基準とした軸方向はW-20°-N。[埋土] 4層に分層した。1層は黄褐色粘土主体の崩落土。2層はSX10-3の4層である。3、4層は黒褐色粘土である。人為、自然堆積の別は不明である。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面中央に副穴を1基検出した。規模は直径0.20m。平面形は略円形である。深さは底面から最大0.50m。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT41 陥し穴

遺構 (第54図、写真図版57) [位置] III E10a グリッドの平坦面に位置する。IV層上面で検出。[規模・平面形] 規模は直径約1.4m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大0.78m。底面の規模は長辺1.1m、短辺0.80m。平面形は略方形である。長辺を基準とした軸方向はW-85°-N。[埋土] 12層に分層した。1層は基本土層の一部。7、8、10、11層がにぶい黄褐～褐色粘土主体の崩落土。2～6、9、12、13層が黒褐～褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。4層の黒褐色粘土はSKT39の13層と同一層である。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 底面中央に副穴を1基検出した。規模は直径0.20m。平面形は略円形である。深さは底面から最大0.70m。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT42 陥し穴

遺構 (第54図) [位置] III D7d グリッドの緩斜面に位置する。IV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.05m、短軸0.52m。平面形は溝状である。長軸を基準とした軸方向はW-58°-N。深さは検出面から最大1.05m。[埋土] 3層に分層した。1層がにぶい黄褐色粘土主体の崩落土。2、3層が黒褐色粘土である。堆積状況から自然堆積と思われる。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 なし。(中島)

SKT43 陥し穴

遺構 (第55図、写真図版58) [位置] II C2j グリッド。調査区北東端部の平坦面に立地する。他の遺構と同じくIV層上面で検出した。[規模・形状] 平面規模は1.40×1.34m、深さ0.85mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積であった。

遺物 出土していない。

SKT44 陥し穴

遺構 (第55図、写真図版58) [位置] II D2a グリッド。調査区北東端部の平坦面に立地する。他の

3 検出遺構

遺構と同じくIV層上面で検出された。[規模・形状] 平面規模は1.81×1.50 m、深さ1.00 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積であった。

遺物 出土していない。

SKT45 陥し穴

遺構（第55図、写真図版58） [位置] IVD2i グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。他の遺構と同じくIV層上面で検出した。[規模・形状] 平面規模は1.45×1.28 m、深さ0.97 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積であった。

遺物 出土していない。

SKT46 陥し穴

遺構（第55図、写真図版58） [位置] IVD2h グリッド。調査区北東部の平坦面に立地する。他の遺構と同じくIV層上面で検出している。[規模・形状] 平面規模は1.37×1.33 m、深さ0.81 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積であった。

遺物 出土していない。

SKT47 陥し穴

遺構（第55図、写真図版59） [位置] IIC3i グリッド。調査区北東端部の緩斜面に立地する。他の遺構と同じくIV層上面で検出された。[規模・形状] 平面規模は1.57×1.48 m、深さ0.75 mを測る。平面形は円形である。概ね平坦な底面のほぼ中央に小土坑が設けられている。壁は底面から中段部にかけては垂直気味に立ち上がり、中段から上端部にかけては緩やかに開いていく。[埋土] 自然堆積であった。

遺物 出土していない。

SKT48 陥し穴

遺構（第55図、写真図版59） [位置] IID7c グリッドの緩斜面に位置する。他の遺構と同じくIV層上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸2.30 m、短軸0.63 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大1.13 m。[埋土] 3層に分層した。SKT42と堆積土、堆積状況は同一である。堆積状況から自然堆積と思われる。[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT49 陥し穴

遺構（第55図、写真図版59） [位置] IVD1a グリッド。調査区北側の平坦な地形に位置する。IV層

上面で検出した。[規模・平面形] 規模は長軸 2.20 m、短軸 0.52 m。平面形は溝状である。深さは検出面から最大 1.05 m。[埋土] 5 層に分層した。1 層は木根攪乱層の暗褐色粘土。3 層が黄褐色粘土主体の崩落土。4、5 層が褐色粘土。堆積状況から自然堆積と思われる。2 層の褐色粘土は溝状陥し穴中層に共通して認められる。[壁] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 陥し穴である。

遺物 出土していない。(中島)

SKT50 陥し穴

遺構(第 56 図、写真図版 59) [位置] VID8a グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出した。SD15 と重複し、本遺構が古い。[規模・平面形] 規模は直径 1.7 m。平面形は略円形である。深さは検出面から最大 1.4 m。[埋土] 8 層に分層した。1 層は靄状黄褐色粘土を含むにぶい黄褐色シルト。2、4、5、8 層は褐～暗褐色粘土で外部からの堆積土。6、7 層は黄褐色粘土主体の崩落土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。3 層の黒色粘土は陥し穴上層に共通して認められる。[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[機能] 他の陥し穴と共通の層が認められたことから、陥し穴と考えられる。

遺物 出土していない。(中島)

(5) 焼土・炉跡・焼成遺構

SL02

遺構(第 56 図、写真図版 60) [位置] VIII C7d グリッドの平坦面に位置する。IV 層上面で検出した。[規模・平面形] 推定する焼土規模は直径約 0.70 m。平面形は略円形と考えられる。掘方の規模は長径 1.10 m、短径 0.90 m で、平面形は略円形である。検出面から焼成面までの深さは最大 0.05 m、底面までの深さは最大 0.15 m である。[断面・埋土] 焼成は厚さ 6 cm。堆積土は 3 層に分層した。1 層は基本土層の一部。2、3 層が堆積土と思われる。人為、自然堆積の別は不明である。[底面] 底面は約 0.10 m 高い焼成面を輪状に囲む。[機能] 断面の状況から、3 層堆積部分が礫掘方の石囲炉の可能性はある。

遺物 出土していない。(中島)

SL03

遺構(第 56 図、写真図版 60) [位置] 調査区南端の VIII D10f グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面は IV 層上面である。[形状] 長軸 0.81 m×短軸 0.72 m、厚さ 3 cm の不整円形の焼成痕跡である。

遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居跡は未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL04

遺構(第 56 図、写真図版 60) [位置] 調査区南端の IX D1f グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面は IV 層上面である。[形状] 長軸 0.57 m×短軸 0.48 m、厚さ 5 cm の不整円形の焼成痕跡である。

遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居は未検出であった。本遺構が

3 検出遺構

弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL05

遺構 (第 56 図、写真図版 60) [位置] 調査区南端の IXC2j グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面は IV 層上面で、SKT13 と重複しており、本遺構の方が新しい。[形状] 長軸 0.97 m×短軸 0.59 m、厚さ 7 cm の不整楕円形の焼成痕跡である。

遺物 出土していない。

時期 周辺には中世後半の掘立柱建物跡が複数検出されており、本遺構は中世後半の炉跡であった可能性がある。

SL06

遺構 (第 56 図、写真図版 61) [位置] 調査区南端の IXD2c グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面は IV 層上面である。[形状] 長軸 0.42 m×短軸 0.40 m、厚さ 4 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居跡は未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL07

遺構 (第 56 図、写真図版 61) [位置] IXD4a グリッド。平坦面に立地。遺構検出面は IV 層上面。[形状] 長軸 0.48 m×短軸 0.45 m、厚さ 8 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物 なし。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居跡は未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL08

遺構 (第 56 図) [位置] 調査区南端の IXC4j グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面は IV 層上面である。[形状] 長軸 0.35 m×短軸 0.31 m、厚さ 5 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物 なし。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているものの、竪穴住居跡が未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL09

遺構 (第 57 図、写真図版 61) [位置] 調査区南端の IXD8c グリッド。遺構検出面は III～IV 層上面である。[形状] 長軸 0.51 m×短軸 0.46 m、厚さ 3 cm の不整円形の焼成痕跡である。

遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居跡は未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL10

遺構 (第 57 図、写真図版 61) [位置] 調査区南端の VIII C6i グリッド。平坦面に立地する。遺構検出

面はⅢ～Ⅳ層上面である。[形状]長軸 0.34 m×短軸 0.28 m、厚さ 7 cm の不整形の焼成痕跡である。
遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているものの、竪穴住居跡が未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL11

遺構（第 57 図、写真図版 62） [位置] 調査区南端のⅧC8i グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面はⅢ～Ⅳ層上面である。[形状] 長軸 0.46 m×短軸 0.28 m、厚さ 4 cm の楕円形の焼成痕跡である。
遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居跡は未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL12

遺構（第 57 図、写真図版 62） [位置] 調査区南端のⅨC1h グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面はⅢ～Ⅳ層上面である。[形状] 長軸 0.48 m×短軸 0.39 m、厚さ 11 cm の楕円形の焼成痕跡である。
遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているものの、竪穴住居跡が未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL13

遺構（第 57 図、写真図版 62） [位置] 調査区南端のⅧC6h グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面はⅢ～Ⅳ層上面である。[形状] 長軸 0.40 m×短軸 0.32 m、厚さは 4 cm である。円形の焼成痕跡である。

遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているが、竪穴住居跡は未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL14

遺構（第 57 図、写真図版 62） [位置] 調査区南端のⅨD3h グリッド。平坦面に立地する。遺構検出面はⅢ～Ⅳ層上面である。[形状] 長軸 0.38 m×短軸 0.32 m、厚さ 5 cm を測る円形の焼成痕跡である。
遺物 出土していない。

時期 周辺からは、弥生土器がまとまった量出土しているものの、竪穴住居跡が未検出であった。本遺構が弥生時代の炉跡であった可能性がある。

SL15

遺構（第 57 図） [位置] IVD1j グリッドの平坦面に位置する。Ⅳ層上面で検出した。[規模・平面形] 全体での規模は長軸約 2.40 m、短軸約 1.20 m。推定される平面形は楕円形である。[断面・埋土] 焼成は厚さ 2～5 cm。焼土別の堆積土は無く、Ⅲ層直下に位置する。[機能] C、D 焼土上には焼土から橙色の硬化層があることから、焼土を伴う遺構の下部構造と思われる。

遺物 なし。（中島）

3 検出遺構

時期 不明である。

SL16

遺構（第 58 図、写真図版 63）〔位置〕調査区北端のⅡC3h グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はⅣ層上面である。〔形状〕屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、その手前となる斜面下位の標高が低いほうには燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりすると考えられる浅い掘り込みが見られる（作業空間）。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。底面には調湿のためと見られる炭片が敷き詰められていた。壁面は焼成により赤変しているか、その壁面が崩落し、散乱した状態となっている。全体規模：長軸 1.87 m×短軸 0.73 m、深さ 0.32 m。燃焼部：長軸 1.21 m×短軸 0.73 m、深さ 0.32 m。焼土の広がり：長軸 0.95 m×短軸 0.86 m、壁面も部分的に被熱痕跡がある。炭片敷詰：長軸 0.94 m×短軸 0.57 m、厚さ 14 cm を測る。〔埋土〕上位は地山ブロックと炭粒が混じる人為堆積で、下位は除湿目的と見られる多量の炭片主体の黒褐色シルトで構成される。採取した炭化材にはコナラがあった。

遺物 なし。

時期 同種の遺構 SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL17

遺構（第 58 図、写真図版 63）〔位置〕調査区北端のⅡC2g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はⅣ層上面である。〔形状〕屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、斜面下位の標高が低いところには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりといった作業を行う空間と考えられる浅い掘り込みが見られる。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。底面には調湿のためと見られる炭片が敷き詰められ、その上面は焼土が広がっていた。壁面は焼けて赤変しているか、その壁面が崩落し、散乱した状態となっている。全体規模：長軸 2.03 m×短軸 0.73 m、深さ 0.25 m。燃焼部：長軸 0.82 m×短軸 0.75 m、深さ 0.25 m。焼土の広がり：長軸 1.48 m×短軸 0.60 m、壁面も部分的に被熱痕跡がある。炭片敷詰：長軸 0.68 m×短軸 0.58 m、厚さ 15 cm を測る。〔埋土〕多量の炭片が敷き詰められていた。除湿の目的と見られる。採取した炭化材にはヤマウルシ、クリがあった。

遺物 なし。

時期 同種の遺構と考えられる SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL18

遺構（第 58 図、写真図版 63）〔位置〕調査区北端のⅡC2g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はⅣ層上面である。〔形状〕屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部を、その手前となる斜面下位の標高が低いほうには燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりすると考えられる浅い掘り込みが見られる（作業空間）。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。底面には調湿のためと見られる炭片・焼土粒が敷き詰められていた。壁面は燃焼により赤変しているか、

その壁面が崩落し、散乱した状態となっている。全体規模：長軸 1.67 m×短軸 1.06 m、深さ 0.34 m。燃焼部：長軸 0.98 m×短軸 0.87 m、深さ 0.34 m。焼土の広がり：長軸 0.94 m×短軸 0.86 m、壁面も部分的に被熱痕跡がある。炭片敷詰：長軸 0.69 m×短軸 0.40 m、厚さ 18 cm を測る。[埋土] 上位は炭粒・焼土粒が少量混じる人為堆積で、下位は除湿目的と見られる多量の炭片主体の灰黄褐色シルトブロックで構成される。採取した炭化材にはクリがあった。

遺物 なし。

時期 同種の遺構 SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL19

遺構（第 58 図、写真図版 63） [位置] 調査区北端の II C1g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はIV層上面である。[形状] 屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。長軸 0.79 m×短軸 0.62 m、深さ 0.30 m。炭範囲：長軸 0.35 m×短軸 0.35 m、厚さ 12 cm を測る。[埋土] 上位は浮石や炭粒を含む褐色シルト、下位には多量の炭片があり、除湿の目的と考えられる。採取した炭化材にはクリがみられた。

遺物 なし。

時期 同種の遺構と考えられる SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL20

遺構（第 58 図、写真図版 64） [位置] 調査区北端の II C2h グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はIV層上面である。[形状] 野外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、その手前となる斜面下位の標高が低いほうには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりすると考えられる浅い掘り込みが見られる（作業空間）。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。底面付近には除湿のためと見られる炭片の広がりが見られた。全体規模：長軸 2.35 m×短軸 1.05 m、深さ 0.35 m。燃焼部：長軸 1.02 m×短軸 0.78 m、深さ 0.35 m。焼土の広がり：長軸 0.21 m×短軸 0.20 m、壁面も部分的に被熱痕跡がある。炭片分布：長軸 0.35 m×短軸 0.21 m を測る。[埋土] 炭粒・焼土粒と地山ブロックが不規則に混じる人為堆積である。

遺物 なし。

時期 同種の遺構と考えられる SL24 より近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL21

遺構（第 59 図、写真図版 64） [位置] 調査区北端の II C2g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はIV層上面である。[形状] 屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、斜面下位の標高が低いところには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりといった諸作業を行う空間と考えられる浅い掘り込みが見られる。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。底面には湿気を除くためと見られる炭片が敷き詰められ、その上面は焼土が広がっていた。壁面は焼成によりほぼ全面が赤変している。また、壁面及び天井部が崩落し、焼土粒が散乱した状態となって

3 検出遺構

いる。同種の遺構中では最も残りが良かった。全体規模：長軸 2.10 m×短軸 0.73 m、深さ 1.00 m。燃焼部：長軸 1.47 m×短軸 0.68 m、深さ 0.64 m。焼土の広がり：壁面のほぼ全面に被熱痕跡がある。炭片敷詰：長軸 0.81 m×短軸 0.69 m、厚さ 10 cm を測る。[埋土] 地山ブロックに炭・焼土粒を不規則に含む褐色シルトや黄褐色シルト等で構成され、底面には多量の炭片が敷詰められていた。これは除湿目的と考えられる。

遺物 なし。

時期 同種の遺構 SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL22

遺構（第 58 図、写真図版 64） [位置] 調査区北端のⅡC3g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はⅣ層上面である。SL23 と重複しており、本遺構の方が新しい。[形状] 野外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、その手前となる斜面下位の標高が低いほうには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりすると考えられる浅い掘り込みが見られる（作業場）。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。底面付近には除湿のためと見られる炭片の広がりが見られた。全体規模：長軸 2.60 m×短軸 1.76 m、深さ 0.35 m。燃焼部：長軸 1.13 m×短軸 0.80 m、深さ 0.33 m。焼土の広がり：壁面には部分的に被熱痕跡がある。炭片分布：長軸 2.60 m×短軸 1.70 m を測る。[埋土] 炭粒・焼土粒と地山ブロックが不規則に混じる人為堆積で、底面には炭の敷かれた痕跡が少し残っていた。

遺物 なし。

時期 同種の遺構 SL24 より近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL23

遺構（第 58 図、写真図版 64） [位置] 調査区北端のⅡC3h グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はⅣ層上面である。SL22 と重複し本遺構の方が古い。[形状] 屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、斜面下位の標高が低いところには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりといった諸作業を行う空間と考えられる浅い掘り込みが見られる。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。同種の他遺構では底面には除湿のためと見られる炭片が敷き詰められていたが、本遺構には見られなかった。但し底面は砂礫混じりの黄褐色シルト層であったため、水はけは良かったと思われる。壁面は焼成により部分的に赤変している。また、壁面及び天井部が崩落し、その焼土塊が散乱した状態となっている。全体規模（燃焼部）：長軸 1.50 m 以上×短軸 1.30 m、深さ 0.60 m。焼土の広がり：長軸 0.96 m×短軸 0.94 m、壁面には部分的に被熱痕跡が残る。炭分布：長軸 0.35 m×短軸 0.13 m を測る。[埋土] 地山ブロックに炭・焼土粒を不規則に含む褐色シルトや黒褐色シルトで構成され、とくに焼土粒（大～中）が卓越する。

遺物 なし。

時期 同種の遺構 SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

SL24

遺構（第 59 図、写真図版 64） [位置] 調査区北端のⅡC3g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出

面はIV層上面である。[形状] 野外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、その手前となる斜面下位（標高が低いほう）には、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりといった諸作業をされると考えられる浅い掘り込みが見られる。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。燃焼部の底面付近には除湿のためと見られる炭片の残りが見られた。全体規模：長軸 2.38 m×短軸 1.53 m、深さ 0.48 m。燃焼部：長軸 1.00 m×短軸 0.83 m、深さ 0.48 m を測る。壁面にはほぼ全面に被熱痕跡がある。炭片分布：長軸 0.64 m×短軸 0.45 m、厚さ 12 cm を測る。[埋土] 炭粒や焼土粒と地山ブロックが不規則に混じる人為堆積である。

遺物（第 91 図、写真図版 88） 近世陶器碗（184）が出土。

時期 出土遺物の年代から近世の遺構である可能性が高い。

SL25

遺構（第 59 図、写真図版 65） [位置] II C3 g グリッド。斜面地に立地する。遺構検出面はIV層上面。[形状] 屋外に設置された焼成遺構（炉跡）である。斜面地形を利用して構築されており、斜面中位から上位の標高が高いほうに燃焼部が、斜面下位の標高が低いところには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりといった諸作業を行う空間と考えられる浅い掘り込みが見られる。燃焼部の断面形は袋状・ドーム状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。壁面は焼成により部分的に赤変している。また、壁面及び天井部が崩落し、その焼土塊が散乱した状態となっていた。全体規模：長軸 2.83 m×短軸 1.35 m、深さ 0.40 m。燃焼部：長軸 0.95 m×0.74 m×0.40 m。壁面には、ほぼ全面に被熱痕跡が残る。炭分布（燃焼部内の除湿）：長軸 0.72 m×短軸 0.50 m、厚さ 10 cm。炭分布（掻き出されて散乱）：1.10 m×0.64 m、厚さ 4 cm。[埋土] 地山ブロックに炭・焼土粒を不規則に含む褐色・黒褐色シルトで構成され、埋土下位には炭片が敷かれていた。

遺物 なし。

時期 同種の遺構 SL24 から近世陶磁器が出土したことから、近世の遺構である可能性が高い。

(6) 溝 跡

SD01 溝跡

遺構（第 60 図、写真図版 68） [位置] VID3a～VIE4d グリッドの平坦面に位置する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面で検出した。SI02 と重複し、本遺構が新しい。[形状・規模等] 規模は長軸 68.7 m、短軸約 1.5 m。平面形は溝状である。長軸方向を基準とした軸方向はN-83°-W。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[埋土] 堆積土は4層に分層した。全層に含まれる塊状粘土から人為堆積と考えられる。[機能] 区画溝である。（中島）

遺物（第 89 図、写真図版 87） 弥生土器片 36.7 g、土師器・須恵器片（55.6 g）が出土し、土師器高台付坏（153）を掲載した。

SD02 溝跡

遺構（第 61 図、写真図版 68） [位置] VID6j～VII D9i グリッド、平坦な面に位置する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面で検出した。[形状・規模等] 規模は長さ 16.8 m、上幅 0.6 m。深さは 0.20 m 前後である。北北東-南南西方向へのびている。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

3 検出遺構

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SD03 溝跡

遺構（第 61 図、写真図版 68） [位置] 調査区中央東側のⅦD7j～ⅦD10i グリッド。平坦な面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。重複遺構なし。[形状・規模等] 上幅 0.5 m、深さ 0.1 m、長さ 8.8 m 以上ある。北北東－南南西へ直線的に途切れ途切れに延びる溝跡である。

遺物 なし。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD04 溝跡

遺構（第 61・62 図、写真図版 68） [位置] 調査区南東端のⅨD7a～ⅩC2i グリッドほか。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SK15 と SD07 より古い。[形状・規模等]幅 0.3～2.5 m、深さ 0.3～0.5 m、長さ 26.0 m 以上ある。北北東－南南西へ直線的に延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積である。

遺物（第 81・91 図、写真図版 79・88）18 世紀頃の肥前産染付皿（183）が出土している。土器（41）も 162 g 出土している。

時期 近世の可能性がある。

SD05 溝跡

遺構（第 62 図、写真図版 68） [位置] 調査区南東端のⅩC9j～ⅩC2i グリッドほか。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SK15 より古い。[形状・規模等]幅 0.4～2.2 m、深さ 0.4 m、長さ 14.6 m 以上ある。北北東－南南西へ直線的に延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積である。

遺物 なし。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD06 溝跡

遺構（第 63 図、写真図版 69） [位置] 調査区南東部のⅧE9a～ⅨD10b グリッドほか。平坦面から緩斜面にかけて立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SD12 より新しい。P189 との新旧関係は不明である。[形状・規模等]幅 0.4～0.6 m、深さ 0.2～0.3 m、長さ 74.7 m 以上ある。北東－南南西へ弧状に延びる溝跡である。断面図を測った C-C' の西約 7 m の地点は土橋状に溝両端が立ち上がっていた。その幅は約 1.2 m である。[埋土] 自然堆積である。

遺物 縄文・弥生土器片や土師器甕の胴部片など 751.2 g 出土した。

時期 埋土の特徴が平安時代の遺構と似ていることから、本遺構も平安時代の可能性がある。本遺構の東側を区画する溝跡と考えられる。

SD07 溝跡

遺構（第 61・62 図、写真図版 69） [位置] 調査区南東端のⅨD8a～ⅩC10j グリッド。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SK15 より古く、SD04 より新しい。[形状・規模等]幅 0.3～1.3 m、深さ 0.2 m、長さ 11.7 m 以上ある。北北東－南南西へ概ね直線的に延びる溝跡である。[埋土]

自然堆積である。

遺物 縄文・弥生土器片、土師器片などが 160.6 g と不定形石器 IC1 が 1 点出土。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD08 溝跡

遺構（第 61 図、写真図版 69） [位置] 調査区南東端の IXD9c グリッドほか。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV 層上面。[形状・規模等] 幅 0.2～1.1 m、深さ 0.1 m、長さ 4.4 m 以上ある。北東－南西へ蛇行して延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物（第 89 図、写真図版 87） 縄文土器細片や土師器甕片等が 116.7 g 出土し、土師器甕（154）を掲載。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD09 溝跡

遺構（第 64 図、写真図版 70） [位置] 調査区南東側の VIII D6i～VIII D8j グリッド。平坦面に立地。[遺構検出面、重複関係] IV 層上面。[形状・規模等] 幅 0.3～0.5 m、深さ 0.1 m、長さ 22.4 m 以上ある。東－西へ直線的に延び、北北東に向きを変える溝跡である。[埋土] 自然堆積。

遺物 なし。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD10 溝跡

遺構（第 64 図、写真図版 70） [位置] 調査区南東側の VIII D6h～VIII D7h グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV 層上面。[形状・規模等] 幅 0.3～0.5 m、深さ 0.1 m、長さ 9.8 m 以上ある。北北東－南南西へ直線的に延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積である。

遺物 なし。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD11 溝跡

遺構（第 65 図、写真図版 70） [位置] 調査区南東端の IXD9h～IXD9j グリッド。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV 層上面。SX06 より古い。[形状・規模等] 幅 0.3～0.6 m、深さ 0.2 m、長さ 7.5 m を測る。北西－南東へ延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD12 溝跡

遺構（第 64 図、写真図版 70） [位置] 調査区南東側の VIII D6g～VIII D10h グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV 層上面。SD06 より古い。[形状・規模等] 幅 0.4～0.6 m、深さ 0.2 m、長さ 25.8 m 以上ある。北北西－南南東へ直線的に延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積である。

遺物 縄文土器片が 64.9 g 出土している。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

3 検出遺構

SD13 溝跡

遺構（第 65 図、写真図版 71） [位置] 調査区南東部のⅧD7f～ⅧD7h グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。[形状・規模等] 幅 0.3～1.1 m、深さ 0.1 m、長さ 8.0 m を測る。東－西へ延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 出土していない。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD14 溝跡

遺構（第 65 図、写真図版 71） [位置] 調査区中央やや東、ⅧD10c～ⅧD10e グリッドほか。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。[形状・規模等] 幅 0.3～1.2 m、深さ 0.1 m、長さ 9.7 m 以上ある。東－南へ折れ曲がって延びる溝跡である。[埋土] 地山ブロックや炭粒を微量含む黒褐色シルト。

遺物 出土していない。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD15 溝跡

遺構（第 66 図、写真図版 71） [位置] 調査区中央から北部のVIC9j～VIE10d グリッドほか。平坦面から緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IIIⅡ～層上面。[形状・規模等] 幅 0.7～0.8 m、深さ 0.4 m、長さ 111.8 m 以上ある。南北方向－東南東へ折れ曲がって延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積である。

遺物 須恵器壺片など 76.9 g 出土した。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細不明だが、遺構検出面から中世及びそれ以降と考えられる。

SD16 溝跡

遺構（第 67 図、写真図版 71） [位置] 調査区北東端から北東部の I D10g～VID4e グリッドほか。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。2号堀跡・4号土塁・SD15・SD20・SD21 より古い。SI11・P1089 より新しい。[形状・規模等] 幅 0.5 m、深さ 0.3～0.4 m、長さ 120.8 m 以上ある。ほぼ南北方向へ延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積である。

遺物（第 93 図、写真図版 89） 縄文時代前期の土器片 11.0 g と石篋（206）1 点が出土している。

時期 本遺構に伴う遺物は無いが、複数遺構との新旧関係から古代の遺構である可能性が高い。

SD17 溝跡

遺構（第 66 図） [位置] 調査区北東端の I D10f～II D3f グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SD21 より古い。SK48 より新しい。[形状・規模等] 幅 0.5～0.8 m、深さ 0.1～0.2 m、長さ 14.1 m 以上ある。概ね南北方向へ延びる。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

SD18 溝跡

遺構（第 68 図、写真図版 72） [位置] 調査区北東端の IIE グリッドほか。平坦面に立地する。[遺

構検出面、重複関係]IV層上面。SD21 と同一の溝跡。[形状・規模等]幅 0.6～0.8 m、深さ 0.1～0.2 m、長さ 40.0 m 以上ある。南北方向へ蛇行して延びる。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 なし。

時期 近世である。

SD19 溝跡

遺構 (第 68 図、写真図版 72) [位置] 調査区北東端の IIE グリッドほか。平坦面に立地。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SD20・SD21 とほぼ同時期の溝跡である。[形状・規模等] 幅 0.4 m、深さ 0.1 m、長さ 39.1 m を測る。東西方向へ蛇行して延びる。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 なし。

時期 近世である。

SD20 溝跡

遺構 (第 68 図) [位置] 調査区北東端の IID～IIE グリッドほか。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]IV層上面。SD21 より古い。SD16・17、SK70、2号堀跡より新しい。[形状・規模等]幅 0.3～1.1 m、深さ 0.2 m、長さ 21.0 m。東西方向へ蛇行して延びる溝跡である。[埋土]自然堆積と思われる。

遺物 (第 99 図、写真図版 95) 寛永通宝 (254) が出土している。

時期 近世である。

SD21 溝跡

遺構 (第 68 図、写真図版 72) [位置] 調査区北東端の IIC～IID グリッドほか。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SB18・19、SD16・17・20・22、2号堀跡より新しい。[形状・規模等] 幅 0.7～1.1 m、深さ 0.1～0.2 m、長さ 85.0 m を測る。東西方向へ蛇行して延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 (第 91 図、写真図版 88) 近世陶器 (185) が出土。

時期 近世である。

SD22 溝跡

遺構 (第 68 図、写真図版 72) [位置] 調査区北東端の IID グリッドほか。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SD20・SD21 とほぼ同時期の溝跡である。[形状・規模等] 幅 0.3～0.8 m、深さ 0.2 m、長さ 16.7 m を測る。東西方向へ蛇行して延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 出土していない。

時期 近世である。

SD23 溝跡

遺構 (第 69 図、写真図版 72) [位置] 調査区北東部の IID6i～IIE6b グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。[形状・規模等] 幅 0.5～1.0 m、深さ 0.1 m、長さ 11.0 m を測る。東西方向へ途切れながら延びる溝跡である。[埋土] 自然堆積と思われる。

遺物 なし。

時期 出土遺物が無く、詳細は不明である。

SD24 溝跡

遺構(第 69 図、写真図版 73) [位置]調査区北東のⅢD5h～ⅢD5i グリッドほか。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SD16・27・28 とほぼ同時期の溝跡と考えている。[形状・規模等]幅 0.3～0.6 m、深さ 0.1 m、長さ 7.1 m を測る。東西方向へ延びる溝跡である。[埋土]人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 SD16 との関係から古代の可能性はある。

SD25 溝跡

遺構(第 70 図、写真図版 73) [位置]調査区北東のⅣC2j～ⅣE1d グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SI12・SD16、SK110・112 より新しい。SD15・26 とはほぼ同時存在である。[形状・規模等]幅 0.4～1.0 m、深さ 0.3～0.4 m、長さ 70.9 m を測る。東西方向へ延びる溝跡である。[埋土]自然堆積と考えている。

遺物 出土していない。

時期 SD15 との関係から中世及びそれ以降と思われる。

SD26 溝跡

遺構(第 70 図、写真図版 73) [位置]調査区北東のⅣC2j～ⅠD1f グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SD16、SK110 より新しい。SD15・25 とはほぼ同時存在である。[形状・規模等]幅 0.4～0.5 m、深さ 0.2～0.3 m、長さ 30.4 m を測る。東西方向へ延びる溝跡。[埋土]自然堆積と考えている。

遺物 なし。

時期 SD15 との関係から中世及びそれ以降に位置付けたい。

SD27 溝跡

遺構(第 71 図、写真図版 73) [位置]調査区北東のⅢD グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SD16・24・28 とはほぼ同時存在と思われる。[形状・規模等]幅 0.2～0.5 m、深さ 0.1 m、長さ 6.5 m 以上ある。南北－東西方向へ折れ曲がって延びる溝跡である。[埋土]黒褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 SD16 との関係から古代に位置付けたい。

SD28 溝跡

遺構(第 71 図、写真図版 73) [位置]調査区北東のⅢD7c～ⅢD6e グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。SD16・24・27 とはほぼ同時存在と思われる。[形状・規模等]幅 0.4～0.6 m、深さ 0.1 m、長さ 8.7 m を測る。南北－東西方向へ折れ曲がって延びる溝跡である。[埋土]黒褐色シルトの単層。

遺物 出土していない。

時期 SD16 との関係から古代に位置付けたい。

SD31 溝跡

遺構 (第 71 図、写真図版 74) [位置] 調査区北東端のⅢE1e～ⅢE2d グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SKT21、4号土塁よりは新しい。[形状・規模等] 幅 0.3～0.8 m、深さ 0.1 m、長さ 7.4 m 以上ある。東西方向へ延びる溝跡である。[埋土] 地山ブロックを少量含み、人為堆積の可能性はある。

遺物 出土していない。

時期 SD18～21 と同じ溝跡と見られることから、近世に位置付けられる。

SD32 溝跡

遺構 (第 72 図、写真図版 74) [位置] 調査区北東部のⅢC1h～ⅢE2d グリッド。平坦面から緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。2号堀跡、4号土塁よりは新しい。[形状・規模等] 幅 0.2～0.8 m、深さ 0.1～0.2 m、長さ 88.0 m 以上ある。東西－南北方向へ折れ曲がって延びる溝跡である。[埋土] 地山ブロックを少量含み、人為堆積の可能性はある。

遺物 なし。

時期 SD18～21・31 と同じ溝跡と見られることから、近世に位置付けられる。

SD33 溝跡

遺構 (第 73 図、写真図版 74) [位置] 調査区北東部のⅢD3c～ⅢD2c グリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。2号堀跡との新旧関係は不明である。[形状・規模等] 幅 0.5～0.8 m、深さ 0.1～0.2 m、長さ 17.5 m を測る。南北方向へ延びる溝跡である。[埋土] 黒褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

SD34 溝跡

遺構 (第 72 図、写真図版 75) [位置] 調査区北東部のⅡC10i グリッドほか。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SB26 門跡、SD32・35 と同時期に存在すると考えている。[形状・規模等] 幅 0.3 m、深さ 0.2 m、長さ 1.1 m 以上ある。門跡に付属する遺構であったと思われる。[埋土] 地山ブロックを少量含む人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 SB26 門跡、SD32 他との関係から近世に位置付けられる。

SD35 溝跡

遺構 (第 72 図、写真図版 75) [位置] 調査区北東部のⅡC10h グリッド。緩斜面に立地する。[遺構検出面、重複関係] IV層上面。SB26 門跡、SD32・34 と同時期に存在すると考えている。[形状・規模等] 幅 0.15 m、深さ 0.2 m、長さ 1.1 m を測る。門付属施設の痕跡と思われる。[埋土] 地山ブロックを少量含む人為堆積である。

遺物 出土していない。

時期 SB26 門跡、SD32 他との関係から近世に位置付けられる。

SD36 溝跡

遺構(第73図、写真図75) [位置]調査区北東部のⅢD2h～ⅢE2dグリッド。平坦面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。4号土塁より古い。[形状・規模等]幅0.4～0.6m、深さ0.2m、長さ30.8m以上ある。[埋土]黒褐色シルトの単層である。

遺物 出土していない。

時期 4号土塁より古いことから古代の可能性が高い。

SD37 溝跡

遺構(第66図、写真図版75) [位置]調査区北端のⅢD2fグリッド。平坦な面に立地する。[遺構検出面、重複関係]Ⅳ層上面。4号土塁よりも古い。[形状・規模等]幅0.4～0.5m、深さ0.1m、長さ2.8mを測る。北北東-南南西へ延びる溝跡である。[埋土]地山ブロックを多量に含むので人為堆積と思われる。

遺物 出土していない。

時期 本遺構に伴う遺物が無く、詳細は不明である。

(7) その他の遺構

1号土器埋設遺構

遺構(第59図、写真図版67) [位置]ⅨD10bグリッド。緩斜面に立地する。古代と考えられる溝跡SD06を精査中に検出された。[形状]地面を径45cmの円形に掘り込み、その中に最大径約30cmの弥生土器甕を正位で埋設していた。甕は口縁部が一部欠損していたが、これは後世に失われたもので埋設時に打ち欠いたものではない。他に失われている部位はない。[埋土]甕内部にあった暗褐色シルトは全て持ち帰り、微細遺物の有無を調べたが、何にも残っていなかった。[遺構の時期]埋設されていた甕(40)の特徴から弥生時代前期と考えている(第81図、写真図版79)。

SX01

遺構(第74図、写真図版65) [位置]ⅨD1bグリッド。平坦面に立地。遺構検出面はⅣ層上面。[形状]長軸2.82m×短軸2.15m、深さ0.12mを測る。不整長円形に浅く掘り込まれた施設である。断面はあまり平坦ではない。底面は東側を中心にはほぼ全面に焼成面が形成される。[埋土]大小の炭粒と焼土粒を含む人為堆積であった。[遺構の性格]出土遺物はないが、古代の炭窯と考えられる。

遺物 なし。

SX02

遺構(第74図、写真図版65) [位置]調査区南端のXD2bグリッド。緩斜面に立地する。遺構検出面はⅢ～Ⅳ層上面である。[形状]長軸1.70m×短軸1.54m、深さ0.28mを測る。不整隅丸方形に浅く掘り込まれた施設である。断面は皿状に近いがあまり平坦ではなかった。底面は貼床を施している。[埋土]大小の炭粒を多く含み、焼土粒も少量見られた。埋土上位には十和田a火山灰も堆積している。[遺構の性格]平安時代の炭窯と考えられる。

遺物(第43図、写真図版79) 弥生土器片(42)が32.5g、ロクロ整形の土師器甕や須恵器壺小片が72.7g出土している。

SX03

遺構 (第74図、写真図版65) [位置] 調査区南端のIXD3bグリッド。緩斜面に立地する。遺構検出面はⅢ～Ⅳ層上面。[形状] 二つの施設の重複で北側が新しい。北：長軸1.57m×短軸1.56m、深さ0.28mを測る。隅丸方形に浅く掘り込まれた施設である。断面は皿状に近い。壁が焼けている。南：長軸1.19m×短軸1.18m、深さ0.29m。平面形は不整形で、浅く掘り込まれた施設である。断面は皿状。[埋土] 北：大小の炭粒が埋土下部に広がる。焼土粒も少量含む。埋土上位には十和田a火山灰が堆積している(二次堆積ではない)。南：地山ブロックを不規則に含む人為堆積。[遺構の性格] 出土遺物はないが、北側の施設は平安時代の炭窯と考えられる。南側は北側の付属施設の可能性がある。

遺物 (第92図、写真図版89) 縄文土器片やロクロ整形の土師器坏(内面黒色処理しない)などが117.9gと、不定形石器IC1(200)が1点出土している。

SX04

遺構 (第74図、写真図版66) [位置] 調査区南端のIXD7cグリッド。緩斜面に立地する。遺構検出面はⅣ層上面である。[形状] 長軸2.50m×短軸1.49m、深さ0.15mを測る。隅丸長方形に浅く掘り込まれた施設である。断面は皿状に近いが、あまり平坦ではない。[埋土] 大小の炭粒と焼土粒を含む人為堆積であった。[遺構の性格] 出土遺物はないが、古代の炭窯と考えられる。

遺物 (第43図、写真図版79) 弥生土器片が29.9g出土している(43)。

SX05

遺構 (第75図、写真図版66) [位置] 調査区南端IXD5eグリッド。斜面地に立地。遺構検出面はⅣ層上面。[形状] 屋外に設置された焼成遺構(炉跡)である。斜面地形を利用して構築されており、斜面上位の標高が高いほうに燃焼部が、斜面下位の標高が低いところには、燃料を投入したり燃え滓を掻き出したりといった諸作業を行う空間と考えられる浅い掘り込みが見られる。燃焼部の断面形は袋状になっていたと推測されるが、その下半部のみが残存している。壁面は焼成により部分的に赤変している。また、壁面及び天井部が崩落し、その焼土塊が散乱した状態となっていた。全体規模：長軸2.38m×短軸1.22m、深さ0.32m。燃焼部：長軸1.52m×0.84m×0.32m。壁面には、ほぼ全面に被熱痕跡が残る。[埋土] 炭・焼土粒を含む褐色・黒褐色シルトで構成され、壁崩落土も見られる。

遺物 (第81図、写真図版79) 弥生土器片が77.0g出土している(44・45)。

時期 周囲には中世後半の掘立柱建物跡が複数分布しており、本遺構も同時期である可能性が高い。

SX06

遺構 (第75図、写真図版66) [位置・重複関係] IXD9iグリッド付近に位置する。北側でSD11を切る。[規模・形状] 長軸方向はN-31°-Eで、形状は不整形である。規模は、北東-南西方向が3.71m、北西-南東方向が2.19mである。深さは最大0.4mである。[埋土] 4層に分層した。1層は黒褐色土主体であるが、2~4層は褐色土または黄褐色土主体で、ブロック状の土を多く含み、締まりが強い。2~4層は人為的埋め戻しによるもので、埋まりきらなかった窪みに1層が自然堆積したと考えられる。[床・壁面] 床面は平坦ではなく、凹凸がみられる。壁の立ち上がり方は一様ではなく、オーバーハングしている部分もある [柱穴・土坑] 床面に柱穴3基を検出した。(川又)

遺物 (第90図、写真図版87) 11世紀代とみられる土師器坏類が廃棄された状態で出土(155~

160)。

SX07

遺構 (第 75 図、写真図版 67) [位置・重複関係] 調査区北東部付近 (ⅢE5a グリッド) に位置する。遺構検出面はⅣ層上面である。[規模・形状] 検出面での規模は、北-南方向が 2.24 m、西-東方向が 1.25 m である。深さは最大 0.4 m である。[埋土] 炭粒、焼土ブロックを含む人為堆積である。[床・壁面] 床面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。南西隅にステップ状の段差がある。

遺物 (第 100 図、写真図版 96) 埋土下層から鉄鏟 (或いは槍先) (258) が、他に土師器坏や甕の破片 (114 g) が出土している。

SX08

遺構 (第 75 図、写真図版 67) [位置・重複関係] 調査区北東部付近 (ⅢE5b グリッド) に位置する。遺構検出面はⅣ層上面である。[規模・形状] 検出面での規模は、北-南方向が 1.93 m、西-東方向が 1.26 m である。深さは最大 0.1 m である。[埋土] 地山ブロックを含む人為堆積である。[床・壁面] 床面は概ね平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

遺物 出土遺物なし。

SX10

遺構 (第 76 図、写真図版 67) [位置] ⅢE4D グリッドの段丘際、東へ下る緩斜面に、調査区内外を跨ぐ形で位置する。Ⅳ層上面で検出した。SKT40 と重複し、本遺構が新しい。SX10 は、竪穴建物 3 棟 (SX10-1、-2、-3) が南北に重複していると考えられる。重複関係から -1 が一番新しい。-2、-3 の新旧関係は不明である。

〈SX10-1〉 [位置] SX10 中央に位置する。[規模・平面形] 断面から推定される規模は 1 辺 4 m。平面形は、残存する南西角から方形基調と思われる。西壁を基準にした軸方向は N-1°-E。深さは検出面から最大 0.35 m。[断面・埋土] 3 層に分層した。1、2 層は黒色、褐色粘土で包含物から自然堆積の可能性がある。3 層は崩落土を含むため自然堆積と考えられる。[壁・床面] 壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 柱穴 2 基 (Pit2、6) を床面で検出した。Pit2 は南西隅に、Pit6 は北西隅付近に位置する。規模は共に直径 0.3 m、深さは Pit2 が 0.75 m、Pit6 が 0.7 m。平面形は略円形である。堆積土は褐色粘土の単層である。竪穴堆積土の 2 層と同質土であることから自然堆積の可能性がある。[機能] 不明である。[時代] SX10-2 より新しいため、10~11 世紀以降に機能していた可能性がある。

〈SX10-2〉 [位置] SX10 北側に位置する。[規模・平面形] 西壁から推測される規模は 1 辺 4.7 m 以上。平面形は不明。西壁を基準にした軸方向は N-2°-E。深さは検出面から最大 0.3 m。[断面・埋土] 堆積土は 2 層に分層した。-1 の 1、3 層と似た土質で、自然堆積の可能性がある。[壁・床面] 壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。[付属遺構] 鍛冶炉 1 基 (SL1)、柱穴 6 基 (Pit 1、3、4、5、7、8) を床面で検出した。一柱穴一 Pit1 は北東隅、PIT3 は南東隅、Pit4、5 は南西隅、Pit7、8 は中央に位置する。規模は Pit1、3、5 が直径 0.2 m、深さ 0.2 m。Pit4 が直径 0.3 m、深さ 0.2 m。Pit7、8 が直径 0.25 m、深さは Pit7 が 0.11 m、Pit8 が 0.18 m である。堆積土は Pit1、5、8 が黒色土、Pit7 が黒褐色土の単層である。竪穴堆積土の 4 層と類似した土質であることから自然堆積の可能性がある。一鍛冶炉一床面中央に位置する。隣接する鍛造剥片の集中範囲を含め、鍛冶炉と考えられる。

焼土の規模は径 0.2 m、平面形は略円形である。焼成は厚さ最大 0.02 m である。鍛冶滓集中範囲の規模は径 0.60 m、平面形は略円形。鍛冶滓を含む堆積土の厚さは最大 0.14 m、底面は凸凹で不整である。堆積土は 2 層に分層した。鍛冶滓を多く含む。[機能]SX10-2 は鍛冶炉から鍛冶工房跡と考えられる。[時代] 周辺の遺構から、10～11 世紀の遺構の可能性はある。

〈SX10-3〉 [位置] SX10 南側に位置する。SKT40 と重複している。[規模・平面形] 断面から推定される規模は 1 辺 2.6 m 以上。平面形は、南西角から隅丸方形と考えられる。西壁を基準とした軸方向は N-8°-W。深さは検出面から最大 0.35 m。[断面・堆積土] 堆積土は 5 層に分層した。6～9 層は地山由来の軽石、霧状、塊状黄褐色粘土を含み、10 層は崩落土を多く含む。崩落土から自然堆積と思われる。[壁・床面] 壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。[機能] 不明である。[時代]-2 との重複が不明なことから、10～11 世紀には機能していた可能性がある。

遺物 (第 90 図、写真図版 87) 土器類 210.4 g が出土した。全て見たうえで推定される個体数は、高台付坏 1 (161)、甕 1 などである。鍛冶炉から鍛造剥片 12 g が出土している。

4 出土遺物

(1) 縄文・弥生土器 (第 77～82 図、写真図版 77～80)

縄文時代の土器は前期と中期が中心である。前期の土器は遺構外から、中期の土器は竪穴住居跡や土坑からの出土が多い。点数が多くないため分類は行わないこととし、各土器の特徴については観察表に記載した。

弥生時代の土器は前期を中心とする。調査区の南東部では比較的まとまった量の出土があったが、竪穴住居跡などは検出できなかった。甕、壺、高坏、鉢類などがある。破片資料が中心である。縄文土器と同様に各土器の特徴については観察表にまとめた。(杉沢)

縄文前期土器

[掲載] No. 10・11・16・19～24・30・31 などが該当する。[特徴など] 胎土中に繊維の混入が認められる土器群で前期前葉と捉えられる。土器型式は全般に特定が困難なものを主体とするが、環付き末端ループ、縄文原体の重層施文、組縄縄文 (いわゆるピッチリ縄文) などの属性から、大木 1 式に比定できるものが一定数含まれる。また、結節回転文などの属性を持つものは大木 2a 式若しくは大木 2b 式と推定される。[主なもの] 大木 1 式としては No. 10 が挙げられる。大ぶりの波状口縁を呈し、口縁部は無文帯、胴部地文は 0 段多条 RL を用いて横回転に施文、その回転の際に原体の末端を押し付けることで表出された環付き末端ループの手法が採用されている。その後と同じ原体を用いて一部重層させて縦回転が施文される (※ごく一部分は羽状縄文を意識しているようにも見て取れる)。胎土中には多量の繊維が混入される。組縄縄文を施文する No. 30 についても大木 1 式の可能性がある。No. 19 は、L と R (無節) を結束した結束羽状縄文による菱形文様を意識的に表出している。結束羽状縄文と口唇部が平滑を呈する特徴を加味すると大木 2a 式の可能性が高い。他に No. 22 と No. 24 は結節回転文が施文される一群で、No. 22 は大木 2a～2b 式、No. 24 は大木 2b 式と推定される。

縄文中期土器

[掲載] No. 1・3～8・12～14・17・18・25～28・32・36 などが当該期と判断される。[特徴など] 中期は初頭と中葉が出土している。大木諸形式に比定させると、中葉大木 8a 式が主体を占め、初頭大木 7a 式 (No. 25 など) がごく少量含まれる。主体を占める大木 8a 式の研究動向として、岩手県沿岸地域の大木 8a 式を検討した須原拓氏の最新研究を参考に以下に主なものを文章記載する (須原:

2019)。

[主なもの] No.1はRL縦回転による斜行縄文が整然と帯状を呈する。この縦方向の縄文帯状同士の間は6~9mmくらいの間隔で施文されることで、無文部(粗面部)が形成されている。No.3はキャリパー形深鉢で円形の透かしが施された突起が1単位で付加される。口縁部の文様施文は、LR横回転→貼り付け隆線による横方向に展開する渦巻き文付のクランク状文→沈線文の順をみる。頸部はLR縦回転→沈線文と、施文順は口縁部と同様にあるが縄文原体の回転方向に違いが認められる。No.4はキャリパー形深鉢で、穏やかな波状口縁をみる(※平縁ではない)。口縁部はLRの原体による横回転と縦回転が併用され、ややランダムな様相に見てとれる。縄文施文後に、貼り付け隆線により文様モチーフされるが、この隆線は貼り付けた後に調整が施されていないことから、大木8a式と特定する一つの判断基準とした。頸~胴部はLR縦回転を施文後に多重沈線(3条)で文様モチーフされている。No.7・8はキャリパー形深鉢の口縁部片で、接点がないものの同一個体である。無文地に2本の粘土紐を横方向に貼り付けている。外面全体にヨコナデが施されているが、No.7では貼り付け隆線の存在が把握できる程度にナデが施されているのに対して、No.8では器表面と貼り付け隆線の境が不明瞭な程度にまで(隆線であったことが分からない状態にまで)ヨコナデがしっかり施されている。このことは、同一個体にあっても部位や部分によってヨコナデの調整具合(調整の程度)に開きが存在することを示している。No.12は口縁部が外反し体部がやや膨れる器形の深鉢(須原深鉢B類)である。口縁部上半に縦位の短い原体圧痕文が連続施文され、その下方に横位隆帯が口縁部と頸部を区切るような位置に貼り付けられている。この横位隆帯は、土器の器面から背丈が高い特徴がある。頸部に細い粘土紐による横位隆線、体部はLR縦回転→貼り付け隆線→隆線の側縁に沈線が沿う施文順となる。また、口縁内面にも横位隆線が貼り付けられ、その後で丁重なミガキが施される。No.17は浅鉢で口縁部~底部まで全体の器形が把握できる資料である(略完形個体)。口縁突起は透かしが施された方形突起で、突起の上面観は「耳状」を呈する。突起から垂下する隆線による蛇行文などの文様は4単位で施文されている。口縁上半に見られる縄文原体による押圧文や口縁~胴部の蛇行文などは、大木7b式の属性を継承していると捉えられるが、全体の文様構成は大木8a式の中でも新相に相当する。所見として、口縁突起の形態は中期円筒式土器の要素とも類似する(突起形態は円筒上層b~d式と類似性が高い)。No.32はLR施文後に3条1単位の多重沈線により文様モチーフされる深鉢である。縄文原体の回転方向は縦・横・斜回転と、ランダムに施文されている。隆線の上にも沈線が引かれ、また隆線の側縁はミガキが施されている。胎土はカッチとした硬質感のある焼きである。

縄文後期土器

[掲載] No.2・9・61。[特徴など] 後期は初頭~中葉まで3点が出土している(全て掲載)。

[主なもの] No.2は深鉢で、波状口縁の頂部から縦位に押し引き状に沈線文が垂下し、それと連結するように連鎖状隆起線文が横方向に走り、さらにはボタン状貼り付け文が付加される。時期は、上記の諸特徴から門前式若しくは門前式の直後くらいと推定される。No.9は、折り返し口縁を呈する特徴から後期前半と推定される。特記事項として、胎土中に多量の小礫が混和剤として混入されている。No.61は口縁部が大きく開く器形の深鉢体部と推定される。節の小さな縄文を施文後に沈線モチーフ及び沈線に沿うように刺突列が施文される。その後磨消縄文手法が認められる。時期は後期中葉の古手、十腰内2式の並行期と推定される(加曾利B2式前後の並行期か)。

縄文晩期土器

[掲載] No.39の1点を確認した。[特徴など] 文様などから明らかに晩期と特定できるのは少ない。また、粗製の深鉢の破片の中で、縄文晩期か弥生前期なのか区分が困難なものは、次項の「縄文晩期

から弥生前期」に分類した。[主なもの] No.39 は中葉の大洞 C1 式のメルクマルである雲形文と、前葉大洞 BC 式のメルクマルである羊歯状文が同一個体で共伴する。器種は浅鉢である。他に縄文晩期末～弥生前期と時期幅を広げて捉えたものが多数あるが、それらは明確には時期特定ができなかったものである。

縄文晩期末～弥生前期

[掲載] No.29・35・38・43～45・48～51・54・57・59～62・64・65。[特徴など] 縄文晩期土器と弥生土器の過渡期に相当する土器群である（両者を区分できなかったものを一括する）。金附遺跡の分類ではⅡ群～Ⅲ群 2 類の範疇になる。なお、本稿で器種名は縄文晩期と弥生は統一することとする。具体的には千苺遺跡に準拠して晩期も弥生も「深鉢」、「台付き浅鉢」の用語を使用する。[主なもの] ここに分類したものは、上記のとおり縄文晩期と弥生を区分できなかった土器群で、器種も深鉢以外が多く、鉢、台付き浅鉢、壺などが認められる。

弥生前期土器

[掲載] No.33・34・37・40～42・46・47・52・53・55・56・58・63。[特徴など] 金附遺跡の分類を参考とした。また、同分類に準拠した千苺遺跡の報告書の分類も参考としている。[主なもの] No.33 は弥生前期の浅鉢と推定される。磨消縄文が施されている特徴から前期後半、若しくは中期の可能性もある。(星)

(2) 土師器・須恵器 (第 83～90 図、写真図版 81～88)

竪穴住居跡からの出土が最も多く、それらは基本的に遺構に伴うものと判断した。何れも平安時代のもので 8 世紀以前の土師器・須恵器は見られない。それぞれの特徴については遺物観察表と各遺構の項目で記載している。灰釉陶器は出土しなかった。

SI01・02、SX07 からは 11 世紀頃と見られる土師器が複数出土した。坏や高台付坏等複数の器種があり、本県では類例もまだ多くはない時期であり、貴重な資料が得られた。

(3) 陶磁器 (第 91 図、写真図版 88)

陶磁器は中世と近世のものに大別し、古代の須恵器は項を分けた。中世の陶磁器は陶器と磁器に分けられ、前者は瀬戸美濃産の陶器（大窯期）、後者は中国産の染付であった。時期は何れも 16 世紀代である。15 世紀よりも古い陶磁器は出土しなかった。

近世陶磁器は肥前産陶磁器とその他産地の陶器とに分けられる。18 世紀から 19 世紀のものが中心で、16 世紀末から 17 世紀の陶磁器は出土しなかった。近現代の陶磁器も極微量しかない。

(4) 石器・石製品 (第 92～97 図、写真図版 89～93)

石器・石製品は遺構外からの出土が中心であるが、主に縄文・弥生時代のものである。石器の種類ごとに細分して点数や重量を計測したものを一覧表にまとめた。それによると本遺跡では剥片石器製作時に生じた剥片類が多いこと、磨製石斧の未完成品が一定量出土していること、敲石、磨石、石皿などが少ないことなどが特徴として挙げられる。石器製作の痕跡は認められるものの、竪穴住居跡、土坑類といった集落構成遺構は多くない（本来は存在していたが、見つけれなかった）ことが、石器組成にも影響していると思われる。今回の調査では他地域（岩手県以外）から持ち込まれたような石器・石製品は見られなかった。砥石は中世が 1 点、その他は近世である。

(5) 銭貨 (第 98・99 図、写真図版 94・95)

出土した銭貨は中世のものと近世のものに大別される。中世の銭貨は墓壙に入れられていたものである。墓壙から単独で出土したものや、複数枚が入れられていたもの等がある。最も多いのは永楽通宝で、複数の墓壙からは計 16 枚出土した。永楽通宝をはじめ洪武通宝や宣徳通宝といった明銭が主体を占めている。他に開元通宝、元祐通宝、銭名不明のものが少量ある。

近世の銭貨(寛永通宝)は、掘立柱建物跡を構成する柱穴や溝跡から出土しており、所謂古寛永と新寛永があるが点数は多くない。銭貨については中世・近世含めて出土した全てを掲載している。

(6) 金属製品 (第 100 図、写真図版 96・97)

金属製品は竪穴住居跡と土坑から出土している。刀子と見られるもの、鏃、釘、器種不明のものに分けられる。刀子と見られるものは平安時代の竪穴住居跡から出土した。釘は墓壙から出土しており、棺に使われていたものと考えている。

(7) 土製品 (第 80 図、写真図版 93)

土錘が 2 点と玉が 1 点、羽口が 1 点あり、出土した全てを掲載した。

(8) その他 (鉄滓、炉壁、粘土塊、獣骨) (第 91 図、写真図版 96~98)

鉄滓・炉壁は平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡、遺構外から出土しているが、数は少ないのでごく小規模な操業(鍛冶)であったと考えている。

粘土塊はその多くが平安時代の竪穴住居跡から出土している。カマドに限らず床面、貼床からも出土しているが、粘土塊自体が小さく原型を推定できないため詳細は不明である。

獣骨は土坑(墓)に埋められていたものであり何れも馬の骨であった。時期は SK120 から出土した磁器の年代観から 18 世紀頃と考えられる。各獣骨の特徴については第 V 章で分析と考察が行われている。(杉沢)

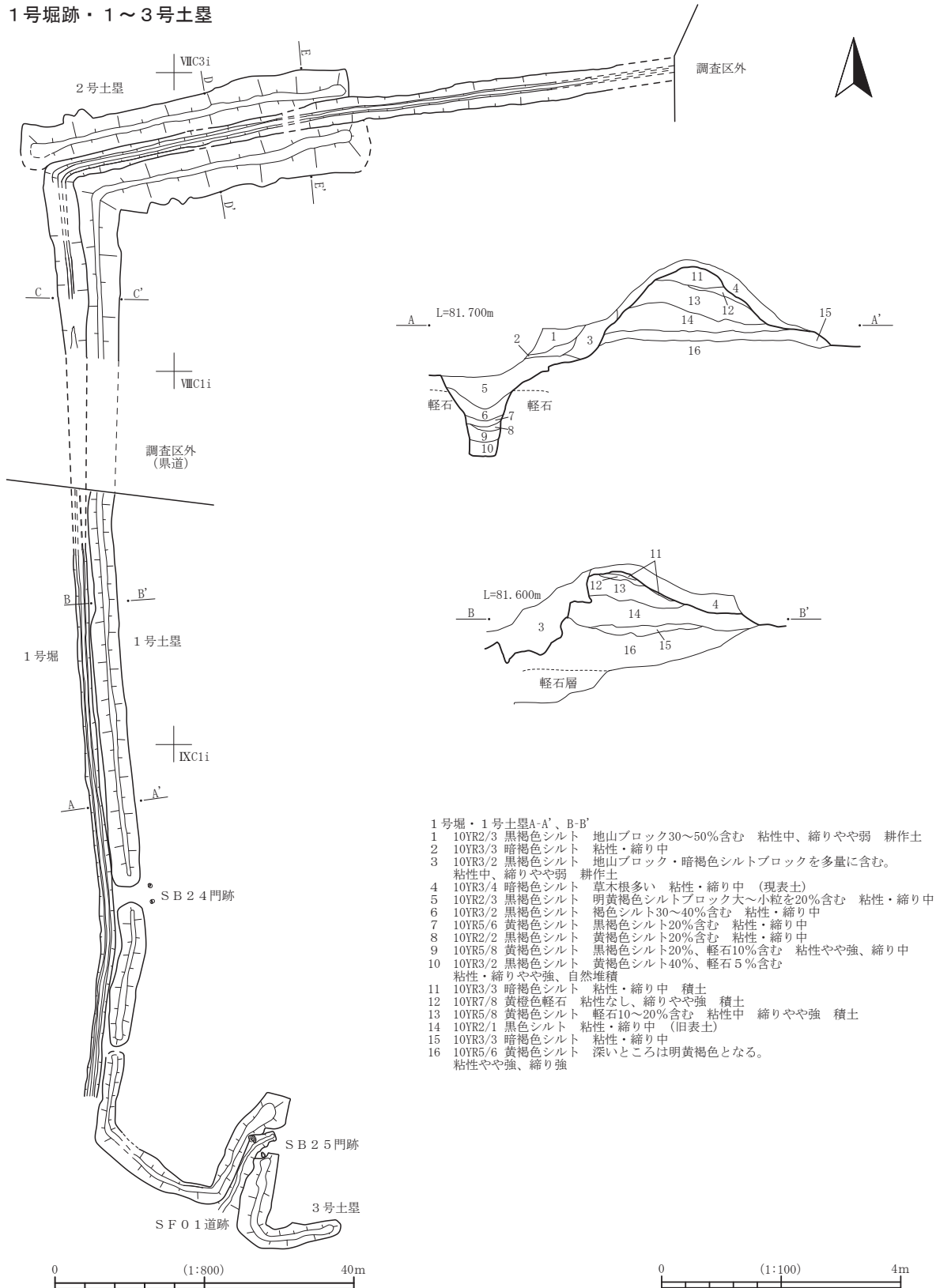
<縄文晩期末～弥生前期参考引用文献>

須原 拓 2019 「岩手県沿岸地域の大木 8a 式土器について―浜川目沢田 I 遺跡の資料から―」『紀要 38 号』(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手埋文 2016 『千苺遺跡発掘調査報告書』岩手埋文第 652 集

金子昭彦 2007 「大洞 A' 式から青木畑式へ―岩手県金附遺跡から見た東北地方中部・縄文時代直後の土器型式―」『縄文時代』18 縄文時代文化研究会

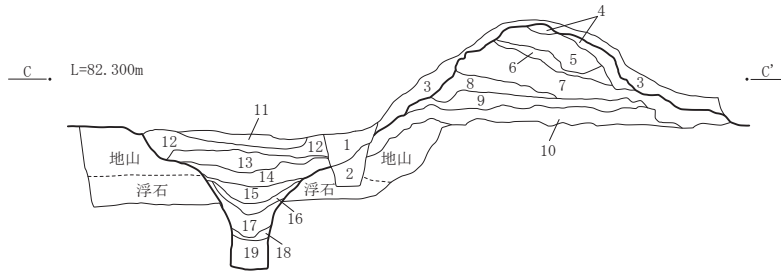
1号堀跡・1～3号土塁



- 1号堀・1号土塁A-A'、B-B'
- 1 10VR2/3 黒褐色シルト 地山ブロック30～50%含む 粘性中、縮りやや弱 耕作土
 - 2 10VR3/3 暗褐色シルト 粘性・縮り中
 - 3 10VR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック・暗褐色シルトブロックを多量に含む。粘性中、縮りやや弱 耕作土
 - 4 10VR3/4 暗褐色シルト 草木根多い 粘性・縮り中 (現表土)
 - 5 10VR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色シルトブロック大～小粒を20%含む 粘性・縮り中
 - 6 10VR3/2 黒褐色シルト 褐色シルト30～40%含む 粘性・縮り中
 - 7 10VR5/6 黄褐色シルト 黒褐色シルト20%含む 粘性・縮り中
 - 8 10VR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト20%含む 粘性・縮り中
 - 9 10VR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルト20%、軽石10%含む 粘性やや強、縮り中
 - 10 10VR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト40%、軽石5%含む 粘性・縮りやや強、自然堆積
 - 11 10VR3/3 暗褐色シルト 粘性・縮り中 積土
 - 12 10VR7/8 黄褐色軽石 粘性なし、縮りやや強 積土
 - 13 10VR5/8 黄褐色シルト 軽石10～20%含む 粘性中 縮りやや強 積土
 - 14 10VR2/1 黒色シルト 粘性・縮り中 (旧表土)
 - 15 10VR3/3 暗褐色シルト 粘性・縮り中
 - 16 10VR5/6 黄褐色シルト 深いところは明黄褐色となる。粘性やや強、縮り強

第12図 1号堀跡・1号土塁～3号土塁

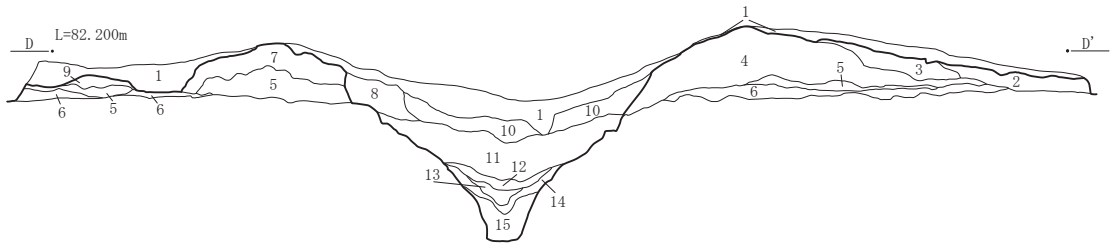
4 出土遺物



1号堀・1号土塁C-C'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 草木根多い 粘性弱、締りやや弱
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 地山ブロック20%含む 粘性中、締りやや弱
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 草木根多い 粘性・締り弱
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締り中
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト 軽石10~20%含む 粘性・締り中
- 6 10YR6/8 明黄褐色軽石 粘性なし、締りやや強
- 7 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中、締りやや強
- 8 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック20%含む 粘性・締り中
- 9 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締り中 (旧表土)
- 10 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中、締りやや強

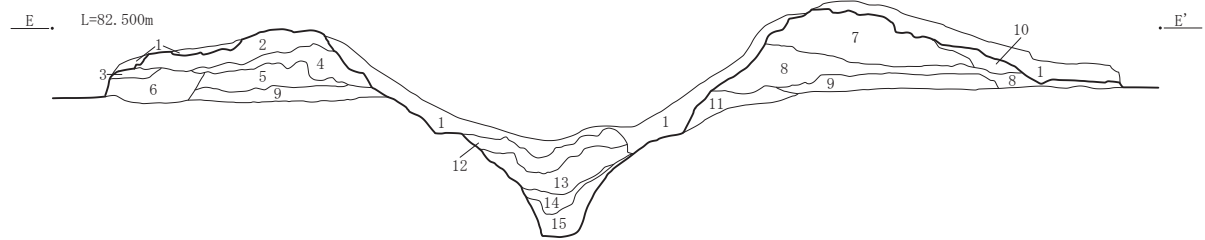
- 11 10YR2/3 黒褐色シルト 褐色シルトブロック、浮石を多量に含む 粘性・締り中
 - 12 10YR2/3 黒褐色シルト 褐色シルトブロックを10~15%含む 粘性・締り中
 - 13 10YR3/4 暗褐色シルト 褐色シルト小ブロックを30%含む 粘性・締り中
 - 14 10YR4/4 褐色シルト 黄褐色シルトブロック40~50%含む 粘性中、締りやや強
 - 15 10YR2/2 黒褐色シルト 16層との境は10YR3/2 黒褐色となる 粘性中、締りやや強
 - 16 10YR3/3 暗褐色シルト 浮石5%含む 粘性中、締りやや強
 - 17 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色シルト30~40%、浮石10~15%含む 粘性中、締りやや強
 - 18 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルト5% 粘性・締り中
 - 19 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルト10~20%、浮石10~15%含む 粘性中、締りやや強
- ※11・12層:耕作土、13・14層:土塁の崩れか、15~19層:自然



1号堀、1・2号土塁D-D'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 草木根多い 粘性・締り弱 (表土)
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・締り中
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト 浮石小粒を5%含む 粘性中、締りやや強
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 浮石30%含む 粘性中、締りやや強
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締り中 (旧表土)
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中、締りやや強
- 7 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 黒褐色シルトブロック30~40%含む 粘性中、締りやや強
- 8 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック5~10%含む 粘性・締り中

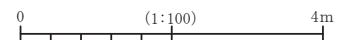
- 9 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック10%含む 粘性・締り中
- 10 10YR2/2~3/1 黒褐色シルト 浮石3%含む 粘性・締り中
- 11 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルト10~20%含む 粘性・締り中
- 12 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・締り中
- 13 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルト20~30%含む 粘性・締り中
- 14 10YR3/4 暗褐色シルト 黒褐色シルト10%、褐色シルト20%含む 粘性中、締りやや弱
- 15 10YR6/8 明黄褐色浮石、褐色シルト20%、黄褐色10%含む 粘性・締り中



1号堀、1・2号土塁E-E'

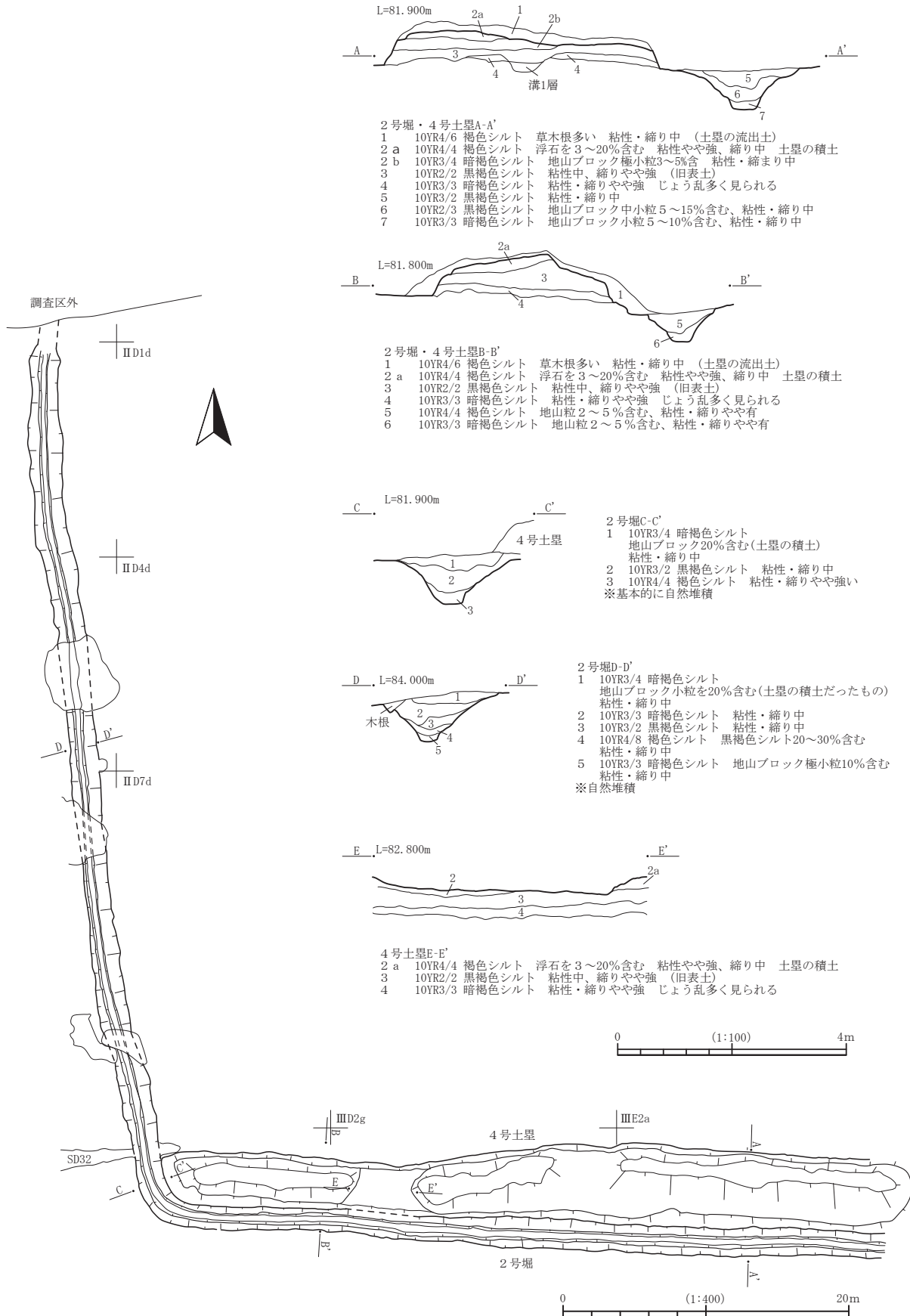
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 草木根多い 粘性・締りやや弱
- 2 7層と同じ
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 浮石10~20%含む 粘性・締り中
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック10%含む 粘性・締り中
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締り中 (旧表土)
- 6 10YR4/4 褐色シルト 軽石、黒褐色シルトが混じる 粘性・締り中
- 7 10YR6/8 明黄褐色シルト 浮石が上位にのる 粘性中、締りやや強
- 8 5層と同じ

- 9 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中、締りやや強
- 10 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック5%含む 粘性・締り中
- 11 10YR4/6 褐色シルト 粘性中、締りやや強
- 12 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締り中
- 13 10YR3/4 暗褐色シルト 浮石を不規則に10%含む 粘性・締り中
- 14 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締り中
- 15 10YR3/4 暗褐色シルト 褐色シルト30%、浮石15%含む 粘性・締り中



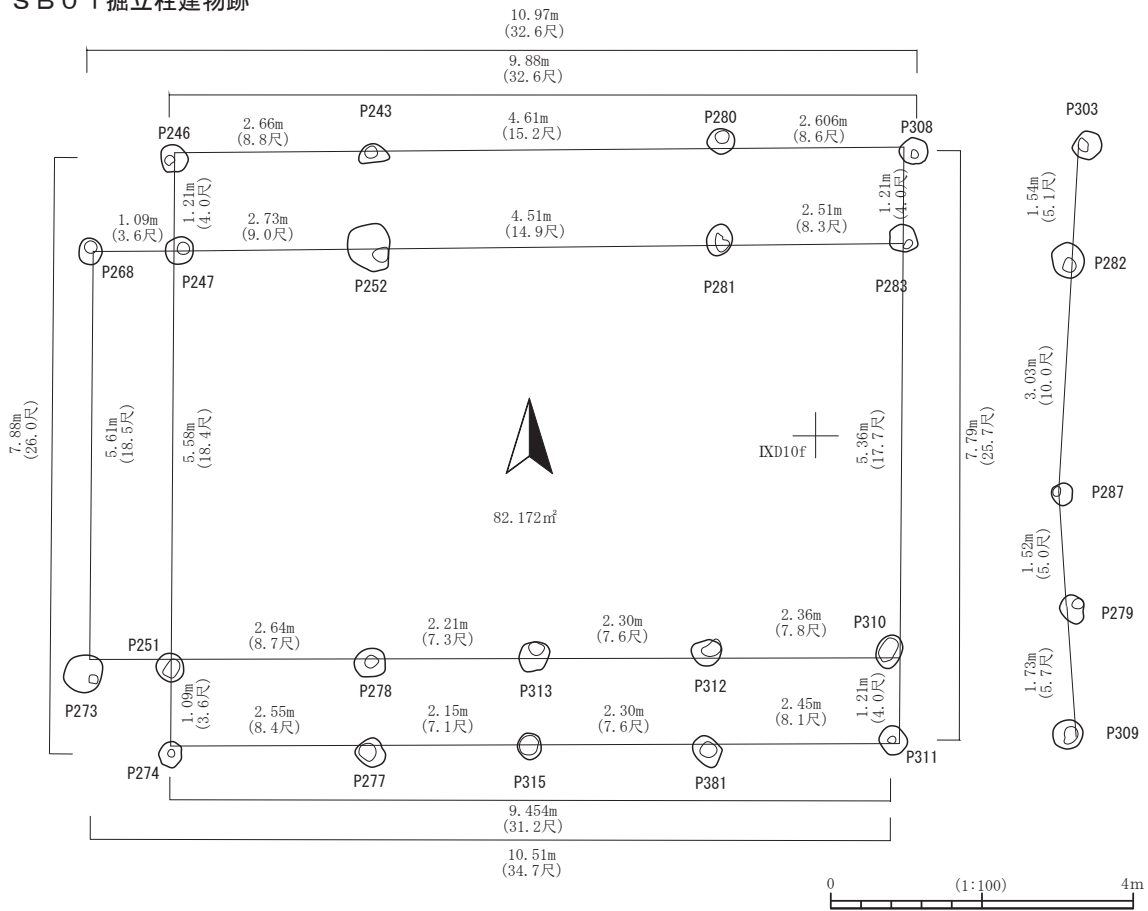
第13図 1号堀跡・1号土塁・3号土塁断面

2号堀跡・4号土塁

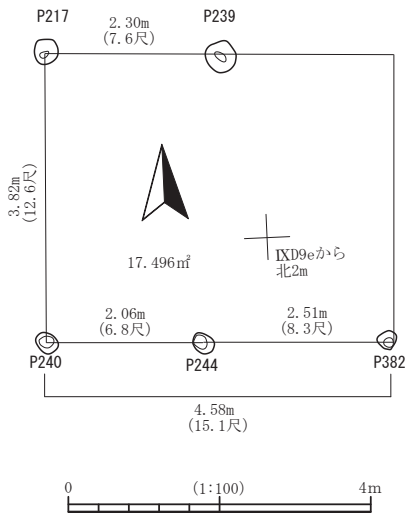


第14図 2号堀跡・4号土塁断面

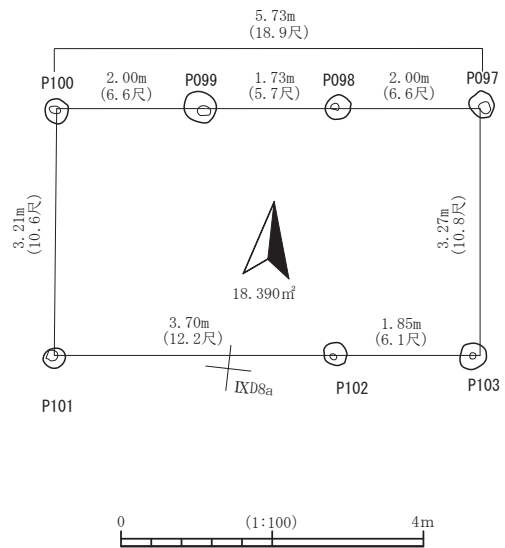
SB01 掘立柱建物跡



SB02 掘立柱建物跡

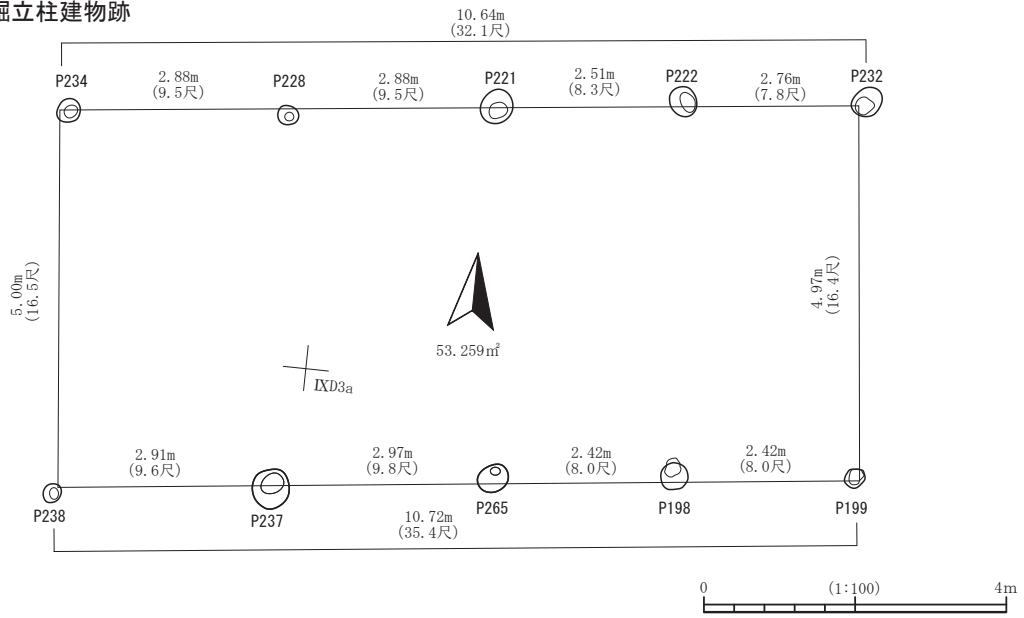


SB03 掘立柱建物跡

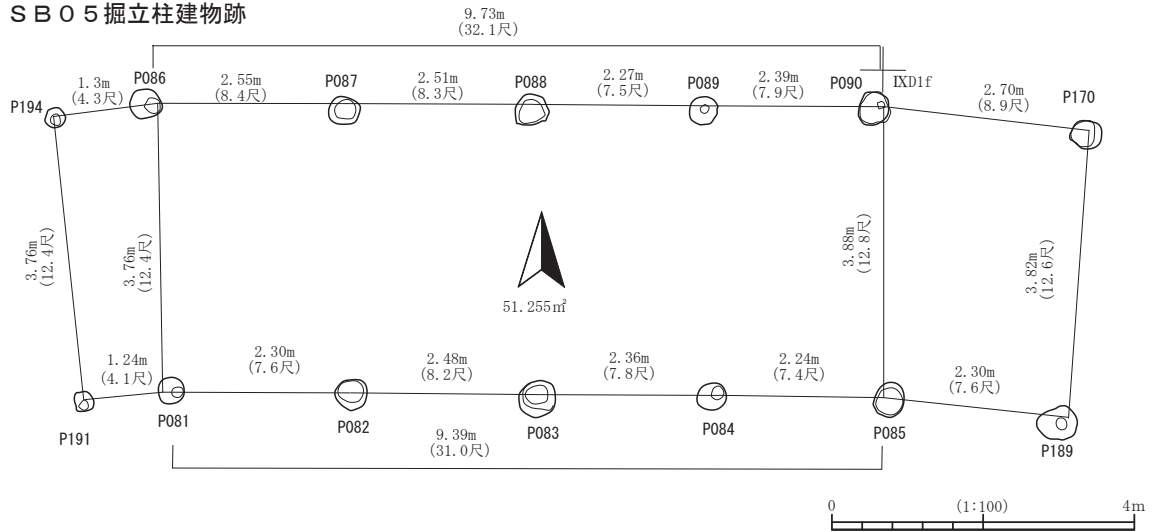


第 15 図 SB01~03 掘立柱建物跡

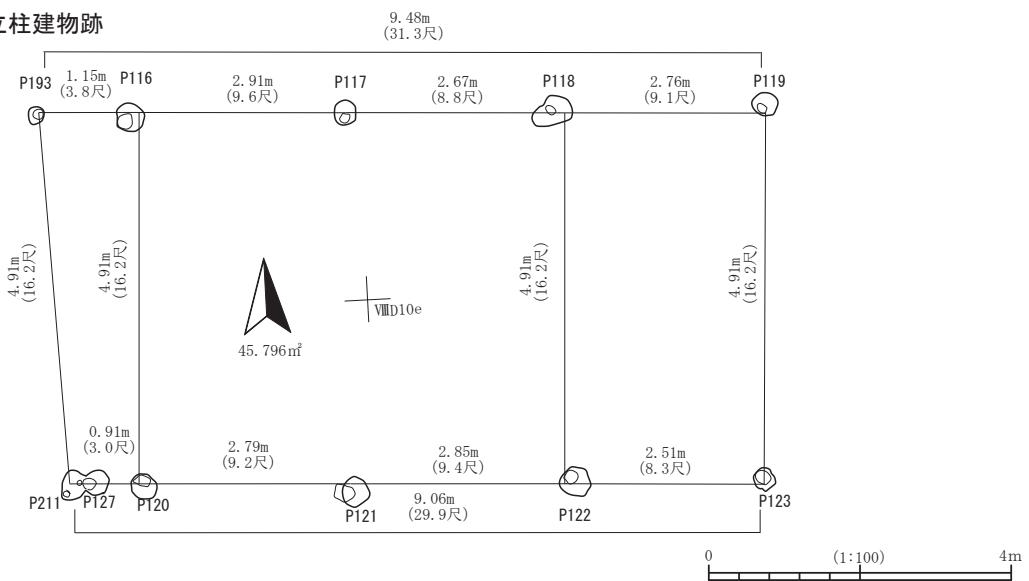
SB04 掘立柱建物跡



SB05 掘立柱建物跡

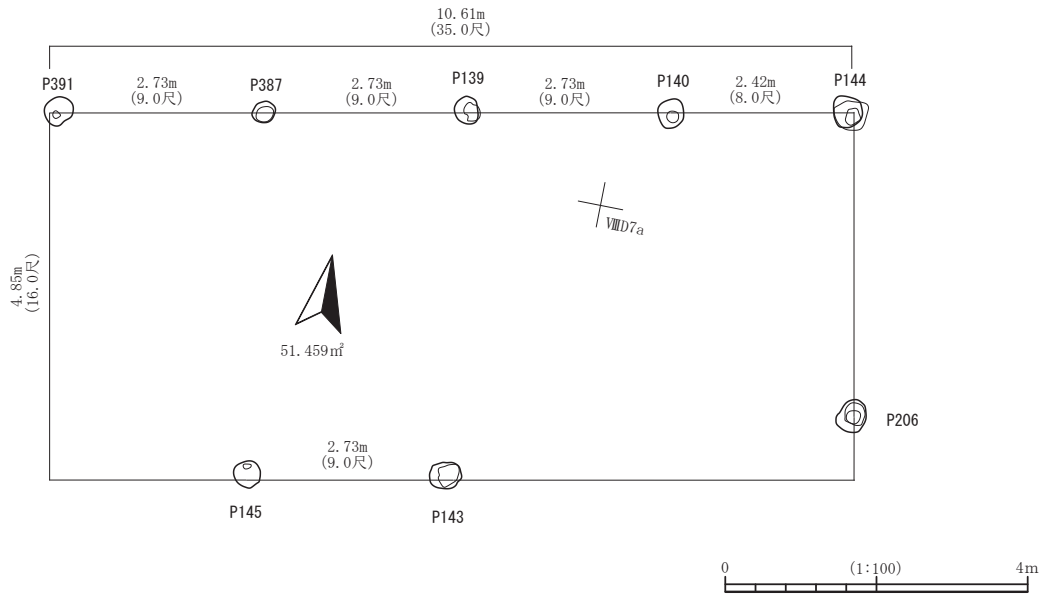


SB06 掘立柱建物跡

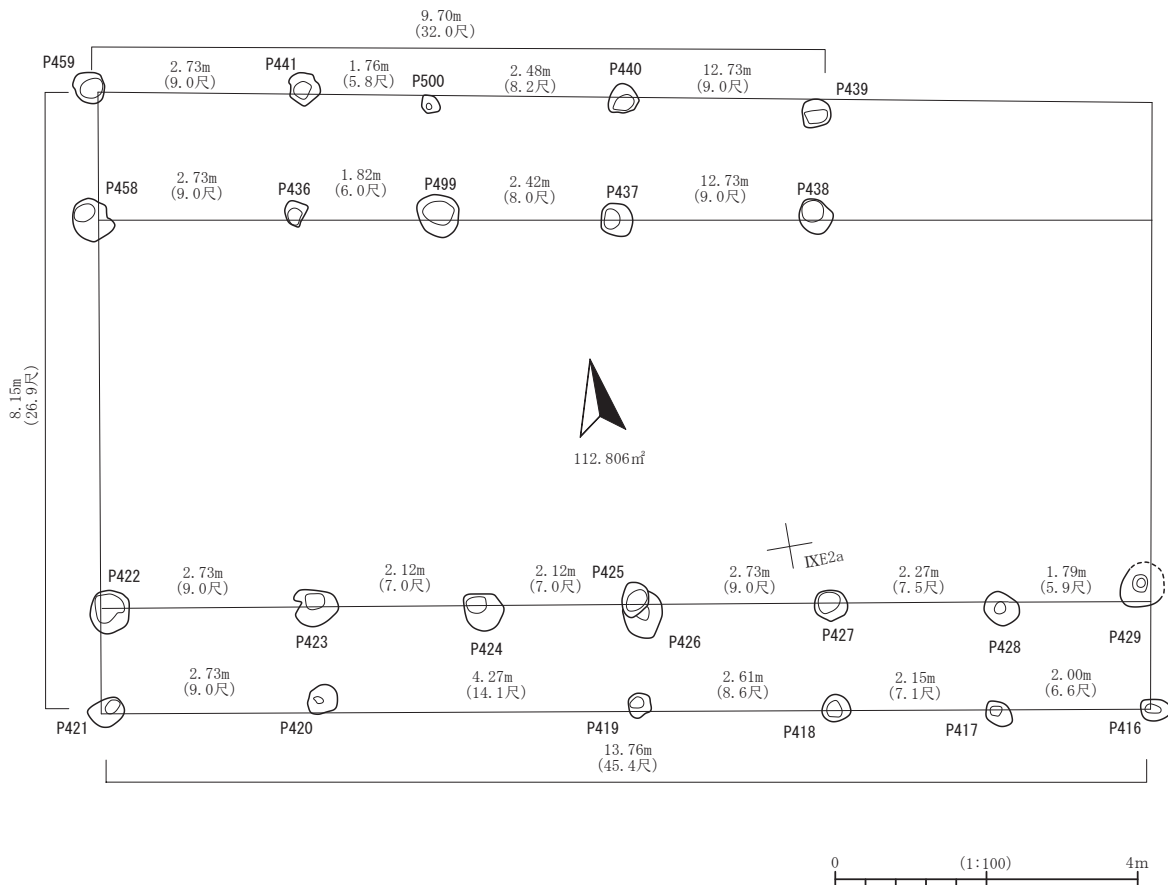


第 16 図 SB04~06 掘立柱建物跡

SB07 掘立柱建物跡

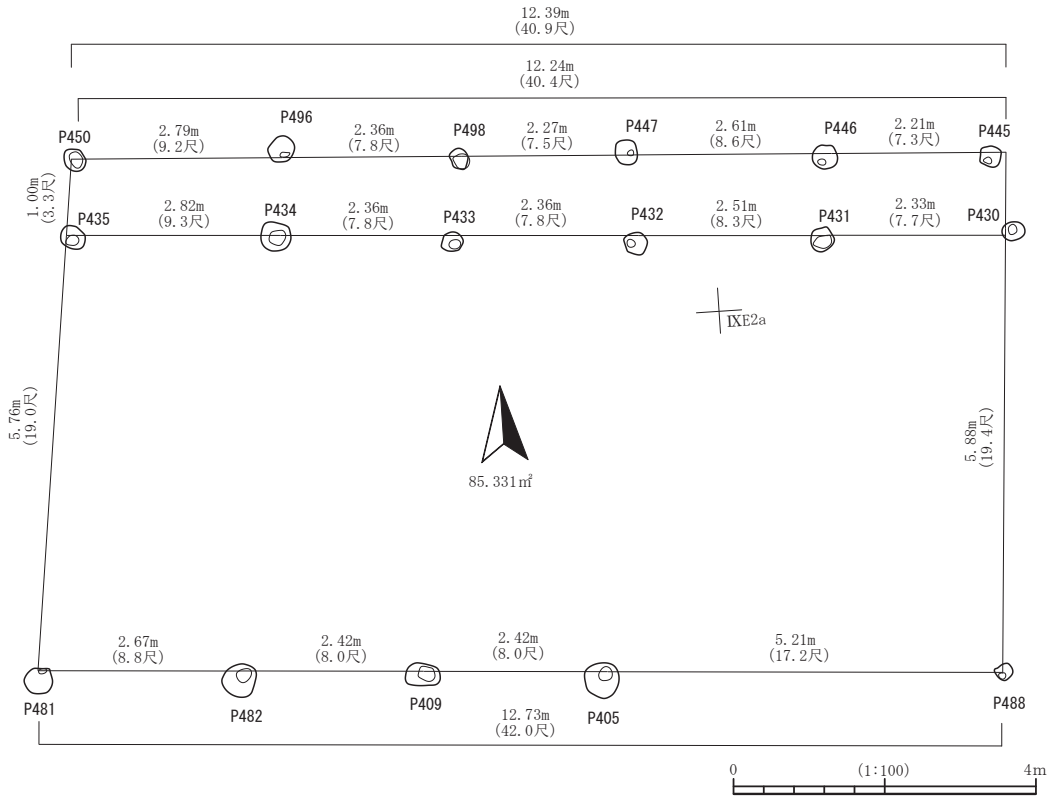


SB08 掘立柱建物跡

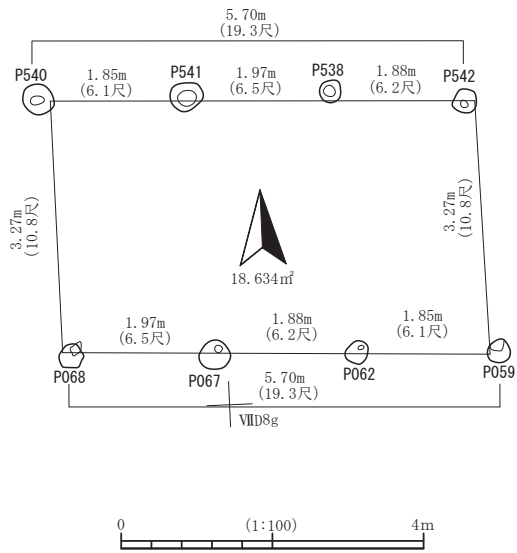


第 17 図 SB07・08 掘立柱建物跡

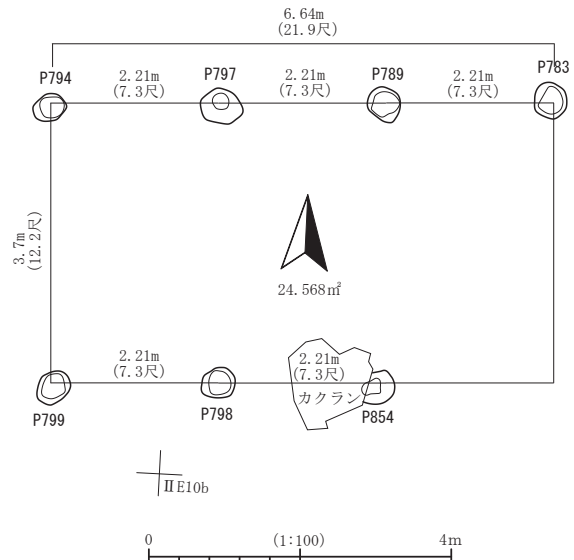
SB09 掘立柱建物跡



SB12 掘立柱建物跡

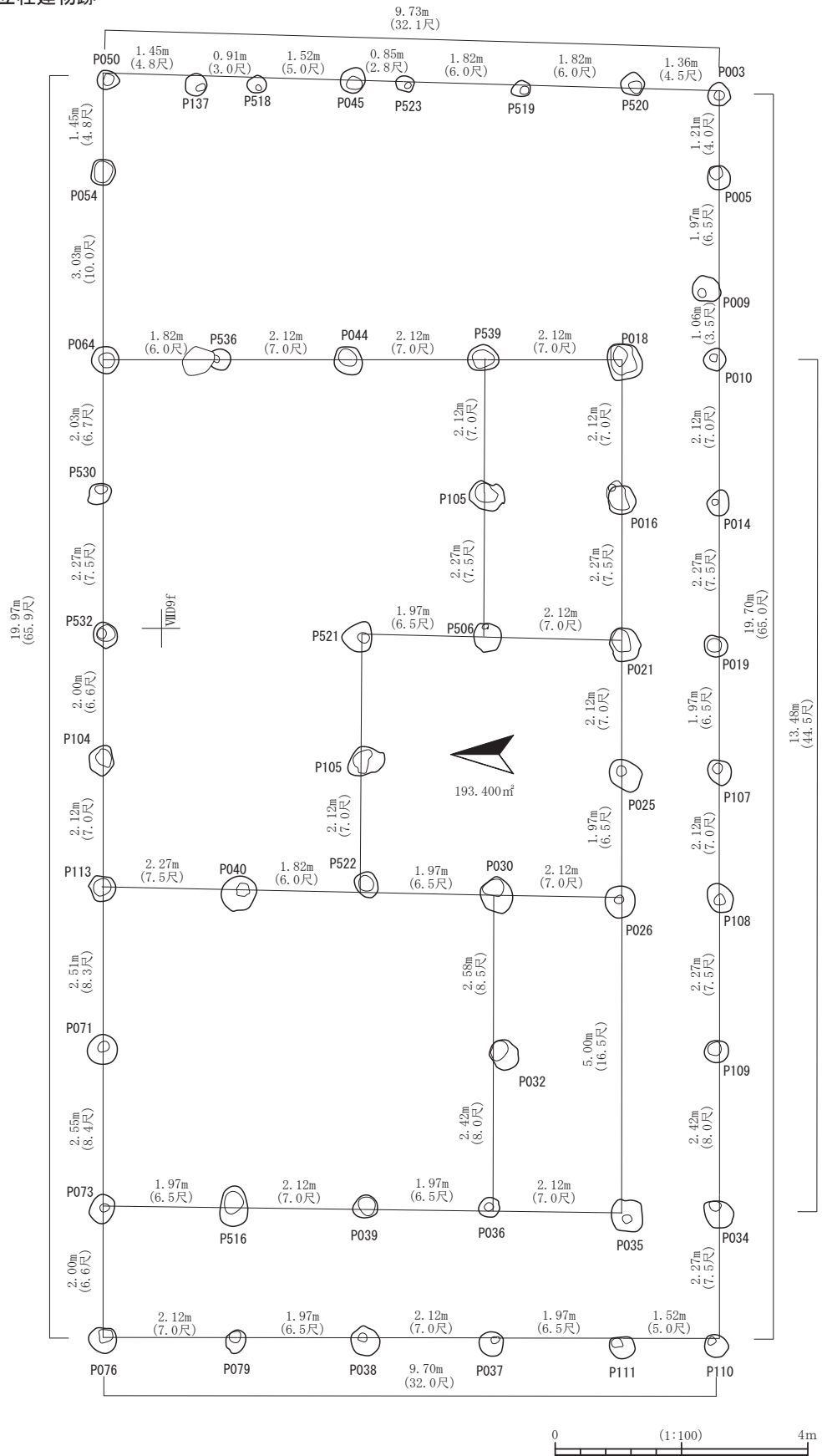


SB13 掘立柱建物跡



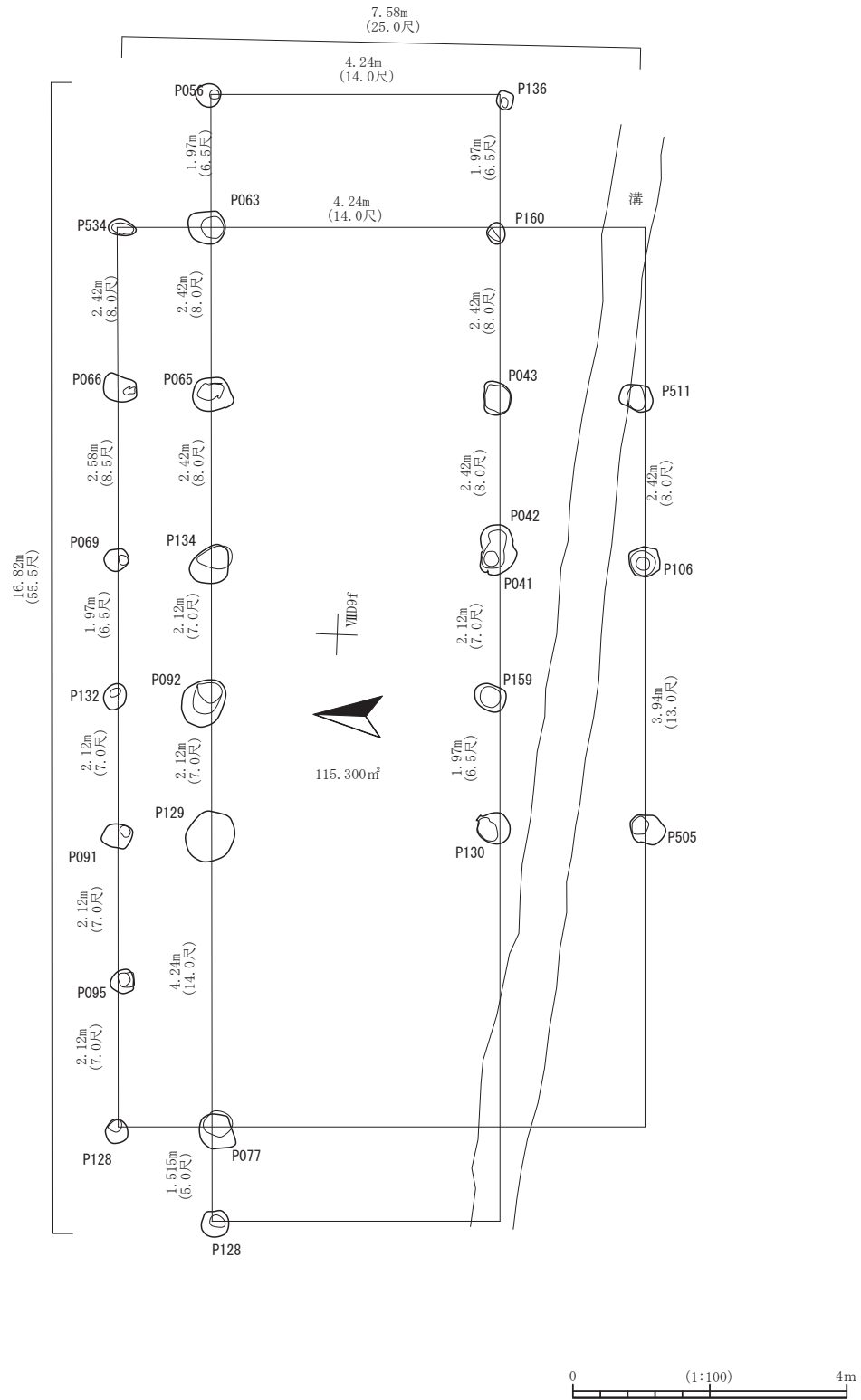
第 18 図 SB09・12・13 掘立柱建物跡

SB10 掘立柱建物跡



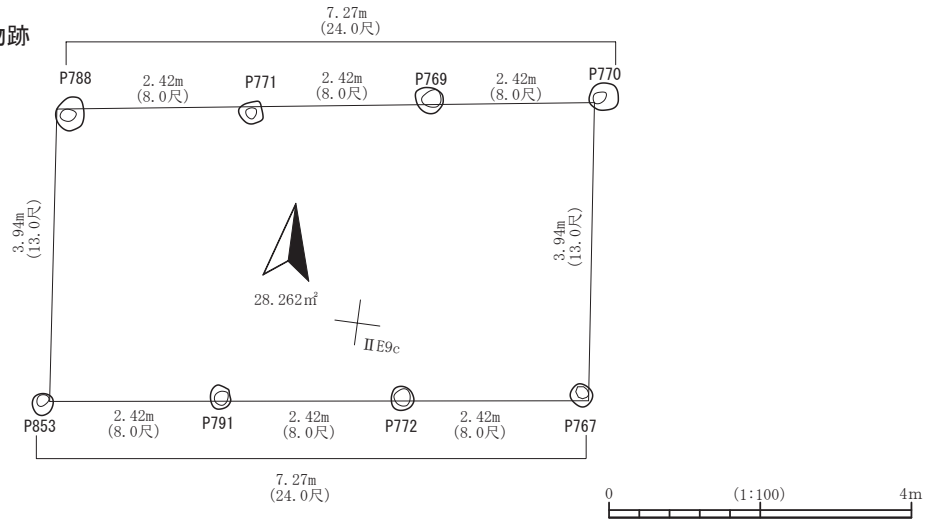
第 19 図 SB10 掘立柱建物跡

SB11 掘立柱建物跡

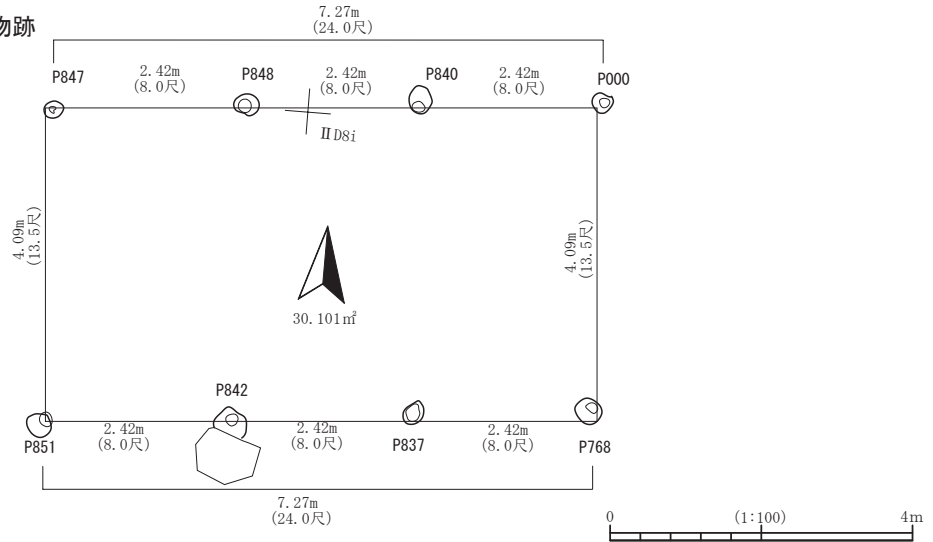


第 20 図 SB11 掘立柱建物跡

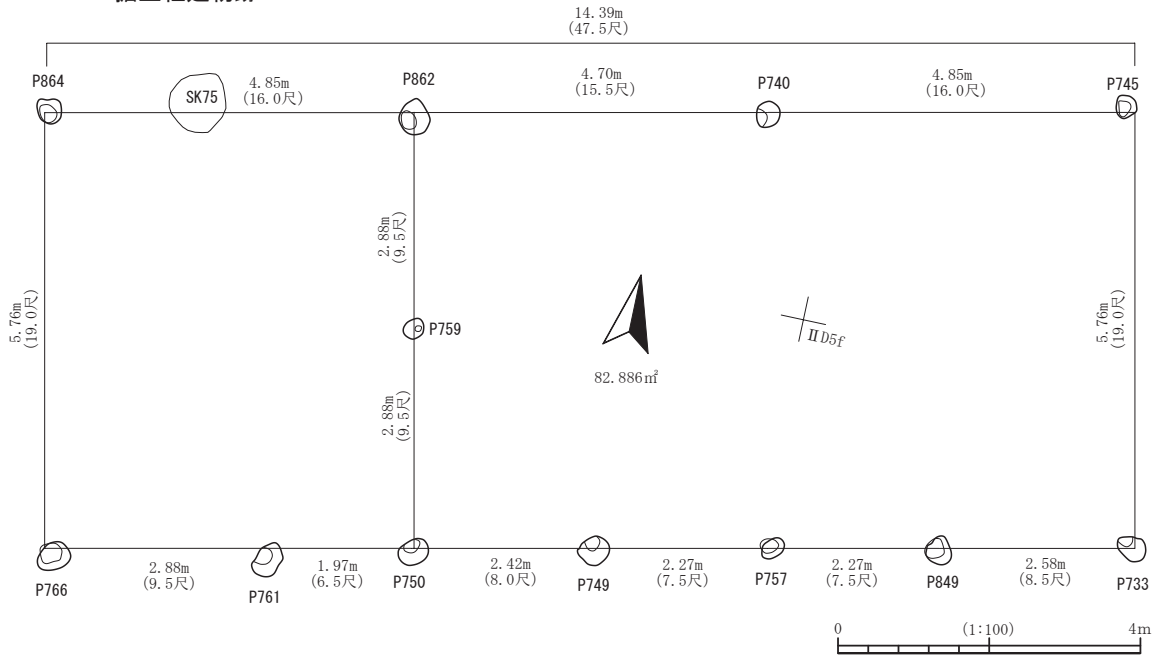
S B 1 4 掘立柱建物跡



S B 1 5 掘立柱建物跡

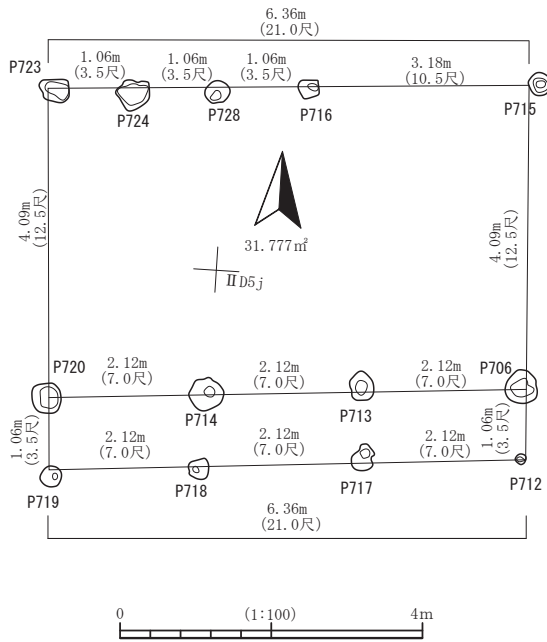


S B 1 6 掘立柱建物跡

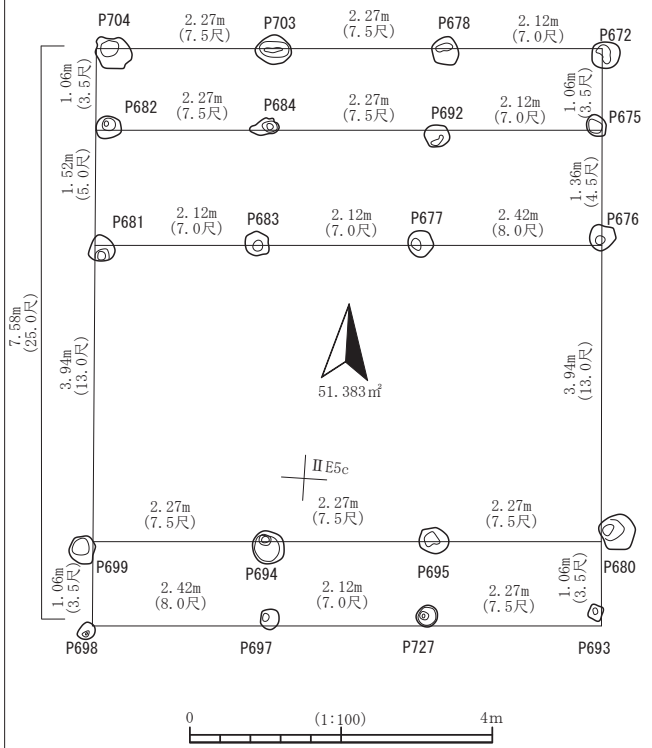


第 21 図 SB14~16 掘立柱建物跡

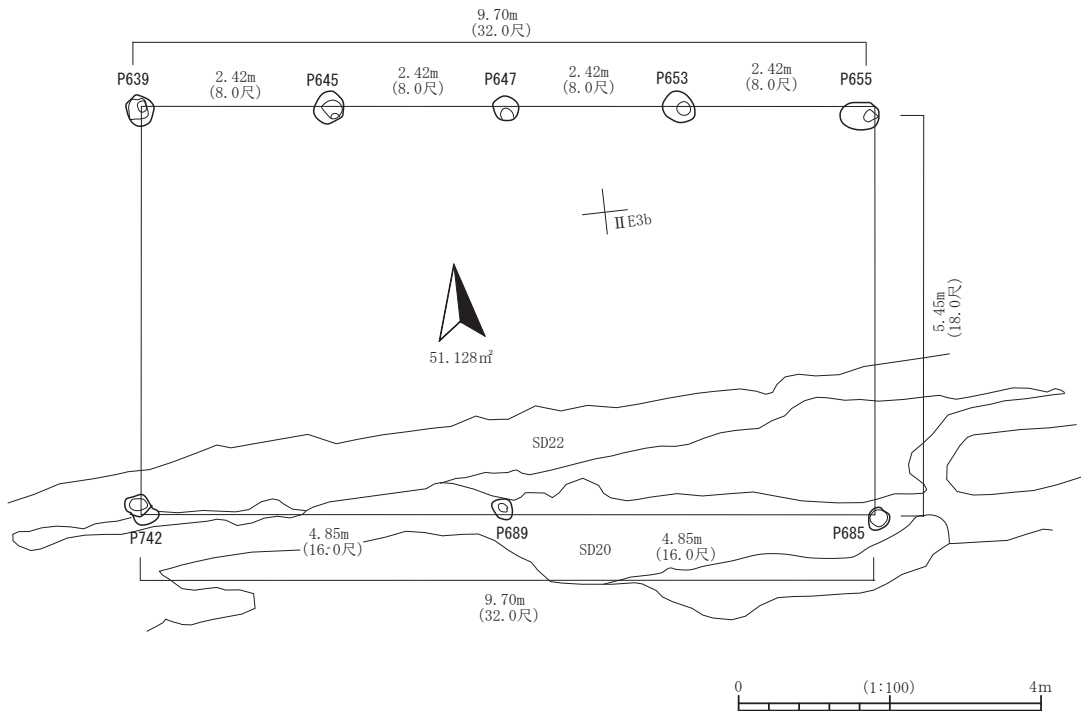
SB 17 掘立柱建物跡



SB 18 掘立柱建物跡

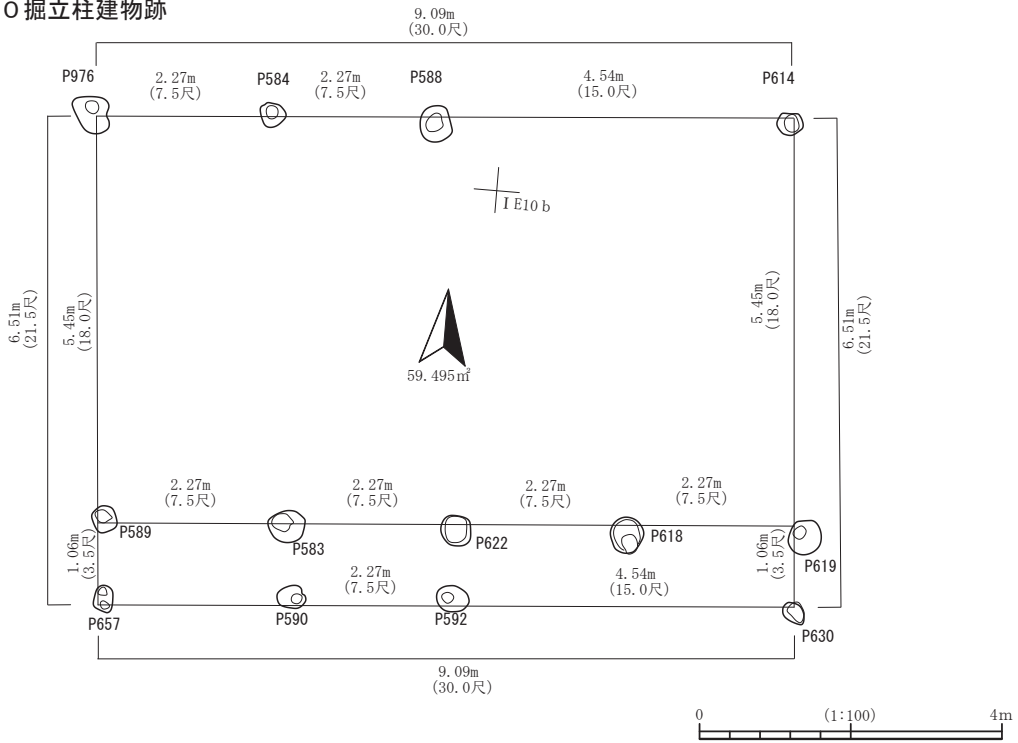


SB 19 掘立柱建物跡

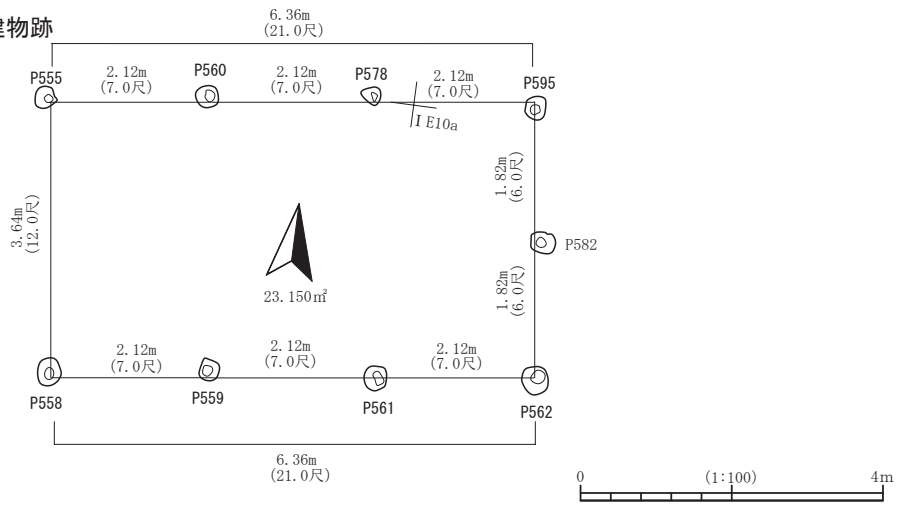


第 22 図 SB17~19 掘立柱建物跡

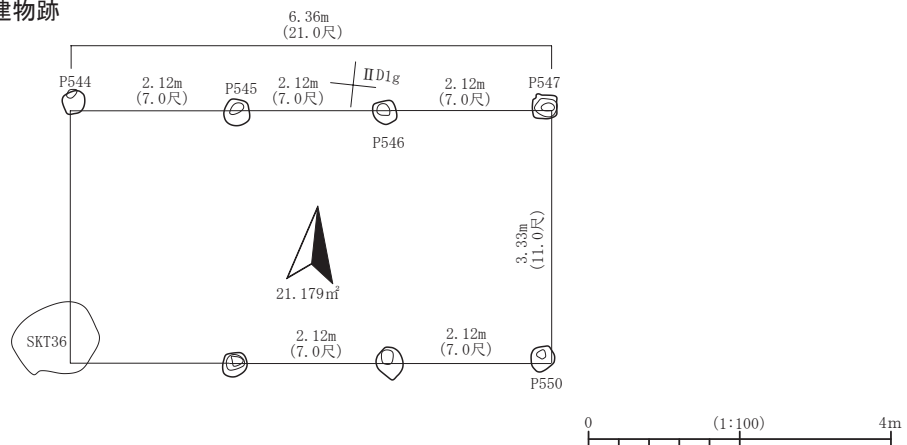
SB20 掘立柱建物跡



SB21 掘立柱建物跡

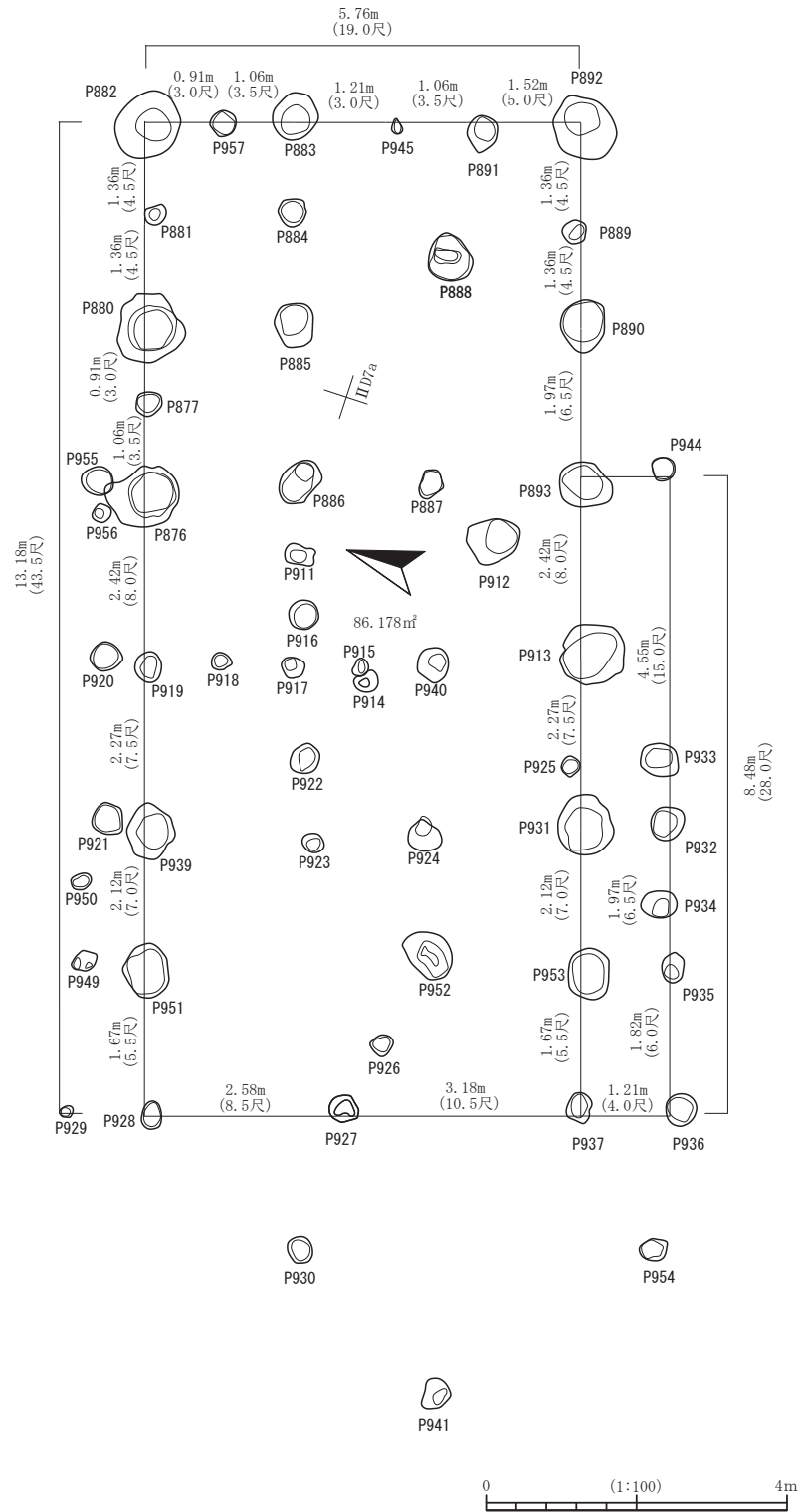


SB22 掘立柱建物跡



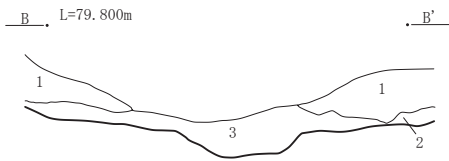
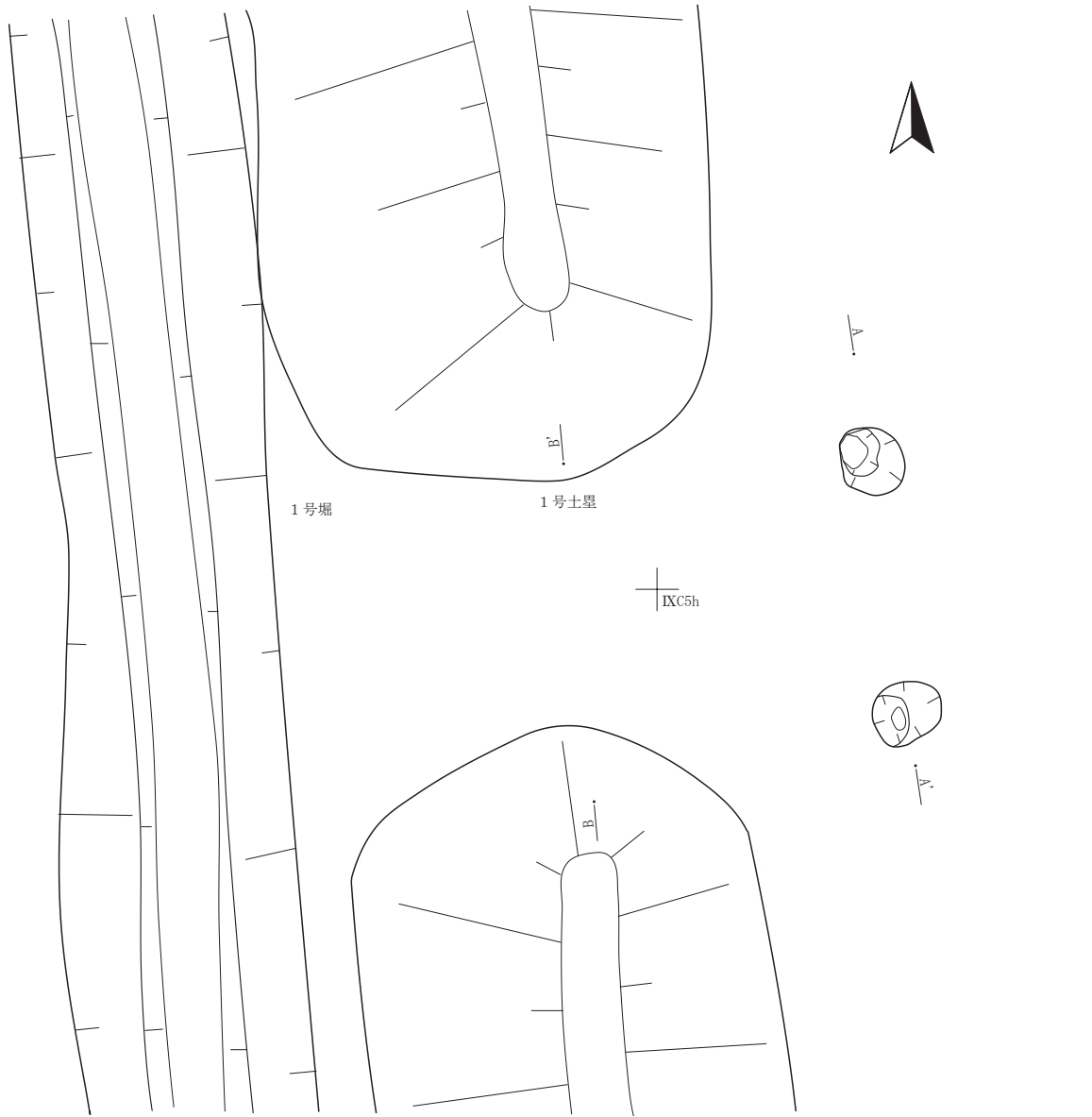
第23図 SB20~22 掘立柱建物跡

S B 2 3 掘立柱建物跡

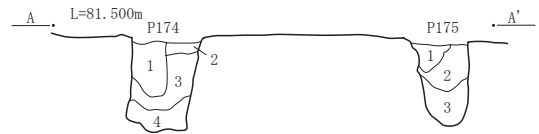
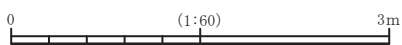


第 24 図 SB23 掘立柱建物跡

SB24門跡



- SB24門H-H'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 草木根多い 粘性・縮り中
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・縮り中
 - 3 10YR2/3 黒褐色シルト 明黄褐色シルトブロック30~40%含む 粘性・縮り中 人為ではないと思う

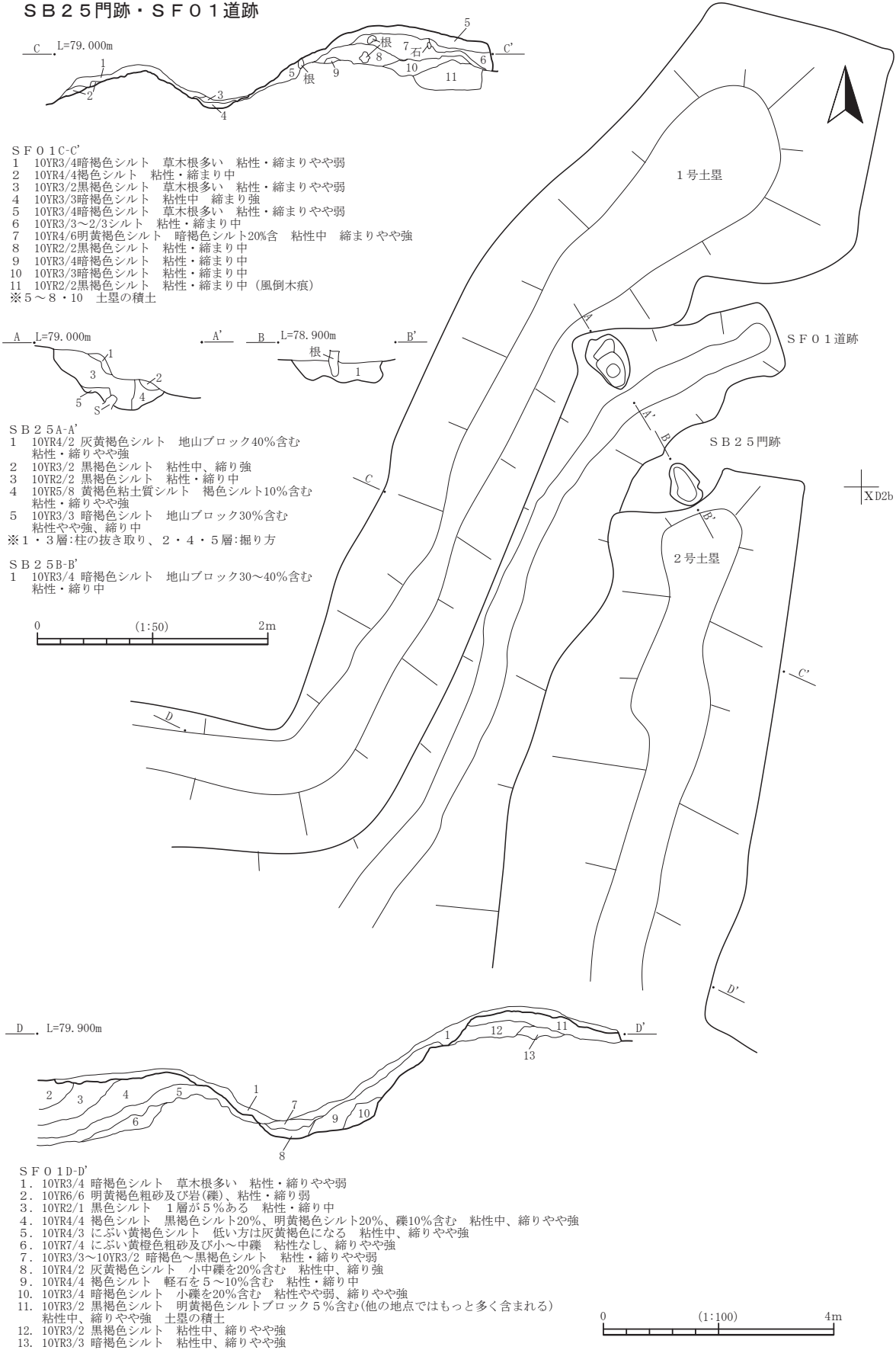


- P174
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 明黄褐色浮石粒を2~5%含む 粘性・縮り中
 - 2 10YR4/4 褐色シルト 明黄褐色浮石粒を10%含む 粘性中、縮りやや強
 - 3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・縮り中
 - 4 10YR5/6 黄褐色シルト 黒褐色シルト30%、明黄褐色浮石10~20%含む 粘性・縮り中
- ※ぬきとりではないようだ

- P175
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 明黄褐色浮石粒を10%含む 粘性・縮り中
 - 2 10YR6/6 明黄褐色シルト 暗褐色シルトと互層を成す 粘性中、縮りやや強
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 明黄褐色シルト10%含む 粘性中、縮りやや強
- ※ぬきとりではないようだ

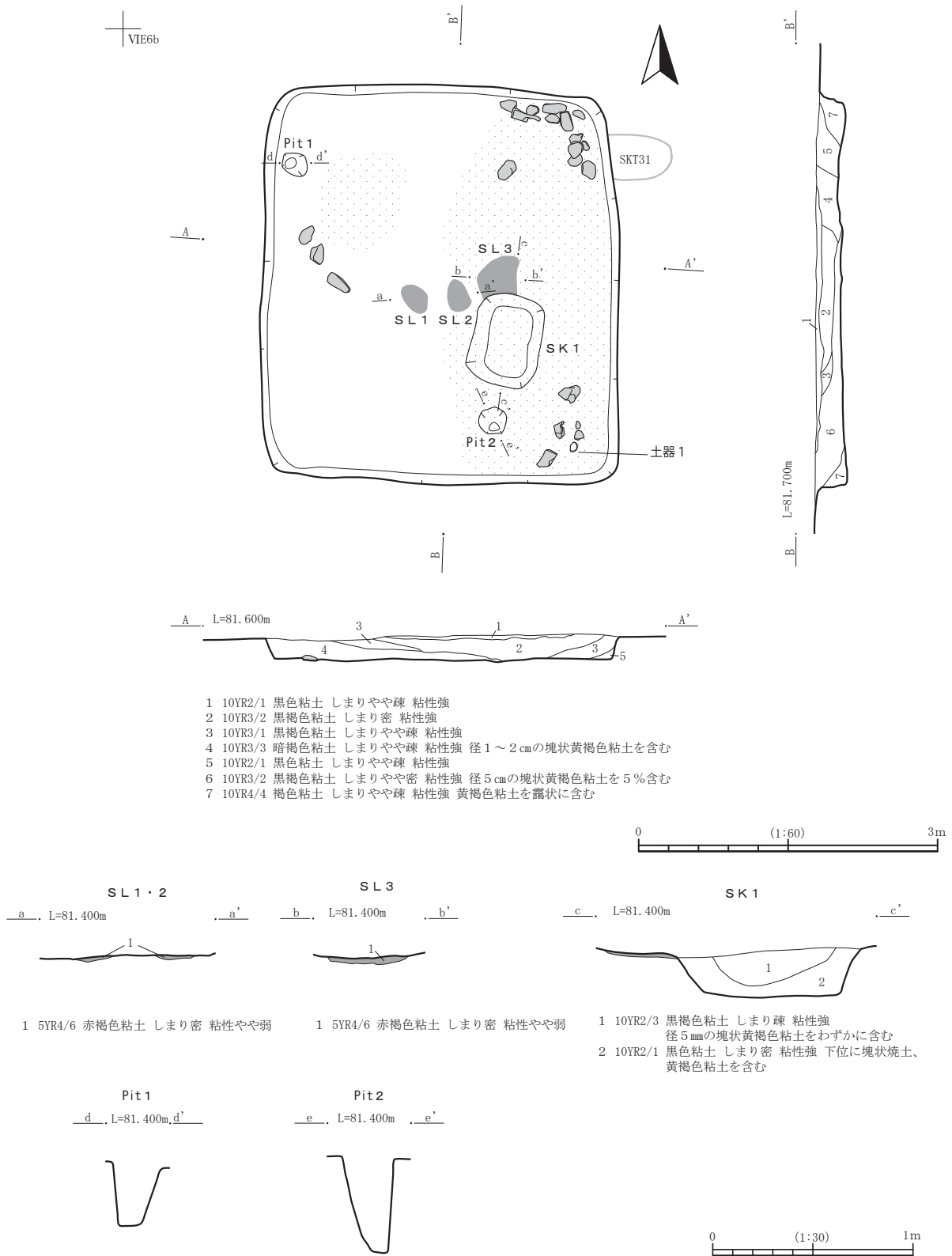
第25図 SB24門跡

SB25門跡・SF01道跡



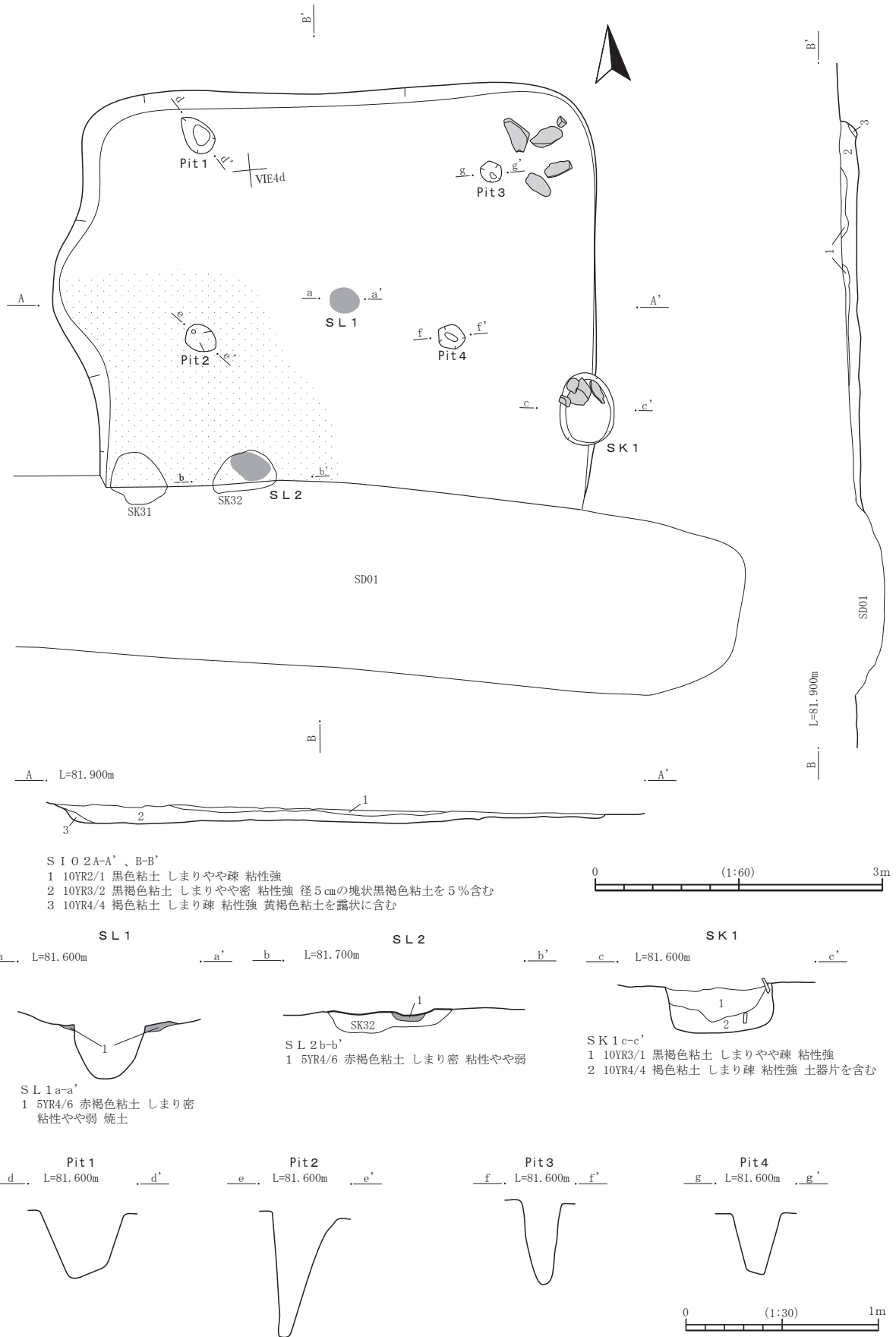
第26図 SB25門跡・SF01道跡

SI01 竪穴住居跡



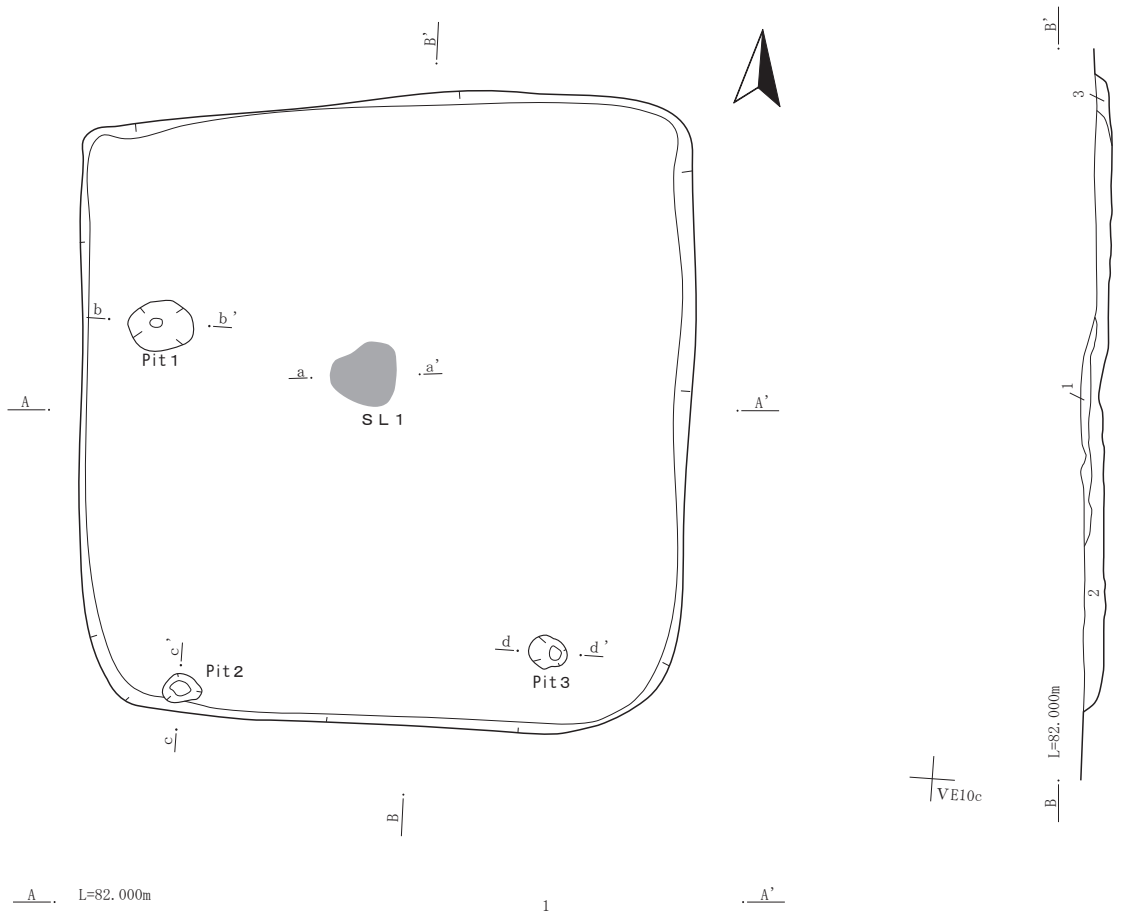
第 27 図 SI01 竪穴住居跡

S I O 2 竪穴住居跡

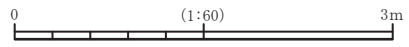


第 28 図 SIO2 竪穴住居跡

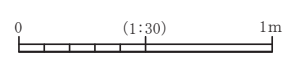
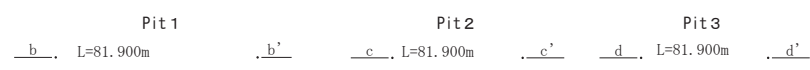
S I O 3 竪穴住居跡



- S I O 3 A-A'、B-B'
- 1 10YR2/1 黒色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 2 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強 径5cmの塊状黒褐色粘土を5%含む
 - 3 10YR4/4 褐色粘土 しまり密 粘性強 黄褐色粘土を露状に含む

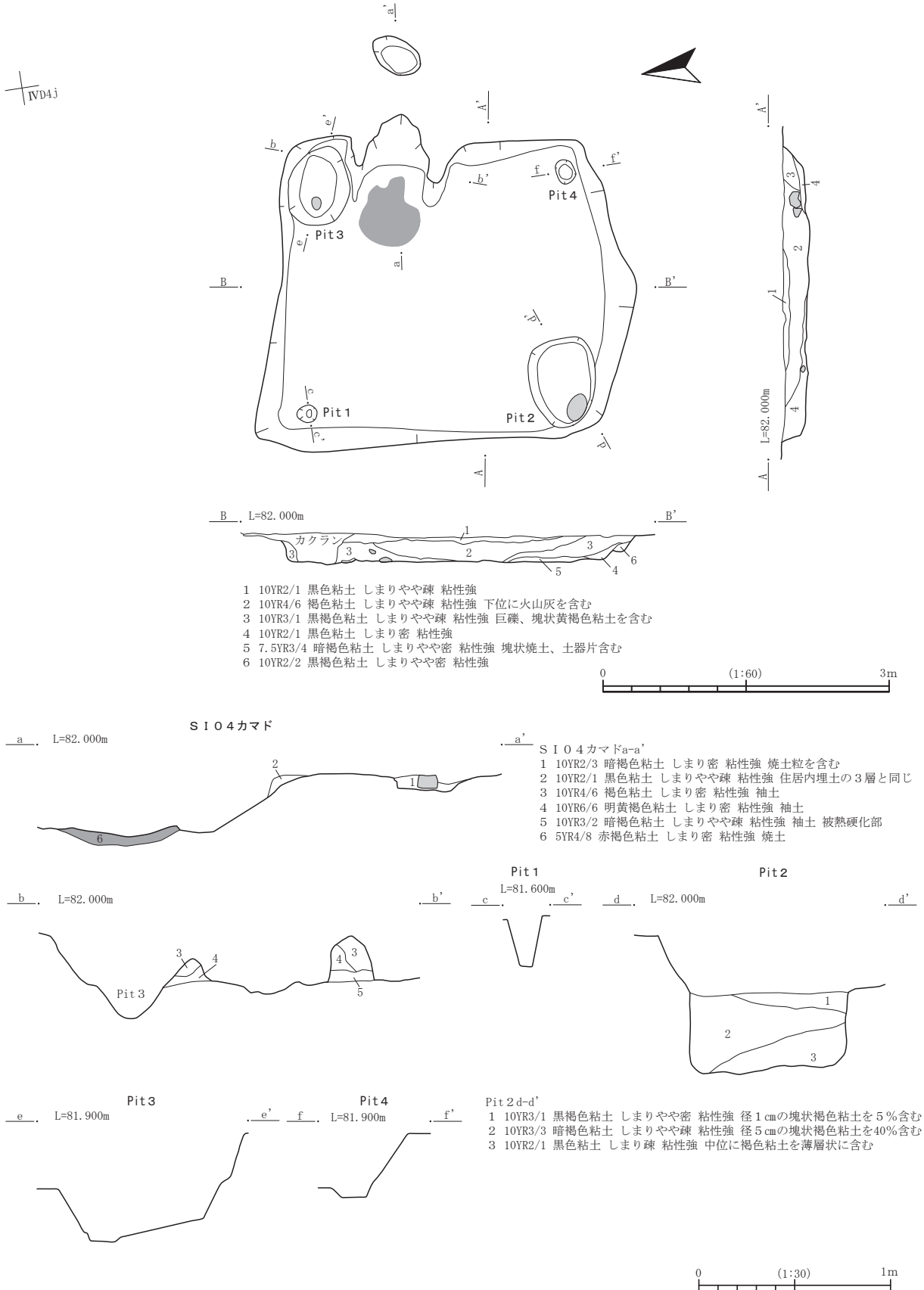


1 5YR4/6 赤褐色粘土 しまり密 粘性やや弱 焼土



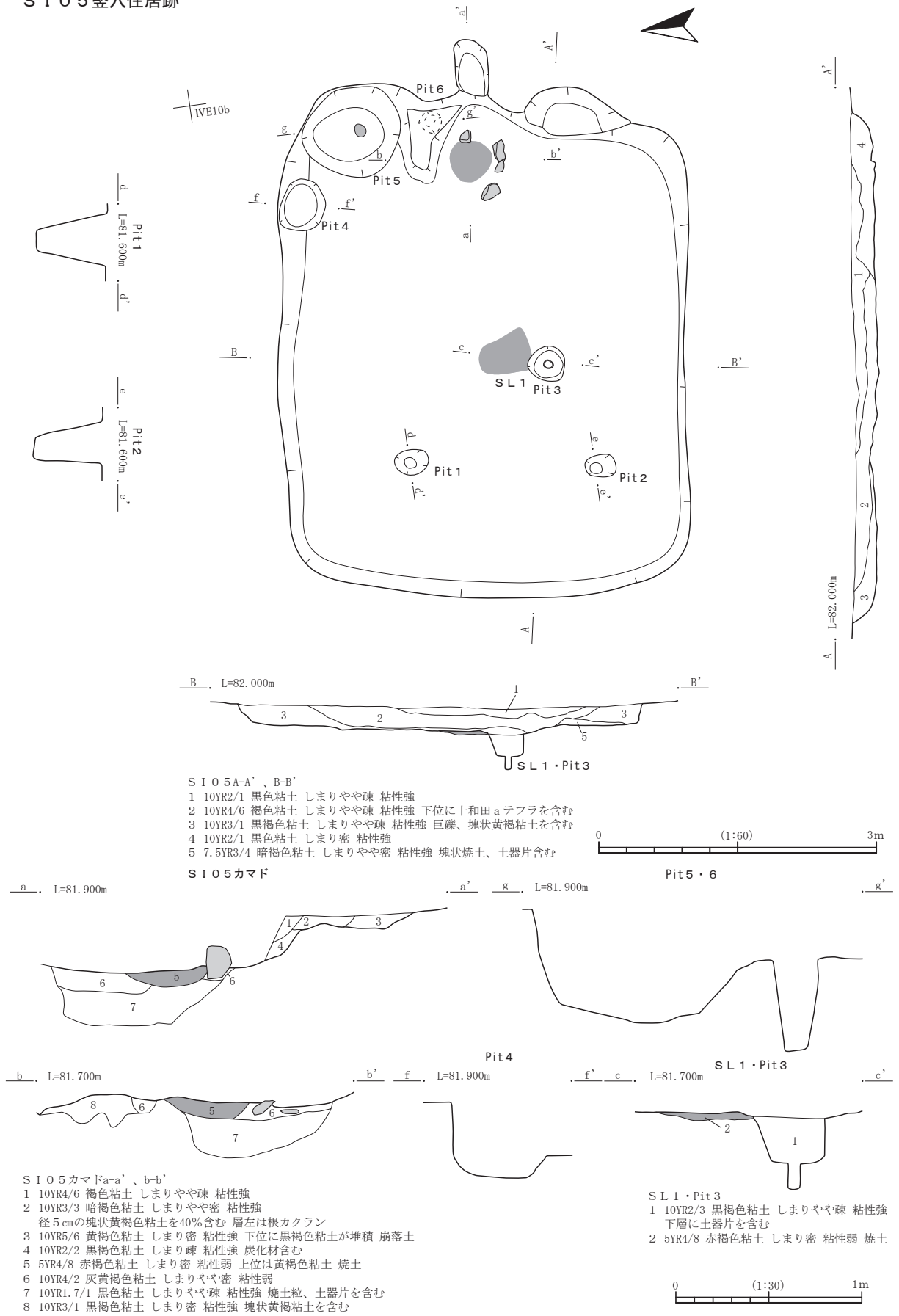
第 29 図 SI03 竪穴住居跡

SI04 竪穴住居跡



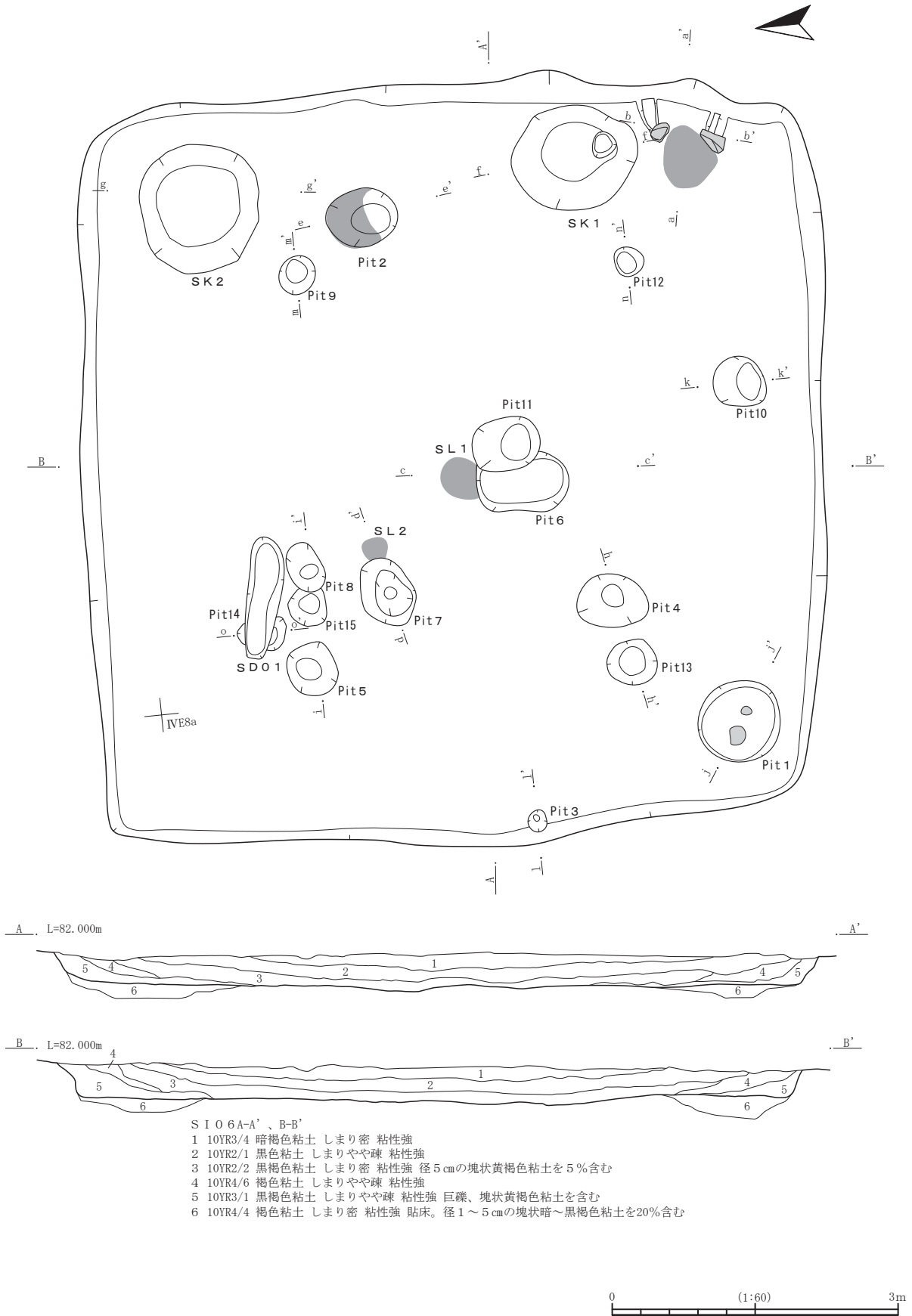
第30図 SI04 竪穴住居跡

S I O 5 竪穴住居跡



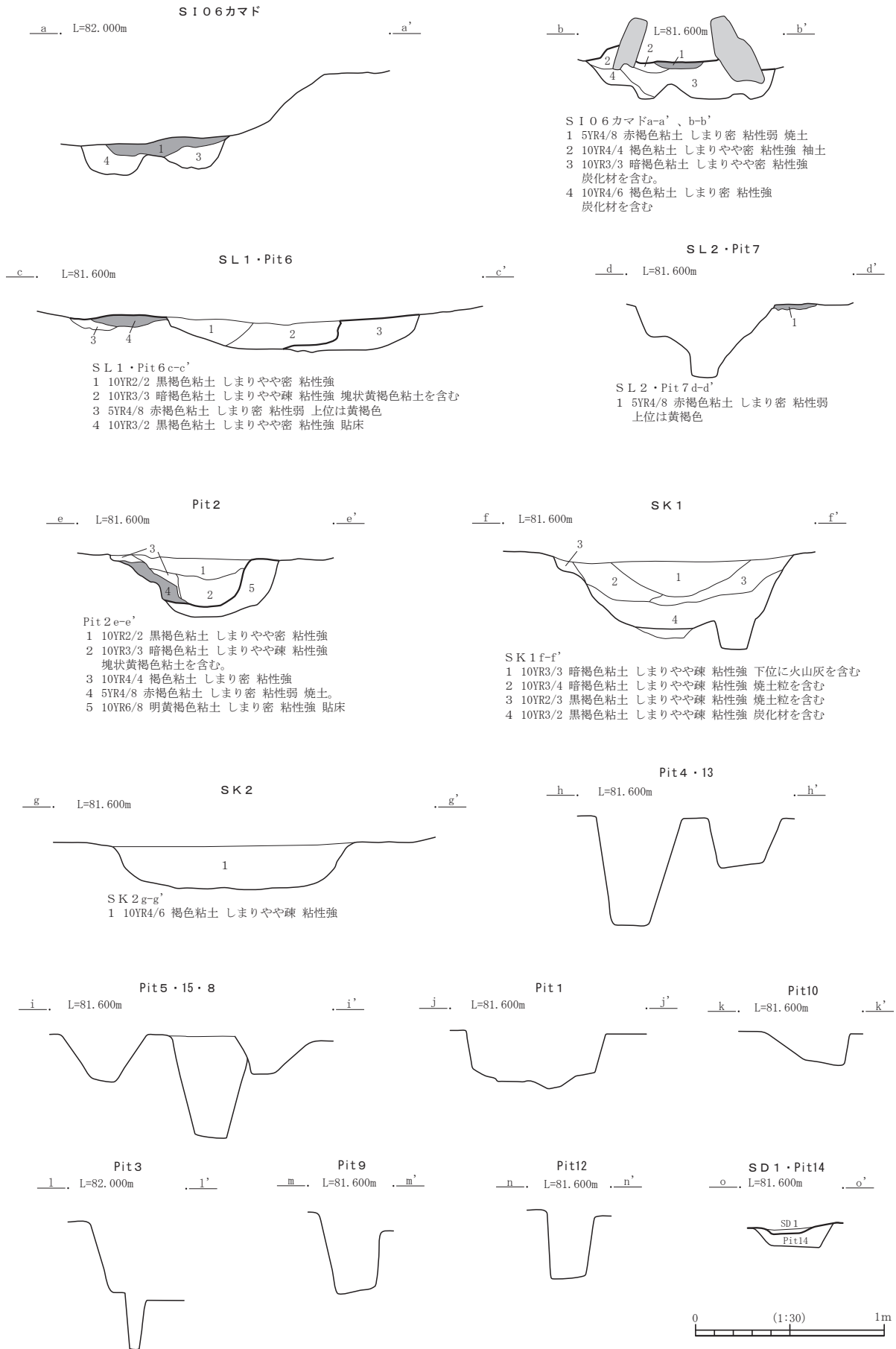
第 31 図 SIO5 竪穴住居跡

SI06 竪穴住居跡



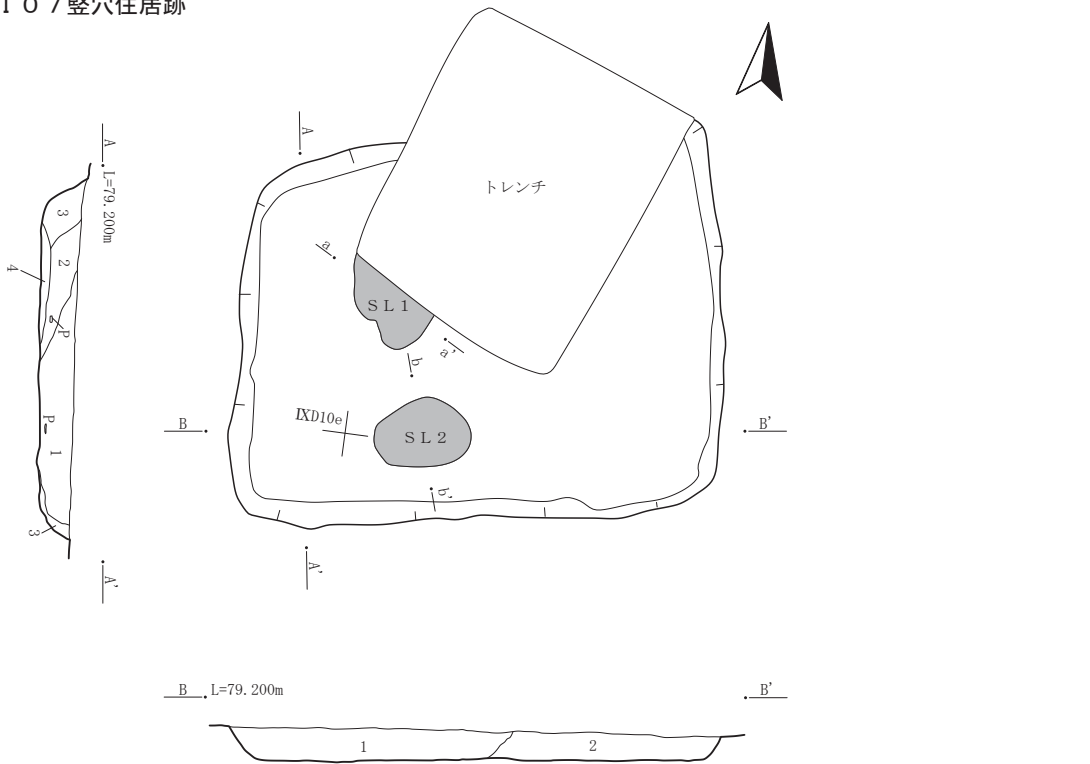
第32図 SI06 竪穴住居跡 (1)

4 出土遺物

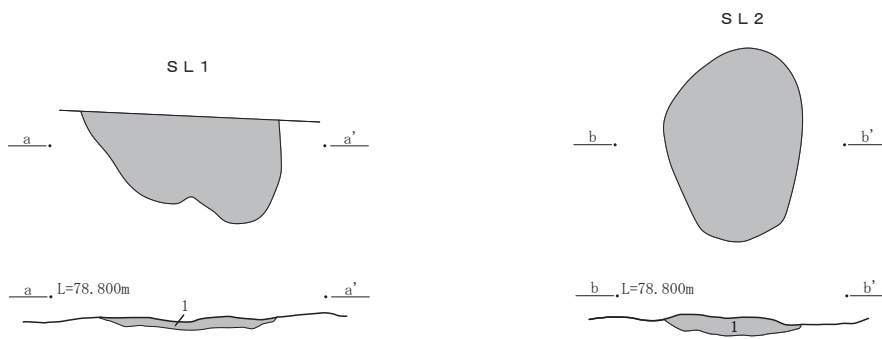
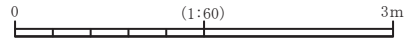


第33図 SI06 竪穴住居跡 (2)

SI07 竪穴住居跡

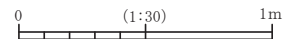


- SI07 A-A'、B-B'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土15%混入 粘性・縮り中 (人為堆積)
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色粘土7%、褐色砂土5%混入 粘性・縮り中 (人為堆積層)
 - 3 10YR4/4 褐色シルト砂質土 粘性やや弱、縮り中 (自然堆積)
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・縮り中



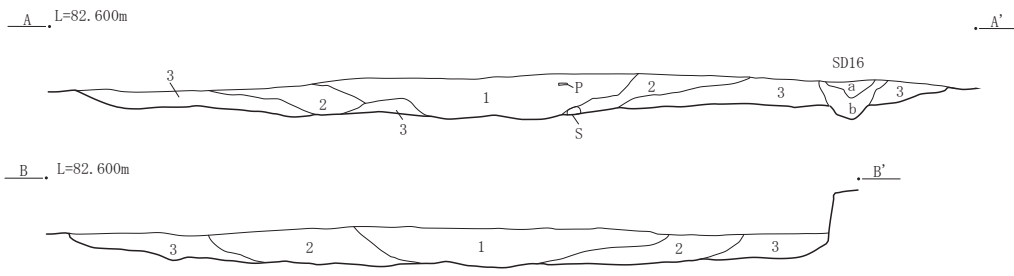
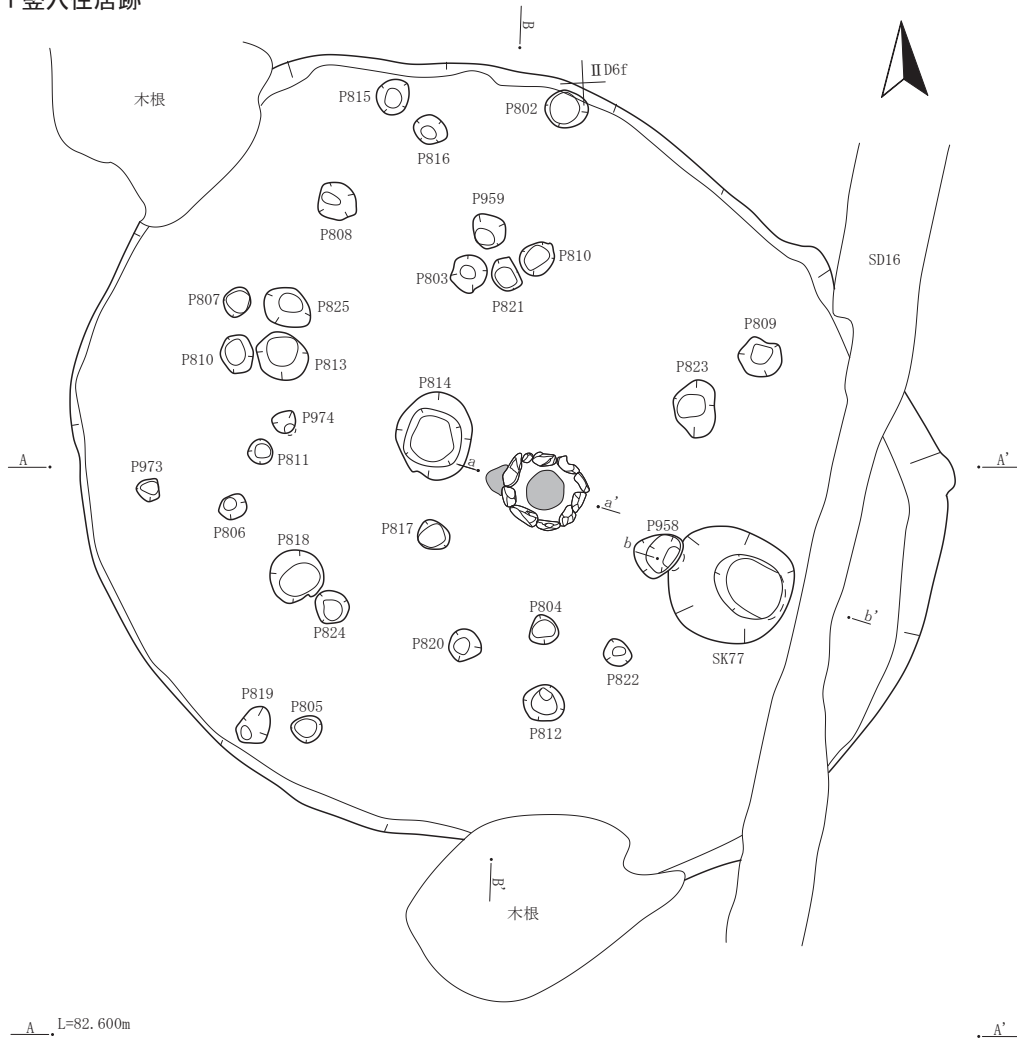
- 焼土 1
 1 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性やや弱、縮りやや強
 ※現地性の良好な焼土層の西側は平面図よりインコースかも(縮小か)

- 焼土 2
 1 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性やや弱、縮りやや強
 ※現地性の良好な焼土層

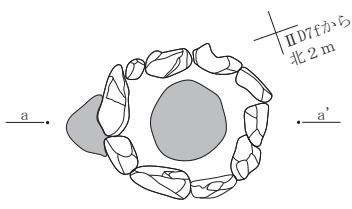


第 34 図 SI07 竪穴住居跡

SI11 竪穴住居跡



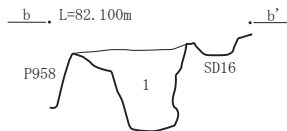
SI11 炉



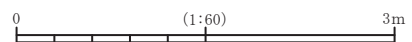
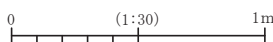
- SI11 炉
- 1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性やや弱、縮り強
 - 2 5YR4/4 に近い赤褐色焼土 粘性・縮り中

SI11 A-A', B-B'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性・縮り中
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 炭化物粒微量含む 粘性・縮り中
- 3 10YR4/6 褐色シルト 炭化物粒微量含む 粘性中、縮りやや強
- a 10YR2/1 黒色シルト 粘性・縮り中
- b 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・縮り中

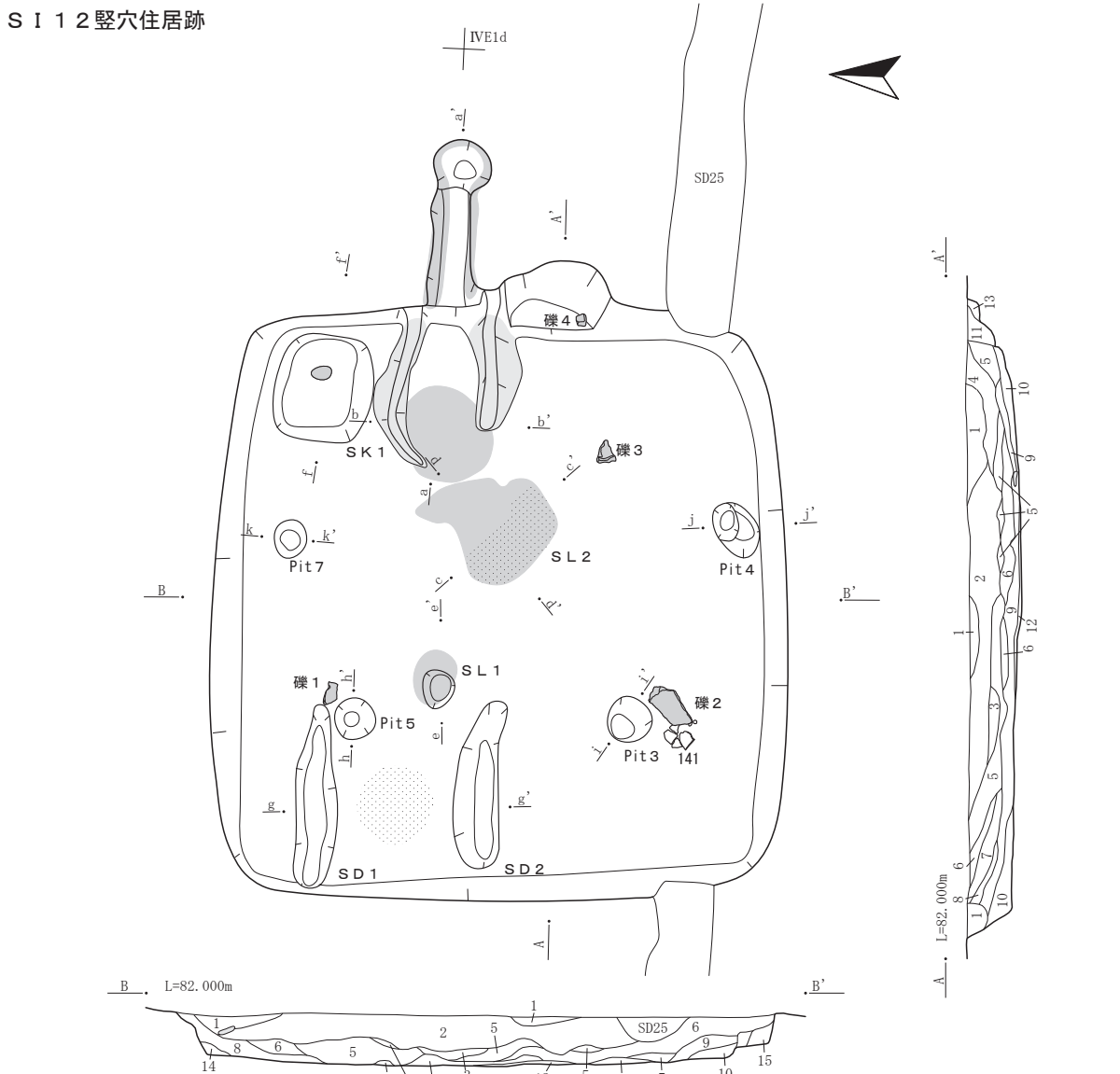


- SK77
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 炭化物粒、焼土粒、黄褐色土粒多量に含む 粘性・縮り中 人為的埋めもどし



第 35 図 SI11 竪穴住居跡

SI12 竪穴住居跡

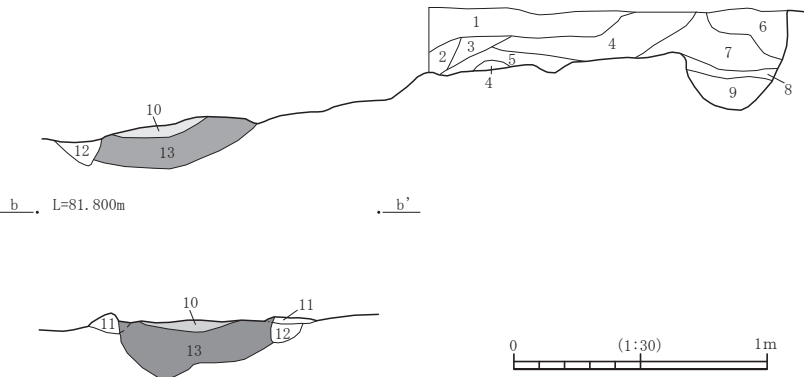


SI12A-A'、B-B'

- | | |
|--|--|
| 1 10YR2/2 黒褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 | 8 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや密 粘性強 |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
塊状の下層土を20%含む | 9 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 火山灰層 焼土、塊状黄褐色粘土を含む |
| 3 10YR2/1 黒色粘土 しまりやや疎 粘性強 塊状褐色粘土、土器片を含む | 10 10YR4/4 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 壁面に塊状黄褐色粘土を含む |
| 4 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強 | 11 10YR5/8 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強 |
| 5 10YR2/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強 塊状褐色粘土を含む | 12 10YR4/4 褐色粘土 しまり密 粘性強 塊状黄褐色粘土を含む |
| 6 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや密 粘性強 火山灰を径1cmの粒状を含む
塊状褐色粘土を含む | 13 10YR4/6 褐色粘土 しまり密 粘性強 |
| 7 10YR2/1 黒色粘土 しまりやや密 粘性強 褐色粘土を霏状を含む | 14 10YR4/6 褐色粘土 しまり疎 粘性強 |
| | 15 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや密 粘性強 |

a, L=82.000m

(1:60) 3m

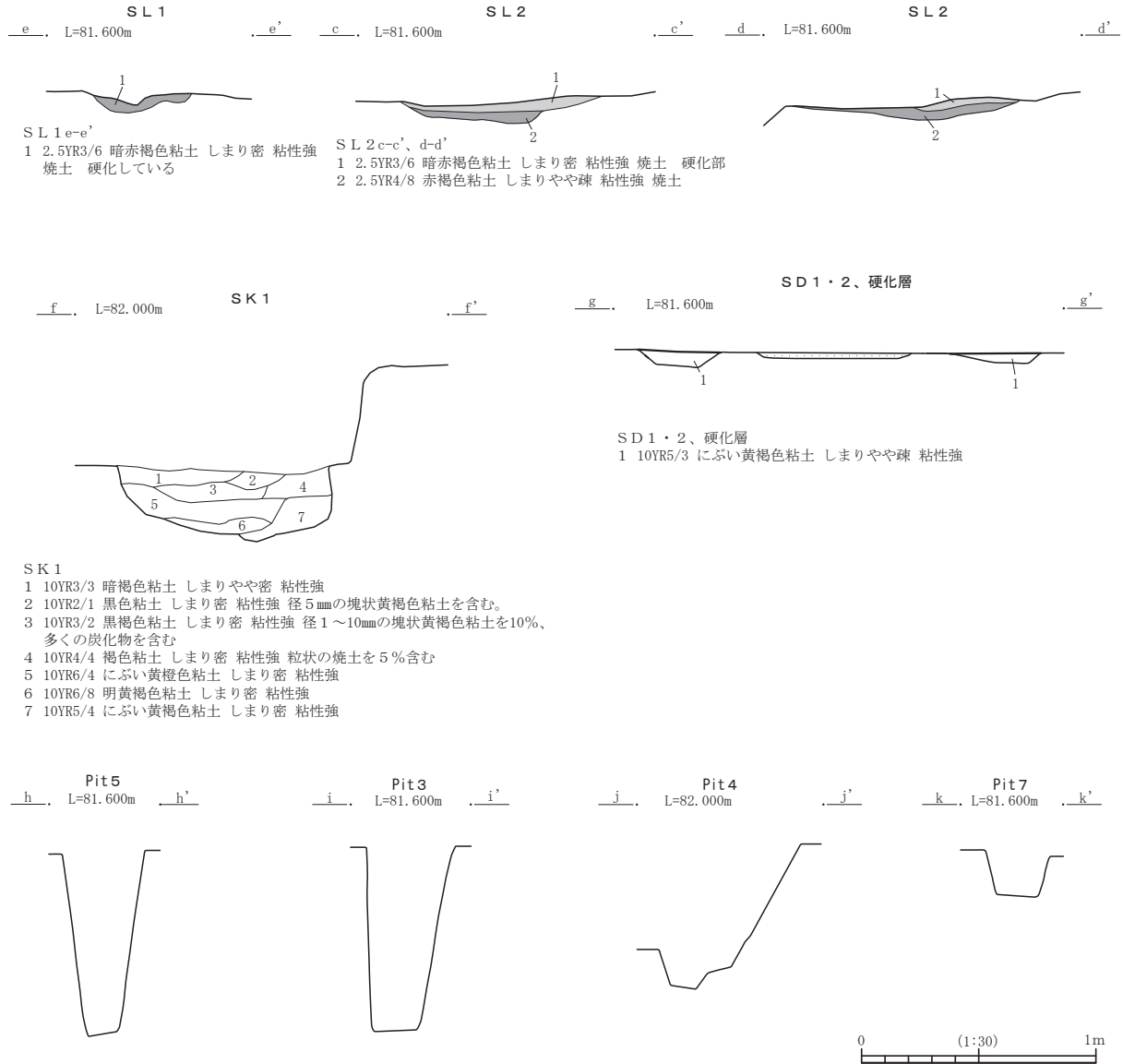


SI12カマドa-a'、b-b'

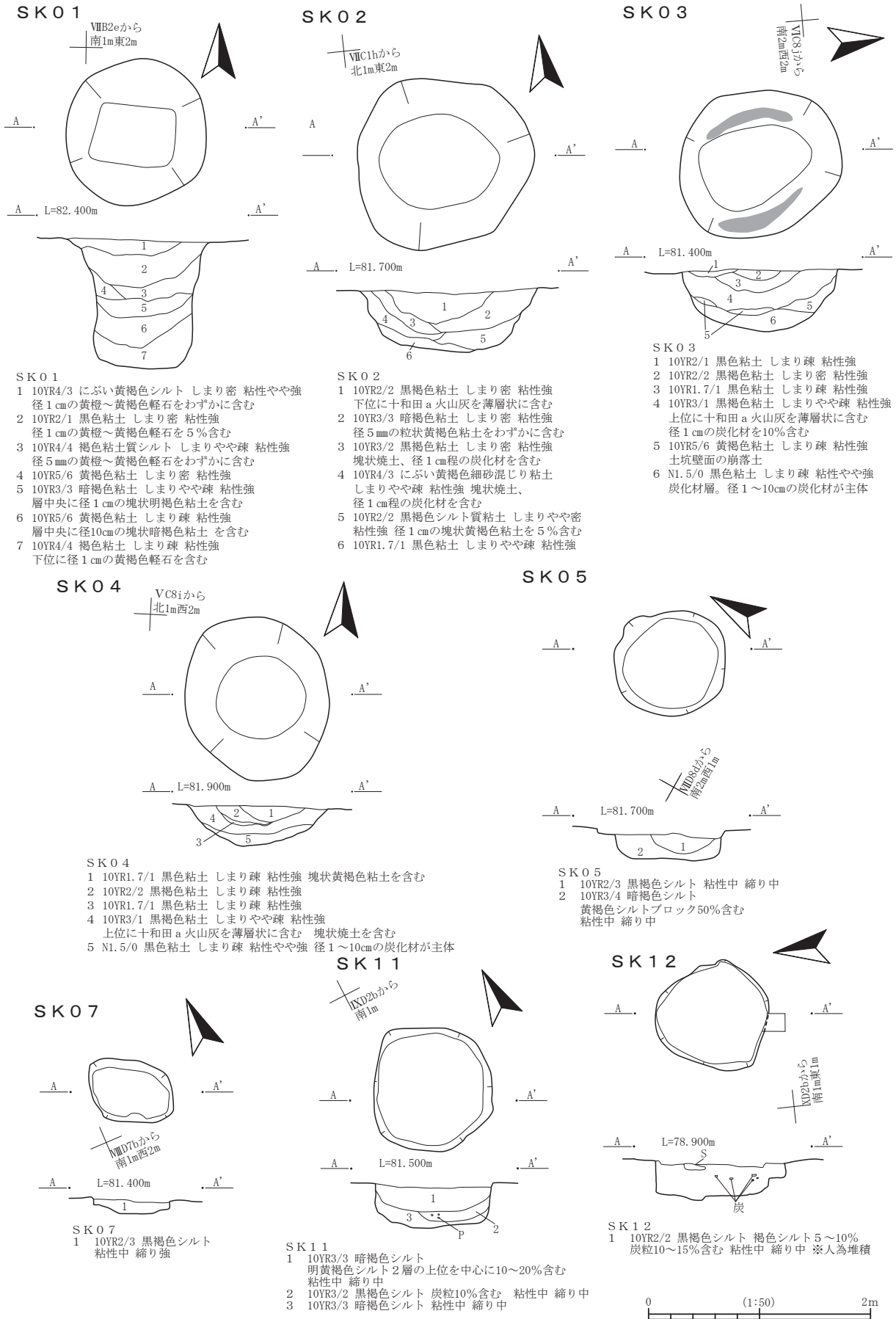
- | |
|--|
| 1 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強 |
| 2 10YR2/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強
塊状褐色粘土を含む |
| 3 10YR2/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強 |
| 4 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや密 粘性強 |
| 5 10YR3/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強
根カクラン層 |
| 6 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや密 粘性強
径10cmの塊状焼土を10%含む |
| 7 5YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや密 粘性強
径2cmの塊状焼土を5%含む |
| 8 10YR2/1 黒色粘土 しまり疎 粘性強
径1cmの塊状焼土を10%含む |
| 9 10YR6/6 明黄褐色粘土 しまり疎 粘性強 |
| 10 10YR7/8 黄褐色粘土 しまり密 粘性弱
被熱硬化面 |
| 11 10YR6/2 灰黄褐色粘土 しまり密 粘性強 袖土 |
| 12 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 |
| 13 5YR4/8 赤褐色粘土 しまりやや密 粘性強
焼土 被熱した袖土を含む |

第36図 SI12 竪穴住居跡 (1)

4 出土遺物



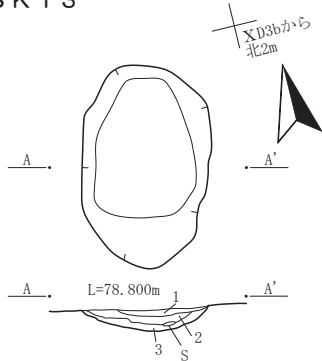
第 37 図 SI12 竪穴住居跡 (2)



第38図 SK01～05・07・11・12土坑

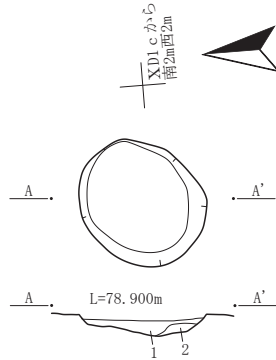
4 出土遺物

SK 13



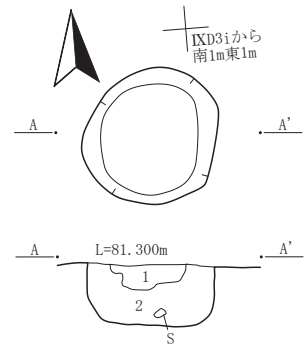
- SK 13
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト5~10%含む
 粘性中 締り弱
 2 10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルト5%含む
 粘性中 締り中

SK 14



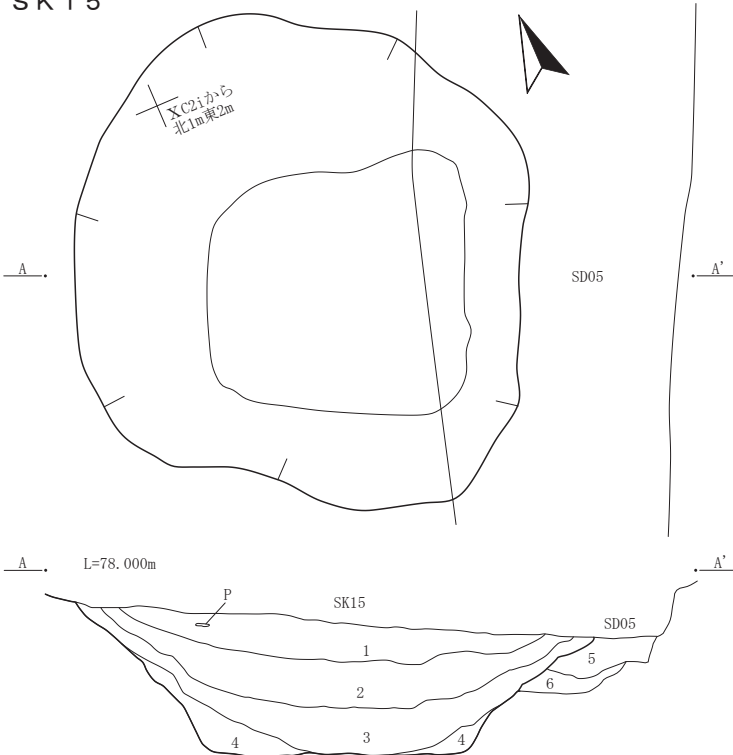
- SK 14
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト5~10%含む
 粘性中 締り弱
 2 10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルト5%含む
 粘性中 締り中

SK 17



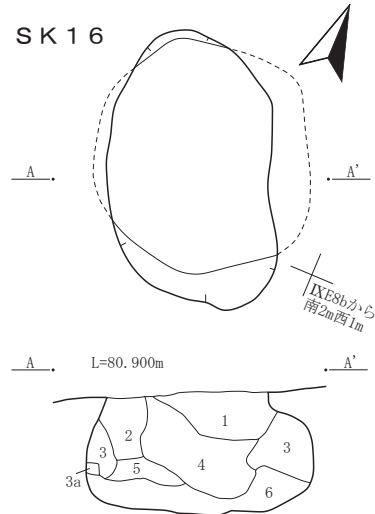
- SK 17
 1 10YR2/2 黒褐色シルト
 褐色ブロック3~5% 炭微量含む
 粘性中 締り中
 2 10YR4/4 褐色シルト
 明黄褐色シルトブロック20%
 暗褐色シルトブロック20%含む
 粘性中 締り中
 ※人為堆積

SK 15



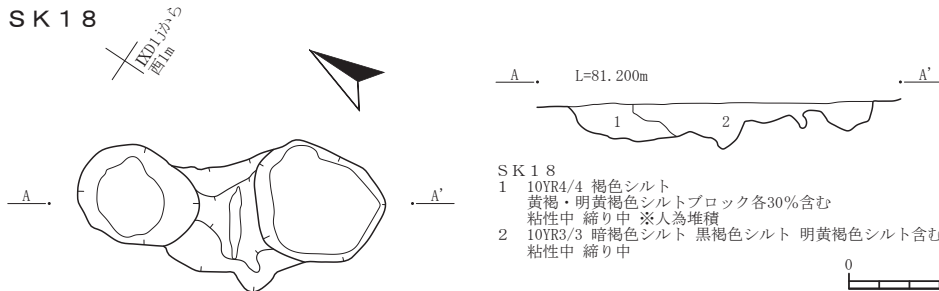
- SK 15
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 10YR4/3~3/3 にぶい黄褐色~暗褐色シルトブロック(φ10~20mm)少量含む
 草根目立つ 粘性中 締り中
 2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性中 締り強 上・下位層に比して固く締った土層
 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締り中 10YR3/3 暗褐色砂質シルトブロック・小礫共に少量含む
 4 10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 小礫の混土層 粘性弱 締り中 崩落土層
 5 10YR2/2 黒褐色シルト 橙色・黄色の粒子を微量含む 粘性やや強 締りやや強 SD04・05(A-A')の4層に対比
 6 10YR3/3-3/4 暗褐色シルト 粘性・締り中 SD04・SD05(A-A')の8層に対比
 ※自然堆積による埋没

SK 16



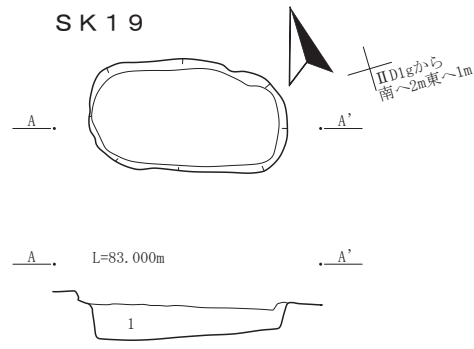
- SK 16
 1 10YR3/3 暗褐色シルト
 粘性やや強 締り中(木根カクラン土)
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 小礫(φ2mm)多量混入
 粘性やや強 締りやや弱
 3 10YR5/6 黄褐色粘土
 粘性やや強 締り中 地山ロームの壁崩落土
 3a 10YR5/6 黄褐色粘土 暗褐色シルト10%混入
 粘性やや強 締り中
 4 10YR4/4 褐色シルト パミス2%混入
 粘性やや強 締り中(※黄橙色パミス=村崎野浮石)
 5 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト パミス5%混入
 粘性やや強 締りやや弱
 6 10YR2/3 黒褐色シルト パミス7%混入
 粘性中 締りやや弱
 ※1層:木根のカクラン層 2~6層:自然堆積層
 (3層:壁の地山崩落土)

SK 18

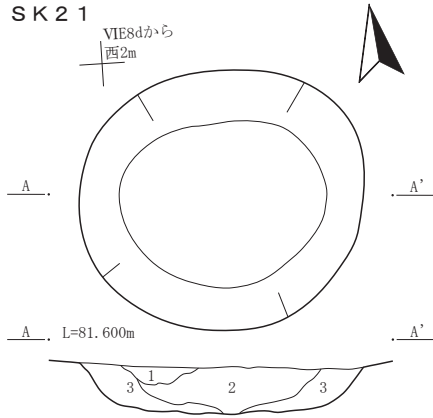


- SK 18
 1 10YR4/4 褐色シルト
 黄褐・明黄褐色シルトブロック各30%含む
 粘性中 締り中 ※人為堆積
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルト 明黄褐色シルト含む
 粘性中 締り中

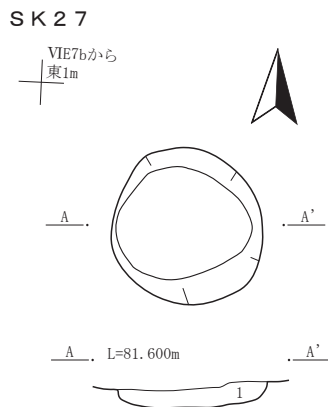
第 39 図 SK13~18 土坑



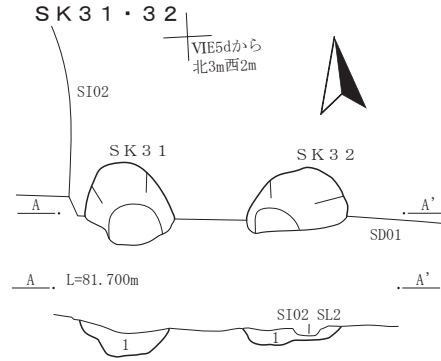
SK19
1 10YR3/4 暗褐色シルト 褐色シルトブロック
黄褐色シルトブロック小粒を多量に含む
粘性中 縮り中
※人為堆積



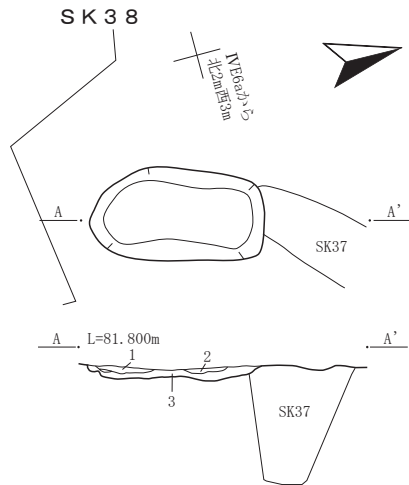
SK21
1 10YR4/4 褐色シルト質粘土 しまり密 粘性強
径1~2cmの塊状黄褐色粘土を5%含む
2 7.5Y2/1 黒色粘土 しまりやや疎 粘性強 層左側は生物擾乱を大きく受ける
3 10YR3/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強 径5cmの塊状黄褐色粘土を5%含む



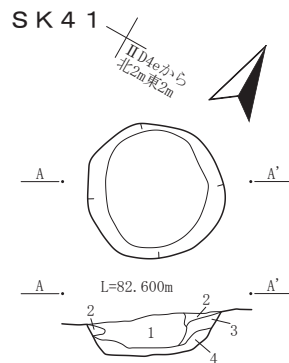
SK27
1 10YR2/1 黒色粘土 しまりやや密 粘性強
径5cmの塊状黄褐色粘土を5%含む



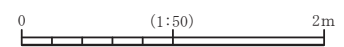
SK31
1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり密 粘性強
塊状灰褐色粘土を含む
SK32
1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり密 粘性強
径1~2cmの焼土粒、径2cmの塊状黄褐色粘土を含む



SK38
1 7.5YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
塊状焼土、土器を含む。下面に炭化材を含む
2 10YR1.7/1 黒色粘土 しまりやや疎 粘性強
3 10YR3/1 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強
塊状焼土、塊状黄褐色粘土を含む



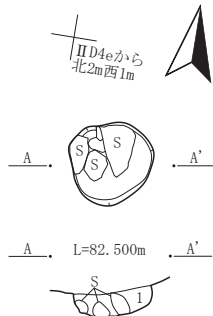
SK41
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮り中
2 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 縮り中
3 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性中 縮り中
4 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 縮り中



第40図 SK19・21・27・31・32・38・41土坑

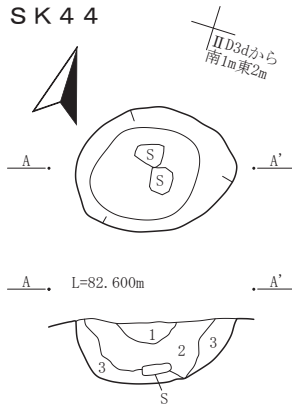
4 出土遺物

SK 4 2



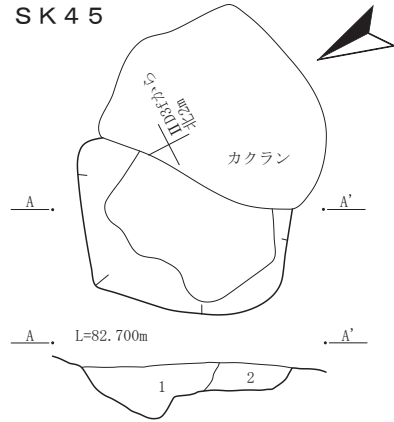
SK 4 2
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮り中

SK 4 4



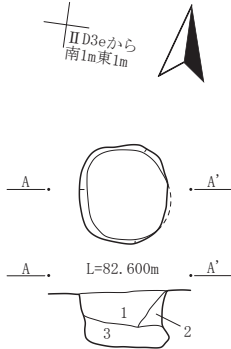
SK 4 4
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮り弱
2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
3 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮りやや強

SK 4 5



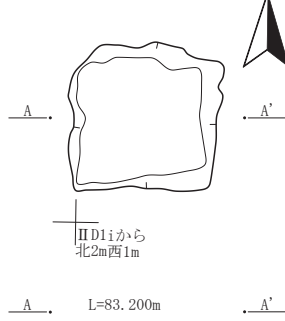
SK 4 5
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮りやや強 掘りすぎ

SK 4 3



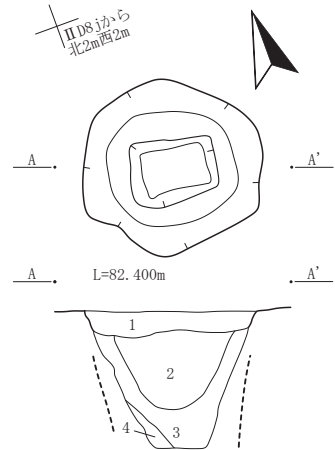
SK 4 3
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮り中
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 縮り強
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮り中

SK 4 7



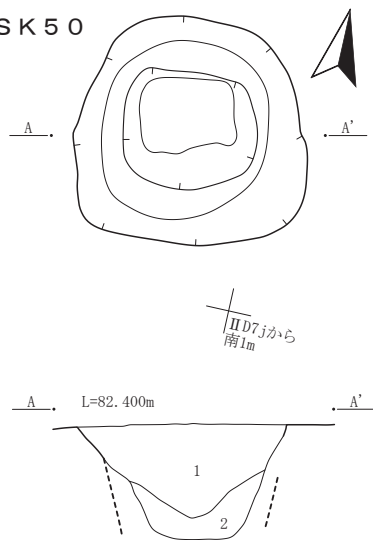
SK 4 7
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮り中

SK 4 9



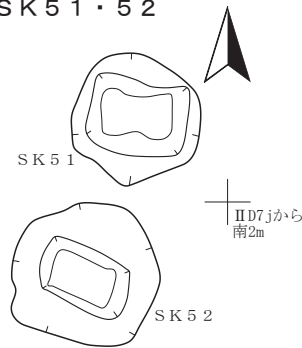
SK 4 9
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮りやや強
2 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 縮り中
3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 縮りやや強
4 10YR4/6 褐色シルト 粘性強 縮りやや強

SK 5 0



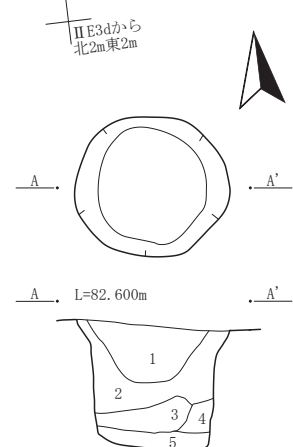
SK 5 0
1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
2 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮りやや弱

SK 5 1・5 2

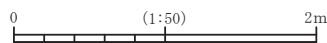


SK 5 1・5 2・・・断面記録なし

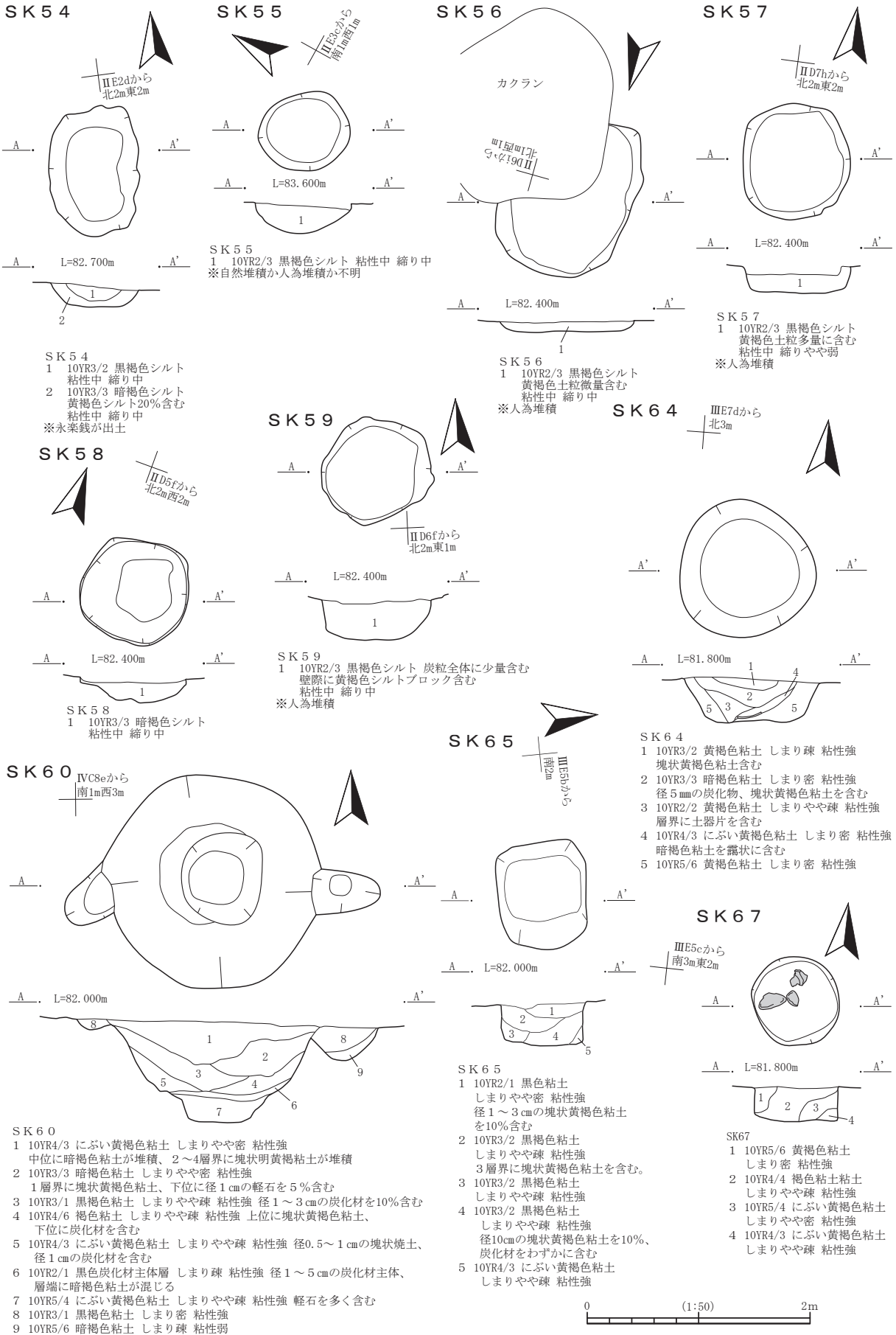
SK 5 3



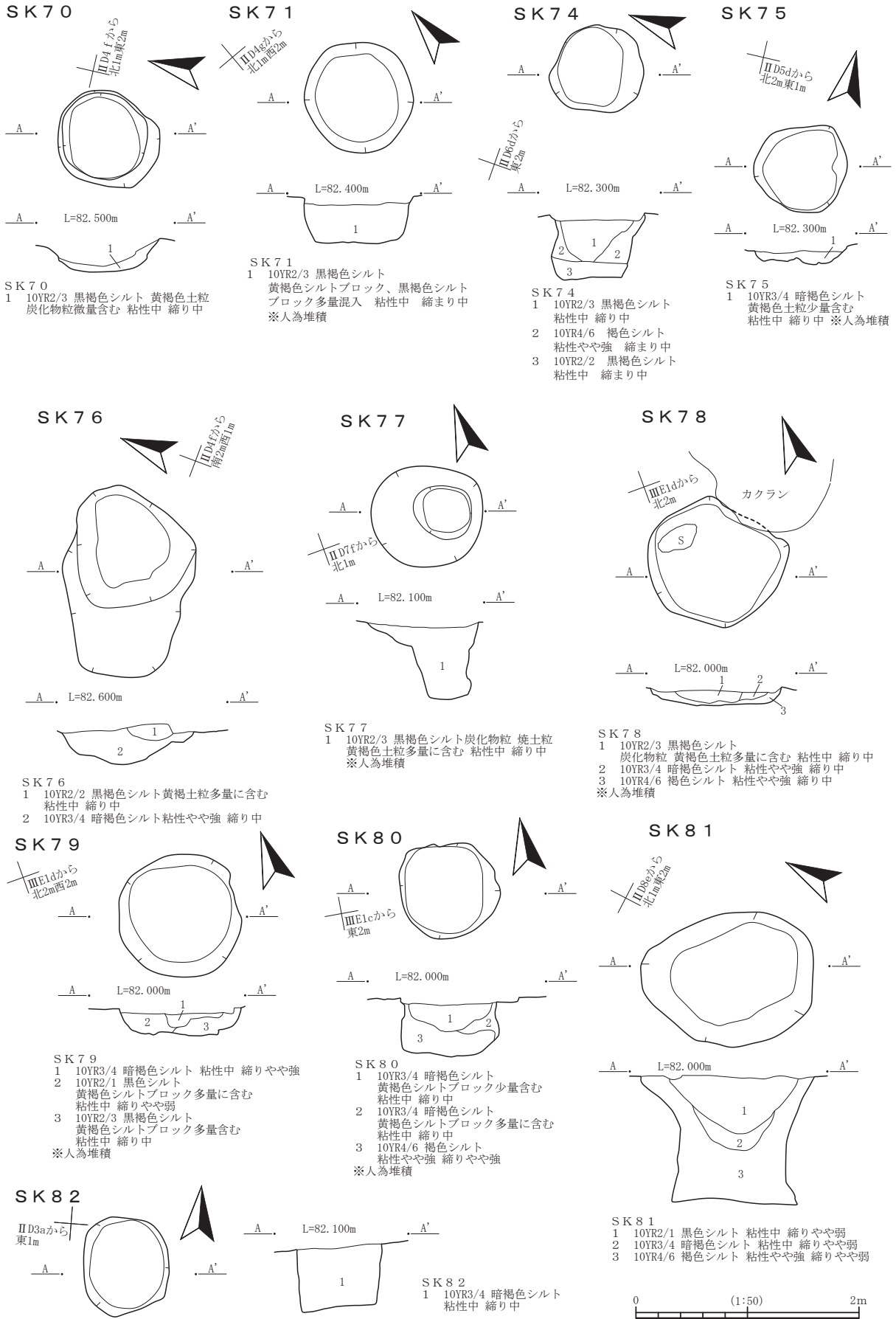
SK 5 3
1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
2 10YR3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルト20% 黄褐色シルト10%含む 粘性中 縮り中
3 10YR2/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト10% 黄褐色シルト10%含む 粘性中 縮り中
4 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 縮りやや強
5 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮りやや強



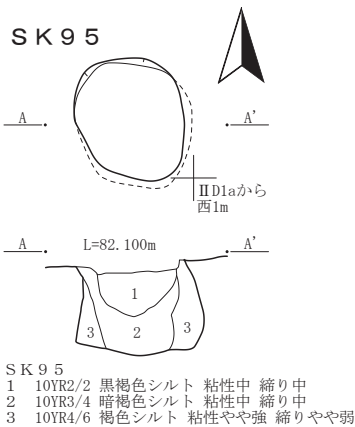
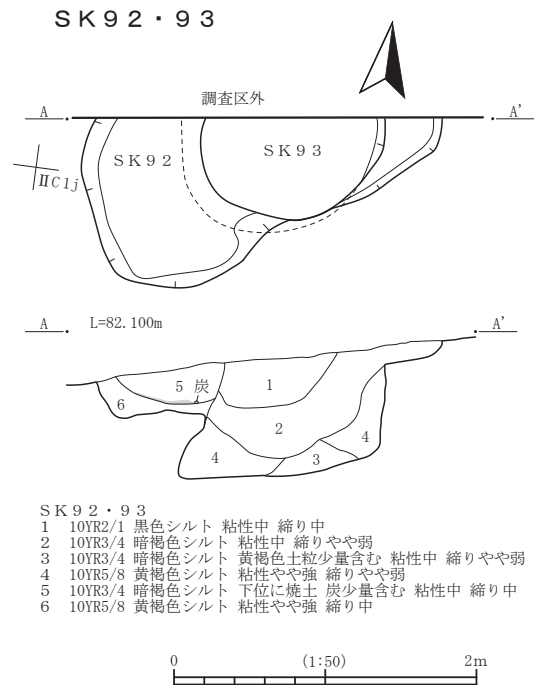
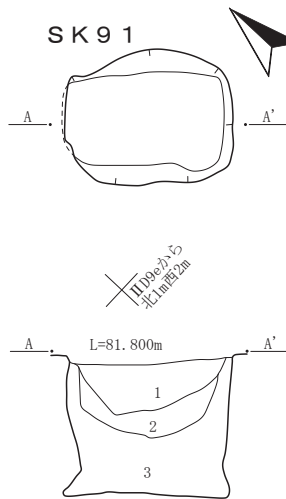
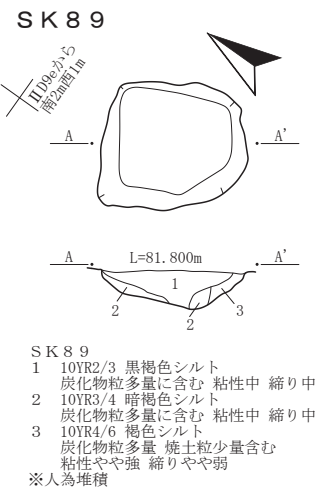
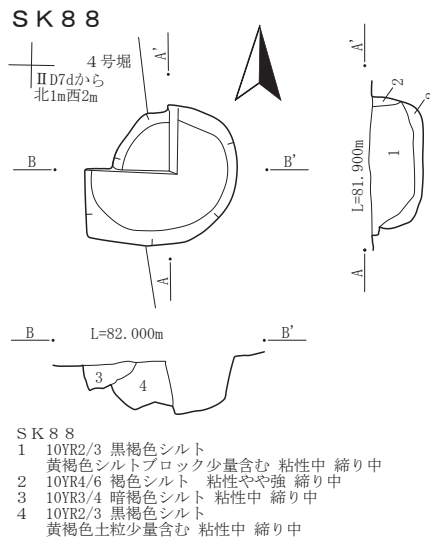
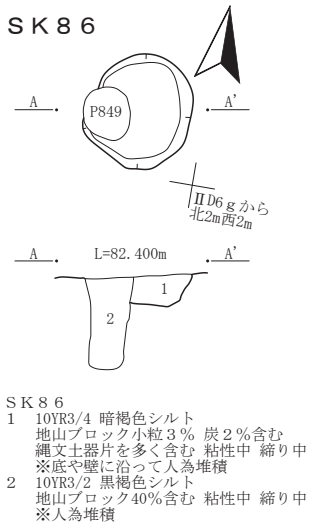
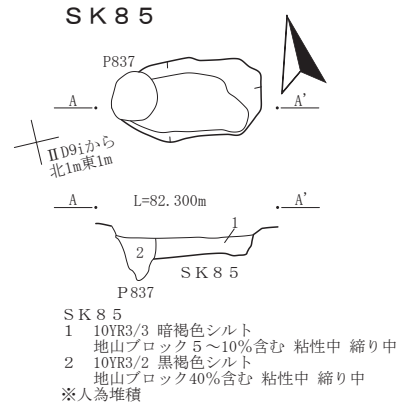
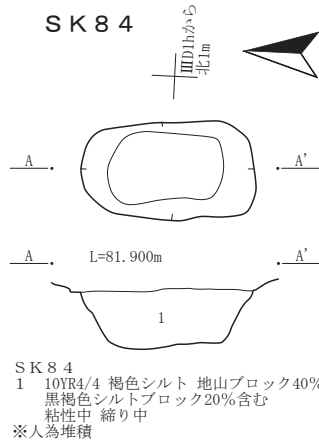
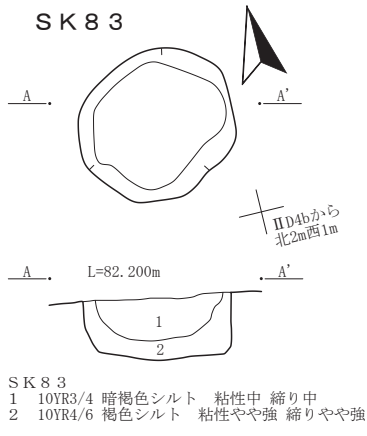
第 41 図 SK42~45・47・49~53 土坑



第 42 図 SK54~60・64・65・67 土坑

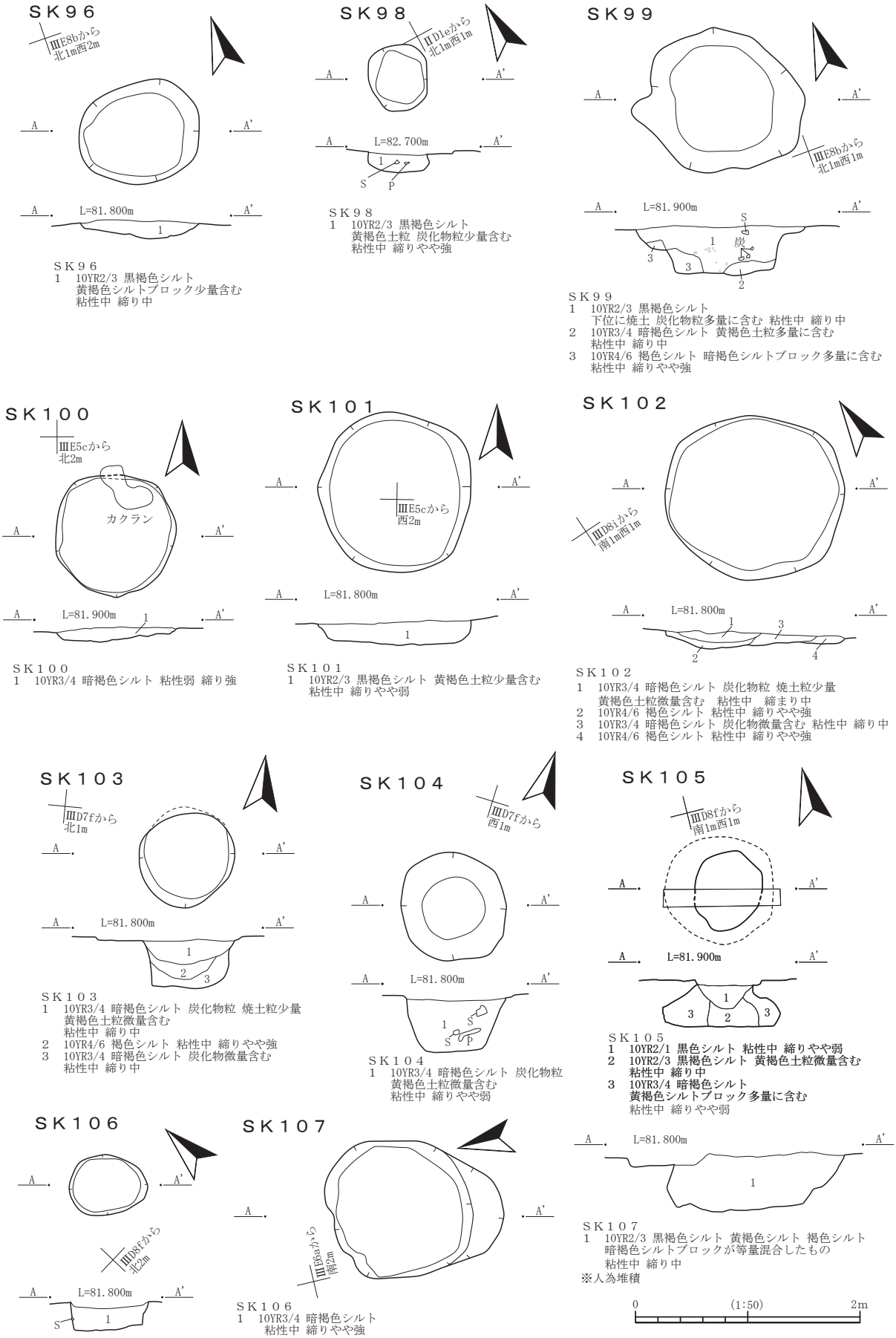


第43図 SK70・71・74~82土坑

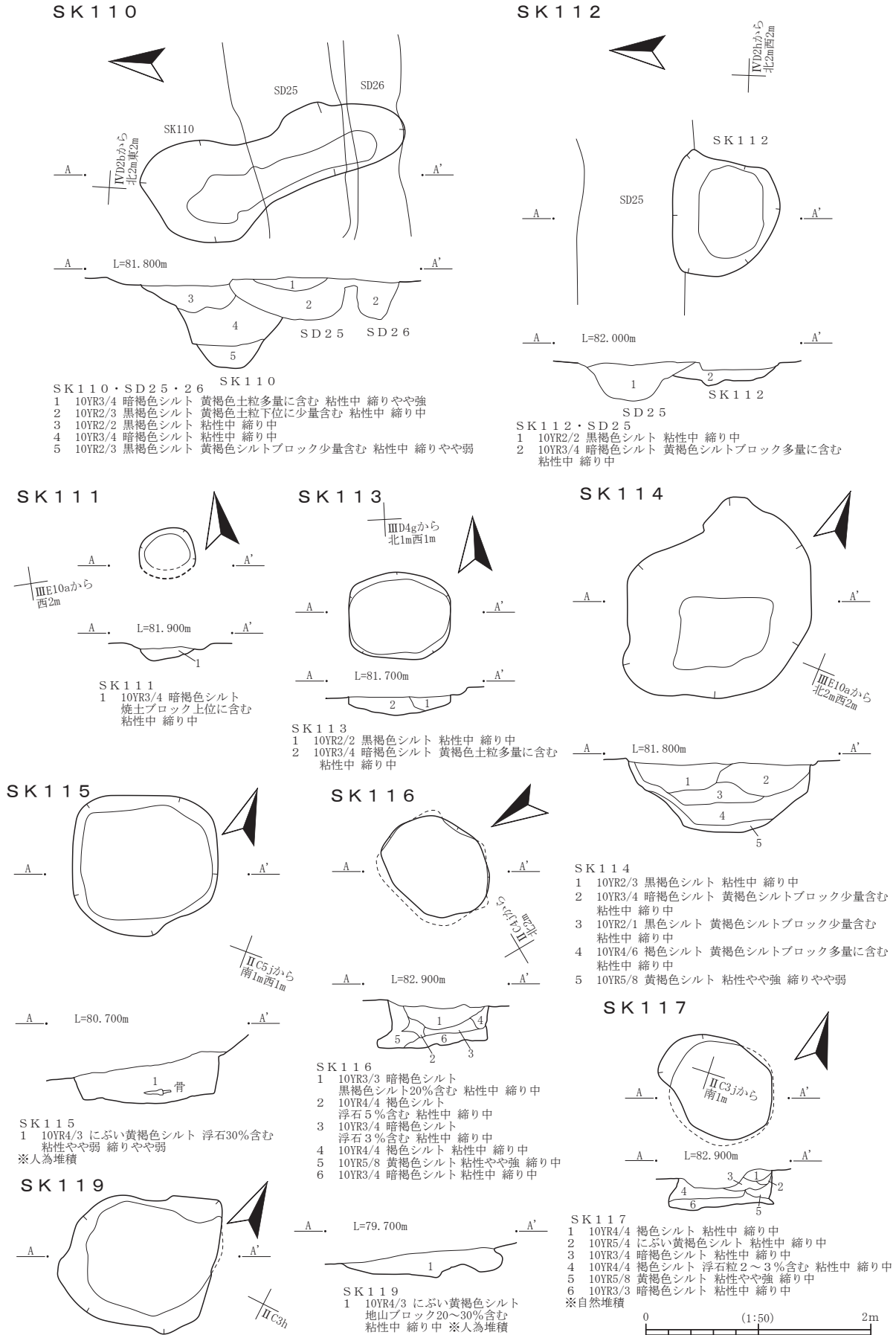


第 44 図 SK83~86・88~93・95 土坑

4 出土遺物

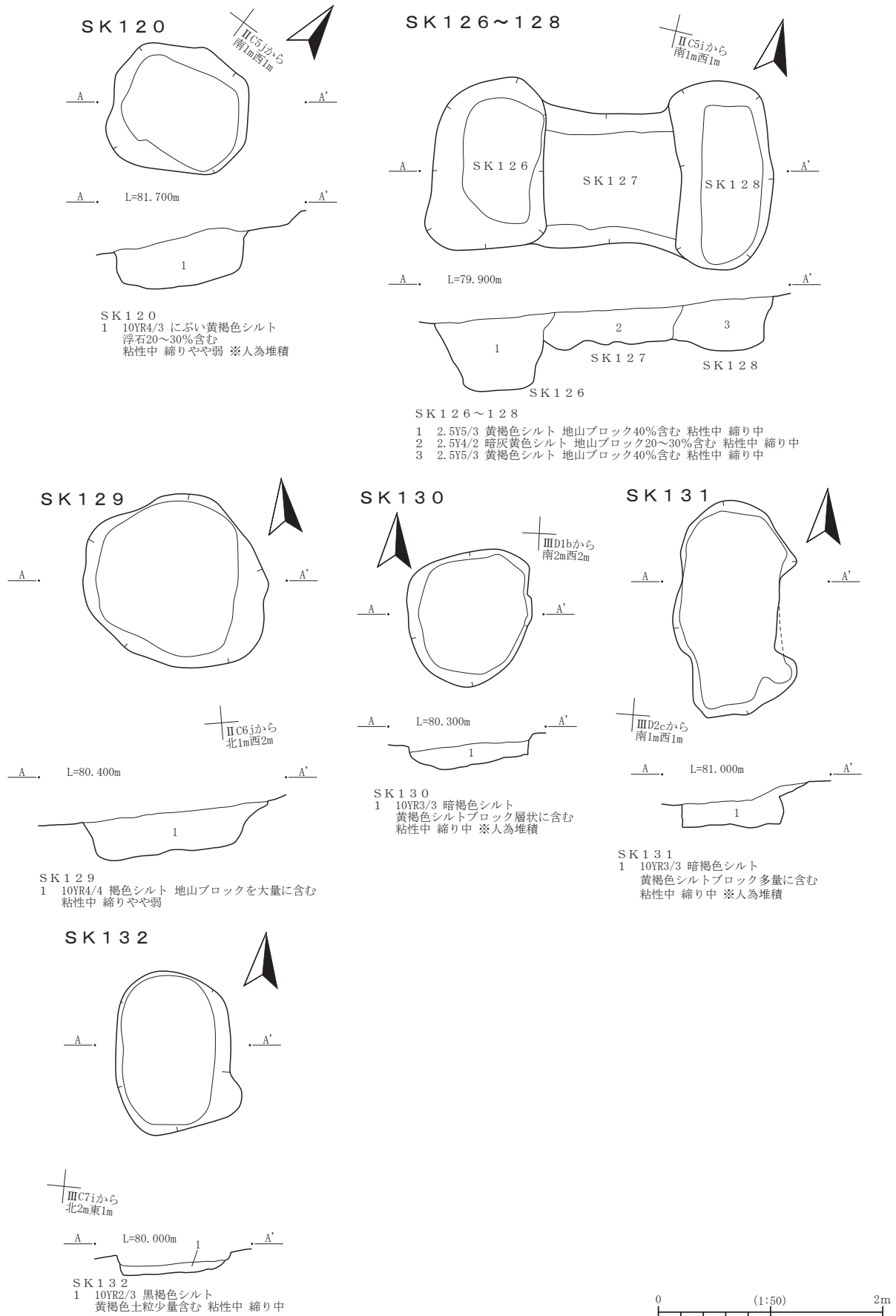


第 45 図 SK96・98~107 土坑



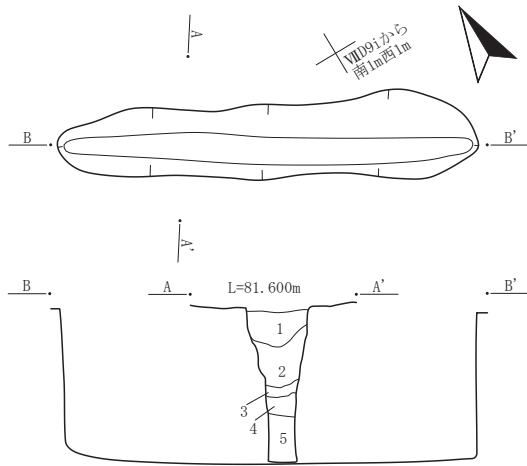
第46図 SK110~117・119土坑

4 出土遺物



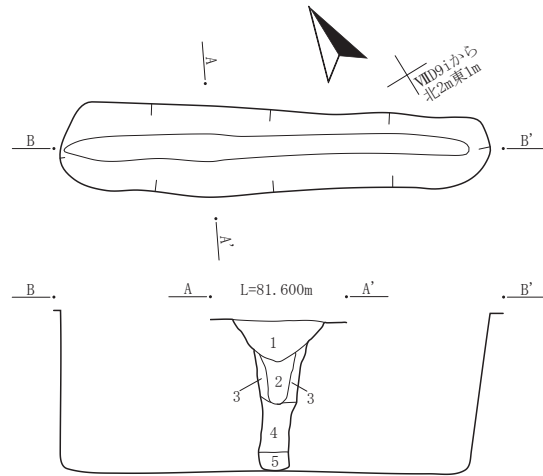
第 47 図 SK120・126~132 土坑

SKT01



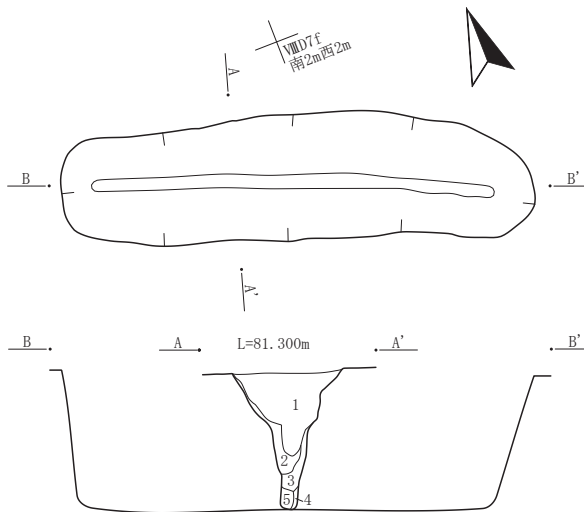
- SKT01
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 縮り強
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 縮りやや弱
 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮り弱
 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 縮り弱
 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや強 縮り弱

SKT02



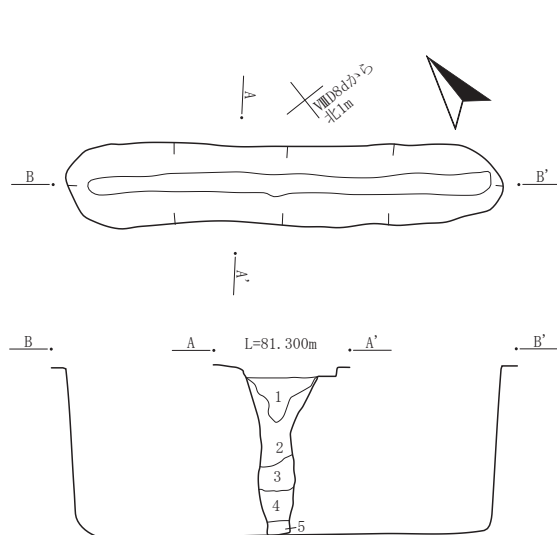
- SKT02
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 縮り強
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 縮りやや弱
 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性強 縮りやや強
 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 縮り弱
 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 縮り弱

SKT03



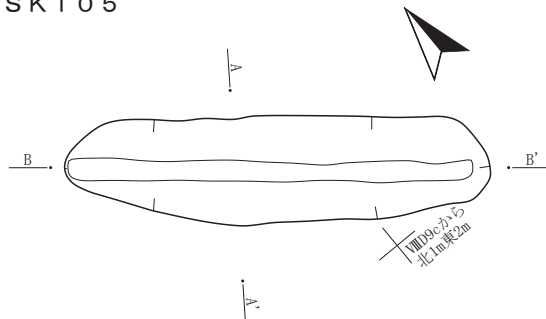
- SKT03
 1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
 2 10YR5/6 黄褐色シルト 暗褐色シルトを5%含む 粘性中 縮り中
 3 10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルトを5%含む 粘性やや強 縮り中
 4 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性やや強 縮り中
 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 縮りやや弱

SKT04

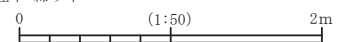


- SKT04
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒を20~25%含む 粘性中 縮り中
 3 10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルト2~5%含む 粘性中 縮りやや強
 4 10YR3/4 暗褐色シルト 黒褐色シルト粒5% 黄褐色シルト粒20%含む 粘性中 縮り中
 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中

SKT05

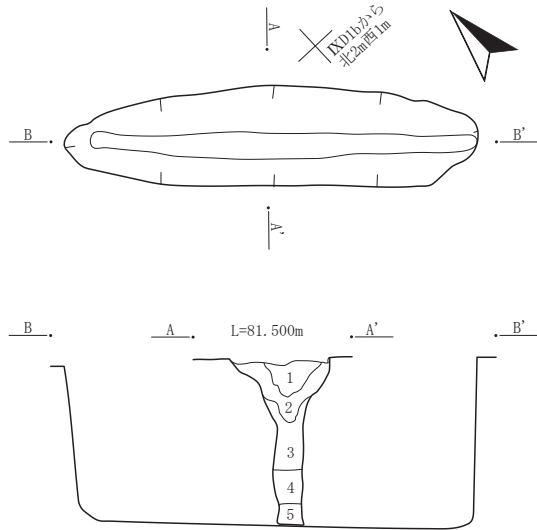


- SKT05
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 2層に近い部分は明黄褐色シルト混じる 粘性中 縮り中
 2 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性やや強 縮り中
 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや弱 縮りやや弱
 4 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 縮り中
 5 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中



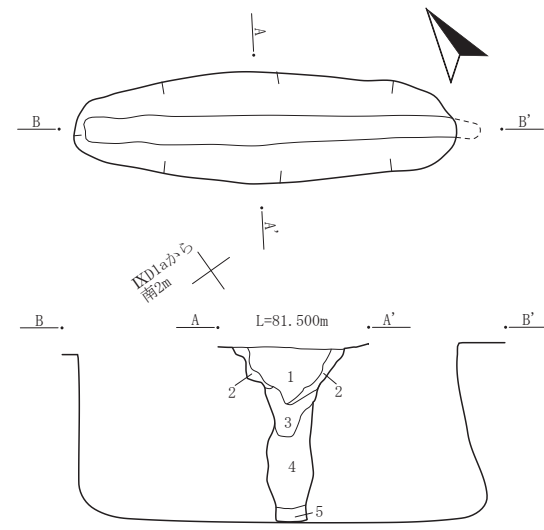
第48図 SKT01~05 陥し穴

SKT 1 1



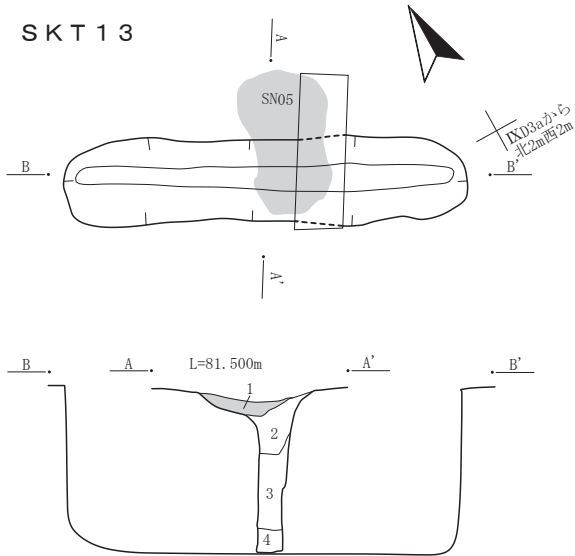
- SKT 1 1
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮りやや強
 2 10YR4/4 褐色シルト 明黄褐色シルト20~30%含む 粘性中 縮り中
 3 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性やや強 縮り中
 4 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 縮り中
 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中

SKT 1 2



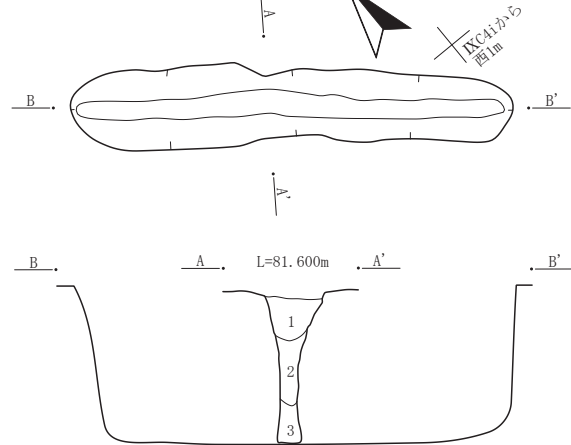
- SKT 1 2
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 縮りやや強
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮りやや強
 3 10YR5/6 黄褐色シルト 暗褐色シルトを30~50%含む 粘性中 縮り中
 4 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性中 縮り中
 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮りやや弱

SKT 1 3



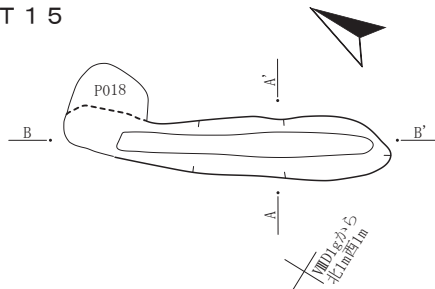
- SKT 1 3
 1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱 縮りやや強
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 縮りやや弱
 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性強 縮りやや弱
 4 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや強 縮り弱

SKT 1 4

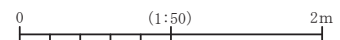


- SKT 1 4
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや弱 縮りやや弱
 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮りやや弱
 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 縮り弱

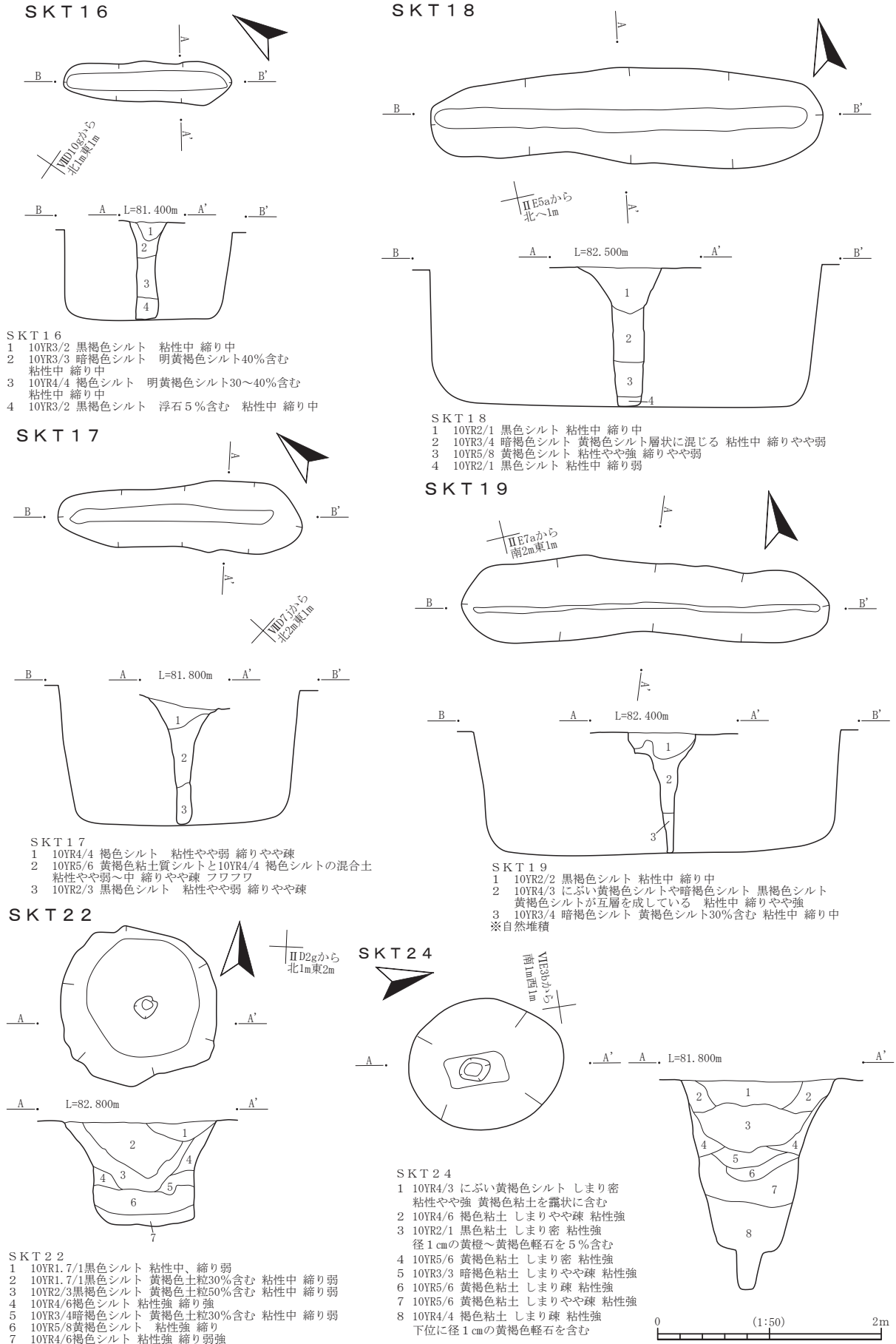
SKT 1 5



- SKT 1 5
 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 縮り中
 3 10YR4/4 褐色シルト 明黄褐色シルト30% 黒褐色シルト20%含む 粘性中 縮り中
 4 10YR3/2 黒褐色シルト 浮石5%含む 粘性やや強 縮り中



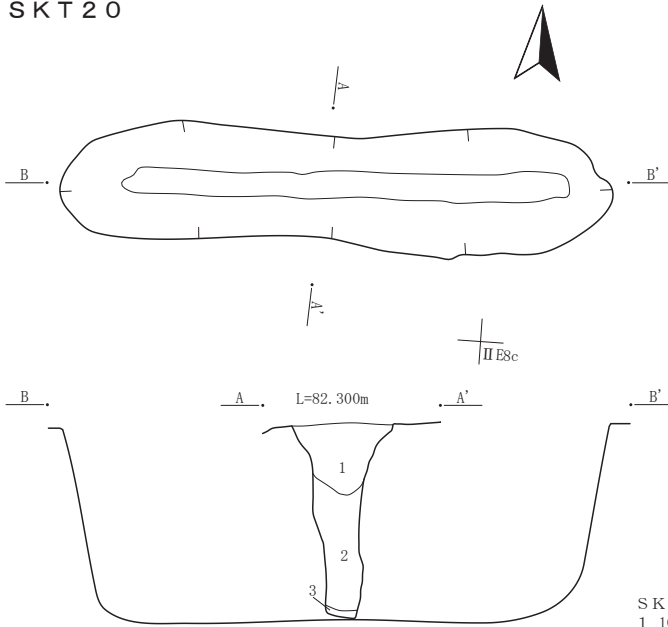
第 49 図 SKT11~15 陥し穴



第50図 SKT16~19・22・24 陥し穴

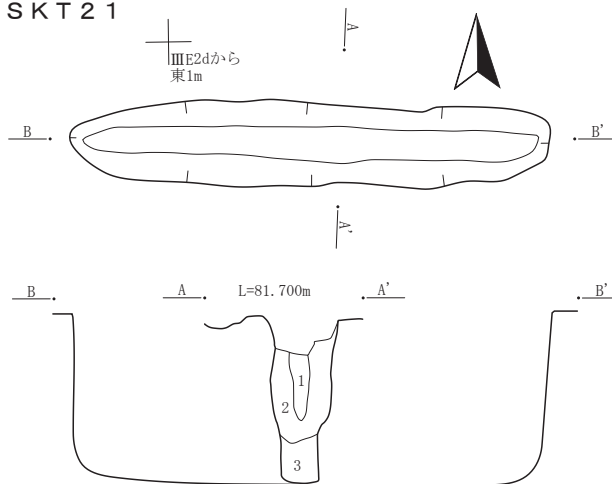
4 出土遺物

SKT 20



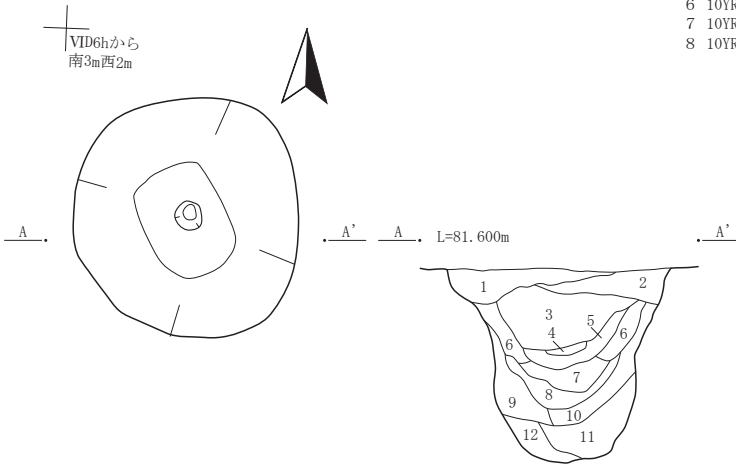
- SKT 20
 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
 2 10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルト10%含む 粘性やや強 縮りやや弱
 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
 ※自然堆積

SKT 21

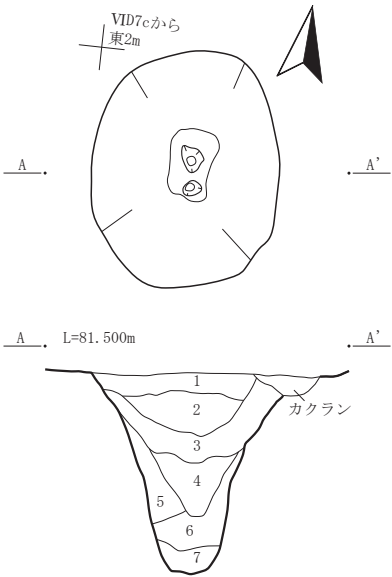


- SKT 21
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 縮り中
 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮りやや弱
 3 10YR2/1 黒色シルト 黄褐色土粒少量含む 粘性中 縮りやや弱

SKT 26

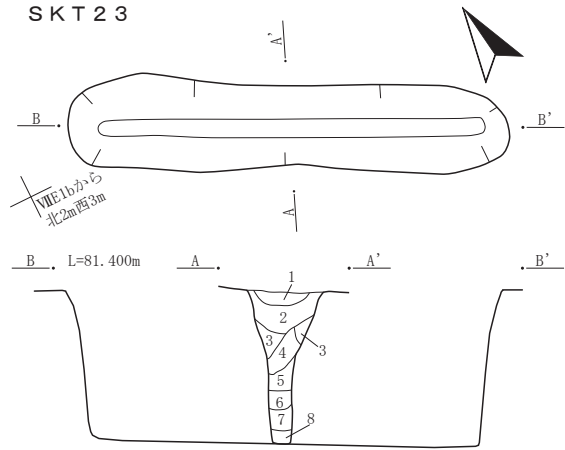


SKT 25



- SKT 25
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密 粘性やや強 黄褐色粘土を露状に含む
 2 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強 径1cmの黄橙～黄褐色軽石を5%含む
 3 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 塊状焼土を含む
 4 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 5 10YR5/6 黄褐色粘土 しまり密 粘性強 上位に塊状黄褐色粘土を多く含む
 6 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 7 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強 下位に径1cmの黄褐色軽石を含む

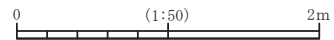
SKT 23



- SKT 23
 1 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
 2 10YR2/2 黒褐色粘土 しまり密 粘性強 黄褐色粘土を露状に含む
 3 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 4 10YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 5 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 6 10YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 7 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 8 10YR2/1 黒色粘土 しまり疎 粘性強 腐食物主体

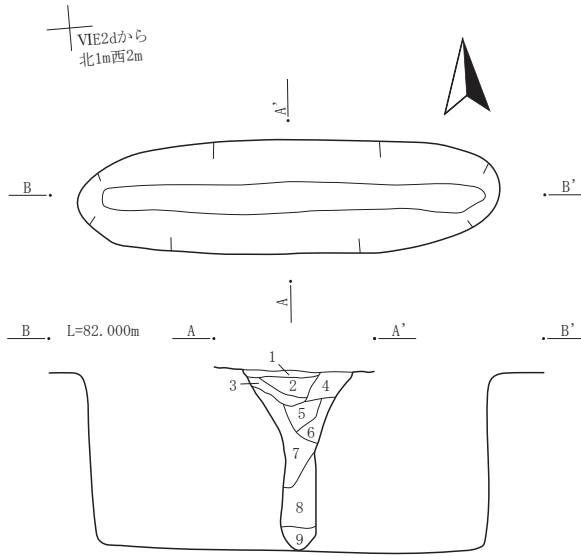
SKT 26

- SKT 26
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密 粘性やや強 径1cmの黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む
 2 10YR3/2 黒褐色シルト しまり密 粘性やや強
 3 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強 径1cmの黄橙～黄褐色軽石を5%含む
 4 5YR4/6 赤褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 塊状焼土層
 5 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 6 10YR4/6 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 7 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 8 N1.5/0 黒色粘土 しまり疎 粘性強 炭化物、炭化材主体土層
 9 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 10 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 径2～5cmの塊状褐色粘土を10%含む
 11 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 12 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強



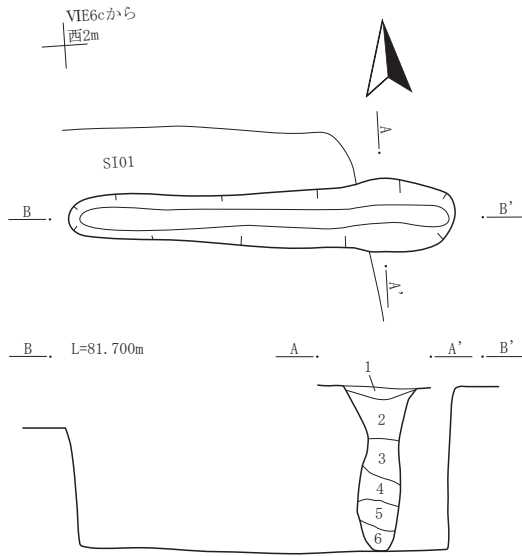
第51図 SKT20・21・23・25・26 陥し穴

SKT 27



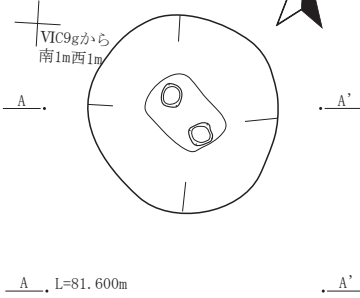
- SKT 27
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密 粘性やや強
径1cm黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む
 - 2 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
 - 3 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 塊状黄褐色粘土を含む
 - 4 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 5 10YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 6 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 7 10YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 8 10YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 9 10YR2/1 黒色粘土 しまり疎 粘性強 腐食物を多く含む

SKT 31



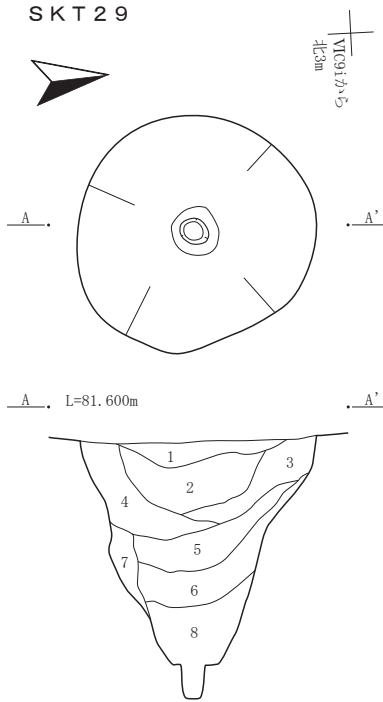
- SKT 31
- 1 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 3 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 4 10YR5/6 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 5 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 6 10YR2/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む

SKT 28



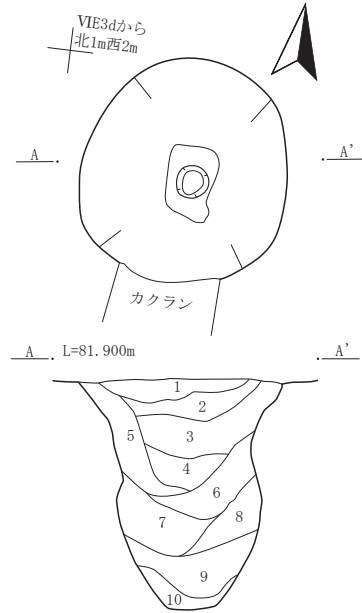
- SKT 28
- 1 10YR4/6 褐色粘土 しまり疎 粘性強
塊状黄褐色粘土を50%含む。カクラン
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密 粘性やや強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む
 - 3 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石を5%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 5 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 - 6 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 7 10YR6/6 明黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 8 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
6・7層界に塊状暗褐色粘土を含む
 - 9 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや密 粘性強

SKT 29

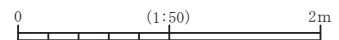


- SKT 29
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密粘性やや強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む
 - 2 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石を5%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
層中央に径1cmの塊状明褐色粘土を含む
 - 4 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 - 5 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石を5%含む
 - 6 10YR6/6 明黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 7 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 8 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや密 粘性強

SKT 30



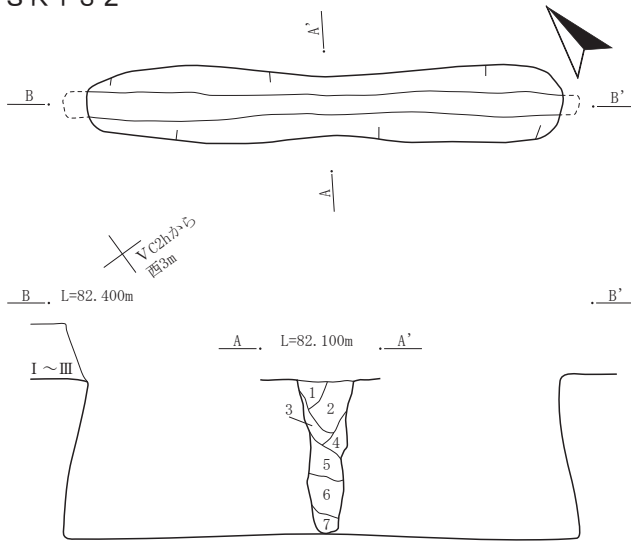
- SKT 30
- 1 10YR3/4 暗褐色粘土 しまり密 粘性強
 - 2 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 - 3 10YE3/1 黒褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
塊状黒色粘土を含む。
 - 4 10YR2/1 黒色粘土 しまりやや疎 粘性強
層上面に赤褐色粘土(焼土)の薄層を含む
 - 5 10YR4/4 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 7 層界に黒色粘土の薄層を含む
 - 6 10YR4/2 にぶい黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
7・8層界に黒色粘土の薄層を含む
 - 7 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
径1cmの黄橙～黄褐色軽石を20%含む
 - 8 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 9 10YR3/4 暗褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 10 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや密 粘性弱
土坑壁面崩落。黒色粘土が混じる



第52図 SKT27～31 陥し穴

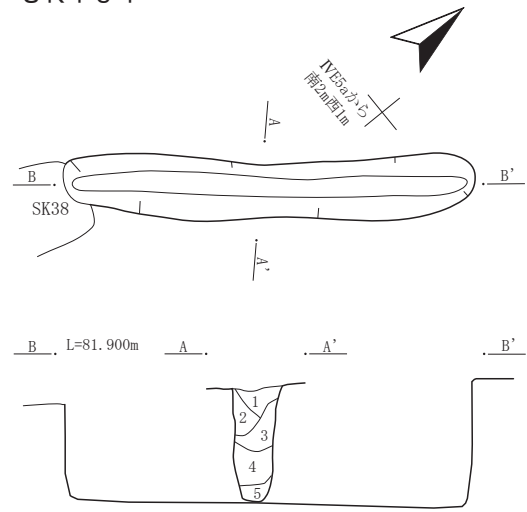
4 出土遺物

SKT 3 2



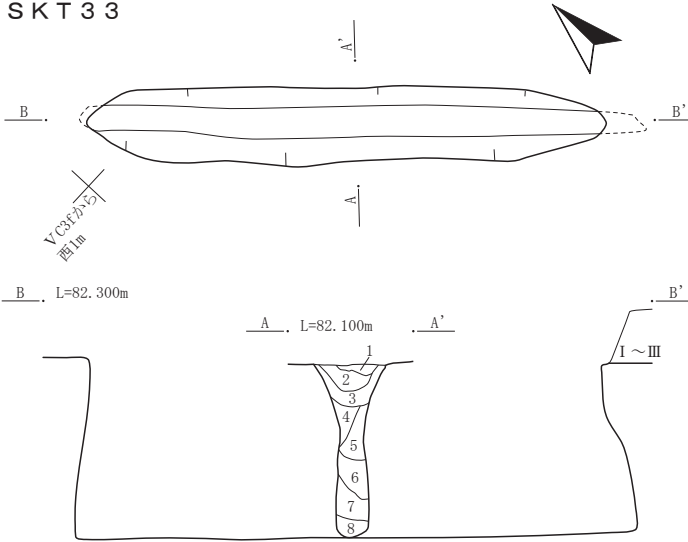
- SKT 3 2
- 1 10YR4/6 褐色粘土 しまり密 粘性強
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 径5cmの塊状黄褐色粘土を10%含む
 - 3 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強 4層界に褐色粘土を含む
 - 4 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 5 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 6 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 7 10YR2/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強 黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む

SKT 3 4



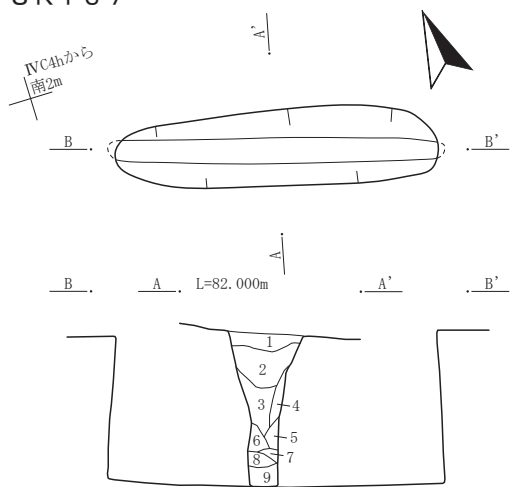
- SKT 3 4
- 1 10YR3/4 暗褐色粘土 しまり密 粘性強
 - 2 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強 径1cmの黄橙～黄褐色軽石を20%含む。
 - 3 10YR4/4 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 4 10YR4/2 にぶい黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 5 10YR3/4 暗褐色粘土 しまり疎 粘性強

SKT 3 3



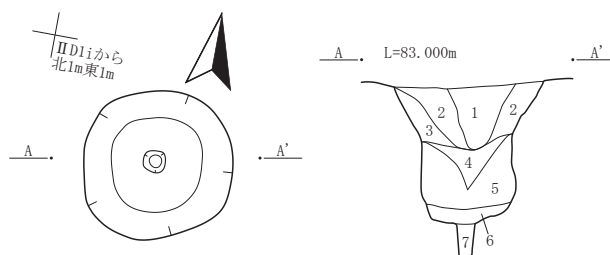
- SKT 3 3
- 1 10YR4/6 褐色粘土 しまり密 粘性強
 - 2 10YR2/1 黒色粘土 しまり密 粘性強
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 4 10YR5/6 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 5 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 6 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 7 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 8 10YR2/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強

SKT 3 7

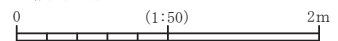


- SKT 3 7
- 1 10YR2/2 黒褐色粘土 しまり密 粘性強
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 3 10YR4/4 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 - 4 10YR5/8 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強 崩落土
 - 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 6 10YR5/8 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強 崩落土
 - 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 - 8 10YR5/8 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強 崩落土
 - 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり疎 粘性強

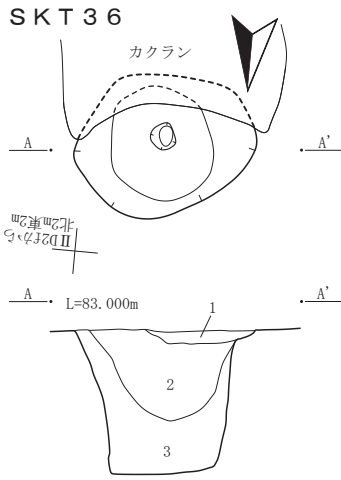
SKT 3 5



- SKT 3 5
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締り中
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色土粒少量含む 粘性中 締り中
 - 3 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量に含む 粘性中 締り中
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色土粒少量含む 粘性中 締り弱
 - 5 10YR4/6 褐色シルト 黒褐色土粒少量含む 粘性強 締りやや弱
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 締り弱
 - 7 10YR4/6 褐色シルト 粘性強 締り弱

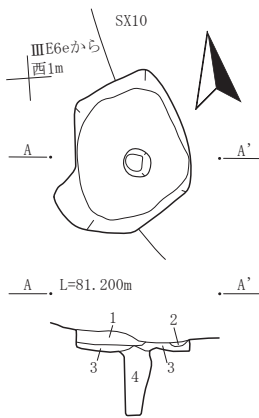


第53図 SKT32～35・37 陥し穴



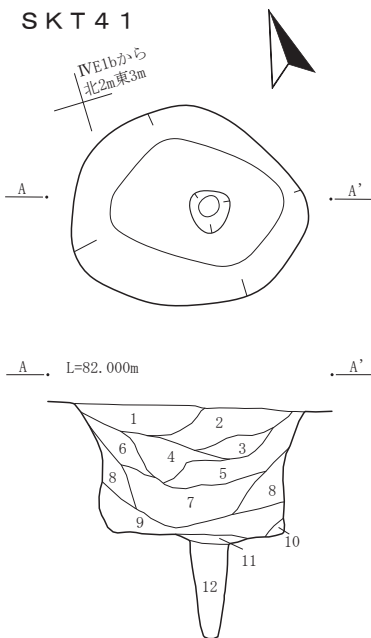
- SKT 36
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締り中
 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締り中
 3 10YR4/6 褐色シルト 黒褐色土粒少量含む 粘性中 締り弱

SKT 40



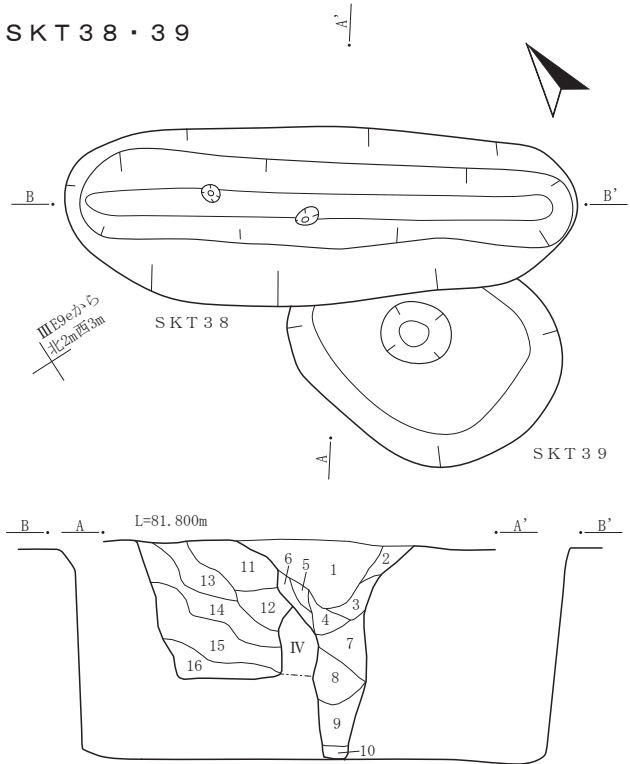
- SKT 40
 1 10YR5/8 黄褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 2 10YR4/8 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 3 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 4 10YR3/1 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強

SKT 41



- SKT 41
 1 10YR2/2 黒褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 2 10YR3/2 暗褐色粘土 しまり密 粘性強
 1層界に塊状黒色粘土、3・5層界に塊状褐色粘土を、黄橙～黄褐色軽石(径1cm)をわずかに含む。
 3 10YR3/3 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 層下位に炭化物、径1cmの黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む。
 4 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 5 10YR3/4 暗褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 径1cmの黄橙～黄褐色軽石をわずかに含む。
 6 10YR4/4 褐色粘土 しまりやや疎 粘性強
 4・6層界に塊状黄褐色粘土を含む。
 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 8 10YR5/6 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 9 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 10 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 11 10YR7/6 明黄褐色粘土 しまり密 粘性強
 12 10YR2/2 黒褐色粘土 しまりやや疎 粘性強

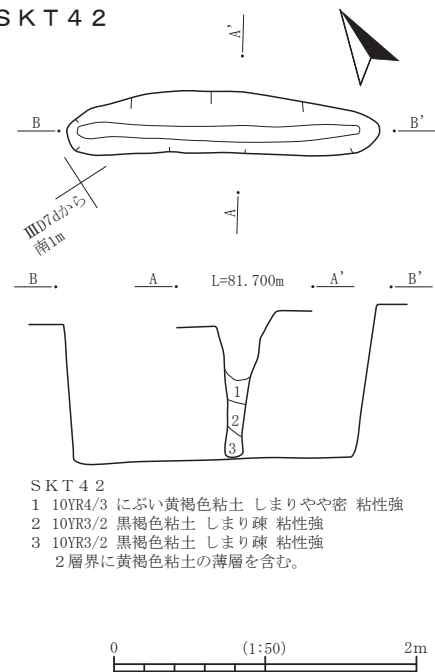
SKT 38・39



SKT 38・39

- 1 10YR1.7/1 黒色粘土 しまりやや密 粘性強 下層界に漸移層有
 2 10YR3/4 暗褐色粘土 しまり疎 粘性強
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 4 10YR2/1 黒色粘土 しまり疎 粘性強 根カクランを多く含む。
 5 10YR3/4 暗褐色粘土 しまり疎 粘性強 塊状黄褐色粘土含む。
 6 10YR6/6 明黄褐色粘土 しまり密 粘性強
 7 10YR4/4 褐色粘土 しまり疎 粘性強 8層界に生物擾乱有
 8 10YR5/6 黄褐色粘土 しまり疎 粘性強
 9 10YR4/6 褐色粘土 しまり疎 粘性強
 10 10YR2/1 黒色粘土 しまり疎 粘性強
 11 10YR3/1 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 12 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 13 10YR2/2 黒褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 14 10YR4/4 褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 15 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 16 10YR4/2 灰黄褐色粘土 しまりやや密 粘性強

SKT 42

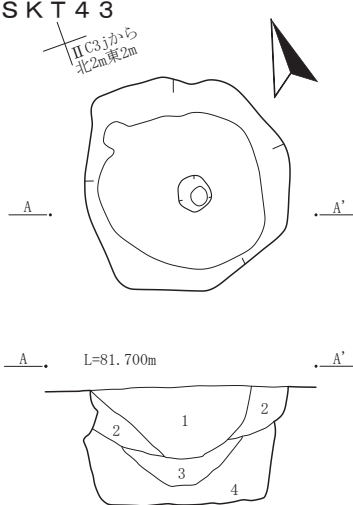


SKT 42

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 しまりやや密 粘性強
 2 10YR3/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強
 3 10YR3/2 黒褐色粘土 しまり疎 粘性強
 2層界に黄褐色粘土の薄層を含む。

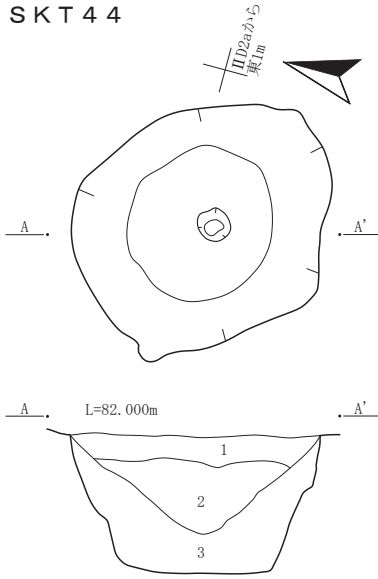
第54図 SKT36・38～42 陥し穴

SKT 43



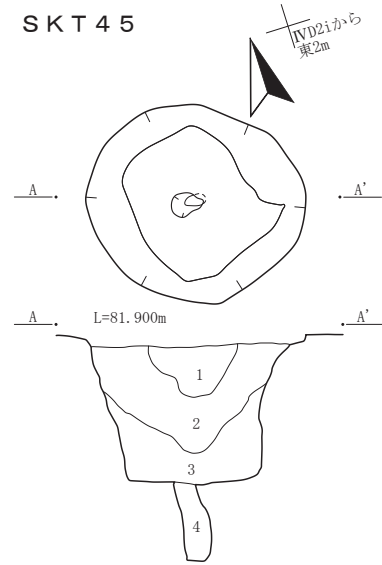
- SKT 43
 1 10YR2/3 黒褐色シルト
 下位に黄褐色シルトブロック多量に含む
 粘性中 締り中
 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 締りやや強
 3 10YR3/4 暗褐色シルト
 黄褐色シルトブロック少量含む 粘性・締り中
 4 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性やや強 締りやや弱

SKT 44



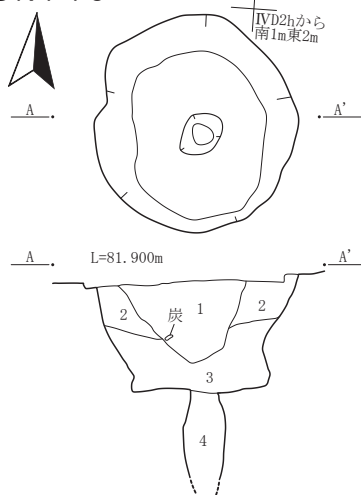
- SKT 44
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 締り中
 2 10YR2/1 黒色シルト
 黄褐色シルトブロック下位に多量に含む
 粘性 締り中
 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 締りやや弱

SKT 45



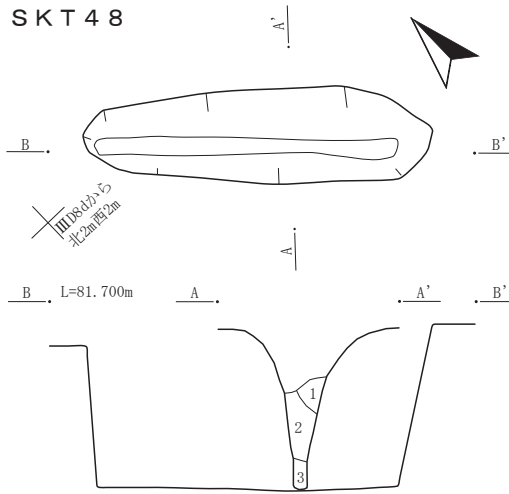
- SKT 45
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色土粒微量含む
 粘性中 締り中
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色土粒少量含む
 粘性中 締り中
 3 10YR4/6 褐色シルト 黄褐色土粒多量に含む
 粘性中 締りやや弱
 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締りやや弱

SKT 46



- SKT 46
 1 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色土粒
 炭化物粒少量含む 粘性中 締り中
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締り中
 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強
 締りやや弱
 4 10YR3/4 暗褐色シルト
 粘性やや強 締り弱

SKT 48

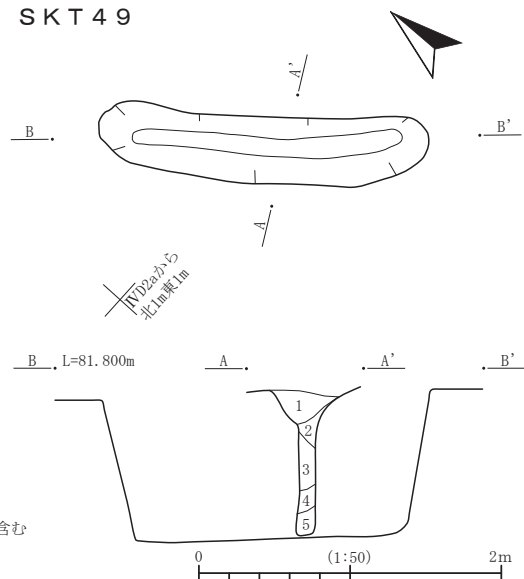


- SKT 48
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
 しまりやや密 粘性強
 2 10YR5/6 黄褐色粘土 しまりやや密
 粘性強 浮石をわずかに含む
 3 10YR3/2 黒褐色粘土 しまり疎
 粘性強

SKT 49

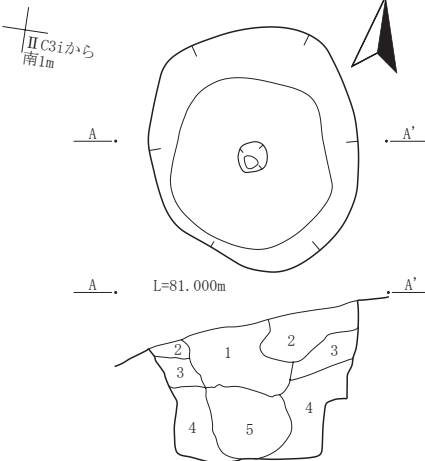
- SKT 49
 1 10YR3/3 暗褐色粘土 しまり密 粘性強
 木根によるカクラン層
 2 10YR4/4 褐色粘土 しまり密 粘性強
 3 10YR5/8 黄褐色粘土 しまり密 粘性強
 4 10YR4/4 褐色粘土 しまり密 粘性強
 5 10YR4/6 褐色粘土 しまり密 粘性強
 径1~2cmの塊状黄褐色粘土を5%含む

SKT 49



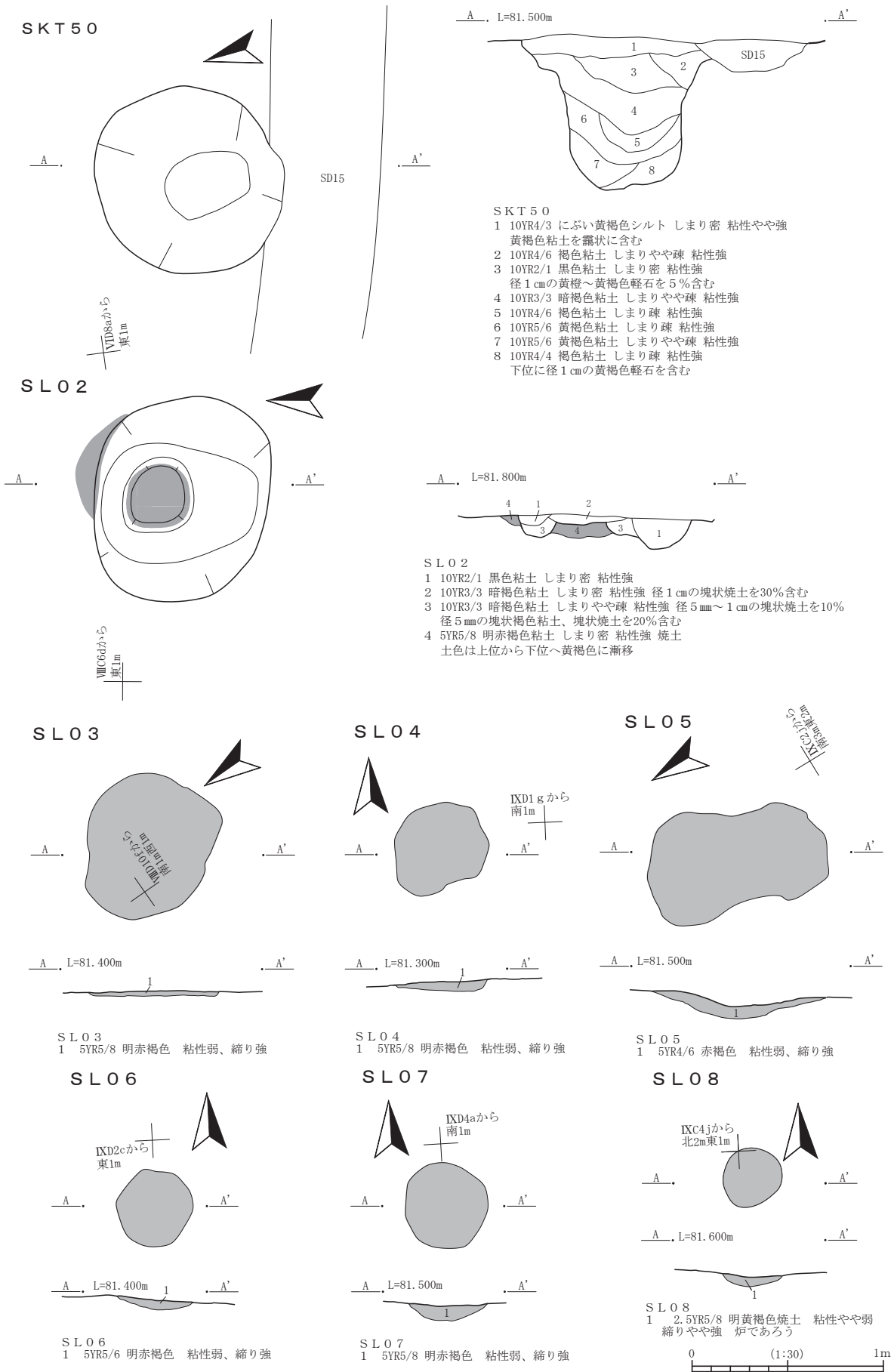
SKT 47

SKT 47



- SKT 47
 1. 10YR2/3 黒褐色シルト
 粘性中 締り中
 2. 10YR3/4 暗褐色シルト
 粘性やや強 締り中
 3. 10YR5/6 黄褐色シルト
 浮石10~15%含む
 粘性中 締り中
 4. 10YR6/8 明黄褐色浮石
 その隙間に黄褐色シルト
 粘性弱 締りやや強
 5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
 浮石20% 黄褐色シルト15%含む
 粘性中 締り中
 ※自然堆積

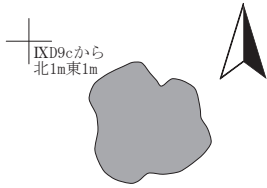
第55図 SKT43~49 陥し穴



第56図 SKT50 陥し穴・SL02～08

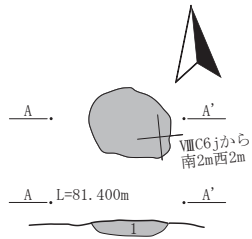
4 出土遺物

SL09



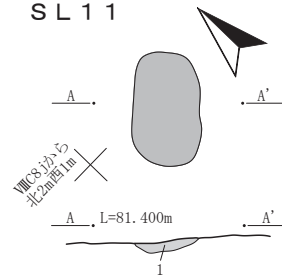
SL09・・・断面記録なし

SL10



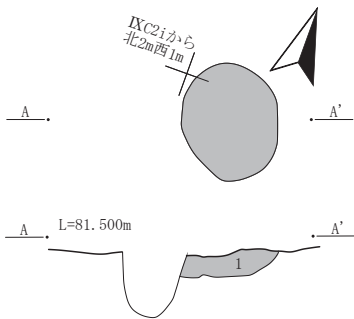
SL10
1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱、縮り強

SL11



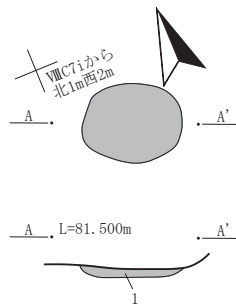
SL11
1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし、縮り強

SL12



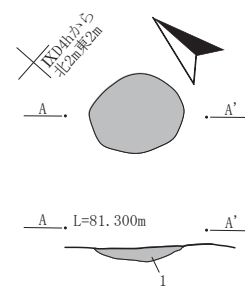
SL12
1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱 縮り強

SL13



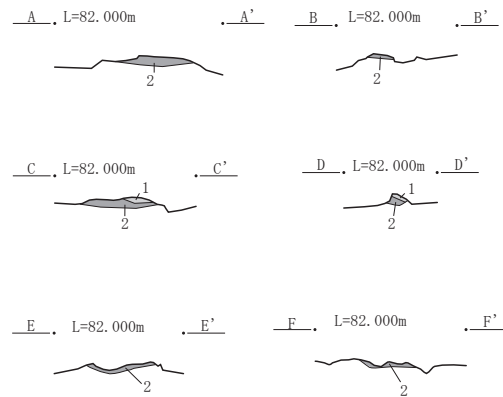
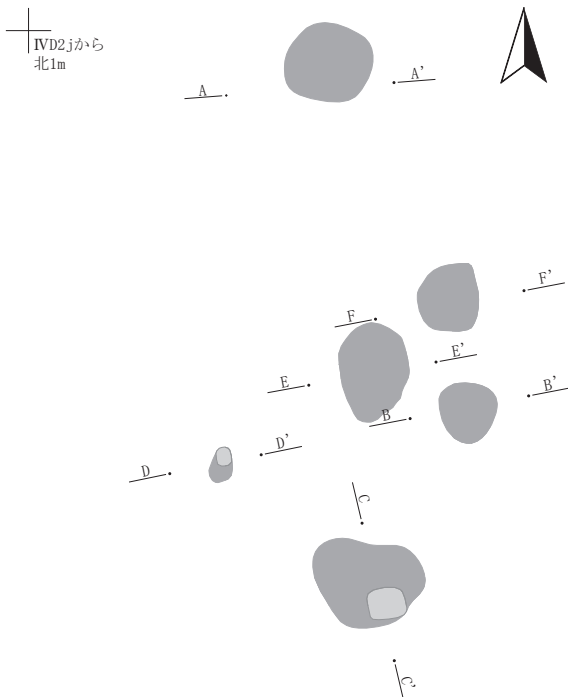
SL13
1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし 縮り強

SL14

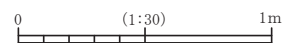


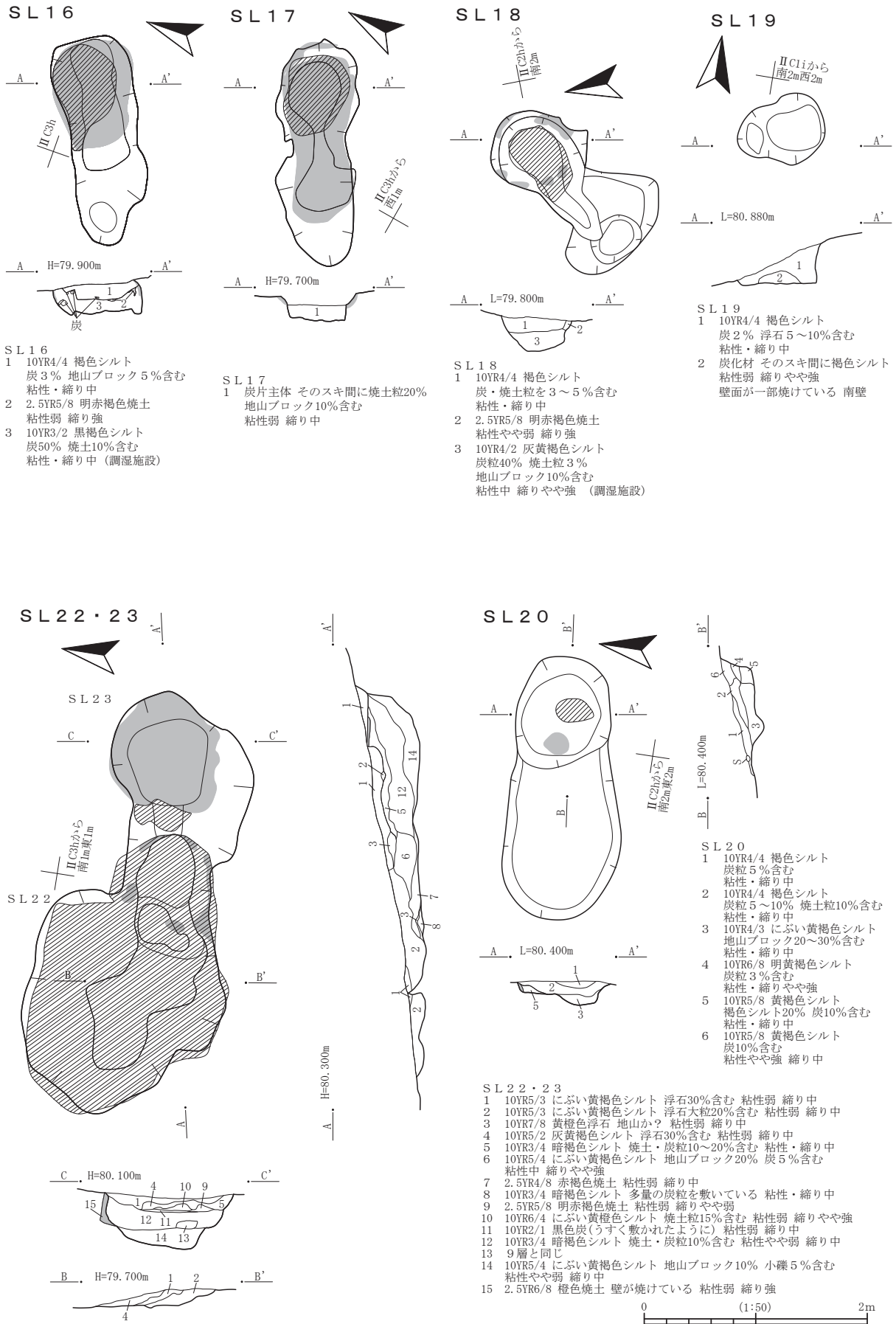
SL14
1 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性やや弱 縮り強

SL15

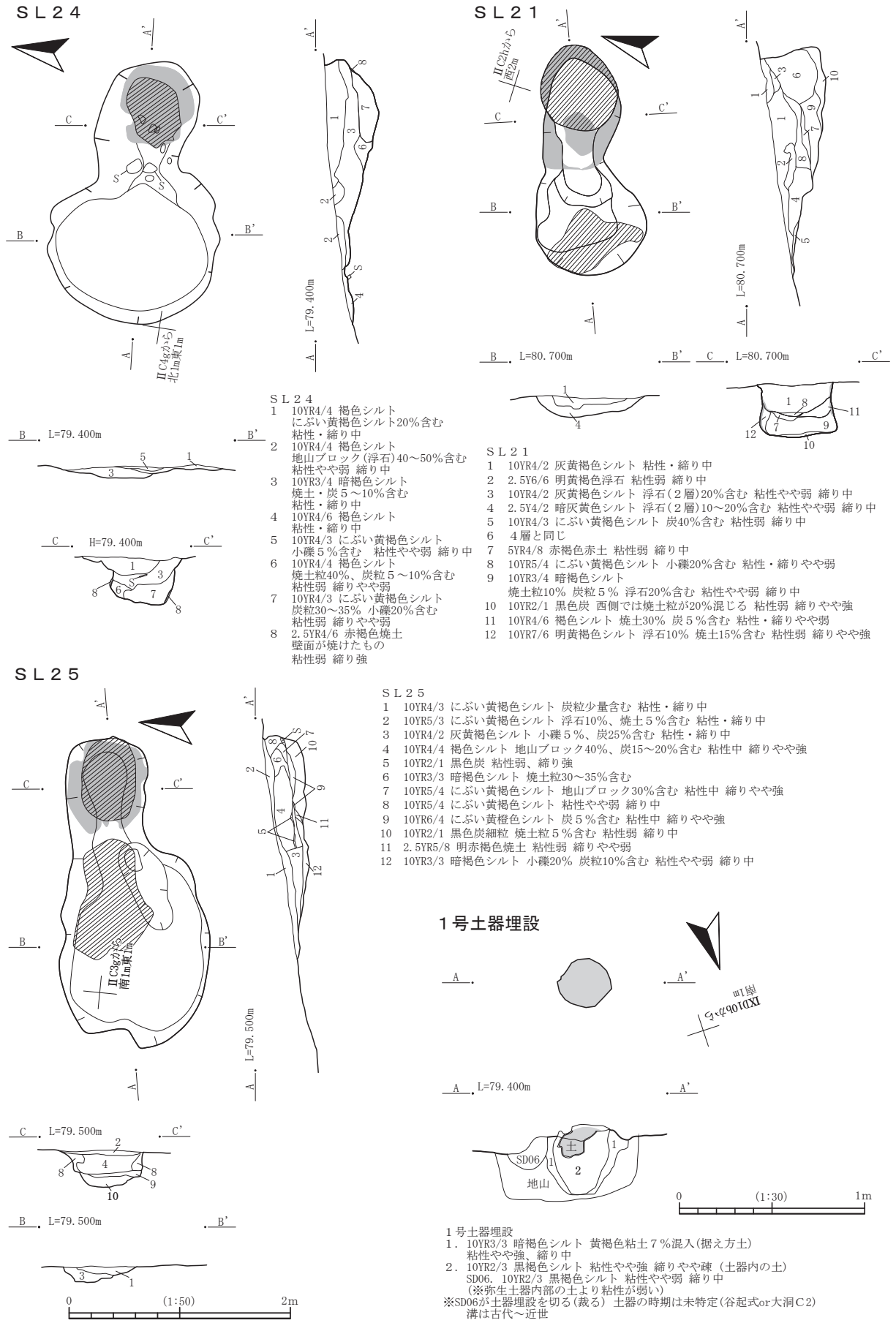


SL15
1 7.5YR6/8 橙色粘土 しまり密 粘性弱 被熱硬化面。
2 5YR5/6 暗赤褐色粘土 しまり密 粘性強 焼土。



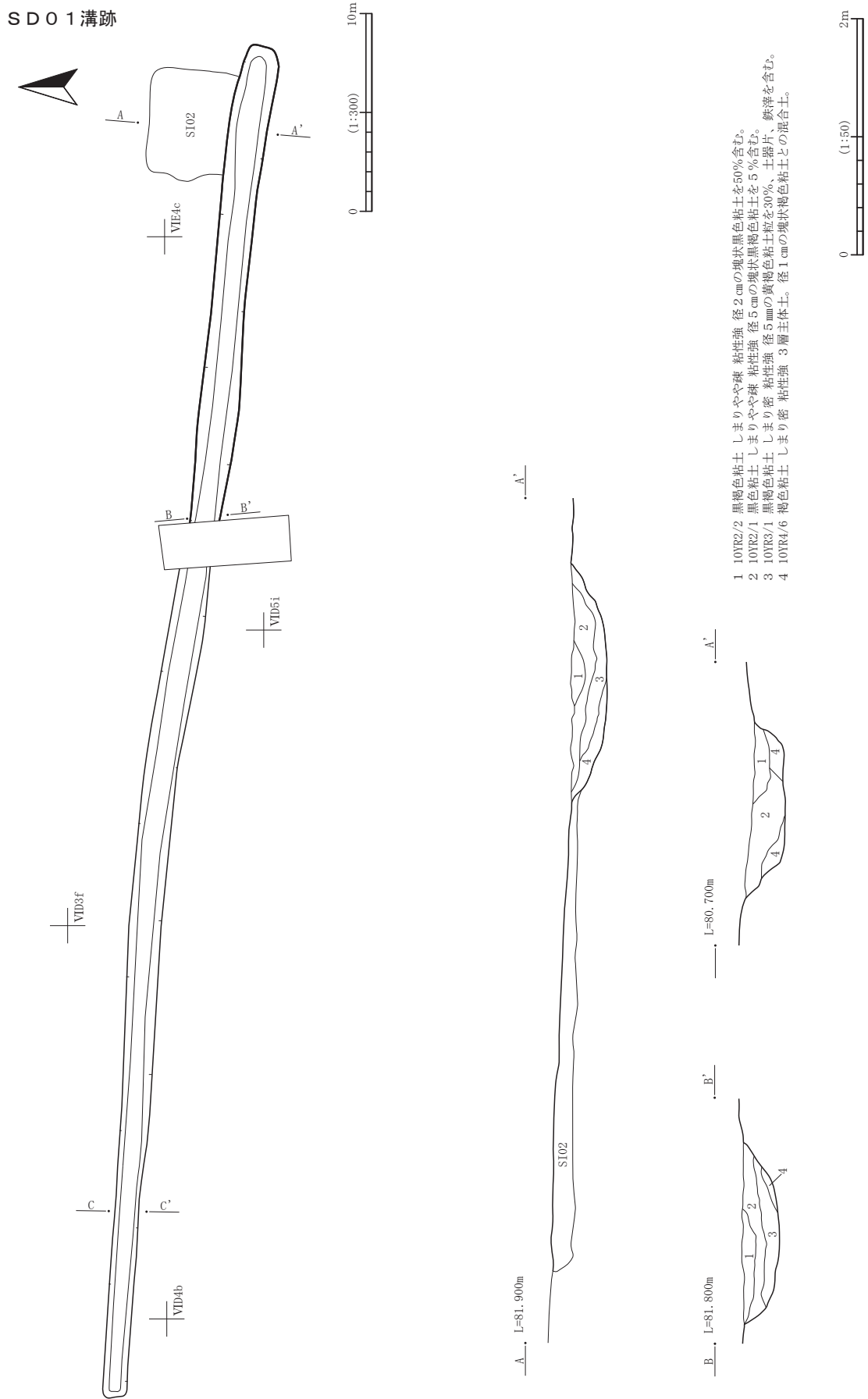


第58図 SL16~20・22・23



第59図 SL21・24・25・1号土器埋設

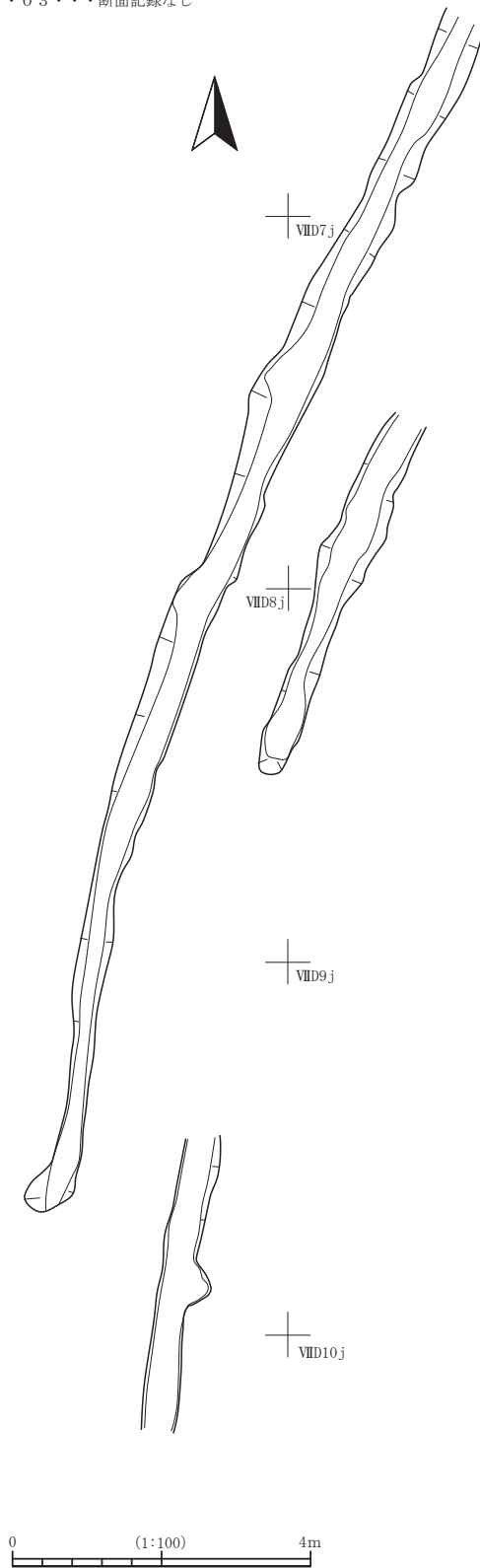
SD01 溝跡



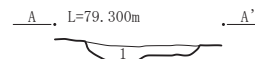
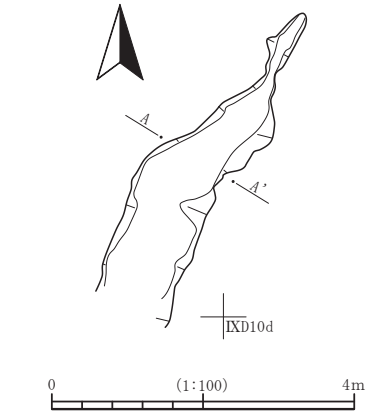
第 60 図 SD01 溝跡

SD02・03溝跡

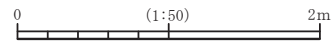
SD02・03・・・断面記録なし



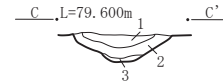
SD08溝跡



1 10YR3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルト20%含む
粘性・縮り中 壁や底面の境が不明瞭 自然流路か

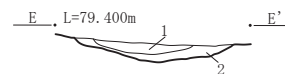
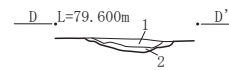


SD04・07溝跡



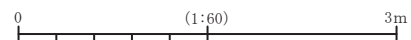
SD04C-C'

1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・縮り中
2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・縮り中
3 10YR4/1 褐灰色シルト(網砂質) 粘性弱・縮り強



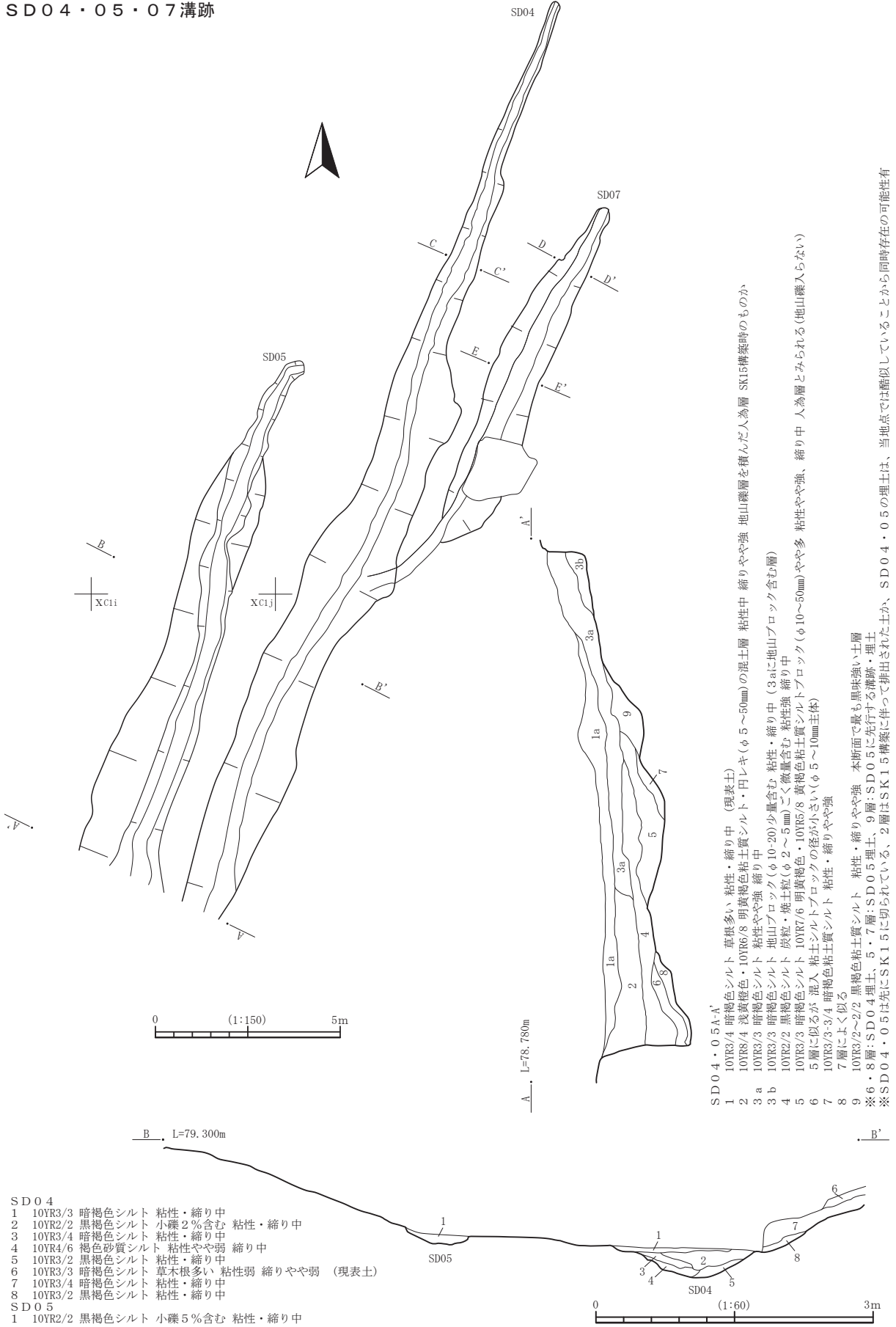
SD07D-D', E-E'

1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・縮り中
2 10YR3/4 暗褐色シルト 小礫5%含む 粘性・縮り中



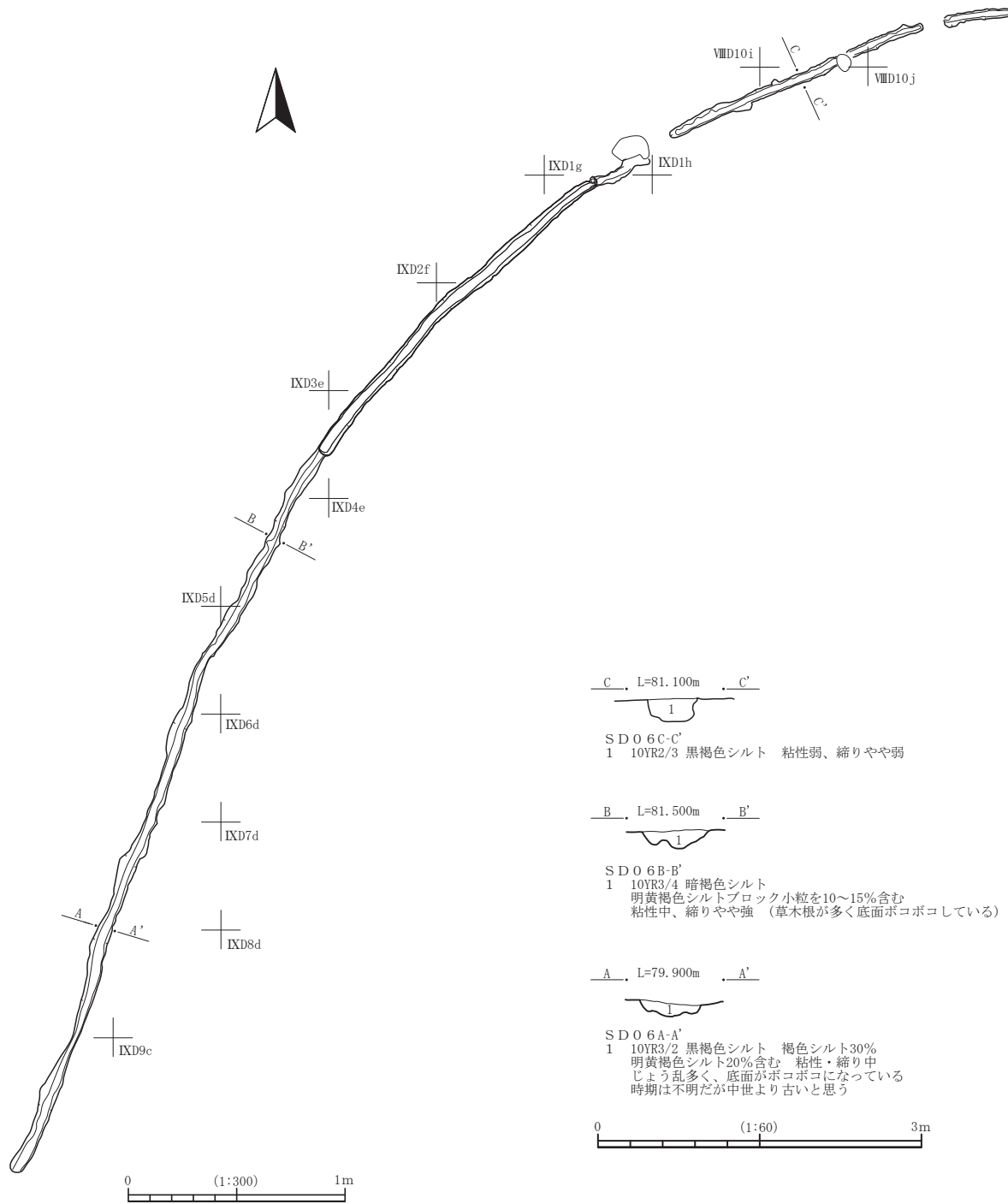
第 61 図 SD02・03・04・07・08 溝跡

SD04・05・07溝跡



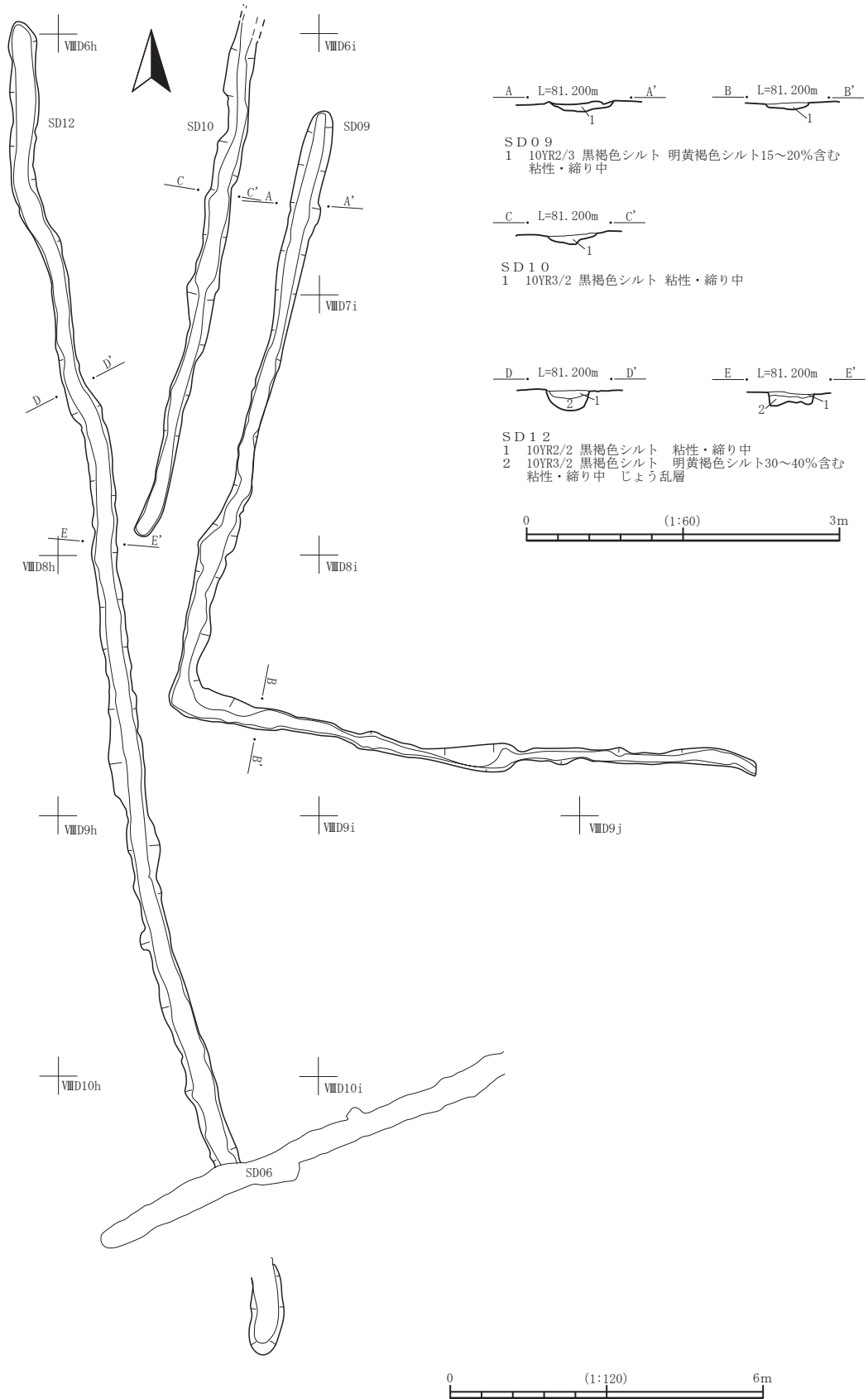
第62図 SD04・05・07溝跡

SD06溝跡



第 63 図 SD06 溝跡

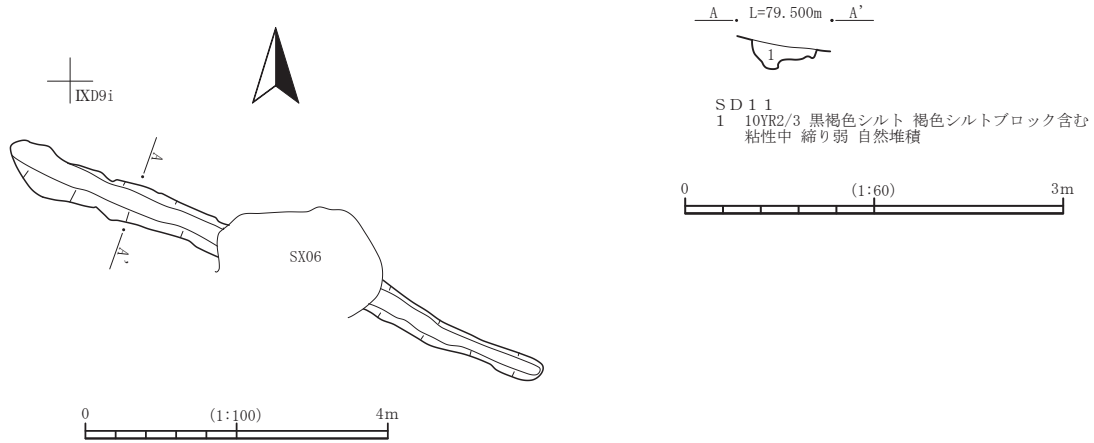
SD09・10・12溝跡



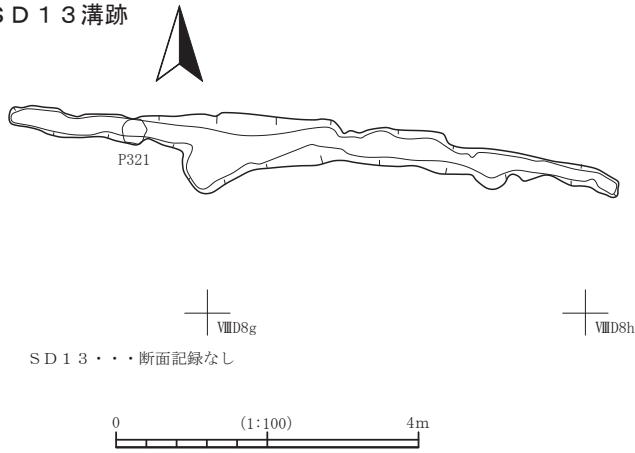
第64図 SD09・10・12溝跡

4 出土遺物

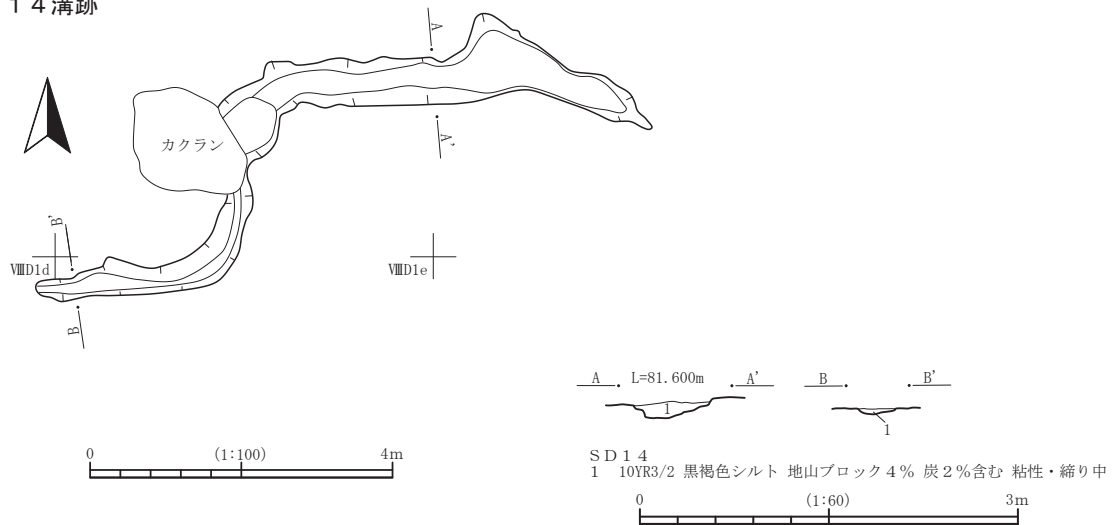
SD11 溝跡



SD13 溝跡

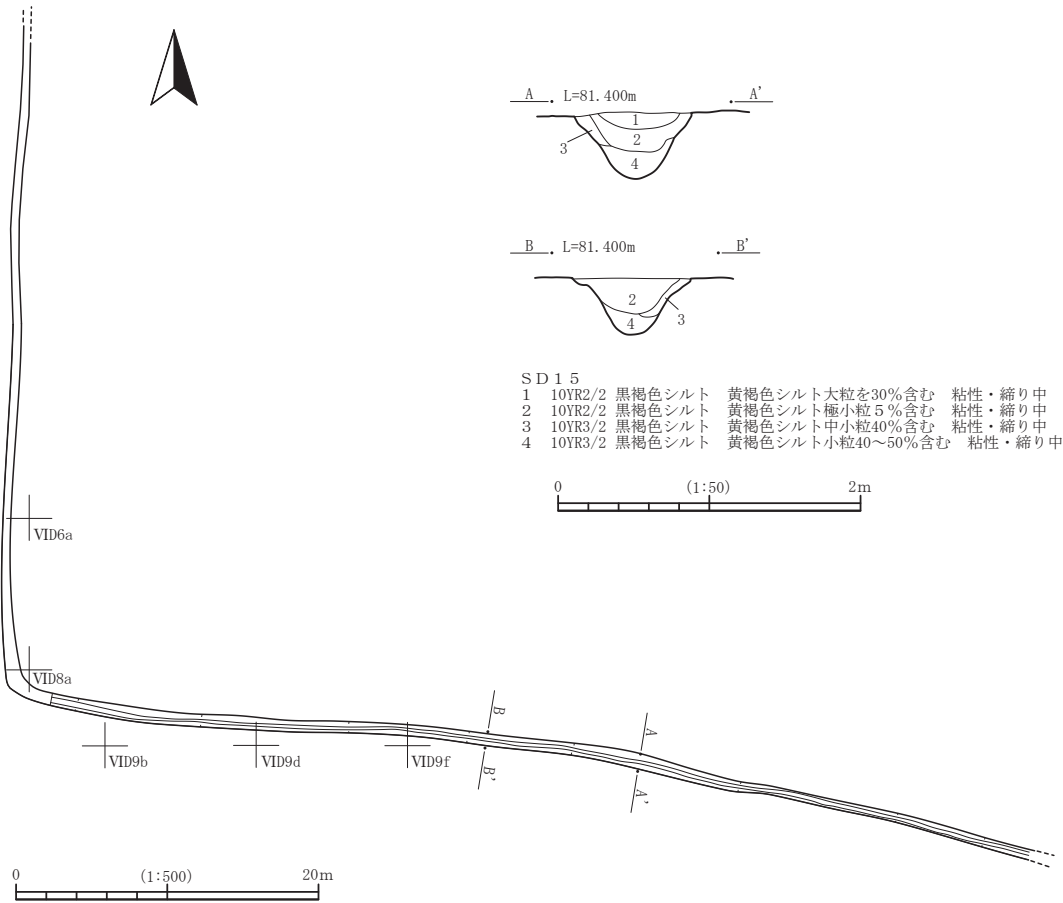


SD14 溝跡

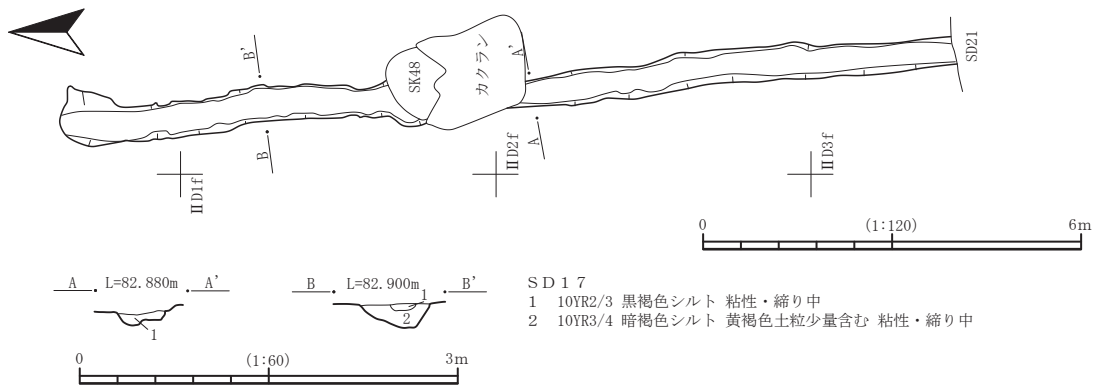


第65図 SD11・13・14 溝跡

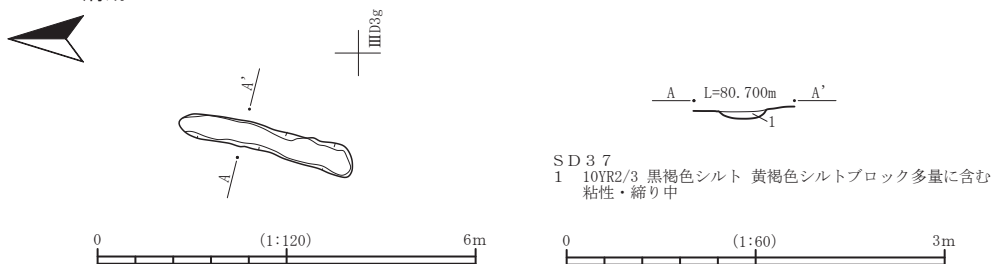
SD 15 溝跡



SD 17 溝跡

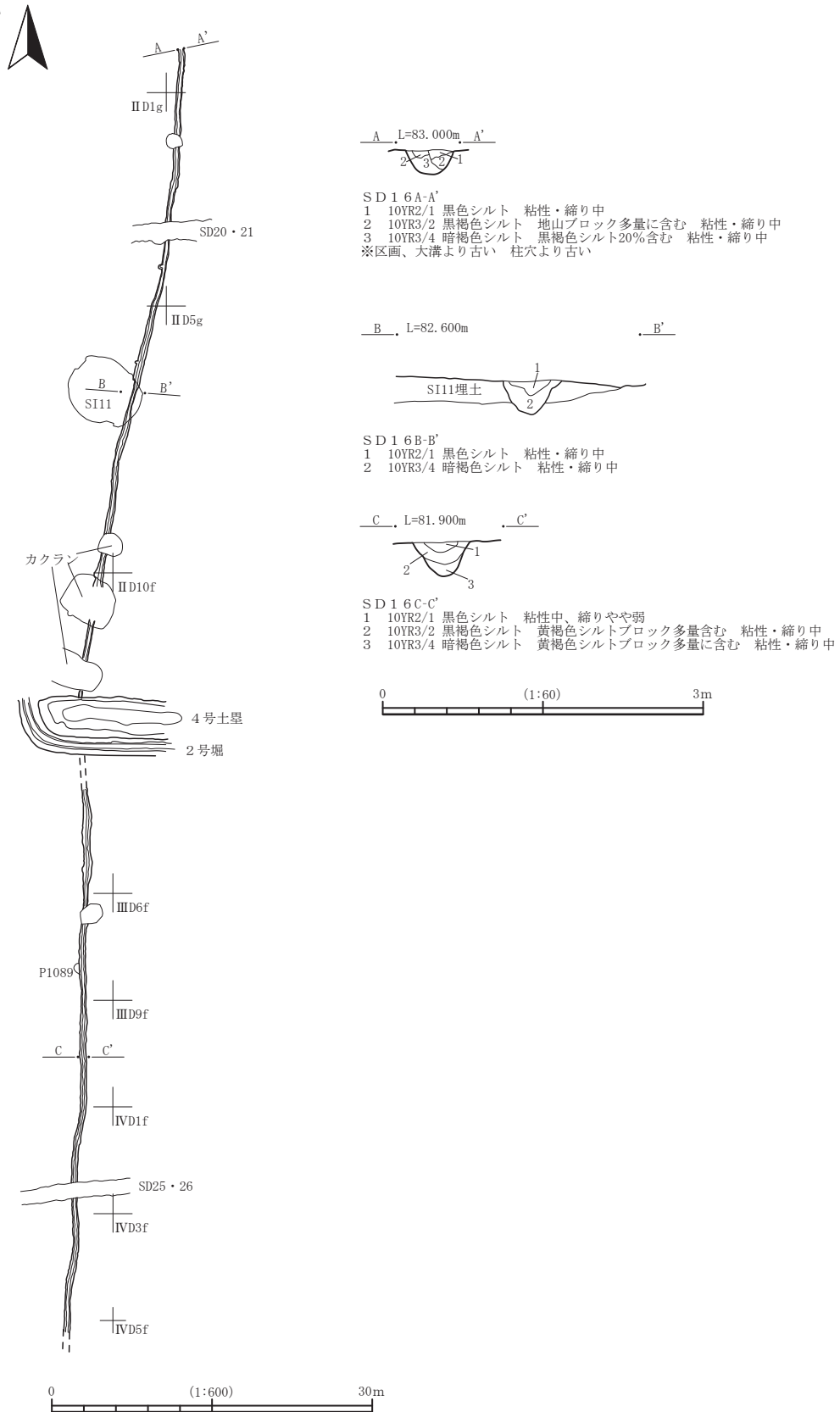


SD 37 溝跡



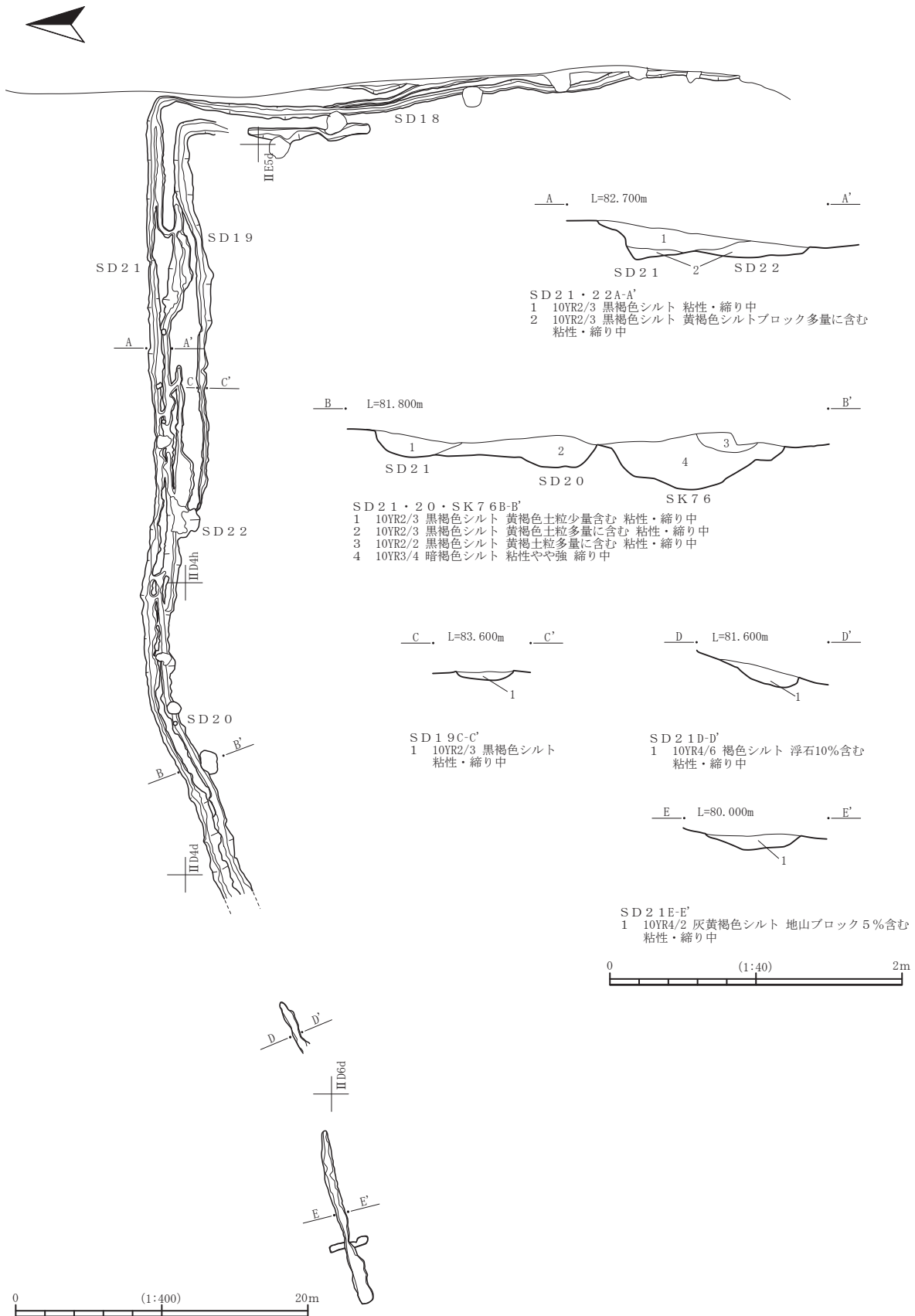
第 66 図 SD15・17・37 溝跡

SD16 溝跡



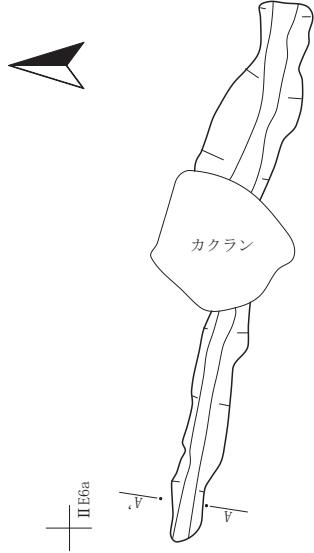
第 67 図 SD16 溝跡

SD18~22 溝跡

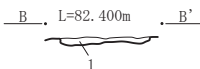
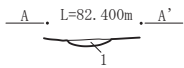
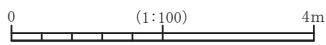
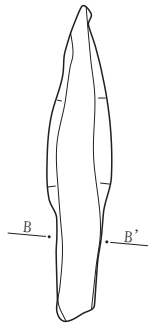


第 68 図 SD18~22 溝跡

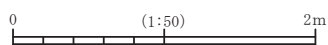
SD 23 溝跡



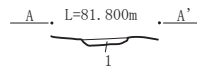
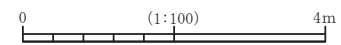
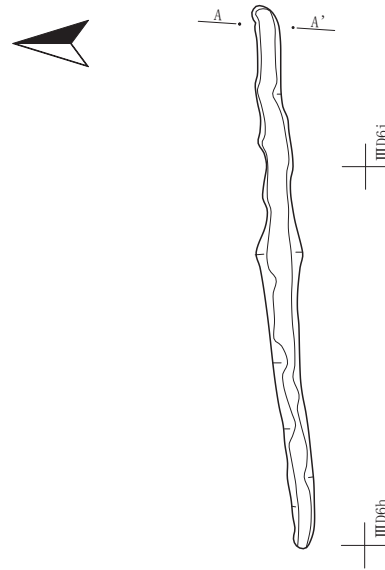
II D6j



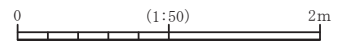
SD 23
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・縮り中



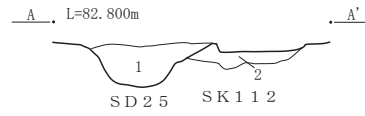
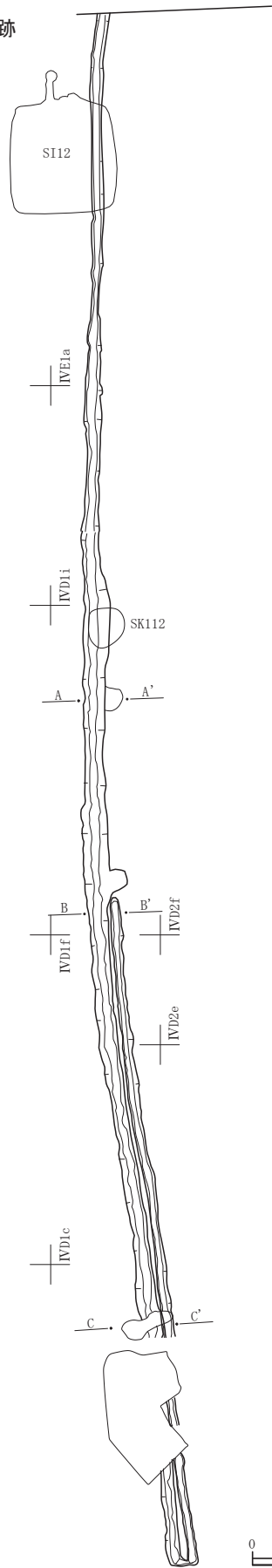
SD 24 溝跡



SD 24
1 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量を含む
粘性中、縮りやや強



SD25・26溝跡



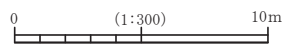
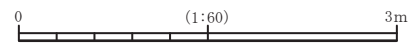
SD25・SK112A-A'
 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締り中
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量に含む
 粘性・締り中



SD25・26B-B'
 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締り中

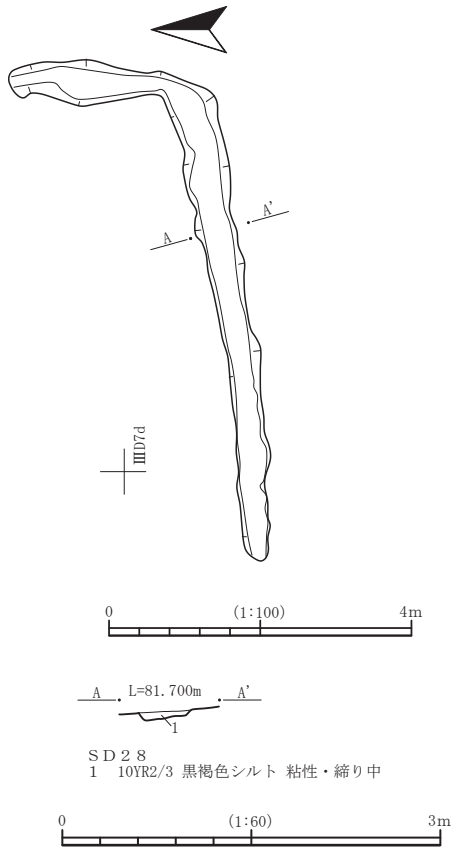


SD25・26・SK110C-C'
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色土粒多量に含む
 粘性中、締りやや強
 2 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色土粒下に少量含む
 粘性・締り中

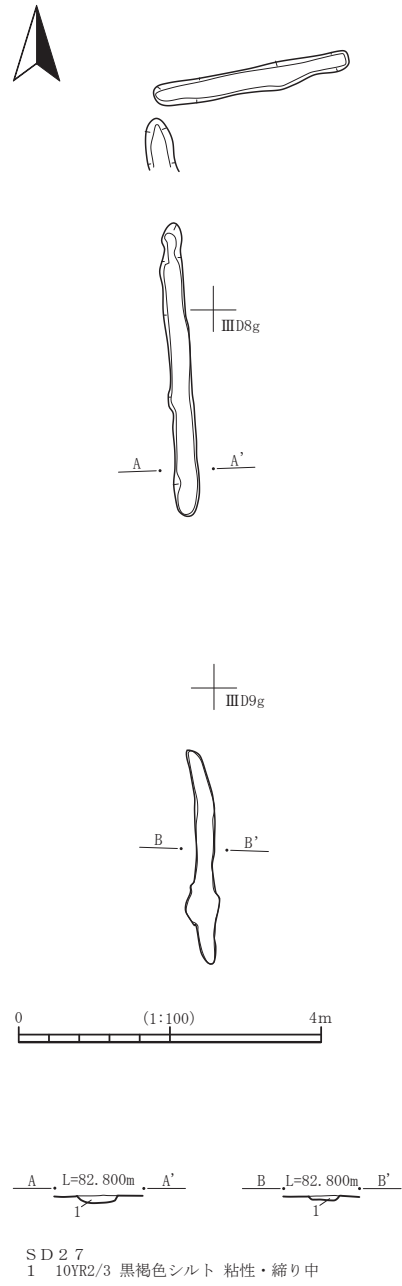


第70図 SD25・26溝跡

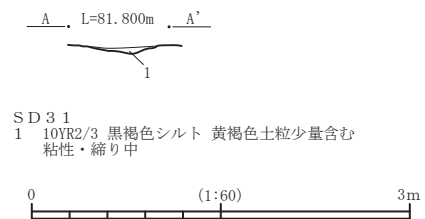
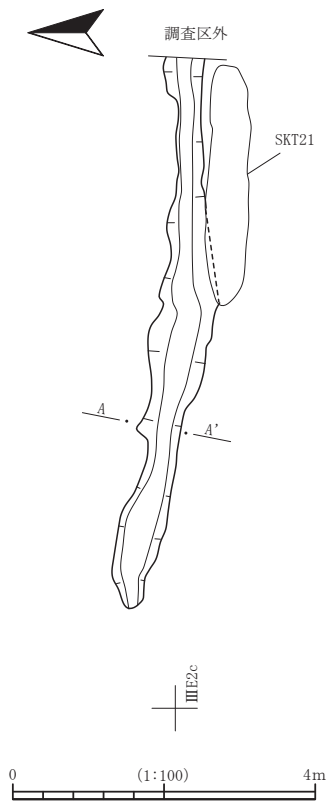
SD 28 溝跡



SD 27 溝跡

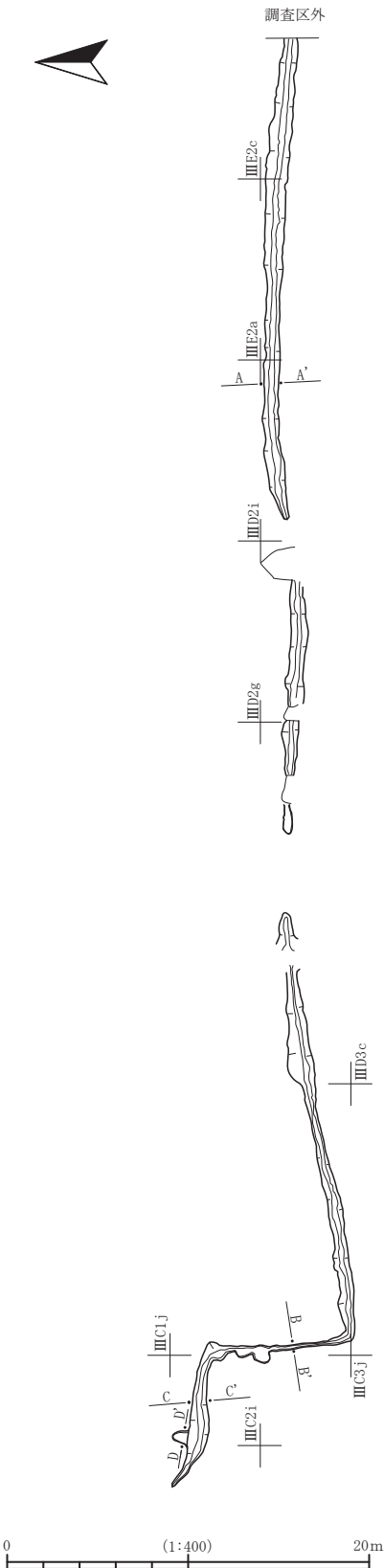


SD 31 溝跡

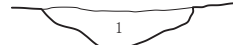


第 71 図 SD27・28・31 溝跡

SD 3 2 溝跡



A. L=81.800m A'



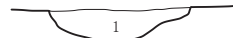
SD 3 2A-A'
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・縮り中

B. L=79.800m B'



SD 3 2B-B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色土粒少量含む 粘性・縮り中

C. L=79.800m C'

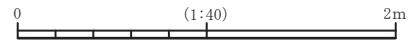


SD 3 2C-C'
1 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色土粒少量含む 粘性・縮り中

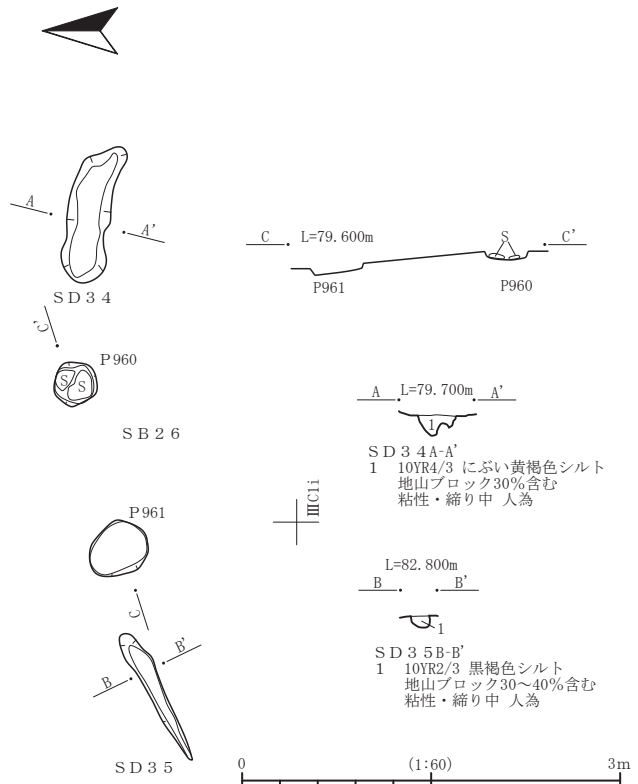
D. L=81.800m D'



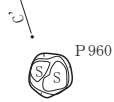
SD 3 2D-D'
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・縮り中



SD 3 4・35 溝跡・SB 2 6 門跡



SD 3 4



SB 2 6



SD 3 5



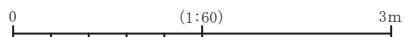
A. L=79.700m A'

SD 3 4A-A'
1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
地山ブロック30%含む
粘性・縮り中 人為

L=82.800m B. B'



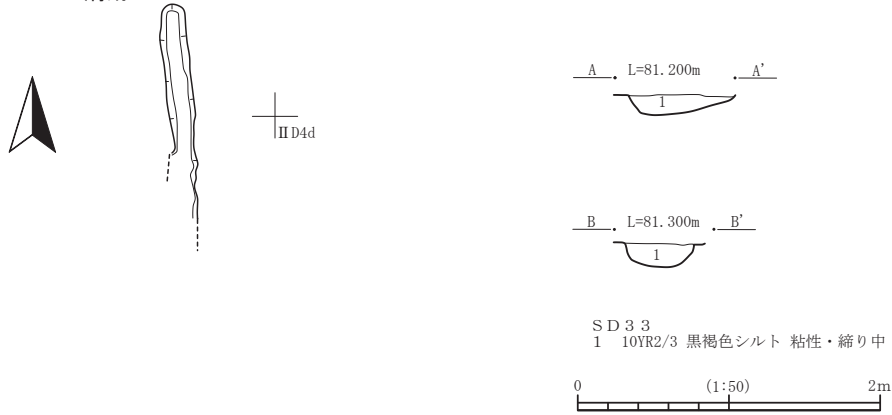
SD 3 5B-B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト
地山ブロック30~40%含む
粘性・縮り中 人為



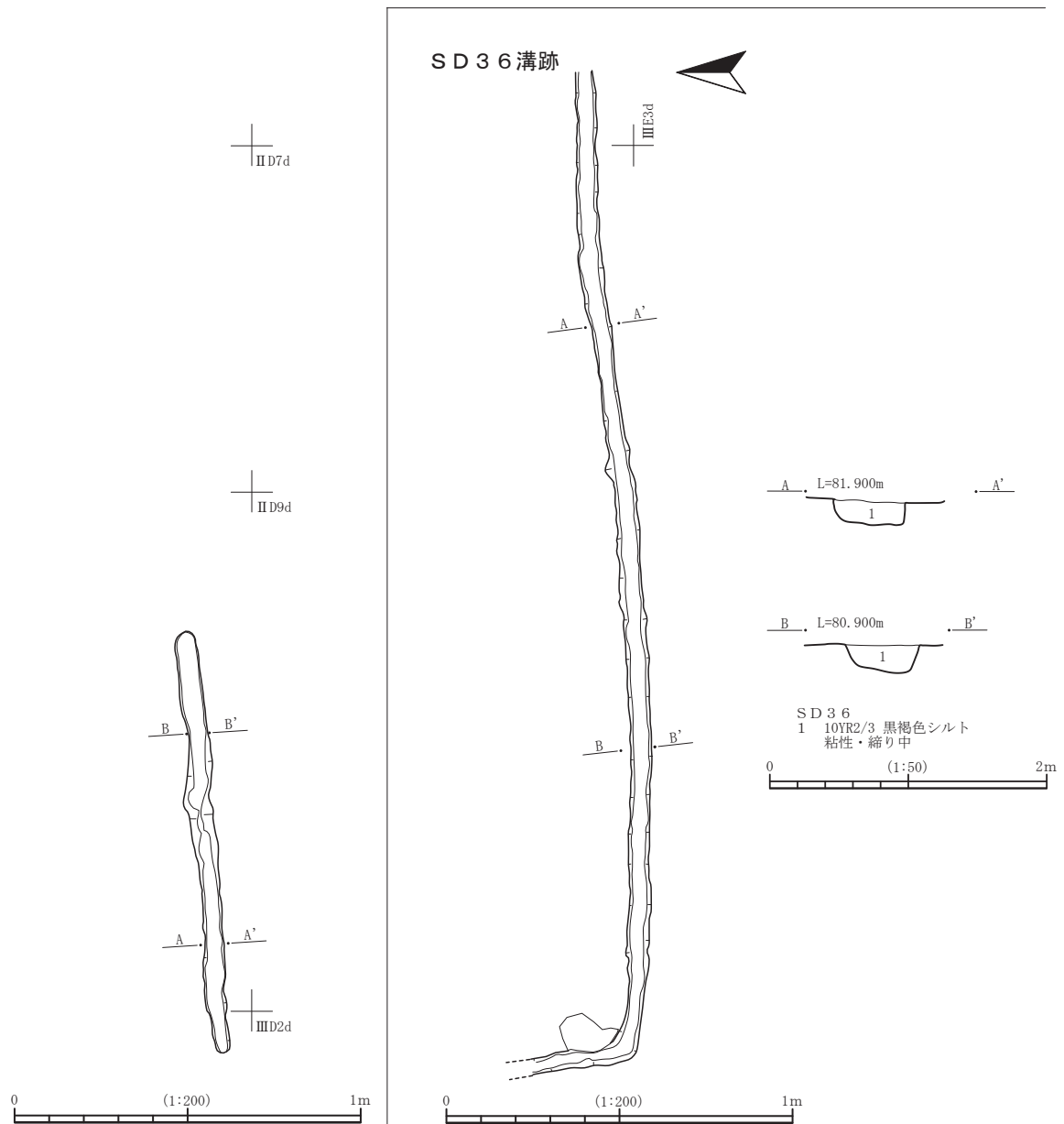
第 72 図 SD32・34・35 溝跡・SB26 門跡

4 出土遺物

SD 3 3 溝跡

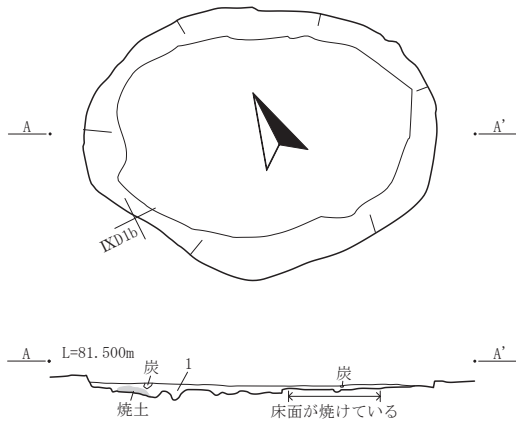


SD 3 6 溝跡



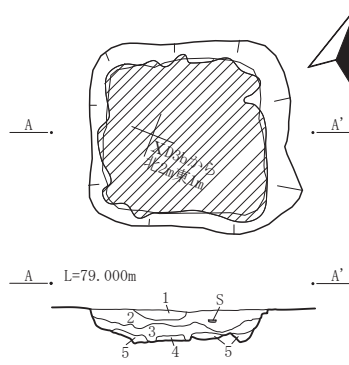
第 73 図 SD33・36 溝跡

SX01



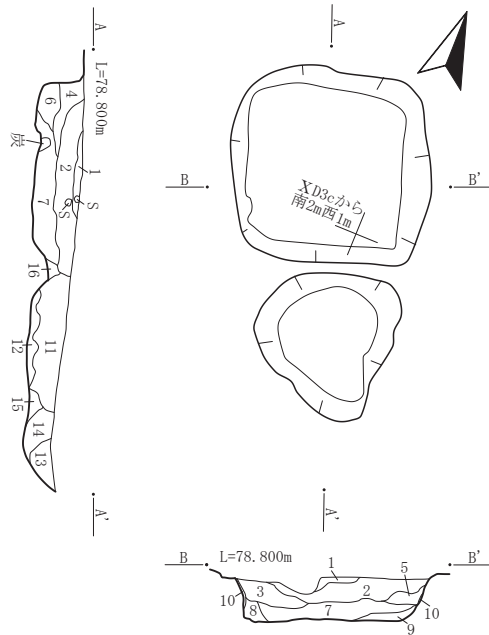
SX01
1 10YR2/2 黒褐色シルト 明黄褐色シルトブロック10~20%含む
大小の炭粒を30~40%含む 粘性弱 縮り中 人為堆積

SX02



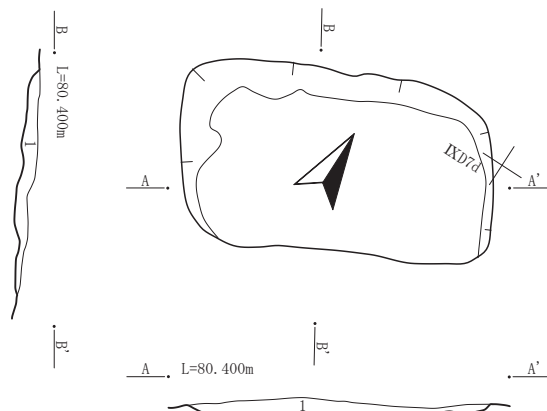
SX02
1 10YR2/3 黒褐色シルト To-a 5~10%含む 粘性・縮り中

SX03

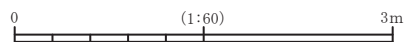


SX03
1 10YR2/2 黒褐色シルト 小礫微量含む 粘性・縮り中
2 10YR3/3 暗褐色シルト
灰白色火山灰(To-a)を3層や4層との境付近に2~3cmの厚さで堆積
粘性・縮り中
3 10YR4/4 褐色シルト 炭・焼土粒を各々5%含む
粘性・縮り中
4 10YR3/3 暗褐色シルト 明黄褐色シルトブロック30~40%含む
粘性・縮り中
5 10YR3/4 暗褐色シルト 明黄褐色シルトブロック20%含む
粘性・縮り中
6 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 明黄褐色シルトブロック30~40%
炭粒3%含む 粘性・縮り中
7 10YR3/3 暗褐色シルト 炭片多量に含む
粘性やや弱、縮り中
8 10YR3/2 黒褐色シルト にぶい黄褐色粘土質シルトブロック5%含む
粘性・縮り中
9 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 縮りやや強
10 5YR4/8 赤褐色焼土 壁面が熟せられたもの
粘性弱 縮りやや強
11 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色シルト
粘性・縮り中
12 10YR3/4 暗褐色シルト 地山ブロック20%含む
粘性・縮り中
13 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 縮り中
14 10YR3/4 暗褐色シルト 明黄褐色シルト30~40%含む
粘性中 縮りやや弱
15 10YR4/4 褐色シルト 明黄褐色シルト30~40%含む
粘性 縮り中
16 10YR5/6 黄褐色シルト 暗褐色シルト30%含む
粘性中 縮りやや強 地山か

SX04

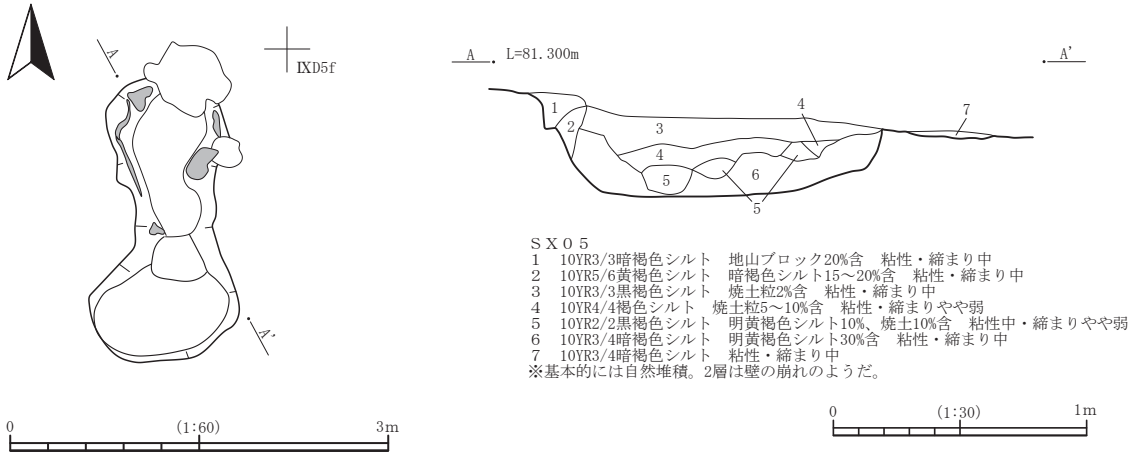


SX04
1 10YR2/2 黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック30%
明黄褐色シルトブロック20%含む 炭粒5% 焼土粒2~5%含む
粘性・縮りやや弱(人為)

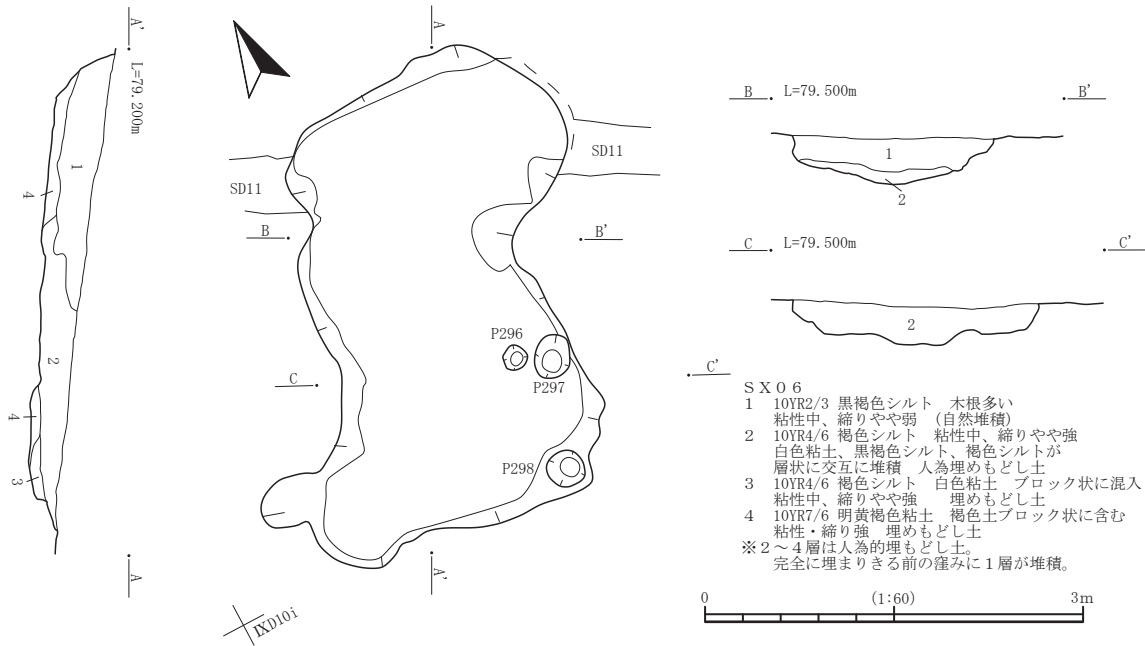


4 出土遺物

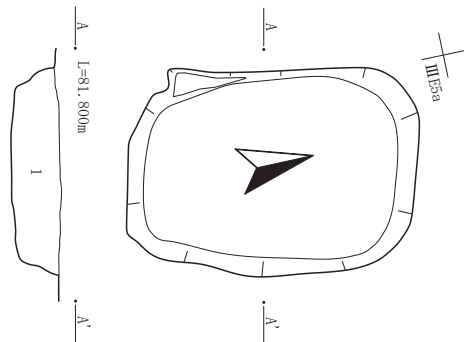
SX05



SX06



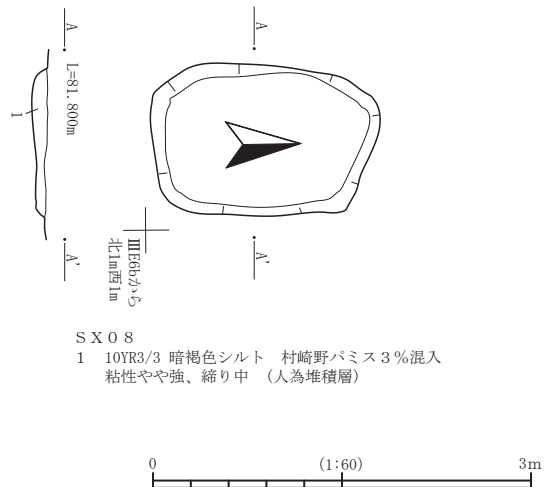
SX07



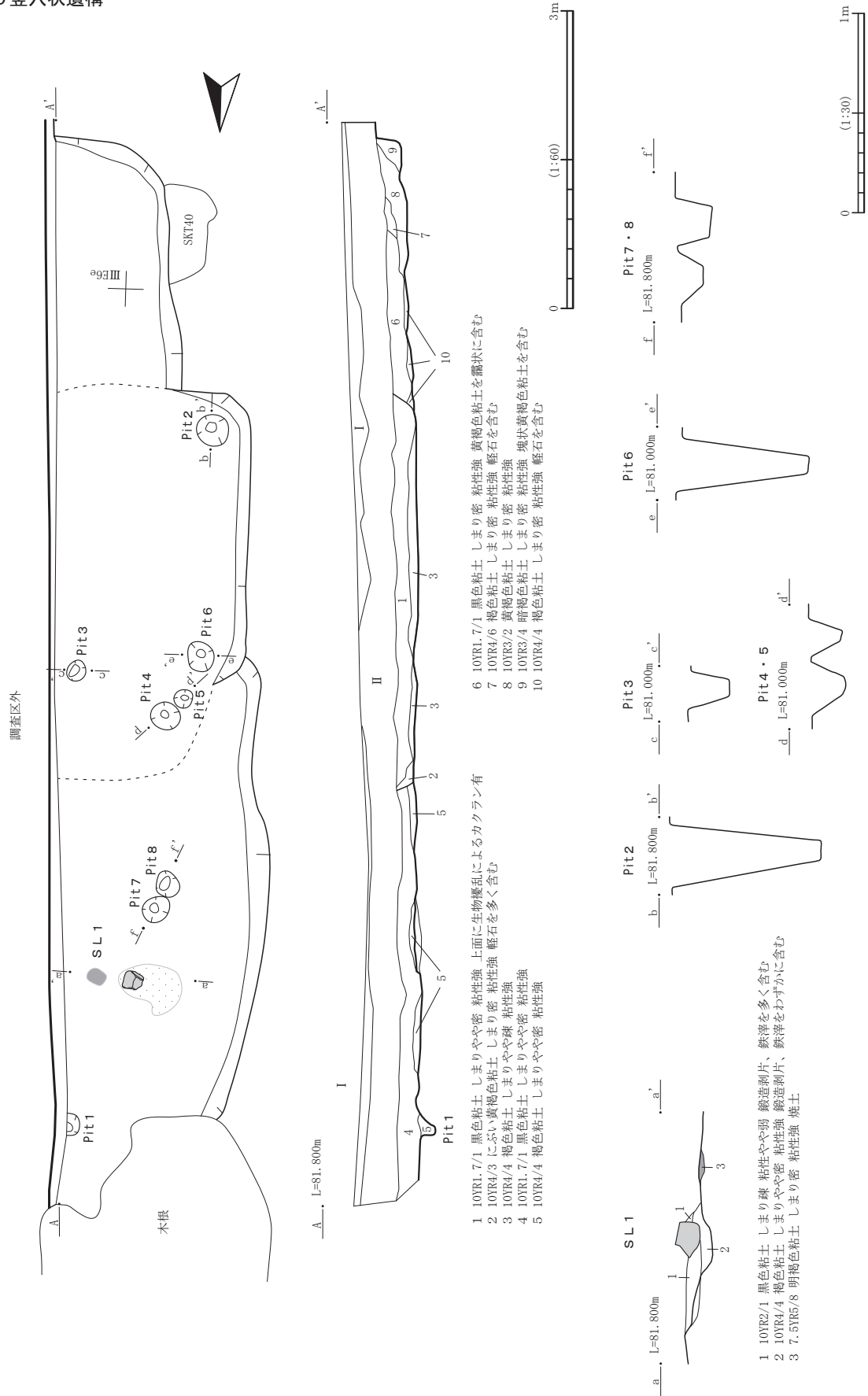
SX07

1 10YR2/3 黒褐色シルト 黄褐色粘土ブロック7%、村崎野バミス3%、焼土ブロック、炭化材有意に含む 粘性やや強、縮りやや弱 (人為堆積層、土師器、鉄製品?、炭化材サンプル)

SX08

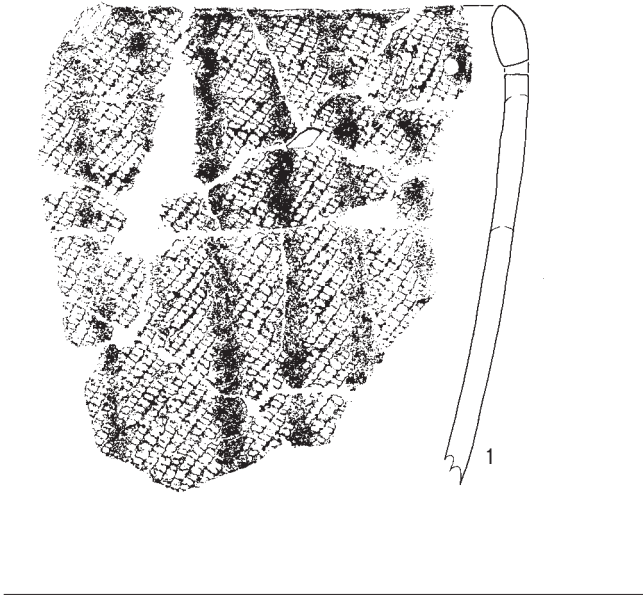


S X 1 0 竪穴状遺構



第 76 図 SX10 竪穴状遺構

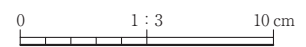
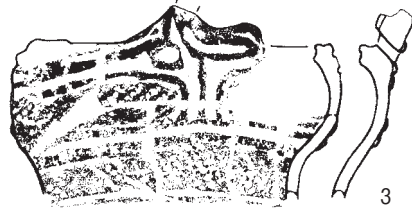
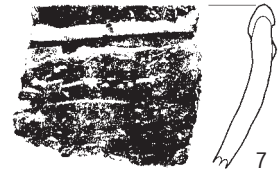
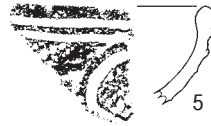
SI05



SI07

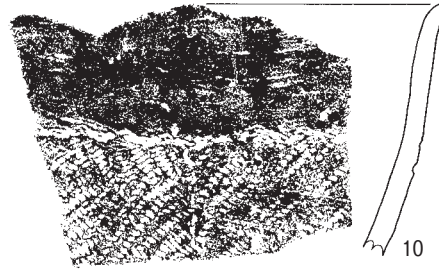
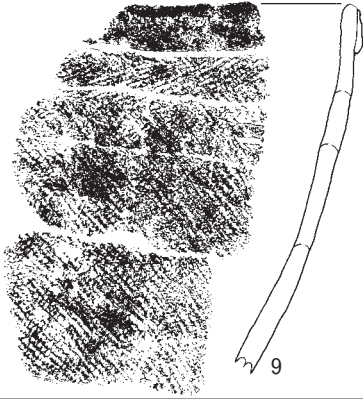


SI11

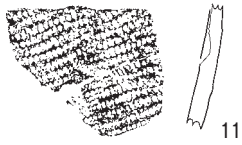


第 77 図 縄文・弥生土器 (1)

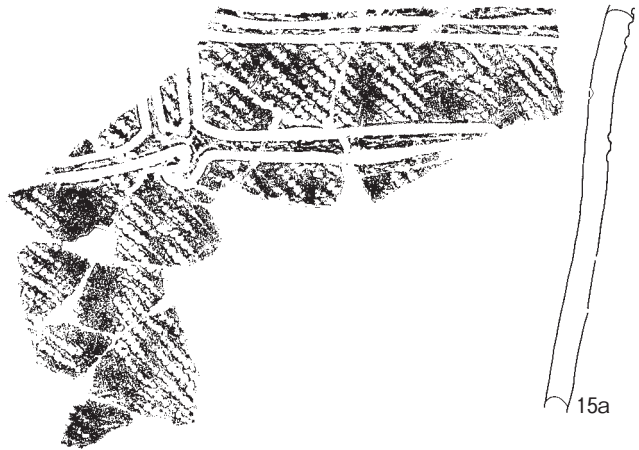
SK11



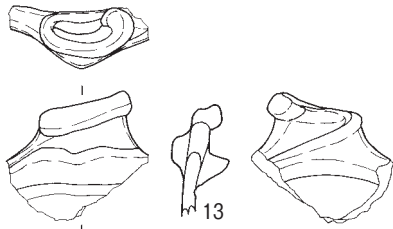
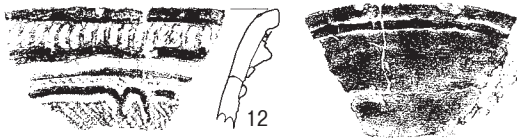
SK16



SK104



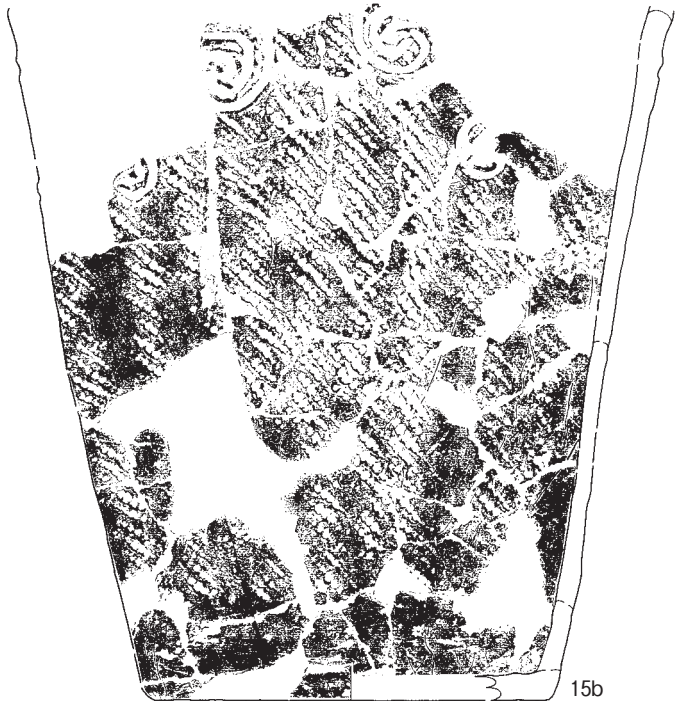
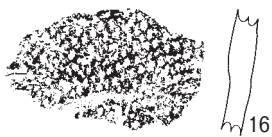
SK59



SK76



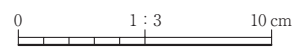
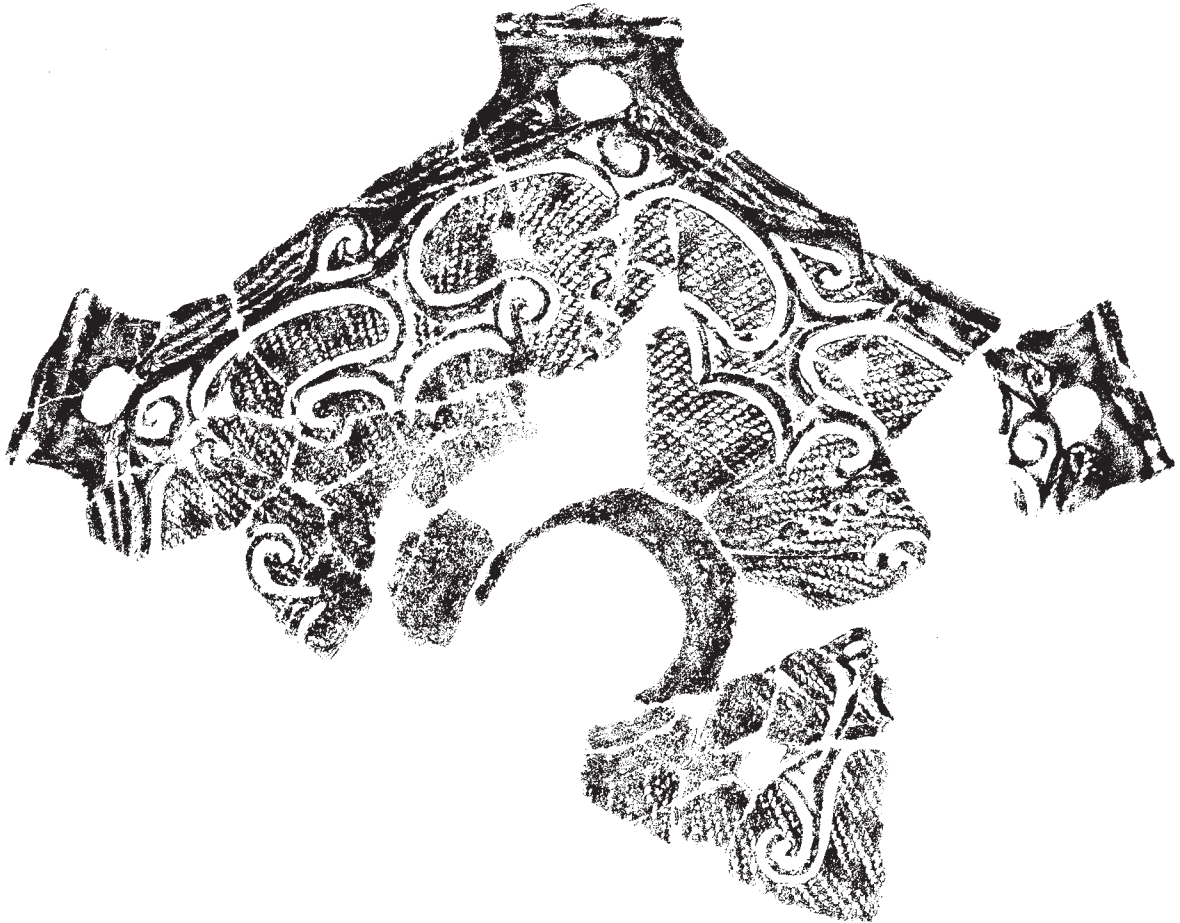
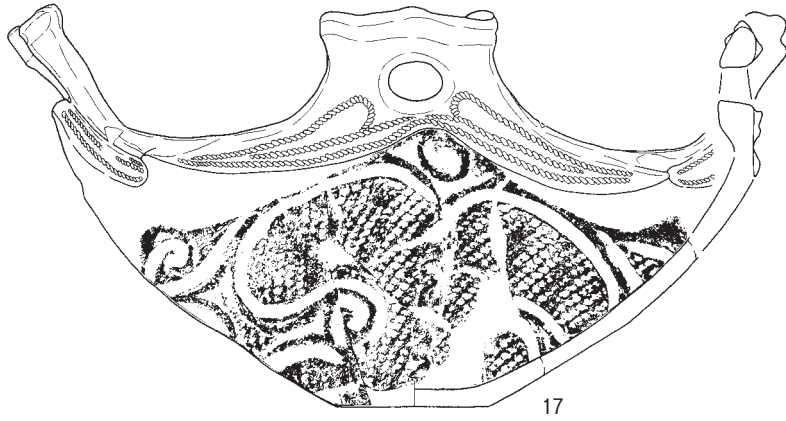
SK110



0 1:3 10 cm

第 78 図 縄文・弥生土器 (2)

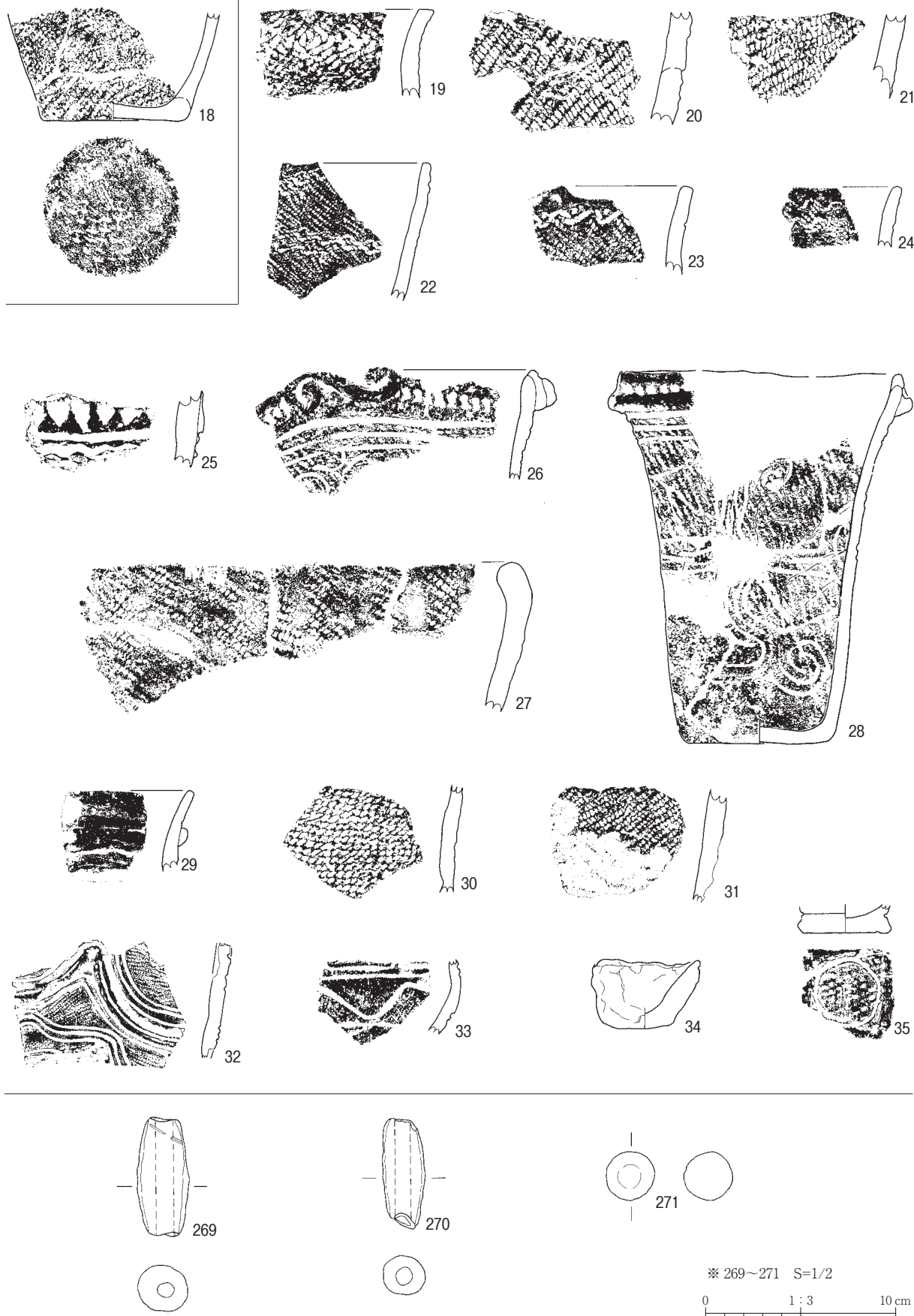
SK86



第 79 図 縄文・弥生土器 (3)

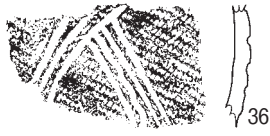
P254

その他

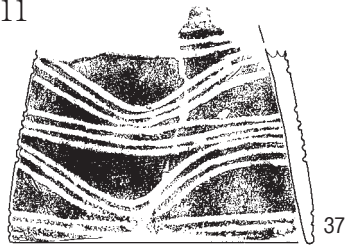


第80図 縄文・弥生土器(4)・土製品

SI05



SK11



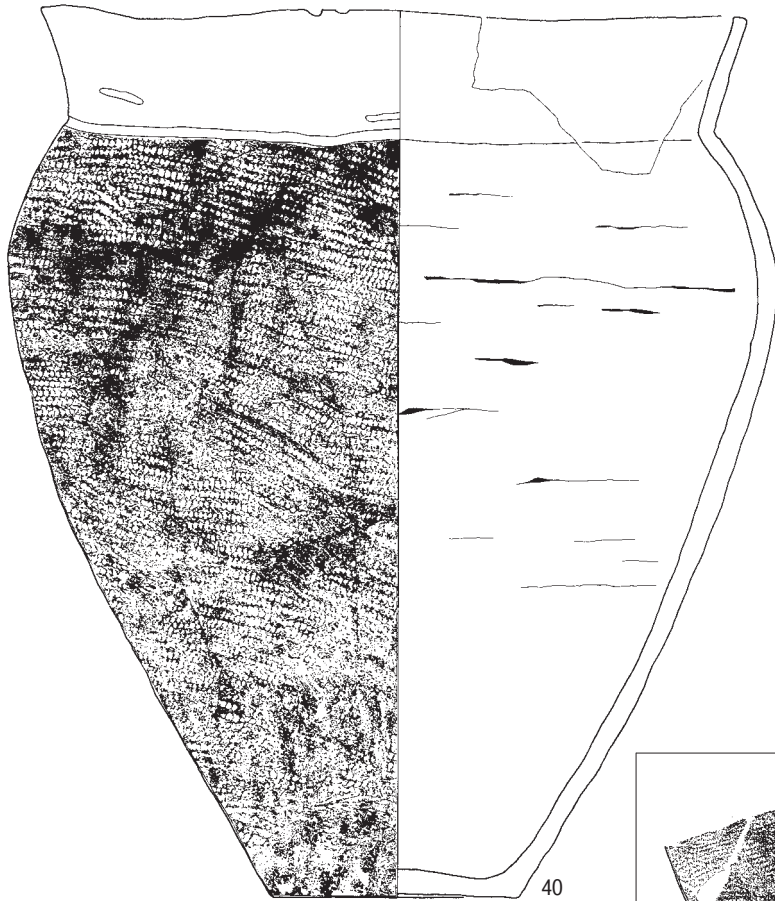
SK03



SK98



1号埋設土器



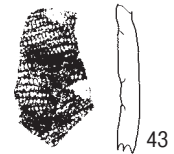
SD04



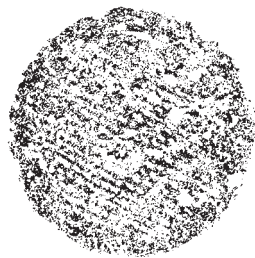
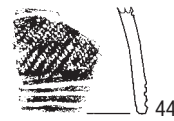
SX02



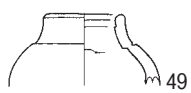
SX04



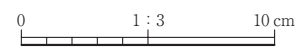
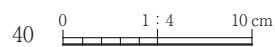
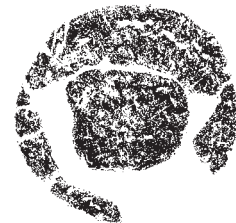
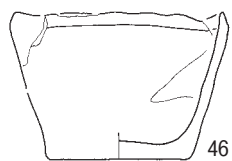
SX05



P370

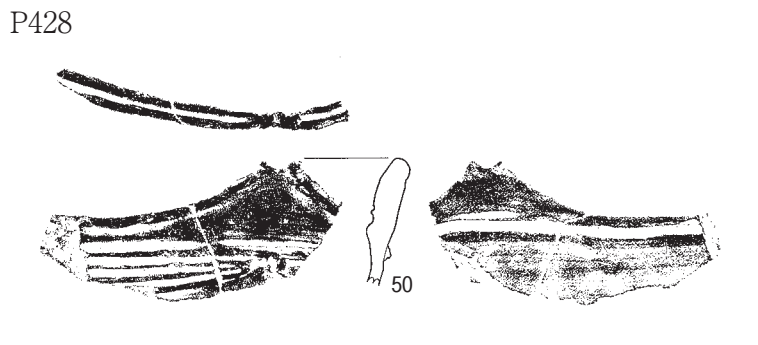


P183



第81図 縄文・弥生土器 (5)

P428

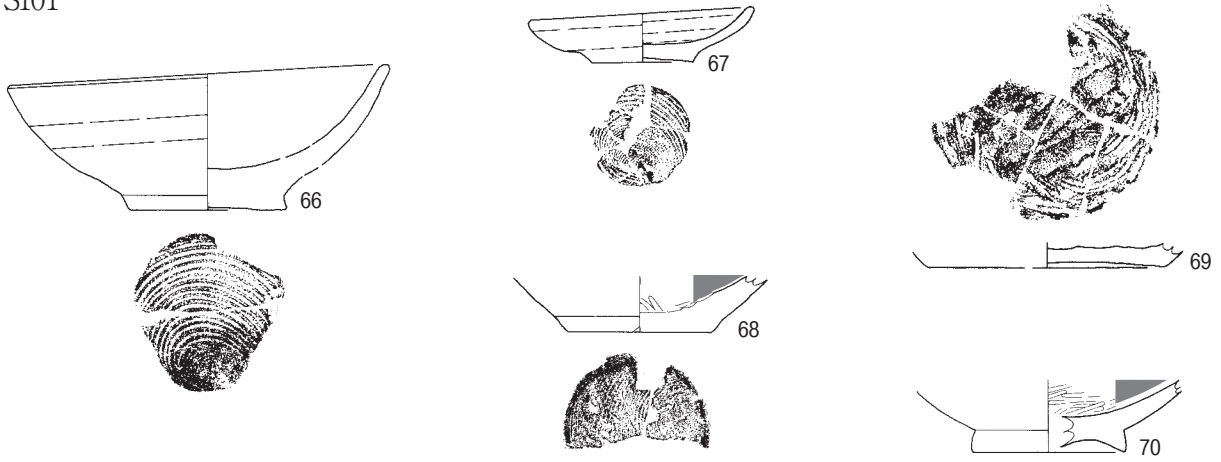


遺構外

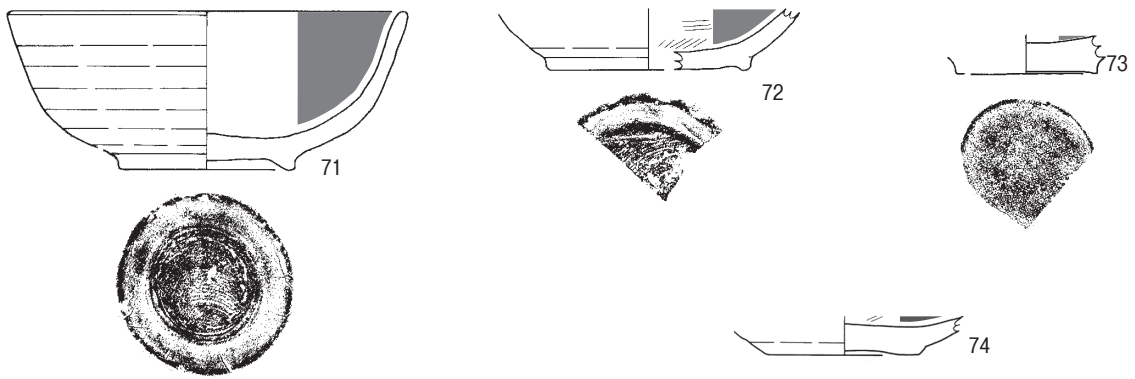


第 82 図 縄文・弥生土器 (6)

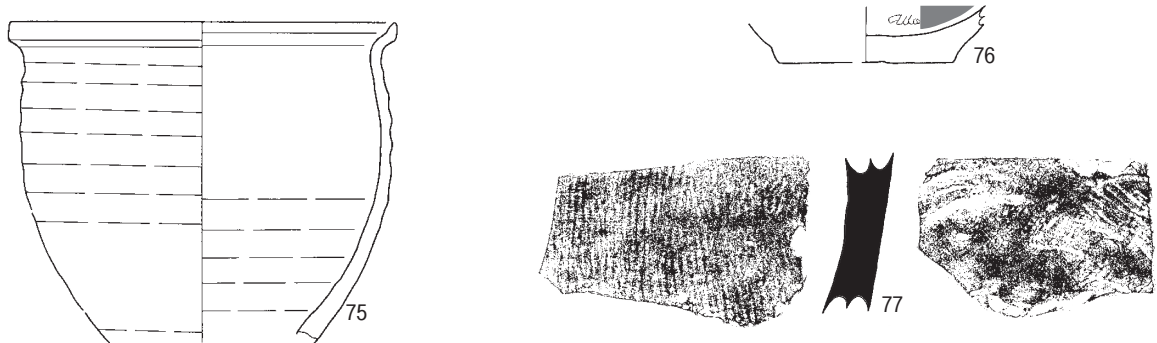
SI01



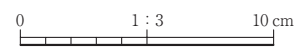
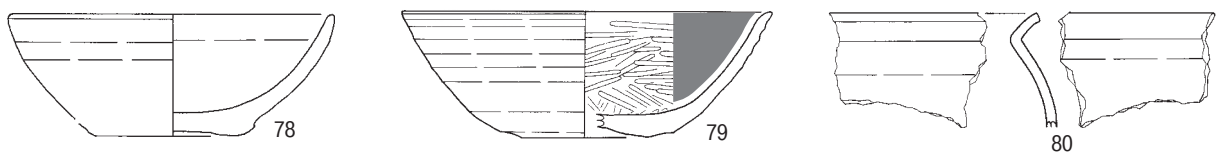
SI02



SI03

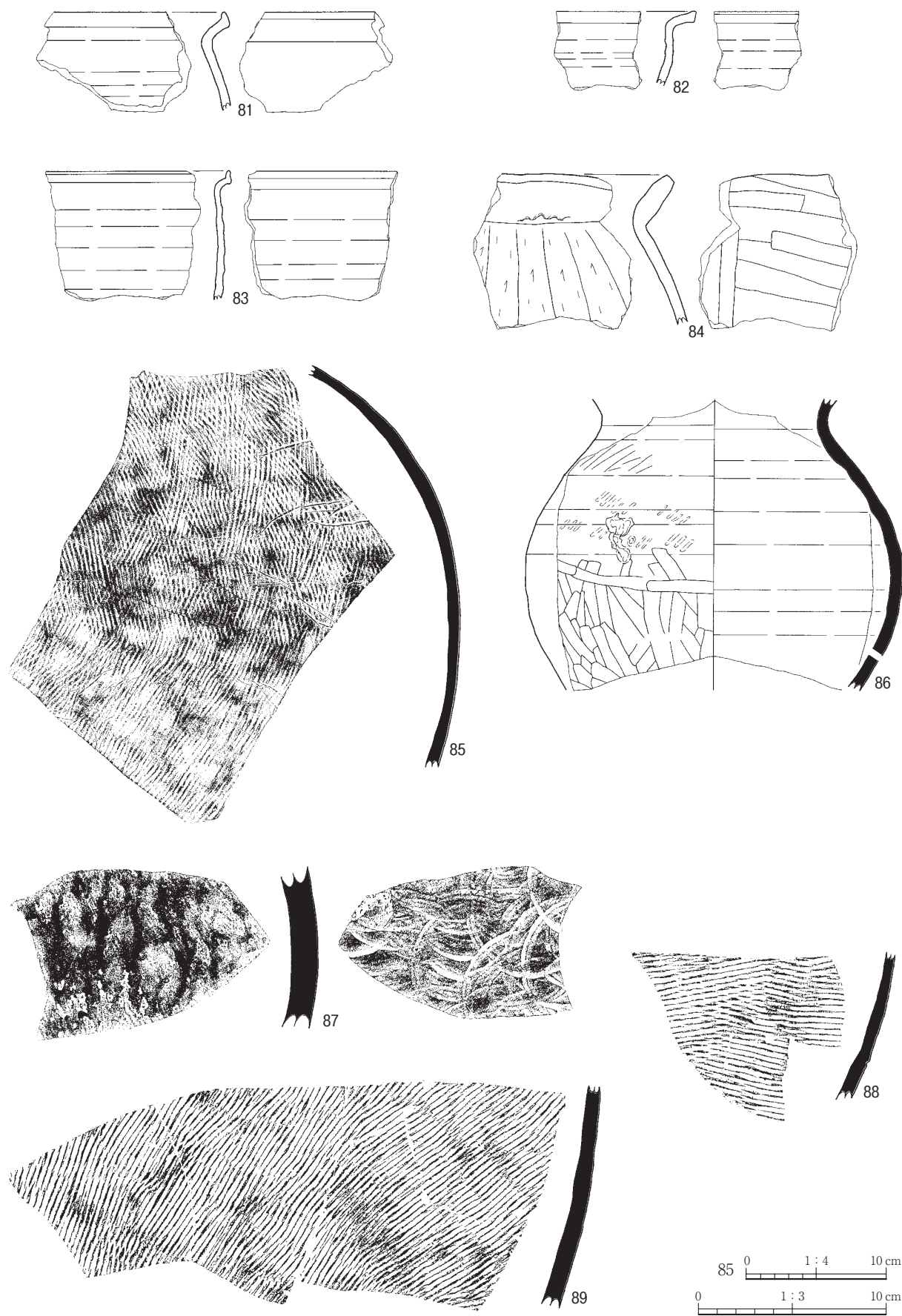


SI04



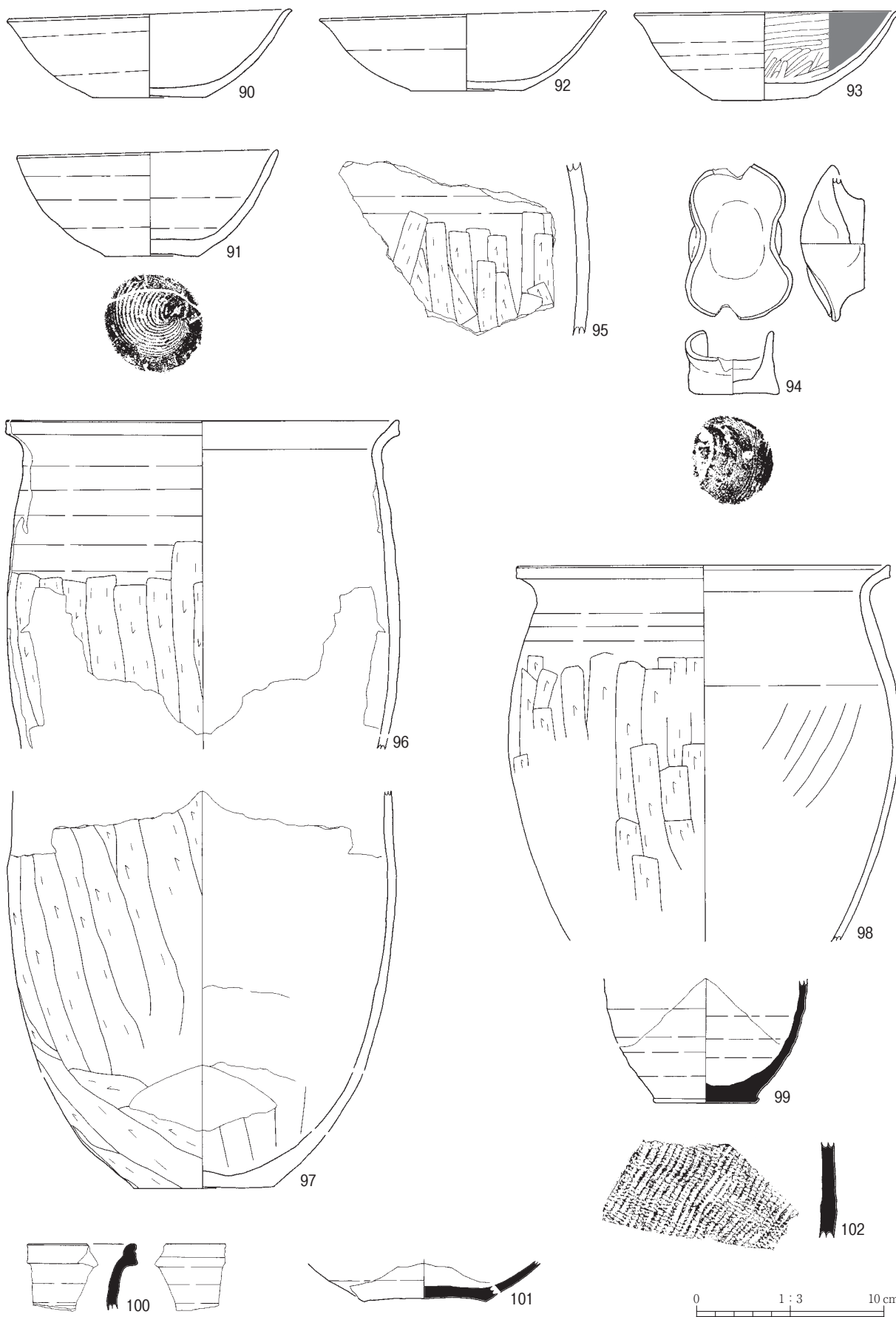
第 83 図 古代土器 (1)

SI04



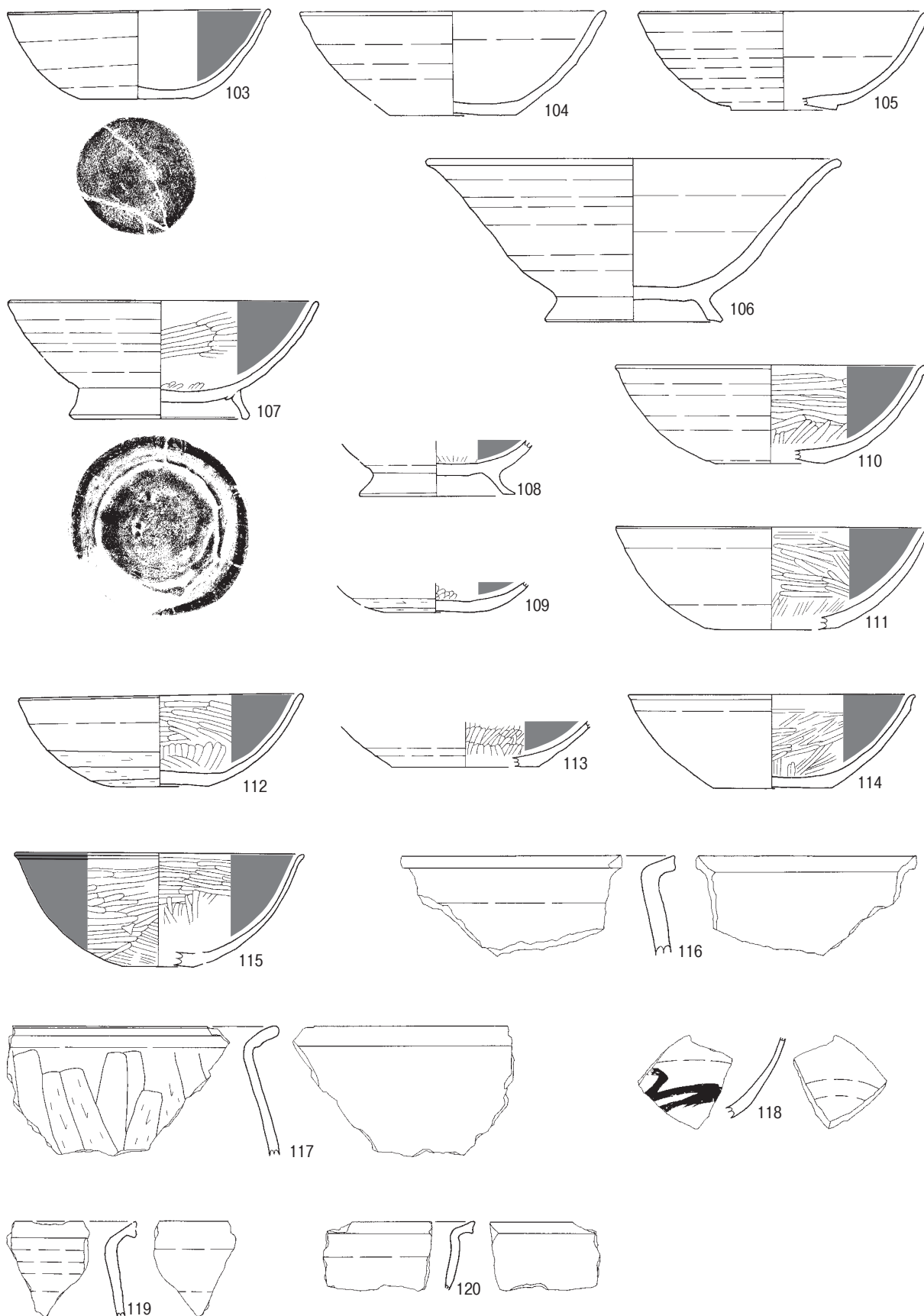
第84図 古代土器 (2)

SI05



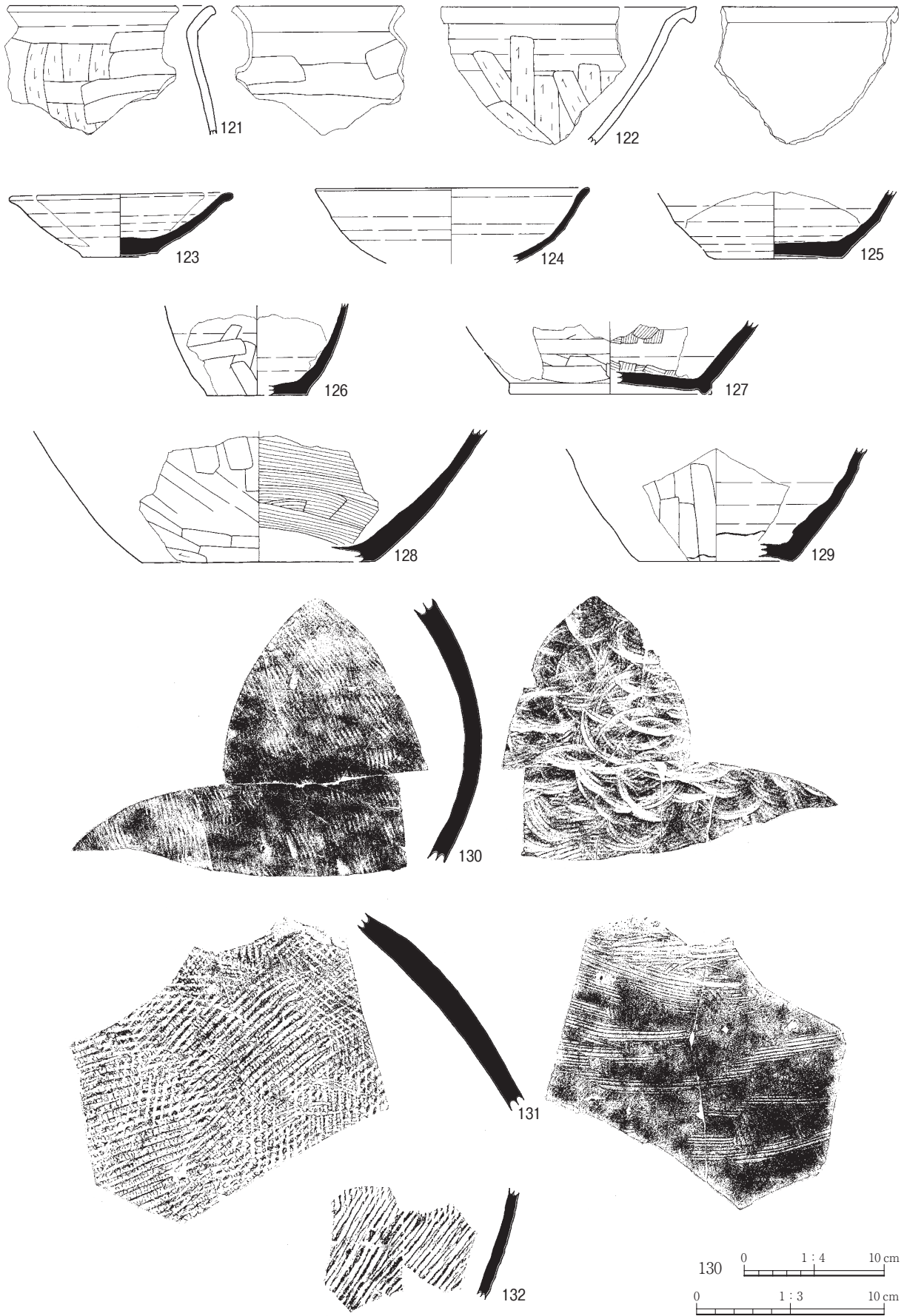
第 85 図 古代土器 (3)

SI06



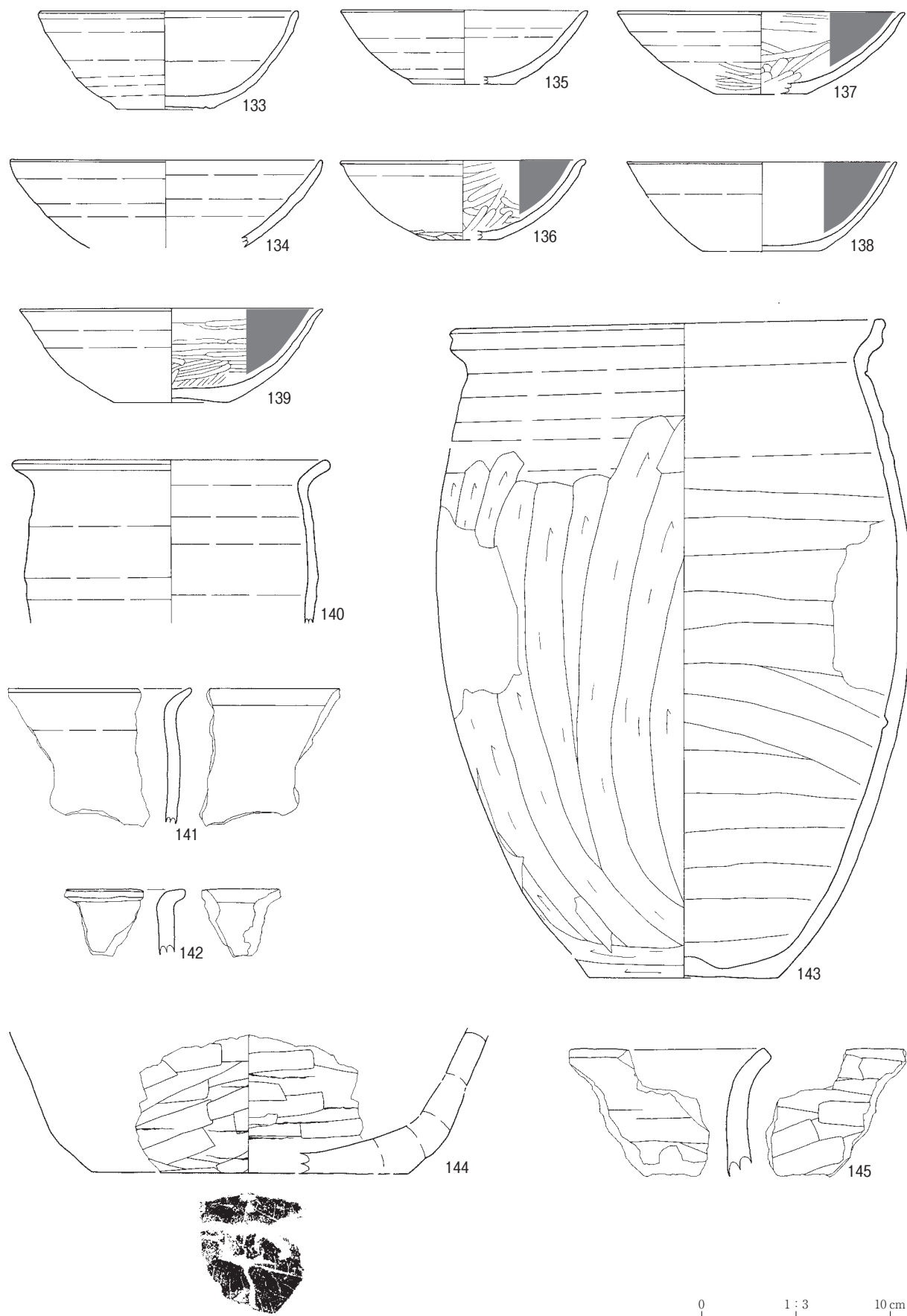
第 86 図 古代土器 (4)

SI06



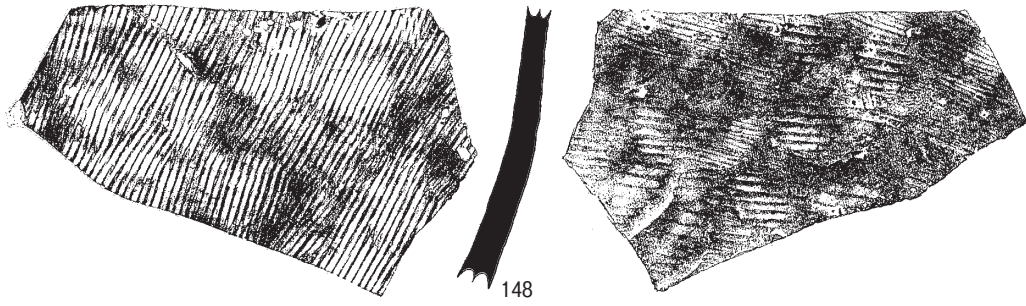
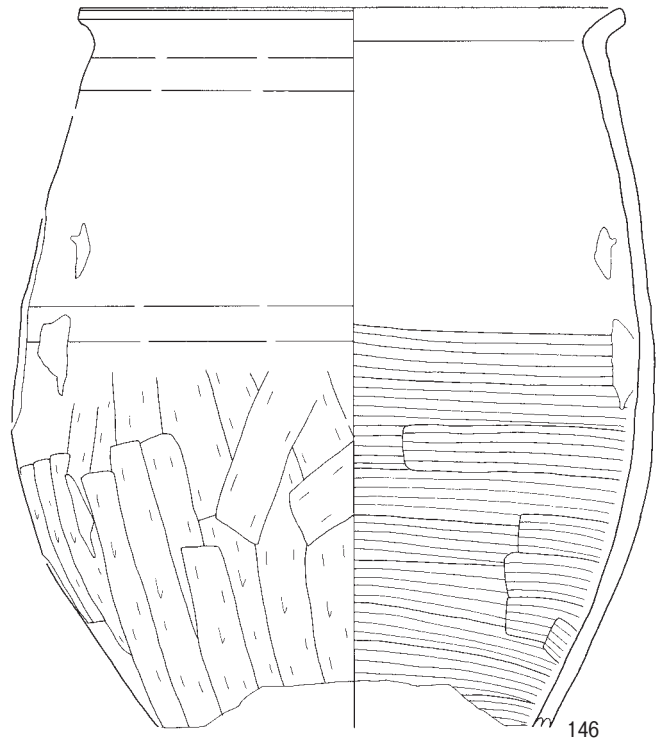
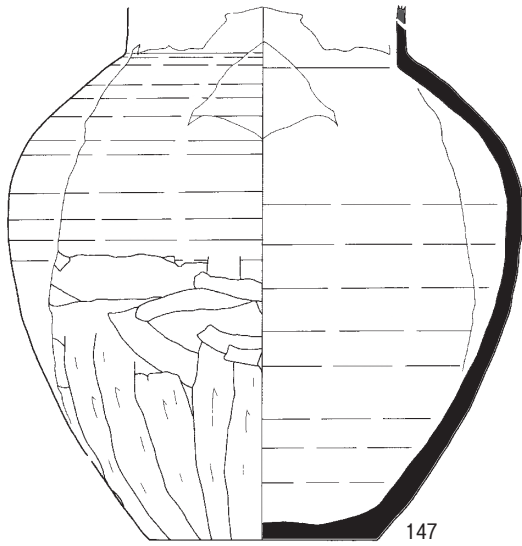
第 87 図 古代土器 (5)

SI12

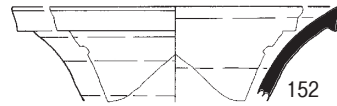
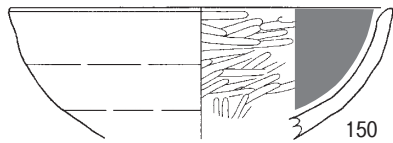
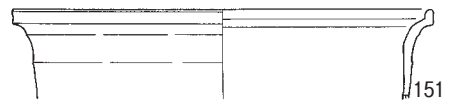
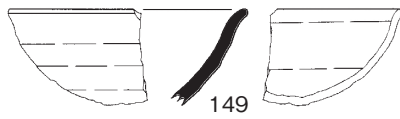


第88図 古代土器 (6)

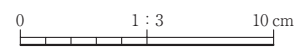
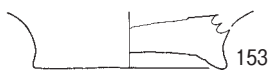
SI12



SK

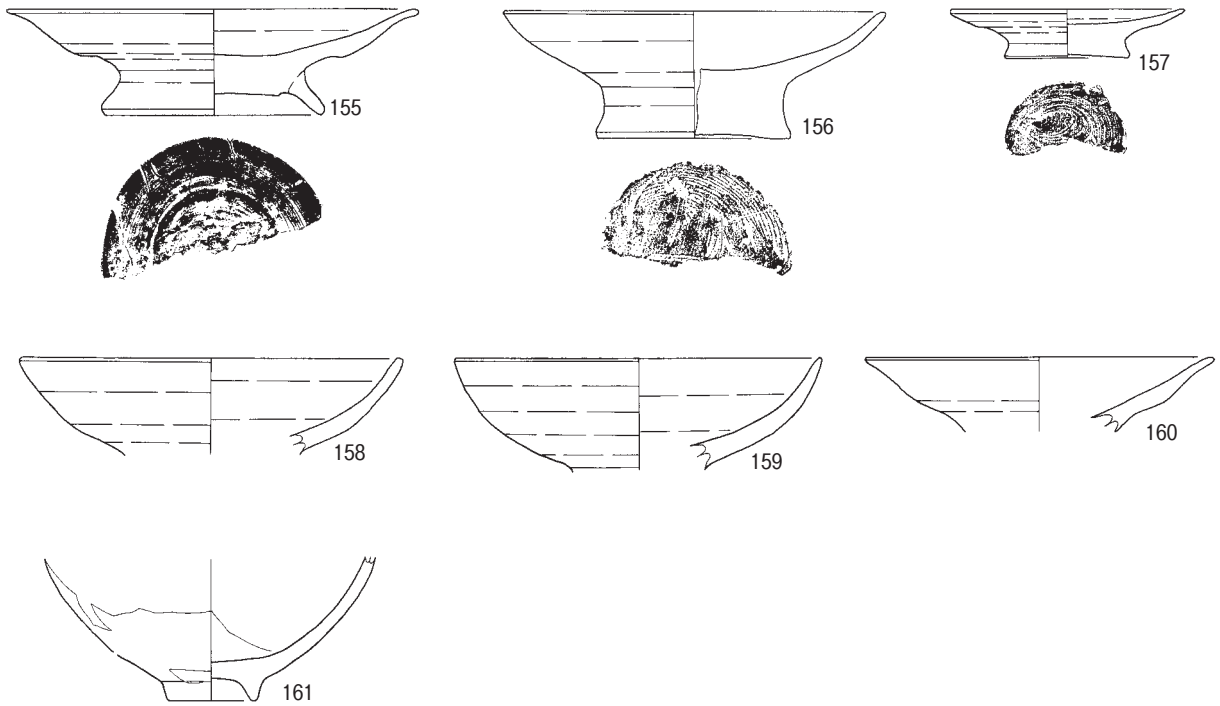


SD

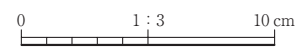
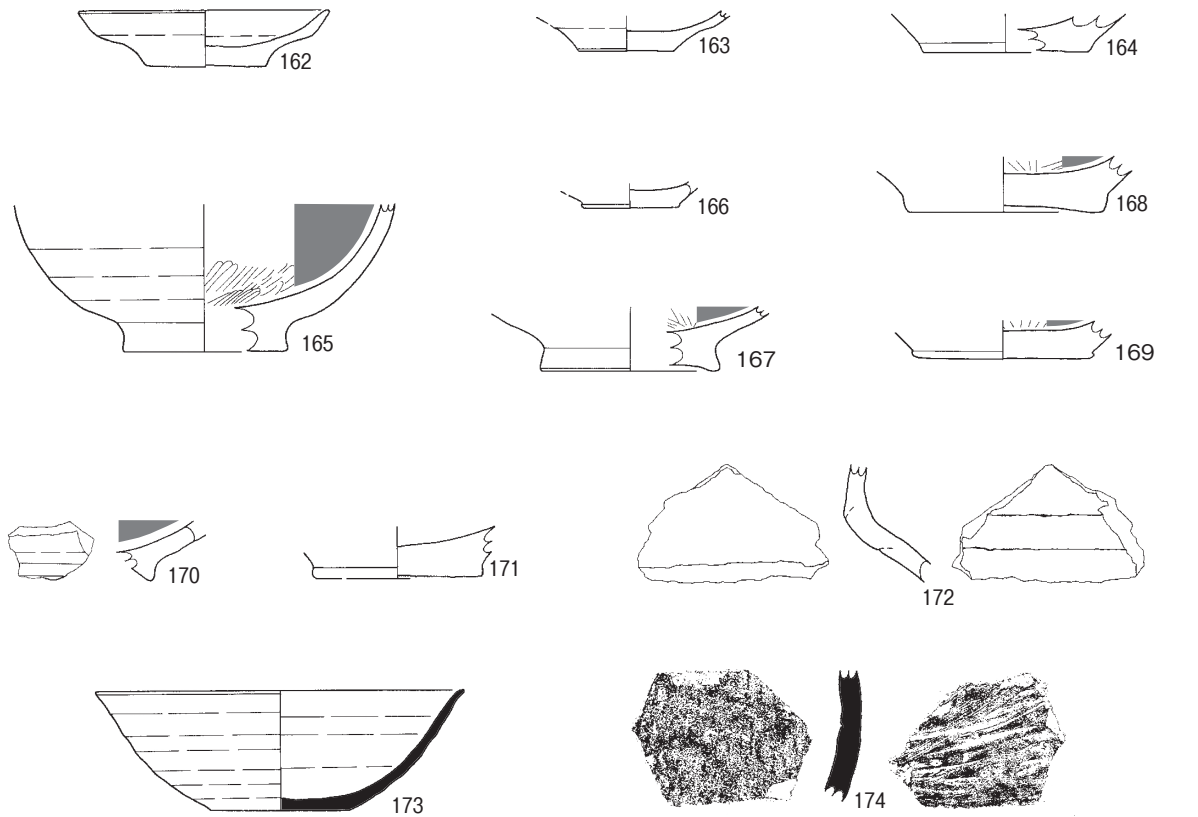


第 89 図 古代土器 (7)

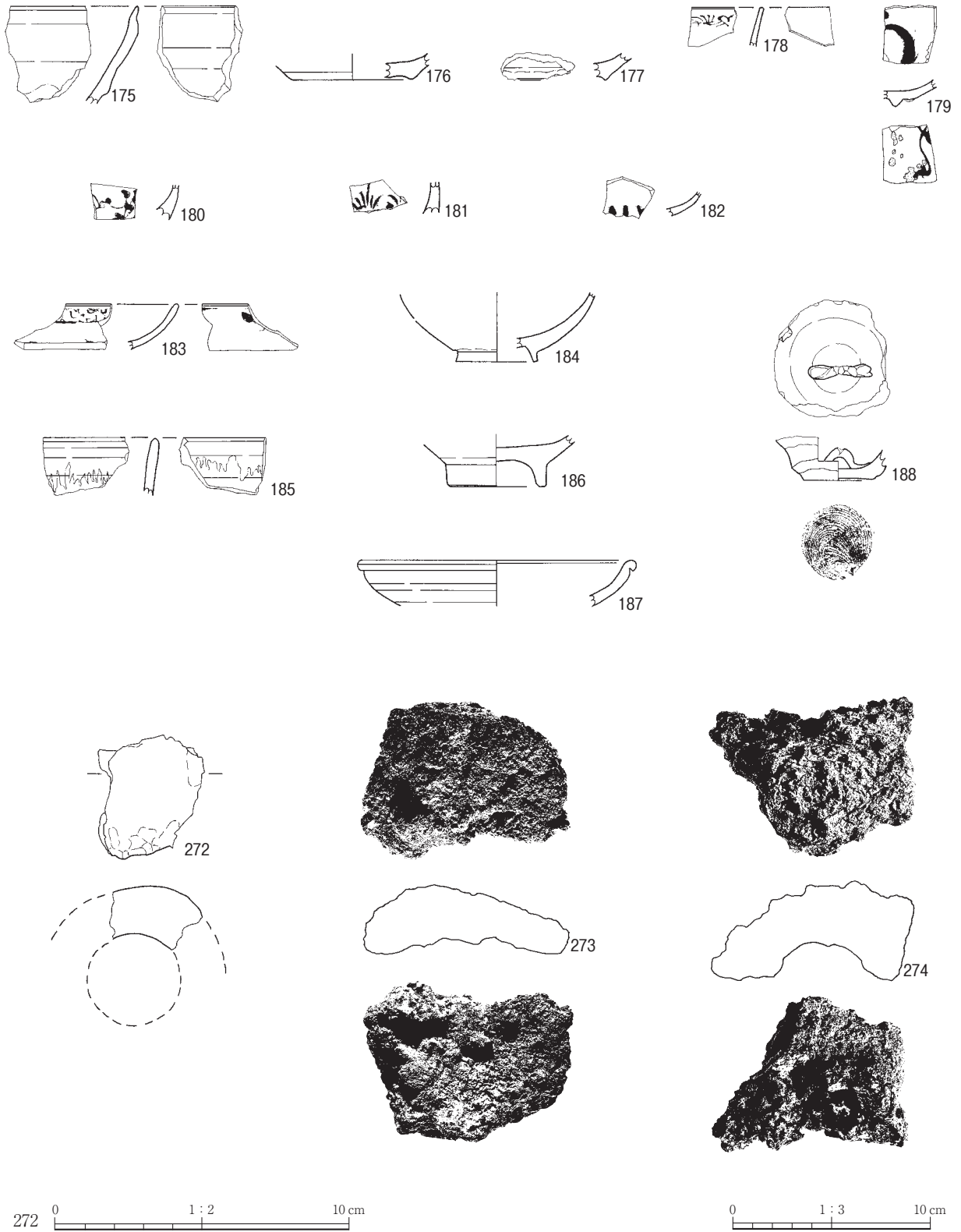
SX



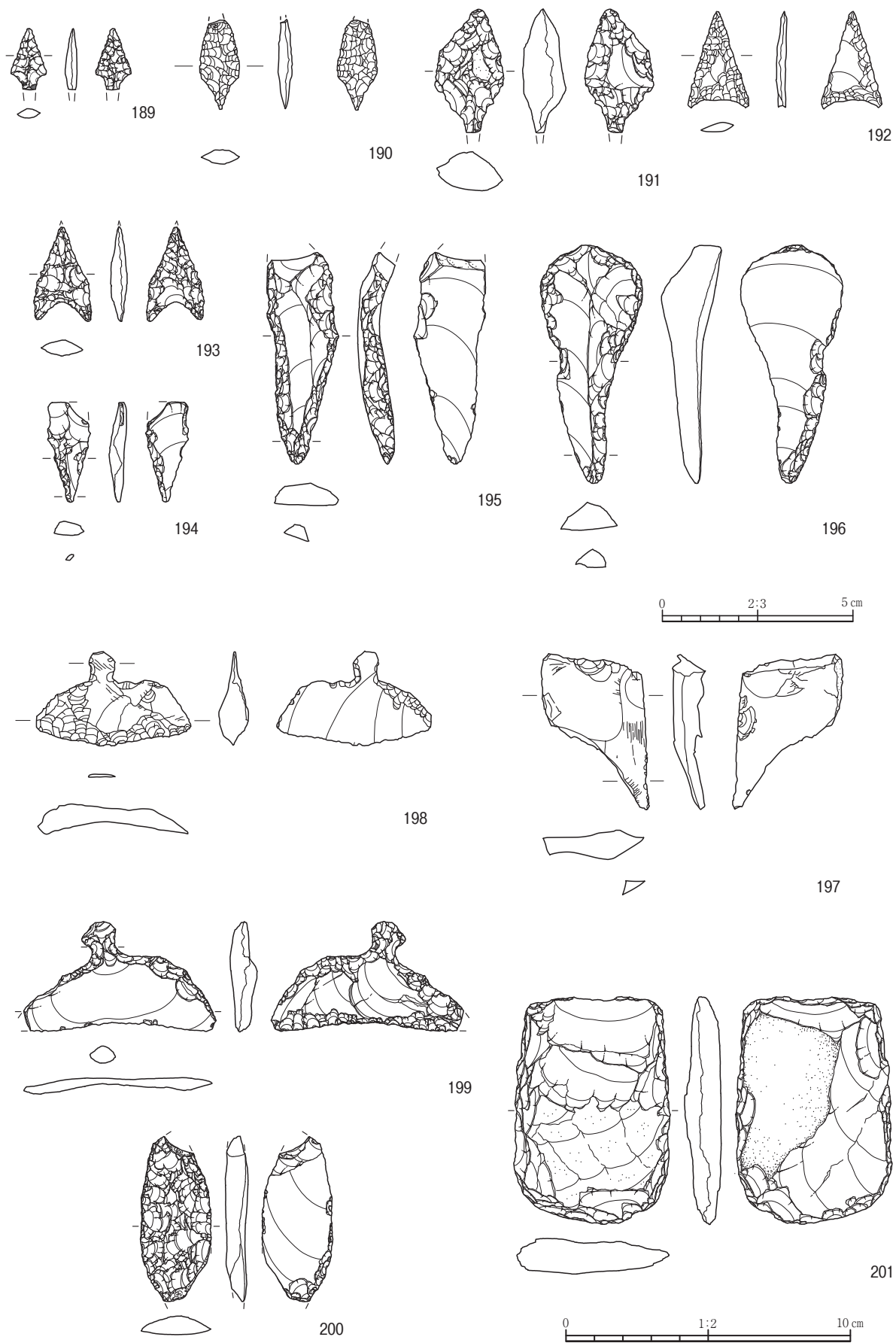
その他



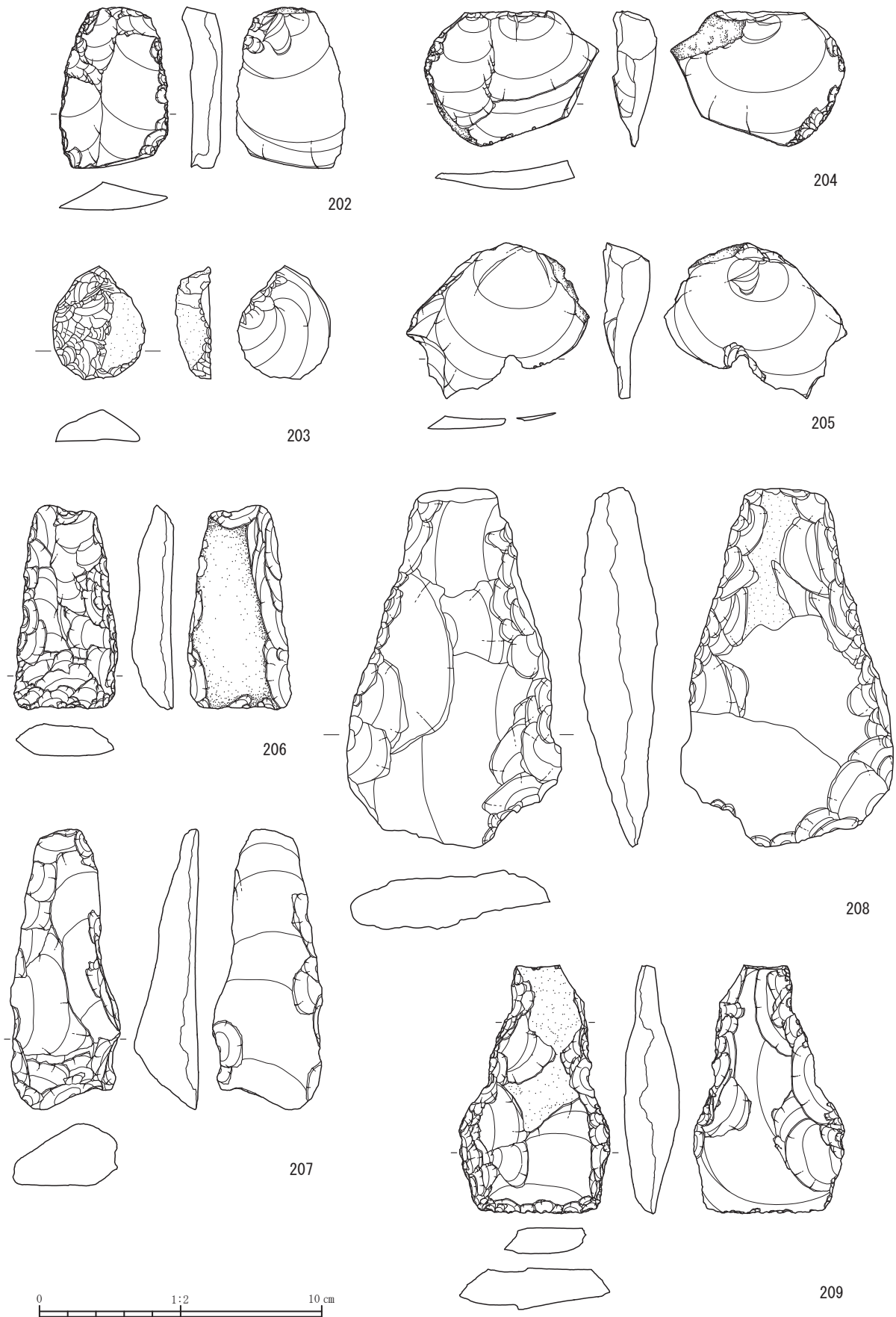
第90図 古代土器 (8)



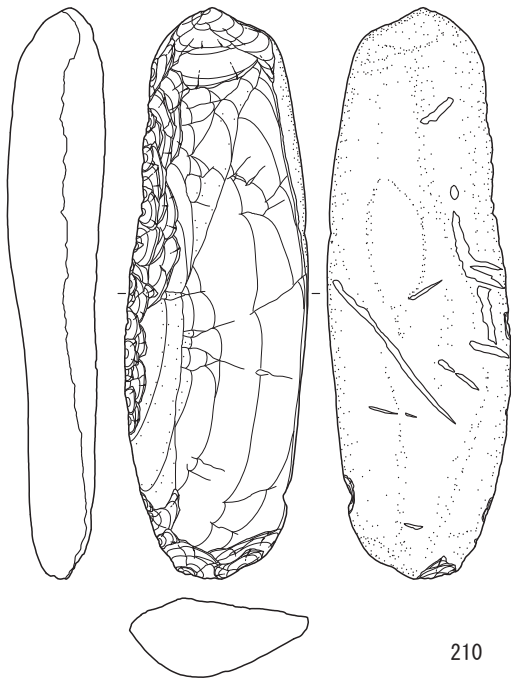
第91図 陶磁器・羽口・炉壁ほか



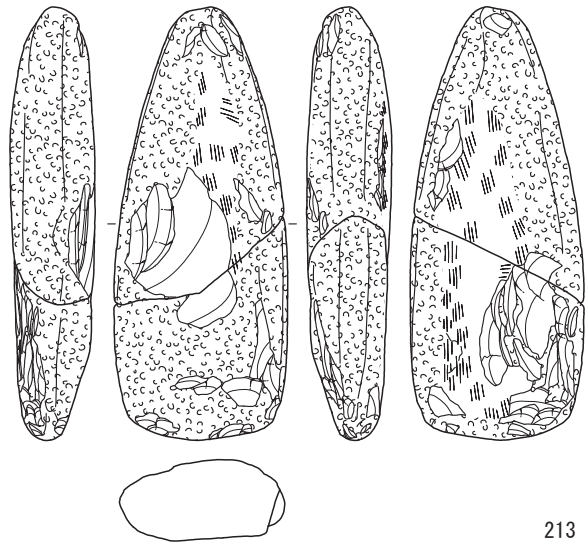
第92図 石器・石製品 (1)



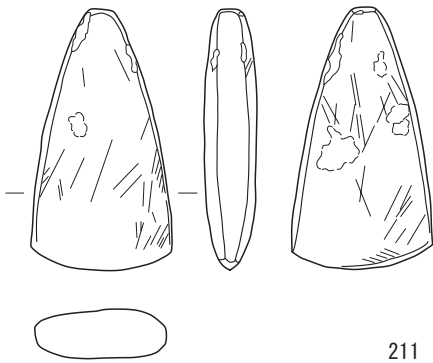
第 93 図 石器・石製品 (2)



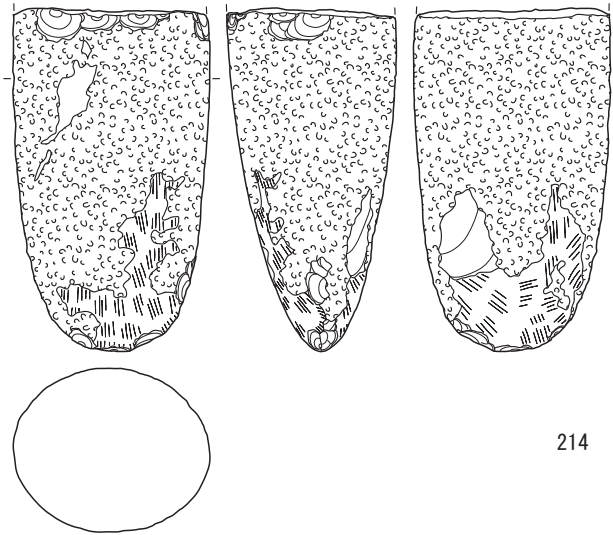
210



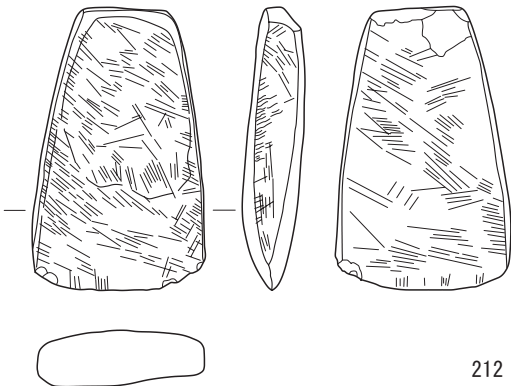
213



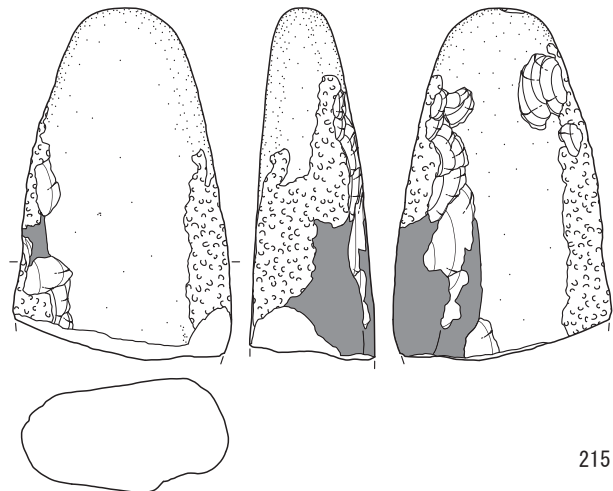
211



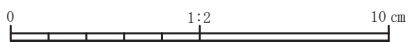
214



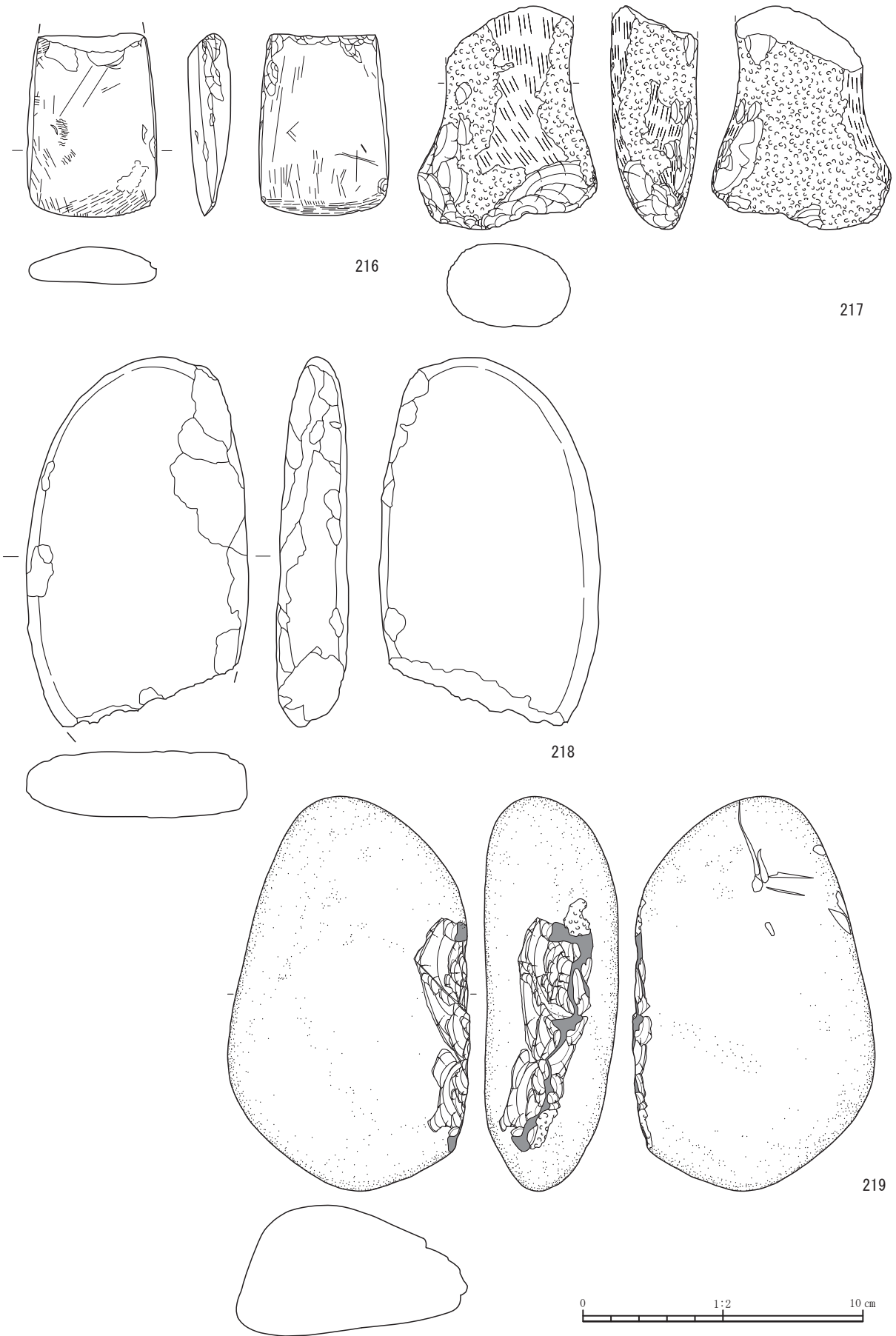
212



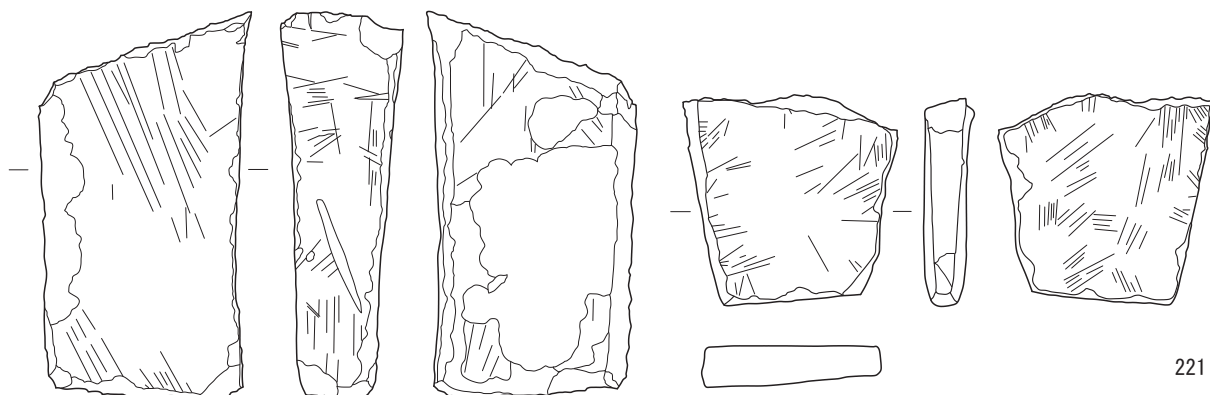
215



第94図 石器・石製品 (3)

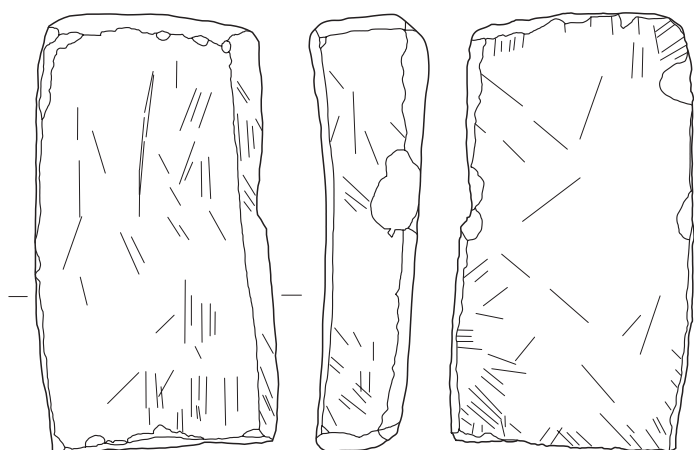


第95図 石器・石製品(4)

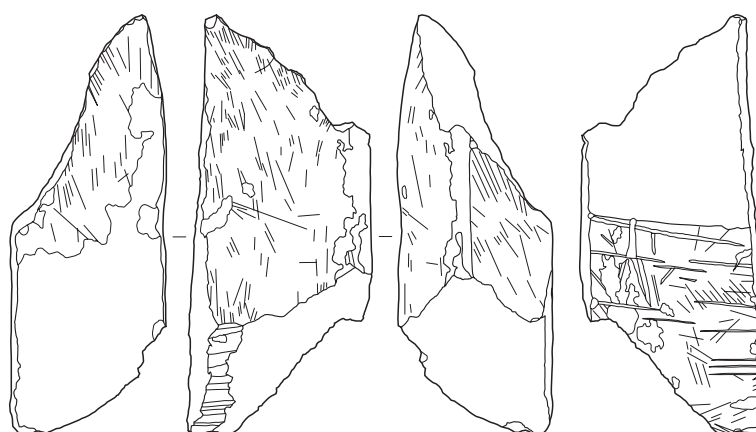
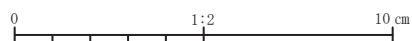


220

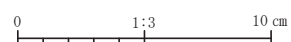
221



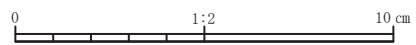
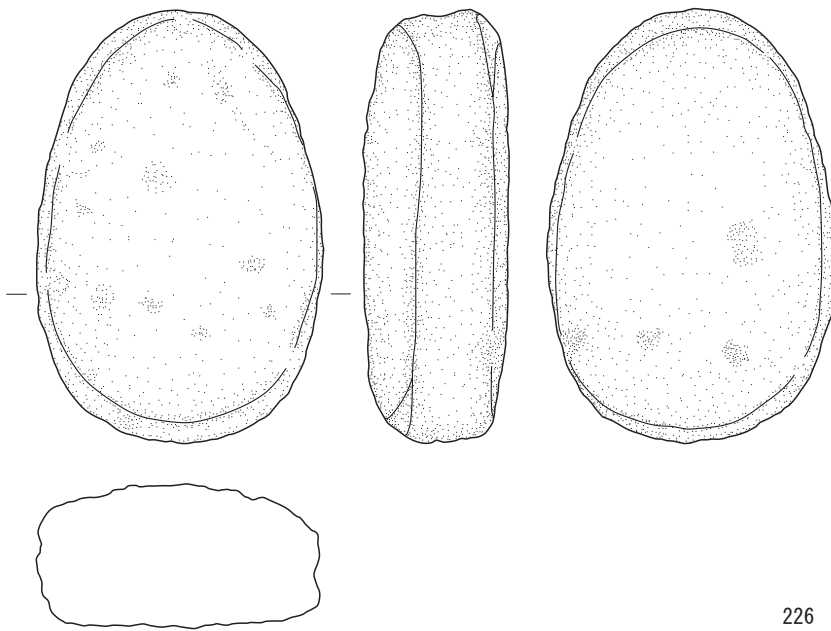
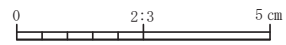
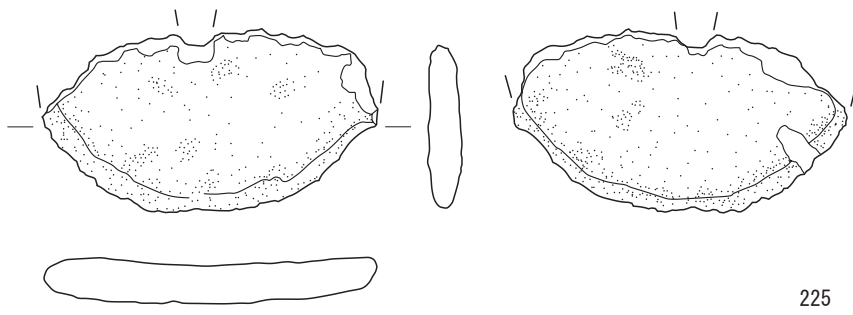
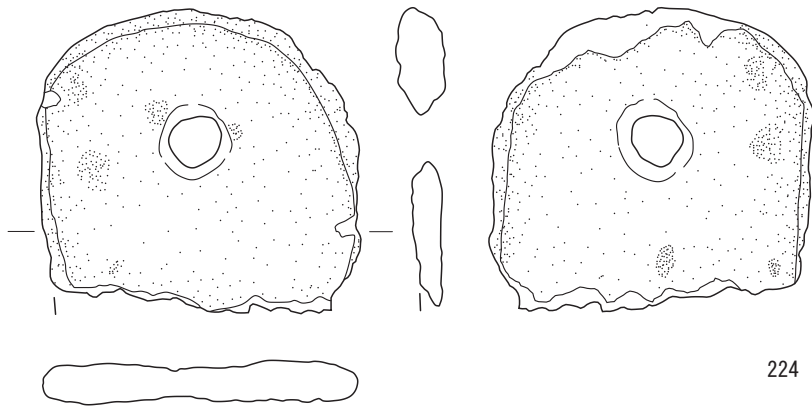
222



223



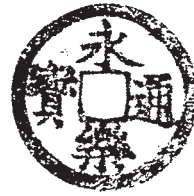
第96図 石器・石製品 (5)



第97図 石器・石製品(6)



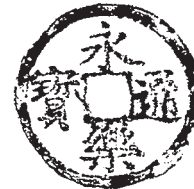
228



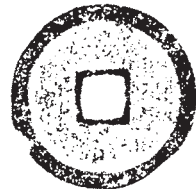
229



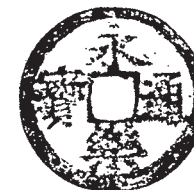
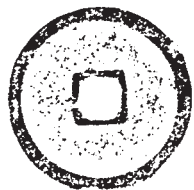
230



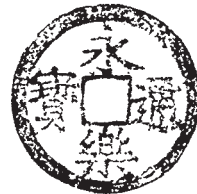
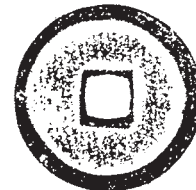
231



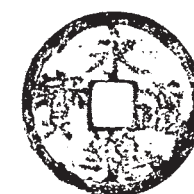
232



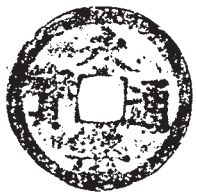
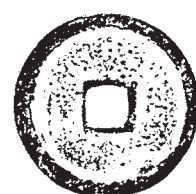
233



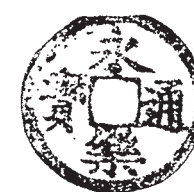
234



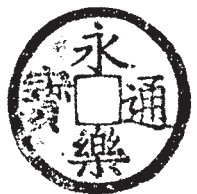
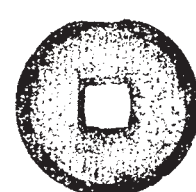
235



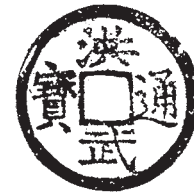
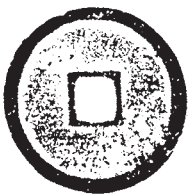
236



237



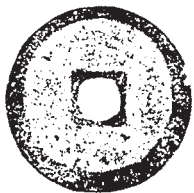
238



239



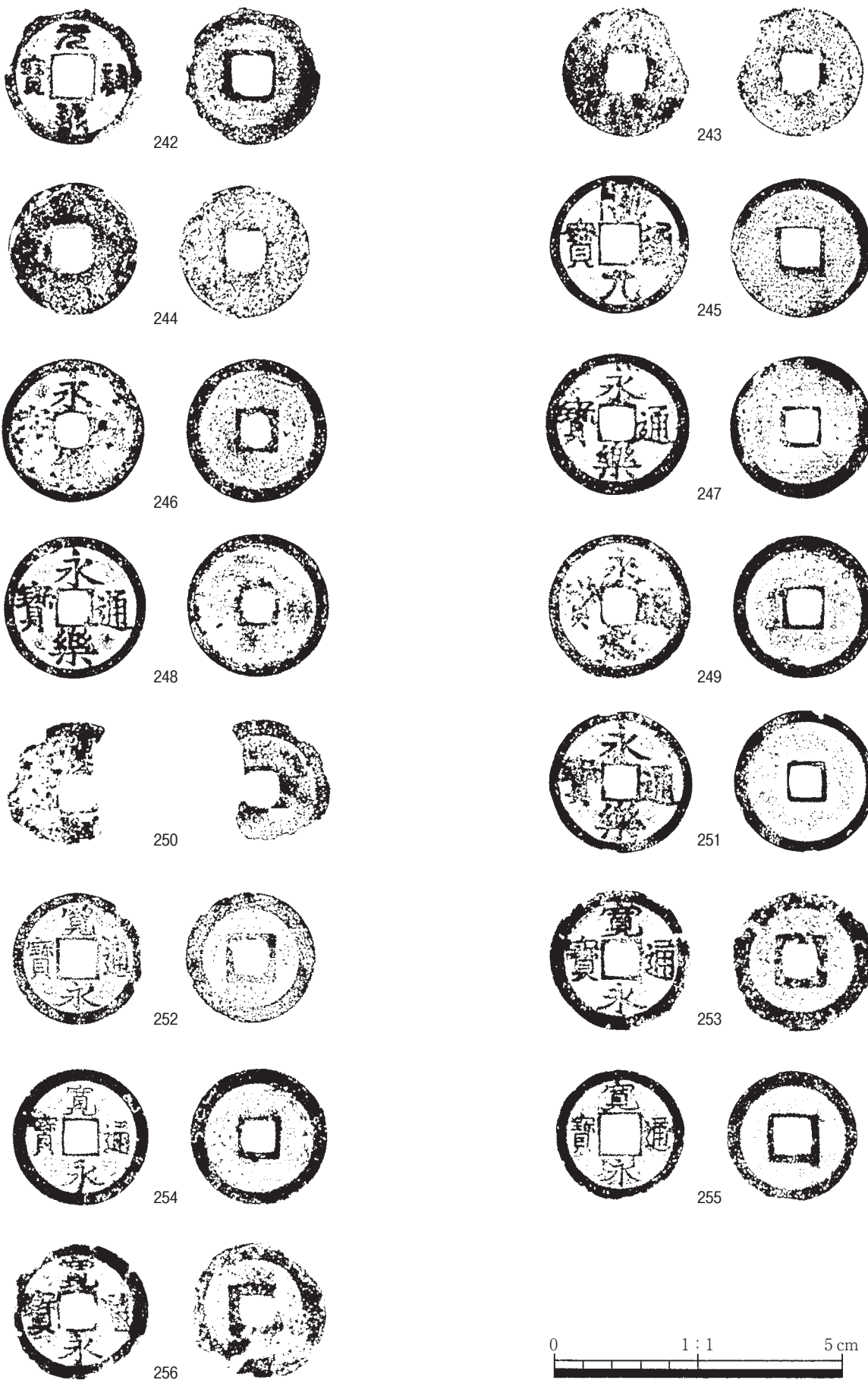
240



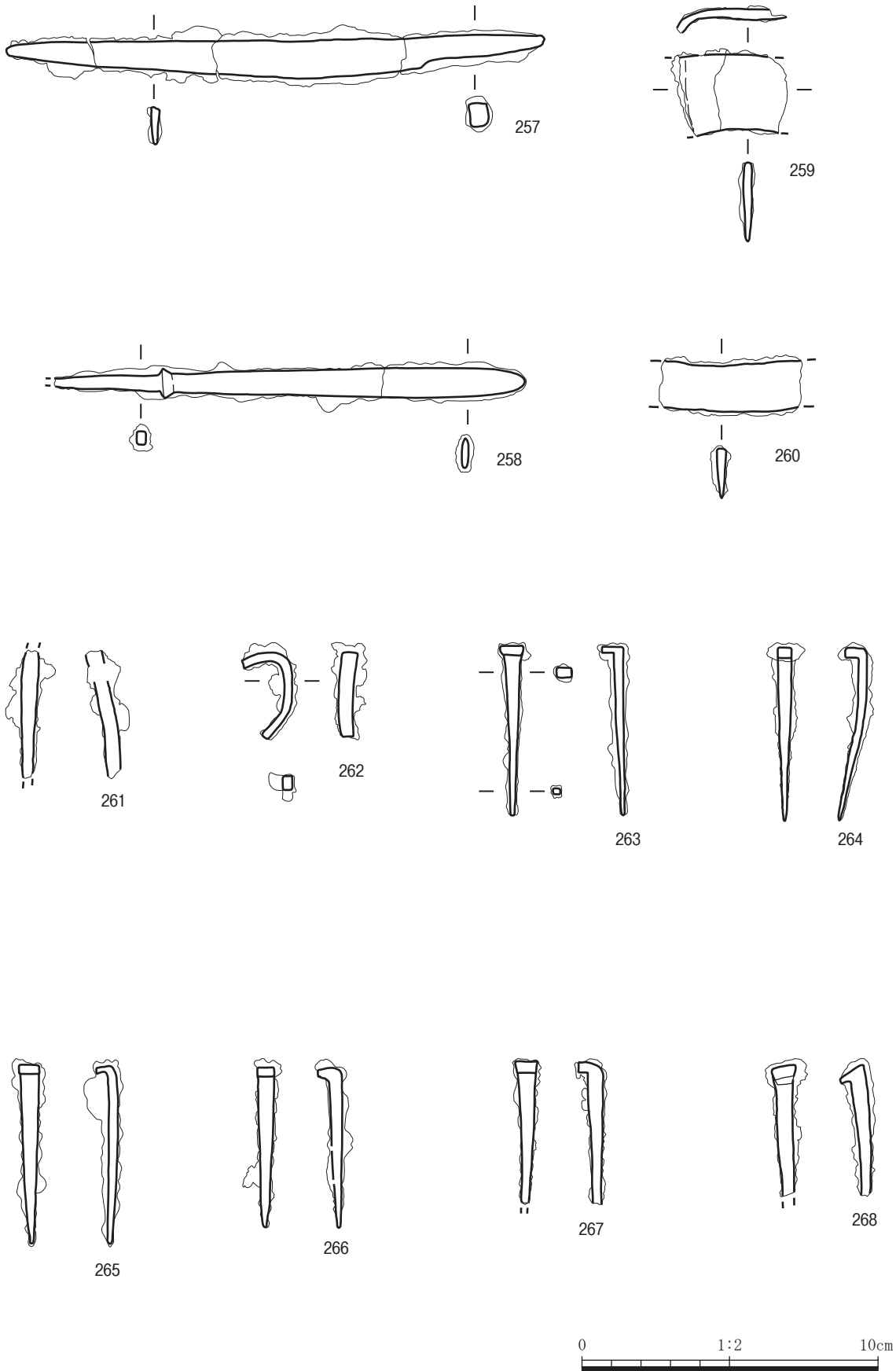
241



第98図 銭貨(1)



第 99 図 錢貨 (2)



第100図 金属製品

第3表 検出遺構一覧表(遺構名変更表)

新遺構名	欠番	旧遺構名	新遺構名	欠番	旧遺構名	新遺構名	欠番	旧遺構名	新遺構名	欠番	旧遺構名	新遺構名	欠番	旧遺構名
1号堀			SD21		SD21	SK50		SK50	SK115		SK115	SKT48		SK133
2号堀			SD22		SD22	SK51		SK51	SK116		SK116	SKT49		SK134
1号土塁			SD23		SD23	SK52		SK52	SK117		SK117	SKT50		SK24
2号土塁			SD24		SD24	SK53		SK53	SK118	欠番		SL01	欠番	
3号土塁			SD25		SD25	SK54		SK54	SK119		SK119	SL02		SL02
4号土塁			SD26		SD26	SK55		SK55	SK120		SK120	SL03		焼土 03
SI01		SI01	SD27		SD27	SK56		SK56	SK121	欠番		SL04		焼土 04
SI02		SI02	SD28		SD28	SK57		SK57	SK122	欠番		SL05		焼土 05
SI03		SI03	SD29	欠番		SK58		SK58	SK123	欠番		SL06		焼土 06
SI04		SI04	SD30	欠番		SK59		SK59	SK124	欠番		SL07		焼土 07
SI05		SI05	SD31		SD31	SK60		SK60	SK125	欠番		SL08		焼土 08
SI06		SI06	SD32		SD32	SK61	欠番		SK126		SK126	SL09		焼土 09
SI07		SI07	SD33		SD33	SK62	欠番		SK127		SK127	SL10		焼土 10
SI08	欠番		SD34		SD34	SK63	欠番		SK128		SK128	SL11		焼土 11
SI09	欠番		SD35		SD35	SK64		SK64	SK129		SK129	SL12		焼土 12
SI10	欠番		SD36		SD36	SK65		SK65	SK130		SK130	SL13		焼土 13
SI11		SI11	SD37		SD37	SK66	欠番		SK131		SK131	SL14		焼土 14
SI12		SI12	SK01		SK01	SK67		SK67	SK132		SK132	SL15		SL15
SB01		SB01	SK02		SK02	SK68	欠番		SKT01		SKT01	SL16		焼土 16
SB02		SB02	SK03		SK03	SK69	欠番		SKT02		SKT02	SL17		焼土 17
SB03		SB03	SK04		SK04	SK70		SK70	SKT03		SKT03	SL18		焼土 18
SB04		SB04	SK05		SK05	SK71		SK71	SKT04		SKT04	SL19		焼土 19
SB05		SB05	SK06	欠番		SK72	欠番		SKT05		SKT05	SL20		焼土 20
SB06		SB06	SK07		SK07	SK73	欠番		SKT06	欠番		SL21		焼土 21
SB07		SB07	SK08	欠番		SK74		SK74	SKT07	欠番		SL22		焼土 22
SB08		SB08	SK09	欠番		SK75		SK75	SKT08	欠番		SL23		焼土 23
SB09		SB09	SK10	欠番		SK76		SK76	SKT09	欠番		SL24		焼土 24
SB10		SB10	SK11		SK11	SK77		SK77	SKT10	欠番		SL25		焼土 25
SB11		SB11	SK12		SK12	SK78		SK78	SKT11		SKT11	SX01		SX01
SB12		SB12	SK13		SK13	SK79		SK79	SKT12		SKT12	SX02		SX02
SB13		SB13	SK14		SK14	SK80		SK80	SKT13		SKT13	SX03		SX03
SB14		SB14	SK15		SK15	SK81		SK81	SKT14		SKT14	SX04		SX04
SB15		SB15	SK16		SK16	SK82		SK82	SKT15		SKT15	SX05		SX05
SB16		SB16	SK17		SK17	SK83		SK83	SKT16		SKT16	SX06		SX06
SB17		SB17	SK18		SK18	SK84		SK84	SKT17		SKT17	SX07		SX07
SB18		SB18	SK19		SK19	SK85		SK85	SKT18		SKT18	SX08		SX08
SB19		SB19	SK20	欠番		SK86		SK86	SKT19		SKT19	SX09	欠番	
SB20		SB20	SK21		SK21	SK87	欠番		SKT20		SKT20	SX10		SX10
SB21		SB21	SK22	欠番		SK88		SK88	SKT21		SKT21	1号土器 埋設		1号土器 埋設
SB22		SB22	SK23	欠番		SK89		SK89	SKT22		SK20			
SB23		SB23	SK25	欠番		SK90		SK90	SKT23		SK22			
SB24		西の門	SK26	欠番		SK91		SK91	SKT24		SK23			
SB25		南の門	SK27		SK27	SK92		SK92	SKT25		SK25			
SB26		北の門	SK28	欠番		SK93		SK93	SKT26		SK26			
SF01		道跡	SK29	欠番		SK94	欠番		SKT27		SK28			
SD01		SD01	SK30	欠番		SK95		SK95	SKT28		SK29			
SD02		SD02	SK31		SK31	SK96		SK96	SKT29		SK30			
SD03		SD03	SK32		SK32	SK97	欠番		SKT30		SK33			
SD04		SD04	SK33	欠番		SK98		SK98	SKT31		SK34			
SD05		SD05	SK34	欠番		SK99		SK99	SKT32		SK35			
SD06		SD06	SK35	欠番		SK100		SK100	SKT33		SK36			
SD07		SD07	SK36	欠番		SK101		SK101	SKT34		SK37			
SD08		SD08	SK37	欠番		SK102		SK102	SKT35		SK46			
SD09		SD09	SK38		SK38	SK103		SK103	SKT36		SK48			
SD10		SD10	SK39	欠番		SK104		SK104	SKT37		SK61			
SD11		SD11	SK40	欠番		SK105		SK105	SKT38		SK62			
SD12		SD12	SK41		SK41	SK106		SK106	SKT39		SK63			
SD13		SD13	SK42		SK42	SK107		SK107	SKT40		SK66			
SD14		SD14	SK43		SK43	SK108	欠番		SKT41		SK68			
SD15		SD15	SK44		SK44	SK109	欠番		SKT42		SK69			
SD16		SD16	SK45		SK45	SK110		SK110	SKT43		SK72			
SD17		SD17	SK46	欠番		SK111		SK111	SKT44		SK73			
SD18		SD18	SK47		SK47	SK112		SK112	SKT45		SK108			
SD19		SD19	SK48	欠番		SK113		SK113	SKT46		SK109			
SD20		SD20	SK49		SK49	SK114		SK114	SKT47		SK118			

第4表 土坑観察表

SK01	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.50 × 1.45	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期
位置 (グリッド) VII B2e	写真図版 28	平面形状 円形	深さ (m) 1.21			備考・重複 陥し穴の可能性あり	
SK02	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.64 × 1.49	特徴 十和田 a 火山灰 炭窯	出土 遺物	遺物重量 土器 185.4g	時期 平安時代
位置 (グリッド) VII C1h	写真図版 28	平面形状 円形	深さ (m) 0.62			備考・重複	
SK03	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.47 × 1.37	特徴 十和田 a 火山灰 炭窯	出土 遺物	遺物重量 土器 54.5g	時期 平安時代
位置 (グリッド) VI C8i	写真図版 28	平面形状 円形	深さ (m) 0.53			備考・重複	
SK04	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.48 × 1.26	特徴 十和田 a 火山灰 炭窯	出土 遺物	遺物重量 土器 15.3g	時期 平安時代
位置 (グリッド) V C7h	写真図版 28	平面形状 円形	深さ (m) 0.35			備考・重複	
SK05	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.98 × 0.93	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 中世か
位置 (グリッド) VII D8c	写真図版 29	平面形状 円形	深さ (m) 0.28			備考・重複	
SK07	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.73 × 0.54	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 中世の可能性あり
位置 (グリッド) VIII D7a	写真図版 29	平面形状 長方形	深さ (m) 0.14			備考・重複	
SK11	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.10 × 1.07	特徴 埋土は人為堆積か	出土 遺物	遺物重量 土器 1759.9g 不定形石器 2点	時期 弥生時代の可能性あり
位置 (グリッド) IX D2b	写真図版 29	平面形状 円形	深さ (m) 0.43			備考・重複 炭化材 (サワグルミ) AMS	
SK12	図版 38	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.98 × 0.96	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) X D2b	写真図版 29	平面形状 円形	深さ (m) 0.31			備考・重複	
SK13	図版 39	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.32 × 0.83	特徴 埋土は人為堆積か	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) X D2b	写真図版 30	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.16			備考・重複	
SK14	図版 39	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.84 × 0.76	特徴 埋土は人為堆積か	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) X D1b	写真図版 30	平面形状 円形	深さ (m) 0.13			備考・重複	
SK15	図版 39	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.03 × 2.94	特徴 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 54.1g	時期 中世より新しい
位置 (グリッド) X C2i	写真図版 30	平面形状 正方形	深さ (m) 0.99			備考・重複 SD04・SD05 に切られる	
SK16	図版 39	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.85 × 1.15	特徴 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 39.1g 不定形石器 1点	時期 中世より古い
位置 (グリッド) IX E8a	写真図版 30	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.89			備考・重複	
SK17	図版 39	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.92 × 0.85	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 55.2g	時期 不明
位置 (グリッド) IX D3i	写真図版 31	平面形状 円形	深さ (m) 0.41			備考・重複 AMS 炭化材 (コナラ)	

4 出土遺物

SK18	図版 39	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.04 × 0.72	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 13.0g	時期 不明
位置 (グリッド) IX D1i	写真図版 31	平面形状 不整形	深さ (m) 0.28			掲載	備考・重複 SB08 と重複
SK19	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.38 × 0.75	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量 土器 16.3g	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D1f	写真図版 31	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.32			掲載	備考・重複 SB22 と重複
SK21	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.89 × 1.74	特徴 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) VI E8c	写真図版 31	平面形状 円形	深さ (m) 0.36			掲載	備考・重複
SK27	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.06 × 0.99	特徴 SI01 と同時期	出土 遺物	遺物重量	時期 平安時代か
位置 (グリッド) VI E7b	写真図版 31	平面形状 円形	深さ (m) 0.18			掲載	備考・重複
SK31	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.59 × ?	特徴 埋土は人為堆積 SI02 の床面で検出	出土 遺物	遺物重量 土器 35.1g	時期 不明
位置 (グリッド) VI E4c	写真図版 32	平面形状 円形?	深さ (m) 0.26			掲載 (150)	備考・重複 SD01 に切られる、SI02 と重複
SK32	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.72 × ?	特徴 埋土は人為堆積 SI02 の床面で検出	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) VI E4c	写真図版 32	平面形状 円形?	深さ (m) 0.14			掲載	備考・重複 SD01 に切られる、SI02 と重複
SK38	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.15 × 0.60	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 23.4g	時期 不明
位置 (グリッド) VI D5j	写真図版 32	平面形状 長方形	深さ (m) 0.12			掲載 (151、152、仮 502)	備考・重複
SK41	図版 40	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.92 × 0.89	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3e	写真図版 32	平面形状 円形	深さ (m) 0.26			掲載	備考・重複
SK42	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.57 × 0.51	特徴 墓 底面に礫多い	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3d	写真図版 33	平面形状 円形	深さ (m) 0.20			掲載	備考・重複
SK43	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.67 × 0.67	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3e	写真図版 33	平面形状 円形	深さ (m) 0.36			掲載	備考・重複
SK44	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.00 × 0.81	特徴 底面に礫あり	出土 遺物	遺物重量 土器 23.3g	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3d	写真図版 33	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.44			掲載	備考・重複
SK45	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.41 × (0.89)	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D2e	写真図版 33	平面形状 円形?	深さ (m) 0.30			掲載	備考・重複
SK47	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.98 × 0.94	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量 土器 119.2g	時期 中世後半
位置 (グリッド) I D10h	写真図版 34	平面形状 正方形	深さ (m) 0.21			掲載銭貨 (228 ~ 231)	備考・重複

SK49	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.17 × 1.13	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D7i	写真図版 34	平面形状 円形	深さ (m) 1.62			掲載	備考・重複
SK50	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.52 × 1.51	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D6i	写真図版 34	平面形状 円形	深さ (m) 1.59			掲載	備考・重複
SK51	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.19 × 0.97	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E7i	写真図版 34	平面形状 円形	深さ (m) 1.79			掲載	備考・重複
SK52	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.92 × 0.91	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E7i	写真図版 34	平面形状 円形	深さ (m) 1.74			掲載	備考・重複
SK53	図版 41	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.02 × 0.91	特徴 墓 底面に礫あり	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E2d	写真図版 35	平面形状 円形	深さ (m) 0.98			掲載	備考・重複
SK54	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.17 × 0.82	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E1d	写真図版 35	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.23			掲載 銭貨 (232)	備考・重複
SK55	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.81 × 0.69	特徴 墓の可能性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E3b	写真図版 35	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.25			掲載	備考・重複
SK56	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.47 × 1.09	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D5h	写真図版 35	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.21			掲載 銭貨 (233 ~ 237)	備考・重複
SK57	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.04 × 0.97	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D6h	写真図版 36	平面形状 円形	深さ (m) 0.20			掲載 銭貨 (238 ~ 241)	備考・重複
SK58	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.97 × 0.96	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D4e	写真図版 36	平面形状 円形	深さ (m) 0.25			掲載	備考・重複
SK59	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.04 × 0.92	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 591.0g	時期 縄文時代中期
位置 (グリッド) II D5f	写真図版 36	平面形状 円形	深さ (m) 0.38			掲載	備考・重複 SB16と重複
SK60	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.92 × 1.87	特徴 埋土に炭を多く含む	出土 遺物	遺物重量 土器 19.5g	時期
位置 (グリッド) V C8d	写真図版 36	平面形状 円形	深さ (m) 0.95			掲載	備考・重複 炭窯
SK64	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.19 × 1.16	特徴 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 670.7g	時期 不明
位置 (グリッド) III E6d	写真図版 37	平面形状 円形	深さ (m) 0.40			掲載	備考・重複

4 出土遺物

SK65	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.97 × 0.91	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III E5b	写真図版 37	平面形状 円形	深さ (m) 0.44			掲載	備考・重複
SK67	図版 42	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.06 × 0.94	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 119.2g	時期 不明
位置 (グリッド) III E5c	写真図版 —	平面形状 円形	深さ (m) 0.34			掲載	備考・重複
SK70	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.84 × 0.96	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3f	写真図版 37	平面形状 円形	深さ (m) 0.30			掲載	備考・重複 SD20 を切る
SK71	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.99 × 0.91	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3f	写真図版 37	平面形状 円形	深さ (m) 0.42			掲載	備考・重複
SK74	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.88 × 0.78	特徴 墓の可能性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D6d	写真図版 38	平面形状 円形	深さ (m) 0.59			掲載	備考・重複
SK75	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.75 × 0.73	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D4d	写真図版 38	平面形状 円形	深さ (m) 0.14			掲載	備考・重複 SB16 と重複
SK76	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.67 × 1.09	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量 土器 226.8g	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D4e	写真図版 38	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.25			掲載	備考・重複
SK77	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.97 × 0.90	特徴 墓の可能性あり	出土 遺物	遺物重量 土器 30.6g	時期 中世後半か
位置 (グリッド) II D6f	写真図版 38	平面形状 円形	深さ (m) 0.71			掲載	備考・重複 SI11 床面にて検出
SK78	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.19 × 1.01	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E10d	写真図版 39	平面形状 円形	深さ (m) 0.18			掲載 銭貨 (242 ~ 244) 鉄釘など (261、263 ~ 268)	備考・重複
SK79	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.10 × 1.09	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E10c	写真図版 39	平面形状 円形	深さ (m) 0.23			掲載	備考・重複
SK80	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.91 × 0.88	特徴 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II E10c	写真図版 39	平面形状 円形	深さ (m) 0.53			掲載	備考・重複
SK81	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.58 × 1.19	特徴 土坑	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代か
位置 (グリッド) II D8e	写真図版 39	平面形状 楕円形	深さ (m) 1.20			掲載	備考・重複
SK82	図版 43	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.84 × 0.77	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D3a	写真図版 40	平面形状 円形	深さ (m) 0.60			掲載	備考・重複

SK83	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.04 × 0.91	特徴 墓の可能性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半か
位置 (グリッド) II D3a	写真図版 40	平面形状 円形	深さ (m) 0.40			掲載	備考・重複
SK84	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.14 × 0.64	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D10g	写真図版 40	平面形状 長方形	深さ (m) 0.40			掲載 銭貨 (245 ~ 249) 刀子 (260)	備考・重複
SK85	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.01 × 0.54	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D8i	写真図版 40	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.24			掲載	備考・重複 SB15と重複
SK86	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.74 × 0.65	特徴 土坑	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II D5f	写真図版 41	平面形状 円形	深さ (m) 0.20			掲載 土器 1878.7g 浅鉢 (17)	備考・重複 SB16と重複
SK88	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.88 × ?	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D6c	写真図版 41	平面形状 円形?	深さ (m) 0.38			掲載	備考・重複 2号堀と重複
SK89	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.92 × 0.82	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II D9d	写真図版 41	平面形状 長方形	深さ (m) 0.21			掲載	備考・重複
SK90	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.93 × 0.73	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) III E1a	写真図版 41	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.25			掲載	備考・重複
SK91	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.16 × 0.88	特徴 土坑	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代の可能性あり
位置 (グリッド) II D8d	写真図版 42	平面形状 長方形	深さ (m) 0.97			掲載	備考・重複
SK92	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.39 × ?	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量	時期 中世後半
位置 (グリッド) II C1j	写真図版 42	平面形状 楕円形?	深さ (m) 0.33			掲載	備考・重複 北側は調査区外、SK93を切る
SK93	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.33 × ?	特徴 フラスコ状	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) I C10j	写真図版 42	平面形状 円形?	深さ (m) 0.52			掲載	備考・重複 北側は調査区外、SK92を切る
SK95	図版 44	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.92 × 0.77	特徴 土坑 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) I C10j	写真図版 42	平面形状 円形	深さ (m) 0.66			掲載	備考・重複
SK96	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.13 × 0.87	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III E8a	写真図版 42	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.10			掲載	備考・重複
SK98	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.59 × 0.53	特徴 墓	出土 遺物	遺物重量 土器 128.5g	時期 中世後半
位置 (グリッド) I D10d	写真図版 43	平面形状 円形	深さ (m) 0.21			掲載	備考・重複

4 出土遺物

SK99	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.48 × 1.26	特徴 埋土は人為堆積 廃棄遺構	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III E7a	写真図版 43	平面形状 円形	深さ (m) 0.45			掲載	備考・重複
SK100	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.05 × 1.05	特徴 土坑	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III E4c	写真図版 43	平面形状 円形	深さ (m) 0.10			掲載	備考・重複
SK101	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.44 × 1.37	特徴 土坑 埋土は人為堆積の可能 性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III E4b	写真図版 43	平面形状 円形	深さ (m) 0.19			掲載	備考・重複
SK102	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.51 × 1.45	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量 土器 138.3g	時期 不明
位置 (グリッド) III D8i	写真図版 一	平面形状 円形	深さ (m) 0.15			掲載	備考・重複
SK103	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.86 × 0.80	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III D6f	写真図版 44	平面形状 円形	深さ (m) 0.44			掲載	備考・重複
SK104	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.01 × 0.97	特徴 縄文時代中期の土器が その場で潰れたような 状態で出土	出土 遺物	遺物重量 縄文土器 1956.4g	時期 縄文時代中期
位置 (グリッド) III D7e	写真図版 44	平面形状 円形	深さ (m) 0.54			掲載 土器 (15ab)	備考・重複
SK105	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.69 × 0.66	特徴 埋土は自然堆積 フラスコ状	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代の可能性あり
位置 (グリッド) III D8e	写真図版 44	平面形状 円形	深さ (m) 0.40			掲載	備考・重複
SK106	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.64 × 0.51	特徴 土坑	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III D7f	写真図版 44	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.23			掲載	備考・重複
SK107	図版 45	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.64 × 1.23	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III E6a	写真図版 45	平面形状 円形	深さ (m) 0.53			掲載	備考・重複
SK110	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.28 × 0.96	特徴 土坑	出土 遺物	遺物重量 土器 69.8g	時期 不明
位置 (グリッド) IV D1b	写真図版 45	平面形状 溝状	深さ (m) 0.98			掲載 石匙 (199)	備考・重複
SK111	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.65 × ?	特徴 土坑 埋土は人為堆積の可能 性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III D9j	写真図版 45	平面形状 円形?	深さ (m) 0.06			掲載	備考・重複 SD25・SD26に切られる
SK112	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.07 × ?	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) IV D1h	写真図版 45	平面形状 楕円形?	深さ (m) 0.17			掲載	備考・重複 SD25に切られる
SK113	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.95 × 0.76	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III D3f	写真図版 46	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.19			掲載	備考・重複

SK114	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.71 × 1.67	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) III D9j	写真図版 46	平面形状 不整形	深さ (m) 0.67			掲載	備考・重複
SK115	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.54 × 1.13	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) II C5i	写真図版 46	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.50			掲載	備考・重複
SK116	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.01 × 0.82	特徴 貯蔵穴か 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代の可能性高い
位置 (グリッド) II C3j	写真図版 46	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.46			掲載	備考・重複
SK117	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.06 × 0.79	特徴 貯蔵穴か 埋土は自然堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代の可能性高い
位置 (グリッド) II C3j	写真図版 47	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.43			掲載	備考・重複
SK119	図版 46	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.30 × 1.12	特徴 土坑 埋土は人為堆積	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) II C3g	写真図版 47	平面形状 長方形	深さ (m) 0.26			掲載	備考・重複 SL17より古い AMS
SK120	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.40 × 1.12	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) II C5i	写真図版 47	平面形状 長方形	深さ (m) 0.66			掲載 磁器 (180)	備考・重複
SK126	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.48 × 1.06	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) II C5h	写真図版 47	平面形状 長方形	深さ (m) 0.69			掲載	備考・重複 SK127を切る
SK127	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.15 × ?	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) II C5h	写真図版 47	平面形状 ?	深さ (m) 0.62			掲載	備考・重複 SK126に切られる、SK128を 切る
SK128	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.66 × ?	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) II C5h	写真図版 47	平面形状 長方形?	深さ (m) 0.52			掲載	備考・重複 SK127に切られる
SK129	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.06 × 1.55	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) II C5i	写真図版 48	平面形状 不整形	深さ (m) 0.57			掲載 磁器 (181)	備考・重複
SK130	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.12 × 1.11	特徴 墓の可能性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 中世か
位置 (グリッド) III D1a	写真図版 48	平面形状 円形	深さ (m) 0.49			掲載	備考・重複
SK131	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.87 × 0.95	特徴 墓の可能性あり	出土 遺物	遺物重量	時期 中世か
位置 (グリッド) III D1b	写真図版 48	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.47			掲載	備考・重複
SK132	図版 47	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.41 × 1.01	特徴 家畜墓 (馬)	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) III C6i	写真図版 48	平面形状 楕円形	深さ (m) 0.22			掲載	備考・重複

第5表 陥し穴観察表

SKT01	図版 48	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.74 × 0.50	特徴 SKT02 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VII D9h	写真図版 49	平面形状 溝状	深さ (m) 1.06			掲載	備考・重複
SKT02	図版 48	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.84 × 0.56	特徴 SKT01 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VII D8h	写真図版 49	平面形状 溝状	深さ (m) 1.11			掲載	備考・重複
SKT03	図版 48	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.13 × 0.81	特徴 SKT04 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VIII D7e	写真図版 49	平面形状 溝状	深さ (m) 1.03			掲載	備考・重複 花粉分析
SKT04	図版 48	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.86 × 0.53	特徴 SKT03・SKT05 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VIII D7c	写真図版 49	平面形状 溝状	深さ (m) 1.13			掲載	備考・重複 花粉分析
SKT05	図版 48	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.78 × 0.68	特徴 SKT04 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VIII D8c	写真図版 50	平面形状 溝状	深さ (m) 1.13			掲載	備考・重複 花粉分析
SKT11	図版 49	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.70 × 0.60	特徴 SKT12 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VIII D10a	写真図版 50	平面形状 溝状	深さ (m) 1.18			掲載	備考・重複 花粉分析
SKT12	図版 49	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.52 × 0.74	特徴 SKT11・SKT13 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IX D1a	写真図版 50	平面形状 溝状	深さ (m) 1.20			掲載	備考・重複 花粉分析
SKT13	図版 49	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.67 × 0.53	特徴 SKT12・SKT14 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IX C2j	写真図版 50	平面形状 溝状	深さ (m) 1.13			掲載	備考・重複 SB05・SL05 に切られる
SKT14	図版 49	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.93 × 0.49	特徴 SKT13 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IX C3h	写真図版 51	平面形状 溝状	深さ (m) 1.07			掲載	備考・重複
SKT15	図版 49	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.13 × 0.36	特徴 SKT16 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VII D10f	写真図版 51	平面形状 溝状	深さ (m) 0.97			掲載	備考・重複 SB10 に切られる
SKT16	図版 50	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.50 × 0.34	特徴 SKT15 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VII D10g	写真図版 51	平面形状 溝状	深さ (m) 0.89			掲載	備考・重複
SKT17	図版 50	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.12 × 0.60	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VII D6j	写真図版 51	平面形状 溝状	深さ (m) 1.13			掲載	備考・重複
SKT18	図版 50	検出面	平面規模 (m) 3.50 × 0.85	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II E4a	写真図版 52	平面形状 溝状	深さ (m) 1.37			掲載	備考・重複

SKT19	図版 50	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.28 × 0.70	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II E7a	写真図版 52	平面形状 溝状	深さ (m) 1.09			掲載	備考・重複
SKT20	図版 51	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.62 × 0.76	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II E7b	写真図版 52	平面形状 溝状	深さ (m) 1.48			掲載	備考・重複
SKT21	図版 51	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.16 × 0.54	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III E2d	写真図版 52	平面形状 溝状	深さ (m) 1.18			掲載	備考・重複 SD31 に切られる
SKT22	図版 50	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.61 × 1.39	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 40cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II D1g	写真図版 53	平面形状 円形	深さ (m) 0.96			掲載	備考・重複 SD16 と重複
SKT23	図版 51	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.87 × 0.51	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド)	写真図版 53	平面形状 溝状	深さ (m) 1.07			掲載	備考・重複
SKT24	図版 50	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.40 × 1.19	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 20cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI E3a	写真図版 53	平面形状 円形	深さ (m) 1.55			掲載	備考・重複
SKT25	図版 51	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.78 × 1.50	特徴 底面に副穴 2 個 深さ 20cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI D7c	写真図版 53	平面形状 円形	深さ (m) 1.41			掲載	備考・重複 AMS
SKT26	図版 51	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.63 × 1.56	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 30cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI D5g	写真図版 54	平面形状 円形	深さ (m) 1.37			掲載	備考・重複 AMS 炭化材 (樹種不明だった) 花粉分析
SKT27	図版 52	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.81 × 0.80	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI E2c	写真図版 54	平面形状 溝状	深さ (m) 1.29			掲載	備考・重複
SKT28	図版 52	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.34 × 1.24	特徴 底面に副穴 2 個 深さ 28cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI C9f	写真図版 54	平面形状 円形	深さ (m) 1.27			掲載	備考・重複
SKT29	図版 52	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.60 × 1.56	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 25cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI C8i	写真図版 54	平面形状 円形	深さ (m) 1.56			掲載	備考・重複
SKT30	図版 52	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.48 × 1.41	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 28cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI E3c	写真図版 55	平面形状 円形	深さ (m) 1.77			掲載	備考・重複
SKT31	図版 52	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.56 × 0.39	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI E6b	写真図版 55	平面形状 溝状	深さ (m) 1.13			掲載	備考・重複

4 出土遺物

SKT32	図版 53	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.07 × 0.47	特徴 SKT33 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) V C1g	写真図版 55	平面形状 溝状	深さ (m) 1.14			掲載	備考・重複
SKT33	図版 53	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.41 × 0.50	特徴 SKT32 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) V C3f	写真図版 55	平面形状 溝状	深さ (m) 1.23			掲載	備考・重複
SKT34	図版 53	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.72 × 0.38	特徴 単独で立地	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IV D5j	写真図版 56	平面形状 溝状	深さ (m) 0.89			掲載	備考・重複
SKT35	図版 53	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.04 × 0.94	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 35cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) I D10i	写真図版 56	平面形状 円形	深さ (m) 0.42			掲載	備考・重複
SKT36	図版 54	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.11 × 0.88	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 45cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II D1f	写真図版 56	平面形状 円形	深さ (m) 1.26			掲載	備考・重複
SKT37	図版 53	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.12 × 0.49	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IV C4h	写真図版 56	平面形状 溝状	深さ (m) 1.04			掲載	備考・重複
SKT38	図版 54	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 3.35 × 1.12	特徴 溝状陥し穴の中では 最大規模	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III E8d	写真図版 57	平面形状 溝状	深さ (m) 1.46			掲載	備考・重複 SKT39 を切る
SKT39	図版 54	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.71 × 1.51	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 70cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III E8d	写真図版 57	平面形状 円形	深さ (m) 1.00			掲載	備考・重複 SKT38 に切られる
SKT40	図版 54	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 0.96 × 0.91	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 50cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III E6d	写真図版 57	平面形状 円形	深さ (m) 0.71			掲載	備考・重複
SKT41	図版 54	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.56 × 1.30	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 70cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III E10a	写真図版 57	平面形状 円形	深さ (m) 0.78			掲載	備考・重複
SKT42	図版 54	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.05 × 0.52	特徴 SKT48 と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III D7d	写真図版 57	平面形状 溝状	深さ (m) 1.05			掲載	備考・重複
SKT43	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.40 × 1.34	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 69cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II C2j	写真図版 58	平面形状 円形	深さ (m) 0.85			掲載	備考・重複
SKT44	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.81 × 1.50	特徴 底面に副穴 1 個 深さ 57cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II D2a	写真図版 58	平面形状 円形	深さ (m) 1.00			掲載	備考・重複

SKT45	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.45 × 1.28	特徴 底面に副穴1個 深さ53cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IV D2i	写真図版 58	平面形状 円形	深さ (m) 0.97			掲載	備考・重複
SKT46	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.37 × 1.33	特徴 底面に副穴1個 深さ66cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IV D2h	写真図版 58	平面形状 円形	深さ (m) 0.81			掲載	備考・重複
SKT47	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.57 × 1.48	特徴 底面に副穴1個 深さ33cm	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) II C3i	写真図版 59	平面形状 円形	深さ (m) 0.75			掲載	備考・重複
SKT48	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.30 × 0.63	特徴 SKT42と並ぶ	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) III D7c	写真図版 59	平面形状 溝状	深さ (m) 1.13			掲載	備考・重複
SKT49	図版 55	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 2.20 × 0.52	特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) IV D1a	写真図版 59	平面形状 溝状	深さ (m) 1.05			掲載	備考・重複
SKT50	図版 56	検出面 IV層上面	平面規模 (m) 1.67 × 1.57	特徴 底面に副穴はない	出土 遺物	遺物重量	時期 縄文時代
位置 (グリッド) VI D 8a	写真図版 59	平面形状 円形	深さ (m) 1.42			掲載	備考・重複 陥し穴の可能性あり

第6表 溝跡観察表

SD01	図版 60	検出面 IV層上面	上幅 (m) 1.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 224.1g	時期 不明
位置 (グリッド) VI D3a ~ VI E4d	写真図版 68	全長 (m) 68.7	深さ (m) 0.3	直線状 N-83°-W		掲載 土師器 (153)	備考・重複 SI02を切る
SD02	図版 61	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) VII D6j ~ VII D9i	写真図版 68	全長 (m) 16.8	深さ (m) 0.2	直線状 (やや湾曲) N-19°-E		掲載	備考・重複
SD03	図版 61	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) VII D7j ~ VIII D10i	写真図版 68	全長 (m) 5.0, 3.8	深さ (m) 0.1	直線状、1箇所まで途切れる N-23°-E、N-9°-E		掲載	備考・重複
SD04	図版 61・62	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 2.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 162g	時期 近世か
位置 (グリッド) IX D7a ~ X C2i	写真図版 68	全長 (m) 26.0	深さ (m) 0.3	直線状 N-22°-E		掲載 磁器 (183)	備考・重複 SK15を切る、SB03と重複
SD05	図版 62	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 2.2	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) IX C9j ~ X C2i	写真図版 68	全長 (m) 14.6	深さ (m) 0.1	直線状 N-18°-E		掲載	備考・重複 SK15を切る
SD06	図版 63	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 751.2g	時期 平安時代か
位置 (グリッド) VIII E9a ~ IX D10b	写真図版 69	全長 (m) 74.7	深さ (m) 0.2	湾曲、2箇所まで途切れる		掲載	備考・重複 SD12を切る、SB05と重複
SD07	図版 61・62	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 1.3	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 160.6g 不定形石器 1点	時期 不明
位置 (グリッド) IX D8a ~ IX C10j	写真図版 69	全長 (m) 11.7	深さ (m) 0.2	直線状 N-29°-E		掲載	備考・重複 SD04と合流?
SD08	図版 61	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.2 ~ 1.1	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 38.5g	時期 不明
位置 (グリッド) IX D9c ~ IX D9d	写真図版 69	全長 (m) 4.4	深さ (m) 0.1	直線状 N-32°-E		掲載 土師器 (154)	備考・重複 SB01と重複
SD09	図版 64	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) VII D6i ~ VIII D8j	写真図版 70	全長 (m) 22.4	深さ (m) 0.1	直線状、中央で90°屈曲 N-14°-E、N-83°-W		掲載	備考・重複
SD10	図版 64	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) VIII D6h ~ VIII D7h	写真図版 70	全長 (m) 9.8	深さ (m) 0.1	直線状 N-12°-E		掲載	備考・重複
SD11	図版 65	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) IX D9h ~ IX D9j	写真図版 70	全長 (m) 7.5	深さ (m) 0.2	直線状 N-23°-W		掲載	備考・重複 SX06に切られる
SD12	図版 64	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 64.9g	時期 不明
位置 (グリッド) VIII D6g ~ VIII D10h	写真図版 70	全長 (m) 25.8	深さ (m) 0.2	直線状、1箇所まで途切れる N-11°-W		掲載	備考・重複 SD06に切られる
SD13	図版 65	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 1.1	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 VIII D7f ~ VIII D7h	写真図版 71	全長 (m) 8.0	深さ (m) 0.2	直線状 N-83°-W		掲載	備考・重複

SD14	図版 65	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 1.2	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) Ⅷ D1c ~ Ⅶ D10e	写真図版 71	全長 (m) 9.7	深さ (m) 0.1	クランク状に屈曲		掲載	備考・重複 SB10・11 と重複
SD15	図版 66	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.7 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 76.9g	時期 中世及びそれ以降
位置 (グリッド) Ⅴ C9j ~ Ⅵ E10d	写真図版 71	全長 (m) 111.8	深さ (m) 0.5	直線状、中央で90°屈曲 N-0°-E、N-81°-W		掲載	備考・重複
SD16	図版 67	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量 土器 22.0g	時期 古代
位置 (グリッド) Ⅰ D10g ~ Ⅳ D4e	写真図版 71	全長 (m) 120.8	深さ (m) 0.3	直線状、中央でやや屈曲 N-9°-E、N-2°-E		掲載 石筥 (206)	備考・重複 2号堀・4号土塁・SD25・SD26に 切られる、SI11・SK20を切る、 SB16・SB22・SD20・SD21と重複
SD17	図版 66	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.5 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) Ⅰ D10f ~ Ⅱ D3f	写真図版 —	全長 (m) 14.1	深さ (m) 0.2	直線状 N-5°-E		掲載	備考・重複
SD18	図版 68	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.6 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅲ E3d ~ Ⅲ E1d	写真図版 72	全長 (m) 40.0	深さ (m) 0.5	直線状 (やや湾曲) おおむね南北方向		掲載	備考・重複 SD21 とつながる
SD19	図版 68	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅱ D4i ~ Ⅱ E6d	写真図版 72	全長 (m) 39.1	深さ (m) 0.1	直線状、北側で屈曲、1 箇所ので途切れる N-88°-E、N-0°-E		掲載	備考・重複 SB18 と重複
SD20	図版 68	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 1.1	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅱ D4c ~ Ⅱ D3g	写真図版 —	全長 (m) 21.0	深さ (m) 0.3	直線状 (やや屈曲) N-68°-E、N-86°-E		掲載 銭貨 (254)	備考・重複 SD21・SD22 とつながる
SD21	図版 68	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.7 ~ 1.1	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅱ E3d ~ Ⅱ C6h	写真図版 72	全長 (m) 85.0	深さ (m) 0.4	直線状 (やや屈曲) N-70°-E、N-90°-E		掲載 陶器 (185)	備考・重複 SD18・SD20・SD22 とつなが る
SD22	図版 68	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅱ D3g ~ Ⅱ D3j	写真図版 72	全長 (m) 16.7	深さ (m) 0.3	直線状 N-88°-W		掲載	備考・重複 SD20・SD22 とつながる
SD23	図版 69	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.5 ~ 1.0	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) Ⅱ D6i ~ Ⅱ E6b	写真図版 72	全長 (m) 4.0、7.0	深さ (m) 0.05	直線状、1箇所ので途切れる N-86°-W、N-78°-W		掲載	備考・重複
SD24	図版 69	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 古代の可能性はある
位置 (グリッド) Ⅲ D5h ~ Ⅲ D5i	写真図版 73	全長 (m) 7.1	深さ (m) 0.05	直線状 N-85°-W		掲載	備考・重複
SD25	図版 70	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 1.0	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 中世及びそれ以降
位置 (グリッド) Ⅳ C2j ~ Ⅳ E1d	写真図版 73	全長 (m) 70.9	深さ (m) 0.3	直線状 (やや屈曲) N-83°-W、N-0°-E		掲載	備考・重複 西端でSD26 とつながる、 SI12・SK110・SK112を切る
SD26	図版 70	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 中世及びそれ以降
位置 (グリッド) Ⅳ C2j ~ Ⅳ D1f	写真図版 73	全長 (m) 30.4	深さ (m) 0.2	直線状 N-83°-W		掲載	備考・重複 西端でSD25 とつながる、 SK110を切る

4 出土遺物

SD27	図版 71	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.2 ~ 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 古代
位置 (グリッド) Ⅲ D7f ~ Ⅲ D9g	写真図版 73	全長 (m) 3.8, 2.7	深さ (m) 0.05	直線状、1箇所ですて切れる N-3°-W、N-5°-W		掲載	備考・重複
SD28	図版 71	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 古代か
位置 (グリッド) Ⅲ D7c ~ Ⅲ D6e	写真図版 73	全長 (m) 8.7	深さ (m) 0.05	直線状、東側で屈曲 N-79°-E、N-3°-E		掲載	備考・重複 SK69を切る
SD31	図版 71	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅲ E1c ~ Ⅲ E2d	写真図版 74	全長 (m) 7.4	深さ (m) 0.05	直線状 N-84°-W		掲載	備考・重複 SKT21を切る
SD32	図版 72	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.2 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅲ C1h ~ Ⅲ E2d	写真図版 74	全長 (m) 88.0	深さ (m) 0.2	直線状 (やや湾曲)、西 端はクランク状に屈曲、 おおむね東西方向		掲載	備考・重複 2号堀跡と重複
SD33	図版 73	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.5 ~ 0.8	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) Ⅱ D3c ~ Ⅲ D2c	写真図版 74	全長 (m) 5.4, 12.1	深さ (m) 0.15	直線状、1箇所ですて切れる N-5°-W		掲載	備考・重複 2号堀跡と重複
SD34	図版 72	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.3	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅱ C10i	写真図版 75	全長 (m) 1.1	深さ (m) 0.15	直線状 N-76°-W		掲載	備考・重複
SD35	図版 72	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.15	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 近世
位置 (グリッド) Ⅱ C10h	写真図版 75	全長 (m) 1.1	深さ (m) 0.1	直線状 N-62°-E		掲載	備考・重複
SD36	図版 73	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 0.6	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 古代
位置 (グリッド) Ⅲ D2h ~ Ⅲ E2d	写真図版 75	全長 (m) 30.8	深さ (m) 0.2	直線状 (やや屈曲)、西 端で屈曲、おおむね東西 方向		掲載	備考・重複 4号土塁に切られる
SD37	図版 66	検出面 IV層上面	上幅 (m) 0.4 ~ 0.5	形状・特徴	出土 遺物	遺物重量	時期 不明
位置 (グリッド) Ⅲ D2f	写真図版 75	全長 (m) 2.8	深さ (m) 0.05	直線状 N-15°-E		掲載	備考・重複 4号土塁に切られる

第7表 柱穴状土坑一覧表

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
1	欠番					
2	VII D1g	35	35	45	80.90	
3	VII D10g	33	32	49	80.87	SB10
4	VII D10g	35	30	33	81.06	
5	VII D10g	38	33	74	80.63	SB10
6	欠番					
7	VII D1g	29	23	34	80.97	
8	VII D10g	22	20	51	80.87	
9	VII D10g	46	39	60	80.77	
10	VII D10f	36	32	54	80.81	SB10
11	VII D10f	27	23	56	80.82	
12	VII D1f	40	34	52	80.69	
13	VII D10f	70	40	37	80.97	114と重複
14	VII D10f	40	36	49	80.82	SB10
15	VII D10f	37	34	46	80.88	
16	VII D10f	46	43	57	80.81	SB10
17	VII D10f	30	24	28	81.05	
18	VII D10f	55	51	65	80.69	SB10
19	VII D 10e	37	31	36	80.94	SB10
20	VII D 10e	35	24	48	81.31	
21	VII D 10e	53	47	63	80.67	SB10
22	VII D 10e	36	31	41	81.00	
23	VII D10e	32	26	16	81.19	
24	VII D10e	31	30	35	80.99	
25	VII D10e	52	41	67	80.64	SB10
26	VII D 10e	49	48	60	80.79	SB10
27	VII D 10e	107	37	73	80.79	28・29と重複
28	VII D 10e	107	42	73	80.79	27・29と重複
29	VII D 10e	107	32	60	80.95	27・28と重複
30	VII D 10e	54	44	62	80.85	SB10
31	VII D9e	57	52	71	80.80	
32	VII D10d	49	39	58	80.91	SB10
33	VII D10d	56	36	57	80.89	
34	VII D10d	48	43	76	80.73	SB10
35	VII D10d	50	48	76	80.70	SB10
36	VII D10d	30	30	65	80.88	SB10
37	VII D10c	39	35	56	80.94	SB10
38	VII D9c	43	43	69	80.87	SB10
39	VII D9d	38	35	29	81.14	SB10
40	VII D9e	56	50	1.07	80.53	SB10
41	VII D9f	70	45	1.88	80.93	SB11
42	VII D9f	70	43	1.77	81.01	SB11
43	VII D9f	52	42	33	81.26	
44	VII D9f	48	42	53	81.03	SB10
45	VII D9g	41	35	33	81.18	SB10
46	VII D9h	45	35	57	81.00	
47	VII D9h	33	29	5	81.49	
48	VII D8h	31	25	44	81.09	
49	VII D8g	33	29	85	80.85	
50	VII D8g	33	28	25	81.34	SB11
51	VII D1h	34	30	47	80.88	
52	VII D8h	28	26	4	81.49	
53	VII D8h	28	26	36	81.14	
54	VII D8g	40	36	27	81.28	SB11
55	VII D8g	33	31	23	81.31	
56	VII D8g	34	32	52	81.05	SB11
57	VII D8g	27	25	35	81.25	
58	VII D8h	31	26	53	81.05	
59	VII D7g	29	29	41	81.18	SB12
60	VII D7g	29	26	23	81.34	
61	VII D8g	27	24	23	81.39	
62	VII D7g	29	27	58	81.05	SB12
63	VII D8g	52	49	1.01	80.57	SB11
64	VII D8f	39	37	44	81.16	SB10
65	VII D8f	56	48	88	80.77	SB11
66	VII D8f	48	36	66	80.97	SB11
67	VII D7f	39	37	61	81.00	SB12
68	VII D7f	32	29	61	81.00	SB12
69	VII D8f	33	31	70	80.84	SB11
70	VII D7i	31	29	41	81.16	
71	VII D8d	49	45	67	80.92	SB10
72	VII D9d	42	37	98	80.60	SB11
73	VII D8d	43	36	74	80.83	SB10
74	VII D8d	40	39	60	80.96	SB11
75	VII D8d	25	24	71	80.85	
76	VII D8c	40	38	57	81.03	SB10
77	VII D8d	51	44	72	80.83	SB11
78	VII D7h	23	20	47	81.15	
79	VII D9c	36	30	54	81.01	SB10
80	VII D9g	61	46	54	81.05	
81	IX D1d	34	32	95	80.35	SB05
82	IX D1d	40	40	44	80.88	SB05
83	IX D1e	51	44	41	80.88	SB05
84	IX D1e	39	34	51	80.80	SB05
85	IX D1f	47	36	42	80.88	SB05
86	IX D1d	42	39	86	80.41	SB05
87	IX D1d	40	36	26	81.01	SB05
88	IX D1e	43	39	44	80.83	SB05
89	IX D1e	37	35	31	80.94	SB05
90	IX D1e	42	41	46	80.78	
91	VII D8e	44	34	63	80.77	SB11
92	VII D8e	71	60	80	80.75	SB11
93	VII C9g	44	36	40	81.28	
94	VII C7j	28	28	63	81.02	
95	VII D8d	33	32	46	80.99	SB11
96	IX D7b	30	28	41	79.69	
97	IX D7a	33	26	89	79.38	SB03
98	IX D7a	33	28	59	79.65	SB03
99	IX C7j	41	37	89	79.41	SB03
100	IX C7j	32	28	78	79.50	SB03
101	IX C8j	28	26	39	79.55	SB03
102	IX D7a	28	28	47	79.48	SB03
103	IX D7a	35	32	56	79.34	SB03
104	VII D8e	45	40	52	80.95	SB10
105	VII D10f	55	41	60	80.74	SB10
106	VII D9f	43	41	69	80.66	SB11
107	VII D10e	42	34	43	81.01	SB10
108	VII D10e	50	38	53	80.91	SB10
109	VII D10d	35	33	63	80.85	SB10
110	VII D10c	37	34	63	80.88	SB10
111	VII D10c	39	35	75	80.75	SB10
112	欠番					
113	VII D8e	41	39	53	81.01	SB10
114	VII D10f	70	35	46	80.87	13と重複
115	IX D1b	33	32	54	80.83	
116	VII D9d	37	36	64	80.61	SB06
117	VII D9d	30	28	58	80.60	SB06
118	VII D9e	52	41	68	81.52	SB06
119	VII D9f	31	31	65	80.54	SB06
120	VII D10d	36	30	53	80.64	SB06
121	VII D10d	38	33	72	80.51	SB06
122	VII D10e	38	36	76	80.51	SB06
123	VII D10f	29	26	74	80.42	SB06
124	VII D9d	60	33	31	80.91	
125	VII D10d	33	30	37	80.87	
126	VII D10e	40	32	30	80.95	
127	欠番					
128	VII D8d	34	31	46	80.97	SB11
129	VII D8e	76	68	45	80.98	SB11
130	VII D9e	46	46	82	80.77	SB11
131	VII D9e	61	42	61	80.82	SB10
132	VII D8e	36	32	39	81.04	SB11
133	VII D9f	40	34	72	80.86	
134	VII D8f	57	53	96	80.60	SB11
135	VII D8g	29	24	22	81.35	
136	VII D9g	26	23	49	81.07	SB11
137	VII D9g	32	31	39	81.18	SB10
138	VII D9g	25	23	33	81.19	
139	VIII C6j	33	32	43	81.31	SB07
140	VIII D6a	36	32	48	81.41	SB07
141	VIII D6a	31	29	1	80.95	
142	VIII D6a	27	21	24	81.06	
143	VIII C7j	43	35	31	80.98	SB07
144	VIII D6a	48	40	79	81.12	SB07
145	VIII C7j	32	31	63	80.75	SB07
146	VIII D8b	50	32	49	80.72	
147	VIII D6a	31	30	29	81.53	
148	VIII D9c	27	26	23	81.00	
149	VIII D9c	29	24	29	80.94	
150	VIII D10c	38	37	21	81.05	
151	IX C1c	30	29	28	81.03	
152	IX D1b	36	32	36	81.04	
153	IX D1c	45	35	36	80.97	
154	VIII D9a	30	29	43	80.91	

4 出土遺物

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
155	IX D1b	30	28	63	80.69	
156	欠番					
157	VII D9f	47	40	77	80.82	SB11
158	VII D9e	37	33	1.08	80.47	
159	VII D9e	46	36	1.04	80.50	SB11
160	VII D9g	26	26	28	81.25	SB11
161	VII D9g	56	47	57	80.99	
162	VII D9e	40	37	61	80.88	
163	VII C10j	31	28	52	80.80	
164	VIII D10a	42	29	53	80.87	
165	VIII D10a	34	33	56	80.77	
166	VIII D9a	24	21	35	80.98	
167	VII C10j	32	21	45	80.77	
168	VII C10j	30	30	55	80.84	
169	IX D1b	45	31	57	80.79	
170	IX D1f	39	36	75	80.47	
171	IX D1b	37	33	35	81.01	
172	IX C1i	29	29	65	80.80	
173	VII C10j	36	30	67	80.71	
174	IX C4h	62	56	83	80.64	門跡
175	IX C5h	61	46	80	80.61	門跡
176	VII C10j	34	32	40	80.92	
177	VII D7c	36	34	69	80.51	
178	IX D3a	38	31	27	81.16	
179	IX D3c	44	38	34	81.10	
180	VIII C9j	28	25	20	81.14	
181	VII C10j	36	30	19	81.15	
182	IX D4b	40	37	80	80.60	
183	IX C2i	35	32	58	80.82	
184	IX D1f	35	33	40	80.86	
185	IX C5h	45	36	47	80.93	
186	IX C5h	31	23	43	80.94	
187	IX D1a	34	27	28	81.14	
188	IX C3i	22	21	31	81.13	
189	IX D1f	53	43	45	80.63	SD06
190	IX D2e	45	31	31	80.98	
191	IX D1c	24	24	53	80.82	SB05
192	IX D2d	25	24	27	81.07	
193	VIII D9d	24	20	37	80.85	SB06
194	IX D1c	26	24	51	80.79	SB05
195	IX D3c	39	36	52	80.92	
196	IX D3d	29	25	28	80.60	
197	IX D2a	38	34	54	80.84	
198	IX D3a	35	34	66	80.73	SB04
199	IX D3b	26	23	41	80.93	SB04
200	IX D2a	20	17	27	81.08	
201	IX D4a	38	36	80	80.62	
202	VIII D10a	32	31	62	80.77	
203	IX D1a	35	28	67	80.74	
204	IX C3j	52	43	51	80.89	
205	IX D1f	30	28	57	80.70	
206	VII D7a	43	34	46	80.85	
207	IX C2j	31	24	53	80.80	
208	IX D1g	31	30	38	80.80	SD06
209	VII D10a	30	30	26	81.10	
210	VII D10d	38	24	2.32	80.14	SB06
211	VII D10d	38	24	2.26	80.18	210と重複
212	IX D4c	50	40	30	81.11	
213	IX C4j	32	28	67	80.71	
214	IX C3j	34	31	88	80.55	
215	IX D4a	32	32	73	80.69	
216	IX D7d	34	34	53	79.26	
217	IX D8d	31	29	36	79.25	SB02
218	IX D8d	42	37	30	79.35	
219	IX D7d	28	23	56	79.40	
220	IX D3a	43	34	54	80.95	
221	IX D2a	46	42	59	80.78	SB04
222	IX D2a	40	34	66	80.70	SB04
223	IX D1b	43	39	82	80.56	
224	IX D2b	27	26	49	80.88	
225	IX C2i	38	31	51	80.95	
226	IX C3i	49	48	30	81.18	
227	IX D3a	32	28	30	81.09	
228	IX C2j	28	26	57	80.74	SB04
229	IX D1a	38	32	50	80.90	
230	欠番					
231	欠番					
232	IX D2b	40	35	59	80.77	SB04
233	IX D1c	51	37	31	81.12	

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
234	IX C2j	32	30	69	80.74	SB04
235	IX D1b	28	27	34	81.06	
236	IX D3b	28	28	45	80.95	
237	IX C3j	53	48	61	80.91	
238	IX C3j	27	23	57	80.80	SB04
239	IX D8d	38	36	36	79.10	SB02
240	IX D8d	30	23	37	78.96	SB02
241	IX D8d	37	36	58	78.96	
242	IX D2b	28	25	37	81.00	
243	IX D9d	39	24	56	78.75	SB01
244	IX D8d	28	25	30	78.95	SB02
245	IX D6d	33	25	54	79.59	
246	IX D9d	36	35	64	78.62	SB01
247	IX D9d	37	32	62	78.60	SB01
248	欠番					
249	欠番					
250	欠番					
251	IX D10d	35	33	47	78.47	SB01
252	IX D9d	62	55	79	78.35	SB01
253	IX D4b	25	22	23	81.19	
254	IX D2c	34	30	38	80.98	
255	IX D3a	35	33	85	80.53	
256	IX C2j	35	32	36	81.02	
257	IX C3i	37	27	25	81.17	
258	欠番					
259	欠番					
260	IX D3a	37	32	35	81.07	
261	IX D3a	30	29	33	81.11	
262	IX D3a	29	24	37	81.07	
263	欠番					
264	IX C8i	41	39	38	79.71	
265	IX D3a	40	34	69	80.75	SB04
266	IX D2d	31	30	44	80.91	
267	欠番					
268	IX D9d	31	27	56	78.61	SB01
269	IX D7e	48	41	39	79.01	
270	IX D8d	30	27	48	78.84	
271	IX D9d	47	40	44	78.82	
272	IX D7d	33	28	38	79.35	
273	IX D10d	50	48	48	78.41	SB01
274	IX D10d	31	28	48	78.31	SB01
275	IX D2a	29	23	38	81.01	
276	IX D8b	25	23	47	79.11	
277	IX D10d	37	36	40	78.39	SB01
278	IX D10d	41	35	76	78.10	SB01
279	IX D10f	37	31	57	78.72	SB01
280	IX D9e	33	29	49	78.47	SB01
281	IX D9e	39	31	54	78.39	SB01
282	IX D9f	43	40	62	78.26	SB01
283	IX D9f	36	37	87	78.08	SB01
284	IX D8i	36	34	54	79.37	
285	欠番					
286	IX E7a	32	28	33	79.06	
287	IX D9f	47	30	55	78.16	
288	IX D8f	31	30	38	78.85	
289	IX D8h	28	25	24	79.39	
290	IX D10f	28	27	36	78.45	SB01
291	IX D4e	26	26	55	80.73	
292	欠番					
293	欠番					
294	欠番					
295	IX E6a	39	34	不明	不明	
296	IX D9i	18	15	29	78.60	SX06
297	IX D9i	35	28	36	78.60	SX06
298	IX D10i	29	26	46	78.39	SX06
299	VII D7i	37	37	25	80.84	
300	VII D8i	36	34	57	80.40	
301	VII D7h	49	44	25	80.81	
302	VII D8i	36	31	29	80.76	
303	IX D9F	39	32	25	78.19	SB01
304	VII D7h	31	30	30	80.80	
305	VII D6h	28	26	25	81.09	
306	VII D6h	28	26	33	80.90	
307	VII D7h	24	24	45	80.63	
308	IX D9F	33	34	32	78.63	SB01
309	IX D10F	39	35	27	78.36	SB01
310	IX D10F	44	33	24	78.52	SB01
311	IX D10F	37	31	43	78.27	SB01
312	IX D10E	37	35	57	78.25	SB01

IV 検出された遺構と遺物

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
313	IX D10E	42	36	56	77.73	SB01
314	VII D6g	27	26	39	80.75	
315	IX D10E	32	30	37	78.38	SB01
316	VII D7f	29	28	65	80.48	
317	VII D7f	26	22	36	80.82	
318	VII D6f	36	33	58	80.58	
319	VII D7f	34	31	49	80.65	
320	VII D6f	36	33	43	80.75	
321	VII D7f	31	30	36	81.82	SD13
322	VII D6f	30	25	49	81.16	
323	VII D5g	34	33	41	80.83	
324	VII D5g	33	30	1.51	79.70	
325	VII D5g	50	41	35	80.84	
326	VII D6e	32	31	34	80.83	
327	VII D6e	30	24	50	80.70	
328	IX D3j	25	24	33	80.81	
329	IX D3j	31	29	28	80.94	
330	IX D4i	27	24	49	80.80	
331	IX D4j	22	21	46	80.76	
332	IX E5a	36	24	40	80.84	
333	IX E6a	49	42	68	80.47	
334	IX E6a	33	32	61	80.48	
335	IX E5a	41	40	55	80.69	
336	IX E5a	40	31	64	80.57	
337	IX D5j	31	31	21	81.06	
338	IX D5j	37	36	38	80.90	
339	IX D5j	34	25	46	80.87	
340	IX D5i	33	28	81	80.43	
341	IX D3j	26	23	40	80.74	
342	IX E3a	38	34	70	80.36	
343	IX E3a	32	26	37	80.51	
344	IX E5a	47	46	53	80.55	
345	IX E4a	33	31	34	80.73	
346	IX D5j	34	31	40	80.81	
347	IX E5a	31	30	41	80.75	
348	IX E4a	44	41	1.03	80.15	
349	IX D4j	34	29	40	80.86	
350	IX E6a	33	28	39	80.76	
351	IX E6a	29	25	51	80.69	
352	IX E5a	24	24	52	80.70	
353	IX E6a	44	36	79	80.53	
354	IX E5a	29	27	30	80.88	
355	IX E5a	32	29	55	80.63	
356	欠番					
357	IX D5j	45	44	62	80.65	
358	IX E5a	27	23	30	80.95	
359	IX E5a	36	32	31	80.96	
360	IX E5a	24	24	34	81.01	
361	IX D5j	37	33	31	80.97	
362	IX D5j	40	34	56	80.68	
363	IX D5j	24	22	47	80.77	
364	IX D5j	43	43	80	80.48	
365	IX D5j	22	18	12	81.12	
366	IX D5j	46	39	50	80.77	
367	IX D5j	50	33	61	80.67	
368	IX D5j	41	34	50	80.84	
369	IX D5j	33	22	36	80.87	
370	IX D5j	35	29	24	81.01	
371	IX D5j	39	38	28	81.06	
372	IX D5j	42	38	44	80.79	
373	IX D5i	33	29	26	81.01	
374	IX D5i	24	21	52	80.79	
375	VII D6d	32	28	41	80.79	
376	VII D6e	32	29	55	80.70	
377	VII C6h	26	23	28	81.16	
378	VII C5h	34	28	29	81.15	
379	IX E6a	28	25	47	80.71	
380	IX D6j	24	23	55	81.17	
381	IX D10E	40	30	41	78.28	SB01
382	IX D8E	24	21	17	78.91	SB02
383	IX D7d	45	44	84	79.81	
384	VII C10i	25	24	45	81.06	
385	IX C1i	27	24	51	80.89	
386	IX C1h	28	23	24	81.16	
387	VII C6j	29	24	50	82.23	SB07
388	VII C7j	30	21	24	82.48	
389	VII C7h	36	28	1.08	82.50	
390	VII C6h	34	27	28	81.19	
391	VII C7i	40	33	65	82.08	SB07

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
392	IX C1h	25	23	29	81.14	
393	VII C7g	30	29	24	81.25	
394	欠番					
395	VII D9i	40	39	24	80.71	
396	VII D9i	38	36	42	80.56	
397	VII D8j	38	29	22	80.56	
398	VII D9j	39	37	46	80.22	
399	VII D9h	33	30	30	80.78	
400	IX E3a	44	37	61	80.28	
401	IX E2a	29	21	50	80.47	
402	IX E3a	38	34	57	80.48	
403	IX D3j	38	28	29	80.77	
404	IX D3j	28	24	56	80.50	
405	IX D2j	45	44	68	80.42	SB09
406	IX D3j	36	33	39	80.71	
407	IX D3j	37	31	26	80.88	
408	IX D3i	31	28	30	80.88	
409	IX D2j	43	31	55	80.59	SB09
410	IX D2j	36	33	32	80.81	SB09
411	VII D8j	29	25	61	80.23	
412	VII D9j	37	28	49	80.35	
413	VII D6a	27	20	23	81.11	
414	IX D2j	48	40	48	80.58	
415	IX E2a	35	31	66	80.40	
416	IX E2a	39	29	30	80.51	SB08
417	IX E2a	41	30	49	80.42	SB08
418	IX E2a	36	35	51	80.51	SB08
419	IX D2j	27	29	44	80.65	SB08
420	IX D2i	44	36	52	80.62	SB08
421	IX D2i	45	32	68	80.53	SB08
422	IX D1i	56	55	52	80.62	SB08
423	IX D1i	57	47	90	80.23	SB08
424	IX D2j	56	48	86	80.23	SB08
425	IX D2j	42	36	59	80.47	SB08
426	IX D2j	54	54	61	80.43	SB08
427	IX E2a	42	39	57	80.41	SB08
428	IX E2a	45	38	83	80.21	SB08
429	IX E2a	54	50	37	80.40	SB08
430	IX E1a	30	22	46	80.23	SB08
431	IX E1a	30	28	29	80.57	SB09
432	IX D1i	31	28	59	80.33	SB09
433	IX D1j	29	25	46	80.62	SB09
434	IX D1i	42	40	30	80.81	SB09
435	IX D1i	33	29	56	80.54	SB09
436	VII D10i	32	28	61	80.41	SB09
437	IX D1j	41	40	57	80.33	
438	IX E1a	46	42	46	80.34	SB08
439	VII E10a	37	35	26	80.49	SB08
440	VII D10j	42	36	34	80.56	SB08
441	VII D10i	41	40	40	80.58	SB08
442	IX D3j	45	42	69	80.38	
443	IX E2a	32	29	31	80.53	
444	IX E2a	54	46	50	80.37	
445	IX E1a	30	25	34	80.35	SB09
446	IX E1a	31	30	53	80.30	SB09
447	IX D1j	32	27	63	80.37	SB09
448	IX D1j	39	34	66	80.36	SB09
449	IX D1j	31	27	73	80.27	
450	IX D1i	31	27	43	80.66	SB09
451	VII C5j	52	31	37	81.04	
452	IX D5i	25	20	41	80.92	
453	IX D5i	25	25	26	80.96	
454	IX D4h	39	36	73	80.58	
455	IX D5i	25	20	17	81.01	
456	IX D6i	73	48	24	80.86	
457	IX D2j	39	29	29	80.81	
458	VII D10i	55	46	82	80.32	SB08
459	VII D10i	45	35	41	80.61	SB08
460	IX D3g	42	32	42	80.75	
461	IX D3h	64	38	28	81.01	
462	IX D4i	27	27	34	80.96	
463	IX D4i	28	24	29	81.03	
464	IX D4i	26	23	27	81.00	
465	IX D3j	26	26	44	80.66	
466	VII C5h	29	25	20	81.26	
467	VII C5j	35	30	24	81.16	
468	VII C6i	42	37	21	81.20	
469	VII D6e	24	22	26	80.97	
470	VII C5g	36	32	1.01	80.41	

4 出土遺物

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
471	VII D6d	32	26	37	80.81	
472	VII D5g	28	25	57	80.64	
473	IX D6j	33	27	41	80.76	
474	IX D6j	50	40	57	80.68	
475	IX D6j	65	46	37	80.92	
476	IX D6j	44	37	49	80.70	
477	IX E6a	26	21	25	80.91	
478	欠番					
479	IX E5j	42	30	46	80.85	
480	IX E6a	31	30	48	80.62	
481	IX D2i	35	33	76	80.44	SB09
482	IX D2i	39	38	74	80.49	SB09
483	VIII C9i	40	31	67	80.78	
484	VIII C9i	30	28	22	81.24	
485	VIII C9h	37	35	66	80.83	
486	VIII C8h	31	22	21	81.19	
487	IX E3a	21	19	34	80.79	
488	IX E3a	20	19	33	80.52	SB09
489	IX D3i	30	22	45	80.76	
490	X D1a	75	53	23	78.70	門跡
491	X D1a	97	55	56	78.41	門跡
492	VIII C8i	38	31	58	80.81	
493	VIII C8i	37	30	29	81.04	
494	欠番					
495	欠番					
496	IX D1i	33	31	50	80.59	SB09
497	IX D2j	44	35	66	80.47	
498	IX D1i	27	22	30	80.70	SB09
499	VII D10j	57	53	23	80.82	SB08
500	VII D10j	25	24	44	80.44	SB08
501	IX E3a	45	32	17	80.71	
502	IX E2a	30	29	25	80.68	
503	IX D2j	42	37	41	80.59	
504	欠番					
505	VII D9e	52	42	73	80.65	SB11
506	VII D10e	46	43	74	80.61	SB10
507	VII D10d	49	31	71	80.80	510と重複
508	VII D10e	38	35	40	81.01	
509	VII D10f	36	31	45	80.87	
510	VII D10d	47	33	85	80.67	507と重複
511	VII D9f	49	36	46	80.85	SB11
512	VII D10f	27	23	51	80.83	
513	VII D10g	37	31	51	80.81	SB10
514	VII D10g	28	25	37	80.93	
515	VII D10g	29	27	54	80.77	
516	VII D9d	61	41	82	80.81	SB10
517	VII D9d	52	37	76	80.84	
518	VII D9g	28	26	56	81.03	
519	VII D10g	29	23	34	80.97	SB10
520	VII D10g	36	33	25	81.13	SB10
521	VII D9e	44	43	55	80.97	SB10
522	VII D9e	41	34	43	80.95	SB10
523	VII D9g	25	23	44	81.02	SB10
524	欠番					
525	VII D10g	39	35	54	80.75	
526	VII D8g	25	25	55	80.96	
527	VII D8g	25	22	36	81.17	
528	VII D8g	25	25	24	81.28	
529	VII D9e	31	29	30	81.22	
530	VII D8f	38	30	83	80.77	SB10
531	VII D8g	20	20	35	81.21	
532	VII D8e	39	35	49	81.09	SB10
533	VII D8e	29	22	65	80.89	
534	VII D8g	42	24	21	81.39	SB11
535	VII D7h	48	42	4	81.25	
536	VII D9f	41	33	35	81.23	SB11
537	VII D10g	30	27	20	81.11	
538	VII D7g	27	26	20	81.43	SB12
539	VII D10f	46	40	36	80.95	SB10
540	VII D7f	40	39	34	81.28	SB12
541	VII D7f	42	35	30	81.34	SB12
542	VII D7g	30	26	45	81.14	SB12
543	VII D9d	50	35	不明	81.01	
544	II D1f	31	28	61	82.81	SD22
545	II D1f	33	32	47	82.37	
546	II D1g	32	29	26	82.59	SD22
547	II D1g	33	30	39	82.41	SD22
548	II D1f	36	31	46	82.31	SD22
549	II D1g	38	34	55	82.19	SD22

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
550	II D1g	31	28	54	82.18	SD22
551	II D2j	43	30	30	82.42	
552	II D2j	30	26	38	82.28	
553	I D10i	29	19	40	82.76	
554	I D10i	27	23	37	82.60	
555	I D10j	31	28	58	82.35	SB21
556	I D10j	29	26	23	82.65	
557	I D10j	30	29	54	82.31	
558	I D10j	32	31	48	82.32	SB21
559	I D10j	27	25	47	82.32	SB21
560	I D10j	28	27	58	82.32	
561	I D10j	31	30	39	82.42	SB21
562	I E10a	35	35	54	82.27	SB21
563	II D1j	36	31	42	82.35	
564	II D2j	32	30	26	82.41	
565	II D2j	39	39	80	81.87	
566	II D1g	27	26	17	82.62	
567	II D1g	30	27	25	82.57	
568	I D10g	28	23	21	82.66	
569	II E2a	35	32	45	82.16	
570	I E9j	32	27	37	82.58	
571	I E9j	19	15	42	82.48	
572	I D10j	34	25	62	82.20	
573	I D10j	32	32	62	82.24	
574	I D10j	32	26	25	82.56	
575	II E1a	36	30	31	82.36	
576	II E1a	32	28	31	82.34	
577	II E1a	25	25	9	82.32	
578	I E9j	27	23	42	82.47	
579	II E1a	31	26	30	82.38	
580	I E9j	32	27	26	82.67	
581	I E9j	49	39	50	82.44	
582	I E10a	34	24	38	82.49	SB21
583	I E10a	48	39	52	82.25	SB20
584	I E9a	32	30	37	82.49	
585	I E9a	43	34	53	82.38	
586	I E9a	34	30	83	82.06	
587	I E9a	30	31	16	82.73	
588	I E9a	46	42	45	82.46	SB20
589	I E10a	34	29	47	82.32	SB20
590	II E1a	34	27	33	82.43	SB20
591	II E1a	28	24	24	82.53	SB20
592	II E1a	42	34	41	82.33	SB20
593	I E10a	31	29	34	82.37	
594	I E10a	28	26	25	82.49	
595	I E9a	30	29	61	82.25	SB21
596	I E9a	29	25	48	82.39	SB20
597	I E9a	39	29	33	82.54	
598	I E9a	27	26	62	82.26	
599	I E9a	27	23	17	82.77	
600	I E9a	24	23	41	82.49	
601	I E9a	26	25	49	82.87	
602	I E9a	33	23	51	82.35	
603	I E9a	39	26	32	82.52	
604	I E9a	32	30	51	82.37	
605	I E9a	25	16	39	82.47	
606	I E9b	33	27	55	82.28	
607	I E9b	25	24	47	82.35	
608	I E9b	41	37	60	82.68	
609	I E9b	29	22	23	82.57	
610	I E9b	33	26	49	82.27	
611	I E9b	35	26	63	82.07	
612	I E9b	35	28	37	82.38	
613	I E9b	37	30	43	82.39	
614	I E9b	32	31	39	82.40	SD20
615	I E10b	27	23	39	82.39	
616	I E10b	27	25	46	82.30	
617	I E10b	28	27	39	82.37	
618	I E10b	44	42	54	82.27	
619	I E10b	46	44	56	82.21	SB20
620	I E10c	26	22	24	82.50	
621	II E1a	42	26	26	82.44	
622	I E10a	40	37	49	82.27	SB20
623	I E9c	34	30	27	82.29	
624	I E9c	34	30	36	82.30	
625	I E10c	29	26	36	82.32	
626	I E10c	40	28	77	81.97	
627	I E10c	34	26	59	82.14	
628	I E10c	31	24	52	82.17	

IV 検出された遺構と遺物

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
629	II E1c	33	28	57	82.12	
630	II E1b	36	23	31	82.66	SB20
631	II E1b	29	25	45	82.35	SB20
632	II E1b	26	25	26	82.49	
633	II E1b	42	33	56	82.23	
634	II E1b	29	23	19	82.50	
635	II E1b	36	35	15	82.51	
636	II E1b	43	40	45	82.30	
637	II E1b	30	26	81	81.86	
638	II E1a	32	30	80	81.88	
639	II D2j	36	34	31	82.34	SB19
640	II D2j	25	20	41	82.17	
641	II D3j	12	10	34	82.21	
642	II D3j	37	37	68	81.91	
643	II D3j	26	20	22	82.30	
644	II E2a	25	21	28	82.22	
645	II E2a	40	36	32	82.38	SB19
646	II E2a	32	31	68	81.89	
647	II E2a	32	31	53	82.01	SB19
648	II E3a	26	23	51	82.06	
649	II E3b	29	25	40	82.13	
650	II E3b	30	29	25	82.28	
651	II E3b	29	28	19	82.33	
652	II E2b	31	29	55	82.01	
653	II E2b	47	36	58	82.00	SB19
654	II E2b	36	35	65	81.99	
655	II E2b	52	36	53	82.02	SB19
656	II E3b	36	35	19	82.32	
657	II E1a	32	24	37	82.45	SB20
658	I E10b	39	32	30	82.54	SB20
659	II E1c	60	35	34	82.31	660と重複
660	II E1c	60	34	30	82.38	659と重複
661	II E2c	44	41	60	81.98	
662	II E2c	40	32	79	81.85	
663	II E2c	33	27	29	82.29	
664	II E3d	57	57	40	82.14	
665	I E9j	28	25	36	82.51	
666	II E3b	37	36	62	81.89	
667	II E3b	24	24	21	82.10	
668	II E3b	32	28	36	82.06	
669	欠番					
670	II E2c	36	28	30	82.29	
671	II E3b	48	37	64	81.89	
672	II E3c	38	34	26	82.09	SB18
673	II E3d	37	36	38	81.93	
674	II E3c	43	36	29	82.20	
675	II E4c	28	22	26	81.99	SB18
676	II E4c	32	32	41	81.84	SB18
677	II E4c	32	32	36	81.95	SB18
678	II E3c	35	34	42	81.95	SB18
679	II D2j	26	22	17	82.43	
680	II E5c	49	45	46	81.83	SB18
681	II E4b	33	32	72	81.72	SB18
682	II E4b	32	29	27	82.10	SB18
683	II E4b	32	30	46	81.90	SB18
684	II E4b	28	20	20	82.13	SB18
685	II E3b	29	27	19	82.11	SB19
686	II E3b	37	33	48	81.97	
687	II E3b	29	28	35	81.99	
688	II E3a	26	23	40	82.13	
689	II E3a	26	24	30	82.38	SB19
690	II E3a	31	28	49	82.09	
691	II E3a	27	27	20	82.34	
692	II E4c	31	29	28	82.01	SB18
693	II E5c	17	16	17	82.10	SB18
694	II E5b	45	41	38	81.98	SB18
695	II E5c	39	35	49	82.07	SB18
696	II E5b	40	30	79	81.55	
697	II E5b	25	24	22	82.09	SB18
698	II E5b	21	19	27	82.05	SB18
699	II E5b	39	37	47	81.87	SB18
700	II E5b	21	20	15	82.24	
701	II E4b	28	25	49	81.92	
702	II E4a	21	19	18	82.22	
703	II E3b	46	39	38	81.94	SB18
704	II E3b	49	43	34	82.01	SB18
705	II E3a	39	29	35	82.06	
706	II D5j	43	41	40	81.98	SB17
707	II E4a	25	21	28	82.12	

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
708	II E3a	28	26	28	82.16	
709	II E3a	30	25	30	82.33	
710	II E4a	41	32	55	81.82	
711	II D3j	29	27	39	82.14	
712	II D5j	14	12	12	82.25	SB17
713	II D5j	38	30	40	82.00	SB17
714	II D5j	42	41	38	81.95	SB17
715	II D4j	27	27	45	81.93	SB17
716	II D4j	24	21	42	82.06	SB17
717	II D5j	35	27	32	82.09	SB17
718	II D5i	27	23	27	82.12	SB17
719	II D5i	28	26	47	81.96	999と同一
720	II D5i	39	36	29	82.17	SB17
721	II D4i	18	17	17	82.28	
722	II D4i	28	25	30	82.12	
723	II D4i	43	29	37	82.06	SB17
724	II D4i	43	35	32	82.11	SB17
725	II D4i	29	27	26	82.18	
726	II D4j	26	25	41	82.28	
727	II E5c	27	26	24	82.07	SB18
728	II D4i	32	29	36	82.14	SB17
729	II D5i	26	25	38	82.05	
730	II D5h	33	20	32	82.11	
731	II D5h	19	14	39	82.06	
732	II D5f	27	19	30	82.08	SB16
733	II D5f	38	30	71	81.66	SB16
734	II D5f	24	20	20	82.18	
735	II D3j	27	26	36	82.12	
736	II D6f	27	22	17	82.08	
737	II D6h	23	20	36	81.95	
738	II D6h	21	18	30	81.96	
739	II D4e	26	21	20	82.10	
740	II D4e	31	30	51	81.79	SB16
741	II D3j	49	46	5	81.92	
742	II D3j	41	29	31	82.11	
743	II D6f	33	26	26	82.02	
744	II D4f	52	49	15	82.32	
745	II D4f	26	24	51	81.89	
746	II D5e	40	34	60	81.74	
747	II D5e	28	25	33	81.92	
748	II D5e	33	28	42	81.80	
749	II D5e	40	33	75	81.55	SB16
750	II D5e	40	31	62	81.60	SB16
751	II E2b	25	22	29	82.23	
752	II E2b	34	31	21	82.40	
753	II E2b	32	30	31	82.32	
754	II D3f	25	25	25	81.93	
755	II D6e	51	45	37	81.80	
756	II D3f	56	44	20	81.68	
757	II D5f	30	21	46	81.77	SB16
758	II D4d	59	54	25	82.05	
759	II D5e	26	22	27	82.02	
760	II D5e	35	26	23	82.04	
761	II D5d	58	45	33	81.69	SB16
762	II D6e	22	20	22	81.99	
763	II D6e	32	31	45	81.68	
764	II D6d	36	34	19	81.85	
765	II D6d	24	20	33	81.69	
766	II D5d	100	56	30	81.70	SB16
767	II E9c	28	25	40	81.72	SB14
768	II D8i	32	31	43	81.80	SB15
769	II E8c	39	32	42	81.72	SB14
770	II E8c	38	33	57	81.59	SB14
771	II E8b	26	25	30	81.81	
772	II E9c	30	29	27	81.81	SB14
773	II D8j	50	20	36	81.80	774と重複
774	II D8j	50	28	35	81.77	773と重複
775	II D8j	32	26	35	81.84	
776	II D8j	22	21	25	91.96	
777	II D8j	52	37	79	81.44	779と重複
778	II D8j	45	22	26	81.94	778と重複
779	II D8j	45	22	50	81.74	
780	II D8j	38	30	64	81.62	
781	II D8j	34	32	67	81.53	
782	II D8j	30	25	37	81.86	
783	II E8b	46	43	35	81.84	SB13
784	II E9b	32	29	27	81.81	
785	II D8j	33	30	46	81.83	
786	II D8j	33	27	30	81.93	

4 出土遺物

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
787	II D8j	30	28	30	81.94	
788	II E8b	41	30	57	81.54	SB14
789	II E8b	48	41	30	81.88	SB13
790	II E9b	38	28	48	81.64	
791	II E9b	29	25	51	81.59	SB14
792	II E9c	51	41	40	81.59	
793	II E8a	25	19	25	81.87	
794	II E9a	42	33	36	81.76	SB13
795	II D8j	37	33	61	81.55	
796	II E9a	32	29	44	81.68	
797	II E9b	50	43	51	81.64	SB13
798	II E9b	49	38	38	81.69	SB13
799	II E9a	47	38	43	81.63	SB13
800	II E9a	35	33	43	81.63	
801	II D6e	28	25	17	81.77	SI11
802	II D6e	35	28	16	81.88	SI11
803	II D6e	30	28	27	81.67	SI11
804	II D6e	22	18	10	81.83	SI11
805	II D6e	23	23	20	81.75	SI11
806	II D6e	20	17	14	81.81	SI11
807	II D6e	23	21	16	81.84	SI11
808	II D6e	32	27	26	81.77	SI11
809	II D6f	31	29	22	81.77	SI11
810	II D6e	34	25	24	81.76	SI11
811	II D6e	17	16	17	81.74	SI11
812	II D6e	30	29	80	81.15	SI11
813	II D6e	38	33	75	81.22	SI11
814	II D6e	65	60	25	81.75	SI11
815	II D6e	27	21	25	81.85	SI11
816	II D6e	25	21	13	81.90	SI11
817	II D6e	24	23	11	81.80	SI11
818	II D6e	43	41	87	81.06	SI11
819	II D6e	30	23	23	81.73	SI11
820	II D6e	23	20	72	81.20	SI11
821	II D6e	27	22	18	81.77	SI11
822	II D6f	21	16	69	81.22	SI11
823	II D6f	45	33	79	81.18	SI11
824	II D6e	25	24	24	81.68	SI11
825	II D6e	38	30	69	81.30	SI11
826	II D9j	33	31	69	81.48	
827	II D9j	30	29	59	81.49	
828	II D9j	41	28	40	81.67	
829	II E9a	30	24	45	81.57	
830	II E10a	34	32	24	81.81	
831	II D9j	23	22	37	81.75	
832	II D10j	35	29	48	81.58	
833	II D9i	36	23	42	81.67	
834	II D8i	35	33	31	81.86	
835	II D8h	29	25	20	82.00	
836	II D9i	30	25	37	81.72	
837	II D8i	30	25	28	81.76	SB15
838	II D8i	32	26	39	81.87	
839	II D8h	36	29	33	81.86	
840	II D8i	32	27	61	81.63	SB15
841	II D7h	30	20	33	81.91	
842	II D8h	40	42	45	81.62	SB15
843	II D9i	27	25	49	81.60	
844	II D9i	29	29	64	81.47	
845	II D9i	54	39	81	81.46	
846	II D7g	27	24	27	81.88	
847	II D8h	24	17	24	81.86	SB15
848	II D7h	30	21	25	81.93	SB15
849	II D5f	35	31	62	81.68	SB16
850	II D9i	25	22	29	81.77	
851	II D8h	32	27	66	81.44	SB15
852	II E9b	32	24	32	81.79	
853	II E9b	26	25	61	81.45	SB14
854	II E9b	40	35	55	81.54	SB13
855	III D4i	45	42	17	81.50	
856	欠番					
857	III E6b	29	26	34	81.40	
858	III E6b	40	31	45	81.25	
859	III E7a	38	34	32	81.51	
860	III E7b	40	35	25	81.51	
861	III E7b	19	18	42	81.33	
862	II D4d	43	39	36	81.89	SB16
863	II D5c	25	19	6	81.96	
864	II D4c	37	30	33	81.80	SB16
865	II D4c	31	26	7	81.93	

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
866	II D4d	28	20	19	81.98	
867	II D4e	25	21	13	82.12	
868	II D4f	19	15	32	81.99	
869	III D7i	25	22	32	81.44	
870	III D4j	35	34	30	81.37	
871	III E4b	35	27	36	81.68	
872	III E6c	89	67	45	81.34	
873	III D8i	40	30	47	81.26	
874	III D8i	53	51	44	81.28	
875	III D8f	51	45	51	81.29	
876	II C6j	98	78	58	79.53	
877	II C6j	32	31	23	79.81	
878	III D7g	41	33	34	81.41	
879	III D7f	28	26	28	81.46	
880	II D6a	86	82	67	79.51	SB23
881	II D6a	28	24	30	79.85	SB23
882	II D6a	89	82	79	53.00	SB23
883	II D6a	63	55	56	79.63	SB23
884	II D6a	35	33	26	79.82	
885	II D6a	56	50	35	79.64	
886	II C6j	62	49	38	79.54	
887	II C7j	33	30	12	79.65	
888	II D7a	60	60	42	79.58	
889	II D7a	29	27	21	79.71	SB23
890	II D7a	67	64	40	79.42	SB23
891	II D7a	51	37	45	79.66	SB23
892	II D7a	89	80	68	79.38	SB23
893	II C7j	76	61	32	79.43	SB23
894	III D7f	39	37	49	81.27	
895	III D6f	48	27	40	81.32	
896	III D4i	20	19	40	81.24	
897	欠番					
898	III D7h	34	32	70	81.07	
899	III D8f	47	44	27	81.47	
900	III D10f	40	38	21	81.52	
901	III D9i	31	27	45	81.32	
902	III D9i	47	28	44	81.34	
903	III D10h	46	33	66	81.18	
904	IV D2f	34	33	34	81.52	
905	IV D2h	27	26	61	81.28	
906	III D5g	30	27	15	81.35	
907	III D5g	32	29	45	81.26	
908	III D5g	37	29	21	81.29	
909	III D5g	30	23	43	81.19	
910	III D7j	34	29	64	81.12	
911	II C7j	41	23	41	79.68	
912	II C7j	69	58	28	79.74	
913	II C7j	86	86	47	79.41	SB23
914	II C7j	30	22	14	79.80	
915	II C7j	22	14	17	79.78	
916	II C7j	40	36	48	79.54	
917	II C7j	30	28	33	79.68	
918	II C6j	26	21	14	79.92	
919	II C6j	40	35	29	79.76	SB23
920	II C6j	41	35	43	79.69	
921	II C6i	41	39	22	79.65	
922	II C7j	44	36	40	79.50	
923	II C7i	27	24	32	79.45	
924	II C7i	43	34	53	79.31	
925	II C7j	24	21	14	79.79	
926	II C7i	30	27	14	79.54	
927	II C7i	38	35	25	79.38	SB23
928	II C7i	32	24	12	79.46	SB23
929	II C6h	15	12	25	79.35	
930	II C7h	34	30	44	79.05	
931	II C7j	82	70	41	79.49	SB23
932	II C8j	42	42	32	79.51	
933	II C8j	55	47	49	79.39	SB23
934	II C8i	45	35	54	79.22	
935	II C8i	38	27	26	79.43	SB23
936	II C8i	42	38	18	79.40	SB23
937	II C8i	38	35	20	79.43	SB23
938	II C7i	49	47	24	79.37	SB23
939	II C6i	75	60	51	79.37	SB23
940	II C7j	44	37	43	79.53	
941	II C8h	40	33	32	79.01	
942	II D8a	31	26	25	79.81	
943	II C9j	38	37	29	79.66	
944	II D7a	30	30	25	79.47	

IV 検出された遺構と遺物

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
945	II D6a	18	11	20	79.89	SB23
946	III D2g	26	23	30	81.66	
947	III D1h	31	27	20	81.68	
948	III D1h	30	22	48	81.34	
949	II D6i	35	25	17	79.54	
950	II C6i	25	20	20	79.59	
951	II C6i	60	60	24	79.52	
952	II C7i	70	51	31	79.44	
953	II C8i	66	53	31	79.47	SB23
954	II C8i	36	27	23	79.26	
955	II C6j	38	37	41	79.98	
956	II C6j	23	22	25	79.80	
957	II D6a	35	31	32	79.86	SB23
958	II D6f	39	31	40	81.47	SI11
959	II D6e	28	27	72	81.20	SI11
960	II C10i	34	32	6	79.53	門跡
961	II C10h	49	39	10	79.41	門跡
962	II C10j	39	31	50	79.88	
963	II C9j	28	27	20	79.48	
964	II C9j	39	25	34	79.42	
965	II C9i	31	25	34	79.35	
966	II C9i	38	32	41	79.27	
967	II C9j	29	28	33	79.50	
968	II C9j	36	31	43	79.47	
969	II C9j	28	26	45	79.43	
970	II D9a	44	37	31	79.97	
971	III C5j	36	28	17	79.81	
972	III C5j	37	29	28	79.68	
973	II D6e	17	16	14	81.77	SI11
974	II D6e	18	16	53	81.86	SI11
975	I D10e	40	49	36	82.52	
976	I E9j	47	32	56	82.31	
977	II E3a	34	28	68	81.88	
978	III E3c	30	22	25	80.73	
979	III E3c	29	25	39	81.22	
980	III E3b	36	26	43	80.77	
981	III D3g	26	24	52	81.40	
982	III D2g	64	57	37	81.30	
983	II D10b	42	41	22	80.38	
984	III D1b	49	49	32	80.41	
985	II D1d	32	26	29	82.18	
986	II D1d	30	25	22	82.33	
987	II D1d	36	23	26	82.24	
988	II D2d	29	29	37	82.09	
989	II D2c	29	26	39	82.07	
990	II D2e	28	25	26	82.28	
991	I D10f	32	22	21	82.64	
992	II D2f	31	25	18	82.54	
993	II E2f	37	30	53	82.17	
994	I E9a	28	27	36	82.50	
995	II E1b	25	24	28	82.46	SB20
996	II E2a	33	26	38	82.28	
997	II E5b	64	54	23	82.06	
998	II E5a	43	29	36	82.00	
999	II D5i	28	26	47	81.96	719 と同一
1000	欠番					
1001	III E4b	30	21	41	81.32	
1002	III E4c	34	31	38	81.37	
1003	III E4c	65	43	21	81.59	
1004	III E4b	25	21	49	81.25	
1005	III E4b	29	29	25	81.48	
1006	III E4b	30	27	32	81.41	
1007	III E5b	40	37	42	81.30	
1008	III E5b	21	19	44	81.25	
1009	III E5b	26	20	64	81.11	
1010	III E6a	32	25	39	81.33	
1011	III E6b	28	26	47	81.20	
1012	III D4j	26	25	36	81.40	
1013	III E7c	39	27	23	81.54	
1014	III E7c	25	25	24	81.50	
1015	III E7c	59	46	40	81.33	
1016	III E8c	34	33	45	81.36	
1017	III E8b	23	23	20	81.52	
1018	III E8b	24	21	21	81.60	
1019	III E8b	28	22	39	81.45	
1020	III E9d	28	27	29	81.49	
1021	III E6c	68	56	36	81.29	
1022	III E9c	61	56	19	81.60	
1023	III E10a	55	50	25	81.59	

No	位置 (グリッド)	規模 (cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
1024	III E10a	44	43	43	81.41	
1025	IV E1a	34	27	33	81.46	
1026	IV D2j	49	37	18	81.74	
1027	IV E2a	34	25	37	81.47	
1028	IV D3j	38	37	20	81.71	
1029	IV E2b	49	42	11	81.82	
1030	IV E3b	41	38	19	81.76	
1031	IV E2d	36	33	15	81.75	
1032	IV E2d	56	44	17	81.76	
1033	IV E2d	38	37	22	81.68	
1034	III E3c	23	23	18	81.57	
1035	III E3b	21	18	27	81.48	
1036	III E4b	16	13	13	81.00	
1037	III E4c	28	23	35	81.41	
1038	III E4c	33	25	22	81.46	
1039	III E4c	29	24	40	81.34	
1040	III E4c	24	17	32	81.43	
1041	III E4b	21	20	25	81.50	
1042	III E5c	35	26	26	81.45	
1043	III E4b	19	18	8	81.66	
1044	III E4b	24	24	23	81.45	
1045	III E4b	25	20	6	81.62	
1046	III E4b	21	19	18	81.53	
1047	III E4b	26	20	11	81.63	
1048	III D4h	27	26	43	81.33	
1049	III D4f	26	20	33	81.24	
1050	III D4e	23	22	33	81.23	
1051	III D5i	19	17	23	81.43	
1052	III D6i	28	17	49	81.21	
1053	III D6j	22	15	30	81.35	
1054	III D6j	26	22	39	81.28	
1055	III E5a	24	19	63	81.10	
1056	III E6b	25	20	49	81.21	
1057	III E6b	31	30	51	81.20	
1058	III E6b	31	20	31	81.41	
1059	III E7c	28	23	42	81.32	
1060	III E7c	37	21	29	81.47	
1061	III E7d	67	58	30	81.39	
1062	III E8c	28	27	28	81.50	
1063	III E10c	29	24	18	81.58	
1064	IV E1c	32	24	35	81.50	
1065	III D10j	25	22	37	81.47	
1066	IV D1j	27	24	43	81.44	
1067	IV D1i	32	26	37	81.50	
1068	IV D1i	33	28	43	81.43	
1069	IV D1h	27	23	27	81.53	
1070	IV D1g	26	25	37	81.43	
1071	III D9i	21	21	24	81.53	
1072	III D7g	26	17	33	81.43	
1073	欠番					
1074	IV D1i	26	19	26	81.57	
1075	IV D1i	22	20	22	81.61	
1076	IV D2h	35	28	16	81.66	
1077	IV D1h	38	24	28	81.55	
1078	IV D1f	22	20	20	81.60	
1079	III D3e	24	22	16	81.12	
1080	III D4e	33	23	23	81.19	
1081	III D4e	39	30	27	81.26	
1082	III D4d	28	27	29	81.10	
1083	欠番					
1084	欠番					
1085	欠番					
1086	III D8c	34	31	42	81.19	
1087	III D9e	33	21	66	81.08	
1088	III D5c	34	32	81	80.09	
1089	欠番					
1090	IV E3a	28	22	49	81.35	
1091	IV E3a	24	21	30	81.48	
1092	IV D3i	25	23	32	81.48	
1093	IV D3i	19	15	33	81.53	
1094	IV D2i	25	21	33	81.52	
1095	IV D2h	24	24	51	81.36	
1096	IV D2f	27	20	29	81.58	
1097	IV D1b	37	29	34	81.44	
1098 ~ 1300	欠番					
1301	III E1b	33	25	28	81.64	
1302	II D4j	23	20	16	82.22	
1303	II D4j	40	39	59	81.89	

第8表 縄文・弥生土器観察表

番号	出土地点	器種	部位	時期	特徴	その他
1	SI05 埋土	深鉢	口～体部	中期中葉	平縁 RL 縦位 補修孔/内面横ナデ	
2	SI07 埋土	深鉢	口縁	後期初頭	波状口縁 縦位沈線(押し引き状) 横位連鎖状隆起線文 ボタン状貼り付け文/内面ナデ	門前式の新段階
3	SI11 埋土	深鉢	口～頸	大木 8a	口: 1 単位の突起(穿孔部) LR 横位→貼り付け隆線→沈線 頸: LR 縦位→沈線/内面ミガキ	内外面ともに剥落あり
4	SI11 埋土	深鉢	口～体	大木 8a	口: LR 縦位→貼り付け隆線→ナデ 体: LR 縦位→多重沈線 →ナデ/内面横ナデ	
5	SI11 埋土	深鉢	口縁部	大木 8a	LR 横位→貼り付け隆線→沈線/内面横ナデ	
6	SI11 埋土	深鉢	口縁部	大木 8a	口端に貼り付け隆線(隆線上に指頭による凹部あり)/内面 ミガキ	
7	SI11 埋土	深鉢	口縁部	大木 8a	無文→横位貼り付け隆線→横ナデ/内面横ナデ	キャリバー形深鉢 No.8 と 同一個体
8	SI11 埋土	深鉢	口縁部	大木 8a	無文→横位貼り付け隆線→横ナデ/内面横ナデ	No.7 と同一個体
9	SK11 埋土	深鉢	口縁 ～体部	後期前半	口: 微波状・折り返し口縁 LR 横位 体: LR 縦位 胎土中 に小礫多量	混和剤として意図的に小礫 を混入していると思われる
10	SK11 埋土	深鉢	口縁 ～体部	大木 1	波状口縁(大) 無文帯 0 段多条 RL 横位による環付き末端 ループ→同原体縦位(※一部重層に施文)/胎土繊維(多量) /内面横ナデ	外面に黒色附着物
11	SK16 埋土	深鉢	体部	前期前葉	LR 横位 胎土に繊維(中量)	
12	SK59 埋土	深鉢	口縁 ～体部	大木 8a	平縁 口: 縦位原体圧痕文 口縁内面に横位隆線 体: LR 縦位→貼り付け隆線→沈線/内面ミガキ	光沢が出るほど内面の調整 はミガキ上げられた硬質な 胎土である。
13	SK59 埋土	深鉢	口縁部	大木 8a	台形状突起(上面観「耳状」) 沈線	
14	SK76 埋土	深鉢	口～頸	大木 8a	貼り付け隆線 全体的に摩滅	
15a	SK104 埋土	深鉢	体部	大木 8a	LR 縦位→クランク状文(沈線)/内面ミガキ	15b と同一個体
15b	SK104 埋土	深鉢	体～底部	大木 8a	体: LR 縦位→渦巻き文(沈線) 底: 平底/内面ミガキ	15a と同一個体
16	SK110 埋土	深鉢	体部	前期前葉	原体不明(ピッチリ縄文か)/胎土に繊維(多量)	
17	SK86 埋土	浅鉢	口縁 ～底部	大木 8a	口: 方形の突起(透かしあり、4 単位?、上面観は「耳状」) 原体押圧文(RL) 体: RL 縦位→貼り付け隆線(渦巻き・蛇 行など)→沈線 底: 平底/内面ミガキ、焼きはじけ多数	
18	P254 埋土	深鉢	体～底	中期中葉		
19	IX C 区 I～III 層	深鉢	口縁部	前期前葉	平縁(平滑) 結束羽状縄文(L・R)で菱形を構成/胎土に 繊維(多量)	
20	IV D 区 I～III 層	深鉢	体部	前期前葉	0 段多条 LR 横位/胎土に繊維多量/内面粗いナデ	
21	IX D 区 I～III 層	深鉢	体部	前期前葉	0 段多条 LR 横位/胎土に繊維多量/内面ナデ	

番号	出土地点	器種	部位	時期	特徴	その他
22	表採	深鉢	口縁部	大木 2b?	結節回転文 (RL を軸繩とし、結節も RL) / 胎土中に繊維混入 / 内面横ナデ	
23	IX C 区 I ~ III 層	深鉢	口~体	前期前葉	平縁、突起 付加条 (RL? +R) S 字状連鎖捺糸文 / 胎土に繊維 (多量)	
24	1号堀 埋土	深鉢	口縁部	大木 2b?	平縁 S 字状連鎖捺糸文 / 胎土に繊維 (中量以上)	
25	1号堀	深鉢	頸部	大木 7a	横位沈線 三角形印刻文	
26	VII D 区 I ~ III 層	深鉢	口~体部	大木 8a	口: 貼り付け隆線による渦巻き文付き波状突起 (上面観「S 字状」) 刺突列 体: LR 縦位→沈線文 / 内面ミガキ、ナデ	No. 28 と同一個体か
27	VII D 区 I ~ III 層	深鉢	口縁部	中期中葉	平縁 肥厚口縁 LR 縦位 / 内面横ナデ	側面観はややキャリパー状
28	遺構外 I ~ III 層	深鉢	口~底部	大木 8a	口: 刺突列 体: LR 縦位→沈線文 底: 無文 平坦 / 内面ミガキ、ナデ (下半は縦ナデ)	No. 26 と同一個体か
29	IX C 区 I ~ III 層	壺?	口~頸部	晩期末~ 弥生前期		
30	遺構外 I ~ III 層	深鉢	体部	大木 1?	組繩縄文 (ピッチリ縄文)? / 内面粗いナデ / 胎土中に多量の繊維	
31	遺構外 I ~ III 層	深鉢	体部	前期前葉	LR 横位 / 胎土に繊維多量 / 内面指ナデ	
32	表採	深鉢	体部?	大木 8a	貼り付け隆線 (隆帯上に沈線、隆帯側縁はミガキ調整) LR→多重沈線 (3条) による弧状モチーフ / 内面指ナデ	硬質感のある焼き
33	X D 区 I ~ III 層	浅鉢	口縁部	弥生?	平縁 LR 横位→沈線文→磨消縄文 (部分的に沈線引き直し) / 内面横ナデ	
34	VIII D 区 I ~ III 層	ミニチュア 壺	口縁 ~底部	弥生?	波状口縁 無文 指頭圧痕 (手づくね整形) / 内面粗いナデ	胎土や内面調整の様相から弥生若しくは晩期末と推定される
35	1号堀 埋土	不明	脚部 (底部?)	晩期末~ 弥生前期	上面観 (平面形) は方形 底面には網代痕と沈線による円が描かれる	
36	SI05 埋土	深鉢	体部	大木 8a	LR 縦位→多重沈線 (3条1単位) / 内面ナデ	
37	SK11 埋土	台付き 浅鉢	脚部	弥生前期	多重沈線文 (3条) による横位平行・弧状文 / 内面ミガキ	金附第IV群1類
38	SK03 埋土	浅鉢?	体部	晩期末~ 弥生前期	LR 横位 / 内面ミガキ	
39	SK98 埋土	浅鉢	口縁 ~体部	大洞 C1	口唇: B 突起・刻み目 口: 羊歯状文 沈線 体: 雲形文 (LR 横位→沈線→磨消縄文) / 内面ミガキ	
40	1号埋設 土器遺構	深鉢	口縁 ~底部	弥生前期	口: 平縁 口唇面取り 無文 体: RL 横位 底: 平底 縄文 / 内面ナデ	埋設土器遺構の土器金附第IV群1類
41	SD04 埋土	浅鉢か 壺	体部	弥生前期	多重沈線文 (3条) による横位平行 条線? →磨消 / 内面ミガキ	金附第IV群1~2類
42	SX02 埋土	浅鉢?	体部?	弥生前期	多重沈線文 (3条) による横位平行 LR 横位 内面和積み痕あり	内面調整がやや粗い 金附第III群2類~IV群1類
43	SX04 埋土	浅鉢?	体部	晩期末~ 弥生前期	LR 斜位 / 内面和積み痕あり	内面調整がやや粗いことから弥生前期か

4 出土遺物

番号	出土地点	器種	部位	時期	特徴	その他
44	SX05 埋土	鉢	口縁部	晩期末～ 弥生前期	LR 横位／内面ミガキ	沈線内に薄っすら赤色顔料 か
45	SX05 埋土	壺?	口縁部	晩期末～ 弥生前期	横位平行沈線／内面ミガキ	大洞 A 段階か
46	P183 埋土	鉢	口～底部	弥生前期?	平縁 口～体：無文 底：平底／内面ナデ	
47	P183 埋土	浅鉢?	体部	弥生前期?	変形工字文（沈線）／内面ナデ	
48	P183 埋土	深鉢	体～底部	晩期末～ 弥生前期	体：LR 横・斜位 底：平底／内面ナデ	
49	P370 埋土	ミニチュア 壺	口縁 ～胴部	晩期末～ 弥生前期	無文 黒色付着物／内面黒色付着物	
50	P428 埋土	浅鉢?	口縁部	晩期末～ 弥生前期	波状口縁（頂部二子状） 無文 変形工字文	金附第Ⅲ群 1 類（若しくは Ⅲ群 2 類）
51	X C 区 I～Ⅲ層	浅鉢	口～体部	晩期末～ 弥生前期	口：横位平行沈線 体：LR 横位	
52	VII D10b Ⅲ層	浅鉢	口縁 ～底部	山王Ⅲ層	口：平行沈線による変形工字文 内面横位沈線 体：LR 縦・ 斜位 底：平底／内面ミガキ（剥落多）	
53	IX C VI i 区 Ⅲ層	鉢	口縁部	弥生前期	口：平縁 無文 胴：3 条平行沈線／口縁裏側に横位沈線／ 内面横ナデ	金附第Ⅲ群 2 類
54	I D 区 I～Ⅲ層	壺	略完形	晩期末～ 弥生前期	口：変形工字文 頸：無文 体：上半変形工字文 下半無文 底：平底	金附第Ⅱ群～Ⅲ群 1 類
55	IX E 区 I～Ⅲ層	壺?	口～頸部	弥生前期	口：波状口縁 口唇に沈線 平行隆線 頸：無文／内面ナデ・ ミガキ	金附第Ⅳ群 1 類か
56	IX D 区 I～Ⅲ層	台付き 浅鉢	口縁部	弥生前期	平縁、二子状の A 突起 変形工字文 内面横位沈線／内面ナ デ	金附第Ⅲ群 2 類
57	IX E 区 I～Ⅲ層	浅鉢	口縁 ～体部	晩期末～ 弥生前期	口：変形工字文? 体：無文／内面ナデ	
58	1 号堀 埋土	浅鉢?	口縁部	山王Ⅲ層	RL → 沈線文様モチーフ → 磨消縄文 → 局所的に沈線引き直し ／内面ミガキ	
59	VII D10b Ⅲ層	台付き 浅鉢	口縁 ～体部	晩期末～ 弥生前期	平行沈線による変形工字文意匠 口縁内面に横位沈線／内外 面ミガキ	硬質な焼き、山王Ⅲ層
60	表採	不明	体部	晩期末～ 弥生前期	地文 → 沈線モチーフ → 磨り消し縄文 内面粗いナデ	内面調整が粗雑なので弥生 か
61	VIII C 区 I～Ⅲ層	深鉢	体部	十腰内 2 式並行	LR 横位中心 → 沈線モチーフ → 磨消縄文／内面ミガキ	加曾利 B2 の古い段階か
62	VIII C 区 I～Ⅲ層	浅鉢	口縁部?	晩期末～ 弥生前期	LR 横位 → 沈線・刺突列 → 磨消縄文	大洞 C2 あたりか
63	1 号堀 埋土	浅鉢?	胴部	山王Ⅲ層	RL → 沈線文様モチーフ → 磨消縄文／内面ミガキ	
64	VIII C 区 I～Ⅲ層	浅鉢	体部 ～底部	晩期末～ 弥生前期	体部下半無文 底面：網代痕	
65	VII D10b Ⅲ層	台付き 浅鉢	脚部	晩期末～ 弥生前期	無文（やや粗いナデとミガキを併用か）／内面ミガキ	

第9表 土師器・須恵器観察表

番号	場所	層位	種別	器種	主な外面調整 (旧→新)	主な内面調整 (旧→新)	底部 調整	計測値 (cm)			備考
								口径	底径	器高	
66	SI01	埋土上層、下層、床面、貼床	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転糸切	15.0	6.2	5.8	
67	SI01	床面	土師器	小皿	ロクロ	ロクロ	回転糸切	8.9	4.0	2.2	10c後-11c
68	SI02	埋土上層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転糸切	-	6.4	2.5	
69	SI01	埋土上、下層	土師器	甕	-	-		-	9.2	0.6	
70	SI01	埋土下層	土師器	高台付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理		-	6.0	2.8	
71	SI02	SK1の2層	土師器	高台付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転糸切	15.8	7.0	6.2	
72	SI02	SK1の2層	土師器	高台付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理		-	4.0	2.4	
73	SI02	埋土下層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	不明瞭	-	5.6	1.5	
74	SI02	埋土上層 下層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転糸切	-	6.0	1.5	
75	SI03	床面	土師器	甕	ロクロ	ロクロ		15.2	-	12.7	口縁コゲ
76	SI03	埋土上層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転糸切	-	6.8	1.5	
77	SI03	床面直上	須恵器	甕	タタキ目	アテ具痕					
78	SI04	埋土上層	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転糸切	12.8	5.8	4.8	
79	SI04	1・2層	土師器	坏	ロクロ、底付近ヘ ラケズリ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転糸切	14.6	5.0	5.0	
80	SI04	Pit3 底面	土師器	甕	ロクロ	ロクロ					
81	SI04	埋土上層 カマド袖	土師器	甕	ロクロ	ロクロ					
82	SI04	Pit3 底面	土師器	甕	ロクロ、体部ヘラ ケズリ	ロクロ					
83	SI04	埋土上層 カマド袖	土師器	甕	ロクロ整形	ロクロ					
84	SI04	床面	土師器	甕	非ロクロ整形、口 縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	ヘラナデ					
85	SI04	埋土上層	須恵器	甕	タタキ目	アテ具痕					
86	SI04	Pit3 底面	須恵器	壺	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		-	-	15.5	

4 出土遺物

番号	場所	層位	種別	器種	主な外面調整 (旧→新)	主な内面調整 (旧→新)	底部 調整	計測値 (cm)			備考
								口径	底径	器高	
87	SI04	1～2層境	須恵器	甕	タタキ目、(自然釉)	アテ具痕					
88	SI04	埋土上～ 最下層	須恵器	甕	タタキ目	アテ具痕					
89	SI04	カマド他	須恵器	甕	タタキ目	アテ具痕					
90	SI05	埋土 下層	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	15.0	6.0	4.8	
91	SI05	カマド	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	13.9	5.0	5.6	
92	SI05	埋土 下層	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	14.7	6.0	4.3	
93	SI05	埋土下層、 カマド	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	14.1	5.6	4.7	
94	SI05	埋土下層 (焼土層)	土師器	耳皿	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	8.3	4.7	3.4	
95	SI05	埋土 下層	土師器	甕	ロクロ、体部ヘラ ケズリ	ロクロ					
96	SI05	埋土下層、 カマド	土師器	甕	ロクロ、体部ヘラ ケズリ	ロクロ					
97	SI05	埋土上層 下層	土師器	甕	ヘラケズリ	ヘラナデか		-	7.5	21.2	
98	SI05	埋土下層 カマド	土師器	甕	ロクロ、ヘラケズ リ	ロクロ		20.0	-	20.1	
99	SI05	埋土下層、 カマド、 P367	須恵器	壺	ロクロ	ロクロ	回転 糸切				
100	SI05	埋土 最下層	須恵器	壺	ロクロ	ロクロ		-	-	3.6	
101	SI05	カマド	須恵器	器種 不明	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	-	6.4	2.0	歪み大
102	SI05	カマド	須恵器	甕	タタキ目						
103	SI06	埋土 下層	土師器	坏	ロクロ、体部下 ヘラケズリ	ヘラミガキ、 黒色処理	ヘラ 切か	13.6	6.0	4.6	風化
104	SI06	Pit2	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	15.7	6.4	5.2	
105	SI06	貼床	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	14.0	5.5	5.1	11c
106	SI06	埋土最下層、 下層、埋土	土師器	高台 付坏	ロクロ	ロクロ		21.4	9.0	8.4	11c
107	SI06	貼床	土師器	高台 付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理		16.0	8.8	6.1	
108	SI06	床面	土師器	高台 付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理		-	8.0	2.9	

番号	場所	層位	種別	器種	主な外面調整 (旧→新)	主な内面調整 (旧→新)	底部 調整	計測値 (cm)			備考
								口径	底径	器高	
109	SI06	床面	土師器	坏	ロクロ、底近くを ヘラケズリ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	-	5.3	1.4	
110	SI06	SK2埋土 貼床	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	16.3	6.7	5.3	
111	SI06	埋土下層、 SK2埋土	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	16.2	6.8	5.3	
112	SI06	SK2埋土 上層	土師器	坏	ロクロ、体部下 半ヘラケズリ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	14.7	5.0	4.8	
113	SI06	埋土上層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	ヘラ 切か	-	7.6	2.1	
114	SI06	床面、SK2 埋土上層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	14.8	6.0	4.8	
115	SI06	SK2の埋土中	土師器	坏	ロクロ、ヘラミガ キ、黒色処理	ヘラミガキ、 黒色処理		15.0	3.6	5.8	
116	SI06	埋土 上層	土師器	甕	ロクロ	ロクロ					
117	SI06	SK1埋土 上層	土師器	甕	ロクロ、体部ヘラ ケズリ	ロクロ					非ロクロ整 形か
118	SI06	埋土 上層	土師器	坏	ロクロ、墨書	ロクロ					墨書
119	SI06	埋土 下層	土師器	甕	ロクロ	ロクロ					
120	SI06	SK1	土師器	甕	ロクロ	ロクロ					
121	SI06	SK1埋土 上層	土師器	甕	非ロクロ整形、口 縁ヨコナデ	ヘラナデか					風化著しい
122	SI06	SK1	土師器	鉢	ロクロ、体部ヘラ ケズリ	ロクロ					
123	SI06	埋土 下層、Pit6	須恵器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	11.9	4.0	3.4	
124	SI06	貼床、Pit9	須恵器	坏	ロクロ	ロクロ		14.6	-	4.0	土師器か
125	SI06	床面	須恵器	壺	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	-	7.2	3.6	
126	SI06	貼床	須恵器	壺	ロクロ	ロクロ					
127	SI06	埋土下層、 最下層、貼床	須恵器	壺	ロクロ	ロクロ	低い 高台	-	10.8	3.7	
128	SI06	貼床	土師器	甕	ヘラケズリ	ハケメ		-	12.4	7.0	
129	SI06	埋土 上層	須恵器	壺か	ヘラケズリ	ロクロ			8.2	6.0	
130	SI06	埋土上層、 下層、貼床、 Pit2	須恵器	甕	タタキ目	アテ具痕					

4 出土遺物

番号	場所	層位	種別	器種	主な外面調整 (旧→新)	主な内面調整 (旧→新)	底部 調整	計測値 (cm)			備考
								口径	底径	器高	
131	SI06	埋土最下層	須恵器	甕	タタキ目	ハケメ					
132	SI06	埋土 下層	須恵器	甕	タタキ目						
133	SI12	カマド	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切				
134	SI12	床面	土師器	坏	ロクロ	ロクロ		16.4	-	4.7	
135	SI12	床面	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	13.2	5.4	3.9	
136	SI12	埋土下層、 床面	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	13.0	3.4	4.2	
137	SI12	SK1 埋土 上・下層	土師器	坏	ロクロ、ヘラミガ キ、黒色処理	ヘラミガキ、 黒色処理		15.2	4.8	4.3	
138	SI12	SK1 埋土 下層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	不明	14.4	6.4	4.7	
139	SI12	SK1 埋土 下層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	16.0	6.0	4.9	
140	SI12	埋土下層、 SK1 埋土	土師器	甕	非ロクロ整形	非ロクロ整形		16.8	-	8.6	風化
141	SI12	床面	土師器	甕	非ロクロ整形、口 縁ヨコナデ	風化により不 明					
142	SI12	埋土 上層	土師器	甕	非ロクロ整形	風化により不 明					
143	SI12	埋土上層、 下層、最下層、 カマド他	土師器	甕	ロクロ、ヘラケズ リ	ヘラナデ		22.8	10.0	34.8	
144	SI12	床面	土師器	甕	非ロクロ整形	非ロクロ整形	木葉 痕	-	16.6	7.4	
145	SI12	SK1	土師器	甕	比ロクロか、口縁 部ヨコナデ、体部 ヘラナデ	体部ヘラナデ					
146	SI12	埋土上層、 下層、カマド、 床面、SK1	土師器	甕	ロクロ、ヘラケズ リ	ハケメか		21.4	-	28.4	
147	SI12	埋土下層、 床面	須恵器	壺	ロクロ、ヘラケズ リ	カキメ	糸切 痕なし	-	9.0	20.9	
148	SI12	埋土 下層	須恵器	甕	タタキ目	アテ具痕					
149	SK04	5層 上位	須恵器	坏	ロクロ	ロクロ					
150	SK31	埋土 上層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理		15.4	-	5.2	
151	SK38	3層	土師器	甕	ロクロ	ロクロ		16.6	-	3.6	風化
152	SK38	3層	須恵器	壺	ロクロ	ロクロ					赤みがかった 色

番号	場所	層位	種別	器種	主な外面調整 (旧→新)	主な内面調整 (旧→新)	底部 調整	計測値 (cm)			備考
								口径	底径	器高	
153	SD01	3層	土師器	高台 付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理					写真のみ
154	SD08	埋土	土師器	甕	ハケメか						
155	SX06	埋土	土師器	高台 付坏	ロクロ	ロクロ		16.2	8.6	4.2	11c か
156	SX06	埋土	土師器	高台 付坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	15.0	7.5	5.0	11c か
157	SX06	埋土	土師器	高台 付坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	9.2	4.8	1.9	11c か
158	SX06	埋土	土師器	坏	ロクロ	ロクロ		15.1	-	3.8	11c か
159	SX06	埋土	土師器	坏	ロクロ	ロクロ		14.4	-	4.4	11c か
160	SX06	埋土	土師器	坏	ロクロ	ロクロ		13.8	-	2.9	11c か
161	SX10	埋土	土師器か	碗				-	3.5	5.6	
162	2号堀	埋土 上層	かわらけ	小皿	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	9.9	4.8	2.2	中世後半か
163	VIII D区	I～III層	土師器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	-	3.8	1.4	小皿か
164	2号堀	埋土 上層	かわらけ	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	-	6.4	1.5	かわらけか
165	IX D区	I～III層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	-	6.4	5.8	
166	IX D区	I～III層	土師器	坏			回転 糸切	-	3.8	0.7	
167	VIII D区	I～III層	土師器	高台 付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	-	7.0	2.3	
168	VIII D区	I～III層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	-	7.6	2.1	
169	IX D区	I～III層	土師器	坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理	回転 糸切	-	7.0	1.5	
170	調査区 南側	試掘 I～III層	土師器	高台 付坏	ロクロ	ヘラミガキ、 黒色処理		-	-	-	
171	調査区 南側	試掘 I～III層	土師器	坏			回転 糸切	-	6.7	2.0	
172	IX D区	I～III層	土師器	壺	ヘラミガキ	輪積み痕					
173	3号土 壘	旧表土	須恵器	坏	ロクロ	ロクロ	回転 糸切	14.5	5.4	4.7	
174	遺構外	I～III層	須恵器	壺か	ロクロ	ロクロ					

第10表 陶磁器観察表

番号	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	特徴、産地、年代	その他
175	P230	埋土	陶器	碗	体部	天目碗、錆釉、瀬戸大窯、16世紀	
176	P137	埋土	陶器	皿	底部	丸皿、灰釉、瀬戸大窯、16世紀	印花無し
177	1号堀	埋土中位	陶器	皿	底部	丸皿、灰釉、瀬戸大窯、16世紀	
178	Ⅱ D7 i 区	I～Ⅲ層	磁器	碗	口縁	染付、中国、16世紀	
179	2号堀	埋土	磁器	皿	底部	牡丹唐草、玉取獅子か、中国、16世紀	畳付に砂付
180	SK120	埋土	磁器	碗	体部	染付草花文、肥前、18世紀	
181	SK129	埋土	磁器	碗	体部	染付草花文・肥前、18世紀	
182	調査区南側	I～Ⅲ層	磁器	皿	底部	染付、肥前、18世紀	
183	SD04	埋土	磁器	皿	口縁	四方襷門、界線、肥前、18世紀	
184	SL24	埋土	陶器	碗	底部	灰釉、底部付近は無釉、大堀相馬、18世紀	
185	SD21	埋土	陶器	碗	口縁	薬灰釉、東北在地産か、19世紀か	
186	遺構外	風倒木	陶器	碗	底部	内外面灰釉、肥前、18世紀	
187	遺構外	層位不明	陶器	皿	口縁	薬灰釉、東北在地産か、19世紀か	
188	Ⅲ C6i 区	I～Ⅲ層	陶器	灯明皿	体部	鉄釉、底部付近は無釉、瀬戸美濃産か、18世紀以降	

第11表 石器・石製品観察表

番号	出土地点	器種	分類	計測値 (cm・g)				特徴	石質
				長	幅	厚	重量		
189	調査区東端 I～Ⅲ層	石鏃	I A1	1.6	1.0	0.4	0.34	アスファルト 付着	頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
190	SK110 埋土	石鏃	I A1	2.5	1.1	0.4	1.20		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
191	SI11 埋土	石鏃	I A1	3.2	1.8	1.1	5.03		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
192	Ⅶ D 区 I～Ⅲ層	石鏃	I A2	2.6	1.6	0.2	0.60		頁岩 古生代 北上山地
193	SI02 貼床内	石鏃	I A2	2.5	1.5	0.5	1.13		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
194	Ⅶ D 区 I～Ⅲ層	石鏃	I D2	2.6	1.1	0.4	1.07		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
195	Ⅱ D 区 I～Ⅲ層	石鏃	I D1 b	5.7	1.7	0.7	7.93		頁岩 古生代 北上山地
196	1号堀の南端 埋土	石鏃	I D1 a	6.3	2.6	1.4	14.19		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
197	1号堀の南 埋土	石鏃	I D2	5.2	3.5	1.1	13.35		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
198	遺構外 I層	石匙	I B2	5.5	3.3	1.2	9.63		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
199	SK110 埋土	石匙	I B2	6.7	3.8	0.9	12.41		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
200	SX03 埋土	搔削器	I C1	5.8	2.5	0.7	12.20		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
201	SI11 埋土	搔削器	I C2	5.9	4.7	1.4	75.09		頁岩 古生代 北上山地
202	SK11 3層	搔削器	I C1	5.8	3.9	1.2	26.64		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
203	X D 区 I～Ⅲ層	削搔器	I C1	4.0	3.30	1.3	16.14		碧玉新生代新第三紀 奥羽山脈
204	Ⅱ D 区 I～Ⅲ層	搔削器	I C1	5.9	4.7	1.4	31.79		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
205	Ⅱ D 区 I～Ⅲ層	搔削器	I C3	6.5	5.5	1.6	31.45	抉り	頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
206	SD16 埋土	石鏡	I E1	7.2	3.6	1.4	43.52		ホルンフェルス 古生代 (変成は中生代) 北上山地
207	調査区北東端 Ⅲ層	石鏡	I E2	10.1	3.8	2.3	76.05	風化	ホルンフェルス 古生代 (変成は中生代) 北上山地
208	1号堀の南 埋土	石鏡	I E1	12.6	7.60	2.8	260.22		流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
209	Ⅱ E 区 I～Ⅲ層	石鏡	I E1	8.7	5.3	2.0	81.14		頁岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
210	Ⅱ E 区 I～Ⅲ層	搔削器	I C2	15.2	4.8	2.5	213.54		ホルンフェルス 古生代 (変成は中生代) 北上山地

番号	出土地点	器種	分類	計測値 (cm・g)				特徴	石質
				長	幅	厚	重量		
211	IX D区 I～III層	磨製 石斧	III A6	6.8	3.7	1.3	54.06		細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地
212	VII D区 I～III層	磨製 石斧	III A6	7.6	4.5	1.4	90.30		蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺
213	VII E区 I～III層	磨製 石斧	III A5	11.4	4.7	2.2	180.75		砂岩 古生代 北上山地
214	1号堀の南 埋土	磨製 石斧	III A4	10.1	5.9	5.1	457.83		流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
215	SI11 埋土	擦石	III A3	9.3	5.8	3.3	247.85	磨製石斧の未 成品か	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地
216	IX D区 I～III層	磨製 石斧	III A6	6.4	4.6	1.3	71.19		凝灰岩 古生代 北上山地
217	II E区 I～III層	石製品	III A7	8.0	6.4	3.1	183.91		ホルンフェルス 古生代(変成は中生代) 北上山地
218	II C区 I～III層	擦石	II B2	13.0	7.8	2.4	342.50		流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
219	VII D区 I～III層	擦石	II B2	14.1	8.6	4.8	763.51		頁岩 古生代 北上山地
220	III C区 I～III層	砥石	II E	10.1	5.2	2.4	200.07	SB23 近く	流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
221	II C区 I～III層	砥石	II E	5.5	5.6	1.3	49.52		流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
222	1号堀の南 埋土	砥石	II E	11.3	6.2	2.7	276.38	16cの砥石か	流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
223	P405 埋土	砥石	II E	16.7	7.1	6.1	699.37		流紋岩 新生代新第三紀 奥羽山脈
224	SI11 埋土	石製品	IV A	6.0	6.5	1.1	27.77	欠損	安山岩 新生代新第四紀 岩手山
225	SI11 埋土	石製品	IV A	6.5	3.3	0.8	12.27	欠損	安山岩 新生代新第四紀 岩手山
226	SI11 床面	石製品	IV B	11.2	7.5	3.8	309.52		安山岩 新生代新第四紀 岩手山
227	SI04 埋土上層	石製品	IV C	6.3	5.0	2.8	68.75	自然礫か	砂岩 新生代新第三紀 奥羽山脈

第12表 石器分類基準

分類大	I														
	剥片石器														
分類中	A			B			C			D			E		F
	石鏃			石匙			搔削器・不定形石器			石錐			石鏟		剥片
分類細	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1		2	1	2	1
	有茎	無茎	その他	縦長	横長	その他	小形	1より大き く礫石器 と同じよう な石材を用 いたもの	刃部の一部 に抉りのよ うな痕跡が あるもの	大		細部し ない	刃部の整 形が精緻	刃部の整 形が粗	主にI群作 成時に出来 たもの
										a	b				
点数	2	2	0	0	1	0	29	26	4	1	1	1	3	5	348
重 g	5.53	1.73	0.00	0.00	12.41	0.00	1202.16	5851.14	126.53	14.19	7.93	1.07	172.40	585.00	6826.42

分類大	II														
	礫石器														
分類中	A		B		C			D				E	F		
	石皿		磨石		敲石			磨・敲複合				砥石	剥片		
分類細	1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	4	細分なし	主にII群 作成の時に 出来たもの		
	脚・縁有	脚・縁無	広い面を 使用	縁辺部を 使用	広い面を 使用	縁辺部を 使用	広い面、 縁辺部を 使用	広い面を 磨・敲	広い面を 磨、端部 を敲	縁辺部を 磨、広い 面を敲	縁辺部を 磨、端部 を敲				
点数	0	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	19	
重 g	0.00	0.00	0.00	3325.48	2171.44	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4911.07	

4 出土遺物

分類大	Ⅲ 磨製石器							B ノミ
	A 石斧							
分類中	1	2	3	4	5	6	7	細分しない
	荒削段階	剥離成形	剥離成形→敲打	敲打成形が終了	敲打→研磨	研磨が終了(完成)	完成品が破損→二次的利用	
点数	4	3	2	2	2	3	2	0
重 g	2112.48	942.89	581.02	857.03	577.34	215.55	383.93	0.00

分類大	Ⅳ その他			
	A	B	C	D
分類中	軽石に孔	軽石を整形	小碗状	その他
点数	2	1	1	
重 g	40.04	309.52	68.75	

第 13 表 金属製品観察表

番号	遺構名	地点・層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他
257	SI12	埋土上層	刀子	18.1	1.9	0.9	28.40	
258	SX07	埋土下層	鎌か槍か	15.9	1.7	1.2	29.98	
259	SI06	埋土下層	刀子か	3.7	2.9	0.6	7.95	
260	SK84	埋土	刀子か	4.8	2.0	0.7	13.71	
261	SK78	埋土	不明	4.3	1.7	0.6	3.12	釘か
262	P115	埋土	不明	3.3	1.9	1.2	3.46	
263	SK78	埋土	釘	5.8	1.1	1.1	4.68	
264	SK78	埋土	釘	6.0	1.3	1.2	3.34	
265	SK78	埋土	釘	6.3	1.1	1.2	5.70	
266	SK78	埋土	釘	5.7	1.3	0.8	4.12	
267	SK78	埋土	釘	4.9	1.0	1.0	4.42	
268	SK78	埋土	釘	4.7	1.9	1.1	3.51	

第 14 表 銭貨観察表

番号	遺構名	地点・層位	銭貨名	国	初鑄年	重量 (g)	その他
228	SK47	埋土	永楽通宝	明	1408	1.48	
229	SK47	埋土	永楽通宝	明	1408	2.03	
230	SK47	埋土	永楽通宝	明	1408	2.40	
231	SK47	埋土	永楽通宝	明	1408	2.35	
232	SK54	埋土	永楽通宝	明	1408	2.42	
233	SK56	埋土	永楽通宝	明	1408	2.67	
234	SK56	埋土	永楽通宝	明	1408	3.32	
235	SK56	埋土	永楽通宝	明	1408	3.45	
236	SK56	埋土	永楽通宝	明	1408	2.63	
237	SK56	埋土	永楽通宝	明	1408	2.50	
238	SK57	埋土	永楽通宝	明	1408	2.00	
239	SK57	埋土	洪武通宝	明	1368	3.30	背「桂」
240	SK57	埋土	宣徳通宝	明	1433	3.31	
241	SK57	埋土	永楽通宝	明	1408	1.84	
242	SK78	埋土	元佑通宝	北宋	1086	2.51	篆書か
243	SK78	埋土	不明	不明	-	1.26	
244	SK78	埋土	不明	不明	-	2.41	
245	SK84	埋土	開元通宝	唐	621	3.13	
246	SK84	埋土	永楽通宝	明	1408	2.68	
247	SK84	埋土	永楽通宝	明	1408	2.32	
248	SK84	埋土	永楽通宝	明	1408	3.09	
249	SK84	埋土	永楽通宝	明	1408	3.02	
250	P252	埋土	不明	不明	-	1.03	
251	P680	埋土	永楽通宝	明	1408	2.45	
252	P862	埋土	寛永通宝	日本	1697	2.11	新寛永
253	P923	埋土	寛永通宝	日本	1636	2.44	古寛永
254	SD20	埋土	寛永通宝	日本	1697	3.11	新寛永
255	SB25 付近	I～III層	寛永通宝	日本	1697	1.63	新寛永
256	IX D 区	I～III層	寛永通宝	日本	1636	1.79	古寛永

第15表 土製品観察表

番号	種類	出土地点	特徴	計測値				その他
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
269	土錘	SI04 カマド	両端を平坦に、 外面はヘラミガキをしているようだ	4.2	1.8	1.6	10.17	
270	土錘	SI04 近く、IV層上面	両端を平坦に	3.4	1.5	1.3	5.71	端部欠損
271	土玉	SI12 埋土下層	ミガキや着色無し。	1.7	1.7	1.2	3.95	
272	羽口	SI06 Pit 1 下層	先端溶解	4.0	3.1	1.4	23.04	

第16表 焼成粘土塊観察表

番号	出土地点	層位	破片数	重量 (g)	その他
275	SI06 SK2	埋土	9	78.82	質感異なるものあり
276	SK38	埋土中央	4	56.11	質感は皆似ている

第17表 鉄滓他観察表

番号	遺構名	地点・層位	種類	計測値 (cm, g)				その他
				長さ	幅	厚さ	重量	
273	遺構外	XD区・I～III層	鉄滓	9.2	8	1.6	265.44	
274	1号堀	県道より南・埋土	炉壁か	9.4	9.4	3.9	201.94	

第18表 炭化材樹種同定結果一覧表

遺構名	層位・位置	樹種	遺構名	層位・位置	樹種
SI01	埋土下層～床面	ナラ	SK03	埋土下位	ナラ
SI01	5層床面	ナラ	SK03	5層中位	ナラ
SI01	床面	クリ	SK04	5層	ナラ
SI01	埋土下層～床面	ナラ	SK04	5層	ナラ
SI01	床面	クルミ	SK05	埋土	不明
SI04	埋土	クリ	SK11	埋土	サワグルミ
SI05	埋土最下層	クリ・ナラ	SK17	埋土	ナラ
SI05	床面	ナラ・雑木	SX01	埋土	クリ
SI06	SK1	ホオノキ	SX02	埋土	ナラ
SI06	Pit6 下層	ケヤキ	SX03	埋土	ナラ
SI06	Pit8	ナラ	SX04	埋土	ケヤキ、ナラ
SI06	Pit1	クリ	SL16	埋土	ナラ
SI06	SK2 埋土中層	ナラ・雑木 (ヤマザクラか)	SL17	埋土	クリ、ヤマウルシ
SI11	床面	ナラ	SL18	埋土	クリ
SI12	SK1 埋土下層	ナラ・クリ	SL20	埋土	クリ
SI12	埋土上層	ヤマザクラ			

V 分 析

1 火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

1.1 成田岩田堂館出土火山灰分析業務

岩手県の県央・県南部の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、鳴子、肘折など東北地方の火山のほか、浅間や御岳など中部地方、さらには、洞爺、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など北海道、中国地方、九州地方など遠方の火山に由来するテフラが数多く挟在されている。とくに、後期更新世以降の多くのテフラについては、層相や年代さらに岩石記載的特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 2011)などに収録されており、考古遺跡で調査分析を実施し、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層だけでなく、考古学的遺物・遺構の層位や年代などがわかるようになっている。

北上市成田岩田堂館跡の発掘調査の際にも、テフラ粒子を含む遺構覆土が認められたことから、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ分析(テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスの屈折率測定)を実施して、土層の層位や形成年代に関する情報を得ることになった。分析の対象は、SI06で採取された試料1、SI12床面から採取された試料2、そしてSK60埋土から採取された試料3の3試料である。

1.2 テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

試料1(SI06, わずかに黄色をおびた灰白色細粒火山灰ブロックを多く含む褐色土)、試料2(SI12床面, 灰色がかった褐色砂質土)、試料3(SK60埋土, 砂混じり暗褐色土)に含まれるテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料1の細粒火山灰ブロックを可能な限り高純度で選別。
- 2) 砂分に応じて電子天秤で試料8~12gを秤量。
- 3) 超音波洗浄により泥分を除去した後に、恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。いずれの試料からも、比較的粗粒な軽石やスコリアは検出されなかった。試料1(SI06)には、スポンジ状や繊維束状の軽石型ガラスが多く含まれている。火山ガラスの色調は白色や無色透明である。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物(以降, 重鉱物)には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

試料2(SI12)には、スポンジ状や繊維束状の軽石型ガラスがとくに多く含まれている。火山ガラスの色調は白色や無色透明である。重鉱物には斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料3(SK60)には、繊維束状やスポンジ状の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。火山ガラスの色調は無色透明や白色である。また、重鉱物には斜方輝石や単斜輝石が認められる。

1.3 テフラ組成分析

(1) 分 析 方 法

分析対象の3試料に含まれるテフラ粒子の量や特徴を定量的に把握するために、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析を合わせたテフラ組成分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて1/4~1/8 mm と 1/8~1/16 mm の粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で1/4~1/8 mm の250粒子を観察して、火山ガラスの形態（一部色調）別含有率、軽鉍物と重鉍物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
- 3) 偏光顕微鏡下で1/4~1/8 mm の重鉍物250粒子を観察して、重鉍物組成を明らかにする（重鉍物組成分析）。

(2) 分 析 結 果

テフラ組成分析の結果をダイアグラムにして図1に、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析の結果の内訳を表2と表3に示す。

試料1 (SI06) には、火山ガラス、軽鉍物、重鉍物が、順に29.2%、27.2%、7.6% 含まれている。このうち、火山ガラスは、含有率が高い順に繊維束状軽石型（16.8%）、スポンジ状軽石型（9.6%）、分厚い中間型（2.4%）、無色透明で平板状のバブル型（0.4%）である。重鉍物には、斜方輝石（40.4%）や単斜輝石（13.2%）が含まれている。

試料2 (SI12) には、火山ガラス、軽鉍物、重鉍物が、順に22.0%、30.0%、9.2% 含まれている。このうち、火山ガラスは、含有率が高い順に繊維束状軽石型（11.2%）、スポンジ状軽石型（8.8%）、中間型（1.2%）、無色透明のバブル型（0.8%）である。重鉍物には、斜方輝石（42.0%）や単斜輝石（14.0%）が含まれている。

試料3 (SK60) には、火山ガラス、軽鉍物、重鉍物が、順に18.4%、30.0%、10.4% 含まれている。このうち、火山ガラスは、含有率が高い順に繊維束状軽石型（14.0%）、スポンジ状軽石型および中間型（各2.0%）、無色透明のバブル型（0.4%）である。重鉍物には、斜方輝石（39.6%）や単斜輝石（16.4%）が含まれている。

1.4 屈折率測定（火山ガラス・鉍物）

(1) 測定試料と測定方法

分析対象の3試料に含まれる火山ガラスと鉍物（斜方輝石）の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定精度を向上させることになった。測定方法は温度変化型屈折率法（壇原，1993）である。また、測定対象の火山ガラスは1/8~1/16 mm 粒子中のもの、斜方輝石は>1/4 mm 粒子からピックアップした斜方輝石を軽く粉碎したものである。

(2) 測 定 結 果

屈折率の測定結果の内訳を付表1~2に、すでに知られている指標テフラとの比較のために表4を作成した。試料1 (SI06) に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（ n ）は、1.500-1.508である。この値はbi-modal組成で、1.500-1.501（2粒子）と、1.505-1.508（28粒子）からなる。一方、斜方輝石（35粒子）の屈折率（ γ ）は、1.704-1.719である。この値もbimodal組成で、1.704-1.710（14粒子）

と 1.714-1.719 (21 粒子) からなる。

試料 2 (SI12) に含まれる火山ガラス (30 粒子) の屈折率 (n) は、1.503-1.507 である。斜方輝石 (33 粒子) の屈折率 (γ) は、1.705-1.723 である。この値は bimodal 組成で、1.705-1.709 (8 粒子) と 1.714-1.723 (25 粒子) からなる。

試料 3 (SK60) に含まれる火山ガラス (30 粒子) の屈折率 (n) は、1.501-1.508 である。斜方輝石 (31 粒子) の屈折率 (γ) は、1.707-1.722 である。この値は bimodal 組成で、1.707-1.710 (6 粒子) と 1.714-1.722 (25 粒子) からなる。

1.5 考 察

(1) テフラの由来について

今回送付された試料に関しては、テフラの純度が低いために多様なテフラ粒子が混在する可能性が高く、高信頼度のテフラ同定が容易ではないことが予想された。実際に、もっとも純度が高そうな試料 1 (SI06) に関しても、洗浄処理前の段階で砂分の完全な除去が難しく、細粒火山灰層のみの分析はできなかった。

このような状況ではあるが、次にテフラの由来について考えてみる。まず、得られた結果から総合的に考えると、一見、いずれの試料にも十和田 a テフラ (To-a, AD915 年, 大池, 1972, Hayakawa, 1985, 町田ほか, 1981) が含まれているように見える。その根拠は、軽石型火山ガラスを多く含む火山ガラスの形態上の特徴、火山ガラスの屈折率特性 (n : 1.500-1.508)、斜方輝石や単斜輝石を多く含む重鉱物の組み合わせである。また、3 試料のいずれにも、高めの屈折率特性 (γ : 1.714-1.723) をもつ斜方輝石が含まれることから、比較的ローカルに分布するテフラの混在も認められる。

ただし、給源火山が同じテフラの識別は実際には難しい。To-a 以外に、本遺跡周辺に降灰した十和田系テフラとしては、十和田大不動テフラ (To-Of, 約 3.2 万年前以前, 中川ほか, 1972, 町田・新井, 2011 など) や十和田八戸テフラ (To-H, 約 1.5 万年前, 早川, 1983, 町田・新井, 2011 など) のほか、県央および県南部の考古学界でもよく知られている十和田中楸テフラ (To-Cu, 約 6,000~6,200 年前, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 町田・新井, 2011, 工藤・佐々木, 2007) がある。

今回の分析で検出された火山ガラスについては、それらの中で、屈折率特性は To-H や To-a の可能性がより高いように見えるが、To-Of や To-Cu が混在する可能性も完全に否定できない。一方、斜方輝石の屈折率特性では、これらのテフラの中での識別特定は難しい。

一般的に考えれば、本遺跡周辺で降灰量が多いテフラは、To-Cu と To-a の 2 層である。中でも、To-a は東北地方の多くの遺跡発掘調査などで検出されていて、本遺跡でも見つかる可能性が高い。試料 1 (SI06) に含まれるブロック状の細粒火山灰層の色調^{*1} や、白色のスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれていること、そしてこのタイプの火山ガラスは試料 2 (SI12) でも多く含まれていることから、これらの 2 試料に関しては、下位にある To-Cu 以外に To-a が含まれている可能性がより高いように思われる。試料 3 (SK60) については、繊維束状軽石型ガラスの方が高率であることから、To-Cu が多く含まれているのかも知れない。

これらのテフラ粒子の起源をより明確に求めるためには、信頼度が高い電子線マイクロアナライザ (EPMA) を用いた火山ガラスの粒子ごとの主成分分析が有効となる。

また、やや高い斜方輝石の屈折率特性をもち、本遺跡周辺で良く認められるテフラには、焼石村崎野テフラ (Yk-M, 約 5~6 万年前, 大上・吉田, 1984, 町田・新井, 2011 など) があって、今回得られた火山ガラスの屈折率特性ともよく合う。

いずれにしても、テフラの高信頼度の同定作業では、現地における詳細なテフラを含めた土層観察と高純度の試料採取が基本である（早田，1999）。火山灰編年学の研究者による作業が実施できると良い。また、事前の分析項目の選定に際してコンサルティングを受ける必要もある。

1.6 ま と め

北上市成田岩田堂館跡の発掘調査の際に採取された3試料を対象に、テフラ分析（テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定）を実施した。その結果、十和田中振テフラ（To-Cu，約6,000～6,200年前）や十和田a火山灰（To-a，915年）、さらに焼石村崎野軽石（Yk-M，約5～6万年前）が含まれている可能性が高いことが明らかになった。

*1 岩手県域に降灰する To-Cu は、灰色砂質細粒火山灰からなるユニットの可能性が高く、今回の場合に色調は決定的な同定根拠とはならない。

文献

- 新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究，11，p.254-269.
- 新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」，東京大学出版会，p.138-149.
- 壇原 徹（1993）温度変化型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀研究試料分析法2」，p.149-158.
- 早川由紀夫（1983）十和田中振テフラ層の分布，粒度，組成，年代。火山，28，p.263-273.
- Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60, p.507-592.
- 工藤 崇・佐々木 寿（2007）十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年。地学雑，116，p.653-663.
- 町田 洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス（第2刷）」。東京大学出版会，336p.
- 中川久夫・中馬教充・石田琢二・松山 力・七崎 修・生出慶二・大池昭二・高橋 一（1972）十和田火山 発達史概要。岩井淳一教授記念論文集，p.7-17.
- 大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年。第四紀研究，11，p.232-233.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰。第四紀研究，5，p.29-35.
- 大上和良・吉田 充（1984）北上川中流域，胆沢扇状地における火山灰層序。岩手大工学部研究報告，37，p.69-81.
- 早田 勉（1989）テフロクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討。第四紀研究，28，p.269-282.
- 早田 勉（1999）テフロクロノロジー—火山灰で過去の時間と空間をさぐる方法—。長友恒人編「考古学の ための年代測定学入門」，古今書院，p.113-134.

No.001078

1 火山灰分析

表1 テフラ検出分析結果

試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物 (不透明鉱物以外)
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
1 (SI06)				***	pm (sp, fb)	白, 無色透明	opx, cpx
2 (SI12)				****	pm (sp, fb)	白, 無色透明	opx, cpx
3 (SK60)				**	pm (fb, sp)	無色透明, 白	opx, cpx

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (*): 非常に少ない, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, cl: 無色透明, p-br: 淡褐色, br: 褐色, ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, (): 量が少ないことを示す。

表2 火山ガラス比分析結果

試料	火山ガラス						軽鉱物	重鉱物	その他	合計
	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)				
1 (SI06)	1	0	0	6	24	42	68	19	90	250
2 (SI12)	2	0	0	3	22	28	75	23	97	250
3 (SK60)	1	0	0	5	5	35	75	26	103	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状. 数字は粒子数.

表3 重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
1 (SI06)	0	101	33	0	0	101	15	250
2 (SI12)	0	105	35	0	0	94	16	250
3 (SK60)	0	99	41	0	0	84	26	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物. 数字は粒子

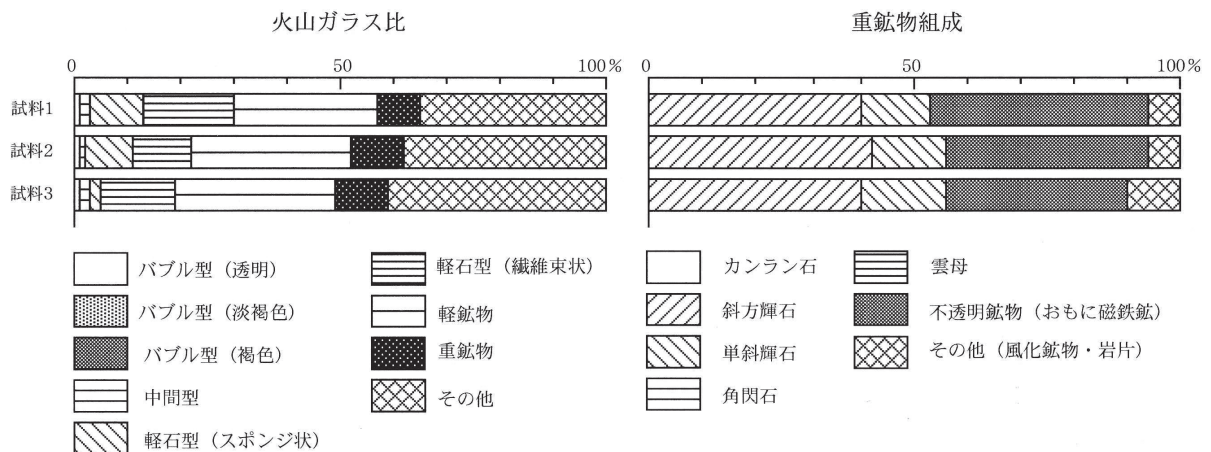


図1 成田岩田堂館跡火山灰分析試料のテフラ組成ダイヤグラム

表 4 屈折率測定結果

地点・試料・指標テフラ	火山ガラス		斜方輝石		文献
	屈折率 (n)	測定数	屈折率 (γ)	測定数	
成田岩田堂館跡・試料 1 (SI06)	1.500-1.508	30	1.704-1.719	35	本報告
	(1.500-1.501)	(2)	(1.704-1.710)	(14)	
	(1.505-1.508)	(28)	(1.714-1.719)	(21)	
成田岩田堂館跡・試料 2 (SI12)	1.503-1.507	30	1.705-1.723	33	本報告
			(1.705-1.709)	(8)	
			(1.714-1.723)	(25)	
成田岩田堂館跡・試料 3 (SK60)	1.501-1.508	30	1.707-1.722	31	本報告
			(1.707-1.710)	(6)	
			(1.714-1.722)	(25)	
岩手県域の代表的指標テフラ (後期更新世以降)					
十和田 a (To-a)	1.500-1.508		1.706-1.708		1)
十和田中振 (To-Cu)	1.508-1.512		1.703-1.709		1)
鬼界アカホヤ (K-Ah)	1.506-1.513				1)
肘折尾花沢 (Hj-O)	1.499-1.504		1.712-1.715		1)
秋田駒柳沢 (Ak-Y)			1.718-1.723		1)
秋田駒小岩井 (Ak-K)			1.708-1.712		1)
十和田八戸 (To-H)	1.505-1.509		1.706-1.708		1)
浅間板鼻黄色 (As-YP)	1.502-1.504				1)
鳴子潟沼上原 (Nk-U)	1.492-1.500				1)
始良 Tn (AT)	1.498-1.501				1)
十和田大不動 (To-Of)	1.506-1.510		1.707-1.710		1)
鳴子柳沢 (Nr-Y)	1.500-1.503		1.717-1.722		1)
大山倉吉 (DKP)	1.508-1.514				1)
焼石山形 (Yk-Y)	1.501-1.503		1.720-1.725		1)
焼石村崎野 (Yk-M)	1.503-1.508		1.717-1.722		1)
阿蘇 4 (Aso-4)	1.506-1.510				1)
鳴子荷坂 (Nr-N)	1.500-1.502		1.724-1.728		1)
肘折北原 (Hj-Kth)	1.499-1.502		1.728-1.733		1)
御岳第 1 (On-Pm1)	1.500-1.503				1)
三瓶木次 (SK)	1.496-1.498				1)
洞爺 (Toya)	1.494-1.498				1)

本報告における屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定法 (壇原, 1993) による。

1) : 町田・新井 (2011). 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993).

1 火山灰分析

付表1 火山ガラスの屈折率(n)の内訳(数字は粒子数)

屈折率	試料1	試料2	試料3
1.4955=< n <1.4965			
1.4965=< n <1.4975			
1.4975=< n <1.4985			
1.4985=< n <1.4995			
1.4995=< n <1.5005	1		
1.5005=< n <1.5015	1		2
1.5015=< n <1.5025			1
1.5025=< n <1.5035		2	2
1.5035=< n <1.5045		7	2
1.5045=< n <1.5055	10	7	5
1.5055=< n <1.5065	11	9	6
1.5065=< n <1.5075	6	5	8
1.5075=< n <1.5085	1		4
1.5085=< n <1.5095			
1.5095=< n <1.5105			
1.5105=< n <1.5115			
1.5115=< n <1.5125			
1.5125=< n <1.5135			
1.5135=< n <1.5145			
1.5145=< n <1.5155			
1.5155=< n <1.5165			
1.5165=< n <1.5175			
1.5175=< n <1.5185			
1.5185=< n <1.5195			
1.5195=< n <1.5205			
1.5205=< n <1.5215			
1.5215=< n <1.5225			
1.5225=< n <1.5235			
1.5235=< n <1.5245			
1.5245=< n <1.5255			
1.5255=< n <1.5265			
1.5265=< n <1.5275			
1.5275=< n <1.5285			
1.5285=< n <1.5295			
1.5295=< n <1.5305			
total	30	30	30

付表2 斜方輝石の屈折率(γ)の内訳(数字は粒子数)

屈折率	試料1	試料2	試料3
1.6955=<γ<1.6965			
1.6965=<γ<1.6975			
1.6975=<γ<1.6985			
1.6985=<γ<1.6995			
1.6995=<γ<1.7005			
1.7005=<γ<1.7015			
1.7015=<γ<1.7025			
1.7025=<γ<1.7035			
1.7035=<γ<1.7045	1		
1.7045=<γ<1.7055	2	2	
1.7055=<γ<1.7065	2	1	
1.7065=<γ<1.7075	4	4	2
1.7075=<γ<1.7085	1		2
1.7085=<γ<1.7095	3	1	
1.7095=<γ<1.7105	1		2
1.7105=<γ<1.7115			
1.7115=<γ<1.7125			
1.7125=<γ<1.7135			
1.7135=<γ<1.7145	2	1	2
1.7145=<γ<1.7155	4	3	4
1.7155=<γ<1.7165	4	7	4
1.7165=<γ<1.7175	4	2	3
1.7175=<γ<1.7185	4	4	6
1.7185=<γ<1.7195	3	2	3
1.7195=<γ<1.7205		1	1
1.7205=<γ<1.7215		2	1
1.7215=<γ<1.7225		2	1
1.7225=<γ<1.7235		1	
1.7235=<γ<1.7245			
1.7245=<γ<1.7255			
1.7255=<γ<1.7265			
1.7265=<γ<1.7275			
1.7275=<γ<1.7285			
1.7285=<γ<1.7295			
1.7295=<γ<1.7305			
total	35	33	31

成田岩田堂館跡火山灰分析写真図版

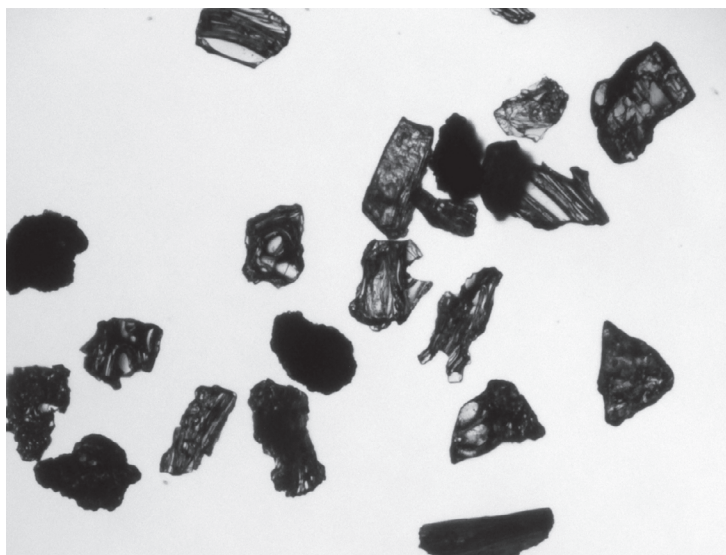


写真1 試料1 (SI06, 透過光)
 中央右下：スポンジ状軽石型ガラス,
 中央右, 中央右上など：繊維束状軽石型ガラス,
 右上 (有色鉱物)：単斜輝石.

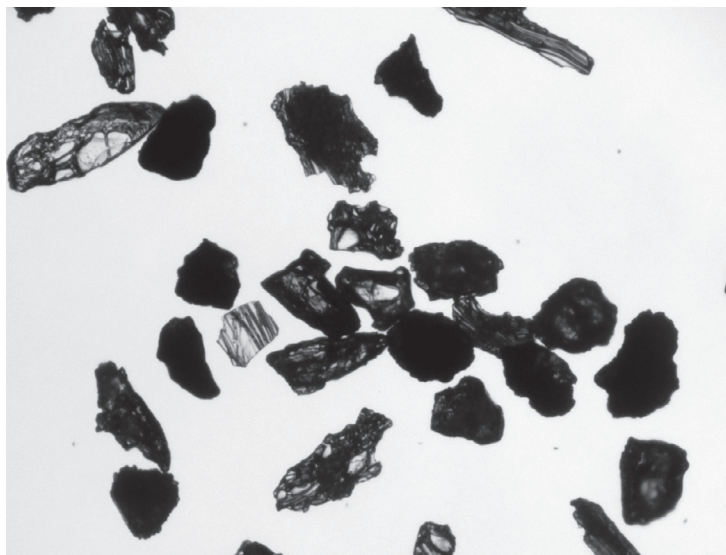


写真2 試料2 (SI12, 透過光)
 中央下など：繊維束状軽石型ガラス,
 中央左 (有色鉱物)：斜方輝石.

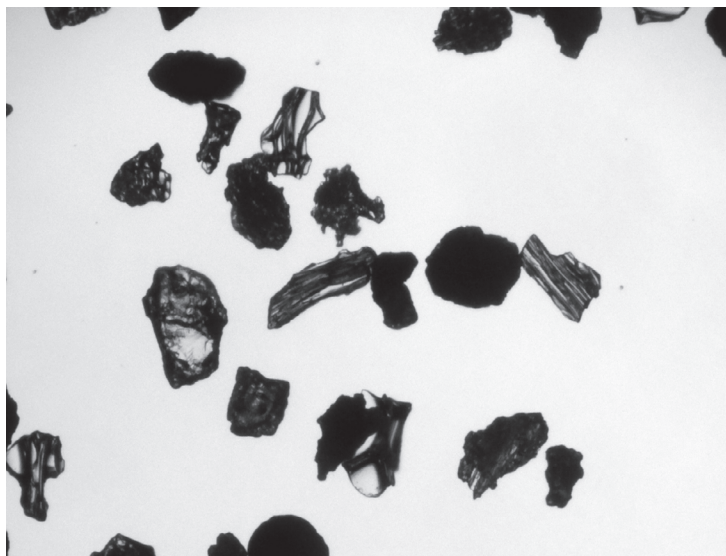


写真3 試料3 (SK60, 透過光)
 中央下：無色透明バブル型ガラス,
 中央左上など：スポンジ状軽石型ガラス,
 中央左など：繊維束状軽石型ガラス.

0.2 m

2 花粉分析

吉川昌伸（古代の森研究舎）

2.1 成田岩田堂館跡の縄文時代の陥し穴の花粉分析

成田岩田堂館跡は、北上市成田地区に所在し、北上川西岸の丘陵端部に立地する。本遺跡からは16世紀の戦国時代の城館に伴う遺構（土塁や堀跡）の他に、縄文時代の陥し穴や弥生時代の土器埋設、平安時代の竪穴建物などが見つかっている。ここでは、縄文時代の古環境と植物利用を明らかにすることを目的に、陥し穴底部の堆積物の花粉分析を行った。

2.2 試料と方法

分析試料は、縄文時代のSK26土坑とSKT03、SKT04、SKT05、SKT11、SKT12陥し穴の底部から採取された。陥し穴は長楕円形で、最も西側のSKT12から最も東側のSKT03へと概ね北西方向に配列し、SKT12とSKT03は約45m離れる。各土坑底部の堆積物は、オリーブ黒色土（砂質シルト）、黒褐色土（砂質シルト）、灰オリーブ色砂質土（砂質シルト）からなる（表1）。

花粉化石の抽出は、試料約2gを秤量し体積を測定後に10%KOH、傾斜法により粗粒砂を除去、48%HF、比重分離（比重2.15の臭化亜鉛）、アセトリシス処理の順に処理を行った。プレパラート作製は、残渣を適量に希釈しタッチミキサーで十分攪拌後、マイクロピペットで取り重量を測定（感量0.1mg）しグリセリンで封入した。同定と計数はプレパラート1~2枚を検鏡した。土坑から検出された花粉粒は少ないが産出傾向を捉えるため樹木花粉が50個体以上の試料について花粉分布図に示した。花粉化石の出現率は、樹木は樹木花粉数を基数とし、草本とシダ植物は花粉孢子数を基数として百分率で算出した。

分析試料の堆積物の特徴にかかわる有機物量、砂分量、シルト以下の細粒成分量、および生業の指標となる細粒微粒炭量を求めた。有機物量については強熱減量を測定し、電気マッフル炉により750℃で3時間強熱し、強熱による減量を乾燥重量百分率で算出した。細粒微粒炭量は、プレパラートの顕微鏡画像をデジタルカメラで取り込み、画像解析ソフトのImageJで75 μm^2 より大きいサイズの微粒炭の積算面積を求めた。

表1 分析試料の堆積物の特性（重量%）

試料	土坑	堆積物の特徴	砂	シルト粘土	強熱減量（有機物量）
1	SK26	オリーブ黒色土（細粒砂質シルト）	11.0	68.6	20.4
2	SKT03	オリーブ黒色土（細粒砂質シルト）	7.9	74.3	17.8
3	SKT04	黒褐色土（細粒砂質シルト）	11.2	66.4	22.4
4	SKT05	灰オリーブ色土（細粒砂質シルト）	14.5	69.3	16.2
5	SKT11	オリーブ黒色土（細粒砂質シルト）	12.7	71.8	15.5
6	SKT12	灰オリーブ色砂質土（細粒砂質シルト）	19.8	62.3	17.9

2.3 結果

SKT03からSKT12の5つの陥し穴底部の試料は、保存状態が悪い花粉が多いものの少量の花粉化石が検出された。花粉化石群の組成は、SKT05・SKT11・SKT12と、SKT03の2つに区分される。すなわち、前者はクリとクリ近似種が高率で産出し、次いでコナラ亜属やクルミ属などが検出された。他にSKT05ではケヤキ属、ニレ属、カエデ属、ウコギ科が産出し、細粒微粒炭は813~1053 mm^2 /

cm³と多く含まれていた。後者はコナラ属が高率でトチノキとクリが比較的多く占め、アサ近似種やゼンマイ科が産出し、細粒微粒炭は 950 mm²/cm³と多く含まれていた。一方で、SKT04 は樹木花粉が 35 粒と少ないが、花粉化石群は SKT03 と SKT05 の中間的な組成を示し、クリ、コナラ亜属、クリ近似種が相対的に多くトチノキも検出された。また、1929 mm²/cm³と夥しい量の細粒微粒炭が含まれていた。SKT04 から検出された花粉化石が少ないのは、細粒微粒炭が多く濃集できないため相対的に花粉量が少なくなったと推測される。

SK26 土坑は、ヨモギ属が僅かに検出されたのみで、2526 mm²/cm³と夥しい量の細粒微粒炭が含まれていた。

表 2 土坑と陥し穴底部から検出された花粉化石の一覧表 (APG III 分類体系に準拠)

和名	学名	遺構	SK26	SKT03	SKT04	SKT05	SKT11	SKT12
樹木								
ニレ属	<i>Ulmus</i>		-	-	-	1	-	-
ケヤキ属	<i>Zelkova</i>		-	1	1	2	-	-
ブナ	<i>Fagus crenata Blume</i>		-	1	-	-	-	2
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		-	62	9	9	7	5
クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>		-	12	13	17	15	9
クリ近似種	<i>cf. Castanea</i>		-	5	7	44	62	34
クルミ属	<i>Juglans</i>		-	-	1	1	2	2
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>		-	-	-	-	-	1
ハンノキ属	<i>Alnus</i>		-	-	2	2	2	2
キハダ属	<i>Phellodendron</i>		-	-	1	-	-	-
カエデ属	<i>Acer</i>		-	-	-	2	-	-
トチノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>		-	14	1	-	1	-
ウコギ科	Araliaceae		-	-	-	1	-	-
草本								
イネ科	Poaceae		-	8	2	2	2	7
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>		-	8	2	1	3	2
アサ近似種	<i>cf. Cannabis sativa L.</i>		-	1	-	-	-	-
フウロソウ属	<i>Geranium</i>		-	1	-	1	1	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>		4	30	3	3	10	2
他のキク亜科	other Carduoideae		-	3	2	4	2	7
タンポポ亜科	Lactucoideae		-	4	6	7	1	1
セリ科	Apiaceae		-	3	-	-	1	-
シダ植物								
ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>		-	-	-	-	-	1
ゼンマイ科	Osumundaceae		-	7	3	1	-	4
単条型孢子	Monolete spore		-	14	6	8	7	11
三条型孢子	Trilete spore		-	3	1	2	5	1
樹木花粉	Arboreal pollen		0	95	35	79	89	55
草本花粉	Nonarboreal pollen		4	58	15	18	20	19
シダ植物孢子	Fern spores		0	24	10	11	12	12
花粉・孢子数	Pollen and Spores		4	177	60	108	121	86
不明花粉	Unknown pollen		3	5	9	11	10	6
樹木花粉量 (粒/cm ³)			0	1340	1510	1060	1070	180
細粒微粒炭量 (mm ² /cm ³)			2526	950	1929	813	1053	933

2.4 考察

花粉化石の検出個数が少ないのは、保存状態が悪いことから一部の花粉は分解消失した可能性があるが、細粒微粒炭が多く含まれていることや土坑の速い埋積により相対的に少なくなったことも関係

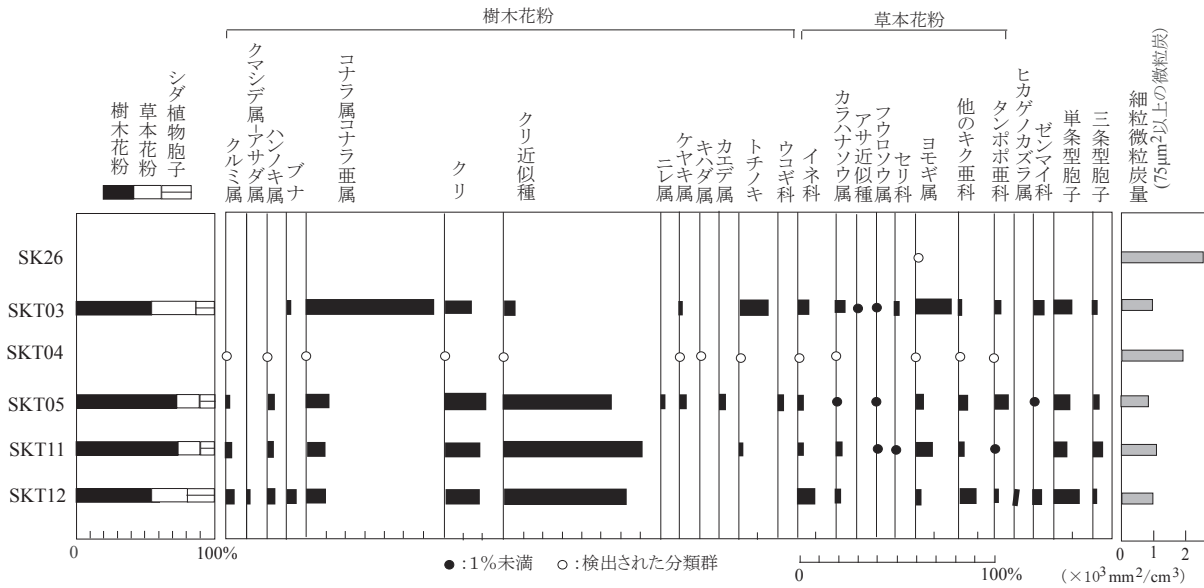


図1 土坑と陥し穴底部の主要花粉分布図
 (出現率は、樹木は樹木花粉数、草本・胞子は花粉胞子数を基数として百分率で算出した)

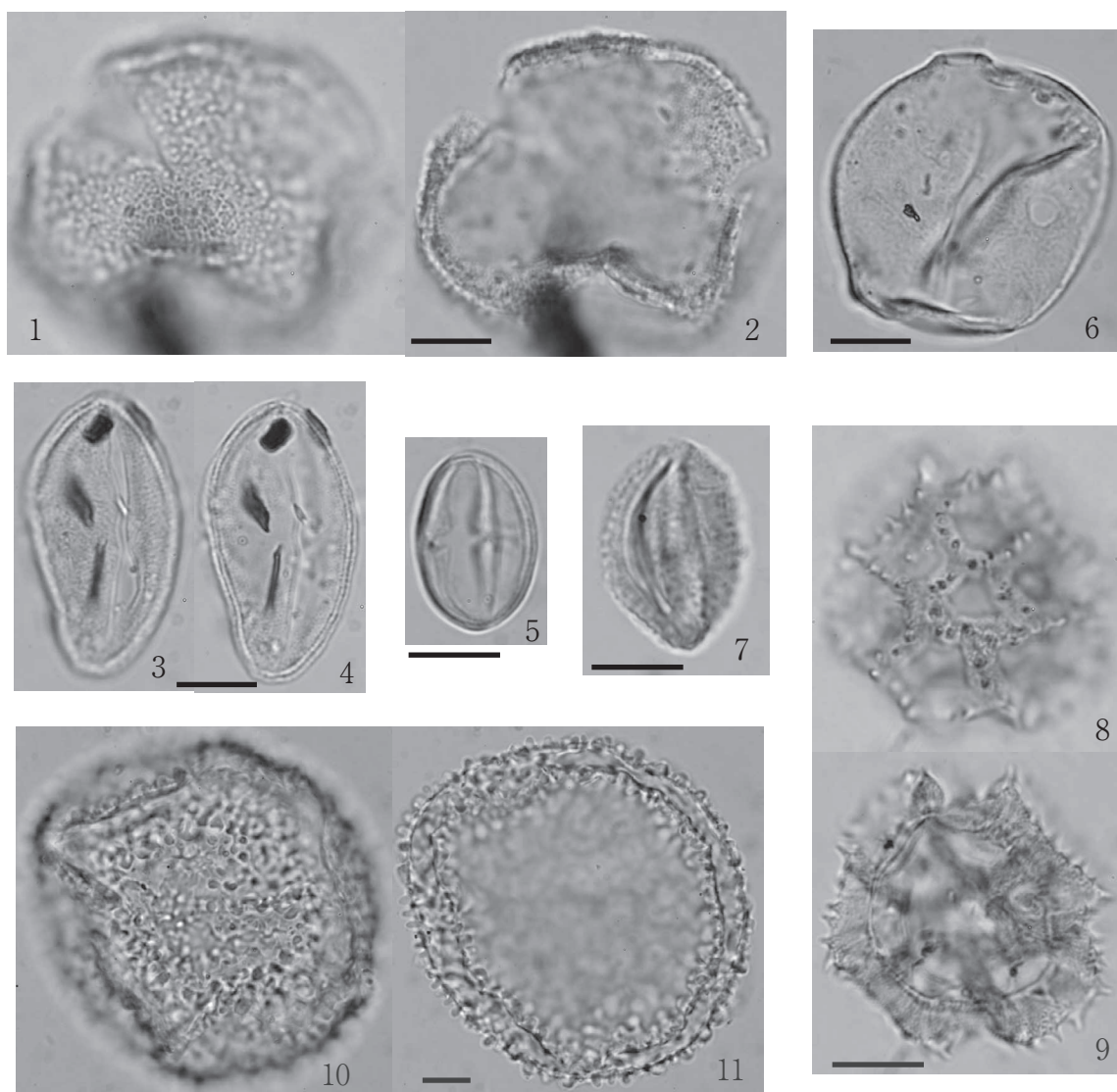
していると推定される。風成堆積物では、一般に花粉膜や胞子にスポロポレニンを多く含むヨモギ属などのキク科花粉、シダ植物胞子などは化学的な酸化分解に対し強靱なため相対的に残りやすい。陥し穴ではこれら分類群が優勢でないことから強い分解を受けているわけではなく、堆積時の花粉組成をかなり残していることが推定される。

陥し穴から検出された樹木花粉数は少ないが、花粉化石群の組成に傾向が認められる。つまり、調査区の西側のSKT05, SKT11, SKT12でクリ近似種とクリ花粉が77~86%と高率で産出しトチノキは稀、西側のSKT03ではコナラ亜属が高率でトチノキが15%を占めクリとクリ近似種は18%であった。クリ花粉の散布は、クリ林の周囲に落葉広葉樹林が広がっている状況における樹木花粉比率は、クリ純林内で30%以上、林内に約25m以上入った内部で約60%以上を占め、クリ林から離れると急減し、風下側の樹冠縁から約20mで5%以下、約200mでは1%以下とクリ花粉の散布範囲が狭い(吉川, 2011)。さらに、空中浮遊花粉の調査においてもクリ花粉の散布距離が短く、虫媒のトチノキ花粉は樹幹縁より約10m以内に大半が落下する(吉川, 2018)。クリやトチノキ花粉の散布状況に基づくと、SKT05、SKT11、SKT12はクリの樹冠の直下またはクリ林内にあり、SKT03の東側の傍にはトチノキが生えていたと考えられる。また、クリの木の密度や分布の広さは不明であるが、少なくともこれら陥し穴から半径約25mの範囲にはコナラ亜属などの風媒性樹木は生えていなかったと考えられる。

アサ近似種は、花粉壁が薄くなり花粉管が伸長する孔がいく分大きいため近似種としたが、花粉形態はほぼアサと一致する。アサは日本列島では千葉県館山市の沖ノ島遺跡の縄文時代早期の遺物包含層から最古の果実が検出されており(小林ほか, 2008)、アサ果実から約10000 cal BPの年代が得られている(工藤ほか, 2009)。アサの繊維や果実は利用され、花序と葉には幻覚物質が含まれる。大麻は戦前には各地で栽培されていたこともあり、現在でも北海道などで自生?とされる大麻が駆除されているが、縄文時代の遺跡からの出土例は少なく日本列島において自然に分布拡大していたとは考え難い。アサは雌雄異株の風媒花であるが大半の花粉が畑の縁より約50m以内で落下することから(吉川・工藤, 2014)、周辺にアサが分布していたと考えられ、栽培されていた可能性が高い。

引用文献

- 小林真生子・百原 新・沖津 進・柳澤清一・岡本東三. 2008. 千葉県沖ノ島遺跡から出土した縄文時代早期のアサ果実. 植生史研究 16, 11-18.
- 工藤雄一郎・小林真生子・百原 新・能城修一・中村俊夫・沖津 進・柳澤清一・岡本東三. 2009. 千葉県沖ノ島遺跡から出土した縄文時代早期のアサ果実の 14C 年代. 植生史研究 17, 29-33.
- 吉川昌伸. 2011. クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況. 植生史研究 18, 65-76.
- 吉川昌伸. 2018. 花粉散布距離の推定からわかったこと. 季刊考古学 145, 36-39.
- 吉川昌伸・工藤雄一郎. 2014. アサ花粉の同定とその散布. 国立歴史民俗博物館研究報告 187 集, 441-456.



図版 1 縄文時代の陥し穴から検出された花粉化石

1-2: コナラ亜属 (SKT03) 3-4: トチノキ (SKT04) 5: クリ (SKT11) 6: アサ近似種 (SKT03)

7: ヨモギ属 (SKT11) 8-9: タンポポ亜科 (SKT03) 10-11: ゼンマイ科 (SKT05)

スケール = 10 μm

3 獣骨分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

成田岩田堂館跡の出土骨について

成田岩田堂館跡(岩手県北上市成田1地割37番ほか)は、北上市成田地区に所在し、飯豊川の南岸、北上川の西岸の丘陵端部に位置する。2019年に実施された調査では、堀、土塁、掘立柱建物、焼土、土坑、落とし穴といった中世、弥生、縄文時代の遺構、弥生時代の土器、石器などの遺物が確認されている。

今回の分析調査では、本遺跡において出土した骨について種や部位の同定を行い、情報を得ることを目的とした。

3.1 試料

試料は、SK115埋土(No.2)、SK120埋土(No.1)、堀埋土-1(中位)(試3a)、堀埋土-2(試3b)より得られた骨である。SK115とSK120は、それぞれ3袋に分割して収納されていたが、ここでは一括して取り扱う。各遺構とも、複数点の破片がみられ、全試料を対象とした。

3.2 分析方法

これらの試料を肉眼で観察を行い、種および部位の同定を行った。また一部試料に対しては付着していた砂を除去するために刷毛・筆等でクリーニングを行い、一部の骨破片においては可能な限り、接合を試みた。状態が良好な歯はデジタルノギスを用いて歯冠長、歯冠幅、歯冠高を測定する。

3.3 結果

同定した結果の一覧を表1に、歯の計測値を表2に示す。検出された骨は全てウマの骨・歯、およびその一部である可能性が高い骨破片であった。以下各地点の検出結果を示す。なお、骨格各部位の名称については図1に示す。

SK115埋土(No.2)では、頭蓋骨、左右下顎骨、上顎骨/下顎骨、上顎歯、下顎歯、椎骨、右上腕骨、左右中手骨、指骨(基節骨)、左右寛骨、大腿骨?、右脛骨、脛骨?、左踵骨、踵骨?、右第3足根骨、左右中足骨が検出される。そのほかにも手根骨/足根骨、四肢骨、部位不明破片、礫が検出される。なお、右下顎骨は、第3・4前臼歯、第2・3後臼歯が植立する。

SK120埋土(No.1)では、頭蓋骨、左上顎骨、上顎骨、岩様骨、頬骨?、頭蓋骨、頭蓋骨?、左右下顎骨、上顎歯、下顎歯、左右肩甲骨、左上腕骨、寛骨、寛骨?、大腿骨?、第3足根骨/中心足根骨が検出される。そのほかにも中手骨/中足骨、中手骨/中足骨?、四肢骨、不明骨破片、礫が検出される。左下顎骨は、第2前臼歯～第3後臼歯が植立する。なお、左上顎歯と右上顎歯は、保存状態が明らかに異なっており、また現存する臼歯高も異なる。計測結果を示した表2では、左上顎歯をSK120(1)とし、右上顎および下顎骨をSK120(2)として表記している。

堀埋土-1(中位)(試3a)では、上顎歯の左右上顎第2・3前臼歯、左上顎第4前臼歯、左上顎第1・2後臼歯、右上顎第3後臼歯、左右下顎第2前臼歯が検出される。そのほかにも、歯の破片が検出される。

堀埋土-2(試3b)では、左右上顎第2・3・4前臼歯、右上顎第1後臼歯、左上顎第1後臼歯?、右

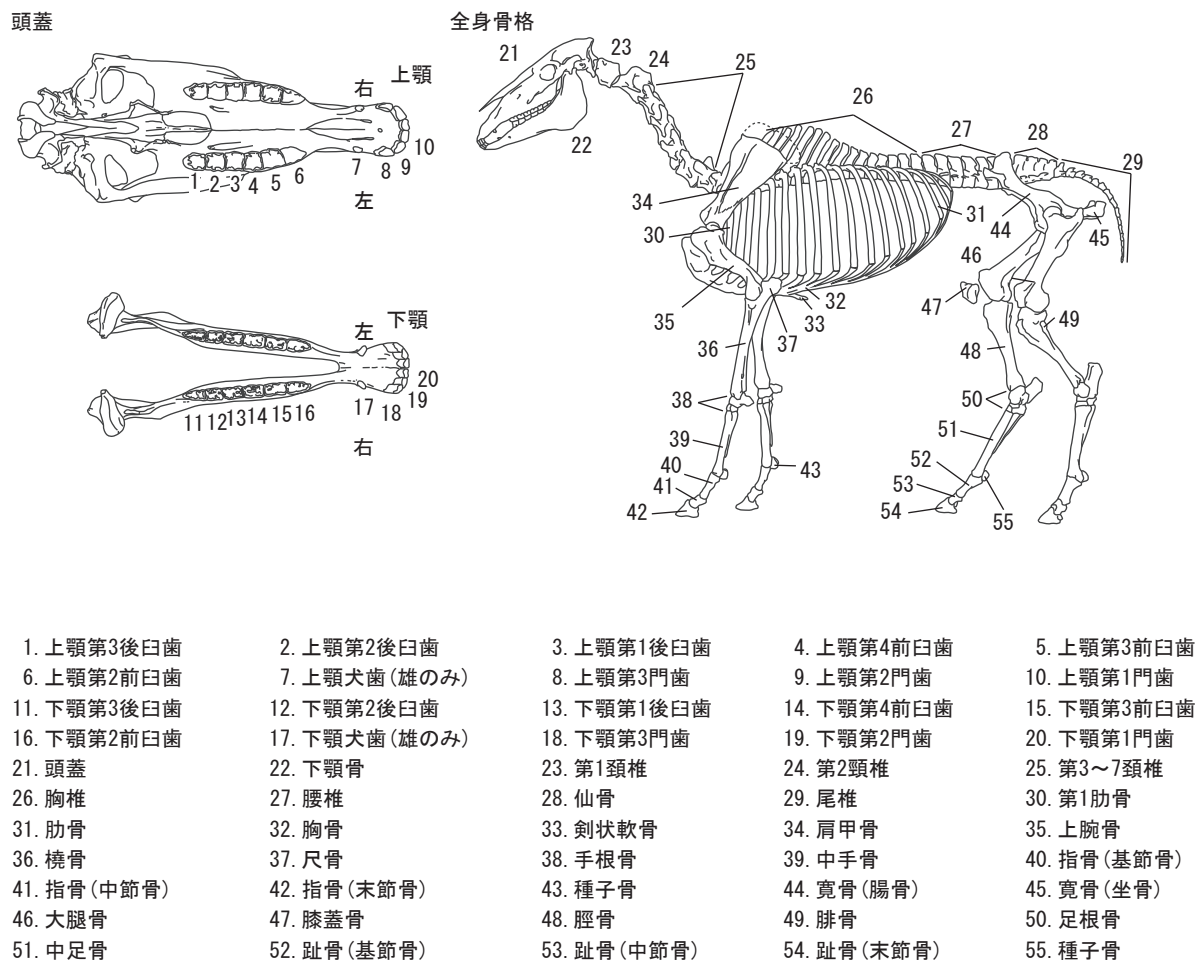


図1 ウマ骨格各部の名称(久保・松井(1999)に加筆)

上顎第2・3後臼歯、右下顎第2前臼歯、左右下顎第3・4前臼歯、左右下顎第1・2後臼歯、右下顎第3後臼歯が検出される。そのほかにも左下顎歯や歯の破片などが検出される。

3.4 考 察

今回、SK115埋土、SK120埋土、試3a(堀埋土-1(中位))、試3b(堀埋土-2)で検出された骨は、いずれもウマ目(Perissodactyla)ウマ科(Equidae)ウマ(*Equus caballus*)である。一般的にウマは、運搬や農耕などの使役、軍事、さらに犠牲祭祀としての利用が考えられている。SK115、SK120は、頭蓋の他、少なからず四肢骨が検出されていることから、全身が埋められていたことが推定される。一方、堀埋土-1・2では歯のみの検出であるが、頭蓋のみが埋められていたのか、あるいは他の部位が分解・消失して歯のみが残存しているのか判断つかない。

ところで、ウマの歯は、歯槽から萌出した時点が最も長く、その後次第に短くなるため、西中川ほか(1991)によって、臼歯の計測値から月齢を算出する推定式が考案されている。また、西中川ほか(1991)によって示された部分的な計測値から最大骨長を推定し、それをもとに林田・山内(1957)より体高を推定した(表3)。

SK115で出土したウマは、年齢が11~12歳前後、臼歯長から推定される体高約115~125cmとなりトカラ馬程度の小型馬である。犬歯が認められないことから雌個体である。

3 獸骨分析

表1 骨同定結果 (1)

遺構	試料名	No.	種類	部位	左	右	状態	数量	備考
SK115	埋土	2	ウマ	頭蓋骨			破片	2	
				下顎骨	左		破片	1	
					右		破片	1	P3-P4、M2-M3 植立, 計測
					右		破片	1	雌個体
							下顎枝	1	
							破片	7	
				上顎骨/下顎骨			破片	2	
				上顎第1門歯	左		略完	1	
					右		破片	1	
				上顎第2門歯	左		破片	1	
					右		破片	1	
				上顎第3門歯	左		破片	1	
				上顎第2前臼歯		右	破片	1	計測
				上顎第3前臼歯		右	略完	1	計測
				上顎第4前臼歯	左		破片	1	計測
					右		略完	1	計測
				上顎第1後臼歯	左		破片	1	計測
					右		略完	1	計測
				上顎第2後臼歯		右	略完	1	計測
				上顎第3後臼歯	左		破片	1	計測
					右		略完	1	計測
				下顎第3門歯		右	略完	1	
				下顎第2前臼歯	左		破片	1	計測
					右		略完	1	計測
				下顎第3前臼歯	左		略完	1	計測
				下顎第4前臼歯	左		略完	1	計測
				下顎第1後臼歯	左		略完	1	計測
					右		略完	1	計測
				下顎第2後臼歯	左		略完	1	計測
				下顎第3後臼歯	左		略完	1	計測
				門歯			破片	1	
				歯			破片	13	
				椎骨			椎体片	1	
				上腕骨		右	両端欠	1	
				中手骨	左		遠位端欠	1	
					右		遠位端欠	1	後面欠
				指骨(基節骨)			破片	2	
				寛骨	左		破片	1	
					右		破片	1	
				大腿骨?			遠位端片?	2	
				脛骨		右	両端欠	1	
				脛骨?			破片	1	
踵骨	左		破片	1					
踵骨?			破片	1					
第3足根骨		右	破片	1					
中足骨	左		近位端欠	1					
	右		遠位端欠	1					
手根骨/足根骨			破片	2					
四肢骨			破片	16					
不明	不明		破片	7	他微細片(23.9 g)				
磔				1					

表1 骨同定結果 (2)

遺構	試料名	No.	種類	部位	左	右	状態	数量	備考
SK120	埋土	1	ウマ	頭蓋骨			岩様骨	1	
							破片	1	
				頭蓋骨?			頬骨片?	1	
							破片	1	
				上顎骨	左		破片	1	
							破片	2	
				下顎骨	左		略完	1	P ₂ -M ₃ 植立, 雌個体, 計測
					右		破片	1	
				上顎第1門歯	左		破片	1	
					右		破片	1	
				上顎第2門歯	左		破片	1	
					右		破片	1	
				上顎第2前臼歯	左		略完	1	別個体, 計測
					右		破片	1	計測
				上顎第3前臼歯	左		略完	1	別個体, 計測
					右		破片	1	計測
				上顎第4前臼歯	左		略完	1	別個体, 計測
					右		破片	1	計測
				上顎第1後臼歯		右	破片	1	計測
				上顎第2後臼歯	左		略完	1	別個体, 計測
					右		破片	1	計測
				上顎第3後臼歯	左		略完	1	別個体, 計測
					右		破片	1	計測
				下顎第1門歯	左		破片	1	
					右		破片	1	
				下顎第2門歯	左		破片	1	
					右		破片	1	
				下顎第3門歯	左		破片	1	
				下顎第2前臼歯		右	破片	1	
				下顎第3前臼歯		右	略完	1	計測
				下顎第4前臼歯		右	略完	1	計測
				下顎第1後臼歯		右	略完	1	計測
				下顎第2後臼歯		右	略完	1	計測
				下顎第3後臼歯		右	略完	1	計測
				下顎門歯			破片	1	
				肩甲骨	左		破片	1	
					右		破片	1	
				上腕骨	左		破片	1	
				寛骨			破片	1	
				寛骨?			破片	1	
				大腿骨?			遠位端片?	1	
第3足根骨/中心足根骨			破片	1					
中手骨/中足骨			破片	2					
中手骨/中足骨?			破片	1					
四肢骨			破片	15					
不明	不明		破片	57	他微細片 (21.5 g)				
磔				1					

3 獣骨分析

表1 骨同定結果 (3)

遺構	試料名	No.	種類	部位	左	右	状態	数量	備考
試3a	堀埋土-1 (中位)		ウマ	上顎第2前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				上顎第3前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				上顎第4前臼歯	左		破片	1	計測
				上顎第1後臼歯	左		破片	1	計測
				上顎第2後臼歯	左		破片	1	計測
				上顎第3後臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
下顎第2前臼歯	左		略完	1	計測				
	右		略完	1	計測				
			歯			破片	1	他微細片 (3.62 g)	
試3b	堀埋土-2		ウマ	上顎第2前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				上顎第3前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				上顎第4前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				上顎第1後臼歯		右	破片	1	計測
				上顎第1後臼歯?	左		破片	1	
				上顎第2後臼歯		右	破片	1	計測
				上顎第3後臼歯		右	破片	1	計測
				下顎第2前臼歯		右	破片	1	計測
				下顎第3前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				下顎第4前臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				下顎第1後臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
				下顎第2後臼歯	左		破片	1	計測
					右		破片	1	計測
下顎第3後臼歯		右	破片	1	計測				
下顎歯	左		破片	1					
			歯			破片	14	他微細片 (2.53 g)	

SK120 で出土したウマは、保存状態や現存する臼歯高などから判断すると、左上顎歯と右上顎歯は別個体と考えられ、少なくとも2個体存在していたと判断される。左上顎歯(表3:SK120(1))は、年齢が16歳程度である。右上顎歯(表3:SK120(2))は、破損しているため破損しているため正確な臼歯高を計測できないが、残存する臼歯高を参考とすると年齢が12歳よりも若い個体であると考えられる。臼歯長から推定される体高120cm前後となり、トカラ馬程度の小型馬である。一方、左下顎骨と右下顎歯は、形状が類似することから同一個体とみられる。右下顎骨でみると年齢が11~12歳程度、犬歯が認められないことから雌個体である。なお、年齢を考慮すると右上顎歯と左右下顎骨が同一個体の可能性がある。

堀埋土-1(中位)は、年齢が15~16歳程度で、臼歯長から推定される体高約115~125cmとなりトカラ馬程度の小型馬である。

堀埋土-2は、破損しているため計測不可であったが、残存する臼歯高を参考とすると4歳よりも若い個体の可能性がある。臼歯長から推定される体高約125~135cmとなり、木曾馬・三崎馬程度の中型馬である。他の地点で検出されたウマよりも大型であったとみられる。

表2 歯計測結果

計測箇所	SK115											
歯冠長	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎			24.60	21.92		23.81	33.19	26.13	26.56	22.63	22.88	25.66
下顎	24.71	25.16	24.98	21.92	21.82	28.78	27.94	25.97	24.67	23.55	22.87	29.88
歯冠幅	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎			27.35	25.81		23.03	23.51	28.40	30.54	27.95	24.40	21.90
下顎	12.92	15.14	16.13	14.55	13.43	12.23	15.50	18.17	19.93	16.47	15.82	16.58
臼歯高	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎			-	-		-	-	33.40	30.64	30.33	31.47	30.65
下顎	-	30.87	40.48	39.69	36.16	33.16	23.81	35.30	45.17	43.82	35.43	30.71
計測箇所	SK120 (1)											
歯冠長	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	30.37	23.02	19.74		19.91	24.67						
下顎												
歯冠幅	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	19.55	22.91	23.20		21.71	21.48						
下顎												
臼歯高	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	16.31	20.37	17.58		18.30	22.54						
下顎												
計測箇所	SK120 (2)											
歯冠長	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎							30.30	27.04	23.95	20.18	22.28	24.44
下顎	-	21.66	21.79	18.18	20.55	28.68	-	24.69	23.30	21.24	22.94	29.70
歯冠幅	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎							19.54	28.66	26.87	29.96	26.70	23.44
下顎	-	13.59	14.28	14.98	12.26	10.50	-	16.67	16.41	16.89	14.41	14.59
臼歯高	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎							-	(23.76)	(25.42)	(18.07)	(26.51)	(30.53)
下顎	-	-	-	-	-	-	-	32.69	32.52	28.64	37.95	32.72
計測箇所	堀埋土-1 (中位)											
歯冠長	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	27.45	23.01	23.48	20.98	20.63	21.60	29.23	25.64				21.32
下顎	24.01						11.74					
歯冠幅	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	16.88	23.67	26.93	21.72	23.15	19.25	14.68	22.72				19.58
下顎	12.33						21.10					
臼歯高	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	-	-	-	-	-	-	-	-				-
下顎	16.38						15.71					
計測箇所	堀埋土-2											
歯冠長	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	-	27.58	25.58	22.74			36.28	26.88	26.92	23.02	24.65	28.34
下顎		26.19	25.09	23.20	25.11		30.64	26.13	26.57	24.80	26.59	27.54
歯冠幅	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	18.33	-	-	-			24.19	25.60	-	25.59	23.62	21.50
下顎		15.81	-	14.87	15.57		13.32	15.65	15.46	14.75	13.56	13.02
臼歯高	左						右					
	P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3
上顎	(43.22)	(48.60)	(49.85)	(36.25)			(50.02)	(52.70)	(50.85)	(41.34)	(46.54)	(46.32)
下顎		(44.96)	(49.34)	(40.57)	(46.07)		(35.01)	(44.96)	(51.50)	(43.29)	(50.42)	(48.12)

凡例 - : 計測不可 空欄 : 未検出 () の数字は残存する臼歯高

表 3. 歯計測結果

地点	部位		計測値			西中川ほか (1991) による 骨長推定値				林田・山内 (1957) による 推定体高		
			P2-P4	M1-M3	P2-M3							
SK115	上顎	左	-	-	-	頭蓋基底長	左	-	cm	体高	-	cm
		右	85.88	71.17	157.05	(P-B)	右	44.77	cm		126.67	cm
	下顎	左	74.85	72.52	147.37	下顎骨最大長	左	38.01	cm		115.48	cm
		右	78.58	76.30	154.88	(id-cm)	右	38.73	cm		119.90	cm
SK120 (1)	上顎	左	73.13	-	-	頭蓋基底長	左	-	cm	体高	-	cm
		右	-	-	-	(P-B)	右	-	cm		-	cm
	下顎	左	-	-	-	下顎骨最大長	左	-	cm		-	cm
		右	-	-	-	(id-cm)	右	-	cm		-	cm
SK120 (2)	上顎	左	-	-	-	頭蓋基底長	左	-	cm	体高	-	cm
		右	81.29	66.90	148.19	(P-B)	右	43.74	cm		121.73	cm
	下顎	左	-	67.41	-	下顎骨最大長	左	-	cm		-	cm
		右	-	73.84	-	(id-cm)	右	-	cm		-	cm
堀埋土-1 (中位)	上顎	左	73.94	63.21	137.15	頭蓋基底長	左	43.42	cm	体高	120.13	cm
		右	-	-	-	(P-B)	右	-	cm		-	cm
	下顎	左	-	-	-	下顎骨最大長	左	-	cm		-	cm
		右	-	-	-	(id-cm)	右	-	cm		-	cm
堀埋土-2	上顎	左	-	-	-	頭蓋基底長	左	-	cm	体高	-	cm
		右	90.08	76.01	166.09	(P-B)	右	46.53	cm		134.01	cm
	下顎	左	-	-	-	下顎骨最大長	左	-	cm		-	cm
		右	83.34	78.93	162.27	(id-cm)	右	39.84	cm		126.10	cm

注) P: 前臼歯 M: 後臼歯

以上、今回の出土したウマを整理すると、SK115で1個体、SK120で2個体、堀埋土-1で1個体、堀埋土-2で1個体、合計4個体が確認された。これらのウマは、堀埋土-2の1個体が中型馬でやや若い個体であるが、それ以外の小型馬で比較的高齢な個体である。松井(1997)によると、ウマ・ウシの出土例を整理・分類すると、自然死・事故死、屠殺、犠牲に分類できるとしている。本遺跡で出土するウマの多くが高齢個体であることを考慮すると、大半は自然死等であった可能性が高い。

引用文献

- 林田 重幸・山内 忠平, 1957, 馬における骨長より体高の推定法. 鹿児島大学農学部学術報告書, 6, 146-156.
- 久保和士・松井 章, 1999, 家畜その2-ウマ・ウシ. 西本 豊弘・松井 章編, 考古学と自然科学②考古学と動物学, 同成社, 169-208.
- 松井 章, 1997, 考古学からみた動物利用. 部落解放なら, 8, 奈良県部落解放研究所, 2-31.
- 西中川 駿・本田 道輝・松元 光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究. 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 197p.

図版 1 出土骨 (1)



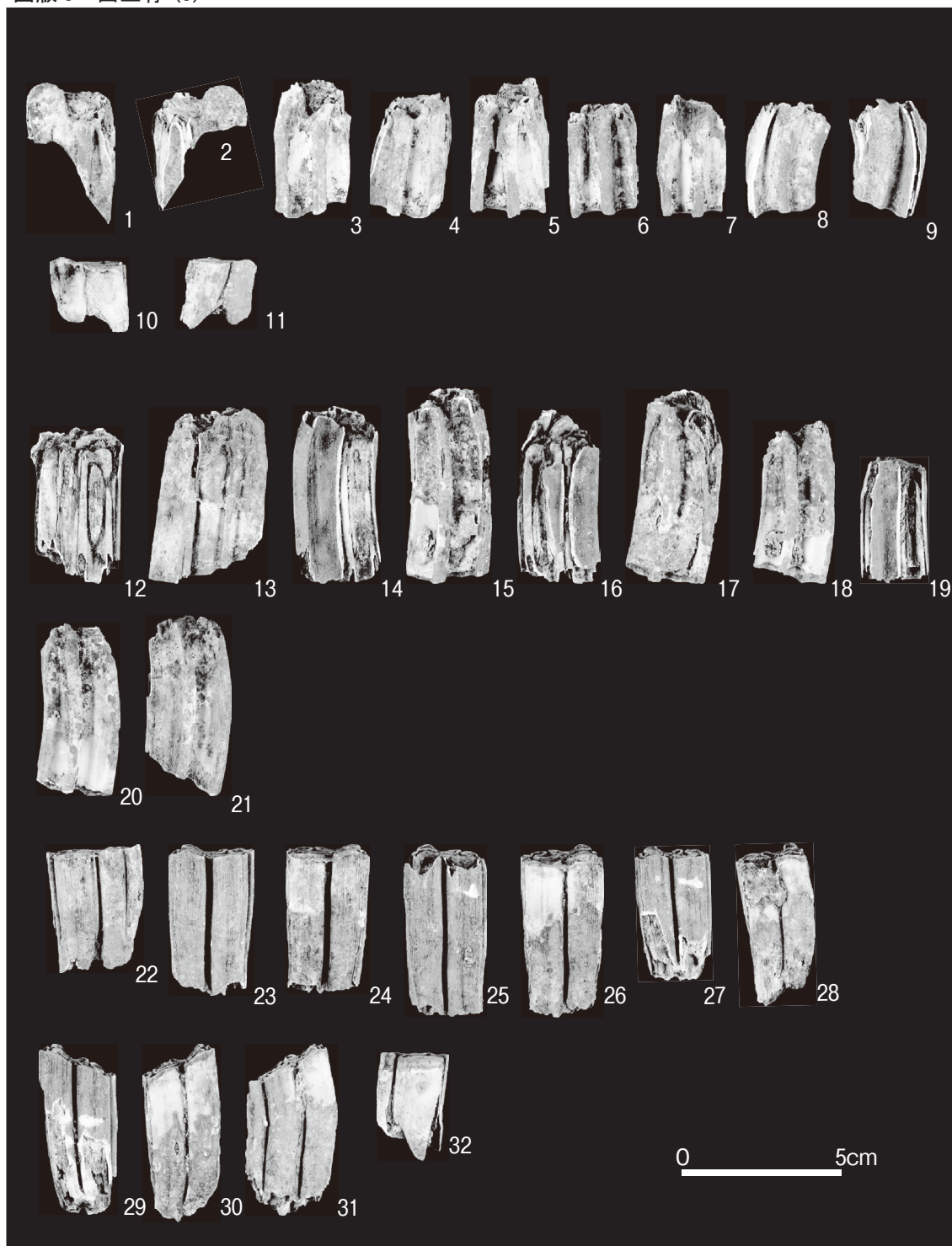
- | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 頭蓋骨 (SK115:No.2) | 2. 左下顎骨 (SK115:No.2) | 3. 右下顎骨 (SK115:No.2) |
| 4. 右下顎骨破片 (SK115:No.2) | 5. 左上顎第 1 門歯 (SK115:No.2) | 6. 右上顎第 1 門歯 (SK115:No.2) |
| 7. 左上顎第 2 門歯 (SK115:No.2) | 8. 右上顎第 2 門歯 (SK115:No.2) | 9. 左上顎第 3 門歯 (SK115:No.2) |
| 10. 右上顎第 2 前臼歯 (SK115:No.2) | 11. 右上顎第 3 前臼歯 (SK115:No.2) | 12. 左上顎第 4 前臼歯 (SK115:No.2) |
| 13. 右上顎第 4 前臼歯 (SK115:No.2) | 14. 左上顎第 1 後臼歯 (SK115:No.2) | 15. 右上顎第 1 後臼歯 (SK115:No.2) |
| 16. 右上顎第 2 後臼歯 (SK115:No.2) | 17. 左上顎第 3 後臼歯 (SK115:No.2) | 18. 右上顎第 3 後臼歯 (SK115:No.2) |
| 19. 右下顎第 3 門歯 (SK115:No.2) | 20. 左下顎第 2 前臼歯 (SK115:No.2) | 21. 右下顎第 2 前臼歯 (SK115:No.2) |
| 22. 左下顎第 3 前臼歯 (SK115:No.2) | 23. 左下顎第 4 前臼歯 (SK115:No.2) | 24. 左下顎第 1 後臼歯 (SK115:No.2) |
| 25. 右下顎第 1 後臼歯 (SK115:No.2) | 26. 左下顎第 2 後臼歯 (SK115:No.2) | 27. 左下顎第 3 後臼歯 (SK115:No.2) |
| 28. 椎骨 (SK115:No.2) | 29. 右上腕骨 (SK115:No.2) | 30. 左中手骨 (SK115:No.2) |
| 31. 右中手骨 (SK115:No.2) | 32. 指骨 (基節骨) (SK115:No.2) | 33. 左寛骨 (SK115:No.2) |
| 34. 右寛骨 (SK115:No.2) | 35. 大腿骨? (SK115:No.2) | 36. 右脛骨 (SK115:No.2) |
| 37. 左踵骨 (SK115:No.2) | 38. 右第 3 足根骨 (SK115:No.2) | 39. 左中足骨 (SK115:No.2) |
| 40. 右中足骨 (SK115:No.2) | 41. 手根/足根骨 (SK115:No.2) | |

図版 2 出土骨 (2)



- | | | |
|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 岩様骨 (SK120:No.1) | 2. 頭蓋骨 (SK120:No.1) | 3. 左上顎骨 (SK120:No.1) |
| 4. 左下顎骨 (SK120:No.1) | 5. 右下顎骨 (SK120:No.1) | 6. 左上顎第 1 門歯 (SK120:No.1) |
| 7. 左上顎第 1 門歯 (SK120:No.1) | 8. 左上顎第 2 門歯 (SK120:No.1) | 9. 右上顎第 2 門歯 (SK120:No.1) |
| 10. 左上顎第 2 前臼歯 (SK120:No.1) | 11. 右上顎第 2 前臼歯 (SK120:No.1) | 12. 左上顎第 3 前臼歯 (SK120:No.1) |
| 13. 右上顎第 3 前臼歯 (SK120:No.1) | 14. 左上顎第 4 前臼歯 (SK120:No.1) | 15. 右上顎第 4 前臼歯 (SK120:No.1) |
| 16. 右上顎第 1 後臼歯 (SK120:No.1) | 17. 左上顎第 2 後臼歯 (SK120:No.1) | 18. 右上顎第 2 後臼歯 (SK120:No.1) |
| 19. 左上顎第 3 後臼歯 (SK120:No.1) | 20. 右上顎第 3 後臼歯 (SK120:No.1) | 21. 左下顎第 1 門歯 (SK120:No.1) |
| 22. 右下顎第 1 門歯 (SK120:No.1) | 23. 左下顎第 2 門歯 (SK120:No.1) | 24. 右下顎第 2 門歯 (SK120:No.1) |
| 25. 左下顎第 3 門歯 (SK120:No.1) | 26. 右下顎第 2 前臼歯 (SK120:No.1) | 27. 右下顎第 3 前臼歯 (SK120:No.1) |
| 28. 右下顎第 4 前臼歯 (SK120:No.1) | 29. 右下顎第 1 後臼歯 (SK120:No.1) | 30. 右下顎第 2 後臼歯 (SK120:No.1) |
| 31. 右下顎第 3 後臼歯 (SK120:No.1)) | 32. 左肩甲骨 (SK120:No.1) | 33. 右肩甲骨 (SK120:No.1) |
| 34. 左上腕骨 (SK120:No.1) | 35. 寛骨 (SK120:No.1) | 36. 大腿骨? (SK120:No.1) |
| 37. 第 3 中手骨/中心足根骨 (SK120:No.1) | 38. 中手骨/中足骨 (SK120:No.1) | |

図版3 出土骨(3)



- | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 左上顎第2前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 2. 右上顎第2前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 3. 左上顎第3前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) |
| 4. 右上顎第3前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 5. 左上顎第4前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 6. 左上顎第1後臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) |
| 7. 左上顎第2後臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 8. 左上顎第3後臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 9. 右上顎第3後臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) |
| 10. 左下顎第2前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 11. 右下顎第2前臼歯(堀埋土-1(中位):試3a) | 12. 左上顎第2前臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 13. 右上顎第2前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 14. 左上顎第3前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 15. 右上顎第3前臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 16. 左上顎第4前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 17. 右上顎第4前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 18. 右上顎第1後臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 19. 左上顎第1後臼歯?(堀埋土-2:試3b) | 20. 右上顎第2後臼歯(堀埋土-2:試3b) | 21. 右上顎第3後臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 22. 右下顎第2前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 23. 左下顎第3前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 24. 右下顎第3前臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 25. 左下顎第4前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 26. 右下顎第4前臼歯(堀埋土-2:試3b) | 27. 左下顎第1後臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 28. 右下顎第1後臼歯(堀埋土-2:試3b) | 29. 左下顎第2後臼歯(堀埋土-2:試3b) | 30. 右下顎第2後臼歯(堀埋土-2:試3b) |
| 31. 右下顎第3後臼歯(堀埋土-2:試3b) | 32. 左下顎歯(堀埋土-2:試3b) | |

4 放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

4.1 測定対象試料

成田岩田堂館跡は、岩手県北上市成田1地割37番地1(北緯39°20'29"、東経141°07'54")に所在し、北上川西岸、飯豊川との合流点に当たる河岸段丘縁辺部に立地する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化物35点である(表1)。試料12の炭化物は、その形状から種実の可能性はある。

4.2 測定の意義

遺構に伴う遺物がなく、遺構の年代を知る一助とする。

4.3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4.4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4.5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。

pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma=68, 2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma=95, 4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4. 3 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

4.6 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

SB06、09、10、11、13、14、15、17、19、20、21、24 から出土した試料 12 点 (試料 1~12) のうち、試料 4 を除く 11 点の ^{14}C 年代は、 $420 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 3) から $350 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 7) の間にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、11 点の中で最も古い試料 3 が $1441 \sim 1465\text{cal AD}$ の範囲、最も新しい試料 7 が $1475 \sim 1625\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で示される。試料 4 の ^{14}C 年代は $1560 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は $430 \sim 540\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で示され、古墳時代中期から後期頃に相当する (佐原 2005)。

SK03、04、11、17、20、25、26、59、77、65、67、109、119 から出土した 13 点 (試料 13~25) の年代値はかなりの幅があり、ここでは大きく 3 つに分けて記述する。試料 13、14、16、22 の 4 点の ^{14}C 年代は、 $1190 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 14) から $1080 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 22) の間にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、4 点の中で最も古い試料 13 が $778 \sim 890\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲、最も新しい試料 22 が $903 \sim 1013\text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲で示される。試料 15、17~21、23、24 の 8 点の ^{14}C 年代は、 $7500 \pm 30\text{yrBP}$ (試料 18) から $3760 \pm 30\text{yrBP}$ (試料 15) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、8 点の中で最も古い試料 18 が $6431 \sim 6365\text{cal BC}$ の範囲、最も新しい試料 15 が $2206 \sim 2065\text{cal BC}$ の間に 2 つの範囲で示される。古い方から順に試料 18、19 が縄文時代早期後葉頃、試料 17、24 が前期前葉から中葉頃、試料 20、21、23 が中期前葉から中葉頃、試料 15 が後期前葉頃に相当する (小林編 2008、小林 2017)。試料 25 の ^{14}C 年代は $220 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は $1653 \sim 1798\text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲で示される。なお、試料 25 の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する (表 2 下の警告参照)。

SX06、07、10、01 から出土した試料 4 点 (試料 26~28、35) の ^{14}C 年代は、 $1180 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 35) から $970 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 28) の間にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、4 点の中で最も古い試料 35 が $778 \sim 884\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲、最も新しい試料 28 が $1023 \sim 1147\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で示される。

4 放射性炭素年代 (AMS 測定)

SI01、04~06、11、12 から出土した試料 6 点 (試料 29~34) のうち、試料 33 を除く 5 点の ^{14}C 年代は、 $1240 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 34) から $1050 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 29) の間にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、5 点の中で最も古い試料 34 が 691~800cal AD の間に 3 つの範囲、最も新しい試料 29 が 987~1016cal AD の範囲で示される。試料 33 の ^{14}C 年代は $4510 \pm 30\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は 3338~3107 cal BC の間に 5 つの範囲で示され、縄文時代中期前葉から中葉頃に相当する (小林編 2008、小林 2017)。

試料の炭素含有率はすべて 40% を超えるおおむね適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360
 小林謙一 2017 縄文時代の実年代 一土器型式編年と炭素 14 年代一, 同成社
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50, 000 years cal BP, Radiocarbon 55 (4), 1869-1887
 佐原真 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学 上 ドイツ展記念概説, 学生社, 14-19
 Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19 (3), 355-363

表 1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值) (1)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-191539	1	SB06 (P118) 埋土	炭化物	AAA	-23.68 ± 0.20	360 ± 20	95.58 ± 0.26
IAAA-191540	2	SB09 (P480) 埋土	炭化物	AAA	-24.97 ± 0.24	380 ± 20	95.42 ± 0.26
IAAA-191541	3	SB10 (P16) 埋土	炭化物	AAA	-24.47 ± 0.21	420 ± 20	94.87 ± 0.26
IAAA-191542	4	SB11 (P134) 埋土	炭化物	AAA	-25.77 ± 0.22	1,560 ± 20	82.33 ± 0.23
IAAA-191543	5	SB13 (P798) 埋土	炭化物	AAA	-25.12 ± 0.19	370 ± 20	95.46 ± 0.25
IAAA-191544	6	SB14 (P788) 埋土	炭化物	AaA	-25.09 ± 0.21	360 ± 20	95.67 ± 0.26
IAAA-191545	7	SB15 (P848) 埋土	炭化物	AAA	-27.21 ± 0.22	350 ± 20	95.69 ± 0.26
IAAA-191546	8	SB17 (P706) 埋土	炭化物	AAA	-23.96 ± 0.22	370 ± 20	95.45 ± 0.25
IAAA-191547	9	SB19 (P653) 埋土	炭化物	AAA	-24.68 ± 0.21	390 ± 20	95.31 ± 0.26
IAAA-191548	10	SB20 (P583) 埋土	炭化物	AAA	-24.65 ± 0.19	370 ± 20	95.52 ± 0.26
IAAA-191549	11	SB21 (P578) 埋土	炭化物	AAA	-24.53 ± 0.20	390 ± 20	95.29 ± 0.25
IAAA-191550	12	SB24 西門 (P174) 埋土	炭化物	AaA	-22.43 ± 0.21	370 ± 20	95.47 ± 0.26
IAAA-191551	13	SK03 埋土 6 層下位	炭化物	AAA	-24.41 ± 0.20	1,170 ± 20	86.40 ± 0.23
IAAA-191552	14	SK04 埋土 5 層	炭化物	AAA	-29.95 ± 0.21	1,190 ± 20	86.20 ± 0.24
IAAA-191553	15	SK11 埋土	炭化物	AAA	-25.44 ± 0.23	3,760 ± 30	62.65 ± 0.20
IAAA-191554	16	SK17 埋土	炭化物	AAA	-26.53 ± 0.22	1,100 ± 20	87.15 ± 0.25
IAAA-191555	17	SK20 埋土	炭化物	AaA	-28.24 ± 0.27	5,310 ± 30	51.61 ± 0.18
IAAA-191556	18	SK25 埋土	炭化物	AAA	-25.08 ± 0.20	7,500 ± 30	39.30 ± 0.16

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值) (2)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-191557	19	SK26 埋土	炭化物	AAA	-26.26 ± 0.20	7,480 ± 30	39.41 ± 0.16
IAAA-191558	20	SK59 埋土	炭化物	AAA	-26.74 ± 0.22	4,480 ± 30	57.24 ± 0.20
IAAA-191559	21	SK77 埋土	炭化物	AAA	-27.27 ± 0.19	4,400 ± 30	57.85 ± 0.19
IAAA-191560	22	SK65 埋土	炭化物	AAA	-25.78 ± 0.23	1,080 ± 20	87.46 ± 0.24
IAAA-191561	23	SK67 埋土	炭化物	AAA	-28.13 ± 0.20	4,440 ± 30	57.53 ± 0.19
IAAA-191562	24	SK109 埋土	炭化物	AAA	-26.20 ± 0.23	5,220 ± 30	52.22 ± 0.19
IAAA-191563	25	SK119 埋土	炭化物	AAA	-25.36 ± 0.23	220 ± 20	97.30 ± 0.25
IAAA-191564	26	SX06 埋土	炭化物	AAA	-26.83 ± 0.20	1,000 ± 20	88.28 ± 0.24
IAAA-191565	27	SX07 埋土	炭化物	AAA	-28.02 ± 0.19	1,100 ± 20	87.23 ± 0.24
IAAA-191566	28	SX10 埋土	炭化物	AAA	-28.01 ± 0.19	970 ± 20	88.65 ± 0.25
IAAA-191567	29	SI01 床面	炭化物	AAA	-26.32 ± 0.23	1,050 ± 20	87.74 ± 0.25
IAAA-191568	30	SI04 床面上	炭化物	AaA	-29.31 ± 0.22	1,190 ± 20	86.24 ± 0.25
IAAA-191569	31	SI05 床面上	炭化物	AAA	-27.31 ± 0.21	1,190 ± 20	86.19 ± 0.24
IAAA-191570	32	SI06 貼床中	炭化物	AAA	-26.86 ± 0.21	1,210 ± 20	85.98 ± 0.24
IAAA-191571	33	SI11 床面	炭化物	AAA	-26.02 ± 0.21	4,510 ± 30	57.07 ± 0.19
IAAA-191572	34	SI12 埋土	炭化物	AAA	-24.79 ± 0.24	1,240 ± 20	85.69 ± 0.23
IAAA-191573	35	SX01 埋土	炭化物	AAA	-25.91 ± 0.20	1,180 ± 20	86.29 ± 0.24

[IAA 登録番号: #9933]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-191539	340 ± 20	95.83 ± 0.25	363 ± 21	1466calAD-1519calAD (45.3%) 1593calAD-1619calAD (22.9%)	1454calAD-1524calAD (54.4%) 1558calAD-1632calAD (41.0%)
IAAA-191540	380 ± 20	95.42 ± 0.25	376 ± 21	1455calAD-1495calAD (51.2%) 1602calAD-1616calAD (17.0%)	1448calAD-1522calAD (67.5%) 1575calAD-1625calAD (27.9%)
IAAA-191541	410 ± 20	94.97 ± 0.26	423 ± 21	1441calAD-1465calAD (68.2%)	1433calAD-1486calAD (95.4%)
IAAA-191542	1,580 ± 20	82.19 ± 0.23	1,562 ± 22	430calAD-492calAD (57.2%) 513calAD-516calAD (2.3%) 530calAD-540calAD (8.7%)	425calAD-548calAD (95.4%)
IAAA-191543	380 ± 20	95.43 ± 0.25	373 ± 20	1458calAD-1499calAD (44.8%) 1504calAD-1512calAD (6.6%) 1601calAD-1616calAD (16.8%)	1450calAD-1522calAD (65.6%) 1575calAD-1625calAD (29.8%)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-191544	360 ± 20	95.64 ± 0.25	355 ± 21	1474calAD-1522calAD (38.2%) 1577calAD-1584calAD (4.2%) 1591calAD-1623calAD (25.8%)	1458calAD-1527calAD (47.0%) 1555calAD-1634calAD (48.4%)
IAAA-191545	390 ± 20	95.25 ± 0.25	354 ± 21	1475calAD-1522calAD (36.5%) 1576calAD-1585calAD (5.4%) 1590calAD-1625calAD (26.4%)	1458calAD-1528calAD (46.2%) 1554calAD-1634calAD (49.2%)
IAAA-191546	360 ± 20	95.65 ± 0.25	373 ± 21	1457calAD-1513calAD (51.7%) 1601calAD-1617calAD (16.5%)	1449calAD-1523calAD (64.6%) 1573calAD-1628calAD (30.8%)
IAAA-191547	380 ± 20	95.37 ± 0.26	385 ± 21	1451calAD-1492calAD (57.1%) 1602calAD-1613calAD (11.1%)	1445calAD-1522calAD (76.2%) 1591calAD-1620calAD (19.2%)
IAAA-191548	360 ± 20	95.58 ± 0.26	368 ± 21	1463calAD-1515calAD (49.0%) 1598calAD-1617calAD (19.2%)	1451calAD-1524calAD (59.6%) 1559calAD-1563calAD (0.8%) 1571calAD-1631calAD (35.1%)
IAAA-191549	380 ± 20	95.38 ± 0.25	387 ± 21	1450calAD-1490calAD (59.3%) 1603calAD-1611calAD (8.9%)	1444calAD-1521calAD (77.4%) 1592calAD-1620calAD (18.0%)

4 放射性炭素年代 (AMS 測定)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-191550	330 \pm 20	95.98 \pm 0.26	372 \pm 22	1458calAD-1513calAD (52.0%) 1601calAD-1617calAD (16.2%)	449calAD-1523calAD (62.8%) 572calAD-1630calAD (32.6%)
IAAA-191551	1,170 \pm 20	86.50 \pm 0.22	1,174 \pm 21	778calAD-792calAD (13.0%) 804calAD-842calAD (28.8%) 860calAD-890calAD (26.4%)	773calAD-895calAD (91.2%) 928calAD-941calAD (4.2%)
IAAA-191552	1,280 \pm 20	85.32 \pm 0.24	1,193 \pm 22	788calAD-793calAD (4.9%) 800calAD-874calAD (63.3%)	770calAD-891calAD (95.4%)
IAAA-191553	3,760 \pm 30	62.59 \pm 0.20	3,755 \pm 26	2206 calBC-2135 calBC (66.9%) 2068 calBC-2065 calBC (1.3%)	2281 calBC-2249 calBC (8.6%) 2231 calBC-2123 calBC (73.2%) 2091 calBC-2043 calBC (13.6%)
IAAA-191554	1,130 \pm 20	86.87 \pm 0.24	1,104 \pm 22	898calAD-924calAD (30.4%) 945calAD-979calAD (37.8%)	891calAD-989calAD (95.4%)
IAAA-191555	5,370 \pm 30	51.26 \pm 0.17	5,314 \pm 27	4230 calBC-4221 calBC (5.1%) 4211 calBC-4194 calBC (9.3%) 4176 calBC-4154 calBC (12.1%) 4134 calBC-4061 calBC (41.6%)	4235 calBC-4050 calBC (95.4%)
IAAA-191556	7,500 \pm 30	39.30 \pm 0.16	7,501 \pm 31	6431 calBC-6365 calBC (68.2%)	6440 calBC-6341 calBC (77.8%) 6314 calBC-6257 calBC (17.6%)
IAAA-191557	7,500 \pm 30	39.31 \pm 0.16	7,480 \pm 31	6414 calBC-6354 calBC (49.2%) 6307 calBC-6304 calBC (1.6%) 6294 calBC-6266 calBC (17.4%)	6427 calBC-6330 calBC (62.3%) 6318 calBC-6252 calBC (33.1%)

表 2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (3)

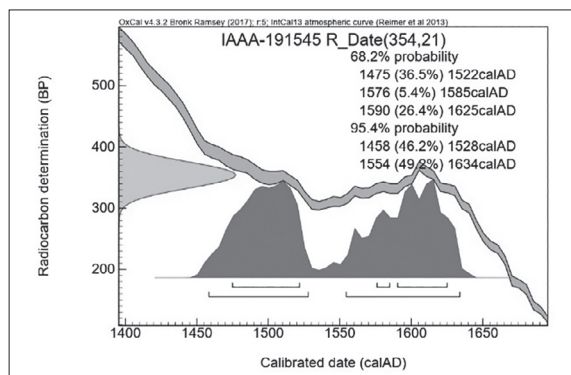
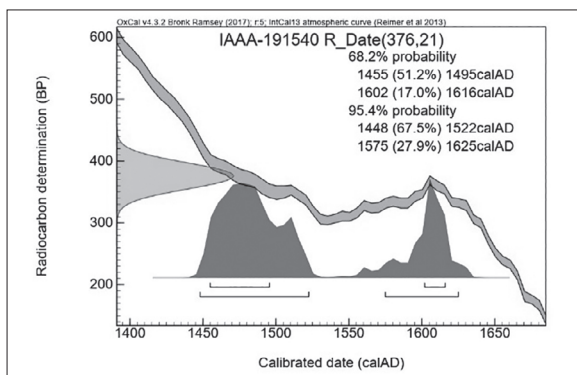
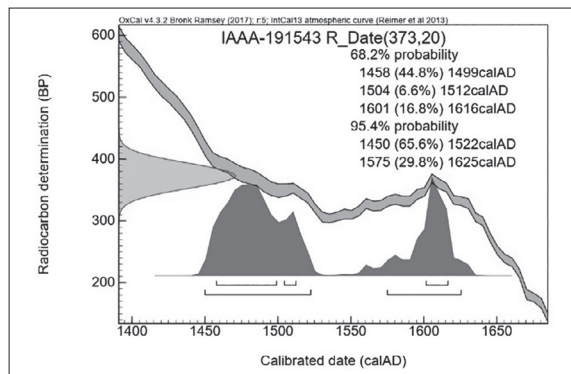
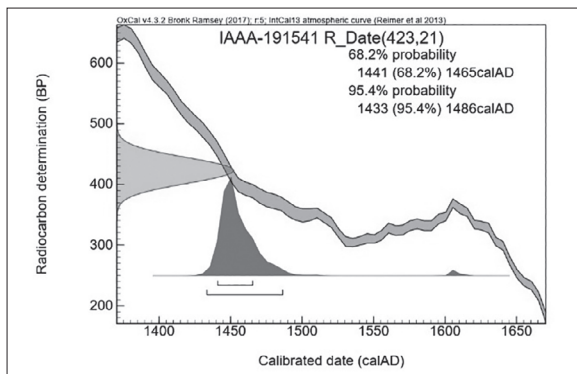
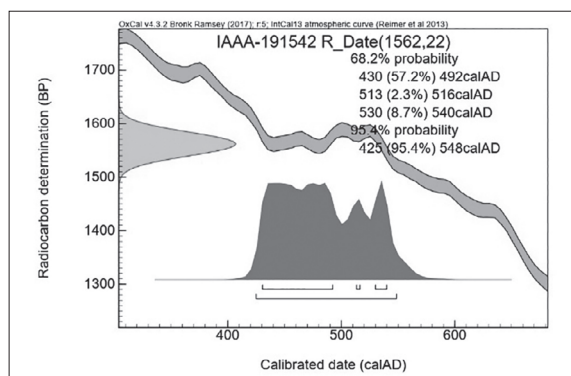
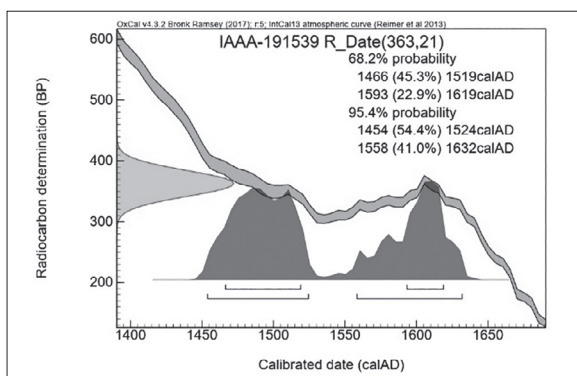
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-191558	4,510 \pm 30	57.03 \pm 0.20	4,481 \pm 27	3329 calBC-3261 calBC (30.9%) 3256 calBC-3216 calBC (16.9%) 3181 calBC-3158 calBC (9.3%) 3124 calBC-3098 calBC (11.1%)	3340 calBC-3088 calBC (92.6%) 3054 calBC-3033 calBC (2.8%)
IAAA-191559	4,430 \pm 30	57.58 \pm 0.19	4,396 \pm 26	3084 calBC-3065 calBC (13.0%) 3028 calBC-3006 calBC (15.5%) 2989 calBC-2931 calBC (39.7%)	3091 calBC-2922 calBC (95.4%)
IAAA-191560	1,090 \pm 20	87.32 \pm 0.24	1,076 \pm 22	903calAD-919calAD (14.6%) 966calAD-1013calAD (53.6%)	897calAD-925calAD (21.4%) 943calAD-1018calAD (74.0%)
IAAA-191561	4,490 \pm 30	57.16 \pm 0.18	4,440 \pm 25	3307 calBC-3304 calBC (0.9%) 3265 calBC-3241 calBC (12.9%) 3105 calBC-3022 calBC (54.4%)	3329 calBC-3217 calBC (29.9%) 3180 calBC-3158 calBC (3.1%) 3124 calBC-3009 calBC (59.3%) 2981 calBC-2959 calBC (1.9%) 2954 calBC-2939 calBC (1.2%)
IAAA-191562	5,240 \pm 30	52.09 \pm 0.19	5,219 \pm 28	4041 calBC-4011 calBC (41.0%) 4005 calBC-3985 calBC (27.2%)	4218 calBC-4214 calBC (0.4%) 4151 calBC-4135 calBC (2.1%) 4057 calBC-3965 calBC (92.9%)
IAAA-191563	230 \pm 20	97.22 \pm 0.25	219 \pm 20	1653calAD-669calAD (31.4%)* 1782calAD-1798calAD (36.8%)*	1646calAD-680calAD (39.7%)* 1763calAD-1801calAD (44.3%)* 1938calAD-... (11.4%)*
IAAA-191564	1,030 \pm 20	87.94 \pm 0.24	1,001 \pm 22	996calAD-1035calAD (68.2%)	988calAD-1045calAD (86.1%) 1095calAD-1120calAD (8.3%) 1142calAD-1147calAD (1.1%)
IAAA-191565	1,150 \pm 20	86.69 \pm 0.24	1,097 \pm 22	900calAD-921calAD (27.0%) 950calAD-983calAD (41.2%)	891calAD-993calAD (95.4%)
IAAA-191566	1,020 \pm 20	88.10 \pm 0.24	967 \pm 22	1023calAD-1046calAD (32.1%) 1094calAD-1120calAD (30.6%) 1141calAD-1147calAD (5.6%)	1018calAD-1054calAD (37.3%) 1078calAD-1154calAD (58.1%)
IAAA-191567	1,070 \pm 20	87.50 \pm 0.25	1,050 \pm 22	987calAD-1016calAD (68.2%)	905calAD-916calAD (2.8%) 967calAD-1025calAD (92.6%)
IAAA-191568	1,260 \pm 20	85.48 \pm 0.24	1,189 \pm 22	778calAD-793calAD (12.1%) 802calAD-845calAD (35.2%) 853calAD-879calAD (21.0%)	771calAD-893calAD (95.4%)
IAAA-191569	1,230 \pm 20	85.78 \pm 0.23	1,193 \pm 21	788calAD-793calAD (4.9%) 800calAD-874calAD (63.3%)	771calAD-890calAD (95.4%)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (4)

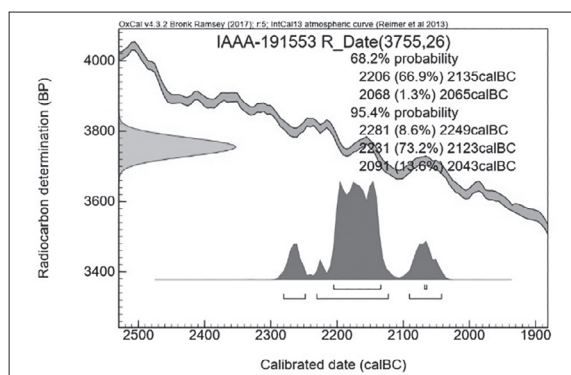
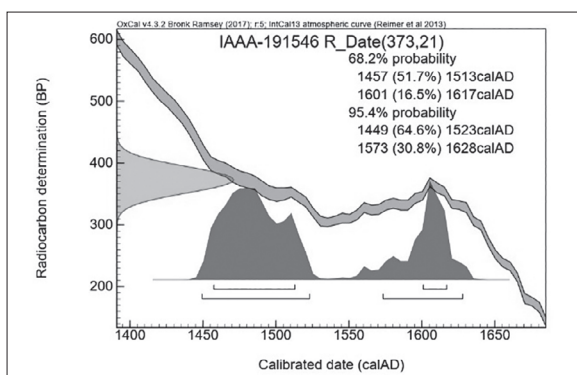
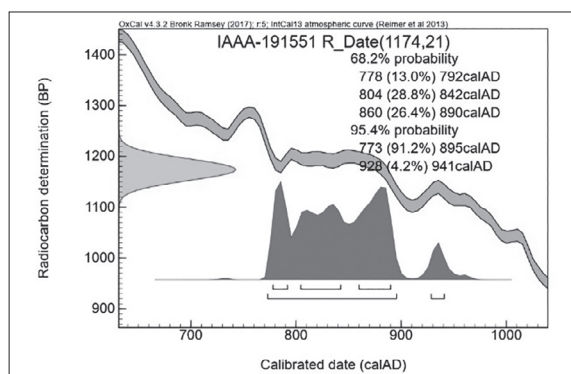
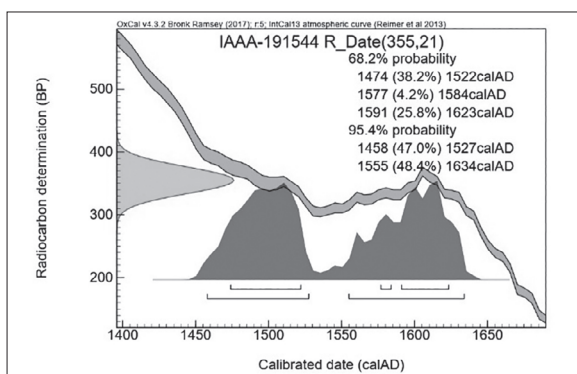
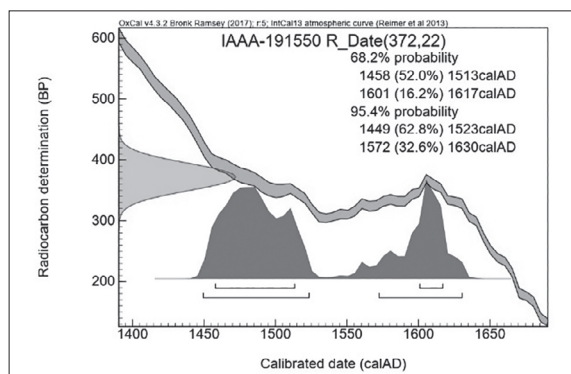
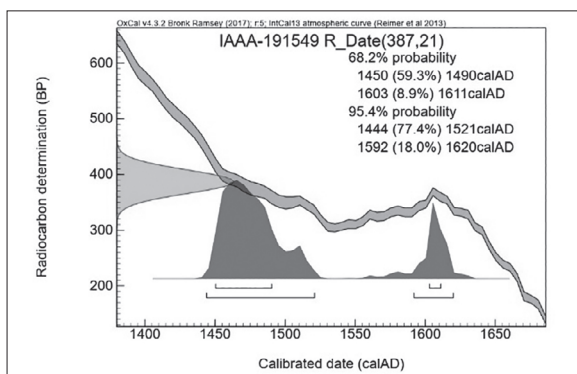
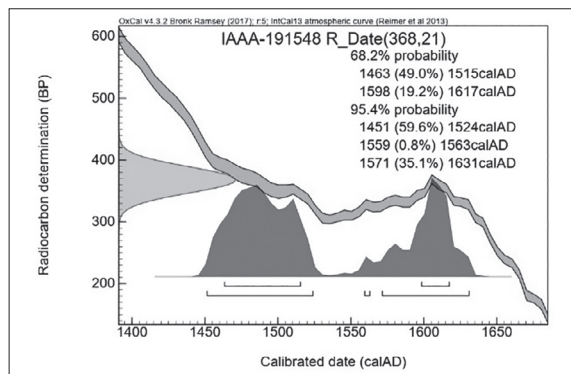
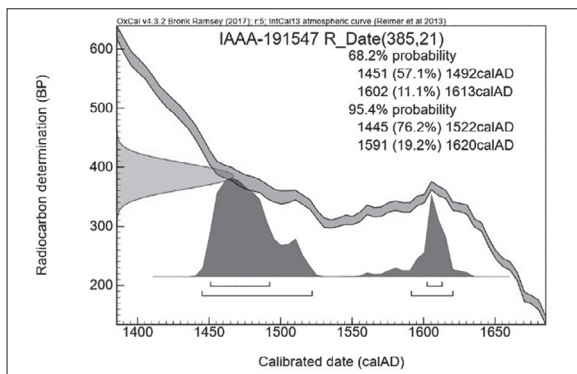
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-191570	1,240 \pm 20	85.64 \pm 0.24	1,213 \pm 22	771calAD-779calAD (6.2%) 789calAD-869calAD (62.0%)	721calAD-741calAD (7.5%) 766calAD-886calAD (87.9%)
IAAA-191571	4,520 \pm 30	56.95 \pm 0.19	4,505 \pm 26	3338 calBC-3312 calBC (11.0%) 3295 calBC-3286 calBC (3.3%) 3275 calBC-3265 calBC (3.8%) 3239 calBC-3206 calBC (14.0%) 3195 calBC-3107 calBC (36.1%)	3348 calBC-3262 calBC (32.7%) 3249 calBC-3099 calBC (62.7%)
IAAA-191572	1,240 \pm 20	85.73 \pm 0.23	1,240 \pm 21	691calAD-749calAD (51.6%) 762calAD-777calAD (13.5%) 793calAD-800calAD (3.2%)	687calAD-779calAD (71.0%) 790calAD-870calAD (24.4%)
IAAA-191573	1,200 \pm 20	86.13 \pm 0.23	1,184 \pm 22	778calAD-793calAD (12.6%) 802calAD-844calAD (33.0%) 856calAD-884calAD (22.6%)	771calAD-894calAD (94.6%) 933calAD-937calAD (0.8%)

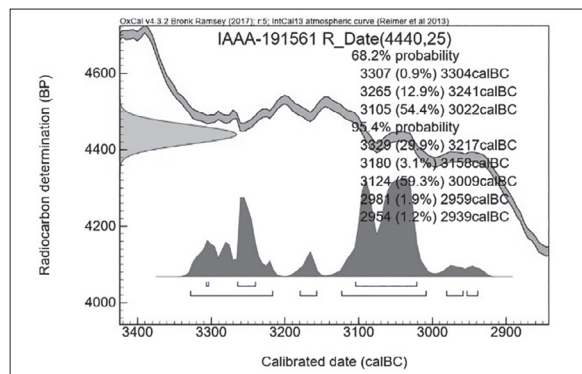
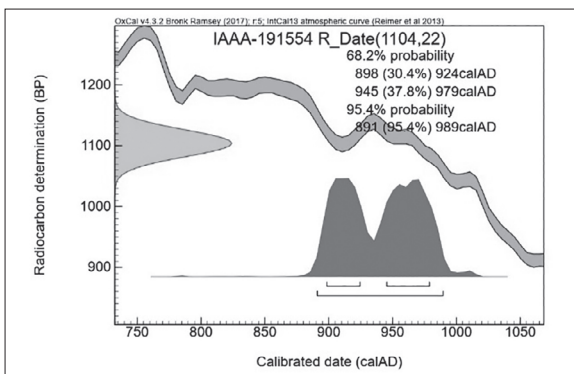
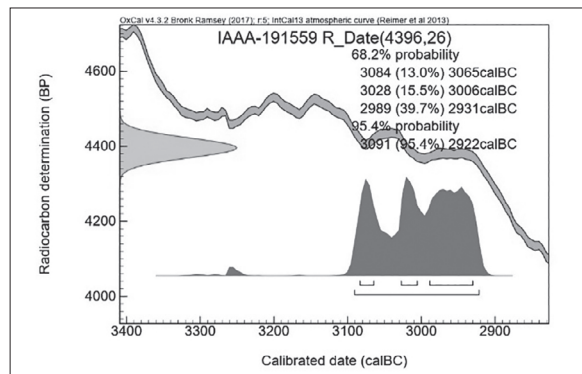
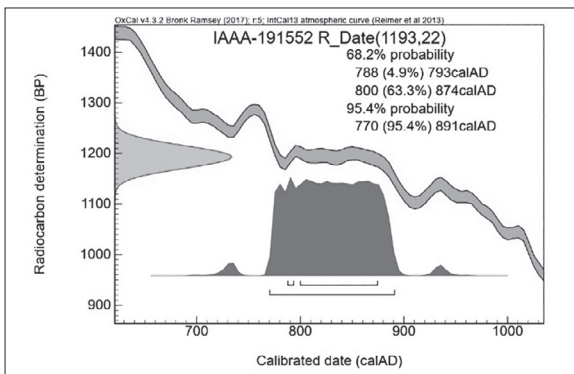
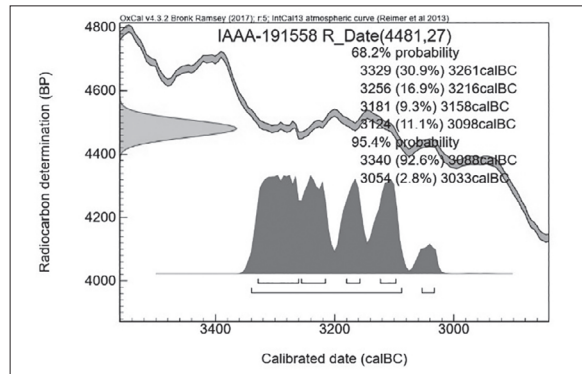
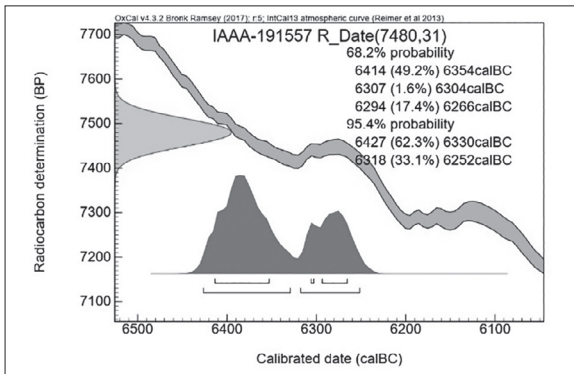
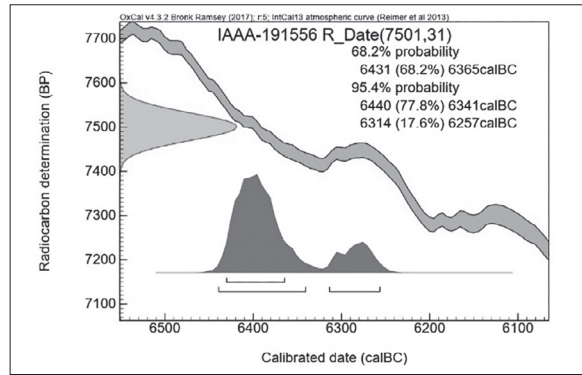
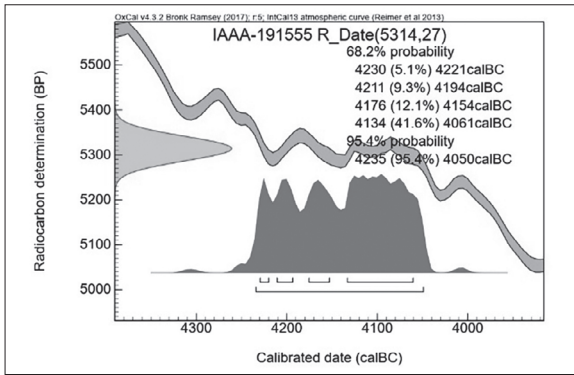
*Warning! Date may extend out of range

(この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

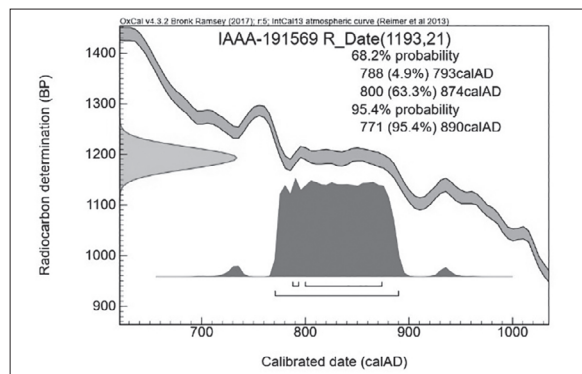
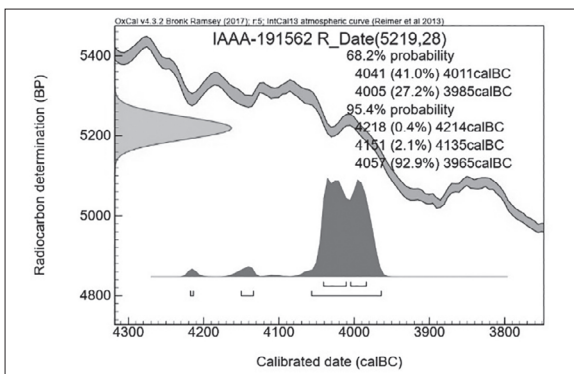
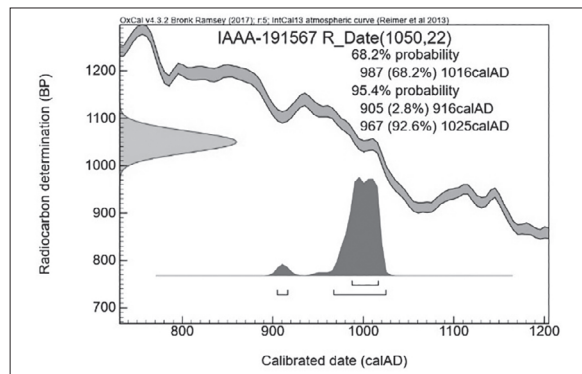
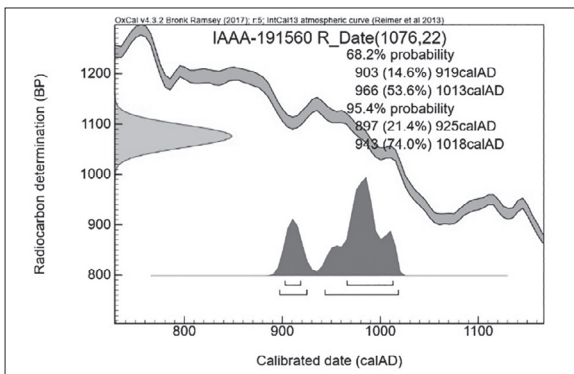
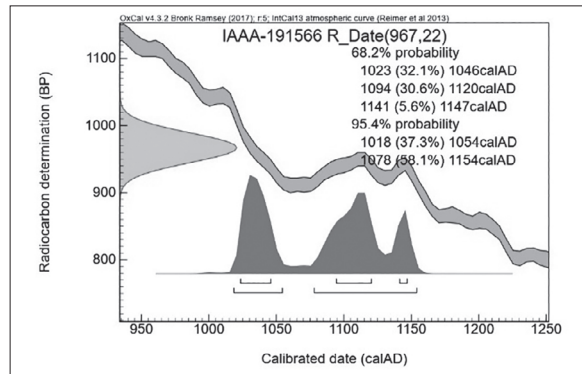
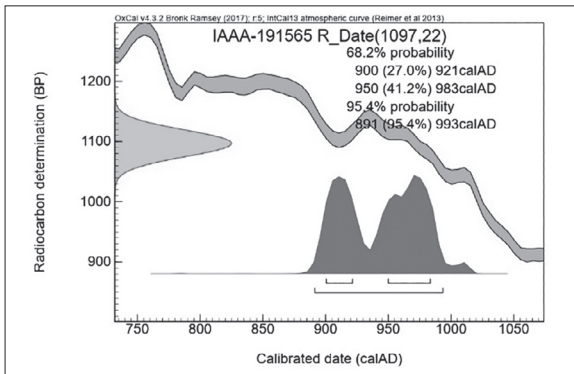
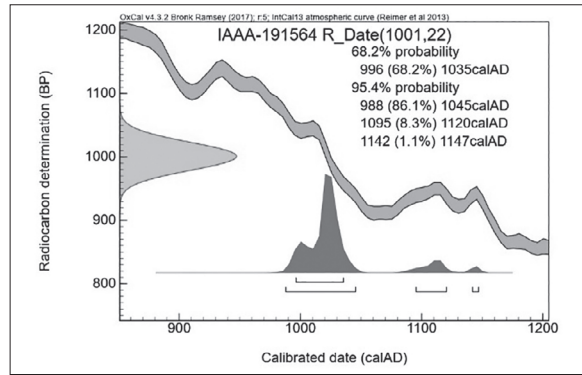
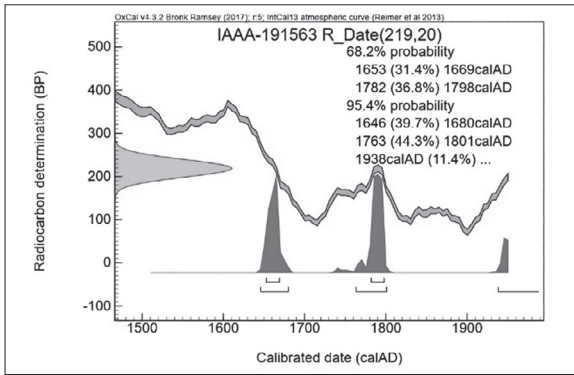


4 放射性炭素年代 (AMS 測定)





4 放射性炭素年代 (AMS 測定)



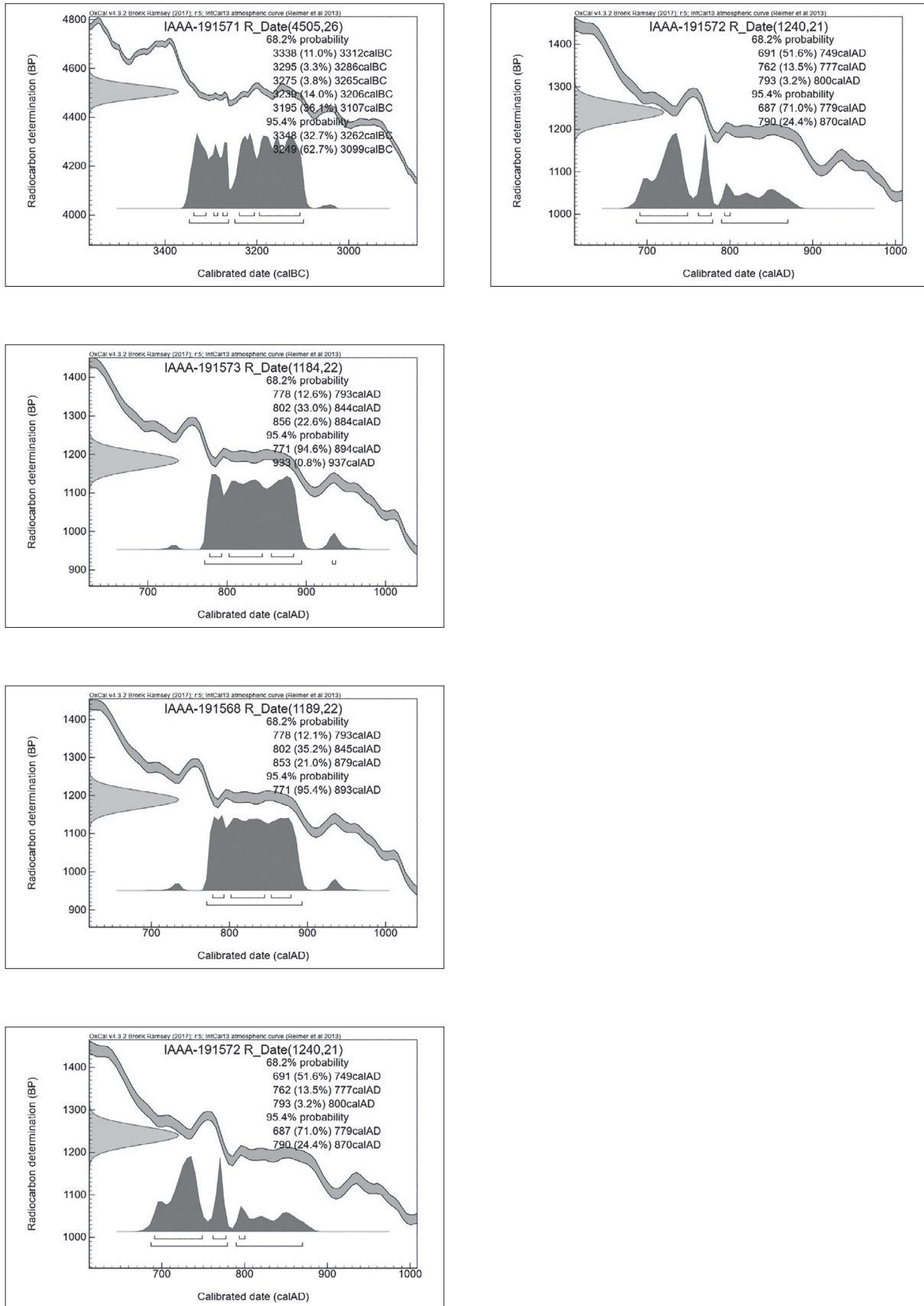


図1 暦年較正年代グラフ (参考)

VI 総 括

成田岩田堂館跡は、JR 北上駅の北東 6.8 km に位置する。北上川西岸の河岸段丘縁辺部に立地する遺跡で、中世に和賀郡一帯を治めていた和賀氏の居城、二子城の北端に隣接している。今回、北上工業団地整備事業に関連して発掘調査が行われた。

遺跡からは縄文時代、弥生時代、平安時代、戦国（安土桃山）時代、江戸時代の遺構や遺物が見つかり、ここでは時期ごとに概要と若干の考察を記して総括に変えたい。

主要遺構と出土遺物

主な遺構は、縄文時代の竪穴住居跡 1 棟・陥し穴 46 基、弥生時代の土器埋設 1 基、平安時代の竪穴住居跡 8 棟・炭窯 8 基、戦国時代の堀跡 2 条・土塁 4 条・掘立柱建物跡 22 棟・出入口施設 2 箇所、墓 28 基、江戸時代の掘立柱建物跡 1 棟・家畜墓 7 基、屋外炉 10 基などであり。その他に多数の土坑・焼土・溝跡が見つかった。

出土遺物には、縄文土器や石器、弥生土器、10-11 世紀の土師器・須恵器、中世の陶磁器や銭貨、近世の陶磁器や獣骨などがある。

縄文時代 調査区北東部から竪穴住居跡が 1 棟検出された (SI11、大木 8a 期)。周辺には縄文時代の土坑が複数検出されているが、竪穴住居跡はこの 1 棟のみであった。SI11 から約 30 m 北からは調査区外となるため、調査区外にこの時期の集落の続きが分布しているかもしれない。SI11 の西側は緩やかに低くなる地形で、縄文時代には湖沼汀のような場所であった可能性があると考えている。飯豊川は、本遺跡と、北岸の成田館の間を流れているのだが、ここで高さ約 10 m 岩盤を開析し、沖積地へ流れ出ている。縄文時代にはこの岩盤により飯豊川の流れが悪く、すぐ上流には塞き止められた水が溜まって湖沼が出来ていたと推測されるからである (第 101 図)。これは根拠の弱い推論であるが、この地に集落を営むには、他所よりも良い何かがあったのであろうからそうした意味での一仮説である。

縄文時代の陥し穴も多数見ついている。恐らく SI11 (大木 8a 式) 期の集落よりも古いものと、新しいものがあると推測される。他遺跡の事例と同様にその形態は平面形が円形で底面中央付近に小穴を有するものと (17 基)、平面形が長楕円形で底に近づくほどに短軸幅が狭くなるもの (27 基) とに大別される。何れも平坦な地形に分布している。平面形が円形の陥



第 101 図 縄文時代の本遺跡 (推定)

し穴は調査区の中央東側と、調査区の北東部に展開する。調査区中央東側では、SKT28 から SKT30 まで計 6 基の陥し穴がほぼ等間隔に列をなして東北東-西南西方向へ延びている。調査区の北東部にある陥し穴は、更に北東端部とそれ以外に分布するグループに分けられる。前者は SKT47 から SK53 まで 7 基で構成され、ほぼ東西方向へ延びている。後者は SKT45・46 で一群、SKT39・40 で一群を成していると思われる。

平面形が長楕円形となる陥し穴は調査区北東部から中央東側、南東部にかけて広く見られる。北上市教委が発掘調査した遺跡西部にも分布している。調査区北東部では 12 基の陥し穴が検出されている。SKT18 から SKT33 までは互いの間隔に長短があるものの、北北東-南南西方向へと列をなして延びている（列から反れる陥し穴も 3 基あり、時期差、造り替えの可能性もある）。調査区中央東から南東部にかけては SKT27 から SKT14 まで、互いの間隔には長短があるものの、15 基の陥し穴が北北東-南南西方向へと延びている。このように列をなすような陥し穴の分布は多くの類例がある。今回、陥し穴内の最下層に堆積する土壌中の花粉分析を行い、狩猟場の古環境を考える手掛かりとした。詳細は第 V 章を参照して欲しいが、陥し穴群が森林の中にならったのか、それとも草原にあつたのかでは、同じ陥し穴を用いた罾猟でもその方法には大きな違いがあると推測される。分析結果からは森林であつたと考えられる。

弥生時代 弥生土器は調査区の南東部から南東端部で最も出土しているが（その殆どが前期と見られる）、明らかに弥生時代と分かった遺構は少ない。1 号土器埋設遺構が調査区南東端の緩斜面部から検出されているが、竪穴住居跡は注意して探したものの見つからなかった。1 号土器埋設遺構から緩斜面を北に少し上がった平坦面に焼土遺構が複数分布する。これが弥生時代の炉跡の可能性ある（SL03・04、06～014）。本遺跡の南端には深い沢跡があり、本遺跡と遺跡としての二子城跡を分けている。この沢跡の北岸に弥生時代前期を中心とした小規模な集落が営まれていたと推測され、それは縄文時代晩期から続いていたものではないことも明らかになったといえる。このように小河川や沢沿いに集落が営まれる例としては宮古市佐原Ⅱ遺跡、大船渡市上甲子遺跡などがある。

平安時代 主な遺構は十和田 a 火山灰の降下直前段階（9 世紀末から 10 世紀初頭頃）と、10 世紀後半から 11 世紀にかけてに大きくは分けられる。その間、またはその前後の時期にあたる遺構や遺物は、約 6 万 m² という広大な面積を面的に調査したにもかかわらず、検出されず他の場所（遺跡）へ移つたものと判断できよう。

9 世紀末から 10 世紀初頭の遺構には竪穴住居跡・炭窯等がある（何れも埋土に十和田 a 火山灰がみられる）。竪穴住居跡は調査区の北東部（段丘縁辺部）から 4 棟がまとまって検出されている（SI04～06・12）。カマドの残る竪穴住居跡は何れも東壁に造られていた。SI06 が最も平面積が大きく、SI04 が最小で SI05・12 が中規模である。調査区の中央から南東端には炭窯と見られる遺構が 8 基ある。両者の間はかなり離れているが、他にこの時期の遺構は見られないため、SI04～06・12 で暮らしていた人々が約 100～280 m 南で炭焼きを行ったと考えるのが最も妥当である。明確な時期は分からなかったが、SD15・16 もこの集落を囲む区画施設であつたかもしれない。

10 世紀後半から 11 世紀の遺構には竪穴住居跡や性格不明遺構・溝跡がある。竪穴住居跡は調査区の中央やや東側に 3 棟、調査区南東端で 1 棟見つかっている。何れもはっきりとしたカマドを持たず、それまでのカマドが設置された竪穴住居跡とは明らかに住居構造に違いが表れたといえる。出土した土器は甕類が少なく、柱状の高台の付く坏や、坏とは別に小皿などがみられるのもこの時期の特徴といえる。SI07 と SX06 は調査区の南東端にあり、SD06 によって囲まれていたと推測される。広範囲を面的に調査した結果、段丘縁辺部に小規模な集落が形成されてることが明らかになった。本県ではまだ事例が少なく、しかも考古学的には古代から中世へ移り変わる直前の時期でもあり、小規模な

がら集落のほぼ全容が明らかになった意味は大きい。本遺跡は現況でも畑地と果樹栽培のみで水田が全く無い場所である。平安時代にも水稲は不可能であったと考えるのが自然で、小規模集落が段丘縁辺部に立地するのは、段丘下の沖積地の一部を農地として利用していたからではなかろうか（沖積地には飯豊川の旧河道が複数見られる）。

中世後半 中世後半の遺構・遺物は、南東側と北東側に分かれて見つっているため、それぞれ分けて記載していく。調査区南東側では東西 70 m 南北 140 m の範囲を、西－北の 2 方向を囲む堀跡と土塁が検出された（東側は段丘崖、南側は深い沢跡であった）。南側と西側の土塁からはそれぞれ出入口施設（門跡）も見つっている（SB24・25、SF01）。土塁は堀跡（1号堀跡）の内側に築かれた土塁（1・2号土塁）と堀跡北辺外側に築かれた土塁（3号土塁）がある。北辺部では一部土塁が二重になっていたわけだが、1号堀跡全体に二重の土塁を築いていたのかまでは分からなかった。堀跡と土塁で囲まれた内部には大小複数の掘立柱建物跡があり、最も大きな建物は平面積が約 200 m² ある（SB10）。出入口施設（門跡）を通過して堀内部へ入ると、中小規模の建物（概ね東西棟）が各所に建てられていた。約 20～112 m² の建物で一部には建物間での重複も見られる。門跡から最も遠い奥まった所に最も大きな建物 SB10（概ね東西棟）が配置されていることから、この大きな建物とそれに重複する SB11（この建物も比較的大きい）が主人（館主）の居所にあたと推測される。その他の中小規模の建物は従者宅、実務、諸作業、倉庫等に使われていたと考えられる。発掘調査の結果、1条の堀で一つの平場を取り囲むだけの簡易な普請であること、その堀も幅が狭くてあまり深いものではないことから、独立した城館というよりも、二子城の中にある家臣屋敷・侍屋敷と伝えられるものと同じではないかと解釈したい。出土した瀬戸美濃産陶器の年代観からは 16 世紀頃、AMS 年代測定からも 16 世紀頃に機能していたことが明らかになった。

こうした調査結果を踏まえ、本項では遺跡としての成田岩田堂館跡とは別に、狭い意味でこの調査区南東側で見つかった部分を「成田岩田堂館」と呼び、後述する調査区北東側とは分けて扱いたい。その調査区北東側でも堀跡と土塁によって囲まれた平場が見つっている（東西 55 m、南北は 60 m 以上で調査区外へと続いている）。堀（2号堀跡）は上幅 2.0～2.5 m、深さ 0.7～1.0 m を測り、土塁（4号土塁）は南辺にのみ残っている。門跡や橋は注意して探したが見つっていない。平場内からは掘立柱建物跡が 10 棟検出された。建物の平面積は約 21～83 m² で大きな建物は無かった。ここで見つかった堀跡及び平場は更に北側の調査区外にも続いている。遺跡の北東端部には八幡神社が建てられており、その八幡神社周辺を且つては「八森館跡」という遺跡名で登録されていた。しかし平成 3 年以降、遺跡としての八森館跡は成田岩田堂館跡という大きな遺跡の中に編入されることとなった。実際、八幡神社の周囲を踏査すると、土塁や人工的に造成された大小の平場が複数配置されていることが確認できる（第 102 図）。これに発掘調査された堀跡・土塁部分までを含めた範囲は東西約 70 m、南北約 150 m となる。一方、前述した調査区南東側で見つかった堀跡・土塁で囲まれた平場（狭い意味での成田岩田堂館）との関係であるが、互いの距離は約 200 m 離れていること、この間もほぼ全面発掘調査を行っているが、両方を繋ぐ普請、何らかの痕跡は無かったことから、それぞれ別のものと判断される。

こうしたことから、遺跡北東部で見つかった堀跡と土塁で囲まれた平場は、且つて「八森館跡」と呼ばれていた城館の一部であると判断されよう。そして出土した陶磁器や AMS 年代測定から 16 世紀頃に機能していたことも明らかにすることが出来た。この調査区北東側では堀跡・土塁に加えて、墓壇も多数見つっている。この場は城館として使われる直前まで墓地であったといえ、墓壇からは中世に流通していた銭貨が出土した。城館が築かれた初段階では、この城域が八幡神社を中心とした

部分に限られ、墓壙群（墓所）と城館が隣合う関係であったのだろう。その後、八森館が南側へ拡張されることとなったために、墓壙群（墓所）は廃されたと解釈したい。調査区南東側で見つかった成田岩田堂館は二子城の一部（家臣屋敷）と推察された。調査区北東側で見つかった「八森館」はどうか。先述したように成田岩田堂館と八森館とを直接繋げる施設は無い。しかし、二子城の家臣屋敷群は段丘縁辺部に占地しており南から北へ連なって配置されている。南から、古館－八重樫屋敷－（遍照寺跡）－加賀館－坊館（監物館）－（行人塚）－筒井内膳屋敷－成田岩田堂館－八森館－（飯豊川）－成田館まで続いている。こうしたことから、八森館についても二子城の外郭を担っていたとみなすことは十分に可能であろう。成田岩田堂館も八森館も16世紀に使われていたことが判明している。館主については和賀氏家臣の成田藤内・筒井内膳との伝承があるが、発掘調査によって館主を特定できるようなものは見つかっていないため、本稿ではこれ以上考察しないこととした。二子城の成立時期は発掘調査自体がまだ少なく定まっていないが、大凡14世紀後半以降と考えられている。二子城が秋葉山と八幡山という二つの山及びその山裾を中心に築かれてから、徐々に拡張されいき、16世紀末には第3附図のような広大な城域を有する城館になったのであろう。

本遺跡を含む二子城は県内最大規模の中世城館である。中世和賀郡一帯を治め、二子城を本城としていた和賀氏について、16世紀頃の動性を概観してみると南部氏南進の影響が多くみられる。南部氏はこの頃には岩手郡まで自らの影響下に置き、更に志和・稗貫・和賀郡他へも度々進出している。大永元年（1521）には志和郡郡山において三戸南部氏と和賀氏の間に合戦があった。また、天文三年（1534）、南部氏の諸勢は胆沢郡の柏山氏と対戦し敗績している。更に、志和郡郡山で天文六年（1537）南部勢と斯波・稗貫・和賀勢とが衝突。元亀二年（1571）から三年（1572）にかけても三戸南部氏と斯波氏・和賀氏の間に合戦があり、南部方の九戸氏は和賀領の河崎城を攻めている。天正年間に入っても南部氏の南攻は続き、天正十四年（1586）、滴石斯波氏が打たれ、同十六年（1588）には志和郡の斯波氏が滅亡する（何れも『岩手県史』より）。和賀勢はこうした南部氏の動きを差し迫る脅威と捉えていたに違はなく、領内は日増しに緊張が高まっていったと推測される。仮に志和郡から出兵されれば1日足らずで本城の二子城まで達してしまうため、和賀氏は家臣を集めて反撃する（又は守備を固める）時間がないのである。こうした中、本城である二子城の強化が求められ、有力家臣が集住するという形で城域を拡張していったのではないかと思われる。成田岩田堂館跡はこのような情勢のもと、二子城の北辺部強化の目的で築かれたと推測される。一方、中央においては豊臣秀吉が天下統一を進めており、私闘禁止令（惣無事令）を出し、各地の領主に上洛を促していた。天正十八年（1590）、小田原北条氏（後北条氏）攻めについて全国の諸大名に参陣命令が出されたが（参陣しないものは領主権はく奪）、和賀氏はこうした豊臣方の要請にとうとう応じられなかった。

天正十八年（1590）、和賀氏は豊臣秀吉の奥州仕置により所領を没収、二子城を追放される。しかし豊臣勢本体が引き上げると和賀・稗貫一揆を起こし、一旦は二子城を取り戻すものの、翌年の奥州再仕置で攻め落とされてしまう。慶長5年（1600）、再起をかけて本遺跡近くに密かに集まり、花巻城を攻撃しするが、南部勢に反撃され、花巻城攻略は失敗する。その敗走途中、本遺跡に隣接する馬場野地区で戦になったと伝えられている。一揆勢は岩崎城に籠城するが翌年南部勢に敗れる（岩崎一揆）。二度の一揆は成田岩田堂館跡の直ぐ近くを舞台に繰り広げられたようで、無関係ではいられなかったと推察される。出土した遺物の中に、江戸時代初め頃の遺物が見られないのは、本遺跡が二子城（一揆勢）と共に天正18年に終焉を迎えた可能性が高いことを示していると解釈したい。

